

基本計画書

基本計画書									
事項		記入欄							備考
計画の区分		学部の設置							
フリガナ		ガ ッ コ ウ ホ ウ ジ ン チ バ コ ウ ギ ョ ウ ダ イ ガ ク							
設置者		学校法人 千葉工業大学							
フリガナ		チ バ コ ウ ギ ョ ウ ダ イ ガ ク							
大学の名称		千葉工業大学							
大学本部の位置		千葉県習志野市津田沼2丁目17番1号							
大学の目的		本学は、教育基本法に則り学校教育法の定める大学として、科学技術の理論と応用を教授研究するとともに、豊かな教養を備え人類福祉のため進んで協力する意欲と識見をもつ人材を養成することを目的とする。							
新設学部等の目的		自ら学習を継続する能力・論理的思考力・課題解決力・コミュニケーション力・豊かな人間力・国際感覚と教養を備え、専門技術者として守るべき倫理や、負うべき社会的責任を理解し、情報に関する科学的な見方や考え方を基盤として、情報技術に関する専門知識や技術を習得し、情報社会の分野において世界文化に貢献し得る人材を養成する。							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
	情報変革科学部 [Faculty of Innovative Information Science]	年	人	年次人	人		年 月 第 年次	第1・2年次 新習志野校舎 千葉県習志野市芝園2丁目1番1号	
	情報工学科 [Department of Computer Science]	4	120	-	480	学士（工学）	令和6年4月 第1年次		
	認知情報科学科 [Department of Cognitive and Information Sciences]	4	120	-	480	学士（工学）	令和6年4月 第1年次	第3・4年次 津田沼校舎 千葉県習志野市津田沼2丁目17番1号	
	高度応用情報科学科 [Department of Applied Informatics]	4	120	-	480	学士（工学）	令和6年4月 第1年次		
計			360	-	1,440				
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）		情報科学部（廃止） 情報工学科（廃止）（△140） 情報ネットワーク学科（廃止）（△140） ※令和6年4月学生募集停止 社会システム科学部（廃止） 経営情報科学科（廃止）（△110） プロジェクトマネジメント学科（廃止）（△110） 金融・経営リスク科学科（廃止）（△60） ※令和6年4月学生募集停止 未来変革科学部（令和5年4月設置届出予定） デジタル変革科学科（令和5年4月設置届出予定）（100） 経営デザイン科学科（令和5年4月設置届出予定）（100）							
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
		講義	演習	実験・実習	計				
	情報変革科学部 情報工学科	74科目	33科目	9科目	116科目			124単位	
	情報変革科学部 認知情報科学科	77科目	33科目	8科目	118科目			124単位	
	情報変革科学部 高度応用情報科学科	72科目	37科目	10科目	119科目			124単位	

教員	学 部 等 の 名 称		専任教員等						兼 任 教 員 等	令和5年4月設置届出予定
			教授	准教授	講師	助教	計	助手		
新設分	情報変革科学部	情報工学科	5人 (5人)	4人 (4人)	0人 (0人)	1人 (1人)	10人 (10人)	0人 (0人)	142人 (142人)	
		認知情報科学科	6人 (6人)	3人 (3人)	0人 (0人)	1人 (1人)	10人 (10人)	0人 (0人)	141人 (141人)	
		高度応用情報科学科	6人 (6人)	3人 (3人)	0人 (0人)	1人 (1人)	10人 (10人)	0人 (0人)	138人 (138人)	
	未来変革科学部	デジタル変革科学科	7人 (7人)	1人 (1人)	0人 (0人)	1人 (1人)	9人 (9人)	0人 (0人)	133人 (133人)	
		経営デザイン科学科	7人 (7人)	3人 (3人)	0人 (0人)	0人 (0人)	10人 (10人)	0人 (0人)	136人 (136人)	
		計	31人 (31人)	14人 (14人)	0人 (0人)	4人 (4人)	49人 (49人)	0人 (0人)	- (-)	
	組織の設置概要	工学部	機械工学科	7人 (7人)	5人 (5人)	0人 (0人)	3人 (3人)	15人 (15人)	0人 (0人)	153人 (153人)
機械電子創成工学科			10人 (10人)	1人 (1人)	0人 (0人)	0人 (0人)	11人 (11人)	0人 (0人)	144人 (144人)	
先端材料工学科			8人 (8人)	3人 (3人)	0人 (0人)	0人 (0人)	11人 (11人)	0人 (0人)	145人 (145人)	
工学部		電気電子工学科	10人 (10人)	2人 (2人)	0人 (0人)	2人 (2人)	14人 (14人)	0人 (0人)	155人 (155人)	
		情報通信システム工学科	9人 (9人)	1人 (1人)	0人 (0人)	1人 (1人)	11人 (11人)	0人 (0人)	138人 (138人)	
		応用化学科	7人 (7人)	3人 (3人)	0人 (0人)	2人 (2人)	12人 (12人)	0人 (0人)	143人 (143人)	
創造工学部		建築学科	12人 (12人)	2人 (2人)	0人 (0人)	0人 (0人)	14人 (14人)	0人 (0人)	147人 (147人)	
		都市環境工学科	9人 (9人)	1人 (1人)	0人 (0人)	1人 (1人)	11人 (11人)	0人 (0人)	162人 (162人)	
		デザイン科学科	8人 (8人)	4人 (4人)	0人 (0人)	0人 (0人)	12人 (12人)	0人 (0人)	130人 (130人)	
先進工学部		未来ロボティクス学科	10人 (10人)	2人 (2人)	0人 (0人)	0人 (0人)	12人 (12人)	0人 (0人)	131人 (131人)	
		生命科学科	7人 (7人)	2人 (2人)	0人 (0人)	2人 (2人)	11人 (11人)	0人 (0人)	123人 (123人)	
		知能メディア工学科	7人 (7人)	4人 (4人)	0人 (0人)	0人 (0人)	11人 (11人)	0人 (0人)	126人 (126人)	
教育センター			43人 (43人)	17人 (17人)	0人 (0人)	11人 (11人)	71人 (47人)	0人 (0人)	145人 (145人)	
		計	147人 (147人)	47人 (47人)	0人 (0人)	22人 (22人)	216人 (216人)	0人 (0人)	- (-)	
合 計		178人 (178人)	61人 (61人)	0人 (0人)	26人 (26人)	265人 (265人)	0人 (0人)	- (-)		
教員以外の職員概要	職 種		専 任			兼 任		計		
	事 務	職 員	119人 (119人)			51人 (51人)		170人 (170人)		
	技 術	職 員	9人 (9人)			7人 (7人)		16人 (16人)		
	図 書 館	専 門 職 員	1人 (1人)			0人 (0人)		1人 (1人)		
	そ の 他	の 職 員	30人 (30人)			1人 (1人)		31人 (31人)		
	計		159人 (159人)			59人 (59人)		218人 (218人)		
校 地 等	区 分		専 用	共 用		共用する他の学校等の専用		計		
	校 舎 敷 地		157,062.46 m ²	m ²		m ²		157,062.46 m ²		
	運 動 場 用 地		253,310.00 m ²	m ²		m ²		253,310.00 m ²		
	小 計		410,372.46 m ²	m ²		m ²		410,372.46 m ²		
	そ の 他		77,627.40 m ²	m ²		m ²		77,627.40 m ²		
合 計		487,999.86 m ²	m ²		m ²		487,999.86 m ²			
校 舎			専 用	共 用		共用する他の学校等の専用		計		
			187,653.46 m ² (187,653.46 m ²)	m ² (m ²)		m ² (m ²)		187,653.46 m ² (187,653.46 m ²)		
教室等	講義室		演習室	実験実習室		情報処理学習施設		語学学習施設		
	106 室		50 室	282 室		3 室 (補助職員 人)		0 室 (補助職員 人)		
専 任 教 員 研 究 室			新設学部等の名称			室 数				
			情報変革科学部 情報工学科			10 室				
			情報変革科学部 認知情報科学科			10 室				
			情報変革科学部 高度応用情報科学科			10 室				

図書・設備	新設学部等の名称		図書 〔うち外国書〕		学術雑誌 〔うち外国書〕		電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料	機械・器具	標本	学部単位での特定不能なため、大学全体の数
			冊	種				点	点	点	
	情報変革科学部		283,514 [32,600] (275,514 [32,280])	[6,724 [6,007]] (6,724 [6,007])	[5,910 [5,894]] (5,910 [5,894])		3,435 (3,423)	0 (0)	0 (0)		
	計		283,514 [32,600] (275,514 [32,280])	[6,724 [6,007]] (6,724 [6,007])	[5,910 [5,894]] (5,910 [5,894])		3,435 (3,423)	0 (0)	0 (0)		
図書館			面積		閲覧座席数			収 納 可 能 冊 数			
			4,827 m ²		962			324,050			
体育館			面積		体育館以外のスポーツ施設の概要						
			3,657.47 m ²		武道館・武道場・屋内練習場・野球場、テニスコート(各2つ)			陸上競技、ラグビー、サッカー場・フットサル、ビーチバレーボール、ハンドボールコート			
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経費の見積り	区 分		開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	図書費・設備費は申請学部全体 図書費には電子ジャーナル・データベースの整備費(運用コスト含む)を含む。
		教員1人当り研究費等			1,300千円	1,300千円	1,300千円	1,300千円	-	-	
		共同研究費等			3,300千円	3,300千円	3,300千円	3,300千円	-	-	
		図書購入費		16,390千円	16,390千円	16,390千円	16,390千円	16,390千円	-	-	
		設備購入費		60,180千円	60,180千円	60,180千円	60,180千円	60,180千円	-	-	
		学生1人当り納付金		第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
				1,640千円	1,440千円	1,440千円	1,540千円	-	-		
学生納付金以外の維持方法の概要					手数料収入、資産運用収入等により維持する。						
既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 の 名 称										
	学 部 等 の 名 称		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所 在 地	
	工学部		年	人	年次	人		倍		第1・2年次 新習志野校舎 千葉県習志野市芝園2丁目1番1号	
	機械工学科		4	140		560	学士(工学)	1.19	平成28年度		
	機械電子創成工学科		4	110		440	学士(工学)	1.19	平成28年度		
	先端材料工学科		4	110		440	学士(工学)	1.17	平成28年度		
	電気電子工学科		4	140		560	学士(工学)	1.19	平成28年度	第3・4年次 津田沼校舎 千葉県習志野市津田沼2丁目17番1号	
	情報通信システム工学科		4	110		440	学士(工学)	1.16	平成28年度		
	応用化学科		4	110		440	学士(工学)	1.12	平成28年度		
	創造工学部										
	建築学科		4	140		560	学士(工学)	1.22	平成28年度		
	都市環境工学科		4	110		440	学士(工学)	1.13	平成28年度		
	デザイン科学科		4	120		480	学士(工学)	1.15	平成28年度		
	先進工学部										
	未来ロボティクス学科		4	120		480	学士(工学)	1.20	平成28年度		
	生命科学科		4	110		440	学士(工学)	1.16	平成28年度		
	知能メディア工学科		4	110		440	学士(工学)	1.19	平成28年度		
	情報科学部										
	情報工学科		4	140		560	学士(工学)	1.18	平成13年度		
	情報ネットワーク学科		4	140		560	学士(工学)	1.20	平成13年度		
	社会システム科学部										
	経営情報科学科		4	110		440	学士(工学)	1.14	平成13年度		
	プロフェクショナル学科		4	110		440	学士(工学)	1.14	平成13年度		
	金融・経営リスク科学科		4	60		240	学士(工学)	1.18	平成21年度		
既 設 大 学 等 の 状 況	工学研究科										
	機械工学専攻(博士前期課程)		2	22		44	修士(工学)	1.61	令和2年度		
	機械電子創成工学専攻(博士前期課程)		2	32		64	修士(工学)	1.19	令和2年度		
	先端材料工学専攻(博士前期課程)		2	22		44	修士(工学)	2.02	令和2年度		
	電子電子工学専攻(博士前期課程)		2	22		44	修士(工学)	0.82	令和2年度		
	情報通信システム工学専攻(博士前期課程)		2	22		44	修士(工学)	0.68	令和2年度		
	応用化学専攻(博士前期課程)		2	32		64	修士(工学)	1.34	令和2年度		
	工学専攻(博士後期課程)		3	24		72	博士(工学)	0.47	令和2年度		
	創造工学研究科										
	建築学専攻(修士課程)		2	32		64	修士(工学)	0.67	令和2年度		
	都市環境工学専攻(修士課程)		2	22		44	修士(工学)	0.70	令和2年度		
	デザイン科学専攻(修士課程)		2	22		44	修士(工学)	1.18	令和2年度		
	先進工学研究科										
	未来ロボティクス専攻(修士課程)		2	32		64	修士(工学)	1.30	令和2年度		
	生命科学専攻(修士課程)		2	22		44	修士(工学)	0.82	令和2年度		
	知能メディア工学専攻(修士課程)		2	22		44	修士(工学)	1.36	令和2年度		
	情報科学研究科										
	情報科学専攻(博士前期課程)		2	70		140	修士(工学)	0.52	平成16年度		
	情報科学専攻(博士後期課程)		3	4		12	博士(工学)	0.17	平成16年度		
社会システム科学研究科											
マネジメント工学専攻(博士前期課程)		2	40		80	修士(工学)	0.39	平成16年度			
マネジメント工学専攻(博士後期課程)		3	2		6	博士(工学)	1.00	平成16年度			

附属施設の概要	名称：千葉工業大学附属研究所 目的：知識の総合化・融合化を図るとともに、研究倫理を確立し、以って基盤的研究と時代に先駆する課題の学理とその応用に関する研究の推進を通し、学術文化の発展・充実に寄与することを目的とする。 所在地：千葉県習志野市津田沼2丁目17番1号 設置年月：平成16年4月 規模等：1,466,67 m² 名称：千葉工業大学未来ロボット技術研究センター 目的：ロボットに関する先進的な研究を行い、本学、産業界及び社会の発展と充実に貢献することを目的とする。 所在地：千葉県習志野市津田沼2丁目17番1号 設置年月：平成15年4月 規模等：2,026,62 m² 名称：千葉工業大学惑星探査研究センター 目的：宇宙及び惑星に関する先進的な研究を行い、本学、産業界及び社会の発展と充実に貢献することを目的とする。 所在地：千葉県習志野市津田沼2丁目17番1号 設置年月：平成21年4月 規模等：1,316,16 m² 名称：千葉工業大学人工知能・ソフトウェア技術研究センター 目的：ステアラボは、人工知能及びソフトウェア技術に関する先進的な研究を行い、本学、産業界及び社会の発展と充実に貢献することを目的とする。 所在地：千葉県習志野市津田沼2丁目17番1号 設置年月：平成27年4月 規模等：340,04 m² 名称：次世代海洋資源研究センター 目的：海洋資源研は、海洋資源に関する先進的な研究を行い、本学、産業界及び社会の発展と充実に貢献することを目的とする。 所在地：千葉県習志野市津田沼2丁目17番1号 設置年月：平成29年9月 規模等：555.33 m² 名称：地球学研究センター 目的：地球研は、文明のデザインに関する先進的な研究を行い、本学、産業界及び社会の発展と充実に貢献することを目的とする。 所在地：千葉県習志野市津田沼2丁目17番1号 設置年月：令和2年4月 規模等：154.21 m² 名称：数理工学研究センター 目的：数理工学研究の我が国の中心拠点を千葉工業大学に構築し、多様な複雑系を対象にして数理工学に基づく科学技術研究開発を世界レベルで先導して強力に推進する。 所在地：千葉県習志野市津田沼2丁目17番1号 設置年月：令和3年5月 規模等：41.26 m² 名称：変革センター 目的：社会のあらゆる分野の研究者、技術と文化の両方の分野の研究者が集まり、今起きている根本的な変化を通して社会を助けるための技術的なプラットフォームや文化的なアウトプットを想像し、デザインし、設計し、構築します。 所在地：千葉県習志野市津田沼2丁目17番1号 設置年月：令和3年11月 規模等：231.32 m²	

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科又は高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「―」又は「該当なし」と記入すること。

学校法人千葉工業大学 設置認可等に関わる組織の移行表

令和4年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員		令和6年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
千葉工業大学				→	千葉工業大学				
工学部 機械工学科	140	-	560		工学部 機械工学科	140	-	560	
工学部 機械電子創成工学科	110	-	440		工学部 機械電子創成工学科	110	-	440	
工学部 先端材料工学科	110	-	440		工学部 先端材料工学科	110	-	440	
工学部 電気電子工学科	140	-	560		工学部 電気電子工学科	140	-	560	
工学部 情報通信システム工学科	110	-	440		工学部 情報通信システム工学科	110	-	440	
工学部 応用化学科	110	-	440		工学部 応用化学科	110	-	440	
創造工学部 建築学科	140	-	560		創造工学部 建築学科	140	-	560	
創造工学部 都市環境工学科	110	-	440		創造工学部 都市環境工学科	110	-	440	
創造工学部 デザイン科学科	120	-	480		創造工学部 デザイン科学科	120	-	480	
先進工学部 未来ロボティクス学科	120	-	480		先進工学部 未来ロボティクス学科	120	-	480	
先進工学部 生命科学科	110	-	440		先進工学部 生命科学科	110	-	440	
先進工学部 知能メディア工学科	110	-	440		先進工学部 知能メディア工学科	110	-	440	
情報科学部 情報工学科	140	-	560			0	-	0	令和6年4月学生募集停止
情報科学部 情報ネットワーク学科	140	-	560			0	-	0	令和6年4月学生募集停止
社会システム科学部 経営情報科学科	110	-	440			0	-	0	令和6年4月学生募集停止
社会システム科学部 プロジェクトマネジメント学科	110	-	440			0	-	0	令和6年4月学生募集停止
社会システム科学部 金融・経営リスク科学科	60	-	240			0	-	0	令和6年4月学生募集停止
					情報変革科学部 情報工学科	120	-	480	学部の設置(届出)
					情報変革科学部 認知情報科学科	120	-	480	学部の設置(届出)
					情報変革科学部 高度応用情報科学科	120	-	480	学部の設置(届出)
					未来変革科学部 デジタル変革科学科	100	-	400	学部の設置(届出)
					未来変革科学部 経営デザイン科学科	100	-	400	学部の設置(届出)
計	1,990	-	7,960		計	1,990	-	7,960	
千葉工業大学大学院					千葉工業大学大学院				
工学研究科 機械工学専攻(M)	22	-	44		工学研究科 機械工学専攻(M)	22	-	44	
工学研究科 機械電子創成工学専攻(M)	32	-	64		工学研究科 機械電子創成工学専攻(M)	32	-	64	
工学研究科 先端材料工学専攻(M)	22	-	44		工学研究科 先端材料工学専攻(M)	22	-	44	
工学研究科 電気電子工学専攻(M)	22	-	44		工学研究科 電気電子工学専攻(M)	22	-	44	
工学研究科 情報通信システム工学専攻(M)	22	-	44		工学研究科 情報通信システム工学専攻(M)	22	-	44	
工学研究科 応用化学専攻(M)	32	-	64		工学研究科 応用化学専攻(M)	32	-	64	
工学研究科 工学専攻(D)	24	-	72		工学研究科 工学専攻(D)	24	-	72	
創造工学研究科 建築学専攻 (M)	32	-	64		創造工学研究科 建築学専攻 (M)	32	-	64	
創造工学研究科 都市環境工学専攻 (M)	22	-	44		創造工学研究科 都市環境工学専攻 (M)	22	-	44	
創造工学研究科 デザイン科学専攻 (M)	22	-	44		創造工学研究科 デザイン科学専攻 (M)	22	-	44	
先進工学研究科 未来ロボティクス専攻(M)	32	-	64		先進工学研究科 未来ロボティクス専攻(M)	32	-	64	
先進工学研究科 生命科学専攻(M)	22	-	44		先進工学研究科 生命科学専攻(M)	22	-	44	
先進工学研究科 知能メディア工学専攻(M)	22	-	44		先進工学研究科 知能メディア工学専攻(M)	22	-	44	
情報科学研究科 情報科学専攻(M)	70	-	140		情報科学研究科 情報科学専攻(M)	70	-	140	
情報科学研究科 情報科学専攻(D)	4	-	12		情報科学研究科 情報科学専攻(D)	4	-	12	
社会システム科学研究科 マネジメント工学専攻(M)	40	-	80		社会システム科学研究科 マネジメント工学専攻(M)	40	-	80	
社会システム科学研究科 マネジメント工学専攻(D)	2	-	6		社会システム科学研究科 マネジメント工学専攻(D)	2	-	6	
計	444	-	918		計	444	-	918	

設置の前後における学位等及び専任教員の所属の状況

届出時における状況						新設学部等の学年進行終了時における状況					
学部等の名称	授与する学位等		異動先	専任教員		学部等の名称	授与する学位等		異動元	専任教員	
	学位又は称号	学位又は学科の分野		助教以上	うち教授		学位又は称号	学位又は学科の分野		助教以上	うち教授
情報科学部 情報工学科(廃止)	学士 (工学)	工学	情報変革科学部情報工学科	7	4	情報変革科学部 情報工学科	学士 (工学)	工学	情報科学部情報工学科	7	4
			情報変革科学部認知情報科学科	3	2				情報科学部情報ネットワーク学科	2	1
			情報変革科学部高度応用情報科学科	1	1				社会システム科学部プロジェクトマネジメント学科	1	0
			退職	2	1						
			計	13	8				計	10	5
情報科学部 情報ネットワーク 学科(廃止)	学士 (工学)	工学	情報変革科学部情報工学科	2	1	情報変革科学部 認知情報科学科	学士 (工学)	工学	情報科学部情報工学科	3	2
			情報変革科学部認知情報科学科	5	2				情報科学部情報ネットワーク学科	5	2
			情報変革科学部高度応用情報科学科	4	2				社会システム科学部プロジェクトマネジメント学科	1	1
			退職	2	2				社会システム科学部金融・経営リスク科学科	1	1
			計	13	7				計	10	6
社会システム科 学部 経営情報科学科 (廃止)	学士 (工学)	工学	情報変革科学部高度応用情報科学科	2	2	情報変革科学部 高度応用情報科 科学科	学士 (工学)	工学	情報科学部情報工学科	1	1
			未来変革科学部デジタル変革科学科	2	1				情報科学部情報ネットワーク学科	4	2
			未来変革科学部経営デザイン科学科	6	3				社会システム科学部プロジェクトマネジメント学科	1	0
			退職	1	1				社会システム科学部金融・経営リスク科学科	2	1
									社会システム科学部経営情報科学科	2	2
			計	11	7				計	10	6
社会システム科 学部 プロジェクトマネ ジメント学科(廃 止)	学士 (工学)	工学	情報変革科学部情報工学科	1	0	未来変革科学部 デジタル変革科 科学科	学士 (工学)	工学	社会システム科学部プロジェクトマネジメント学科	4	3
			情報変革科学部認知情報科学科	1	1				社会システム科学部金融・経営リスク科学科	3	3
			情報変革科学部高度応用情報科学科	1	0				社会システム科学部経営情報科学科	2	1
			未来変革科学部デジタル変革科学科	4	3						
			未来変革科学部経営デザイン科学科	3	3						
			退職	1	1						
			計	11	8				計	9	6
社会システム科 学部 金融・経営リスク 科学科(廃止)	学士 (工学)	工学	情報変革科学部認知情報科学科	1	1	未来変革科学部 経営デザイン科 科学科	学士 (工学)	工学	社会システム科学部プロジェクトマネジメント学科	3	3
			情報変革科学部高度応用情報科学科	2	1				社会システム科学部金融・経営リスク科学科	1	1
			未来変革科学部デジタル変革科学科	3	3				社会システム科学部経営情報科学科	6	3
			未来変革科学部経営デザイン科学科	1	1						
			退職	1	1						
			計	8	6				計	10	7

基礎となる学部等の改編状況

開設又は 変更時期	改 編 内 容 等	学 位 又 は 学 科 の 分 野	手続きの区分
平成13年4月	情報科学部 情報工学科 設置	工学	設置認可(学部)
	情報科学部 情報ネットワーク学科 設置		
平成18年4月	情報科学部の教養科目カリキュラム変更	工学	学則変更
	情報科学部 情報工学科の専門科目カリキュラム変更		
	情報科学部 情報ネットワーク学科の専門科目カリキュラム変更		
平成19年4月	情報科学部の教養科目カリキュラム変更	工学	学則変更
	情報科学部 情報工学科の専門科目カリキュラム変更		
	情報科学部 情報ネットワーク学科の専門科目カリキュラム変更		
平成20年4月	情報科学部の教養科目カリキュラム変更	工学	学則変更
	情報科学部 情報工学科の専門科目カリキュラム変更		
	情報科学部 情報ネットワーク学科の専門科目カリキュラム変更		
平成21年4月	情報科学部の教養科目カリキュラム変更	工学	学則変更
	情報科学部 情報工学科の専門科目カリキュラム変更		
	情報科学部 情報ネットワーク学科の専門科目カリキュラム変更		
平成22年4月	情報科学部 情報工学科の専門科目カリキュラム変更	工学	学則変更
平成24年4月	情報科学部の教養科目カリキュラム変更	工学	学則変更
	情報科学部 情報工学科の専門科目カリキュラム変更		
	情報科学部 情報ネットワーク学科の専門科目カリキュラム変更		
平成25年4月	情報科学部の教養科目カリキュラム変更	工学	学則変更
	情報科学部 情報工学科の専門科目カリキュラム変更		
	情報科学部 情報ネットワーク学科の専門科目カリキュラム変更		
平成26年4月	情報科学部の教養科目カリキュラム変更	工学	学則変更
	情報科学部 情報工学科の専門科目カリキュラム変更		
	情報科学部 情報ネットワーク学科の専門科目カリキュラム変更		
平成27年4月	情報科学部の教養科目カリキュラム変更	工学	学則変更
平成28年4月	情報科学部 情報工学科の専門科目カリキュラム変更	工学	学則変更
	情報科学部 情報ネットワーク学科の専門科目カリキュラム変更		
平成30年4月	情報科学部の教養科目カリキュラム変更	工学	学則変更
	情報科学部 情報工学科の専門科目カリキュラム変更		
	情報科学部 情報ネットワーク学科の専門科目カリキュラム変更		
令和2年4月	情報科学部の教養科目カリキュラム変更	工学	学則変更
令和4年4月	情報科学部 情報ネットワーク学科の専門科目カリキュラム変更	工学	学則変更
令和6年4月	情報変革科学部 情報工学科 設置	工学	設置認可又は届出
	情報変革科学部 認知情報科学科 設置		
	情報変革科学部 高度応用情報科学科 設置		
令和6年4月	情報科学部 情報工学科の学生募集停止	-	学生募集停止
	情報科学部 情報ネットワーク学科の学生募集停止		

教 育 課 程 等 の 概 要

(情報変革科学部 情報工学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
教養科目	コミュニケーションスキル	英語理解基礎 1		1			○							兼3
		英語表現基礎 1		1			○							兼3
		英語理解基礎 2		1			○							兼3
		英語表現基礎 2		1			○							兼3
		英語理解基礎 3		1			○							兼3
		英語表現基礎 3		1			○							兼3
		英語理解基礎 4		1			○							兼3
		英語表現基礎 4		1			○							兼3
		英語理解 1		1			○							兼20
		英語表現 1		1			○							兼23
		英語理解 2		1			○							兼20
		英語表現 2		1			○							兼23
		英語理解 3		1			○							兼20
		英語表現 3		1			○							兼23
		英語理解 4		1			○							兼20
		英語表現 4		1			○							兼23
		英語理解発展 1		1			○							兼3
		英語表現発展 1		1			○							兼3
		英語理解発展 2		1			○							兼3
		英語表現発展 2		1			○							兼3
		英語理解発展 3		1			○							兼3
		英語表現発展 3		1			○							兼3
		英語理解発展 4		1			○							兼3
		英語表現発展 4		1			○							兼3
		日本語表現法	1				○							兼10
	情報リテラシー	数理・データサイエンス・AI入門	1				○							兼4
		AI・プログラミング基礎演習		1			○							兼2
	人間力養成	スポーツ科学		2		○								兼9
		初年次教育		1		○			1					
		キャリアデザイン 1		1		○								兼1
		キャリアデザイン 2		1		○								兼1
		キャリアデザイン 3		1		○								兼1
	小計 (32科目)		8	25	0				1	0	0	0	0	兼61
	人間・社会・自然の理解	異文化理解		2		○								兼4
		言語と文化 1		2		○								兼12
		言語と文化 2		2		○								兼11
		グローバル時代の法		2		○								兼2
		国際社会論		2		○								兼5
		哲学		2		○								兼3
		倫理学		2		○								兼3
		文学と芸術		2		○								兼3
		歴史と人間		2		○								兼2
		心理学		2		○								兼3
		身体と健康の科学		2		○								兼7
		憲法と社会		2		○								兼2
		政治と社会		2		○								兼2
		経済学		2		○								兼1
		現代社会論		2		○								兼4
		科学技術史		2		○								兼2
		環境科学概論		2		○								兼3
		生命科学		2		○								兼2
		地球科学		2		○								兼2
		物理の世界と先端技術		2		○								兼4
		物質科学		2		○								兼9
	総合	課題探究セミナー		2		○								兼27
		総合学際科目		2		○								兼8
	小計 (23科目)		6	40	0				0	0	0	0	0	兼68

教養科目	教養特別科目	イングリッシュアクティブラーニング 1	3前		1			○							兼1	集中
		イングリッシュアクティブラーニング 2	3後		1			○							兼1	
		イングリッシュアクティブラーニング 3	3前・後, 4前・後		1			○							兼1	
		日本語アクティブラーニング	3前・後, 4前・後		1			○							兼4	
		スポーツアクティブラーニング	3前・後, 4前・後		2		○								兼6	
		ソーシャルアクティブラーニング	1・2・3・4		1				○	1						
		国際インターン	1・2・3・4		1				○						兼1	
		国内インターン	1・2・3・4		1				○						兼1	
		ボランティア	1・2・3・4		1				○						兼1	
		キャリアアップラーニング	1・2・3・4		1				○	1						
		総合科学特論	3前・後, 4前・後		2		○								兼7	
		小計 (11科目)		—	0	13	0	—			1	0	0	0	0	兼19
専門科目	専門基礎科目	情報工学概論	1前	2			○				1					兼4 兼14 兼13 兼4 兼11 兼11 兼9 兼6 兼8 兼6 兼4 兼5
		電気回路	1前	2			○									
		数学基礎	1前		2		○									
		微分積分	1後		2		○									
		確率統計	2前		2		○									
		線形代数基礎	2前		2		○									
		線形代数応用	2後		2		○									
		微分方程式	3前		2		○									
		離散数学	3前		2		○									
		線形代数特論	3前		2		○									
		応用解析	3後		2		○									
		統計解析	3後		2		○									
		初等整数論	3後		2		○									
		小計 (13科目)		—	4	22	0	—			0	1	0	0	0	兼22
	専門基礎科目	プログラミング言語	1前	2			○				1					共同 共同 共同 共同 共同
		論理回路	1前	2			○				1					
		フィジカルコンピューティング	1前	2			○				1					
		技術文章作成	1前	2			○				1					
		アイデアソン	1前	2				○			1	1				
		W e b プログラミング	1後	2			○				1	1				
		データサイエンス	1後	2			○						1			
		データ通信	1後	2			○					1				
		メディア処理	1後		2		○					1				
		グラフィックス	1後		2		○				1					
		アジャイルワーク 1	1後	2				○			1			1		
		システム理論	2前		2		○					1				
		ソフトウェア工学	2前		2		○					1				
		ビジュアル情報処理	2前		2		○							1		
		クラウドコンピューティング	2前		2		○				1					
		ハッカソン 1	2前	2					○		1	1				
		デジタル信号処理	2後		2		○				1					
		クリティカルエンジニアリング	2後	2			○				1					
		アジャイルワーク 2	2後	2					○		1	1				
		ハッカソン 2	3前	2					○		1	1				
		小計 (20科目)		—	26	14	0	—			5	4	0	1	0	
	専門展開科目	数理モデリング	2後		2			○				1				兼1 兼1 兼1 兼1 兼1
		感性情報処理	3前		2			○					1			
		数値解析	3前		2			○								
		アルゴリズムとデータ構造	3前		2			○								
		オペレーティングシステム	3前		2			○			1					
		デジタル通信	3前		2			○			1					
		情報理論	3後		2			○								
		データベース	3後		2			○				1				
		技術者倫理	3後		2			○								
		機械学習	3後		2			○			1					
		人工知能	3後		2			○			1					
		情報セキュリティ	3後		2			○				1				
		高性能計算	3後		2			○								
		ゼミナール 1	3後	2				○			5	4		1		
		ゼミナール 2	4前	2				○			5	4		1		
		ゼミナール 3	4後	2				○			5	4		1		
		卒業研究	4通	5					○		5	4		1		
		小計 (17科目)		—	13	24	0	—			5	4	0	1	0	兼3
合計 (116科目)		—	57	138	0	—			5	4	0	1	0	兼139	—	

学位又は称号	学士（工学）	学位又は学科の分野	工学関係
卒業要件及び履修方法		授業期間等	
以下の条件を満たし、総単位 1 2 4 単位以上修得すること。 （教養科目） 必修科目 1 4 単位を含み、3 5 単位以上 （専門科目） 必修科目 4 3 単位を含み、専門基礎科目 1 8 単位以上、専門基幹科目 3 6 単位、専門展開科目 3 5 単位以上を修得し、専門科目 8 9 単位以上 （履修科目の登録の上限：4 0 単位（年間））		1 学年の学期区分	2 学期
		1 学期の授業期間	1 3 週
		1 時限の授業時間	1 2 0 分

教 育 課 程 等 の 概 要

津田沼キャンパス

(情報変革科学部 情報工学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
教養科目	コミュニケーションスキル	英語理解基礎 3		1			○							兼3
		英語表現基礎 3		1			○							兼3
		英語理解基礎 4		1			○							兼3
		英語表現基礎 4		1			○							兼3
		英語理解 3		1			○							兼20
		英語表現 3		1			○							兼23
		英語理解 4		1			○							兼20
		英語表現 4		1			○							兼23
		英語理解発展 3		1			○							兼3
		英語表現発展 3		1			○							兼3
		英語理解発展 4		1			○							兼3
		英語表現発展 4		1			○							兼3
	情報リテラシー													
	人間力養成	キャリアデザイン 3	1			○								兼1
		小計 (13科目)	1	12	0				0	0	0	0	0	兼36
	国際理解	グローバル時代の法		2		○								兼2
		国際社会論		2		○								兼5
	人間・社会・自然の理解	政治と社会		2		○								兼2
		経済学		2		○								兼1
		生命科学		2		○								兼2
		地球科学		2		○								兼2
		物理の世界と先端技術		2		○								兼4
		物質科学		2		○								兼9
	総合													
	小計 (8科目)		0	16	0				0	0	0	0	0	兼27
	小計 (21科目)		1	28	0				0	0	0	0	0	兼63

教養科目	教養特別科目	イングリッシュアクティブラーニング 1	3前		1			○							兼1	集中 集中	
		イングリッシュアクティブラーニング 2	3後		1			○							兼1		
		イングリッシュアクティブラーニング 3	3前・後, 4前・後		1			○							兼1		
		日本語アクティブラーニング	3前・後, 4前・後		1			○							兼4		
		スポーツアクティブラーニング	3前・後, 4前・後		2		○								兼6		
		ソーシャルアクティブラーニング	1・2・3・4		1				○	1							
		国際インターン	1・2・3・4		1				○						兼1		
		国内インターン	1・2・3・4		1				○						兼1		
		ボランティア	1・2・3・4		1				○						兼1		
		キャリアアップラーニング	1・2・3・4		1				○	1							
		総合科学特論	3前・後, 4前・後		2		○								兼7		
小計 (11科目)			—	0	13	0	—			1	0	0	0	0	兼19	—	
専門科目	専門基礎科目																
		微分方程式	3前		2		○									兼9	
		離散数学	3前		2		○									兼6	
		線形代数特論	3前		2		○									兼8	
		応用解析	3後		2		○									兼6	
		統計解析	3後		2		○									兼4	
		初等整数論	3後		2		○									兼5	
		小計 (6科目)	—	0	12	0	—			0	0	0	0	0	兼16	—	
	専門基幹科目																
		ハッカソン 2	3前	2					○	1	1						共同
	小計 (1科目)			—	2	0	0	—			1	1	0	0	0		—
	専門展開科目	感性情報処理	3前		2		○				1					兼1	
		数値解析	3前		2		○									兼1	
		アルゴリズムとデータ構造	3前		2		○										
		オペレーティングシステム	3前		2		○			1							
		デジタル通信	3前		2		○			1							
		情報理論	3後		2		○									兼1	
		データベース	3後		2		○				1						
		技術者倫理	3後	2			○									兼1	
		機械学習	3後		2		○			1							
		人工知能	3後		2		○			1							
		情報セキュリティ	3後		2		○				1						
		高性能計算	3後		2		○									兼1	
		ゼミナール 1	3後	2			○			5	4		1				
		ゼミナール 2	4前	2			○			5	4			1			
		ゼミナール 3	4後	2			○			5	4			1			
		卒業研究	4通	5					○	5	4			1			
小計 (16科目)			—	13	22	0	—			5	4	0	1	0	兼3	—	
合計 (55科目)			—	16	75	0	—			5	4	0	1	0	兼96	—	

学位又は称号	学士（工学）	学位又は学科の分野	工学関係
卒業要件及び履修方法		授業期間等	
以下の条件を満たし、総単位 1 2 4 単位以上修得すること。 （教養科目） 必修科目 1 4 単位を含み、3 5 単位以上 （専門科目） 必修科目 4 3 単位を含み、専門基礎科目 1 8 単位以上、専門基幹科目 3 6 単位、専門展開科目 3 5 単位以上を修得し、専門科目 8 9 単位以上 （履修科目の登録の上限：4 0 単位（年間））		1 学年の学期区分	2 学期
		1 学期の授業期間	1 3 週
		1 時限の授業時間	1 2 0 分

教 育 課 程 等 の 概 要

新習志野キャンパス

(情報変革科学部 情報工学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
教養科目	コミュニケーションスキル	英語理解基礎 1		1			○							兼3
		英語表現基礎 1		1			○							兼3
		英語理解基礎 2		1			○							兼3
		英語表現基礎 2		1			○							兼3
		英語理解基礎 3		1			○							兼3
		英語表現基礎 3		1			○							兼3
		英語理解基礎 4		1			○							兼3
		英語表現基礎 4		1			○							兼3
		英語理解 1		1			○							兼20
		英語表現 1		1			○							兼23
		英語理解 2		1			○							兼20
		英語表現 2		1			○							兼23
		英語理解 3		1			○							兼20
		英語表現 3		1			○							兼23
		英語理解 4		1			○							兼20
		英語表現 4		1			○							兼23
		英語理解発展 1		1			○							兼3
		英語表現発展 1		1			○							兼3
		英語理解発展 2		1			○							兼3
		英語表現発展 2		1			○							兼3
		英語理解発展 3		1			○							兼3
		英語表現発展 3		1			○							兼3
		英語理解発展 4		1			○							兼3
		英語表現発展 4		1			○							兼3
		日本語表現法	1				○							兼10
	情報リテラシー	数理・データサイエンス・AI入門	1				○							兼4
		AI・プログラミング基礎演習		1			○							兼2
	人間力養成	スポーツ科学		2		○								兼9
		初年次教育		1		○			1					
		キャリアデザイン 1		1		○								兼1
		キャリアデザイン 2		1		○								兼1
	小計 (31科目)		7	25	0				1	0	0	0	0	兼61
	国際理解	異文化理解		2		○								兼4
		言語と文化 1		2		○								兼12
		言語と文化 2		2		○								兼11
	人間・社会・自然の理解	哲学		2		○								兼3
		倫理学		2		○								兼3
		文学と芸術		2		○								兼3
		歴史と人間		2		○								兼2
		心理学		2		○								兼3
		身体と健康の科学		2		○								兼7
		憲法と社会		2		○								兼2
		現代社会論		2		○								兼4
		科学技術史		2		○								兼2
		環境科学概論		2		○								兼3
	総合	課題探究セミナー		2		○								兼27
		総合学際科目		2		○								兼8
	小計 (15科目)		6	24	0				0	0	0	0	0	兼28

学位又は称号	学士（工学）	学位又は学科の分野	工学関係
卒業要件及び履修方法		授業期間等	
以下の条件を満たし、総単位 1 2 4 単位以上修得すること。 （教養科目） 必修科目 1 4 単位を含み、3 5 単位以上 （専門科目） 必修科目 4 3 単位を含み、専門基礎科目 1 8 単位以上、専門基幹科目 3 6 単位、専門展開 科目 3 5 単位以上を修得し、専門科目 8 9 単位以上 （履修科目の登録の上限：4 0 単位（年間））		1 学年の学期区分	2 学期
		1 学期の授業期間	1 3 週
		1 時限の授業時間	1 2 0 分

教育課程等の概要

(情報変革科学部 認知情報科学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
教養科目	英語理解基礎 1 英語表現基礎 1 英語理解基礎 2 英語表現基礎 2 英語理解基礎 3 英語表現基礎 3 英語理解基礎 4 英語表現基礎 4 英語理解 1 英語表現 1 英語理解 2 英語表現 2 英語理解 3 英語表現 3 英語理解 4 英語表現 4 英語理解発展 1 英語表現発展 1 英語理解発展 2 英語表現発展 2 英語理解発展 3 英語表現発展 3 英語理解発展 4 英語表現発展 4 日本語表現法	1前		1			○							兼3
		1前		1			○							兼3
		1後		1			○							兼3
		1後		1			○							兼3
		2～3		1			○							兼3
		2～3		1			○							兼3
		2～3		1			○							兼3
		2～3		1			○							兼3
		1前		1			○							兼20
		1前		1			○							兼23
		1後		1			○							兼20
		1後		1			○							兼23
		2～3		1			○							兼20
		2～3		1			○							兼23
		2～3		1			○							兼20
		2～3		1			○							兼23
		1前		1			○							兼3
		1前		1			○							兼3
		1後		1			○							兼3
		1後		1			○							兼3
		2～3		1			○							兼3
		2～3		1			○							兼3
		2～3		1			○							兼3
		2～3		1			○							兼3
	情報リテラシー AI・プログラミング基礎演習	1	1				○							兼4
		1～2		1			○							兼2
	人間力養成	スポーツ科学		2			○							兼9
		初年次教育		1			○							兼1
		キャリアデザイン 1		1			○							兼1
		キャリアデザイン 2		1			○							兼1
		キャリアデザイン 3		1			○							兼1
	小計 (32科目)		8	25	0				0	0	0	0	0	兼62
	国際理解	異文化理解		2			○							兼4
		言語と文化 1		2			○							兼12
		言語と文化 2		2			○							兼11
		グローバル時代の法		2			○							兼2
		国際社会論		2			○							兼5
	人間・社会・自然の理解	哲学		2			○							兼3
		倫理学		2			○							兼3
		文学と芸術		2			○							兼3
		歴史と人間		2			○							兼2
		心理学		2			○							兼3
		身体と健康の科学		2			○							兼7
		憲法と社会		2			○							兼2
		政治と社会		2			○							兼2
		経済学		2			○							兼1
		現代社会論		2			○							兼4
		科学技術史		2			○							兼2
		環境科学概論		2			○							兼3
		生命科学		2			○							兼2
		地球科学		2			○							兼2
		物理の世界と先端技術		2			○							兼4
		物質科学		2			○							兼9
	総合	課題探究セミナー		2			○							兼27
		総合学際科目		2			○							兼8
	小計 (23科目)		6	40	0				0	0	0	0	0	兼68

教養科目	教養特別科目	イングリッシュアクティブラーニング 1	3前	1			○							兼1	集中
		イングリッシュアクティブラーニング 2	3後	1			○							兼1	
		イングリッシュアクティブラーニング 3	3前・後, 4前・後	1			○							兼1	
		日本語アクティブラーニング	3前・後, 4前・後	1			○							兼4	集中
		スポーツアクティブラーニング	3前・後, 4前・後	2		○								兼6	
		ソーシャルアクティブラーニング	1・2・3・4	1				○						兼1	
		国際インターン	1・2・3・4	1				○						兼1	
		国内インターン	1・2・3・4	1				○						兼1	
		ボランティア	1・2・3・4	1				○						兼1	
		キャリアアップラーニング	1・2・3・4	1				○						兼1	
総合科学特論	3前・後, 4前・後	2			○							兼7			
小計 (11科目)		—	0	13	0	—		0	0	0	0	0	兼20	—	
専門科目	専門基礎科目	数学基礎	1前	2			○							兼14	
		線形代数基礎	1前	2			○							兼11	
		微分積分	1後	2			○							兼13	
		線形代数応用	1後	2			○							兼11	
		確率統計	2前	2			○							兼4	
		微分方程式	2前	2			○							兼9	
		応用解析	2後	2			○							兼6	
		離散数学	2後	2			○							兼6	
		統計解析	2後	2			○							兼4	
		線形代数特論	3前	2			○							兼8	
		初等整数論	3後	2			○							兼5	
		小計 (11科目)		—	2	20	0	—		0	0	0	0	0	兼18
	専門基幹科目	認知情報科学入門	1前	2			○			6	3		1		オムニバス 共同
		プログラミング演習	1前	2				○		1	1				
		認知科学概論	1後	2			○			2	1				
		情報科学概論	1後	2			○			2			1		オムニバス 共同
		認知情報科学演習	1後	2				○		1	1				
		認知科学基礎 1	2前	2			○			1					
		人工知能基礎 1	2前	2			○				1				共同
		マルチメディア基礎 1	2前	2			○				1				
		ソフトウェア基礎 1	2前	2			○			1					
		ネットワーク基礎 1	2前	2			○			1					
		認知情報科学実験 1	2前	2					○	2			1		
		認知科学基礎 2	2後	2			○				1				
		人工知能基礎 2	2後	2			○						1		
		マルチメディア基礎 2	2後	2			○			1					
		ソフトウェア基礎 2	2後	2			○			1					
		ネットワーク基礎 2	2後	2			○			1					
		認知情報科学実験 2	2後	2					○	2	1				共同
		小計 (17科目)		—	24	10	0	—		6	3	0	1	0	
	専門展開科目	認知科学応用	3前	2			○				1				オムニバス
		学びの科学・工学	3前	2			○			2	1				
		コミュニケーション	3前	2			○			1					
		ヒューマンコンピュータインタラクション	3前	2			○			1					
		マシンラーニング	3前	2			○				1				兼1
		コンピュータビジョン	3前	2			○				1				
		ソフトウェア工学	3前	2			○			1					
		ネットワーク応用	3前	2			○			1					
		アルゴリズムとデータ構造	3前	2			○								兼1
		ゼミナール 1	3前	2			○			6	3		1		
		インターネットの心理学	3後	2			○			1					
		デザインと表現	3後	2			○				1				
		フィールド調査	3後	2			○			1					兼1 オムニバス
		自然言語処理	3後	2			○						1		
		グラフィックス	3後	2			○				1				
		プロジェクトマネジメント	3後	2			○			1					
		データマイニング	3後	2			○				1				兼1 兼1
		センシングと I o T	3後	2			○			1					
		経営システム工学	3後	2			○								
		技術者倫理	3後	2			○								
		ゼミナール 2	3後	2			○			6	3		1		兼4
		ゼミナール 3	4前	2			○			6	3		1		
		ゼミナール 4	4後	2			○			6	3		1		
		卒業研究	4通	5					○	6	3		1		
		小計 (24科目)		—	15	36	0	—		6	3	0	1	0	兼4
合計 (118科目)			—	55	144	0	—		6	3	0	1	0	兼138	—

学位又は称号	学士（工学）	学位又は学科の分野	工学関係
卒業要件及び履修方法		授業期間等	
以下の条件を満たし、総単位 124 単位以上修得すること。 （教養科目） 必修科目 14 単位を含み、35 単位以上 （専門科目） 必修科目 41 単位を含み、専門基礎科目 12 単位以上、専門基幹科目 32 単位以上、専門展開科目 45 単位以上を修得し、専門科目 89 単位以上 （履修科目の登録の上限：40 単位（年間））		1 学年の学期区分	2 学期
		1 学期の授業期間	13 週
		1 時限の授業時間	120 分

教 育 課 程 等 の 概 要

津田沼キャンパス

(情報変革科学部 認知情報科学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
教養科目	コミュニケーションスキル	英語理解基礎 3		1			○							兼3
		英語表現基礎 3		1			○							兼3
		英語理解基礎 4		1			○							兼3
		英語表現基礎 4		1			○							兼3
		英語理解 3		1			○							兼20
		英語表現 3		1			○							兼23
		英語理解 4		1			○							兼20
		英語表現 4		1			○							兼23
		英語理解発展 3		1			○							兼3
		英語表現発展 3		1			○							兼3
		英語理解発展 4		1			○							兼3
		英語表現発展 4		1			○							兼3
	情報リテラシー													
	人間力養成													
		キャリアデザイン 3		1		○								兼1
	小計 (13科目)		1	12	0				0	0	0	0	0	兼36
教養共通科目	国際理解	グローバル時代の法		2		○								兼2
		国際社会論		2		○								兼5
	人間・社会・自然の理解	政治と社会		2		○								兼2
		経済学		2		○								兼1
		生命科学		2		○								兼2
		地球科学		2		○								兼2
		物理の世界と先端技術		2		○								兼4
		物質科学		2		○								兼9
	総合													
	小計 (8科目)		0	16	0				0	0	0	0	0	兼27
														—

教養科目	教養特別科目	イングリッシュアクティブラーニング 1	3前		1			○							兼1	集中 集中	
		イングリッシュアクティブラーニング 2	3後		1			○							兼1		
		イングリッシュアクティブラーニング 3	3前・後, 4前・後		1			○							兼1		
		日本語アクティブラーニング	3前・後, 4前・後		1			○							兼4		
		スポーツアクティブラーニング	3前・後, 4前・後		2		○								兼6		
		ソーシャルアクティブラーニング	1・2・3・4		1				○						兼1		
		国際インターン	1・2・3・4		1				○						兼1		
		国内インターン	1・2・3・4		1				○						兼1		
		ボランティア	1・2・3・4		1				○						兼1		
		キャリアアップラーニング	1・2・3・4		1				○						兼1		
		総合科学特論	3前・後, 4前・後		2		○								兼7		
		小計 (11科目)	—	0	13	0	—	—	0	0	0	0	0	0	兼20		—
専門科目	専門基礎科目																
		線形代数特論	3前		2		○								兼8		
		初等整数論	3後		2		○								兼5		
		小計 (2科目)	—	0	4	0	—	—	0	0	0	0	0	0	兼9	—	
	専門基礎科目																
		小計 (0科目)	—	0	0	0	—	—	0	0	0	0	0	0		—	
	専門展開科目	認知科学応用	3前		2		○				1					兼1	オムニバス
		学びの科学・工学	3前		2		○			2	1						
		コミュニケーション	3前		2		○			1							
		ヒューマンコンピュータインタラクション	3前		2		○			1							
		マシンラーニング	3前		2		○				1						
		コンピュータビジョン	3前		2		○				1						
		ソフトウェア工学	3前		2		○			1							
		ネットワーク応用	3前		2		○			1							
		アルゴリズムとデータ構造	3前		2		○										
		ゼミナール 1	3前	2		○			6	3		1					
		インターネットの心理学	3後		2		○			1							
		デザインと表現	3後		2		○				1						
		フィールド調査	3後		2		○			1							
		自然言語処理	3後		2		○					1					
		グラフィックス	3後		2		○				1						
		プロジェクトマネジメント	3後		2		○			1							
		データマイニング	3後		2		○				1						
		センシングと I o T	3後		2		○			1							
		経営システム工学	3後		2		○										
		技術者倫理	3後	2		○											
		ゼミナール 2	3後	2		○			6	3		1					
		ゼミナール 3	4前	2		○			6	3		1					
		ゼミナール 4	4後	2		○			6	3		1					
		卒業研究	4通	5				○	6	3		1					
	小計 (24科目)	—	15	36	0	—	—	6	3	0	1	0	0	兼4	—		
合計 (58科目)			—	16	81	0	—	—	6	3	0	1	0	兼91	—		

学位又は称号	学士（工学）	学位又は学科の分野	工学関係
卒業要件及び履修方法		授業期間等	
以下の条件を満たし、総単位 124 単位以上修得すること。 （教養科目） 必修科目 14 単位を含み、35 単位以上 （専門科目） 必修科目 41 単位を含み、専門基礎科目 12 単位以上、専門基幹科目 32 単位以上、専門展開科目 45 単位以上を修得し、専門科目 89 単位以上 （履修科目の登録の上限：40 単位（年間））		1 学年の学期区分	2 学期
		1 学期の授業期間	13 週
		1 時限の授業時間	120 分

教育課程等の概要

新習志野キャンパス

(情報変革科学部 認知情報科学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
教養科目	コミュニケーションスキル	英語理解基礎 1		1			○							兼3
		英語表現基礎 1		1			○							兼3
		英語理解基礎 2		1			○							兼3
		英語表現基礎 2		1			○							兼3
		英語理解基礎 3		1			○							兼3
		英語表現基礎 3		1			○							兼3
		英語理解基礎 4		1			○							兼3
		英語表現基礎 4		1			○							兼3
		英語理解 1		1			○							兼20
		英語表現 1		1			○							兼23
		英語理解 2		1			○							兼20
		英語表現 2		1			○							兼23
		英語理解 3		1			○							兼20
		英語表現 3		1			○							兼23
		英語理解 4		1			○							兼20
		英語表現 4		1			○							兼23
		英語理解発展 1		1			○							兼3
		英語表現発展 1		1			○							兼3
		英語理解発展 2		1			○							兼3
		英語表現発展 2		1			○							兼3
		英語理解発展 3		1			○							兼3
		英語表現発展 3		1			○							兼3
		英語理解発展 4		1			○							兼3
		英語表現発展 4		1			○							兼3
		日本語表現法	1				○							兼10
	情報リテラシー	数理・データサイエンス・AI入門	1				○							兼4
		AI・プログラミング基礎演習		1			○							兼2
	人間力養成	スポーツ科学		2			○							兼9
		初年次教育		1			○							兼1
		キャリアデザイン 1		1			○							兼1
		キャリアデザイン 2		1			○							兼1
	小計 (31科目)		7	25	0	-			0	0	0	0	0	兼62
	国際理解	異文化理解		2			○							兼4
		言語と文化 1		2			○							兼12
		言語と文化 2		2			○							兼11
	人間・社会・自然の理解	哲学		2			○							兼3
		倫理学		2			○							兼3
		文学と芸術		2			○							兼3
		歴史と人間		2			○							兼2
		心理学		2			○							兼3
		身体と健康の科学		2			○							兼7
		憲法と社会		2			○							兼2
		現代社会論		2			○							兼4
		科学技術史		2			○							兼2
		環境科学概論		2			○							兼3
	総合	課題探究セミナー		2			○							兼27
		総合学際科目		2			○							兼8
	小計 (15科目)		6	24	0	-			0	0	0	0	0	兼28

教養科目	教養特別科目	ソーシャルアクティブラーニング	1・2・3・4														兼1	
		国際インターン	1・2・3・4	1													兼1	
		国内インターン	1・2・3・4	1													兼1	
		ボランティア	1・2・3・4	1													兼1	
		キャリアアップラーニング	1・2・3・4	1													兼1	
		小計（5科目）	－	0	5	0	－			0	0	0	0	0	0	0	兼5	－
専門科目	専門基礎科目	数学基礎	1前	2			○										兼14	
		線形代数基礎	1前	2		○										兼11		
		微分積分	1後	2		○										兼13		
		線形代数応用	1後	2		○										兼11		
		確率統計	2前	2		○										兼4		
		微分方程式	2前	2		○										兼9		
		応用解析	2後	2		○										兼6		
		離散数学	2後	2		○										兼6		
		統計解析	2後	2		○										兼4		
		小計（9科目）	－	2	16	0	－			0	0	0	0	0	0	0	兼18	
	専門基幹科目	認知情報科学入門	1前	2			○			6	3		1					オムニバス 共同 オムニバス オムニバス 共同
		プログラミング演習	1前	2				○		1	1							
		認知科学概論	1後	2			○			2	1							
		情報科学概論	1後	2			○			2			1					
		認知情報科学演習	1後	2				○		1	1							
		認知科学基礎 1	2前	2			○			1								
		人工知能基礎 1	2前	2			○				1							
		マルチメディア基礎 1	2前	2			○				1							
		ソフトウェア基礎 1	2前	2			○			1								
		ネットワーク基礎 1	2前	2			○			1								
認知情報科学実験 1		2前	2					○	2			1					共同	
認知科学基礎 2		2後	2			○				1			1					
人工知能基礎 2		2後	2			○							1					
マルチメディア基礎 2		2後	2			○			1									
ソフトウェア基礎 2	2後	2			○			1										
ネットワーク基礎 2	2後	2			○			1										
認知情報科学実験 2	2後	2					○	2	1							共同		
	小計（17科目）	－	24	10	0	－			6	3	0	1	0				－	
専門展開科目																		
	小計（0科目）	－	0	0	0	－			0	0	0	0	0	0	0	0	兼0	－
合計（77科目）		－	39	80	0	－			6	3	0	1	0				兼118	－

学位又は称号	学士（工学）	学位又は学科の分野	工学関係
卒業要件及び履修方法		授業期間等	
以下の条件を満たし、総単位 124 単位以上修得すること。 （教養科目） 必修科目 14 単位を含み、35 単位以上 （専門科目） 必修科目 41 単位を含み、専門基礎科目 12 単位以上、専門基幹科目 32 単位以上、専門展開科目 45 単位以上を修得し、専門科目 89 単位以上 （履修科目の登録の上限：40 単位（年間））		1 学年の学期区分	2 学期
		1 学期の授業期間	13 週
		1 時限の授業時間	120 分

教育課程等の概要

(情報変革科学部 高度応用情報科学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
教養科目	英語基礎科目	英語理解基礎 1		1			○							兼3
		英語表現基礎 1		1			○							兼3
		英語理解基礎 2		1			○							兼3
		英語表現基礎 2		1			○							兼3
		英語理解基礎 3		2～3			○							兼3
		英語表現基礎 3		2～3			○							兼3
		英語理解基礎 4		2～3			○							兼3
		英語表現基礎 4		2～3			○							兼3
		英語理解 1		1			○							兼20
		英語表現 1		1			○							兼23
		英語理解 2		1			○							兼20
		英語表現 2		1			○							兼23
		英語理解 3		2～3			○							兼20
		英語表現 3		2～3			○							兼23
		英語理解 4		2～3			○							兼20
		英語表現 4		2～3			○							兼23
		英語理解発展 1		1			○							兼3
		英語表現発展 1		1			○							兼3
		英語理解発展 2		1			○							兼3
		英語表現発展 2		1			○							兼3
		英語理解発展 3		2～3			○							兼3
		英語表現発展 3		2～3			○							兼3
		英語理解発展 4		2～3			○							兼3
		英語表現発展 4		2～3			○							兼3
		日本語表現法		1			○							兼10
	情報リテラシー	数理・データサイエンス・AI入門		1			○							兼4
		AI・プログラミング基礎演習		1			○							兼2
	人間力養成	スポーツ科学		2			○							兼9
		初年次教育		1			○							兼1
		キャリアデザイン 1		1			○							兼1
		キャリアデザイン 2		1			○							兼1
		キャリアデザイン 3		1			○							兼1
	小計 (32科目)		8	25	0				0	0	0	0	0	兼62
	国際理解	異文化理解		2			○							兼4
		言語と文化 1		2			○							兼12
		言語と文化 2		2			○							兼11
		グローバル時代の法		2			○							兼2
		国際社会論		2			○							兼5
	人間・社会・自然の理解	哲学		2			○							兼3
		倫理学		2			○							兼3
		文学と芸術		2			○							兼3
		歴史と人間		2			○							兼2
		心理学		2			○							兼3
		身体と健康の科学		2			○							兼7
		憲法と社会		2			○							兼2
		政治と社会		2			○							兼2
		経済学		2			○							兼1
		現代社会論		2			○							兼4
		科学技術史		2			○							兼2
		環境科学概論		2			○							兼3
		生命科学		2			○							兼2
		地球科学		2			○							兼2
		物理の世界と先端技術		2			○							兼4
		物質科学		2			○							兼9
	総合	課題探究セミナー		2			○							兼27
		総合学際科目		2			○							兼8
	小計 (23科目)		6	40	0				0	0	0	0	0	兼68

教養科目	教養特別科目	イングリッシュアクティブラーニング1	3前	1			○								兼1	集中
		イングリッシュアクティブラーニング2	3後	1			○								兼1	
		イングリッシュアクティブラーニング3	3前・後、4前・後	1			○								兼1	
		日本語アクティブラーニング	3前・後、4前・後	1			○								兼4	
		スポーツアクティブラーニング	3前・後、4前・後	2		○									兼6	
		ソーシャルアクティブラーニング	1・2・3・4	1					○						兼1	
		国際インターン	1・2・3・4	1					○	○					兼1	
		国内インターン	1・2・3・4	1					○	○					兼1	
		ボランティア	1・2・3・4	1					○	○					兼1	
		キャリアアップラーニング	1・2・3・4	1					○	○					兼1	
		総合科学特論	3前・後、4前・後	2		○									兼7	
小計（11科目）		－	0	13	0	－			0	0	0	0	0	兼20	－	
専門科目	専門基礎科目	数学基礎	1前	2			○								兼14	
		線形代数基礎	1前	2			○								兼11	
		微分積分	1後	2			○								兼13	
		線形代数応用	1後	2			○								兼11	
		確率統計	2前	2			○								兼4	
		微分方程式	2前	2			○								兼9	
		数理モデリング	2前	2			○			1						
		離散数学	2前	2			○			1						
		情報数学1	2前	2			○				1					
		応用解析	2後	2			○								兼6	
		統計解析	2後	2			○								兼4	
		社会数理モデリング	2後	2			○				1					
		情報数学2	2後	2			○				1					
		線形代数特論	3前	2			○								兼8	
		初等整数論	3後	2			○								兼5	
	小計（15科目）		－	10	20	0	－			2	1	0	0	0	兼18	－
	専門基幹科目	高度応用情報科学概論1	1前	2			○				6	3		1		オムニバス 共同 共同 共同 オムニバス 共同 共同
		情報リテラシ	1前	2			○					1				
		情報リテラシ演習1	1前	2				○			1	1				
		I C T基礎	1後	2			○				1					
		情報リテラシ演習2	1後	2				○			1	1				
		データ構造とアルゴリズム	2前	2			○					1				
		情報メディア基礎	2前	2			○				1					
		T C P / I P概論	2前	2			○				1					
		NWプログラミング基礎演習	2前	2				○			1	1				
		高度応用情報科学概論2	2後	2			○				6	3		1		
		O Sとシステムソフトウェア	2後	2			○					1				
		情報ネットワーク	2後	2			○				1					
		NWプログラミング応用演習	2後	2				○			1	1				
	データサイエンス入門	2後	2			○				1						
	データサイエンス演習	2後	2				○			1	1					
	小計（15科目）		－	20	10	0	－			6	3	0	1	0		－
	専門展開科目	データベース	3前	2			○					1				兼1 共同
L A N		3前	2			○				1						
W e bプログラミング基礎実験		3前	2					○		1	1					
機械学習基礎		3前	2			○				1						
行動科学分析		3前	2			○				1						
金融工学		3前	2			○				1						
クラウドコンピューティング		3前	2			○							1			
クラウド構築演習		3前	2				○						1			
ソフトコンピューティング		3前	2			○				1						
マルチメディア情報処理		3前	2			○				1						
情報倫理		3後	2			○										
ソフトウェア工学		3後	2			○							1			
W e bプログラミング応用実験		3後	2					○		1			1			
機械学習応用		3後	2			○				1						
人間工学		3後	2			○				1						
I o Tシステム		3後	2			○				1						
I o Tシステム構築実験		3後	2					○					1			
サイバーセキュリティ		3後	2			○				1						
サイバーセキュリティ実験		3後	2					○		1						
高度応用情報科学ゼミナール1		3後	2			○				6	3		1			
高度応用情報科学ゼミナール2		4前	2			○				6	3		1			
高度応用情報科学ゼミナール3		4後	2			○				6	3		1			
卒業研究		4通	5					○		6	3		1			
小計（23科目）		－	11	38	0	－			6	3	0	1	0	兼1	－	
合計（119科目）			－	55	146	0	－			6	3	0	1	0	兼135	－

学位又は称号	学士（工学）	学位又は学科の分野	工学関係
卒業要件及び履修方法		授業期間等	
以下の条件を満たし、総単位 1 2 4 単位以上修得すること。 （教養科目） 必修科目 1 4 単位を含み、3 5 単位以上 （専門科目） 必修科目 4 1 単位を含み、専門基礎科目 2 4 単位以上、専門基幹科目 2 4 単位以上、専門展開科目 4 1 単位以上を修得し、専門科目 8 9 単位以上 （履修科目の登録の上限：4 0 単位（年間））		1 学年の学期区分	2 学期
		1 学期の授業期間	1 3 週
		1 時限の授業時間	1 2 0 分

教 育 課 程 等 の 概 要

津田沼キャンパス

(情報変革科学部 高度応用情報科学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
教養科目	コミュニケーション 基礎 スキル	英語理解基礎 3		1			○							兼3
		英語表現基礎 3		1			○							兼3
		英語理解基礎 4		1			○							兼3
		英語表現基礎 4		1			○							兼3
		英語理解 3		1			○							兼20
		英語表現 3		1			○							兼23
		英語理解 4		1			○							兼20
		英語表現 4		1			○							兼23
		英語理解発展 3		1			○							兼3
		英語表現発展 3		1			○							兼3
		英語理解発展 4		1			○							兼3
		英語表現発展 4		1			○							兼3
	情報リテラシー													
	人間力養成	キャリアデザイン 3	1			○								兼1
		小計 (13科目)	1	12	0				0	0	0	0	0	兼37
教養共通科目	国際理解	グローバル時代の法		2		○								兼2
		国際社会論		2		○								兼5
	人間・社会・自然の理解	政治と社会		2		○								兼2
		経済学		2		○								兼1
		生命科学		2		○								兼2
		地球科学		2		○								兼2
		物理の世界と先端技術		2		○								兼4
		物質科学		2		○								兼9
	総合													
	小計 (8科目)		0	16	0				0	0	0	0	0	兼27

教養科目	教養特別科目	イングリッシュアクティブラーニング1	3前		1			○							兼1	集中
		イングリッシュアクティブラーニング2	3後		1			○							兼1	
		イングリッシュアクティブラーニング3	3前・後, 4前・後		1			○							兼1	
		日本語アクティブラーニング	3前・後, 4前・後		1			○							兼4	
		スポーツアクティブラーニング	3前・後, 4前・後		2		○								兼6	
		ソーシャルアクティブラーニング	1・2・3・4		1				○						兼1	
		国際インターン	1・2・3・4		1				○	○					兼1	
		国内インターン	1・2・3・4		1				○	○					兼1	
		ボランティア	1・2・3・4		1				○	○					兼1	
		キャリアアップラーニング	1・2・3・4		1				○	○					兼1	
		総合科学特論	3前・後, 4前・後		2		○								兼7	
		小計 (11科目)		—	0	13	0	—			0	0	0	0	0	兼20
専門科目	専門基礎科目															
		線形代数特論	3前		2		○									兼8
		初等整数論	3後		2		○									兼5
		小計 (2科目)	—	0	4	0	—			0	0	0	0	0	兼9	—
	専門基幹科目															
		小計 (0科目)	—	0	0	0	—			0	0	0	0	0		—
	専門展開科目	データベース	3前		2		○				1				共同	
		L A N	3前		2		○			1						
		W e b プログラミング基礎実験	3前		2				○	1	1					
		機械学習基礎	3前		2		○			1						
		行動科学分析	3前		2		○			1						
		金融工学	3前		2		○			1						
		クラウドコンピューティング	3前		2		○					1				
		クラウド構築演習	3前		2			○				1				
		ソフトコンピューティング	3前		2		○			1						
		マルチメディア情報処理	3前		2		○			1						
		情報倫理	3後		2		○							兼1		
		ソフトウェア工学	3後		2		○					1				
		W e b プログラミング応用実験	3後		2				○	1		1				
		機械学習応用	3後		2		○			1						
		人間工学	3後		2		○			1						
		I o T システム	3後		2		○			1						
		I o T システム構築実験	3後		2				○			1				
		サイバーセキュリティ	3後		2		○			1						
		サイバーセキュリティ実験	3後		2				○	1						
		高度応用情報科学ゼミナール1	3後	2			○			6	3		1			
		高度応用情報科学ゼミナール2	4前	2			○			6	3		1			
		高度応用情報科学ゼミナール3	4後	2			○			6	3		1			
		卒業研究	4通	5					○	6	3		1			
	小計 (23科目)		—	11	38	0	—			6	3	0	1	0	兼1	—
合計 (57科目)			—	12	83	0	—			6	3	0	1	0	兼88	—

学位又は称号	学士（工学）	学位又は学科の分野	工学関係
卒業要件及び履修方法		授業期間等	
以下の条件を満たし、総単位 1 2 4 単位以上修得すること。 （教養科目） 必修科目 1 4 単位を含み、3 5 単位以上 （専門科目） 必修科目 4 1 単位を含み、専門基礎科目 2 4 単位以上、専門基幹科目 2 4 単位以上、専門展開科目 4 1 単位以上を修得し、専門科目 8 9 単位以上 （履修科目の登録の上限：4 0 単位（年間））		1 学年の学期区分	2 学期
		1 学期の授業期間	1 3 週
		1 時限の授業時間	1 2 0 分

教育課程等の概要

新習志野キャンパス

(情報変革科学部 高度応用情報科学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
教養科目	英語基礎科目	英語理解基礎 1		1			○							兼3
		英語表現基礎 1		1			○							兼3
		英語理解基礎 2		1			○							兼3
		英語表現基礎 2		1			○							兼3
		英語理解基礎 3		1			○							兼3
		英語表現基礎 3		1			○							兼3
		英語理解基礎 4		1			○							兼3
		英語表現基礎 4		1			○							兼3
		英語理解 1		1			○							兼20
		英語表現 1		1			○							兼23
		英語理解 2		1			○							兼20
		英語表現 2		1			○							兼23
		英語理解 3		1			○							兼20
		英語表現 3		1			○							兼23
		英語理解 4		1			○							兼20
		英語表現 4		1			○							兼23
		英語理解発展 1		1			○							兼3
		英語表現発展 1		1			○							兼3
		英語理解発展 2		1			○							兼3
		英語表現発展 2		1			○							兼3
		英語理解発展 3		1			○							兼3
		英語表現発展 3		1			○							兼3
		英語理解発展 4		1			○							兼3
		英語表現発展 4		1			○							兼3
		日本語表現法	1				○							兼10
	情報リテラシー	数理・データサイエンス・AI入門	1				○							兼4
		AI・プログラミング基礎演習		1			○							兼2
	人間力養成	スポーツ科学		2			○							兼9
		初年次教育		1			○							兼1
		キャリアデザイン1		1			○							兼1
		キャリアデザイン2		1			○							兼1
	小計 (31科目)		7	25	0				0	0	0	0	0	兼62
教養共通科目	国際理解	異文化理解		2			○							兼4
		言語と文化 1		2			○							兼12
		言語と文化 2		2			○							兼11
	人間・社会・自然の理解	哲学		2			○							兼3
		倫理学		2			○							兼3
		文学と芸術		2			○							兼3
		歴史と人間		2			○							兼2
		心理学		2			○							兼3
		身体と健康の科学		2			○							兼7
		憲法と社会		2			○							兼2
		現代社会論		2			○							兼4
		科学技術史		2			○							兼2
		環境科学概論		2			○							兼3
	総合	課題探究セミナー		2			○							兼27
		総合学際科目		2			○							兼8
	小計 (15科目)		6	24	0				0	0	0	0	0	兼28

教養科目	教養特別科目	ソーシャルアクティブラーニング	1・2・3・4		1					○							兼1	
		国際インターン	1・2・3・4		1					○							兼1	
		国内インターン	1・2・3・4		1					○							兼1	
		ボランティア	1・2・3・4		1					○							兼1	
		キャリアアップラーニング	1・2・3・4		1					○							兼1	
		小計（5科目）	－	0	5	0	－		0	0	0	0	0	0		兼5	－	
専門科目	専門基礎科目	数学基礎	1前	2			○									兼14		
		線形代数基礎	1前	2			○									兼11		
		微分積分	1後	2	2		○									兼13		
		線形代数応用	1後	2			○									兼11		
		確率統計	2前	2			○									兼4		
		微分方程式	2前		2		○			1						兼9		
		数理モデリング	2前		2		○			1								
		離散数学	2前		2		○			1								
		情報数学 1	2前		2		○				1							
		応用解析	2後		2		○									兼6		
		統計解析	2後	2			○									兼4		
		社会数理モデリング	2後		2		○				1							
		情報数学 2	2後		2		○				1							
		小計（13科目）	－	10	16	0	－		2	1	0	0	0	0	兼18	－		
	専門基幹科目	高度応用情報科学概論 1	1前	2			○			6	3		1			オムニバス		
		情報リテラシ	1前	2			○				1					共同		
		情報リテラシ演習 1	1前	2				○		1	1					共同		
		I C T 基礎	1後	2			○			1						共同		
		情報リテラシ演習 2	1後	2				○		1	1							
		データ構造とアルゴリズム	2前	2			○				1							
情報メディア基礎		2前	2			○			1									
T C P / I P 概論		2前	2			○			1									
NWプログラミング基礎演習		2前		2			○		1	1					共同			
高度応用情報科学概論 2		2後	2			○			6	3		1			オムニバス			
OSとシステムソフトウェア		2後		2		○				1								
情報ネットワーク		2後	2			○			1									
NWプログラミング応用演習	2後		2			○		1	1					共同				
	データサイエンス入門	2後		2		○			1									
	データサイエンス演習	2後		2		○			1	1					共同			
	小計（15科目）	－	20	10	0	－		6	3	0	1	0			－			
専門展開科目																		
	小計（0科目）	－	0	0	0	－		0	0	0	0	0	0	0	兼1	－		
合計（79科目）		－	43	80	0	－		6	3	0	1	0			兼118	－		

学位又は称号	学士（工学）	学位又は学科の分野	工学関係
卒業要件及び履修方法		授業期間等	
以下の条件を満たし、総単位 1 2 4 単位以上修得すること。 （教養科目） 必修科目 1 4 単位を含み、3 5 単位以上 （専門科目） 必修科目 4 1 単位を含み、専門基礎科目 2 4 単位以上、専門基幹科目 2 4 単位以上、専門展開科目 4 1 単位以上を修得し、専門科目 8 9 単位以上 （履修科目の登録の上限：4 0 単位（年間））		1 学年の学期区分	2 学期
		1 学期の授業期間	1 3 週
		1 時限の授業時間	1 2 0 分

授 業 科 目 の 概 要				
(情報変革科学部 情報工学科)				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目	コミュニケーション 基礎科目	英語理解基礎1	本授業では聞く、話す、読む、書くという基礎的な言語活動を通して高校における語彙や文法を十分に定着させ、4技能の基礎的な英語運用能力を養成する。主に基礎的な英文のインプットを繰り返すことにより英語の最低限のルールを習得する。4技能の言語活動をバランスよく計画的・系統的に取り入れることで、基礎的な語彙や文法事項をさまざまな言語活動のなかで繰り返し練習し、実際の場面で使える「能動語彙」や使える「文法力」の習得を目指す。	
		英語表現基礎1	本授業では、高校までに学習してきた語意や文法を用いて、基礎的な英語運用能力の習得に必要な土台作りを目指す。スピーキングでは1対1の会話で相手の主張を理解して要約したり、平易な表現を用いて相手の質問に簡潔に答えたりといったペア・ワーク、またライティングでは英文和訳や自由英作文などで基礎的な文法事項を確認するなど演習形式の授業を通じてコミュニケーションの基礎力の養成を行う。また積極的にコミュニケーションを図ろうとする意欲の養成を目指す。	
		英語理解基礎2	本授業ではコミュニケーションのコアとなる英文法の習得を目指す。多様な例文のインプットに加えて、話す、書くというアウトプットを多量に行なうことで断片的になりがちな文法知識を有機的に関連させる。4技能の言語活動をバランスよく計画的・系統的に取り入れることで、基礎的な語彙や文法事項をさまざまな言語活動のなかで繰り返し練習し、知識としてだけでなく、実際の場面で使える「能動語彙」や使える「文法力」の習得を目指す。	
		英語表現基礎2	本授業では、基礎的な英語運用能力と積極的にコミュニケーションと取ろうとする意欲の習得に向けた演習中心の授業を行う。1対1のスピーキングでは基礎的な内容に加えてさまざまな話題についてのやりとりができるように演習形式の授業を行う。また相手の主張を要約する演習を通じて語彙力の強化も行う。ライティングでは英文和訳や自由英作文などで基礎的な文法事項を確認するなど演習形式の授業を通じてコミュニケーションの基礎力の養成を行う。	
		英語理解基礎3	本授業ではリスニングとリーディングを中心に、英語で発信された情報や考えなどを的確に理解する能力を伸ばすことを主眼とする。題材としては、基礎的な英文で書かれた読み物を用い、まず、音読などを通じて英語の正しい発音を確認するとともに、英語の自然な流れやスピードにも慣れ親しむ機会を設ける。次に、その読み物を精読し、その過程の中で、単に一つ一つの英文を正確に深く理解するだけでなく、文と文とのつながりや内容の展開などにも目を配り、文章全体を把握する能力を養成する。	
		英語表現基礎3	本授業では、会話や作文だけでなく読解や聴解など4技能を複合的に使いながら標準的な英語コミュニケーション力の習得を目指す。2～3名のグループワークを中心とした授業運営を行い、会話やインタビューなど多様なスタイルを活用することで確固とした英語運用能力を定着させる。たとえば他人の意見をパラフレーズして説明することで語彙のネットワークを広げるなど。ライティングでは既習文法事項と新たな語彙を使いながら、より豊かな英語表現のための基礎力の養成を行う。	
		英語理解基礎4	本授業ではリスニングとリーディングを中心に、英語で発信された情報や考えなどを的確に理解する能力を伸ばすことを主眼とする。題材としては、基礎的な英文で書かれた読み物を用い、まず、音読やディクテーションなどを通じて英語の正しい発音を確認するとともに、英語の自然な流れやスピードにも慣れ親しむ機会を設ける。次に、その読み物を精読し、その過程の中で、単に一つ一つの英文を正確に深く理解するだけでなく、文と文とのつながりや内容の展開などにも目を配り、文章全体を把握する力を養成する。更には、その読んだ内容を平易な自分の言葉でまとめる演習を行う。	
		英語表現基礎4	本授業では、4技能(読解、聴解、会話、作文)を複合的に使いながら標準的な英語運用能力の習得を目指す。スピーキングでは2～3名のペア・ワークで一般的な内容に基づいてインタビューする演習を行う。ライティングではより豊かな英語表現のための基礎力の養成をめざして、具体的な状況や話題(大学生活や学習内容)についての作文を行う。また、学生同士でのピア・レビューを通じて、より正確で洗練された英語表現を目指す。	
		英語理解1	長い文を含む文章を読む場合、文の構造を理解する能力が不可欠である。本授業の目的は、文構造を把握するテクニックを身に付け、それを駆使しながら実際に文章を読むことにある。また文構造を把握するテクニックを習得するために、前置詞、動名詞、分詞などの文を長くする原因となる様々な文法事項の復習も行う。	
		英語表現1	本授業では、高校までに学習した内容に加えて新たに語彙力の強化を行いながら、標準的な英語運用能力の習得に必要な土台作りを目指す。スピーキングでは2～3名のグループ内で互いにインタビューをしたり、他人の意見をパラフレーズして説明したりするなどのグループ・ワーク、またライティングでは高校までの既習文法事項と新たな語彙を使いながら、より豊かな英語表現のための基礎力の養成を行う。また積極的にコミュニケーションを図ろうとする意欲の養成を目指す。	

教養科目	教養基礎科目	コミュニケーションスキル	英語理解2	長い文を含む文章を読む場合、文の構造を理解する能力が不可欠である。本授業の目的は、文構造を把握するテクニックを身に付け、それを駆使しながら実際に文章を読むことにある。また文構造を把握するテクニックを習得するために、不定詞、同格、等位接続詞、従属節などの文を長くする原因となる様々な文法事項の復習も行う。	
			英語表現2	本授業では、標準的な英語運用能力と積極的にコミュニケーションと取ろうとする意欲の習得に向けた演習中心の授業を行う。2-3名のスピーキングではより複雑な構文や難度の高い語彙を用いて互いにインタビューする演習を行う。ライティングではより豊かな英語表現のための基礎力の養成をめざして、具体的な状況や話題(大学生活や学習内容)についての作文を行う。また、学生同士でのピア・レビューを通じて、より正確で洗練された英語表現を目指す。	
			英語理解3	本授業ではリスニングとリーディングを中心に、英語で発信された情報や考えなどを的確に理解する能力を伸ばすことを主眼とする。題材としては、標準的な英文で書かれた読み物を用い、まず、音読やディクテーションなどを通じて英語の正しい発音を確認するとともに、英語の自然な流れやスピードにも慣れ親しむ機会を設ける。次に、その読み物を精読し、その過程の中で、単に一つ一つの英文を正確に深く理解するだけでなく、文と文とのつながりや内容の展開などにも目を配りつつ、文章全体を把握し、最終的には、読んだ内容を自分の言葉でまとめられるようになることを目指す。	
			英語表現3	本授業では、会話や作文だけでなく読解や聴解など4技能を複合的に使いながら実践的な英語運用能力の習得を目指す。5-6名のグループワークを中心とした授業運営を行う。教員対学生だけではなく、学生同士のアクティビティを積極的に取り入れることで、自発的な英語運用能力を定着させる。スピーキングでは学生生活などの身近なテーマに基づいて30秒程度のスピーチを作成し、互いに発表し内容をまとめる演習を繰り返し行う。またライティングでは50語程度の自由作文を使って学生同士の添削(peer-review)など、より正確で洗練された英語表現を目指した演習形式の授業を行う。	
			英語理解4	本授業ではリスニングとリーディングを中心に、英語で発信された情報や考えなどを的確に理解する能力を伸ばすことを主眼とする。題材としては、標準的な英文で書かれた読み物を用い、まず、音読やディクテーションなどを通じて英語の正しい発音を確認するとともに、英語の自然な流れやスピードにも慣れ親しむ機会を設ける。次に、その読み物を精読し、その過程の中で、単に一つ一つの英文を正確に深く理解するだけでなく、文と文とのつながりや内容の展開などにも目を配りつつ、文章全体を把握し、最終的には、読んだ内容を自分の言葉でまとめられるようになることを目指す。更には、その内容に対する自分の意見を構築し、発表する演習を行う。	
			英語表現4	本授業では、技能(読解、聴解、会話、作文)を複合的に使いながら実践的な英語運用能力の習得を目指す。スピーキングでは一般的な話題だけではなく、社会問題などについて自分の意見を表現するまとまったスピーチを作成し、互いに発表し内容をまとめる演習を繰り返し行う。またライティングでも自分の意見を論理的に展開する100語程度の自由作文を作成するなど、より正確で洗練された英語表現を目指した演習形式の授業を行う。	
			英語理解発展1	本授業ではリスニングとリーディングを中心に、英語で発信された情報や考えなどを的確に理解する能力を伸ばすことを主眼とする。題材としては、社会問題や時事問題等を扱った読み物を用い、まず、音読などを通じて英語の正しい発音を確認するとともに、英語の自然な流れやスピードにも慣れ親しむ機会を設ける。次に、その読み物を精読し、その過程の中で、単に一つ一つの英文を正確に深く理解するだけでなく、文と文とのつながりや内容の展開などにも目を配りつつ文章全体を把握し、更には、その読んだ内容を自分の言葉でまとめる能力を養成する。	
			英語表現発展1	本授業では、実践的な英語運用能力の習得のための語彙の強化や構文の確認といったコミュニケーション能力の土台作りを目指す。それと同時に積極的にコミュニケーションを図ろうとする意欲の養成も目指す。スピーキングでは学生生活などの身近なテーマに基づいて30秒程度のスピーチを作成し、互いに発表し内容をまとめる演習を繰り返し行う。またライティングでは50語程度の自由作文を使って学生同士でのピア・レビューなど、より正確で洗練された英語表現を目指した演習形式の授業を行う。	
			英語理解発展2	本授業ではリスニングとリーディングを中心に、英語で発信された情報や考えなどを的確に理解する能力を伸ばすことを主眼とする。題材としては、社会問題や時事問題等を扱った読み物を用い、まず、音読やディクテーションなどを通じて英語の正しい発音を確認するとともに、英語の自然な流れやスピードにも慣れ親しむ機会を設ける。次に、その読み物を精読し、その過程の中で、単に一つ一つの英文を正確に深く理解するだけでなく、文と文とのつながりや内容の展開などにも目を配りつつ文章全体を把握する能力を養成する。更には、その読んだ内容を自分の言葉でまとめ、その内容に対する自分の意見を構築し、発表する演習を行う。	
			英語表現発展2	本授業では、実践的な英語運用能力と積極的にコミュニケーションと取ろうとする意欲の習得に向けた演習中心の授業を行う。スピーキングでは社会問題や科学的な話題などの複雑なテーマに基づいて1分程度のスピーチを作成し、互いに発表し内容をまとめる演習を繰り返し行う。またライティングでは100語程度の自由作文を使って学生同士でのピア・レビューなど、より正確で洗練された英語表現を目指した演習形式の授業を行う。	

教養科目	コミュニケーションスキル	英語理解発展3	本授業ではリスニングとリーディングを中心に、英語で発信された情報や考えなどを的確に理解し、それらに対する自らの考えや意見をより深める能力を伸ばすことを主眼とする。題材としては、主に特定の社会問題などを扱った読み物や新聞・雑誌記事などを複数用い、様々な角度から一つの事柄を理解し、その内容を自らの言葉でまとめられるような力を養う。読む方法としても「精読」だけに留まらず、必要な情報や考えをスピーディに探したすのに有効な「速読」などにも挑戦する。また、音読やディクテーションに加え、内容に関する英語の質疑応答などを通じて、聴いている内容の展開やポイントを的確に押さえる能力の養成を目指す。更には、その内容に対する自分の意見を構築し、発表する演習を行う。	
		英語表現発展3	本授業では、会話や作文だけでなく読解や聴解など4技能を複合的に使いながら高度な英語運用能力の習得を目指す。グループ内だけでなく教員やグループ間での双方向的な活動を取り入れた授業運営を行う。スピーキングでは複雑な話題に基づく一分程度のスピーチに対して質疑応答を行ったり、ライティングでは論理的に内容を展開するパラグラフ・ライティングなどを行ったりするなど、より正確で洗練された英語表現を目指した演習形式の授業を行う。	
		英語理解発展4	本授業ではリスニングとリーディングを中心に、英語で発信された情報や考えなどを的確に理解し、それらに対する自らの考えや意見をより深める能力を伸ばすことを主眼とする。題材としては、主に特定の社会問題などを扱った読み物や新聞・雑誌記事などを複数用い、様々な角度から一つの事柄を理解し、その内容を自らの言葉でまとめられるような力を養う。読む方法としても「精読」だけに留まらず、必要な情報や考えをスピーディに探したすのに有効な「速読」などにも挑戦する。また、音読やディクテーション等に加え、内容に関する英語の質疑応答などを通じて、聴いている内容の展開やポイントを的確に押さえる能力の養成を目指す。更には、その内容に対する自分の意見を構築・発表し、授業内で英語での意見交換をする演習を行う。	
		英語表現発展4	本授業では、4技能(読解、聴解、会話、作文)を複合的に使いながら高度な英語運用能力の習得を目指す。一般的な話題だけではなく、社会問題など複雑な話題に基づいて自分の意見や考えを論理的に展開するスピーチやパラグラフ・ライティングを作成するだけでなく、相手の主張を要約したりそれに対して自分の意見を述べるなど、コミュニケーションを続ける技術の養成も目標とする。またあるトピックに基づいてリサーチを行い、それをまとめて発表するなどの演習も行う。	
		日本語表現法	日本語の特徴をふまえ、文章を読解し分析する能力、的確な表現による文章作成の能力を養うことを目的とする。文章には、情報伝達や記録報告などの客観的な文章と、自分の感情や思想を表出する主観的な文章とがあるが、読解や作文のためにはそれぞれの文章の特徴を理解する必要がある。また、言葉の意味、主述の関係などの文の構造、三段構成などの文章の構成といった基本的な知識や技術も習得させたい。様々な文章に触れながら、日本語の基礎力の養成を目指す。	
	情報リテラシー	数理・データサイエンス・AI入門	高度情報化が進む中で、社会生活や大学での調査・研究を進めるためには、学問領域を問わず、数理・データサイエンス・AIに関する基礎的な知識や活用能力が不可欠となっている。このため、情報・知識を複眼的かつ論理的に捉えることができる能力及び情報を防御し、適切に扱うためのセキュリティに関する知識の習得を基盤として、AIの仕組みや汎用性・活用事例、基本データによる統計処理、実際のデータを取得・活用する手法、得られた知見を伝達し共有する手法を身に付けさせる。	
		AI・プログラミング基礎演習	基礎的な数理・データサイエンス・AI入門の後続として、本科目では、AIの機械学習・深層学習を実際に演習することで、AIに対する理解を深め、専門分野での利活用を考察させる。また、プログラミングの基礎演習では、前提となる論理的思考の習得を基盤として、実際に各自でプログラムを作成し動作確認をしながら、プログラムの基本、プログラミング技法、計算機プログラミングの基本を身に付けさせ、専門教育でも応用的に活用できるようにする。	
	人間力養成	スポーツ科学	本科目は、他者とのグループワークとディスカッションを通じてスポーツの技術面や戦術面などにおける課題を見出し、いかにその課題を解決するかを考え、実践する能力の育成を目的とする。スポーツ活動では、積極的な言語的、非言語的コミュニケーションを必要とする場面が多く、さらに身体動作における感覚や技術理論など議論の対象となるテーマが豊富に含まれている。したがって、単に与えられた実技課題をこなすのではなく、さまざまなレベルの受講者が個人のレベルに応じた課題を共に克服し、かつ安全に楽しく取り組むために、受講者自身が積極的に授業参画することにより主体性、課題解決力、チームワーク(協調性)の獲得を目指す。	
	人間力養成	初年次教育	初年次教育は、高校教育から大学教育への円滑な移行と大学での学びの方法の習得や専門を学んでいくための動機づけを担う科目である。授業内容として、履修方法・図書館の利用方法・心と体の健康・高校と大学の学びの違い・レポートの書き方・愛校教育・安全と防災教育および専門科目への動機づけ等を行う。入学直後のガイダンスから学科オリエンテーションも利用し、早い段階で実施する。	
		キャリアデザイン1	大学あるいは大学院を卒業後、社会で活躍するためにはどのような能力を学生時代に身に付けておくべきか？大学での学習効果を向上させるための基本的な作法を習得した上で、自分の足りない部分を把握し、自分の目標を明確にするとともに、授業を通じて人とのコミュニケーション(話す能力・聴く能力・情報を収集して伝える能力)の楽しさを知ることにより、社会で必須となるコミュニケーション能力を高めつつ、目標を持って有意義な大学生活を送り、自らのキャリアデザインを描けるようになることを目的とする。	

教養科目	教養基礎科目	人間力養成	キャリアデザイン2	キャリアデザイン1で描いたキャリアデザインを意識しつつ、日本の社会構造および経済構造を学ぶとともに、企業が陥った過去の失敗例などを教訓にして、自分自身の将来と目標を再確認し、再度大学で何を成し遂げるかについて検討する。 また、企業が行っている経済活動や関連する法律について理解することで、目標を達成するために必要な基礎知識を得ることを目的とする。 さらに、本科目では、学生参加型で実施することにより、社会が求める要素の1つである主体性の獲得を目指す。	
			キャリアデザイン3	キャリアデザイン1・2で習得したキャリアデザインについて、振り返り、目標設定の進捗について、まずは検証を行う。検証した結果、目標の見直しが必要な学生については、要因等について、分析を行い、再設定をする。 また、進路について、学科毎に特性が偏る時期であることから、学科の分野を考慮した上で、卒業生に協力いただき、業界についての知識を深める(違いを知る)ことにより、学生が目指すキャリアデザインが達成するためのイメージを獲得することを目的とする。	
	教養共通科目	国際理解	異文化理解	本科目では、外国及び時空を異にする自国の文化、具体的には、その音楽、美術などの芸術、言語、思想、歴史、民族、社会、芸能、風俗、習慣等をいくつか取り上げ、先ず学生に紹介し、問題提起をし、意見を求め、自分の考えをまとめさせる。それから、それを自国の文化をも含めいろいろな文化と比較・検討し、必要ならば自分の考えを修正させる。そのことを通して、ものごとを多角的且つ客観的に見る、いわゆる複眼思考を養うと共に、結果として自国の文化を見つめ直し、より深く理解してもらう。	
			言語と文化1	本科目では、日常会話が自然と口から出てくることを目標に、日本語など他の言語との比較をも考慮しながら、英語以外の言語の基礎を発音から一つ一つ丁寧に学ぶ。また、その文化圏の人々の考え方を理解するために、積極的に人々の生活や文化、社会にも触れていく。以上のことを通して、多角的且つ客観的に日本及び日本文化を見つめ直し、理解を深めると同時に、日本が国際社会においてどのように見られ、評価されているのか、我が国の国際社会における立ち位置を確認したい。	
			言語と文化2	本科目は、「言語と文化1」の続編をなすもので、さらに「言語と文化1」で学んだ外国語及び文化・社会についての理解を深めて行くことを目的とする。語学一辺倒ではなく、その地域の文化・歴史・社会等をさまざまな角度からとりあげる。その際、文学や音楽等の文化的側面及び日本とその国との歴史的つながりばかりではなく、最近の日本をとりまく国際情勢や社会情勢などにも積極的に触れていきたい。以上の学習をとおして、ものごとをいろいろな角度・立場から眺め直す「複眼」を身に付けさせたい。	
			グローバル時代の法	そもそも法とは何であり、現代のグローバル社会において法の存在はいかなる意味を有しているのか。法というものの定義から始まり、法全体にわたる基本的な知識を習得することがこの授業の目的である。まずは法の概念や法の分類といった一般的な問題について検討した上で、財産と家族について定める民事法と、犯罪と刑罰について定める刑事法について学習し、さらに、グローバル時代においてますます重要性を増す国際法についても学習する。	
			国際社会論	国際社会の中に生きる人間として必要な知識と思考力を養うため、世界の政治経済、言語、文化、歴史、人の移動、環境や食糧問題、平和に関する問題などについて多角的に学んでいく。その際単に個別の知識を並列的に得るだけではなく、それぞれのテーマを関連づけて理解することで、国際社会の現状に対する包括的な認識を獲得することを目指す。そして将来においても、世界の中で日々生まれてくる諸問題に対し自ら学び、積極的に取り組む態度を身につけることが目標である。	
	人間・社会・自然の理解		哲学	哲学を学ぶことを通じて、人間とは何か、また人間は世界といかに関わっているかという事柄について考え理解するための観点や思考方法を身につけることを目的とする。これまで展開されてきた哲学史の中でなされてきた議論の要点を参考にしながら、人間と世界のあり方を考察するための様々な問題設定の方法や論理的な思考方法を学ぶ。その上で、知識、行為、価値、存在、自由、自我、他者といった事象をめぐる諸問題について理解し、それについて自ら考える力を養い、さらに新たな問題を発見する態度を身につけることを目標とする。	
			倫理学	「倫理学」では、現代文明が直面する倫理的問題のなかでもいわゆる「応用倫理」と呼ばれるものをとりあげる。まずそれらが現代の科学技術によってつくりだされていることを確認したうえで、問題を解決しつつ問題発生を防止するためには、われわれ人間はこうした科学技術をいかに管理してゆくか、また、そのときに技術者の役割と責任はどのように考えるべきか、13回の講義をとおして事例などを紹介しつつ、考える力を養成することを狙いとする。	

教養科目	人間・社会・自然の理解	文学と芸術	文学作品や芸術作品の鑑賞や批評を通じて、人間への洞察を深め、ものの見方、感じ方、考え方を広げることを目的とする。また、それぞれの作品が生み出された時代や社会の背景を理解する。人間の感情および思想の表象原理、作品の主題、その歴史的社会的意義を明らかにしながら、人生の目的や価値について考え、よりよく生きることの意味を探り、豊かな感受性を育む。さらに作品受容に関して、批評とはどのようなことかを検討し、批評主体の確立についても考察を深めたい。	
		歴史と人間	過去から現在に至る人類の歩みについて、政治・経済・社会・宗教といった幅広い観点から理解するための基本的な視座を提供する。日本史や世界史の基礎的な知識をあたえるだけでなく、それぞれの地域の歴史がもつ独自性と世界史的な普遍性の両面に光をあてることで、過去の事象を世界規模の時系列的な因果関係のなかに位置づける能力を養う。他日、国際社会に出た学生が、独善に陥ることなく自国の置かれた立場を理解し、客観的に自らの立脚点を説明することに耐えられる資質を育てる。	
		心理学	本講義では、心のメカニズムについて科学的手法により解明された知見とその応用を解説する。具体的には、人の認知・思考、感情、行動のそれぞれの特徴、関連の仕方、発達の変容に関する理論を取り扱う。さらに、そういった心理学の知見や理論が社会の様々な場面で活用されていることを紹介し、グループワーク等も実施する。本講義のねらいは、学生が自分自身や他者に対する理解をより一層深めること、心理学の知識を生活に応用し役立てることができるようになることである。	
		身体と健康の科学	本科目は、単にヒトの「身体」や「健康」についての知識を獲得するのではなく、専門分野の枠を超えて人文科学、社会科学、自然科学などの様々な学問分野との関連を踏まえながら共通に求められる知識や思考法の獲得を目指す。特に、超少子高齢社会に突入した我が国では、人々が健康で豊かに過ごす時間を延伸することは非常に重要な課題となっている。それと同時に、ヒトの「身体」や「健康」とは何かについて考え直す時期にも来ている。社会構造の急激な変化や科学技術の進展に伴う人間の価値観の多様性を踏まえながら、「身体」や「健康」について考察する。	
		憲法と社会	そもそも憲法とは何であり、人間社会にとって憲法の実在はいかなる意味を有しているのか。憲法というものの定義から始まり、憲法全体にわたる基本的な知識を習得することがこの授業の目的である。古今東西の様々な憲法に共通する憲法の基本原理を学んだ上で、とくに日本国憲法についての理解を深める。日本国憲法は統治機構と権利章典という大きく二つの部分から構成されているが、この両者についてできるだけ正確な知識を身に付けることをめざす。	
		政治と社会	そもそも政治とは何であり、人間社会にとって政治というものの存在はいかなる意味を有しているのか。政治というものの定義から始まり、政治全体にわたる基本的な知識を習得することがこの授業の目的である。まずは政治の中心となる権力の概念や様々な政治思想について学んだ上で、とくに国家的な政治現象に焦点を合わせ、具体的な事例を取り上げつつ、地方自治を含む国内政治と、近年ますます重要性を増す国際政治をめぐる諸問題について考察する。	
		経済学	当科目では、ミクロ経済学およびマクロ経済学の基本的な考え方や分析手法を習得するとともに、現代経済の各場面にそれらを応用し、経済学的に思考することや、それを通して社会を考察することの意義に気づくことができるようにする。価格機構／市場原理の理論やその社会的意味などを多面的に考察したのち、経済主体、金融、財政、社会保障などの分野に言及する。授業では、教員による講義のほか、演習問題などを通じて簡単な理論や数式を用いた分析を受講生自身に取り組ませる。	
		現代社会論	現代の日本社会、及び国際社会における諸問題について具体的に考察をしながら、現代社会のありかたについて認識を深めていくことを目的とする。とりわけ、労働問題、教育・青少年問題、国際的な公害・環境問題、戦争と平和をめぐる問題、家族や子育ての問題、福祉や社会保障の問題、情報環境の変化をめぐる問題等をとりあげながら、考察を深めていく。そして、授業を通じて、現代社会に生きる市民として、幅広い視野とグローバルな視点をもって自ら主体的に考え、行動することができる教養・態度・能力を身に付けることを目標とする。	
		科学技術史	本科目では、科学と技術の展開をそれらの相互関係を含めて歴史的に検討することを目的とする。科学の歴史としては、ニュートン力学を中心とした近代科学の成立過程を含めて、当時の自然哲学者・科学者たちが対峙した困難を当時の文脈から検討し、それらの科学的意義を理解していく。技術の歴史としては、イギリス産業革命における綿工業の展開や蒸気機関の発展などを理解するとともに、19世紀以降の科学と技術の接近とそれらの共進化的展開および社会との関係なども分析する。	
		環境科学概論	本講義は、科学技術の進歩に伴う地球規模での環境変化を事例に挙げ、広範で複雑な環境問題の現状を、物質を中心とした視点から把握すると同時に、科学的解決法の糸口を探ることを目的とする。特に温暖化、オゾンホール、酸性雨、生物多様性の喪失、食糧、砂漠化、原子力、廃棄物等の事例について詳細に解説し、これらの問題を解決するために開発された新技術や新素材による将来像を展望して、材料科学の観点からも環境科学を学ぶ。また、未来へと繋ぐ環境の姿を考察し、現代に生きる人間としての規範も考える。	

教養共通科目	人間・社会・自然の理解	生命科学	本講義では、生命の神秘、多様性、遺伝子支配の重要性についての理解を深め、人類が直面する資源、環境、エネルギー問題へと関心を高めさせることを目的とし、まず生物の生命の基本となる、細胞の理解に始まり、その構造と機能、細胞を構成する物質の理解、細胞の増殖・分化・老化・代謝（解糖系・呼吸・光合成・窒素同化）、細胞間相互作用等について学ぶ。さらに、多細胞生物に特有な発生・形態形成のメカニズムに触れ、遺伝子の本体、伴性遺伝、欠失、突然変異などの遺伝現象を理解する。	
		地球科学	人間の生活環境としての「地球」の創生と構造、進化をテーマとする地球科学の講義を行う。地球全体の歴史と関連させながら、地球や地球で生じている諸現象についての基礎知識を与える。また、人間活動と資源・エネルギー、地球環境の関係の調和を保ちながら、社会の持続的発展を考える契機を与えることを目標とする。講義で取りあげる主な項目は、地球の形状、地球の活動と歴史、プレートの運動、地層の形成と地質構造、地球の熱収支、大気と海水の運動、地球環境の変遷などである。	
		物理の世界と先端技術	現代の自然像の形成に大きな役割を果たしてきた種々の物理的視点について講義し、それらの視点に基づいて、物理の世界をより深く理解することを目指す。また、このような物理的視点が先端科学・技術にどの様に結びつき、人々の生活への影響を通して社会と如何に関わっているかについて、自発的に考える力を身につける。講義で取りあげる主な項目として、力と運動の関係を基礎とする力学的自然観、熱現象とエネルギー・エントロピー概念、電磁気現象と「場」の考え方、現代の物理的世界観（時間・空間と相対性、物質・光に対する粒子・波の二重性と量子論など）が挙げられる。	
		物質科学	本科目は、現代人の常識として必要な化学の基礎知識を習得し、化学の根底にある考え方を理解して、物質を科学的に見ることができる正しい見識を涵養することを目的とする。物質の分類と基本構造、化学結合と物質の性質、化学量論と化学反応の基礎等を教授し、様々な物質が満ちあふれている現代社会において物質を科学的にとらえて論理的に思考できる基礎を与える。また、身近な物質、材料開発の最前線などの話題を取り上げて、化学のおもしろさ、現代化学の自然観・物質観が理解できるように配慮する。	
		課題探究セミナー	本科目では、少人数制による主体的な学び、受講者同士の積極的な討論、グループワークなど、受講者自らの思考を促す能動的な学習方法であるアクティブラーニング形式により授業を展開する。具体的には、国際問題、日本文化・歴史、社会、人間、芸術、環境、健康、生活などのテーマや課題を選定し、それについて様々な学問分野の知識を活用しながら、総合的な判断力や解決力を育成する。また、個人やグループの考えをまとめ、文章や図表等を用いて論理的にかつ適切にプレゼンテーションする基本的な能力の獲得を目指す。	
		総合学際科目	本科目では、教員からの一方的な教授形態ではなく、幅広い応用的な知識・理解を深める講義と受講者同士の討論や発表などの演習を融合した受講者参画型の能動的な授業を展開する。このような授業形態を通じて、各学問分野の知識・理解を受講者自らが融合・発展させながら、国際問題、日本文化・歴史、社会、人間、芸術、環境、健康、生活などのテーマや課題について新たな視点や角度から捉え直すことにより総合的な判断力や理解力を身につける。また、個人やグループの考えを論理的にかつ適切に伝達する能力を習得する。	
	教養特別科目	イングリッシュアクティブラーニング1	本授業では英語を単なる知識としてではなく積極的に運用する能力の養成を目指す。特にライティング能力を向上させることを目指した授業運営を行う。ある話題に基づいてリサーチを行い、A4で3枚程度（1500-2000語）のエッセイを完成させる。正確な英語表現だけでなく、パラグラフ内またはエッセイ全体で概念や意見を論理的に展開させる方法の習得を目指した作文練習や、教師または学生同士による添削を通じて、洗練された文章への感覚を養うことも目標とする。	
		イングリッシュアクティブラーニング2	本授業では英語を単なる知識としてではなく積極的に運用する能力の養成を目指す。特にプレゼンテーション・スタイルの授業運営を行う。ある話題に基づいてリサーチを行い、グループ内でのディスカッションを通じて内容を決め、最終的にグループごとに英語で5分程度のプレゼンテーションを行う。正確な英語表現のための演習に加えて、効果的なプレゼンテーションを行うための表現法（アイ・コンタクトやボディ・ランゲージ）の練習も行う。こうしたグループ内での共同作業を通じて積極的にコミュニケーションを図ろうとする能力の養成も目指す。	
		イングリッシュアクティブラーニング3	本授業ではブリティッシュ・ヒルズ（福島県白河）を利用した冬季集中講義に参加し、英語を単なる知識としてではなく、積極的に運用する能力の養成を目指す。	集中
		日本語アクティブラーニング	本授業では、日本語を上級者として運用する能力の育成を目指す。特に日本語による学術論文や技術分野等のライティング能力を向上させること及びそれらをわかりやすく伝達する表現の手法を、グループ演習等を通じて身につけさせる。	
		スポーツアクティブラーニング	本科目は、スポーツ実践ならびにスポーツの様々な局面を題材としたグループワークとディスカッションを中心に授業を展開し、課題解決力、状況把握力、ストレスマネジメント力、リーダーシップ、チームワーク（協調性）を發展的に育成することを目的とする。特に、授業内では短期間の宿泊学習プログラムや他大学との連携プログラムなどを実施することにより、より高いレベルでのスポーツ活動を実践することで授業の目的を達成すると同時に、スポーツならびにその価値を幅広い視点から客観的にとらえ、多角的に物事を考え、実行する力の獲得を目指す。	集中

教養科目	教養特別科目	ソーシャルアクティブラーニング	個々の学科の専門的な学問体系を基礎とし地域、社会活動を体験することによって、学んできた知識を実際の体験から学問的な再確認をし、社会で活用できる知識とする。さらに、新たな視野を得るとともに、自らの社会的役割の認識をし、必要な資質や能力の向上を図る。自治体や地域社会との連携を重視し、より実践的な体験や問題に取り組むことにより調査、体験を主体とした活動の中から、自己の能力向上を図る。	
		国際インターン	本科目では、学生が夏休み等を利用し海外の企業等で2週間程度の期間就業体験を行い、世界で活躍する高度専門技術者として求められる専門知識やコミュニケーション能力を養うことを目的とする。具体的には、本学の海外交流協定校の協力を得ながら、海外に進出した日本企業や現地の大学、優良企業等でインターンシップを行う。本科目は受講資格として語学力による一定の制限を設ける。また、渡航前の指導として海外での生活や現地文化に関する講習を行い、学生からの海外就業体験報告書、面談等により科目成績評価を行う。本科目の運営及び成績評価は国際交流委員会が行う。	
		国内インターン	社会との差を実感することにより、技術者としての目標を明確にすることを目的とする。体験先は、本学の取り組みや学生気質を理解している産官学連携協議会の加盟企業や求人进行をいただいている企業で行うことにより、目的の達成を目指す。 なお、事前指導については、目的を持って臨むためのワークやマナーについても行う。また、事後指導では、今後の目標を明確にするだけでなく、発表等を行うことで、学生間での情報共有を行い、社会で必要となる資質を理解すると共に、異なる業種・職種について理解をすることで、社会への理解も深める。	
		ボランティア	本科目は、社会の一員としての意識を持ち、社会の発展のために積極的に関与できる態度を養うことによる人間力を高めることを目的とする。 具体的には、事前指導により社会貢献の意義と役割について理解させ、ボランティア活動の現状と課題について認識したうえで、実際のボランティア活動を通して、体験的に学習し、ボランティア活動に対する理解を深めるとともに、社会貢献とボランティア活動との関連について学習することにより、地域貢献への参画意識を高める。	
		キャリアアップラーニング	本科目は、大学で培った幅広い知識、専門的な知識や技術を社会で発展的に活用するために、大学の指定する外部資格を受検してその取得を目指すための継続的な学習指導を行う。特に工科系大学の学生として有益な、高度情報化社会で働くことを前提とした「ITパスポート」や、技術の応用や新技術の実装を前提とした「知的財産技能検定」などの資格取得を目指す。	
		総合科学特論	本科目では、教養共通科目で扱った内容を発展させ、現代科学の幅広い分野の理解を深める講義と受講者間の討論や発表などの受講者参画型の授業を展開する。このような授業形態を通じて、各学問分野の知識を受講者自らが融合・発展させながら、現代社会が抱える諸問題について新たな視点から捉え直すことにより総合的な判断力や理解力を身につける。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	専門基礎科目	情報工学概論	本講義では、情報の発生、伝達、収集、蓄積、処理といった情報工学における要素技術について、歴史的な経緯を踏まえて理解させる。これら要素技術は、計算機や情報通信網の普及に伴い、すでに社会や生活を支える公共的な基盤となっているが、その進歩は留まることを知らず、医療や交通、経営、芸術、金融、政治など対象領域を広げ、人間の知的活動や社会構造を変革し続けている。これら技術を俯瞰し、体系的に学ぶことで、本分野における問題発見能力を養い、個別的に掘り下げて学習する各講義との接続を行う。	
		電気回路	本講義は、電気回路を初めて学ぶ学生も無理なく理解できるよう、基礎として電気回路素子である抵抗、コイルおよびコンデンサーの特性を理解し、定常電源に接続された抵抗回路の電圧、電流を求める手法を学ぶ。次に、それらの素子が交流電源に接続されたときの電圧、電流の求め方を説明し、フェーザを用いてそれらの位相差について理解する。被測定回路として実測抵抗を計算する実際の回路を組むなどして、電圧の読みや電流の読みから測定抵抗値を算出し、最小二乗法による尤もらしい測定値など、統計処理によるデータの整理などを使って報告書にまとめることを経験する。	
		数学基礎	本講義は、初等関数と微分積分の基本的な知識を学ぶ。まず、各種の初等関数について、値の計算や、三角関数の加法定理、指数・対数法則等の基本的性質について講義する。また、微分係数、導関数の定義、初等関数の微分公式を詳述し、和・差・定数倍、積、商、合成関数の微分の計算を行うことで計算力の習得を目指す。さらに、不定積分について、初等関数の積分公式、置換積分法、部分積分法を詳述するとともに、定積分の基本的な計算にも触れる。	
		微分積分	本講義は、数学基礎から更に進んだ内容の微分積分を学ぶ。講義の前半では、微分の応用として、関数の近似の一つであるテイラー近似について述べ、これを用いて関数の極値や変曲点を調べる。また、偏微分の定義、計算についても述べる。後半では、まず定積分の意味について述べる。力学や電磁気学に現れる物理量や法則の多くが積分により記述されるが、これらを学ぶ際に必要となる積分の知識を講義する。さらに、重積分についても述べる。	
		確率統計	本講義は、各種の実験、材料試験、機械の制御、生産工程等において、ばらつきなどを調査したデータの処理・分析するために、確率に重点をおいて、確率の基礎的な考え方や法則を学ぶ。さらに、確率分布の概念や、典型的な分布についても学ぶ。具体的には、基本的な確率計算や確率の加法定理、条件つき確率、乗法定理、ベイズの定理、離散型確率変数と確率分布、期待値と分散、離散型確率分布、連続型確率変数と確率密度、正規分布における確率計算、母集団と標本、標本平均の分布と母平均の推定について講義する。	
		線形代数基礎	本講義は、行列の演算からはじめ、行列による連立1次方程式の解法、行列式の計算を通して、線形代数に関するエンジニアとしての最低限の知識を学ぶ。前半では、ベクトルの1次独立性・1次従属性、ベクトル空間の基底と次元を論じ、ベクトルの内積とその応用、線形写像について説明する。後半では、固有値・固有ベクトルの概念と、行列の対角化とその計算手順について理解させ、対角化の応用についても触れる。また、例と演習を通じて、1次独立性の判定をはじめとする各種の計算を行う。	
		線形代数応用	本講義は、線形代数基礎で身につけた計算技法を土台として、更に進んだ内容の線形代数を学ぶ。講義の前半では、ベクトルの1次独立性・1次従属性、ベクトル空間の基底と次元について論じ、ベクトルの内積とその応用、線形写像について説明する。後半では、固有値・固有ベクトルの概念と、行列の対角化とその計算手順について説明する。さらに対角化の応用についても触れる。また、例と演習を通じて、1次独立性の判定をはじめとする各種の計算を行う。	
		微分方程式	本講義は、工学、自然科学の分野にあらわれる様々な現象を数学的に定式化した場合に表現される微分方程式の具体的な例の学習から始め、1階常微分方程式の古典的解法に習熟し、さらに2階定数係数線形常微分方程式の解法について学ぶ。このために、変数分離微分方程式の解法、定数係数1階線形微分方程式の未定係数法による解法、変数係数1階線形微分方程式の解の公式、定数係数2階線形微分方程式の解法について講義を行い、さまざまな微分方程式の計算ができるようにする。	
		離散数学	本講義は、集合論、写像、命題論理、述語論理等の概念、記号、重要な定理等の基礎など離散数学の基礎的な概念を学ぶ。このために、集合に関する基本事項である記号や操作およびド・モルガンの法則、直積集合関係とそのグラフ写像の定義と応用、グラフに関する基本事項・用語、頂点の次数および次数の和についての性質、オイラーグラフ、隣接行列とその性質、有向グラフの基本的性質、隣接行列、強連結性、平面的グラフ、完全グラフ、完全2部グラフについて紹介する。	
		線形代数特論	本講義は、代数学における基本的な概念と代数的構造、特に線形代数学における抽象的ベクトル空間の理論を通して代数的構造について理解し、抽象的・数学的な証明の技法について学ぶ。具体的には、空間ベクトルの性質と内積外積、空間内の直線と平面の方程式、抽象ベクトル空間の定義および例とベクトルの一次独立性、部分空間の定義および例、ベクトル空間の基底と次元、写像の定義と例および全射単射、核と像および次元公式、同型写像および取り換え行列について紹介する。	
		応用解析	本講義は、電気回路、自動制御理論などに現われるラプラス変換およびその逆変換を用いて定数係数線形常微分方程式を解くためのラプラス変換や弦の振動や、熱伝導を表す偏微分方程式の解析などに必要なフーリエ級数展開を用いて偏微分方程式の境界値問題を解くフーリエ級数について学ぶ。このために、ラプラス変換の種々の基本法則、ラプラス逆変換、および常微分方程式への応用、フーリエ級数の定義と例、その応用について紹介する。	

専 門 基 礎 科 目	専 門 基 礎 科 目	統計解析	本講義は、自然・社会科学をはじめとする広汎な分野でますます重要になっているデータの統計的分析方法の基礎知識と、実験や測定で得られたサンプルを適切に分析・評価する能力、特に限られたサンプルによる母集団の一般的特性の推定や、サンプル群の差に対する科学的判断を行う方法について学ぶ。主な内容は、度数分布、代表値、分散、相関分析、回帰分析、確率分布、推定、仮説検定、分散分析を取りあげ、記述および推測統計学の基礎概念を理解し自身で問題を解決できる能力を養う。	
		初等整数論	本講義は、代数学における基本的な概念と代数的構造、特に整数の基本性質を理解および証明について、群の基本的な構造を理解し簡単な性質を証明する方法について学ぶ。具体的には、公約数と公倍数の定義と計算、ユークリッドの互除法、一次不定方程式の解法、多項式の中での公約式・公倍数・互除法・不定方程式、素因数分解の一意性とその意義とその応用、剰余類の概念および整数問題の解法、合同式の計算および合同式における逆数、群の定義と例および置換群、合同式の計算の群論的解釈、部分群と剰余分解および暗号理論への応用について紹介する。	
	専 門 科 目	プログラミング言語	本講義では、プログラミング言語の歴史・体系・動作原理・構文について理解させる。歴史についてはコンピュータ史と対応させながら、時代ごとに求められた言語体系とその発生過程について学習する。また、深い理解のためにプログラム言語の動作原理を、コンピュータの構造や構文と対応させて学習する。具体的にはコンパイラ、インタープリタと言った実行方法の違いや、手続き型・関数型・オブジェクト指向などと言ったプログラムパラダイムの違いを学ぶ。その上で、プログラム開発を通じて開発ツールについても学習する。	
		論理回路	本講義では、計算機の構成要素として欠くことができない論理回路の知識に加え、論理回路を設計するための基本的知識を理解する。論理演算の種類や演算方法、論理演算に関する諸定理および、真理値表について学び、論理式を単純化する方法について学ぶ。次に、半加算回路、全加算回路を例に、組み合わせ論理回路の設計方法について学ぶ。次に、カウンタ回路を例に、JKフリップフロップを使った順序論理回路の設計方法について学ぶ。	
		フィジカルコンピューティング	本講義では、センサやアクチュエータ等のハードウェアと、それらを駆動・制御するソフトウェアの双方について学び、アイデアをシステムとして具現化する方法を理解させる。ハードウェアとソフトウェアの協調動作を実現するためにはそれぞれの原理や活用方法に関する理解が不可欠である。ハードウェアに関する理解を深めるため、センサや表示装置等の入出力デバイスの動作原理や扱い方について学ぶ。また、ソフトウェアに関する理解を深めるため、シングルボードコンピュータを用いたプログラミング方法を学ぶ。さらに、両者を組み合わせたシステムのプロトタイピング方法について学ぶ。	
		技術文章作成	本講義は、技術文書における手法とルールを学び・訓練することで、自分の調べた内容・考えたことがらを読者に正確に伝える技術を習得させる。技術文書は著者の主張とそれを支える複数の理由によって構成される文章であり、実験科目での報告書や卒業研究における論文の作成に不可欠な知識である。具体的には、論理を構築するために必要となる演繹法と帰納法、さらにそれらの論理展開を文章で記述するための文脈の構築、パラグラフライティング、図表の作成の仕方について学ぶ。	
		アイデアソン	本講義では、問題発見のためのアイデアの出し方・解決法を検証/洗練させるための考察方法・アイデアを伝えるための文章化とプレゼンテーション技術について理解させる。具体的には、仮説の立案に必要なブレインストーミングや論理的思考法、考察の展開の技術、複数のメンバーでアイデアを議論する技術について学ぶ。また複数のアイデアソンのコンテンツを利用した実習を通じて、アイデア出しから報告書作成・プレゼンテーションを実施する。さらに、社会で活躍している現役のエンジニアや起業家などに作成したアイデアソンの成果物の講評をもらう。アイデアソンのコンテンツには、社会の問題解決のアイデアを立案するものと、オープンデータを利用した解析が必要となるコンテンツが用意される。	共同
		Webプログラミング	本講義では、Webサービスを構築するために必要となるプロトコルと、WebサーバとDBMSを連携させてデータの管理・蓄積を行うための概念と、Webクライアントサイドに必要なプログラミング手法を理解させる。具体的には、HTTP1.1に基づいた通信の詳細や、暗号化通信・リアルタイム通信・クライアントサイドレンダリングの実践などを通じて、Webの動作を体系的に学ぶ。加えて、Web技術を基にしたアプリケーション構築手法についても学習する。	
		データサイエンス	本講義は、データ収集からデータ分析と結果の可視化までのデータサイエンスの基礎概念を理解させる。具体的には、まずセンシングを中心としたデータの収集とデータ整形について学び、次に回帰分析や種々の検定を含む基本的な統計分析や分類やクラスタリングといった機械学習の手法について扱う。さらに分析対象となるデータや効果的な分析結果の可視化の方法について学ぶ。講義では、手法について学ぶだけでなく、実際のデータセットに対して、プログラミング言語を用いた分析を行うことで、後続する実験系科目にも耐え得るデータ分析の実践的スキルを身につける。	
		データ通信	本講義は、小型コンピュータボードにおけるデータのやりとり、有線LANやWiFi、Bluetoothによるデータ通信の仕組み、TCP/IPを始めとした代表的な通信プロトコルを理解させる。小型コンピュータボードはCPU・メモリ等から外部インターフェースまでコンピュータに必要な機能を実装した基板であり、そのインターフェースとして、Gigabit Ethernet、IEEE 802.11b/g/n、Bluetooth+EDR、USB、microSDカードスロット、HDMI、音声入出力、汎用入出力ポート(GPIO)を備える。航空機や自動車、テレビや洗濯機、スマートフォン、おもちゃなど、コンピュータ機器に限らず、さまざまな機器にマイクロコンピュータが組み込まれており、その基本となるデータの入力から出力まで小型コンピュータにおけるデータ通信を通じて学ぶ。	
		メディア処理	本講義では、ある事物や現象などから人が理解できる情報を表現し、人へ伝達する際に用いられるメディアを、コンピュータで扱うための方法を学ぶ。メディアを代表する主な要素である音・音声・テキストを処理(情報の表現・抽出・加工)するための基礎理論として、フーリエ級数を利用した加算合成やフーリエ変換を利用した音声の分析方法を学ぶ。また、基礎的なテキスト処理として形態素解析・構文解析について学ぶ。さらに、実践的な応用処理技術として音声認識について学ぶ。本講義は、主に講義形式で授業を展開するが、音を合成する・音声を分析する・テキストを処理するなどの演習を適宜行うことで、メディア処理技術に対する理解を深めていく。	

専 門 基 幹 目 科 目	専 門 基 幹 目 科 目	グラフィックス	本講義では、コンピュータによる画像生成技術であるCGと、カメラ等で取得した画像から情報を取得する画像処理について、それらの理論と手法について理解させる。具体的には、画像データ基本的な処理方法、CGにおけるモデリング・レンダリング・アニメーションの各手法、画像処理における階調変換・空間フィルタ・特徴抽出・パターンマッチングについて学ぶ。とくに理論だけでなく接続するハッカソン1・2において活用できるように具体的なツールやプログラミングを使う演習も行う。	
		アジャイルワーク1	本講義では、情報工学分野における様々な要望を具現化し課題を解決する方法を理解させる。情報工学分野における課題解決には、ハードウェアとそれを駆動・制御するソフトウェアによって実現されることを学び、ソフトウェア・ハードウェアに関する双方の原理や活用方法の理解が不可欠な開発、実験、評価について実習形式で一人または二人で取り組む。ソフトウェアに関するものは、科学技術計算のためのプログラミング手法や実用的なアプリケーションの開発方法について学ぶ。ハードウェアに関する内容は、シングルボードコンピュータなどを用いて実環境から情報を取得し、活用する方法について学ぶ。さらに、開発システムが目的とした機能・性能の面で客観的に検証し、第三者にわかりやすく記載した報告書の作成を通じて、各人が取り組んだ内容についての理解の徹底を図る。	共同
		システム理論	本講義では、アナログ信号の入力と出力の関係に着目した線形時不変システムの伝達関数の導出方法と安定性の解析について理解させる。まず、アナログ信号、サンプリング値信号、デジタル信号など、連続信号と不連続信号の分類を行うことで取り扱う信号の種類について理解させる。また、伝達関数はインパルス応答のラプラス変換により表現されることを学ぶ。さらに、ラプラス変換を学ぶにあたりフーリエ級数、フーリエ変換などの工学の基礎知識についても学ぶ。また、離散フーリエ変換やZ変換などの離散信号の取り扱いについては、紹介に留めることで次に受講するデジタル信号処理との円滑な講義間の接続を行う。	
		ソフトウェア工学	本講義では、一定以上の規模のソフトウェア開発で必要となる開発プロセス、アジャイル開発、要求の仕様化、仕様の定義、開発におけるバージョン管理、ソフトウェアの検証と妥当性の確認、プロジェクトと品質のマネジメントについて理解させる。本講義により、「プログラミング言語」、「アジャイルワーク1」「ハッカソン1」で身につけた基本的なソフトウェア開発の技術に基づき、後続の「アジャイルワーク2」「ハッカソン2」で不可欠な実践的なソフトウェア開発とさらに複数のメンバーとのチーム開発に向けた技術の獲得を目指す。	
		ビジュアル情報処理	本講義では、主要な情報メディアである画像情報について、コンピュータで画像を取り扱うための基本的な方法および理論と要素技術について学ぶ。特に、デジタル画像の構成、空間フィルタリング技術、画像の周波数表現および周波数フィルタリング処理技術について、実際に処理プログラムを画像に適用して、その効果を確認することで、動作原理に対する理解を深める。また、画像中の特定のパターンを検出する手法や動画の物体の動きを検出する方法について学び、実際に処理プログラムを動画画像に適用して、その効果を確認することでビジュアル情報処理技術の動作原理について理解を深める。	
		クラウドコンピューティング	本講義では、インターネット上で提供されている様々なサービスと連携してアプリケーションを開発する技術とその手法を理解させる。SaaS、PaaS、IaaSなどのクラウドサービスモデルや特徴などの概要を学び、パブリックデータベースやWebAPIなどの具体的なサービスを通じて、ネットワークプログラミングの理論と手法を習得する。また、ハッカソン2において、実践的にシステムを構築するために、クラウド特有のリソース管理やデプロイメント手法、認証やセキュリティに関する対策手法について演習も行う。	
		ハッカソン1	本講義では、社会や生活(暮らし)などの様々な課題に対し情報工学の技術を駆使し、チームで解決する方法を理解させる。課題となる一つのテーマに集中的に取り組む、プロジェクトチームの立ち上げから解決策となるアイデアの立案、要件定義、設計、実装、評価、報告書の作成、プレゼンテーション、アジャイル型開発・ウォーターフォール型開発などの開発プロセスの選択まで一貫して行う。これまでに学習してきた要素技術を横断的に使用することで、現代の複雑化する実問題に対応できる応用力を養う。また、ハッカソン2と連携して講義を進めることで、与えられた開発目標を達成するために、上級生を含めたプロジェクトメンバーと円滑かつ効率的にコミュニケーションを取りながら、その問題を解決する具体的な手段を計画・実装・評価する能力を身につける。	共同
		デジタル信号処理	本講義では、身の回りの音や情報通信機器の中を流れる信号の扱いについて学ぶ。まず、アナログ信号とデジタル信号の違いを理解し、デジタル信号の特徴を理解する。次に、信号を周波数領域で表現することの意義を理解し、フーリエ変換によるスペクトル解析手法を学ぶ。さらに、線形システムにおける信号の取り扱いとして、インパルス応答やたたみ込み演算について理解するとともに、デジタルフィルタの設計法について学ぶ。	
		クリティカルエンジニアリング	本講義では、物事を論理的に正しい道筋で考えられているかを吟味するためのクリティカル・シンキング(批判的思考)に基づき、研究開発を行うための方法論について理解させる。クリティカル・シンキングは、情報を的確に読み取り、それについて批判的に吟味し、自らの主張を明確に述べるという能力や態度のことを指し、過去の成功例が通用せず、正解のない問いへの課題解決に有効な方法の一つである。これらの方法論を体系的に学ぶことで、エンジニアとして新たな技術や社会課題に対応できる能力を養う。	
		アジャイルワーク2	本講義では、情報工学分野における様々な要望を具現化し課題を解決する方法を理解させる。情報工学分野における課題解決には、ハードウェアとそれを駆動・制御するソフトウェアによって実現されることを学び、ソフトウェア・ハードウェアに関する双方の原理や活用方法の理解が不可欠な開発、実験、評価について実習形式で一人または二人で取り組む。ソフトウェアに関するものは、科学技術計算のためのプログラミング手法や実用的なアプリケーションの開発方法について学ぶ。ハードウェアに関する内容は、シングルボードコンピュータなどを用いて実環境から情報を取得し、活用する方法について学ぶ。アジャイルワーク1と連携して講義を進めることで、プロジェクトメンバーの下級生を牽引する能力やプロジェクト全体を管理する能力など、リーダーとして必要な能力についても実技を通して学ぶ。	共同
		ハッカソン2	本講義では、社会や生活(暮らし)などの様々な課題に対し情報工学の技術を駆使し、チームで解決する方法を理解させる。課題となる一つのテーマに集中的に取り組む、プロジェクトチームの立ち上げから解決策となるアイデアの立案、要件定義、設計、実装、評価、報告書の作成、プレゼンテーション、アジャイル型開発・ウォーターフォール型開発などの開発プロセスの選択まで一貫して行う。これまでに学習してきた要素技術を横断的に使用することで、現代の複雑化する実問題に対応できる応用力を養う。また、ハッカソン1と連携して講義を進めることで、プロジェクトメンバーの下級生を牽引する能力やプロジェクト全体を管理する能力など、リーダーとして必要な能力についても実技を通して学ぶ。	共同

専 門 展 開 科 目	専 門 展 開 科 目	数理モデリング	本講義では、様々な現象を微分方程式で記述する数理解モデリングとコンピュータを用いた微分方程式の解法について理解させる。人口問題としてマルサスモデルやロジスティック方程式、捕食者・被捕食者の関係としてロカ・ボルデラ方程式、感染症としてSIRモデルなどの常微分方程式の初期値問題による数理解モデリングを学ぶ。また、逆にロジスティック方程式がインターネット上の噂の拡散を表すなど、作成した数理解モデルが別の現象も記述していることも学ぶことで、応用範囲の広さも理解させる。さらに、常微分方程式の初期値問題のコンピュータによる解法として、前進オイラー法や後退オイラー法、ルンゲ・クッタ法についても学ぶ。なお、後退オイラー法で使用する連立一次方程式の数値解法を含むニュートン法は、数値解析の応用例としてライブラリを使用する程度に留め、次に受講する数値解析への円滑な接続を図る。	
		感性情報処理	本講義では、人が事物や事象に対して感じる感性を定量化する方法と、定量化された感性情報を処理して、物理的に計測可能な情報との関連性を分析する手法について学ぶ。感性とは、「かわい」や「かっこいい」などモノやヒト、システムなどに対して人間が非意識的に評価しているプロセスを指す。また、人間が感性的評価に至るまでのプロセスである知覚処理過程および認知処理過程について学び、物理的刺激と人の感覚との差についても理解する。講義内では、実際に感性評価を実施し、取得した感性評価データをプログラムによって処理することで、感性情報処理に対する理解を深める。	
	専 門 展 開 科 目	数値解析	本講義では、コンピュータシミュレーションの基幹技術である数値計算および数値解析について理解する。物理シミュレーションなどで現れる方程式を、微分方程式・非線形方程式・線形方程式に分類し、それぞれの方程式の一般的な解法を学び比較することで、解法ごとの利点や欠点を理解する。また、線形な方程式に対しては、直接法および反復法を用いて連立方程式を解くアルゴリズムを学習する。他にもモンテカルロ法や乱数生成のような数値計算の基幹技術を扱う。さらに、実際にコンピュータを用いてシミュレーションを実行し、アルゴリズムごとの特性や実行時間の違いなどを確認することで学習内容の理解を深める。	
		アルゴリズムとデータ構造	本講義では、コンピュータを利用して問題解決するための処理方法の定石と、処理に必要なデータを適切に保持・管理する方法について理解させる。まず、アルゴリズムの計算量を表すBig O記法を通して、アルゴリズムやデータ構造の選択の重要性について学ぶ。また、リスト、スタック、キュー、ハッシュテーブルなどの基本的なデータ構造の概念や違いを通して、要件に適したデータ構造の選択方法を学ぶ。さらに、グラフ構造や木構造のような基本的な構造を通して、探索や最短経路問題などの様々な応用問題に適用される基礎的なアルゴリズムも学ぶ。また、k近傍法などデータサイエンスに活用されるアルゴリズムも紹介することで、次に受講する機械学習などの科目と円滑な接続を図る。	
		オペレーティングシステム	本講義では、コンピュータの基本ソフトウェアであるオペレーティングシステムの動作原理について理解する。現在のコンピュータで使われているハードウェアの機能について紹介する。次に、ファイルを保存するための補助記憶装置を管理するファイル管理、仮想記憶などメモリ関係を管理するメモリ管理、複数のプロセスの実行順番を管理するプロセス管理、プロセス同士の通信を管理するプロセス間通信、ハードウェアを制御するデバイスドライバについて学ぶ。	
		デジタル通信	本講義では、デジタル通信の基礎について学ぶ。スマートフォンや無線LANの普及・発達とともに、現代社会における通信技術の重要性は日増しに増加している。近年主流となっているデジタル無線通信は極めて高度化されているが、まず、それらを理解する上で基礎となるデジタル伝送理論、デジタル変調等を学ぶ。さらに、無線通信における通信環境を理解し、多元接続技術や誤り制御技術の基本について学ぶ。	
		情報理論	本講義では、情報伝送の仕組みを確率モデルに基づいて統一的に表現した情報理論に関して、情報の価値と情報量との関係を定量的に明らかにし、各種の情報量(自己情報量、相互情報量、エントロピーなど情報)を数理的に扱う方法を理解させる。これまで定性的に捉えていた情報量を、定量的に理解することができ、また、情報伝送における情報源符号化や通信路符号化などの通信路モデルの基礎的知識を習得し、デジタル情報を圧縮したり、誤りが生じたときにそれを検出したり訂正したり、情報を暗号化したりする方法について学ぶ。	
		データベース	本講義では、ソフトウェア開発の現場で広く利用されているリレーショナルデータベースを中核に据え、データベース技術の基礎を理解させる。まず、データベース管理システムの概要を学んだ後、データモデリング、リレーショナルデータベースの基本概念、SQLによる操作方法を学ぶ。また、スキーマの設計法の基本を理解し、例題を用いてデータベーススキーマを作成する方法を学ぶ。さらにデータ格納方式、問い合わせ処理、同時実行制御について学ぶ。	
		技術者倫理	本講義は、情報化社会の特性を学び、そこで生じる諸問題について考えることを通じて、情報技術に関わる際の基本的な知識となる情報倫理について学ぶ。具体的には、情報分野に関連する諸問題である情報化社会の諸特徴、著作権を中心とする知的所有について、個人情報保護、有害情報、ネットワーク上でのエチケットと諸問題、匿名性、暗号、コンピュータウイルス、情報セキュリティなどを理解し、それらの諸問題に関して倫理的な観点から考察する。	
		機械学習	本講義では、現在の人工知能を支える中心的な技術である深層学習に代表されるニューラルネットワークと古くから利用される種々の機械学習法、統計的推論に関して、理論と実践の両面から理解させる。ニューラルネットワークについて具体的には、分類や回帰問題に適用される階層型ニューラルネットワークや時系列予測に利用されるリカレントニューラルネットワーク、より高度なニューラルネットワークである畳込みニューラルネットワークやLong Short Term Memory ネットワークを扱う。また、現在でもその可読性の高さから利用されることの多い、決定木やランダムフォレスト、k-meansといったクラスタリング手法、ベイズ統計による統計的推論を扱う。さらに構築した機械学習モデルの性能を評価する手法について学ぶ。理論だけでなく、プログラミング言語での実装と実際のデータへの適用を通じて実践的なスキルについても同時に養う。	
		人工知能	本講義では、現在の人工知能分野の一つである知識情報処理分野等で重要となる探索処理について理解する。探索の基本である系統的探索手法である幅優先探索、深さ優先探索、分枝限定法について学ぶ。さらに、大規模問題を解く際に使われるヒューリスティック探索手法として、山登り法、最良優先探索、Aアルゴリズム、A*アルゴリズムの特徴や使い方について学ぶ。また、ゲーム木探索として、MIN-MAX法、 α - β 法、モンテカルロ木探索、UCT探索について学ぶ。	
		情報セキュリティ	本講義では、セキュリティホールを要因と、その要因を塞ぐための技術を理解させる。スマートフォンやIoTの普及により、情報通信端末の数が急速に増加している。また、Web上でのサービスやWeb技術をベースとしたスマートフォンアプリも増加している。これらの機器・サービスは、CPU、OS、デバイスドライバ、DBMS、プログラムなど多数の技術の集合体であり、どこかにセキュリティホールがあると安全ではなくなってしまう。このような考えを体系的に学習する。	

専 門 科 目	専 門 展 開 科 目	高性能計算	本講義では、スレッドやSIMDなどのCPUやOSの機能を効率的に使用したプログラミング、プロセス間の通信によりデータのやり取りを行えるMPIやGPGPUを用いたハイ・パフォーマンス・コンピューティング(HPC)技術について理解させる。現代ではスマートフォンなどの小型機器のCPUでさえも複数コアを持ち、また、画像処理や機械学習向けのベクトル演算用にSIMD命令用の回路も組み込まれていることもある。これらの機能を効率的に使用した高速な計算方法を学ぶことで、現代のCPUを生かせるプログラミング手法を獲得させる。また、CPUの機能だけではなく、キャッシュ-メモリ間のデータアクセスの時間やキャッシュラインなどのコンピュータの計算における高速化を妨げる原因についても学ぶ。	
		ゼミナール1	本講義は、情報工学に関する研究活動の基礎となる自律的に立案する能力、その立案した計画を改善しながら遂行する能力、そして、情報工学に関する情報の収集や理解したことを的確に表現能力を涵養する。指導教員の指導のもと、情報工学に関する論文を読み、技術的内容を理解しながら新たな解決課題を発見し、それらを他者に正確に理解させる文章の作成を定期的に行う。少人数での協働作業や相互の発表などの機会を通じて、情報工学分野におけるさまざまな分野について深く学ぶ。	
		ゼミナール2	本講義は、情報工学に関する研究活動の基礎となる課題の発見方法や課題解決能力を養い、自らの思考を文書や口頭による表現によって他者に円滑に伝える能力を涵養する。複数の問題解決手法が想定されたり、問題解決手法が確立されていない情報工学の分野における問題について、文献調査に基づいて発見し、問題解決のための計画を立案する。そして、論理的な文書の作成、論理的に構成された資料に基づく口頭発表、問題解決の手法をより高める創造的な研究ディスカッションなどを行う。	
		ゼミナール3	本講義は、情報工学に関する研究活動を実施するために必要な自発的な課題の発見と、新規性や独創性の高い課題解決方法や手段を考案する。ゼミナール1とゼミナール2における活動をさらに発展させた形で、学生自らが設定する情報工学の分野における諸問題について文献調査を行い、新たな解決方法や手段を考案し、それらを他者に正確に理解させる文書や図表、データの作成を行う。それらの客観的な資料やデータに基づいて意見交換を行い、自らが解決しようとする課題を明確にするとともに、その解決方法や手段の独創性や新規性を他者に理解させることができる能力を養う。	
		卒業研究	本講義では、指導教員の指導の下、3年次までに習得した情報工学に関する知識や養われた能力を使って、情報工学に関する問題を自分で能動的に調べたり、考えたりして、既成の学問分野に対して、新たな知見を与えることを目的として、研究計画の立案、課題の細分化、課題解決を行うための手法について遂行する。各人は、選定した研究分野における特定の課題を設定し、主体的に調査、立案、実行、論文作成を行い、審査を受ける。他者に正しく理解してもらうための論理的な文書での記述力と口頭での発表力を発揮し、2月までに研究発表会を行い、卒業論文を提出する。	

授 業 科 目 の 概 要				
(情報変革科学部 認知情報学科)				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目	コミュニケーション 基礎科目	英語理解基礎1	本授業では聞く、話す、読む、書くという基礎的な言語活動を通して高校における語彙や文法を十分に定着させ、4技能の基礎的な英語運用能力を養成する。主に基礎的な英文のインプットを繰り返すことにより英語の最低限のルールを習得する。4技能の言語活動をバランスよく計画的・系統的に取り入れることで、基礎的な語彙や文法事項をさまざまな言語活動のなかで繰り返し練習し、実際の場面で使える「能動語彙」や使える「文法力」の習得を目指す。	
		英語表現基礎1	本授業では、高校までに学習してきた語意や文法を用いて、基礎的な英語運用能力の習得に必要な土台作りを目指す。スピーキングでは1対1の会話で相手の主張を理解して要約したり、平易な表現を用いて相手の質問に簡潔に答えたりといったペア・ワーク、またライティングでは英文和訳や自由英作文などで基礎的な文法事項を確認するなど演習形式の授業を通じてコミュニケーションの基礎力の養成を行う。また積極的にコミュニケーションを図ろうとする意欲の養成を目指す。	
		英語理解基礎2	本授業ではコミュニケーションのコアとなる英文法の習得を目指す。多様な例文のインプットに加えて、話す、書くというアウトプットを多量に行なうことで断片的になりがちな文法知識を有機的に関連させる。4技能の言語活動をバランスよく計画的・系統的に取り入れることで、基礎的な語彙や文法事項をさまざまな言語活動のなかで繰り返し練習し、知識としてだけでなく、実際の場面で使える「能動語彙」や使える「文法力」の習得を目指す。	
		英語表現基礎2	本授業では、基礎的な英語運用能力と積極的にコミュニケーションと取ろうとする意欲の習得に向けた演習中心の授業を行う。1対1のスピーキングでは基礎的な内容に加えてさまざまな話題についてのやりとりができるように演習形式の授業を行う。また相手の主張を要約する演習を通じて語彙力の強化も行う。ライティングでは英文和訳や自由英作文などで基礎的な文法事項を確認するなど演習形式の授業を通じてコミュニケーションの基礎力の養成を行う。	
		英語理解基礎3	本授業ではリスニングとリーディングを中心に、英語で発信された情報や考えなどを的確に理解する能力を伸ばすことを主眼とする。題材としては、基礎的な英文で書かれた読み物を用い、まず、音読などを通じて英語の正しい発音を確認するとともに、英語の自然な流れやスピードにも慣れ親しむ機会を設ける。次に、その読み物を精読し、その過程の中で、単に一つ一つの英文を正確に深く理解するだけでなく、文と文とのつながりや内容の展開などにも目を配り、文章全体を把握する能力を養成する。	
		英語表現基礎3	本授業では、会話や作文だけでなく読解や聴解など4技能を複合的に使いながら標準的な英語コミュニケーション力の習得を目指す。2～3名のグループワークを中心とした授業運営を行い、会話やインタビューなど多様なスタイルを活用することで確固とした英語運用能力を定着させる。たとえば他人の意見をパラフレーズして説明することで語彙のネットワークを広げるなど。ライティングでは既習文法事項と新たな語彙を使いながら、より豊かな英語表現のための基礎力の養成を行う。	
		英語理解基礎4	本授業ではリスニングとリーディングを中心に、英語で発信された情報や考えなどを的確に理解する能力を伸ばすことを主眼とする。題材としては、基礎的な英文で書かれた読み物を用い、まず、音読やディクテーションなどを通じて英語の正しい発音を確認するとともに、英語の自然な流れやスピードにも慣れ親しむ機会を設ける。次に、その読み物を精読し、その過程の中で、単に一つ一つの英文を正確に深く理解するだけでなく、文と文とのつながりや内容の展開などにも目を配り、文章全体を把握する力を養成する。更には、その読んだ内容を平易な自分の言葉でまとめる演習を行う。	
		英語表現基礎4	本授業では、4技能(読解、聴解、会話、作文)を複合的に使いながら標準的な英語運用能力の習得を目指す。スピーキングでは2～3名のペア・ワークで一般的な内容に基づいてインタビューする演習を行う。ライティングではより豊かな英語表現のための基礎力の養成をめざして、具体的な状況や話題(大学生活や学習内容)についての作文を行う。また、学生同士でのピア・レビューを通じて、より正確で洗練された英語表現を目指す。	
		英語理解1	長い文を含む文章を読む場合、文の構造を理解する能力が不可欠である。本授業の目的は、文構造を把握するテクニックを身に付け、それを駆使しながら実際に文章を読むことにある。また文構造を把握するテクニックを習得するために、前置詞、動名詞、分詞などの文を長くする原因となる様々な文法事項の復習も行う。	
		英語表現1	本授業では、高校までに学習した内容に加えて新たに語彙力の強化を行いながら、標準的な英語運用能力の習得に必要な土台作りを目指す。スピーキングでは2～3名のグループ内で互いにインタビューをしたり、他人の意見をパラフレーズして説明したりするなどのグループ・ワーク、またライティングでは高校までの既習文法事項と新たな語彙を使いながら、より豊かな英語表現のための基礎力の養成を行う。また積極的にコミュニケーションを図ろうとする意欲の養成を目指す。	

教養科目	教養基礎科目	コミュニケーションスキル	英語理解2	長い文を含む文章を読む場合、文の構造を理解する能力が不可欠である。本授業の目的は、文構造を把握するテクニックを身に付け、それを駆使しながら実際に文章を読むことにある。また文構造を把握するテクニックを習得するために、不定詞、同格、等位接続詞、従属節などの文を長くする原因となる様々な文法事項の復習も行う。	
			英語表現2	本授業では、標準的な英語運用能力と積極的にコミュニケーションと取ろうとする意欲の習得に向けた演習中心の授業を行う。2-3名のスピーキングではより複雑な構文や難度の高い語彙を用いて互いにインタビューする演習を行う。ライティングではより豊かな英語表現のための基礎力の養成をめざして、具体的な状況や話題(大学生活や学習内容)についての作文を行う。また、学生同士でのピア・レビューを通じて、より正確で洗練された英語表現を目指す。	
			英語理解3	本授業ではリスニングとリーディングを中心に、英語で発信された情報や考えなどを的確に理解する能力を伸ばすことを主眼とする。題材としては、標準的な英文で書かれた読み物を用い、まず、音読やディクテーションなどを通じて英語の正しい発音を確認するとともに、英語の自然な流れやスピードにも慣れ親しむ機会を設ける。次に、その読み物を精読し、その過程の中で、単に一つ一つの英文を正確に深く理解するだけでなく、文と文とのつながりや内容の展開などにも目を配りつつ、文章全体を把握し、最終的には、読んだ内容を自分の言葉でまとめられるようになることを目指す。	
			英語表現3	本授業では、会話や作文だけでなく読解や聴解など4技能を複合的に使いながら実践的な英語運用能力の習得を目指す。5-6名のグループワークを中心とした授業運営を行う。教員対学生だけではなく、学生同士のアクティビティを積極的に取り入れることで、自発的な英語運用能力を定着させる。スピーキングでは学生生活などの身近なテーマに基づいて30秒程度のスピーチを作成し、互いに発表し内容をまとめる演習を繰り返し行う。またライティングでは50語程度の自由作文を使って学生同士の添削(peer-review)など、より正確で洗練された英語表現を目指した演習形式の授業を行う。	
			英語理解4	本授業ではリスニングとリーディングを中心に、英語で発信された情報や考えなどを的確に理解する能力を伸ばすことを主眼とする。題材としては、標準的な英文で書かれた読み物を用い、まず、音読やディクテーションなどを通じて英語の正しい発音を確認するとともに、英語の自然な流れやスピードにも慣れ親しむ機会を設ける。次に、その読み物を精読し、その過程の中で、単に一つ一つの英文を正確に深く理解するだけでなく、文と文とのつながりや内容の展開などにも目を配りつつ、文章全体を把握し、最終的には、読んだ内容を自分の言葉でまとめられるようになることを目指す。更には、その内容に対する自分の意見を構築し、発表する演習を行う。	
			英語表現4	本授業では、技能(読解、聴解、会話、作文)を複合的に使いながら実践的な英語運用能力の習得を目指す。スピーキングでは一般的な話題だけではなく、社会問題などについて自分の意見を表現するまとまったスピーチを作成し、互いに発表し内容をまとめる演習を繰り返し行う。またライティングでも自分の意見を論理的に展開する100語程度の自由作文を作成するなど、より正確で洗練された英語表現を目指した演習形式の授業を行う。	
			英語理解発展1	本授業ではリスニングとリーディングを中心に、英語で発信された情報や考えなどを的確に理解する能力を伸ばすことを主眼とする。題材としては、社会問題や時事問題等を扱った読み物を用い、まず、音読などを通じて英語の正しい発音を確認するとともに、英語の自然な流れやスピードにも慣れ親しむ機会を設ける。次に、その読み物を精読し、その過程の中で、単に一つ一つの英文を正確に深く理解するだけでなく、文と文とのつながりや内容の展開などにも目を配りつつ文章全体を把握し、更には、その読んだ内容を自分の言葉でまとめる能力を養成する。	
			英語表現発展1	本授業では、実践的な英語運用能力の習得のための語彙の強化や構文の確認といったコミュニケーション能力の土台作りを目指す。それと同時に積極的にコミュニケーションを図ろうとする意欲の養成も目指す。スピーキングでは学生生活などの身近なテーマに基づいて30秒程度のスピーチを作成し、互いに発表し内容をまとめる演習を繰り返し行う。またライティングでは50語程度の自由作文を使って学生同士でのピア・レビューなど、より正確で洗練された英語表現を目指した演習形式の授業を行う。	
			英語理解発展2	本授業ではリスニングとリーディングを中心に、英語で発信された情報や考えなどを的確に理解する能力を伸ばすことを主眼とする。題材としては、社会問題や時事問題等を扱った読み物を用い、まず、音読やディクテーションなどを通じて英語の正しい発音を確認するとともに、英語の自然な流れやスピードにも慣れ親しむ機会を設ける。次に、その読み物を精読し、その過程の中で、単に一つ一つの英文を正確に深く理解するだけでなく、文と文とのつながりや内容の展開などにも目を配りつつ文章全体を把握する能力を養成する。更には、その読んだ内容を自分の言葉でまとめ、その内容に対する自分の意見を構築し、発表する演習を行う。	
			英語表現発展2	本授業では、実践的な英語運用能力と積極的にコミュニケーションと取ろうとする意欲の習得に向けた演習中心の授業を行う。スピーキングでは社会問題や科学的な話題などの複雑なテーマに基づいて1分程度のスピーチを作成し、互いに発表し内容をまとめる演習を繰り返し行う。またライティングでは100語程度の自由作文を使って学生同士でのピア・レビューなど、より正確で洗練された英語表現を目指した演習形式の授業を行う。	

教養科目	コミュニケーションスキル	英語理解発展3	本授業ではリスニングとリーディングを中心に、英語で発信された情報や考えなどを的確に理解し、それらに対する自らの考えや意見をより深める能力を伸ばすことを主眼とする。題材としては、主に特定の社会問題などを扱った読み物や新聞・雑誌記事などを複数用い、様々な角度から一つの事柄を理解し、その内容を自らの言葉でまとめられるような力を養う。読む方法としても「精読」だけに留まらず、必要な情報や考えをスピーディに探したすのに有効な「速読」などにも挑戦する。また、音読やディクテーションに加え、内容に関する英語の質疑応答などを通じて、聴いている内容の展開やポイントを的確に押さえる能力の養成を目指す。更には、その内容に対する自分の意見を構築し、発表する演習を行う。	
		英語表現発展3	本授業では、会話や作文だけでなく読解や聴解など4技能を複合的に使いながら高度な英語運用能力の習得を目指す。グループ内だけでなく教員やグループ間での双方向的な活動を取り入れた授業運営を行う。スピーキングでは複雑な話題に基づく一分程度のスピーチに対して質疑応答を行ったり、ライティングでは論理的に内容を展開するパラグラフ・ライティングなどを行ったりするなど、より正確で洗練された英語表現を目指した演習形式の授業を行う。	
		英語理解発展4	本授業ではリスニングとリーディングを中心に、英語で発信された情報や考えなどを的確に理解し、それらに対する自らの考えや意見をより深める能力を伸ばすことを主眼とする。題材としては、主に特定の社会問題などを扱った読み物や新聞・雑誌記事などを複数用い、様々な角度から一つの事柄を理解し、その内容を自らの言葉でまとめられるような力を養う。読む方法としても「精読」だけに留まらず、必要な情報や考えをスピーディに探したすのに有効な「速読」などにも挑戦する。また、音読やディクテーション等に加え、内容に関する英語の質疑応答などを通じて、聴いている内容の展開やポイントを的確に押さえる能力の養成を目指す。更には、その内容に対する自分の意見を構築・発表し、授業内で英語での意見交換をする演習を行う。	
		英語表現発展4	本授業では、4技能(読解、聴解、会話、作文)を複合的に使いながら高度な英語運用能力の習得を目指す。一般的な話題だけではなく、社会問題など複雑な話題に基づいて自分の意見や考えを論理的に展開するスピーチやパラグラフ・ライティングを作成するだけでなく、相手の主張を要約したりそれに対して自分の意見を述べるなど、コミュニケーションを続ける技術の養成も目標とする。またあるトピックに基づいてリサーチを行い、それをまとめて発表するなどの演習も行う。	
		日本語表現法	日本語の特徴をふまえ、文章を読解し分析する能力、的確な表現による文章作成の能力を養うことを目的とする。文章には、情報伝達や記録報告などの客観的な文章と、自分の感情や思想を表出する主観的な文章とがあるが、読解や作文のためにはそれぞれの文章の特徴を理解する必要がある。また、言葉の意味、主述の関係などの文の構造、三段構成などの文章の構成といった基本的な知識や技術も習得させたい。様々な文章に触れながら、日本語の基礎力の養成を目指す。	
	情報リテラシー	数理・データサイエンス・AI入門	高度情報化が進む中で、社会生活や大学での調査・研究を進めるためには、学問領域を問わず、数理・データサイエンス・AIに関する基礎的な知識や活用能力が不可欠となっている。このため、情報・知識を複眼的かつ論理的に捉えることができる能力及び情報を防御し、適切に扱うためのセキュリティに関する知識の習得を基盤として、AIの仕組みや汎用性・活用事例、基本データによる統計処理、実際のデータを取得・活用する手法、得られた知見を伝達し共有する手法を身に付けさせる。	
		AI・プログラミング基礎演習	基礎的な数理・データサイエンス・AI入門の後続として、本科目では、AIの機械学習・深層学習を実際に演習することで、AIに対する理解を深め、専門分野での利活用を考察させる。また、プログラミングの基礎演習では、前提となる論理的思考の習得を基盤として、実際に各自でプログラムを作成し動作確認をしながら、プログラムの基本、プログラミング技法、計算機プログラミングの基本を身に付けさせ、専門教育でも応用的に活用できるようにする。	
	人間力養成	スポーツ科学	本科目は、他者とのグループワークとディスカッションを通じてスポーツの技術面や戦術面などにおける課題を見出し、いかにその課題を解決するかを考え、実践する能力の育成を目的とする。スポーツ活動では、積極的な言語的、非言語的コミュニケーションを必要とする場面が多く、さらに身体動作における感覚や技術理論など議論の対象となるテーマが豊富に含まれている。したがって、単に与えられた実技課題をこなすのではなく、さまざまなレベルの受講者が個人のレベルに応じた課題を共に克服し、かつ安全に楽しく取り組むために、受講者自身が積極的に授業参画することにより主体性、課題解決力、チームワーク(協調性)の獲得を目指す。	
	人間力養成	初年次教育	初年次教育は、高校教育から大学教育への円滑な移行と大学での学びの方法の習得や専門を学んでいくための動機づけを担う科目である。授業内容として、履修方法・図書館の利用方法・心と体の健康・高校と大学の学びの違い・レポートの書き方・愛校教育・安全と防災教育および専門科目への動機づけ等を行う。入学直後のガイダンスから学科オリエンテーションも利用し、早い段階で実施する。	
		キャリアデザイン1	大学あるいは大学院を卒業後、社会で活躍するためにはどのような能力を学生時代に身に付けておくべきか？大学での学習効果を向上させるための基本的な作法を習得した上で、自分の足りない部分を把握し、自分の目標を明確にするとともに、授業を通じて人とのコミュニケーション(話す能力・聴く能力・情報を収集して伝える能力)の楽しさを知ることにより、社会で必須となるコミュニケーション能力を高めつつ、目標を持って有意義な大学生活を送り、自らのキャリアデザインを描けるようになることを目的とする。	

教養科目	教養基礎科目	人間力養成	キャリアデザイン2	キャリアデザイン1で描いたキャリアデザインを意識しつつ、日本の社会構造および経済構造を学ぶとともに、企業が陥った過去の失敗例などを教訓にして、自分自身の将来と目標を再確認し、再度大学で何を成し遂げるかについて検討する。 また、企業が行っている経済活動や関連する法律について理解することで、目標を達成するために必要な基礎知識を得ることを目的とする。 さらに、本科目では、学生参加型で実施することにより、社会が求める要素の1つである主体性の獲得を目指す。	
			キャリアデザイン3	キャリアデザイン1・2で習得したキャリアデザインについて、振り返り、目標設定の進捗について、まずは検証を行う。検証した結果、目標の見直しが必要な学生については、要因等について、分析を行い、再設定をする。 また、進路について、学科毎に特性が偏る時期であることから、学科の分野を考慮した上で、卒業生に協力いただき、業界についての知識を深める(違いを知る)ことにより、学生が目指すキャリアデザインが達成するためのイメージを獲得することを目的とする。	
	教養共通科目	国際理解	異文化理解	本科目では、外国及び時空を異にする自国の文化、具体的には、その音楽、美術などの芸術、言語、思想、歴史、民族、社会、芸能、風俗、習慣等をいくつか取り上げ、先ず学生に紹介し、問題提起をし、意見を求め、自分の考えをまとめさせる。それから、それを自国の文化をも含めいろいろな文化と比較・検討し、必要ならば自分の考えを修正させる。そのことを通して、ものごとを多角的且つ客観的に見る、いわゆる複眼思考を養うと共に、結果として自国の文化を見つめ直し、より深く理解してもらう。	
			言語と文化1	本科目では、日常会話が自然と口から出てくることを目標に、日本語など他の言語との比較をも考慮しながら、英語以外の言語の基礎を発音から一つ一つ丁寧に学ぶ。また、その文化圏の人々の考え方を理解するために、積極的に人々の生活や文化、社会にも触れていく。以上のことを通して、多角的且つ客観的に日本及び日本文化を見つめ直し、理解を深めると同時に、日本が国際社会においてどのように見られ、評価されているのか、我が国の国際社会における立ち位置を確認したい。	
			言語と文化2	本科目は、「言語と文化1」の続編をなすもので、さらに「言語と文化1」で学んだ外国語及び文化・社会についての理解を深めて行くことを目的とする。語学一辺倒ではなく、その地域の文化・歴史・社会等をさまざまな角度からとりあげる。その際、文学や音楽等の文化的側面及び日本とその国との歴史的つながりばかりではなく、最近の日本をとりまく国際情勢や社会情勢などにも積極的に触れていきたい。以上の学習をとおして、ものごとをいろいろな角度・立場から眺め直す「複眼」を身に付けさせたい。	
			グローバル時代の法	そもそも法とは何であり、現代のグローバル社会において法の存在はいかなる意味を有しているのか。法というものの定義から始まり、法全体にわたる基本的な知識を習得することがこの授業の目的である。まずは法の概念や法の分類といった一般的な問題について検討した上で、財産と家族について定める民法と、犯罪と刑罰について定める刑法について学習し、さらに、グローバル時代においてますます重要性を増す国際法についても学習する。	
			国際社会論	国際社会の中に生きる人間として必要な知識と思考力を養うため、世界の政治経済、言語、文化、歴史、人の移動、環境や食糧問題、平和に関する問題などについて多角的に学んでいく。その際単に個別の知識を並列的に得るだけではなく、それぞれのテーマを関連づけて理解することで、国際社会の現状に対する包括的な認識を獲得することを目指す。そして将来においても、世界の中で日々生まれてくる諸問題に対し自ら学び、積極的に取り組む態度を身につけることが目標である。	
	人間・社会・自然の理解		哲学	哲学を学ぶことを通じて、人間とは何か、また人間は世界といかに関わっているかという事柄について考え理解するための観点や思考方法を身につけることを目的とする。これまで展開されてきた哲学史の中でなされてきた議論の要点を参考にしながら、人間と世界のあり方を考察するための様々な問題設定の方法や論理的な思考方法を学ぶ。その上で、知識、行為、価値、存在、自由、自我、他者といった事象をめぐる諸問題について理解し、それについて自ら考える力を養い、さらに新たな問題を発見する態度を身につけることを目標とする。	
			倫理学	「倫理学」では、現代文明が直面する倫理的問題のなかでもいわゆる「応用倫理」と呼ばれるものをとりあげる。まずそれらが現代の科学技術によってつくりだされていることを確認したうえで、問題を解決しつつ問題発生を防止するためには、われわれ人間はこうした科学技術をいかに管理してゆくか、また、そのときに技術者の役割と責任はどのように考えるべきか、13回の講義をとおして事例などを紹介しつつ、考える力を養成することを狙いとする。	

教養科目	人間・社会・自然の理解	文学と芸術	文学作品や芸術作品の鑑賞や批評を通じて、人間への洞察を深め、ものの見方、感じ方、考え方を広げることを目的とする。また、それぞれの作品が生み出された時代や社会の背景を理解する。人間の感情および思想の表象原理、作品の主題、その歴史的社会的意義を明らかにしながら、人生の目的や価値について考え、よりよく生きることの意味を探り、豊かな感受性を育む。さらに作品受容に関して、批評とはどのようなことかを検討し、批評主体の確立についても考察を深めたい。	
		歴史と人間	過去から現在に至る人類の歩みについて、政治・経済・社会・宗教といった幅広い観点から理解するための基本的な視座を提供する。日本史や世界史の基礎的な知識をあたえるだけでなく、それぞれの地域の歴史がもつ独自性と世界史的な普遍性の両面に光をあてることで、過去の事象を世界規模の時系列的な因果関係のなかに位置づける能力を養う。他日、国際社会に出た学生が、独善に陥ることなく自国の置かれた立場を理解し、客観的に自らの立脚点を説明することに耐えられる資質を育てる。	
		心理学	本講義では、心のメカニズムについて科学的手法により解明された知見とその応用を解説する。具体的には、人の認知・思考、感情、行動のそれぞれの特徴、関連の仕方、発達の変容に関する理論を取り扱う。さらに、そういった心理学の知見や理論が社会の様々な場面で活用されていることを紹介し、グループワーク等も実施する。本講義のねらいは、学生が自分自身や他者に対する理解をより一層深めること、心理学の知識を生活に応用し役立てることができるようになることである。	
		身体と健康の科学	本科目は、単にヒトの「身体」や「健康」についての知識を獲得するのではなく、専門分野の枠を超えて人文科学、社会科学、自然科学などの様々な学問分野との関連を踏まえながら共通に求められる知識や思考法の獲得を目指す。特に、超少子高齢社会に突入した我が国では、人々が健康で豊かに過ごす時間を延伸することは非常に重要な課題となっている。それと同時に、ヒトの「身体」や「健康」とは何かについて考え直す時期にも来ている。社会構造の急激な変化や科学技術の進展に伴う人間の価値観の多様性を踏まえながら、「身体」や「健康」について考察する。	
		憲法と社会	そもそも憲法とは何であり、人間社会にとって憲法の実在はいかなる意味を有しているのか。憲法というものの定義から始まり、憲法全体にわたる基本的な知識を習得することがこの授業の目的である。古今東西の様々な憲法に共通する憲法の基本原理を学んだ上で、とくに日本国憲法についての理解を深める。日本国憲法は統治機構と権利章典という大きく二つの部分から構成されているが、この両者についてできるだけ正確な知識を身に付けることをめざす。	
		政治と社会	そもそも政治とは何であり、人間社会にとって政治というものの存在はいかなる意味を有しているのか。政治というものの定義から始まり、政治全体にわたる基本的な知識を習得することがこの授業の目的である。まずは政治の中心となる権力の概念や様々な政治思想について学んだ上で、とくに国家的な政治現象に焦点を合わせ、具体的な事例を取り上げつつ、地方自治を含む国内政治と、近年ますます重要性を増す国際政治をめぐる諸問題について考察する。	
		経済学	当科目では、ミクロ経済学およびマクロ経済学の基本的な考え方や分析手法を習得するとともに、現代経済の各場面にそれらを応用し、経済学的に思考することや、それを通して社会を考察することの意義に気づくことができるようにする。価格機構／市場原理の理論やその社会的意味などを多面的に考察したのち、経済主体、金融、財政、社会保障などの分野に言及する。授業では、教員による講義のほか、演習問題などを通じて簡単な理論や数式を用いた分析を受講生自身に取り組ませる。	
		現代社会論	現代の日本社会、及び国際社会における諸問題について具体的に考察をしながら、現代社会のありかたについて認識を深めていくことを目的とする。とりわけ、労働問題、教育・青少年問題、国際的な公害・環境問題、戦争と平和をめぐる問題、家族や子育ての問題、福祉や社会保障の問題、情報環境の変化をめぐる問題等をとりあげながら、考察を深めていく。そして、授業を通じて、現代社会に生きる市民として、幅広い視野とグローバルな視点をもって自ら主体的に考え、行動することができる教養・態度・能力を身に付けることを目標とする。	
		科学技術史	本科目では、科学と技術の展開をそれらの相互関係を含めて歴史的に検討することを目的とする。科学の歴史としては、ニュートン力学を中心とした近代科学の成立過程を含めて、当時の自然哲学者・科学者たちが対峙した困難を当時の文脈から検討し、それらの科学的意義を理解していく。技術の歴史としては、イギリス産業革命における綿工業の展開や蒸気機関の発展などを理解するとともに、19世紀以降の科学と技術の接近とそれらの共進化的展開および社会との関係なども分析する。	
		環境科学概論	本講義は、科学技術の進歩に伴う地球規模での環境変化を事例に挙げ、広範で複雑な環境問題の現状を、物質を中心とした視点から把握すると同時に、科学的解決法の糸口を探ることを目的とする。特に温暖化、オゾンホール、酸性雨、生物多様性の喪失、食糧、砂漠化、原子力、廃棄物等の事例について詳細に解説し、これらの問題を解決するために開発された新技術や新素材による将来像を展望して、材料科学の観点からも環境科学を学ぶ。また、未来へと繋ぐ環境の姿を考察し、現代に生きる人間としての規範も考える。	

教養共通科目	人間・社会・自然の理解	生命科学	本講義では、生命の神秘、多様性、遺伝子支配の重要性についての理解を深め、人類が直面する資源、環境、エネルギー問題へと関心を高めさせることを目的とし、まず生物の生命の基本となる、細胞の理解に始まり、その構造と機能、細胞を構成する物質の理解、細胞の増殖・分化・老化・代謝（解糖系・呼吸・光合成・窒素同化）、細胞間相互作用等について学ぶ。さらに、多細胞生物に特有な発生・形態形成のメカニズムに触れ、遺伝子の本体、伴性遺伝、欠失、突然変異などの遺伝現象を理解する。	
		地球科学	人間の生活環境としての「地球」の創生と構造、進化をテーマとする地球科学の講義を行う。地球全体の歴史と関連させながら、地球や地球で生じている諸現象についての基礎知識を与える。また、人間活動と資源・エネルギー、地球環境の関係の調和を保ちながら、社会の持続的発展を考える契機を与えることを目標とする。講義で取りあげる主な項目は、地球の形状、地球の活動と歴史、プレートの運動、地層の形成と地質構造、地球の熱収支、大気と海水の運動、地球環境の変遷などである。	
		物理の世界と先端技術	現代の自然像の形成に大きな役割を果たしてきた種々の物理的視点について講義し、それらの視点に基づいて、物理の世界をより深く理解することを目指す。また、このような物理的視点が先端科学・技術にどの様に結びつき、人々の生活への影響を通して社会と如何に関わっているかについて、自発的に考える力を身につける。講義で取りあげる主な項目として、力と運動の関係を基礎とする力学的自然観、熱現象とエネルギー・エントロピー概念、電磁気現象と「場」の考え方、現代の物理的世界観（時間・空間と相対性、物質・光に対する粒子・波の二重性と量子論など）が挙げられる。	
		物質科学	本科目は、現代人の常識として必要な化学の基礎知識を習得し、化学の根底にある考え方を理解して、物質を科学的に見ることができる正しい見識を涵養することを目的とする。物質の分類と基本構造、化学結合と物質の性質、化学量論と化学反応の基礎等を教授し、様々な物質が満ちあふれている現代社会において物質を科学的にとらえて論理的に思考できる基礎を与える。また、身近な物質、材料開発の最前線などの話題を取り上げて、化学のおもしろさ、現代化学の自然観・物質観が理解できるように配慮する。	
		課題探究セミナー	本科目では、少人数制による主体的な学び、受講者同士の積極的な討論、グループワークなど、受講者自らの思考を促す能動的な学習方法であるアクティブラーニング形式により授業を展開する。具体的には、国際問題、日本文化・歴史、社会、人間、芸術、環境、健康、生活などのテーマや課題を選定し、それについて様々な学問分野の知識を活用しながら、総合的な判断力や解決力を育成する。また、個人やグループの考えをまとめ、文章や図表等を用いて論理的にかつ適切にプレゼンテーションする基本的な能力の獲得を目指す。	
		総合学際科目	本科目では、教員からの一方的な教授形態ではなく、幅広い応用的な知識・理解を深める講義と受講者同士の討論や発表などの演習を融合した受講者参画型の能動的な授業を展開する。このような授業形態を通じて、各学問分野の知識・理解を受講者自らが融合・発展させながら、国際問題、日本文化・歴史、社会、人間、芸術、環境、健康、生活などのテーマや課題について新たな視点や角度から捉え直すことにより総合的な判断力や理解力を身につける。また、個人やグループの考えを論理的にかつ適切に伝達する能力を習得する。	
	教養特別科目	イングリッシュアクティブラーニング1	本授業では英語を単なる知識としてではなく積極的に運用する能力の養成を目指す。特にライティング能力を向上させることを目指した授業運営を行う。ある話題に基づいてリサーチを行い、A4で3枚程度（1500-2000語）のエッセイを完成させる。正確な英語表現だけでなく、パラグラフ内またはエッセイ全体で概念や意見を論理的に展開させる方法の習得を目指した作文練習や、教師または学生同士による添削を通じて、洗練された文章への感覚を養うことも目標とする。	
		イングリッシュアクティブラーニング2	本授業では英語を単なる知識としてではなく積極的に運用する能力の養成を目指す。特にプレゼンテーション・スタイルの授業運営を行う。ある話題に基づいてリサーチを行い、グループ内でのディスカッションを通じて内容を決め、最終的にグループごとに英語で5分程度のプレゼンテーションを行う。正確な英語表現のための演習に加えて、効果的なプレゼンテーションを行うための表現法（アイ・コンタクトやボディ・ランゲージ）の練習も行う。こうしたグループ内での共同作業を通じて積極的にコミュニケーションを図ろうとする能力の養成も目指す。	
		イングリッシュアクティブラーニング3	本授業ではブリティッシュ・ヒルズ（福島県白河）を利用した冬季集中講義に参加し、英語を単なる知識としてではなく、積極的に運用する能力の養成を目指す。	集中
		日本語アクティブラーニング	本授業では、日本語を上級者として運用する能力の育成を目指す。特に日本語による学術論文や技術分野等のライティング能力を向上させること及びそれらをわかりやすく伝達する表現の手法を、グループ演習等を通じて身につけさせる。	
		スポーツアクティブラーニング	本科目は、スポーツ実践ならびにスポーツの様々な局面を題材としたグループワークとディスカッションを中心に授業を展開し、課題解決力、状況把握力、ストレスマネジメント力、リーダーシップ、チームワーク（協調性）を發展的に育成することを目的とする。特に、授業内では短期間の宿泊学習プログラムや他大学との連携プログラムなどを実施することにより、より高いレベルでのスポーツ活動を実践することで授業の目的を達成すると同時に、スポーツならびにその価値を幅広い視点から客観的にとらえ、多角的に物事を考え、実行する力の獲得を目指す。	集中

教養科目	教養特別科目	ソーシャルアクティブラーニング	個々の学科の専門的な学問体系を基礎とし地域、社会活動を体験することによって、学んできた知識を実際の体験から学問的な再確認をし、社会で活用できる知識とする。さらに、新たな視野を得るとともに、自らの社会的役割の認識をし、必要な資質や能力の向上を図る。自治体や地域社会との連携を重視し、より実践的な体験や問題に取り組むことにより調査、体験を主体とした活動の中から、自己の能力向上を図る。	
		国際インターン	本科目では、学生が夏休み等を利用し海外の企業等で2週間程度の期間就業体験を行い、世界で活躍する高度専門技術者として求められる専門知識やコミュニケーション能力を養うことを目的とする。具体的には、本学の海外交流協定校の協力を得ながら、海外に進出した日本企業や現地の大学、優良企業等でインターンシップを行う。本科目は受講資格として語学力による一定の制限を設ける。また、渡航前の指導として海外での生活や現地文化に関する講習を行い、学生からの海外就業体験報告書、面談等により科目成績評価を行う。本科目の運営及び成績評価は国際交流委員会が行う。	
		国内インターン	社会との差を実感することにより、技術者としての目標を明確にすることを目的とする。体験先は、本学の取り組みや学生気質を理解している産官学連携協議会の加盟企業や求人をいただいている企業で行うことにより、目的の達成を目指す。 なお、事前指導については、目的を持って臨むためのワークやマナーについても行う。また、事後指導では、今後の目標を明確にするだけでなく、発表等を行うことで、学生間での情報共有を行い、社会で必要となる資質を理解すると共に、異なる業種・職種について理解をすることで、社会への理解も深める。	
		ボランティア	本科目は、社会の一員としての意識を持ち、社会の発展のために積極的に関与できる態度を養うことによる人間力を高めることを目的とする。 具体的には、事前指導により社会貢献の意義と役割について理解させ、ボランティア活動の現状と課題について認識したうえで、実際のボランティア活動を通して、体験的に学習し、ボランティア活動に対する理解を深めるとともに、社会貢献とボランティア活動との関連について学習することにより、地域貢献への参画意識を高める。	
		キャリアアップラーニング	本科目は、大学で培った幅広い知識、専門的な知識や技術を社会で発展的に活用するために、大学の指定する外部資格を受検してその取得を目指すための継続的な学習指導を行う。特に工科系大学の学生として有益な、高度情報化社会で働くことを前提とした「ITパスポート」や、技術の応用や新技術の実装を前提とした「知的財産技能検定」などの資格取得を目指す。	
		総合科学特論	本科目では、教養共通科目で扱った内容を発展させ、現代科学の幅広い分野の理解を深める講義と受講者間の討論や発表などの受講者参画型の授業を展開する。このような授業形態を通じて、各学問分野の知識を受講者自らが融合・発展させながら、現代社会が抱える諸問題について新たな視点から捉え直すことにより総合的な判断力や理解力を身につける。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	基礎科目	数学基礎	本講義は、専門課程で必要とされる初等関数と微分積分の基本的な知識・計算力の習得を目標とする。各種の初等関数について、値の計算や、三角関数の加法定理、指数・対数法則等の基本的性質を論じる。また、微分係数、導関数の定義を説明して、初等関数の微分公式を詳述し、和・差、定数倍、積、商、合成関数の微分の計算に習熟させる。さらに、不定積分について、初等関数の積分公式、置換積分法、部分積分法を詳述し、また、定積分の基本的な計算にも触れる。	
		線形代数基礎	本講義は、線形代数に関するエンジニアとしての最低限の素養を身につけさせることを目指す。具体的には、行列の演算(和・差、実数倍、積)の定義と性質を詳述する。連立1次方程式の解法として掃き出し法を取り上げて、行基本変形の計算に習熟させ、連立1次方程式の解の構造を様々な例を通じて理解させる。逆行列の定義と、掃き出し法を利用した逆行列の求め方を学ぶ。行列式について、種々の基本的性質を利用した計算に慣れさせ、余因子展開を詳述し、また、連立1次方程式と行列式の関連についても触れる。	
		微分積分	本講義は「数学基礎」から更に進んだ内容の微分積分を学ぶ。講義の前半では微分の応用として、関数の近似の一つであるテイラー近似について述べ、これを用いて関数の極値や変曲点を調べる。微分の考えの基には近似の考えがあるが、微分を現実の問題に適用する際にも、近似は重要である。また、偏微分の定義、計算についても述べる。後半ではまず定積分の意味について述べる。物理量や法則の多くが積分により記述されるが、これらを学ぶ際に必要となる積分の知識を講義する。さらに、重積分について述べる。	
		線形代数応用	本講義は、「線形代数基礎」で身につけた計算技法を土台として、更に進んだ内容の線形代数を学ぶ。前半では、ベクトルの1次独立性・1次従属性、ベクトル空間の基底と次元を論じ、ベクトルの内積とその応用、線形写像について説明する。後半では、固有値・固有ベクトルの概念と、行列の対角化とその計算手順について理解させ、対角化の応用についても触れる。また、例と演習を通じて、1次独立性の判定をはじめとする各種の計算に習熟させる。	
		確率統計	本講義は、様々な不確実現象を取り扱い、データから情報を引き出すための基本的考え方の習得を目標とする。集合の考え方を土台とする確率論を展開し、基本的概念(和事象、積事象、余事象、条件付き確率など)を理解させ、諸法則(加法定理、乗法定理など)を用いた計算に習熟させる。また、確率分布の概念を導入して、2項分布や正規分布などの典型的な確率分布とその応用例を説明し、複数の確率変数の独立性について論じる。さらに、確率論を基に、統計的な応用についても紹介する。	
		微分方程式	本講義は、工学や自然科学の分野にあらわれる様々な現象や法則を数学的に定式化する際に用いられる、微分方程式の解の存在および挙動を調べる手法に習熟することを目指す。まずは常微分方程式で表される簡単に具体的な例の学習から始め、初期値問題を含めて、変数分離型および線形の1階常微分方程式の古典的解法を学習する。さらに、さまざまな種類の2階定数係数線形常微分方程式の解法を学び、解の振舞いを追跡できるようになることを目標とする。	
		応用解析	本講義は、ラプラス変換とフーリエ級数を理解することが目的である。前半は、工学(電気回路、自動制御理論など)に現われるラプラス変換およびその逆変換を用いて、定数係数線型常微分方程式を解くことを目標とする。具体的には、ラプラス変換の定義と基本法則、逆変換について習熟し、また種々の例について理解する。後半は、弦の振動や熱伝導を表す偏微分方程式の解析などに必要なフーリエ級数展開を用いて偏微分方程式の境界値問題を解くことを目標とする。具体的には、直交関数系、フーリエ級数の定義及び応用について学ぶ。	
		離散数学	コンピュータの進歩とともに離散的な対象を取り扱う数学はその重要さを増している。デジタル・コンピュータは基本的には有限構造であり、その多くの性質は有限数学系の枠組みによって理解することができる。本講義は、認知情報科学分野における論理的・工学的思考力の基盤となる数理的能力を得るために、離散数学の基礎的な内容(集合、関係、写像の基本的性質とその応用、グラフ理論の基本的概念とさまざまなグラフの性質)について学習する。	
		統計解析	本講義は、認知情報科学分野における問題解決に必要な能力を養うために、データの統計的分析方法の基礎知識を学習する。加えて、これらの知識を用いて実験や測定で得られたサンプルを適切に分析・評価する能力、特に、限られたサンプルによる母集団の一般的特性の推定や、サンプル群の差に対する科学的判断が行える能力を養う。主な内容としては、度数分布、代表値、分散、相関分析、回帰分析、確率分布、推定、仮説検定、分散分析などを取りあげる。	
専門科目	専門科目	線形代数特論	本講義は、線形代数学における抽象的ベクトル空間の理論を通じて代数的構造について理解し、抽象的・数学的な証明の技法を身につけることを目的とする。前半は、まず空間ベクトルの性質、内積・外積、空間内の直線や平面の方程式について学び、続いて抽象ベクトル空間の定義と例、ベクトルの一次独立性、部分空間の定義と例、ベクトル空間の基底や次元について学習する。後半は、写像の定義と例、全射・単射、核と像、次元公式、線形写像の行列表示、同型写像、取り換え行列といった内容を取り上げる。	
		初等整数論	本講義は、整数の基本的性質を理解し証明を行うことができようになる、さらには群の基本的な構造を理解し簡単な性質を証明することができる能力を身につけることを目的とする。前半は、まず約数・倍数の定義と素数、公約数・公倍数の定義と計算について学び、続いてユークリッド互除法、一次不定方程式の解法、多項式の中での公約式や公倍式、互除法、不定方程式などを取り上げる。後半は、素因数分解の一意性とその意義や応用、剰余類の概念、整数問題の解法、合同式の計算と逆数、合同式の計算の群論的解釈、群の定義と例、置換群、部分群と剰余分解、暗号理論への応用などについて学習する。	

専 門 科 目	専 門 基 幹 科 目	認知情報科学入門	本講義は、認知情報科学における学びの全体像を捉えることを目的とする。まず、学科のカリキュラム体系について俯瞰するとともに、高校までの学びと大学における学びの違いを理解する。続いて、学科教員全員からそれぞれの研究分野や具体的な研究事例について説明を受ける。それを受けた後半では、学科について深く理解すること及びグループワークを取り入れた後続科目のための準備を目的として、協力して学科紹介ウェブサイトを作成するグループワークに取り組む。 (オムニバス方式／全13回) (5 高橋 暁子／8回)自身の研究分野及び研究事例を紹介するとともに、後半のグループワークの進行・取りまとめを行う。 (10 多胡 輝一／8回)自身の研究分野及び研究事例を紹介するとともに、後半のグループワークの進行・取りまとめを行う。 (1 今井 順一／1回)自身の研究分野及び研究事例を紹介する。 (2 小笠原 秀人／1回)自身の研究分野及び研究事例を紹介する。 (3 國宗 永佳／1回)自身の研究分野及び研究事例を紹介する。 (4 高木 彩／1回)自身の研究分野及び研究事例を紹介する。 (6 藤田 茂／1回)自身の研究分野及び研究事例を紹介する。 (7 長谷川 為春／1回)自身の研究分野及び研究事例を紹介する。 (8 眞部 雄介／1回)自身の研究分野及び研究事例を紹介する。 (9 山崎 治／1回)自身の研究分野及び研究事例を紹介する。	オムニバス
		プログラミング演習	Pythonによるプログラミングの技術習得を目的とした演習を行う。プログラムの基礎的な概念(分岐や繰り返しなどの制御構造、変数、式と演算子、リスト、関数、クラス、ファイル入出力など)を理解するとともに、演習を通じて簡易なプログラムの作成能力とその処理内容を理解するための実践的な能力を習得する。また、Gitの使用方法など以後の科目で必要となる各種のスキルやプログラミング環境の構築及び使用方法についても身に着ける。	共同
		認知科学概論	本講義は、人間の認知の仕組みとコンピュータによる人工知能の仕組み、それらの共通点や差異、さらにはマルチメディア情報処理との関係について理解を深めることを目的とする。心理／コンピュータ／メディアに関連する身近なトピックを手がかりとして、2年次以降の認知・心理系／人工知能系／マルチメディア系の専門科目の導入を行う。具体的には、知覚や記憶、思考、認知モデル、神経モデル、インタフェース、コミュニケーションなどを取り上げ、人間とコンピュータそれぞれの観点から「知の仕組み」について概観していく。 (オムニバス方式／全13回) (1 今井 順一／5回)主にマルチメディア系の観点から講義及び関連する演習・グループワークを行う。 (4 高木 彩／5回)主に認知・心理系の観点から講義及び関連する演習・グループワークを行う。 (9 山崎 治／5回)主に人工知能系の観点から講義及び関連する演習・グループワークを行う。	オムニバス
		情報科学概論	本講義は、情報科学の入門的内容として、情報処理およびコンピュータの基礎的知識を習得することを目的とする。情報処理では、数の表現、データベース、マルチメディアなどについて学ぶ。コンピュータに関しては、OS、ソフトウェア、ハードウェア、インタフェース、ネットワークの仕組みなどについて学習する。これらについて体験的な学習などを通して理解を深め、今後の核となる基本的な内容を確実に身につける。 (オムニバス方式／全13回) (5 高橋 暁子／4回)主に社会におけるICT技術の観点から講義及び関連する演習・グループワークを行う。 (6 藤田 茂／4回)主にコンピュータにおける利用技術の観点から講義及び関連する演習・グループワークを行う。 (10 多胡 輝一／5回)主に情報処理における基礎理論の観点から講義及び関連する演習・グループワークを行う。	オムニバス
		認知情報科学演習	本講義は、少人数のチームによるWebアプリケーションの立案、実装、報告書作成、プレゼンテーションを協調的に行うことで、実践的なプログラミングや協働的なソフトウェア開発手法への理解を深めるとともに、プロジェクトのマネジメントに関する知識・技能について学ぶことを目標とする。具体的には、「プログラミング演習」で身につけたプログラミングの基礎的な知識を活用して、インタラクティブなWebアプリケーションを複数人で協調的に開発し、その経緯や結果について、論理的に文書化および説明するという課程を実践的に実施する。	共同
		認知科学基礎1	本講義は、「認知科学概論」で学習した人の認知のしくみを理解するために必要となる、認知科学・認知心理学・社会心理学の基礎的な内容を習得することを目的とする。具体的には、認知科学と認知心理学の分野については、知覚、記憶、思考、感情、選択と意思決定などのトピックスを学ぶ。社会心理学の分野については、社会的認知、対人行動、対人関係、コミュニケーション、集団などのトピックスに関する理解を深めることを目指す。	
		人工知能基礎1	本講義は、知的な情報処理を実現する手法である人工知能の基礎について扱う。具体的には、探索(最良優先、幅優先、A*、min-max、$\alpha-\beta$)や推論(一般問題解決器、プロダクションシステム、ファジィ推論など)などの問題解決アルゴリズム、知識表現の方法(OAV、フレーム表現、意味ネットワーク、オントロジー)について学ぶ。さらに、それらの技術が本質的に抱える限界(フレーム問題、知識獲得のボトルネック、暗黙知と身体性)についても説明する。	
		マルチメディア基礎1	本講義では、まず、情報表現としてのマルチメディアのしくみを理解するために、アナログとデジタルの違いをはじめ、マルチメディアを構成する要素やヒューマンインタフェースの基礎について学習する。次に、マルチメディアを扱う端末やコンテンツ制作のためのメディア処理として、文書作成、画像処理、映像や音声ファイルの編集、3次元CGなどの基礎的な内容について学習する。また、マルチメディアに関わるインターネットと通信、およびインターネットで提供されるサービスやビジネスなどの基礎的な内容について学習する。さらに、その他の社会において活用されているマルチメディアや情報リテラシの基礎的な内容について学習する。	
		ソフトウェア基礎1	本講義は、ソフトウェアを開発するために必要となる、コンピュータの基本的な構成、オペレーティングシステム、ソフトウェア開発手法などの基礎的な知識と操作技術の獲得を目的とする。まずはコンピュータシステムの基本的な構成を概観し、その中でもソフトウェア基盤に焦点を当てる。その上でオペレーティングシステムの基本概念と基本機能(特にタスク管理、メモリ管理、ファイルシステム)を説明する。また、アプリケーションソフトウェアを開発するためのプログラミング言語・開発環境をいくつか取り上げる。いずれも講義と演習を組み合わせることで、知識と操作技術を養う。	
		ネットワーク基礎1	ネットワークの構築やネットワークを用いるソフトウェアを開発するために必要となる、LANとインターネット、通信プロトコルなどのネットワークを構成する基礎的な内容について学習する。TCP/IPとOSI参照モデルの、物理層、データリンク層、ネットワーク層、トランスポート層、セッション層、プレゼンテーション層、アプリケーション層に対応するプロトコルについて、学び、Pythonを使ったネットワークプログラミングを学習する。	

専 門 基 幹 科 目	専 門 科 目	認知情報科学実験1	認知情報科学分野における複数の実験テーマに対し、システム立案・実装からデータの統計処理・報告書作成・プレゼンテーションまでを行うProject Based Learning型の協働学習を通して、学問分野への理解を深めるとともに実験手法の習得とチーム協働スキルの向上を図ることを目的とする。具体的には、ウェブスクレイピングやエージェントシミュレーションをテーマとして取り上げ、人や社会の課題に対して情報処理技術の観点からアプローチする実践的な経験を積む。	共同
		認知科学基礎2	本講義は、人の認知のしくみを理解するために必要となる、心理・行動データに基づく研究手法について基礎的な内容を習得することを目的とする。特に、実験法や質問紙調査法などの代表的な心理学研究手法を取り上げ、それぞれの手法の特徴や、実施の流れ、注意点を掘り込んでいく。さらに、それらの手法により収集された心理・行動データの整理・分析を行うために、心理統計によるデータ解析の基礎についても学ぶ。心理学研究の手法について学ぶなかで、科学的な研究アプローチにおいて重要な考え方を身に着けるのと同時に、実験・調査やデータ分析におけるICT活用(pythonを利用した実験環境の構築やRを利用した心理・行動データの分析)を実践的に習得していくことを目指す。	
		人工知能基礎2	本講義は、機械学習や不確実推論、ニューラルネットワークといった知的情報処理を実現するための基礎的な内容について習得することを目的とする。はじめに、コンピュータが訓練データを基に学習して未知のデータから分類、予測する手法について学ぶ。ここでは、ルールベースでの推論や線形回帰についてその仕組みの解説を行う。次に、平均値や分散などの真のパラメータがわからない場合に、手持ちのデータから最尤推定やベイズ推定により推測を行う不確実推論手法について学習する。その後、ニューラルネットワークや誤差逆伝播法の概要について学び、その仕組みについて習得する。	
		マルチメディア基礎2	本講義は、マルチメディア情報を活用したシステムを開発するために必要となる、デジタル信号に対する情報処理について学ぶ。具体的には、まず高速フーリエ変換、デジタルフィルタなどのデジタル信号処理の基礎的な内容について学習する。続いて、画像・映像や音声に対してこれらのデジタル信号処理技術を適用する方法について、プログラミング演習も取り入れながら実践的に学ぶ。また、これらの応用アプリケーションなどについても取り上げる。	
		ソフトウェア基礎2	ソフトウェアを開発するためのプログラム言語と様々な情報を扱うシステムを開発するために必要となるデータベースの基礎的な内容について学習する。具体的にWebの仕組みを利用したアプリケーション(Webアプリケーション)の開発をとおして、この2つの学習を進める。まず最初に、Webアプリケーションの基本構成(Webブラウザ、Webサーバ、データベース)を理解する。次に、データベースへの書き込みやデータベースからの読み込み処理を持つWebアプリケーションを開発し、プログラミングとデータベースの基礎を習得する。	
		ネットワーク基礎2	本講義では、ネットワークを活用したシステムの安全性を担保するために必要不可欠な、ネットワークセキュリティに関する基礎的な内容について学習する。具体的には、代表的な暗号化方式の概要と、これらの暗号化方式を応用することによって実現されるセキュアプロトコル、認証・認可などについて学ぶ。これらの内容について、基礎的な概念についての学習に加えて、暗号化・復号化を行うプログラムの作成・実行や、セキュアなネットワークの構築、ネットワーク上のデータ観測などの実践的な学習も行うことで、より深い理解を促す。	
		認知情報科学実験2	「認知情報科学実験1」よりもさらに長期的なプロジェクトによるProject Based Learning型の協働学習を通して、学問分野への理解をさらに深めるとともに実験遂行およびチーム協働スキルのさらなる向上を図るとともに、コミュニケーションやデザインのスキルを総合的に習得することを目的とする。具体的には、ユーザに見立てた下級生から要求のヒアリングを行い、求められるシステムのデザイン考案とプロトタイプ作成までを行う実践的なタスクに取り組む。	共同
		認知科学応用	本講義は、学際的な研究領域であるという「認知科学」の特徴をもとに「ICT社会との関わり」という観点からみた、人の知的活動の特性やその応用・発展の可能性について理解を深めていくことを目的とする。そこで、「認知科学概論」「認知科学基礎1」「認知科学基礎2」の内容を踏まえつつ、ICT分野として「人工知能」「マルチメディア」「ソフトウェア」「ネットワーク」の各領域とも関連する「認知科学」「認知心理学」のトピックスを取り上げる。具体的には、「思考・学習」「メディア理解」「感情・感性」「コミュニケーション」などに関わる心理学・認知科学的な知見を紹介しつつ、これからのICT社会を見据えた応用の可能性について検討をしていく。	
		学びの科学・工学	本講義では、人の認知のしくみを基盤とした学習理論・学習科学・教育学の観点から、学習・教育の場やコンテンツのデザイン、教授・学習活動を支援する情報システムなどについて、理論や実践事例を通して学習する。また、本講義で学習したことと履修者の経験を照らし合わせることによって、履修者自身の学びを改善するための方略・環境・しくみについて深く考え、様々な状況における学習活動に着目することを促す。さらにこれらのことを、他者の学びを支援することに転嫁するために必要な事項についても考察することを促す。 (オムニバス方式／全13回) (3 國宗 永佳／4回)主に教育学、教授・学習支援工学の観点から、講義および関連する演習を行う。 (5 高橋 暁子／4回)主に学習理論、教授設計の観点から、講義および関連する演習を行う。 (9 山崎 治／5回)主に認知科学、学習科学の観点から、講義および関連する演習を行う。	オムニバス
		コミュニケーション	本講義は、人の認知のしくみを基盤として、人と人との対話や協調的なグループ活動に必要なコミュニケーションの知識や手法を習得することを目的とする。演習などを通じて、組織や集団で取り組む課題の性質を踏まえつつ、各課題解決に関わるコミュニケーションの特徴を学習する。その上で、組織や集団の生産性向上や問題解決に関わる、人間の情報処理プロセス、集団での意思決定や合意形成、組織内のリーダーシップなどに関する理解を深める。	
		ヒューマンコンピュータインタラクション	本講義は、人間にとって便利なコンピュータ・システムを設計・開発するために必要となる、ヒューマンコンピュータインタラクションの概念及び具体的な技術、システム設計手法などについて学習する。具体的には、まず人間の認知特性やその情報処理モデルを基にしたシステムデザインの手法について学習する。また、ヒューマンコンピュータインタラクションの具体的な技術、特にGUI、ARやVR、エージェントシステムなどについて取り上げる。さらに、それらを評価するための手法についても学ぶ。	
		マシンラーニング	本講義は、事例データや試行錯誤を通して高度な知的情報処理ソフトウェアを開発する技術であるマシンラーニング技術の基礎と演習を行う。具体的には、教師あり学習アルゴリズム(回帰モデル、k-NN、決定木、SVM、単純パーセプトロン、多層パーセプトロン、簡単な深層学習モデル)と強化学習アルゴリズム(SARSA、Q学習、Actor-critic)について扱う。また、各マシンラーニングモデルの検証方法やチューニング方法も解説する。さらに、Pythonを用いた演習を行い、それぞれのアルゴリズムについて理解を深める。	

専 門 展 開 目 録	専 門 展 開 目 録	コンピュータビジョン	本講義では、まず、コンピュータビジョン、いわゆる画像処理とは何か、そして、その技術の歴史、および座標系や色彩、表色系の基礎的な扱い方について学習する。次に、画像のフィルタ処理および周波数空間での処理を関連づけて学習する。また、2次元座標におけるアフィン変換、平面射影変換などの幾何学的変換および補間処理について学習する。2値画像を得るための2値化、2値画像の連結性やラベリング、輪郭線追跡などの2値画像処理の内容について学習する。さらに、オプティカルフローをはじめとする動画像処理やテンプレートマッチングをはじめとする画像認識の基礎的な内容について学習する。	
		ソフトウェア工学	ビジネスの多様化や技術の進展にともないソフトウェアに対する要求を適切に捉えて管理することが重要である。さらに、ソフトウェアの規模と複雑さの増大に対応するために、アルゴリズムやプログラミング技術に加えて、大規模ソフトウェアの機能と性能の達成を裏付けるための、工学的原理及びそれに基づく開発技術が必要となる。本講義では、ソフトウェア開発・維持・管理を行うために必要となる、要求分析・要件定義・設計のためのモデリング技術と、定量的品質管理、レビュー、バグ管理、テスト、構成管理などの開発管理手法について学習する。	
		ネットワーク応用	本講義では、ネットワークを活用した大規模なシステムを開発・運用するために必要不可欠な技術について学習する。具体的には、多数の処理を効率よく実行するための並列処理や、ネットワークに接続された多数のコンピュータを効率よく使用する分散処理、仮想的なコンピュータを実現するための仮想化基盤、サービスとして提供された様々な機能を組み合わせることでシステムを開発・運用するクラウドコンピューティング、システムの性能を明確に示すための指標や分析方法などについて学ぶ。これらの内容について、基礎的な概念についての学習に加えて、具体的なプログラムやシステムを用いて実践的に学習を行うことで、より深い理解を促す。	
		アルゴリズムとデータ構造	情報システムを扱う限りソフトウェアに関する知識は必須である。基本的なデータ構造、プログラミング言語のパラダイムを知らないままソフトウェアを設計すると、様々な問題を抱えたシステムを実現することになる。本講義では、実用的なソフトウェアを開発できるようになるためのデータ構造に関する知識を習得する。基本的なデータ構造とアルゴリズムについて知識を習得するとともに、実際のソフトウェアの仕組みを体験しながら知識と技能を深めてゆくための演習を実施する。	
		ゼミナール1	本講義では、実社会における問題点を自らの力で明らかにするために必要となる、情報収集の方法について学ぶ。また、収集した情報をまとめて他者に説明するために必要となる、文章作成や情報表現のために必要なツールの使用方法や、表現方法についても学ぶ。さらに、自律的に様々な活動を遂行するために必要となる、計画の立案や遂行の方法についても学ぶ。これらのことを学習した上で、専門分野に関する文献調査や文書作成、プレゼンテーションを行うことで、認知情報科学分野の各分野への理解を深める。	
		インターネットの心理学	本講義は、インターネットが様々な人間の活動を担うようになった現代において、どのような影響を利用者と社会に及ぼしているのかについて理解を深めていくことを目的とする。オンライン環境における人間行動の理解には、対面場面での人間行動に関する心理学の知見(社会的認知、対人行動、コミュニケーションなど)も有用であるため、それらも踏まえた知識の習得を図る。具体的には、コンピュータを介したコミュニケーションの特徴、SNSが人と人とのつながりに与える影響、インターネットと社会の関わりなどを学ぶ。以上をもとにインターネットをより活用できるようになることを目指す。	
		デザインと表現	本講義は、人と人あるいは情報システムと人との間の情報伝達を深く理解するために必要となる、データの可視化や情報デザイン、ユーザインタフェース(UI)デザイン、ユーザエクスペリエンス(UX)デザイン、インタラクションデザイン、デザインシステムなどについて実践的な知識を習得することを目的とする。ものやことのデザインにおいて、そのデザイン原則や開発プロセスなどを知るとともに、ユーザである人の視点に立った設計手法および評価手法について学んでいく。さらに、デザインとICTの関わりについても理解を深めていく。	
		フィールド調査	本講義はソフトウェア開発に役立つフィールド調査技法の基礎を習得することを目的とする。人に寄り添ったエンジニアには、現地で対象者(物)を観察したり、話を聞いたりするフィールド調査の技術・スキルが欠かせない。そこで、主にペアワークやグルーブワークによってインタビュー、参与観察、ドキュメント等の質的データを収集し、個人ワークで分析や発表(口頭またはレポート)を行うことで、フィールド調査技法の基礎技術を養う。また、授業全体を通じて量的分析と質的分析との差異や特徴を理解することも目指す。 (オムニバス方式／全13回) (5 高橋 暁子／6回)主に人を対象とした研究方法の概論とインタビュー以外の質的調査技法を担当する。 (38 東本崇仁／7回)主にインタビュー技法・分析を担当する。	オムニバス
		自然言語処理	本講義は、我々が日常的に使用している自然言語をコンピュータがどのように処理するかについて理解することを目的とする。はじめに形態素解析や単語ベクトルの作成、係り受け解析といった基礎的な手法について解説を行う。これにより、どのようにして機械が我々の言葉を扱える形にするか、また単語同士の修飾関係を分析する方法について習得する。基礎的な手法を習得した後に、演習としてインターネット上の掲示板やSNSに投稿された文章のクローリングや、公開されているデータセットを入手することでコーパスを作成し分析を行う。この演習を通じて、習得した分析手法の実践だけでなく、収集した文章に対する前処理の方法やコーパスが持つバイアスについても学習する。	
		グラフィックス	本講義では、まず、3次元コンピュータグラフィックス(3DCG)における3次元座標系や同次座標系、およびアフィン変換などの幾何学的な座標変換を学習する。次に、基本的なモデリングとして、ワイヤフレームモデル、サーフェスモデルなど各種の形状モデル、およびその表現について学習する。また、レンダリングとして、写実的な表現法や隠面消去、シェーディングやマッピング、照明表現の技術などについて学習する。さらに、CGアニメーションとして、その構成や基本的なアニメーション作成技術について学習する。	
		プロジェクトマネジメント	近年、企業や教育機関でプロジェクトマネジメント(PM)が導入されている。その理由は、複雑で多岐にわたる仕事をプロジェクトで実施する割合が増加していることによる。本講義では、PMの基礎知識を把握すると同時にPMを体系的に理解することを目的としている。具体的には、ソフトウェア開発の事例をとおして、PMを10のステップに分類し、事例や図表を用いて平易に概説する。その後、個人演習やグルーブワークを行い、理解した知識を具体的な事例をとおして習得する。10のステップとして、①目標の明確化、②作業の分割、③役割分担と所要時間、④クリティカルパス、⑤スケジュール、⑥負荷の均一化、⑦予算、⑧リスク、⑨進捗管理、そして⑩事後の見直し、を取り上げる。	

専 門 展 開 科 目	専 門 展 開 科 目	データマイニング	本講義は、様々な情報を分析して新たな知見を得る技術であるデータマイニング技術の基礎と演習を行う。具体的には、データの前処理技術(データ形式、抽出、集約、結合、分割、生成、展開)や、様々な教師なし学習アルゴリズム(k-means、自己組織化マップ、階層的クラスタリング、GMM、DBSCAN、主成分分析、アソシエーションルール)によるクラスタリングやデータ圧縮・縮約技術について解説する。また、Pythonを用いた演習を行い、それぞれのアルゴリズムについて理解を深める。	
		センシングとIoT	実世界の様々な情報を収集するために必要となる、センサの種類や扱い方、データの伝送方法、データの蓄積方法など、IoTの構築に必要な事柄について学習する。アナログデータ、デジタルデータ、アナログデジタル変換、IoTのためのマイコンハードウェア技術、IoTのためのリアルタイムモニタ・リアルタイムOS、IoT機器に要求される低消費電力の実現、センサの経年劣化、センサ出力のドリフト、フィードバック制御、クラウドとの接続、セキュリティ技術を学ぶ。	
		経営システム工学	本講義は、経営システムの基本的な知識情報を理解し、企業などの組織で行われる諸活動におけるマネジメントの体系、知識、手法を会得し、自らが活用できるようにすることを目的とする。具体的には、経営システム工学に関する基本的情報、問題の実例を学び、経営の現場において問題発見に必要な情報を収集し活用方法を提示できるようになること、経営システム工学における問題解決や意思決定のための体系的な手法を理解することにより、それを利用し企業および企業の一員である従業員の社会的役割と機能を概説できるようになること、さらに企業などの実務経験者の話を理解でき、適切な質疑ができるレベルになることで、経営システム工学分野の課題につき自分で考え提案することができるようになることを目指す。	
		技術者倫理	本講義では、情報技術者として適切な思考・行動を行うために必要となる、科学技術における倫理の基礎知識や原則について、また、情報技術や情報社会における基本的な倫理観についても学ぶ。これらの基本的な事項について学んだ上で、情報システムや情報サービスに関わる過去のインシデントを例にとり、その経緯について分析を行う。さらに分析した結果から得られる教訓や、再発を防ぐために必要な対策について考えることを通して、情報技術者として必要な倫理観についての深い理解を促す。	
		ゼミナール2	本講義では、研究活動の基礎となる課題発見・課題解決能力と科学的なコミュニケーション能力を涵養するために必要となる、情報収集、情報表現の方法について学ぶ。また、自律的な計画立案・遂行が適切に行われているかを確認し省察を行うことで、より適切な計画立案・遂行を行うための改善を促す。これらのことを学習した上で、複数の問題解決手法が想定される、あるいは問題解決手法が明らかでない認知情報科学分野における問題を文献調査に基づいて発見し、問題解決のための計画を立案する。また、論理的な文書の作成、論理的に構成された資料に基づく口頭発表、科学的な討議などを行う。	
		ゼミナール3	本講義では、研究活動を実施するために必要となる課題発見を、自発的かつ実践的に行う。具体的には、「ゼミナール1」および「ゼミナール2」での学習内容や活動をより発展させた形で、認知情報科学に関する分野や関連分野における文献調査を実施し、その結果について論理的にまとめた文書・資料を作成する。さらに、文書・資料を用いた科学的な討議や意見交換を通して実社会における課題を明確にするとともに、その解決方法について検討する。	
		ゼミナール4	本講義では、研究活動を実施するために必要となる課題解決を、自発的かつ実践的に行う。具体的には、「ゼミナール3」における文献調査、文書・資料の作成、科学的な討議と意見交換を通して得られた、認知情報科学および関連分野における課題を解決するためのしくみや方法論を、実現可能な形で構築する。また、ここで得られたしくみ・方法論について実験的あるいは実践的に適用することで、その効果を科学的に評価する。さらに、その経過について論理的な文書・資料を作成し、科学的な討議や意見交換を行う。	
		卒業研究	本講義では、学部で学習したことを総括する総合的な学習科目として、認知情報科学分野あるいはその周辺分野における課題を発見したうえで、この課題を解決するための研究を行う。また、この研究を遂行することを通して、課題を解決するために必要なタスクの整理と細分化、タスクを実施するために必要となる自律的な計画の立案と遂行、課題解決を行うために必要となる具体的な手法について学習する。さらにこれらの活動を通して得られた成果のまとめ・発表の手法などについて実践的に学習する。	

授 業 科 目 の 概 要				
(情報変革科学部 高度応用情報科学科)				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目	コミュニケーションスキル	英語理解基礎1	本授業では聞く、話す、読む、書くという基礎的な言語活動を通して高校における語彙や文法を十分に定着させ、4技能の基礎的な英語運用能力を養成する。主に基礎的な英文のインプットを繰り返すことにより英語の最低限のルールを習得する。4技能の言語活動をバランスよく計画的・系統的に取り入れることで、基礎的な語彙や文法事項をさまざまな言語活動のなかで繰り返し練習し、実際の場面で使える「能動語彙」や使える「文法力」の習得を目指す。	
		英語表現基礎1	本授業では、高校までに学習してきた語意や文法を用いて、基礎的な英語運用能力の習得に必要な土台作りを目指す。スピーキングでは1対1の会話で相手の主張を理解して要約したり、平易な表現を用いて相手の質問に簡潔に答えたりといったペア・ワーク、またライティングでは英文和訳や自由英作文などで基礎的な文法事項を確認するなど演習形式の授業を通じてコミュニケーションの基礎力の養成を行う。また積極的にコミュニケーションを図ろうとする意欲の養成も目指す。	
		英語理解基礎2	本授業ではコミュニケーションのコアとなる英文法の習得を目指す。多様な例文のインプットに加えて、話す、書くというアウトプットを多量に行なうことで断片的になりがちな文法知識を有機的に関連させる。4技能の言語活動をバランスよく計画的・系統的に取り入れることで、基礎的な語彙や文法事項をさまざまな言語活動のなかで繰り返し練習し、知識としてだけでなく、実際の場面で使える「能動語彙」や使える「文法力」の習得を目指す。	
		英語表現基礎2	本授業では、基礎的な英語運用能力と積極的にコミュニケーションと取ろうとする意欲の習得に向けた演習中心の授業を行う。1対1のスピーキングでは基礎的な内容に加えてさまざまな話題についてのやりとりができるように演習形式の授業を行う。また相手の主張を要約する演習を通じて語彙力の強化も行う。ライティングでは英文和訳や自由英作文などで基礎的な文法事項を確認するなど演習形式の授業を通じてコミュニケーションの基礎力の養成を行う。	
		英語理解基礎3	本授業ではリスニングとリーディングを中心に、英語で発信された情報や考えなどを的確に理解する能力を伸ばすことを主眼とする。題材としては、基礎的な英文で書かれた読み物を用い、まず、音読などを通じて英語の正しい発音を確認するとともに、英語の自然な流れやスピードにも慣れ親しむ機会を設ける。次に、その読み物を精読し、その過程の中で、単に一つ一つの英文を正確に深く理解するだけでなく、文と文とのつながりや内容の展開などにも目を配り、文章全体を把握する能力を養成する。	
		英語表現基礎3	本授業では、会話や作文だけでなく読解や聴解など4技能を複合的に使いながら標準的な英語コミュニケーション力の習得を目指す。2－3名のグループワークを中心にした授業運営を行い、会話やインタビューなど多様なスタイルを活用することで確固とした英語運用能力を定着させる。たとえば他人の意見をパラフレーズして説明することで語彙のネットワークを広げるなど。ライティングでは既習文法事項と新たな語彙を使いながら、より豊かな英語表現のための基礎力の養成を行う。	
		英語理解基礎4	本授業ではリスニングとリーディングを中心に、英語で発信された情報や考えなどを的確に理解する能力を伸ばすことを主眼とする。題材としては、基礎的な英文で書かれた読み物を用い、まず、音読やディクテーションなどを通じて英語の正しい発音を確認するとともに、英語の自然な流れやスピードにも慣れ親しむ機会を設ける。次に、その読み物を精読し、その過程の中で、単に一つ一つの英文を正確に深く理解するだけでなく、文と文とのつながりや内容の展開などにも目を配り、文章全体を把握する力を養成する。更には、その読んだ内容を平易な自分の言葉でまとめる演習を行う。	
		英語表現基礎4	本授業では、4技能(読解、聴解、会話、作文)を複合的に使いながら標準的な英語運用能力の習得を目指す。スピーキングでは2－3名のペア・ワークで一般的な内容に基づいてインタビューする演習を行う。ライティングではより豊かな英語表現のための基礎力の養成をめざして、具体的な状況や話題(大学生活や学習内容)についての作文を行う。また、学生同士でのピア・レビューを通じて、より正確で洗練された英語表現を目指す。	
		英語理解1	長い文を含む文章を読む場合、文の構造を理解する能力が不可欠である。本授業の目的は、文構造を把握するテクニックを身に付け、それを駆使しながら実際に文章を読むことにある。また文構造を把握するテクニックを習得するために、前置詞、動名詞、分詞などの文を長くする原因となる様々な文法事項の復習も行う。	
		英語表現1	本授業では、高校までに学習した内容に加えて新たに語彙力の強化を行いながら、標準的な英語運用能力の習得に必要な土台作りを目指す。スピーキングでは2－3名のグループ内で互いにインタビューをしたり、他人の意見をパラフレーズして説明したりするなどのグループ・ワーク、またライティングでは高校までの既習文法事項と新たな語彙を使いながら、より豊かな英語表現のための基礎力の養成を行う。また積極的にコミュニケーションを図ろうとする意欲の養成も目指す。	

教養科目	教養基礎科目	コミュニケーションスキル	英語理解2	長い文を含む文章を読む場合、文の構造を理解する能力が不可欠である。本授業の目的は、文構造を把握するテクニックを身に付け、それを駆使しながら実際に文章を読むことにある。また文構造を把握するテクニックを習得するために、不定詞、同格、等位接続詞、従属節などの文を長くする原因となる様々な文法事項の復習も行う。	
			英語表現2	本授業では、標準的な英語運用能力と積極的にコミュニケーションと取ろうとする意欲の習得に向けた演習中心の授業を行う。2-3名のスピーキングではより複雑な構文や難度の高い語彙を用いて互いにインタビューする演習を行う。ライティングではより豊かな英語表現のための基礎力の養成をめざして、具体的な状況や話題(大学生活や学習内容)についての作文を行う。また、学生同士でのピア・レビューを通じて、より正確で洗練された英語表現を目指す。	
			英語理解3	本授業ではリスニングとリーディングを中心に、英語で発信された情報や考えなどを的確に理解する能力を伸ばすことを主眼とする。題材としては、標準的な英文で書かれた読み物を用い、まず、音読やディクテーションなどを通じて英語の正しい発音を確認するとともに、英語の自然な流れやスピードにも慣れ親しむ機会を設ける。次に、その読み物を精読し、その過程の中で、単に一つ一つの英文を正確に深く理解するだけでなく、文と文とのつながりや内容の展開などにも目を配りつつ、文章全体を把握し、最終的には、読んだ内容を自分の言葉でまとめられるようになることを目指す。	
			英語表現3	本授業では、会話や作文だけでなく読解や聴解など4技能を複合的に使いながら実践的な英語運用能力の習得を目指す。5-6名のグループワークを中心とした授業運営を行う。教員対学生だけではなく、学生同士のアクティビティを積極的に取り入れることで、自発的な英語運用能力を定着させる。スピーキングでは学生生活などの身近なテーマに基づいて30秒程度のスピーチを作成し、互いに発表し内容をまとめる演習を繰り返し行う。またライティングでは50語程度の自由作文を使って学生同士の添削(peer-review)など、より正確で洗練された英語表現を目指した演習形式の授業を行う。	
			英語理解4	本授業ではリスニングとリーディングを中心に、英語で発信された情報や考えなどを的確に理解する能力を伸ばすことを主眼とする。題材としては、標準的な英文で書かれた読み物を用い、まず、音読やディクテーションなどを通じて英語の正しい発音を確認するとともに、英語の自然な流れやスピードにも慣れ親しむ機会を設ける。次に、その読み物を精読し、その過程の中で、単に一つ一つの英文を正確に深く理解するだけでなく、文と文とのつながりや内容の展開などにも目を配りつつ、文章全体を把握し、最終的には、読んだ内容を自分の言葉でまとめられるようになることを目指す。更には、その内容に対する自分の意見を構築し、発表する演習を行う。	
			英語表現4	本授業では、技能(読解、聴解、会話、作文)を複合的に使いながら実践的な英語運用能力の習得を目指す。スピーキングでは一般的な話題だけではなく、社会問題などについて自分の意見を表現するまとまったスピーチを作成し、互いに発表し内容をまとめる演習を繰り返し行う。またライティングでも自分の意見を論理的に展開する100語程度の自由作文を作成するなど、より正確で洗練された英語表現を目指した演習形式の授業を行う。	
			英語理解発展1	本授業ではリスニングとリーディングを中心に、英語で発信された情報や考えなどを的確に理解する能力を伸ばすことを主眼とする。題材としては、社会問題や時事問題等を扱った読み物を用い、まず、音読などを通じて英語の正しい発音を確認するとともに、英語の自然な流れやスピードにも慣れ親しむ機会を設ける。次に、その読み物を精読し、その過程の中で、単に一つ一つの英文を正確に深く理解するだけでなく、文と文とのつながりや内容の展開などにも目を配りつつ文章全体を把握し、更には、その読んだ内容を自分の言葉でまとめる能力を養成する。	
			英語表現発展1	本授業では、実践的な英語運用能力の習得のための語彙の強化や構文の確認といったコミュニケーション能力の土台作りを目指す。それと同時に積極的にコミュニケーションを図ろうとする意欲の養成も目指す。スピーキングでは学生生活などの身近なテーマに基づいて30秒程度のスピーチを作成し、互いに発表し内容をまとめる演習を繰り返し行う。またライティングでは50語程度の自由作文を使って学生同士でのピア・レビューなど、より正確で洗練された英語表現を目指した演習形式の授業を行う。	
			英語理解発展2	本授業ではリスニングとリーディングを中心に、英語で発信された情報や考えなどを的確に理解する能力を伸ばすことを主眼とする。題材としては、社会問題や時事問題等を扱った読み物を用い、まず、音読やディクテーションなどを通じて英語の正しい発音を確認するとともに、英語の自然な流れやスピードにも慣れ親しむ機会を設ける。次に、その読み物を精読し、その過程の中で、単に一つ一つの英文を正確に深く理解するだけでなく、文と文とのつながりや内容の展開などにも目を配りつつ文章全体を把握する能力を養成する。更には、その読んだ内容を自分の言葉でまとめ、その内容に対する自分の意見を構築し、発表する演習を行う。	
			英語表現発展2	本授業では、実践的な英語運用能力と積極的にコミュニケーションと取ろうとする意欲の習得に向けた演習中心の授業を行う。スピーキングでは社会問題や科学的な話題などの複雑なテーマに基づいて1分程度のスピーチを作成し、互いに発表し内容をまとめる演習を繰り返し行う。またライティングでは100語程度の自由作文を使って学生同士でのピア・レビューなど、より正確で洗練された英語表現を目指した演習形式の授業を行う。	

教養科目	コミュニケーションスキル	英語理解発展3	本授業ではリスニングとリーディングを中心に、英語で発信された情報や考えなどを的確に理解し、それらに対する自らの考えや意見をより深める能力を伸ばすことを主眼とする。題材としては、主に特定の社会問題などを扱った読み物や新聞・雑誌記事などを複数用い、様々な角度から一つの事柄を理解し、その内容を自らの言葉でまとめられるような力を養う。読む方法としても「精読」だけに留まらず、必要な情報や考えをスピーディに探したすのに有効な「速読」などにも挑戦する。また、音読やディクテーションに加え、内容に関する英語の質疑応答などを通じて、聴いている内容の展開やポイントを的確に押さえる能力の養成を目指す。更には、その内容に対する自分の意見を構築し、発表する演習を行う。	
		英語表現発展3	本授業では、会話や作文だけでなく読解や聴解など4技能を複合的に使いながら高度な英語運用能力の習得を目指す。グループ内だけでなく教員やグループ間での双方向的な活動を取り入れた授業運営を行う。スピーキングでは複雑な話題に基づく一分程度のスピーチに対して質疑応答を行ったり、ライティングでは論理的に内容を展開するパラグラフ・ライティングなどを行ったりするなど、より正確で洗練された英語表現を目指した演習形式の授業を行う。	
		英語理解発展4	本授業ではリスニングとリーディングを中心に、英語で発信された情報や考えなどを的確に理解し、それらに対する自らの考えや意見をより深める能力を伸ばすことを主眼とする。題材としては、主に特定の社会問題などを扱った読み物や新聞・雑誌記事などを複数用い、様々な角度から一つの事柄を理解し、その内容を自らの言葉でまとめられるような力を養う。読む方法としても「精読」だけに留まらず、必要な情報や考えをスピーディに探したすのに有効な「速読」などにも挑戦する。また、音読やディクテーション等に加え、内容に関する英語の質疑応答などを通じて、聴いている内容の展開やポイントを的確に押さえる能力の養成を目指す。更には、その内容に対する自分の意見を構築・発表し、授業内で英語での意見交換をする演習を行う。	
		英語表現発展4	本授業では、4技能(読解、聴解、会話、作文)を複合的に使いながら高度な英語運用能力の習得を目指す。一般的な話題だけではなく、社会問題など複雑な話題に基づいて自分の意見や考えを論理的に展開するスピーチやパラグラフ・ライティングを作成するだけでなく、相手の主張を要約したりそれに対して自分の意見を述べるなど、コミュニケーションを続ける技術の養成も目標とする。またあるトピックに基づいてリサーチを行い、それをまとめて発表するなどの演習も行う。	
		日本語表現法	日本語の特徴をふまえ、文章を読解し分析する能力、的確な表現による文章作成の能力を養うことを目的とする。文章には、情報伝達や記録報告などの客観的な文章と、自分の感情や思想を表出する主観的な文章とがあるが、読解や作文のためにはそれぞれの文章の特徴を理解する必要がある。また、言葉の意味、主述の関係などの文の構造、三段構成などの文章の構成といった基本的な知識や技術も習得させたい。様々な文章に触れながら、日本語の基礎力の養成を目指す。	
	情報リテラシー	数理・データサイエンス・AI入門	高度情報化が進む中で、社会生活や大学での調査・研究を進めるためには、学問領域を問わず、数理・データサイエンス・AIに関する基礎的な知識や活用能力が不可欠となっている。このため、情報・知識を複眼的かつ論理的に捉えることができる能力及び情報を防御し、適切に扱うためのセキュリティに関する知識の習得を基盤として、AIの仕組みや汎用性・活用事例、基本データによる統計処理、実際のデータを取得・活用する手法、得られた知見を伝達し共有する手法を身に付けさせる。	
		AI・プログラミング基礎演習	基礎的な数理・データサイエンス・AI入門の後続として、本科目では、AIの機械学習・深層学習を実際に演習することで、AIに対する理解を深め、専門分野での利活用を考察させる。また、プログラミングの基礎演習では、前提となる論理的思考の習得を基盤として、実際に各自でプログラムを作成し動作確認をしながら、プログラムの基本、プログラミング技法、計算機プログラミングの基本を身に付けさせ、専門教育でも応用的に活用できるようにする。	
	人間力養成	スポーツ科学	本科目は、他者とのグループワークとディスカッションを通じてスポーツの技術面や戦術面などにおける課題を見出し、いかにその課題を解決するかを考え、実践する能力の育成を目的とする。スポーツ活動では、積極的な言語的、非言語的コミュニケーションを必要とする場面が多く、さらに身体動作における感覚や技術理論など議論の対象となるテーマが豊富に含まれている。したがって、単に与えられた実技課題をこなすのではなく、さまざまなレベルの受講者が個人のレベルに応じた課題を共に克服し、かつ安全に楽しく取り組むために、受講者自身が積極的に授業参画することにより主体性、課題解決力、チームワーク(協調性)の獲得を目指す。	
	人間力養成	初年次教育	初年次教育は、高校教育から大学教育への円滑な移行と大学での学びの方法の習得や専門を学んでいくための動機づけを担う科目である。授業内容として、履修方法・図書館の利用方法・心と体の健康・高校と大学の学びの違い・レポートの書き方・愛校教育・安全と防災教育および専門科目への動機づけ等を行う。入学直後のガイダンスから学科オリエンテーションも利用し、早い段階で実施する。	
		キャリアデザイン1	大学あるいは大学院を卒業後、社会で活躍するためにはどのような能力を学生時代に身に付けておくべきか？大学での学習効果を向上させるための基本的な作法を習得した上で、自分の足りない部分を把握し、自分の目標を明確にするとともに、授業を通じて人とのコミュニケーション(話す能力・聴く能力・情報を収集して伝える能力)の楽しさを知ることにより、社会で必須となるコミュニケーション能力を高めつつ、目標を持って有意義な大学生活を送り、自らのキャリアデザインを描けるようになることを目的とする。	

教養科目	教養基礎科目	人間力養成	キャリアデザイン2	キャリアデザイン1で描いたキャリアデザインを意識しつつ、日本の社会構造および経済構造を学ぶとともに、企業が陥った過去の失敗例などを教訓にして、自分自身の将来と目標を再確認し、再度大学で何を成し遂げるかについて検討する。 また、企業が行っている経済活動や関連する法律について理解することで、目標を達成するために必要な基礎知識を得ることを目的とする。 さらに、本科目では、学生参加型で実施することにより、社会が求める要素の1つである主体性の獲得を目指す。	
			キャリアデザイン3	キャリアデザイン1・2で習得したキャリアデザインについて、振り返り、目標設定の進捗について、まずは検証を行う。検証した結果、目標の見直しが必要な学生については、要因等について、分析を行い、再設定をする。 また、進路について、学科毎に特性が偏る時期であることから、学科の分野を考慮した上で、卒業生に協力いただき、業界についての知識を深める(違いを知る)ことにより、学生が目指すキャリアデザインが達成するためのイメージを獲得することを目的とする。	
	教養共通科目	国際理解	異文化理解	本科目では、外国及び時空を異にする自国の文化、具体的には、その音楽、美術などの芸術、言語、思想、歴史、民族、社会、芸能、風俗、習慣等をいくつか取り上げ、先ず学生に紹介し、問題提起をし、意見を求め、自分の考えをまとめさせる。それから、それを自国の文化をも含めいろいろな文化と比較・検討し、必要ならば自分の考えを修正させる。そのことを通して、ものごとを多角的且つ客観的に見る、いわゆる複眼思考を養うと共に、結果として自国の文化を見つめ直し、より深く理解してもらう。	
			言語と文化1	本科目では、日常会話が自然と口から出てくることを目標に、日本語など他の言語との比較をも考慮しながら、英語以外の言語の基礎を発音から一つ一つ丁寧に学ぶ。また、その文化圏の人々の考え方を理解するために、積極的に人々の生活や文化、社会にも触れていく。以上のことを通して、多角的且つ客観的に日本及び日本文化を見つめ直し、理解を深めると同時に、日本が国際社会においてどのように見られ、評価されているのか、我が国の国際社会における立ち位置を確認したい。	
			言語と文化2	本科目は、「言語と文化1」の続編をなすもので、さらに「言語と文化1」で学んだ外国語及び文化・社会についての理解を深めて行くことを目的とする。語学一辺倒ではなく、その地域の文化・歴史・社会等をさまざまな角度からとりあげる。その際、文学や音楽等の文化的側面及び日本とその国との歴史的つながりばかりではなく、最近の日本をとりまく国際情勢や社会情勢などにも積極的に触れていきたい。以上の学習をとおして、ものごとをいろいろな角度・立場から眺め直す「複眼」を身に付けさせたい。	
			グローバル時代の法	そもそも法とは何であり、現代のグローバル社会において法の存在はいかなる意味を有しているのか。法というものの定義から始まり、法全体にわたる基本的な知識を習得することがこの授業の目的である。まずは法の概念や法の分類といった一般的な問題について検討した上で、財産と家族について定める民法と、犯罪と刑罰について定める刑事法について学習し、さらに、グローバル時代においてますます重要性を増す国際法についても学習する。	
			国際社会論	国際社会の中に生きる人間として必要な知識と思考力を養うため、世界の政治経済、言語、文化、歴史、人の移動、環境や食糧問題、平和に関する問題などについて多角的に学んでいく。その際単に個別の知識を並列的に得るだけではなく、それぞれのテーマを関連づけて理解することで、国際社会の現状に対する包括的な認識を獲得することを目指す。そして将来においても、世界の中で日々生まれてくる諸問題に対し自ら学び、積極的に取り組む態度を身につけることが目標である。	
	人間・社会・自然の理解		哲学	哲学を学ぶことを通じて、人間とは何か、また人間は世界といかに関わっているかという事柄について考え理解するための観点や思考方法を身につけることを目的とする。これまで展開されてきた哲学史の中でなされてきた議論の要点を参考にしながら、人間と世界のあり方を考察するための様々な問題設定の方法や論理的な思考方法を学ぶ。その上で、知識、行為、価値、存在、自由、自我、他者といった事象をめぐる諸問題について理解し、それについて自ら考える力を養い、さらに新たな問題を発見する態度を身につけることを目標とする。	
			倫理学	「倫理学」では、現代文明が直面する倫理的問題のなかでもいわゆる「応用倫理」と呼ばれるものをとりあげる。まずそれらが現代の科学技術によってつくりだされていることを確認したうえで、問題を解決しつつ問題発生を防止するためには、われわれ人間はこうした科学技術をいかに管理してゆくか、また、そのときに技術者の役割と責任はどのように考えるべきか、13回の講義をとおして事例などを紹介しつつ、考える力を養成することを狙いとする。	

教養科目	人間・社会・自然の理解	教養共通科目	文学と芸術	文学作品や芸術作品の鑑賞や批評を通じて、人間への洞察を深め、ものの見方、感じ方、考え方を広げることを目的とする。また、それぞれの作品が生み出された時代や社会の背景を理解する。人間の感情および思想の表象原理、作品の主題、その歴史的社会的意義を明らかにしながら、人生の目的や価値について考え、よりよく生きることの意味を探り、豊かな感受性を育む。さらに作品受容に関して、批評とはどのようなことかを検討し、批評主体の確立についても考察を深めたい。	
			歴史と人間	過去から現在に至る人類の歩みについて、政治・経済・社会・宗教といった幅広い観点から理解するための基本的な視座を提供する。日本史や世界史の基礎的な知識をあたえるだけでなく、それぞれの地域の歴史がもつ独自性と世界史的な普遍性の両面に光をあてることで、過去の事象を世界規模の時系列的な因果関係のなかに位置づける能力を養う。他日、国際社会に出た学生が、独善に陥ることなく自国の置かれた立場を理解し、客観的に自らの立脚点を説明することに耐えられる資質を育てる。	
			心理学	本講義では、心のメカニズムについて科学的手法により解明された知見とその応用を解説する。具体的には、人の認知・思考、感情、行動のそれぞれの特徴、関連の仕方、発達の変容に関する理論を取り扱う。さらに、そういった心理学の知見や理論が社会の様々な場面で活用されていることを紹介し、グループワーク等も実施する。本講義のねらいは、学生が自分自身や他者に対する理解をより一層深めること、心理学の知識を生活に応用し役立てることができるようになることである。	
			身体と健康の科学	本科目は、単にヒトの「身体」や「健康」についての知識を獲得するのではなく、専門分野の枠を超えて人文科学、社会科学、自然科学などの様々な学問分野との関連を踏まえながら共通に求められる知識や思考法の獲得を目指す。特に、超少子高齢社会に突入した我が国では、人々が健康で豊かに過ごす時間を延伸することは非常に重要な課題となっている。それと同時に、ヒトの「身体」や「健康」とは何かについて考え直す時期にも来ている。社会構造の急激な変化や科学技術の進展に伴う人間の価値観の多様性を踏まえながら、「身体」や「健康」について考察する。	
			憲法と社会	そもそも憲法とは何であり、人間社会にとって憲法の実在はいかなる意味を有しているのか。憲法というものの定義から始まり、憲法全体にわたる基本的な知識を習得することがこの授業の目的である。古今東西の様々な憲法に共通する憲法の基本原理を学んだ上で、とくに日本国憲法についての理解を深める。日本国憲法は統治機構と権利章典という大きく二つの部分から構成されているが、この両者についてできるだけ正確な知識を身に付けることをめざす。	
			政治と社会	そもそも政治とは何であり、人間社会にとって政治というものの存在はいかなる意味を有しているのか。政治というものの定義から始まり、政治全体にわたる基本的な知識を習得することがこの授業の目的である。まずは政治の中心となる権力の概念や様々な政治思想について学んだ上で、とくに国家的な政治現象に焦点を合わせ、具体的な事例を取り上げつつ、地方自治を含む国内政治と、近年ますます重要性を増す国際政治をめぐる諸問題について考察する。	
			経済学	当科目では、ミクロ経済学およびマクロ経済学の基本的な考え方や分析手法を習得するとともに、現代経済の各場面にそれらを応用し、経済学的に思考することや、それを通して社会を考察することの意義に気づくことができるようにする。価格機構／市場原理の理論やその社会的意味などを多面的に考察したのち、経済主体、金融、財政、社会保障などの分野に言及する。授業では、教員による講義のほか、演習問題などを通じて簡単な理論や数式を用いた分析を受講生自身に取り組ませる。	
			現代社会論	現代の日本社会、及び国際社会における諸問題について具体的に考察をしながら、現代社会のありかたについて認識を深めていくことを目的とする。とりわけ、労働問題、教育・青少年問題、国際的な公害・環境問題、戦争と平和をめぐる問題、家族や子育ての問題、福祉や社会保障の問題、情報環境の変化をめぐる問題等をとりあげながら、考察を深めていく。そして、授業を通じて、現代社会に生きる市民として、幅広い視野とグローバルな視点をもって自ら主体的に考え、行動することができる教養・態度・能力を身に付けることを目標とする。	
			科学技術史	本科目では、科学と技術の展開をそれらの相互関係を含めて歴史的に検討することを目的とする。科学の歴史としては、ニュートン力学を中心とした近代科学の成立過程を含めて、当時の自然哲学者・科学者たちが対峙した困難を当時の文脈から検討し、それらの科学的意義を理解していく。技術の歴史としては、イギリス産業革命における綿工業の展開や蒸気機関の発展などを理解するとともに、19世紀以降の科学と技術の接近とそれらの共進化的展開および社会との関係なども分析する。	
			環境科学概論	本講義は、科学技術の進歩に伴う地球規模での環境変化を事例に挙げ、広範で複雑な環境問題の現状を、物質を中心とした視点から把握すると同時に、科学的解決法の糸口を探ることを目的とする。特に温暖化、オゾンホール、酸性雨、生物多様性の喪失、食糧、砂漠化、原子力、廃棄物等の事例について詳細に解説し、これらの問題を解決するために開発された新技術や新素材による将来像を展望して、材料科学の観点からも環境科学を学ぶ。また、未来へと繋ぐ環境の姿を考察し、現代に生きる人間としての規範も考える。	

教養共通科目	人間・社会・自然の理解	生命科学	本講義では、生命の神秘、多様性、遺伝子支配の重要性についての理解を深め、人類が直面する資源、環境、エネルギー問題へと関心を高めさせることを目的とし、まず生物の生命の基本となる、細胞の理解に始まり、その構造と機能、細胞を構成する物質の理解、細胞の増殖・分化・老化・代謝（解糖系・呼吸・光合成・窒素同化）、細胞間相互作用等について学ぶ。さらに、多細胞生物に特有な発生・形態形成のメカニズムに触れ、遺伝子の本体、伴性遺伝、欠失、突然変異などの遺伝現象を理解する。	
		地球科学	人間の生活環境としての「地球」の創生と構造、進化をテーマとする地球科学の講義を行う。地球全体の歴史と関連させながら、地球や地球で生じている諸現象についての基礎知識を与える。また、人間活動と資源・エネルギー、地球環境の関係の調和を保ちながら、社会の持続的発展を考える契機を与えることを目標とする。講義で取りあげる主な項目は、地球の形状、地球の活動と歴史、プレートの運動、地層の形成と地質構造、地球の熱収支、大気と海水の運動、地球環境の変遷などである。	
		物理の世界と先端技術	現代の自然像の形成に大きな役割を果たしてきた種々の物理的視点について講義し、それらの視点に基づいて、物理の世界をより深く理解することを目指す。また、このような物理的視点が先端科学・技術にどの様に結びつき、人々の生活への影響を通して社会と如何に関わっているかについて、自発的に考える力を身につける。講義で取りあげる主な項目として、力と運動の関係を基礎とする力学的自然観、熱現象とエネルギー・エントロピー概念、電磁気現象と「場」の考え方、現代の物理的世界観（時間・空間と相対性、物質・光に対する粒子・波の二重性と量子論など）が挙げられる。	
		物質科学	本科目は、現代人の常識として必要な化学の基礎知識を習得し、化学の根底にある考え方を理解して、物質を科学的に見ることができる正しい見識を涵養することを目的とする。物質の分類と基本構造、化学結合と物質の性質、化学量論と化学反応の基礎等を教授し、様々な物質が満ちあふれている現代社会において物質を科学的にとらえて論理的に思考できる基礎を与える。また、身近な物質、材料開発の最前線などの話題を取り上げて、化学のおもしろさ、現代化学の自然観・物質観が理解できるように配慮する。	
		課題探究セミナー	本科目では、少人数制による主体的な学び、受講者同士の積極的な討論、グループワークなど、受講者自らの思考を促す能動的な学習方法であるアクティブラーニング形式により授業を展開する。具体的には、国際問題、日本文化・歴史、社会、人間、芸術、環境、健康、生活などのテーマや課題を選定し、それについて様々な学問分野の知識を活用しながら、総合的な判断力や解決力を育成する。また、個人やグループの考えをまとめ、文章や図表等を用いて論理的にかつ適切にプレゼンテーションする基本的な能力の獲得を目指す。	
		総合学際科目	本科目では、教員からの一方的な教授形態ではなく、幅広い応用的な知識・理解を深める講義と受講者同士の討論や発表などの演習を融合した受講者参画型の能動的な授業を展開する。このような授業形態を通じて、各学問分野の知識・理解を受講者自らが融合・発展させながら、国際問題、日本文化・歴史、社会、人間、芸術、環境、健康、生活などのテーマや課題について新たな視点や角度から捉え直すことにより総合的な判断力や理解力を身につける。また、個人やグループの考えを論理的にかつ適切に伝達する能力を習得する。	
教養特別科目		イングリッシュアクティブラーニング1	本授業では英語を単なる知識としてではなく積極的に運用する能力の養成を目指す。特にライティング能力を向上させることを目指した授業運営を行う。ある話題に基づいてリサーチを行い、A4で3枚程度（1500-2000語）のエッセイを完成させる。正確な英語表現だけでなく、パラグラフ内またはエッセイ全体で概念や意見を論理的に展開させる方法の習得を目指した作文練習や、教師または学生同士による添削を通じて、洗練された文章への感覚を養うことも目標とする。	
		イングリッシュアクティブラーニング2	本授業では英語を単なる知識としてではなく積極的に運用する能力の養成を目指す。特にプレゼンテーション・スタイルの授業運営を行う。ある話題に基づいてリサーチを行い、グループ内でのディスカッションを通じて内容を決め、最終的にグループごとに英語で5分程度のプレゼンテーションを行う。正確な英語表現のための演習に加えて、効果的なプレゼンテーションを行うための表現法（アイ・コンタクトやボディ・ランゲージ）の練習も行う。こうしたグループ内での共同作業を通じて積極的にコミュニケーションを図ろうとする能力の養成も目指す。	
		イングリッシュアクティブラーニング3	本授業ではブリティッシュ・ヒルズ（福島県白河）を利用した冬季集中講義に参加し、英語を単なる知識としてではなく、積極的に運用する能力の養成を目指す。	集中
		日本語アクティブラーニング	本授業では、日本語を上級者として運用する能力の育成を目指す。特に日本語による学術論文や技術分野等のライティング能力を向上させること及びそれらをわかりやすく伝達する表現の手法を、グループ演習等を通じて身につけさせる。	
		スポーツアクティブラーニング	本科目は、スポーツ実践ならびにスポーツの様々な局面を題材としたグループワークとディスカッションを中心に授業を展開し、課題解決力、状況把握力、ストレスマネジメント力、リーダーシップ、チームワーク（協調性）を發展的に育成することを目的とする。特に、授業内では短期間の宿泊学習プログラムや他大学との連携プログラムなどを実施することにより、より高いレベルでのスポーツ活動を実践することで授業の目的を達成すると同時に、スポーツならびにその価値を幅広い視点から客観的にとらえ、多角的に物事を考え、実行する力の獲得を目指す。	集中

教養科目	教養特別科目	ソーシャルアクティブラーニング	個々の学科の専門的な学問体系を基礎とし地域、社会活動を体験することによって、学んできた知識を実際の体験から学問的な再確認をし、社会で活用できる知識とする。さらに、新たな視野を得るとともに、自らの社会的役割の認識をし、必要な資質や能力の向上を図る。自治体や地域社会との連携を重視し、より実践的な体験や問題に取り組むことにより調査、体験を主体とした活動の中から、自己の能力向上を図る。	
		国際インターン	本科目では、学生が夏休み等を利用し海外の企業等で2週間程度の期間就業体験を行い、世界で活躍する高度専門技術者として求められる専門知識やコミュニケーション能力を養うことを目的とする。具体的には、本学の海外交流協定校の協力を得ながら、海外に進出した日本企業や現地の大学、優良企業等でインターンシップを行う。本科目は受講資格として語学力による一定の制限を設ける。また、渡航前の指導として海外での生活や現地文化に関する講習を行い、学生からの海外就業体験報告書、面談等により科目成績評価を行う。本科目の運営及び成績評価は国際交流委員会が行う。	
		国内インターン	社会との差を実感することにより、技術者としての目標を明確にすることを目的とする。体験先は、本学の取り組みや学生気質を理解している産官学連携協議会の加盟企業や求人をしていただいている企業で行うことにより、目的の達成を目指す。 なお、事前指導については、目的を持って臨むためのワークやマナーについても行う。また、事後指導では、今後の目標を明確にするだけでなく、発表等を行うことで、学生間での情報共有を行い、社会で必要となる資質を理解すると共に、異なる業種・職種について理解をすることで、社会への理解も深める。	
		ボランティア	本科目は、社会の一員としての意識を持ち、社会の発展のために積極的に関与できる態度を養うことによる人間力を高めることを目的とする。 具体的には、事前指導により社会貢献の意義と役割について理解させ、ボランティア活動の現状と課題について認識したうえで、実際のボランティア活動を通して、体験的に学習し、ボランティア活動に対する理解を深めるとともに、社会貢献とボランティア活動との関連について学習することにより、地域貢献への参画意識を高める。	
		キャリアアップラーニング	本科目は、大学で培った幅広い知識、専門的な知識や技術を社会で発展的に活用するために、大学の指定する外部資格を受検してその取得を目指すための継続的な学習指導を行う。特に工科系大学の学生として有益な、高度情報化社会で働くことを前提とした「ITパスポート」や、技術の応用や新技術の実装を前提とした「知的財産技能検定」などの資格取得を目指す。	
		総合科学特論	本科目では、教養共通科目で扱った内容を発展させ、現代科学の幅広い分野の理解を深める講義と受講者間の討論や発表などの受講者参画型の授業を展開する。このような授業形態を通じて、各学問分野の知識を受講者自らが融合・発展させながら、現代社会が抱える諸問題について新たな視点から捉え直すことにより総合的な判断力や理解力を身につける。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	専門基礎科目	数学基礎	本講義は、各専門課程で必要とされる初等関数と微分積分の基本的な知識・計算力の習得を目標とする。 各種の初等関数について、値の計算や、三角関数の加法定理、指数・対数法則等の基本的性質を論じる。 また、微分係数、導関数の定義を説明して、初等関数の微分公式を詳述し、和・差・定数倍、積、商、合成関数の微分の計算に習熟させる。さらに、不定積分について、初等関数の積分公式、置換積分法、部分積分法を詳述し、また、定積分の基本的な計算にも触れる。	
		線形代数基礎	今日では、コンピューターの計算処理能力の飛躍的向上により、従来の数理科学、工学などの分野にとどまらず、経済学に代表される社会科学方面においても、ベクトル・行列を用いたモデルを構築し、対象とする現象を解析することが当たり前のことになってきている。このような時代に生きるエンジニアにとって、ベクトル・行列に関する基本事項、すなわち、線形代数の基礎を理解し、現実の場面においてそれらを適切に適用する能力は必須のものとなっている。 この講義では、行列の演算からはじめ、行列による連立1次方程式の解法、行列式の計算を通して、線形代数に関するエンジニアとしての最低限の素養を身につけさせることを目指す。	
		微分積分	本講義では「数学基礎」から更に進んだ内容の微分積分を学ぶ。講義の前半では微分の応用として、関数の近似の一つであるテイラー近似について述べ、これを用いて関数の極値や変曲点を調べる。微分の考えの基には近似の考えがあるが、微分を現実の問題に適用する際にも、近似は重要である。また、偏微分の定義、計算についても述べる。後半ではまず定積分の意味について述べる。力学や電磁気学に現れる物理量や法則の多くが積分により記述されるが、これらを学ぶ際に必要となる積分の知識を講義する。さらに、重積分について述べる。	
		線形代数応用	本講義では、線形代数基礎で身につけた計算技法を土台として、更に進んだ内容の線形代数を学ぶ。前半では、ベクトルの1次独立性・1次従属性、ベクトル空間の基底と次元を論じ、ベクトルの内積とその応用、線形写像について説明する。後半では、固有値・固有ベクトルの概念と、行列の対角化とその計算手順について理解させ、対角化の応用についても触れる。また、例と演習を通じて、1次独立性の判定をはじめとする各種の計算に習熟させる。	
		確率統計	私たちの周囲には、偶然と思われる現象や複雑に見える現象が多くある。また、工学においても、たとえば各種の実験、材料試験、機械の制御、生産工程等において、ばらつきなどを調査したデータの処理・分析が必要になる場面が多くあるが、それら処理・分析の統計的な手法は、確率的な考え方を基礎として成り立っている。 本講義は、確率に重点をおいて、確率の基礎的な考え方や法則を学び、確率分布の概念や、典型的な分布についても習熟することを目的とする。また、確率論を基に、統計的な応用についても紹介する。	
		微分方程式	工学、自然科学の分野にあらわれる様々な現象を数学的に定式化した場合、微分方程式によって表現されることが多く、その解の存在および挙動を調べることによって、取り扱っている問題の解析をすすめることが、すでに一般的な手法となっている。そこで、この講義では、常微分方程式で表される簡単で具体的な例の学習から始め、1階常微分方程式の古典的解法に習熟し、さらに2階定数係数線形常微分方程式の解法を学び、解の振舞いを追跡できるようになることを目標とする。	
		数理モデリング	本講義では、数理モデリング方法とモデルの解析方法を解説する。ある目的を最適化にする数理計画モデル、不確実性を取り入れた待ち行列モデル、在庫管理モデル、時系列予測モデルを中心に、モデリング手法を紹介する。また、膨大な可能選択肢のなかから最適な選択肢を見つける方法として、線形計画法や非線形計画といった数理計画法を解説する。本講義を通じて、様々な計画や設計問題に適用できる数理モデリングアプローチを身につけることを目的とする。	
		離散数学	本講義では、情報科学分野で利用される離散的な数学に関する解説を行う。具体的な項目として、集合・論理、ブール代数、言語とオートマトンなど情報科学の基礎となる項目について講義を行う。講義内容は抽象的なものとなるが、本講義を通して既存の情報技術を抽象的に捉え、様々な技術の共通部分などを抽出できる能力を身につけることを目的とする。	
		情報数学1	情報科学の諸理論を理解するためには、数学の基礎知識の習得が不可欠である。本講義では、機械学習をはじめ、さまざまなデータ処理の基礎となる線形代数を学ぶ。具体的には、ベクトルと演算、行列と演算、行列式、線型空間と線形変換、固有値と固有ベクトル、行列の対角化、ジョルダンの標準形などの基礎知識を習得することを目的とする。また、論理的思考力および記述力を養うことも目的とする。	
		応用解析	ラプラス変換とフーリエ級数を理解することが目的である。工学(電気回路、自動制御理論など)に現われるラプラス変換およびその逆変換を用いて、定数係数線型常微分方程式を解くことを目標とする。 弦の振動や熱伝導を表す偏微分方程式の解析などに必要なフーリエ級数展開を用いて偏微分方程式の境界値問題を解くことを目標とする。	
		統計解析	データの統計的分析方法の基礎知識の習得を目的とする。加えて、これらの知識を用いて実験や測定で得られたサンプルを適切に分析・評価する能力、特に、限られたサンプルによる母集団の一般的特性の推定や、サンプル群の差に対する科学的判断が行える能力を養う。主な内容としては、度数分布、代表値、分散、相関分析、回帰分析、確率分布、推定、仮説検定、分散分析などを取りあげる。	

専 門 基 礎 科 目	専 門 基 礎 科 目	社会数理解モデリング	人間や社会の振る舞いを記述・分析する数理解モデルを学ぶ。人間の効用関数や心理・行動特性といったミクロの視点から、戦略と均衡などのメゾの視点、経済や社会制度のようなマクロの視点まで幅広く学ぶ。具体的には、合理的選択理論、期待効用理論、確率モデル、非協力ゲーム理論、協力ゲーム理論、社会選択理論、閾値モデル、微分方程式モデル、ネットワークモデル、構造モデルなどである。	
		情報数学2	情報科学の諸理論を理解するためには、数学の基礎知識の習得が不可欠である。本講義では、確率統計学やデータサイエンスの基礎となる微分積分を学ぶ。具体的には、初等関数、数列と級数、1変数関数とその微分・積分、多変数関数とその微分・積分、微分方程式、最適化法などの基礎知識を習得することを目的とする。また、論理的思考力および記述力を養うことも目的とする。	
		線形代数特論	本講義は、線形代数における抽象的ベクトル空間の理論を通じて代数的構造について理解し、抽象的・数学的な証明の技法を身に着けることを目的とする。前半は、まず空間ベクトルの性質、内積・外積、空間内の直線や平面の方程式について学び、続いて抽象ベクトル空間の定義と例、ベクトルの一次独立性、部分空間の定義と例、ベクトル空間の基底や次元について学習する。後半は、写像の定義と例、全射・単射、核と像、次元公式、線形写像の行列表示、同型写像、取り換え行列といった内容を取り上げる。	
		初等整数論	本講義は、整数の基本性質を理解し証明を行うことができようになる、さらには群の基本的な構造を理解し簡単な性質を証明することができる能力を身に着けることを目的とする。前半は、まず約数・倍数の定義と素数、公約数・公倍数の定義と計算について学び、続いてユークリッド互除法、一次不定方程式の解法、多項式の中での公約式や公倍式、互除法、不定方程式などを取り上げる。後半は、素因数分解の一意性とその意義や応用、剰余類の概念、整数問題の解法、合同式の計算と逆数、合同式の計算の群論的解釈、群の定義と例、置換群、部分群と剰余分解、暗号理論への応用などについて学習する。	
	専 門 科 目	高度応用情報科学概論1	全教員によるオムニバス形式。学科で学習する内容を網羅的に理解し、学習意欲の方向づけを行う。 (オムニバス方式／全13回) (5 屋代 智之／2回)高度応用情報科学におけるカリキュラムツリーを解説するとともに、担当する情報メディア基礎、NWプログラミング応用演習、IoTシステム、LANの位置付けを明らかにし、学習意欲の方向づけを行う。 (1 熊本 忠彦／2回)高度応用情報科学学科のカリキュラムツリーに対し、主担当であるICT基礎、TCP/IP概論、情報リテラシ演習1、Webプログラミング応用実験の位置付けを明らかにし、学習意欲の方向づけを行う。 (2 徐 春暉／1回)データサイエンス入門、データサイエンス演習で学ぶことの全体像を提示し、学習方法と意欲づけを行う。 (3 滝 聖子／1回)行動科学分析、人間工学、マルチメディア情報処理で学ぶ内容を概説し、学科カリキュラムツリーでの位置付けを説明する。 (4 西松 研／1回)情報ネットワークの概要、及び、背景を紹介し、通信、及び関連分野全般の理解を深める。 (6 山口 智／2回)離散数学、機械学習基礎、機械学習応用、ソフトコンピューティングの高度応用情報科学学科のカリキュラムツリーにおける位置付けを説明し、学習意欲の方向づけを行う。 (7 喜多村正仁／1回)情報数学1、情報数学2、社会数理解モデリングで学ぶ内容の概要を紹介し、数学に取り組む学習意欲の向上を図る。 (8 原 英樹／1回)OSとシステムソフトウェア、データベースの概念や開発事例・利用事例を説明し、その役割を理解させ、学習意欲の方向づけを行う。 (9 矢吹 太郎／1回)情報リテラシ、情報リテラシ演習2、データ構造とアルゴリズム、データサイエンス演習で学ぶことの全体像を提示する。 (10 中川 泰宏／1回)クラウドコンピューティング、クラウド構築演習、ソフトウェア工学、IoTシステム構築実験の概要について解説すると共に、カリキュラムツリー上の位置付けについて理解を促す。	オムニバス
		情報リテラシ	主にウェブ上での情報の扱い方についての講義である。題材は大きく三つに分けられる。第1に、ウェブの基本技術(URL、HTML、HTTPなど)である。第2に、ウェブにかかわる全ての者が知っておくべきこと(ライセンス、暗号など)である。第3に、ウェブにかかわる開発者やエンジニアが知っておくべきこと(ウェブアプリケーション、データベースなど)である。以上についての知識に加えて、自ら情報発信するための基本的な実践力の獲得を目指す。	
		情報リテラシ演習1	本講義では、情報通信技術(ICT)を学ぶうえで必須となる知識やスキルを習得する。具体的には、仮想計算機の利用、Windows OSとLinux OSにおけるコマンド体系の違い、文書作成(LaTeX、Word、サクラエディタなど)とPDF化、表計算(Excel関数)とグラフ作成およびグラフの画像化、プレゼンテーション資料(PowerPointほか)の作成と動画化、SNSや電子メールの利用(炎上、誹謗中傷、迷惑メール、著作権・肖像権等の権利関係)、セキュリティ、Webexの利用、World Wide Webの利用、オンラインストレージの利用、情報検索(Google検索、文献検索、正規表現による検索)、相対パスと絶対パス、環境設定、リダイレクトやパイプ、Webページ(HTML、CSS)の作成といったことを学ぶ。	共同
		ICT基礎	本講義では、情報通信技術(ICT)に関する幅広い知識を学び、情報系技術者としての教養を習得する。具体的には、10進数・2進数・16進数間の基数変換、2進数の負数表現と実数表現、コンピュータとネットワークの歴史、コンピュータの基本構成(制御装置・演算装置・主記憶装置・補助記憶装置・入力装置・出力装置)、機械語とアセンブリ言語、アルゴリズム(探索法・整列法)、データ構造(配列・スタック・待ち行列)、集合と論理演算、論理回路、ネットワークの基本モデル(OSI基本参照モデル・TCP/IP)といったことを学ぶ。(ICT基礎)	
		情報リテラシ演習2	コンピュータプログラムを読み書きする基本的な能力(データと手続きの抽象化能力)の獲得を目指す。題材は、数と文字列、それらのコレクション(ベクタ、リスト、ハッシュテーブルなど)、それらの複合体(構造体やクラス)などのデータと、条件分岐、反復、関数などの手続きである。構造化プログラミングをサポートしているどんな言語でも、目的に応じてこれらを組み合わせてプログラムを書ける、本質的な知識と実践力を身に付けたい。	共同
		データ構造とアルゴリズム	データの表現方法をデータ構造、データの処理方法をアルゴリズムという。データの表現方法と処理方法を明示したのがプログラムである。基本的なデータ構造とアルゴリズムについての知識は、プログラミングやそれにかかわる活動(グループでのコミュニケーションなど)において、不可欠なものである。本講義では、基本的なデータ構造とアルゴリズムについて、言語またはライブラリとして提供されているものを使うようになること、それらの性能を評価できるようになること、それらを実装できるようにすることを目指す。	

専 門 基 幹 科 目	専 門 基 幹 科 目	情報メディア基礎	本講義では、情報化社会における情報メディアの用語の定義に始まり、情報メディアに関わる様々な技術やコミュニケーション手段を幅広く取り上げることで情報メディアの概要について習得する。社会の情報化が進むにつれて、情報メディアが含む概念と意味は広がり続けている。一方で、これらの用語や概念の理解が十分ではない状態のまま「聞いたことがある」状態での学修により、誤った理解を積み重ねてしまう事例も見受けられる。そこで、以降の学修のベースとなるべく、それらの概念を整理する。	
		TCP/IP概論	本講義では、TCP/IPネットワークの基本概念、基本構成、動作原理、サービスについて学び、情報系技術者としての幅広い知識と教養を習得する。具体的には、ネットワークの基本モデルであるOSI基本参照モデルとTCP/IPの基本構成、TCP/IPの各階層（ネットワークインタフェース層・インターネット層・トランスポート層・アプリケーション層）の概要、IPアドレス(IPv4・IPv6)の構成、ルーティングプロトコル、ネットワークドメインといったことを学ぶ。（ネットワーク応用）	
		NWプログラミング基礎演習	本演習では、ネットワークを介してデータを送受信しながら動作するプログラムの開発手法を学ぶ。具体的には、サーバクライアントモデル・TCPとUDPによる通信方法について説明を行い、簡単なプログラムを作成してその動作の理解を行う。プログラミングに必要な概念である変数・配列・分岐・繰り返し・手続き・オブジェクト指向などについても合わせて説明を行う。基本的文法・定型的な記述方法・ライブラリの使い方についても説明を行う。最終的に学生各自が作成したプログラム同士を通信させることで、ネットワークプログラミングの難しさと解決方法について考察を行い、その理解を深めることを目的とする。	共同
		高度応用情報科学概論2	全教員によるオムニバス形式。学科で学習する内容を網羅的に理解し、学習意欲の方向づけを行う。 (オムニバス方式／全13回) (5 屋代 智之／2回)本概論の位置付けを解説し、また、ネットワーク技術及び位置情報サービスに関する研究内容を概説して、必要な教養、専門知識を明らかにする。 (1 熊本 忠彦／2回)SNSを対象としたデータ工学と感性工学に関する研究を概説し、当該研究分野において必要とされる知識等について説明する。 (2 徐 春暉 /1回)数理モデリング、金融工学で学ぶことの内容を提示し、その応用に関するテーマを紹介し、学習方法と意欲づけを行う。 (3 滝 聖子 /1回)人間情報(生理・心理指標など)を計測する機器・システムや人間工学的的手法を活用した研究事例を紹介し、必要な専門知識について説明する。 (4 西松 研 /1回)様々な情報が得られる現在において、ユーザのニーズにマッチした商品やサービス提供に必要な、ユーザの選好意識の理解、及び、データ分析の考え方を概説する。 (6 山口 智 /2回)ニューラルネットワークおよびメタヒューリスティクスに関する研究内容を概説して、必要な知識について説明する。 (7 喜多村正仁／1回)社会科学において情報や数学がどのように応用されているかを概説する。 (8 原 英樹 /1回)OSおよびデータベースについての概念を再確認させ、それらの理解を深めるという観点からNWプログラミング基礎演習とWebプログラミング基礎実験の学習内容を説明する。 (9 矢吹 太郎／1回)データサイエンスのための開発環境について、通常の講義・演習では扱わない発展的な話題を紹介する。 (10 中川 泰宏／1回)クラウドやIoT (Internet of the Things)に関する技術の紹介とDX (Digital Transformation)における役割の説明を通じて、クラウド時代における情報システムの構築工程について概説する。	オムニバス
		OSとシステムソフトウェア	本講義では、オペレーティングシステム(OS)の概念・機能・運用方法について学ぶ。具体的には、OSの必要性・発展の歴史・構成要素について概説し、次にCPU・メモリ・記憶装置・ハードウェア制御・入出力・割り込みなど低レイヤのコンピュータシステムの動作概念を説明し、その後プロセス管理・プロセス間通信・メモリ管理・ファイル管理・ユーザ管理など高レイヤの仕組みについて説明する。PC用OSとしてWindows・Linuxを例に取り、その基本的運用方法についても説明を行う。	
		情報ネットワーク	本講義は、すべてのITシステムの実現において必須の要素技術となっているネットワーク技術全般について学ぶ。具体的には、今日のインターネットに至るまでのネットワーク技術の進化についてや、ネットワークを構成し、運用するための基本技術を中心に、ネットワーク全般に関する技術概要を網羅的に学ぶと共に、代表的なアプリケーションであるWebや電子メール等の仕組みについて学ぶ。また、最近のネットワーク技術動向と共に、ネットワークの基礎理論として、待ち行列理論やグラフ理論、信頼性評価の概要についても学ぶ。	
		NWプログラミング応用演習	本講義では、Java言語を用いたプログラミングの学修を行いつつ、ソケットを用いた通信を行うアプリケーションを実装する。実際にサーバ・クライアント間でそれなりのデータ量の通信を行い、通信技術の違いによりどのような挙動変化が起こるかを確認する。また、実装に伴い、サーバ・クライアント通信を利用する上で必要な技術を習得する。特にサーバ側でどのような工夫が必要であるかという点についての検討を行い、対処方法を含んだ実装を行い、その挙動の違いを学習する。	共同
		データサイエンス入門	本講義では、データサイエンスの構成要素技術(統計学、多変量解析、AIなど)についての基本的な知識の獲得を目的とする。具体的に、データの特徴を見出す統計的な手法、データから未知を推定し仮説を検定する方法、ファクター間の関係を分析する幾つかの代表的な手法、ニューラルネットワークモデルを取り上げる。データサイエンスの構成方法の解説に重点を置きながら、コンピュータを用いて幾つかの方法を体験させる。	
		データサイエンス演習	データサイエンスの実践のためのコンピュータ環境を構築し、その環境上でデータサイエンスを実践する。実践には、表計算ソフトウェアとプログラム言語を用いる。題材は、コンピュータの操作、データの入手と整形、記述統計、統計的推測、シミュレーション、教師あり学習(回帰と分類)、教師なし学習(次元削減やクラスタリング)、時系列解析、自然言語処理などである。既存のソフトウェアやパッケージの扱いに習熟することを主目的とするが、一部の手法は実装できるようにすることを求める。	共同

専 門 展 開 科 目	専 門 展 開 科 目	データベース	本講義では、ICTシステムで利用されるデータベースの概念、設計、構築、操作手法について学ぶ。具体的には現在主流である関係データベースの基礎概念とその操作言語であるSQL、データベースの必要性・要求機能・設計・管理機能・応用事例について学ぶ。データベースの必要性・要求機能について説明できること、SQLによる関係データベースの基本的な操作が行えること、データベースの設計・管理機能について説明できること、を学習目標とする。	
		LAN	この講義では、Local Area Network(LAN)、無線LANおよびLANに類する技術(Personal Area Network: PANと呼ばれる技術)について学修する。オフィスや家庭内などで複数のコンピュータを結合するLANおよび無線LANはここ数年で驚くべき進化を遂げている。このLANおよび無線LAN、PANについて、その技術的発展の経緯を含めて、その方式、動作原理、問題点とそれに対する解決方法について学習する。	
		Webプログラミング基礎実験	本実験では、Webアプリケーションの構築方法についてプログラミング実験を行う。最初にWebアプリケーションの構成・Webサーバの概念・フロントエンドとバックエンドおよびデータベースの役割分担について説明を行う。続いてHTMLの記述方法・フォームの表示・フォームへの入力内容の受け取り方などフロントエンドの構築に必要な処理を説明する。さらにMVCモデル・状態遷移・データベースとの連携方法などバックエンドの構築に必要な処理を説明する。最終的に新たなWebアプリケーションを構築することで、包括的に理解することを目指す。	共同
		機械学習基礎	講義では、与えられたデータに対して何らかの目的のタスクを遂行するための機械学習に関する基礎的な事項について解説する。学習の種類を教師あり学習と教師なし学習に分類して、教師あり学習としては、直線(または曲線回帰)や階層型のニューラルネットワークなどについて解説を行い、教師なし学習としてはk-means方などを取り上げる。本講義を通して、与えられたデータとタスクに対して、適した機械学習手法を適用して、問題を解決できるようになることを目的とする。	
		行動科学分析	本講義では、人間の行動を科学的に分析・評価をするための、人間情報(生体情報および心理情報)の計測および評価手法について解説する。人間の行動を正しく理解して説明するためには、人間の生体情報だけでなく、心理情報についても分析することが重要である。人間情報を計測する機器・システムを活用した研究事例についても取り上げ、労働または生活の場における身近な問題の発見と解決のために、人間情報から行動を科学的に分析・評価することができるようになることを目指す。	
		金融工学	本講義では、金融投資問題を背景にし、分散投資技術とデリバティブによるリスクヘッジ理論を解説する。講義の中で、金融投資の基本と金融リスクの定量的な測定方法を説明し、Markowitzのポートフォリオ理論による分散投資技術を紹介する。また、リスクヘッジのために開発されたデリバティブと、その利活用戦略を説明し、オプションの価格決定に関する2つ代表的な理論を解説する。本講義を通して、金融投資の目標を実現するための分散投資手法とリスクヘッジ技術を身につけることを目的とする。	
		クラウドコンピューティング	本講義では、インターネットのサービス利用形態の一つとしてサービスのソフトウェア化に大きく貢献するクラウドコンピューティングの基本について学ぶ。具体的には、クラウドコンピューティングを支える技術の観点から、ハードウェア資源を仮想化することでスケラビリティを持たせ、ソフトウェア的なサービス展開を可能にする冗長化・分散化・統合化などの技術について学ぶ。また、利用者の観点から、クラウドコンピューティングによりサービス化されたインフラストラクチャ(IaaS)、プラットフォーム(PaaS)、ソフトウェア(SaaS)の利用法と連携方法などについて学ぶ。	
		クラウド構築演習	本演習では、パブリッククラウドないしパブリッククラウドに見立てたコンピューティング環境を利用してIaaS、PaaS、SaaSの違いについて学ぶと共に、クラウドストレージやクラウドデータベースなどと連携したWebアプリケーションの開発を行うことでクラウドサービス構築に必要な知識と技能について習得する。また、クラウド環境利用時に必要となるネットワークの設計・構築技法やホストやサーバの管理手法についてクラウド環境とローカル環境間で比較することにより、パブリッククラウド、プライベートクラウド、オンプレミス環境の違いについても理解する。	
		ソフトコンピューティング	本講義では、ソフトコンピューティングの手法と具体的なソフトコンピューティング技術について解説を行う。具体的項目としてはファジィ理論、遺伝的アルゴリズム、Nature Inspired Computingなどについて解説を行う。本講義を通じて、与えられた課題に対して、適したソフトコンピューティング手法を適用できる能力を身につけることを目的とする。	
		マルチメディア情報処理	本講義では、デジタル化された音声、画像、動画などのバイナリデータやテキストデータに関するフォーマットやコーデックの仕組み、相互変換手法について学び、それらのデータを活用した分析手法の基本について習得する。コンピュータ・グラフィックス技術、画像処理技術、映像処理技術等について学ぶと共に、マルチメディア情報処理における要素技術、および関連コンピュータシステム、ソフトウェアについても理解することを目指す。	
		情報倫理	社会的行動規範となる倫理の観点から、情報を扱う上で社会全体がより善い姿へと変容できるよう具現化された概念として情報リテラシー、プライバシー、表現の自由、所有権、著作権、法令順守等について習得する。	
		ソフトウェア工学	本講義では、ソフトウェア開発のライフサイクルやプログラム言語の特徴の違いについて学び、開発効率を高める技法やツールなどを紹介することで、ソフトウェア開発に必要な知識や技法について習得する。ここで、ソフトウェア開発のライフサイクルとして要求分析、外部設計、内部設計、実装、テスト、運用・保守について学ぶ。また、開発効率を高める技法としてプロジェクト内でソースコードの管理を効率的に行うバージョン管理ソフトウェアの利用法について学び、開発効率を高めるツールとして高機能エディタ、デバッガ、テストツール、統合開発環境などについて学ぶ。	
		Webプログラミング応用実験	本講義では、サーバサイドのスクリプト言語であるPHPを自ら学習しながら、与えられた2つの課題に取り組むことで、Webプログラミングのスキルを向上させることを目的とする。一つ目の課題は、ブラウザ上で動作するゲームアプリの構築であり、ブラウザを介してのインタラクティブな操作を可能にする必要がある。二つ目の課題は、Web APIを用いたアプリの構築であり、Web上において提供されている様々なWeb APIの中から自分の目的に合ったWeb APIを探し出し、適宜修正したうえで組み合わせることで、新たな用途のアプリを実現することを目指す。	共同

専 門 展 開 科 目	専 門 展 開 科 目	機械学習応用	本講義では、機械学習の応用分野としてディープラーニングや強化学習に関する解説をする。講義の中では、与えられたデータの種類(画像、時系列データなど)に対してどのような形のニューラルネットワークについて具体的な例を提示しながら講義を行う。本講義を通して、与えられたタスクを実現するためのディープラーニングの手法を選択できる能力を身につけることを目的とする。	
		人間工学	本講義では、人間と機械・器具の関係を1つのシステムとして扱い、人間の能力や限界に適するように、機械・器具、作業方法、作業環境を設計する方法を解説し、労働や生活の場における人間-機械系の問題を解決するための手法について理解する。情報通信技術の活用のために、人間の特性(形態的特性、生理・心理特性、認知・行動特性など)や機能を理解した上で、人間特性に適した使いやすかつ安全なマン・マシン・インタフェース設計や効率的な作業システム設計に関する知識を習得することを目的とする。	
		IoTシステム	本講義では、身近なモノをクラウドなどへとつなぎ、情報端末化するIoT(Internet of the Things)の技術について学ぶ。具体的には、センサ技術、アクチュエータ技術、電子回路等の情報端末部分に関する技術、エッジコンピュータやその情報を管理するクラウドなどのサーバが作るIoTインフラストラクチャ、それらの間をつなぐコンピュータ技術、通信技術、分散処理技術の基本について習得することを目的とする。	
		IoTシステム構築実験	本実験では、クラウドに見立てたIPネットワーク上にエッジコンピュータ、Webサーバー、スマートフォンから成るIoTインフラストラクチャを構築し、センサーやアクチュエータと連動したICTシステムの開発を通してIoTシステムの構築に必要な知識・技能を習得する。ここでエッジコンピュータには、外部機器と連携可能な無線インターフェースWi-Fi、Bluetoothを持つマイクロコンピュータ(以下、マイコン)を利用し、センサーやアクチュエータと連携するためにマイコン向けの有線インターフェースUART、I2C、SPI、GPIOを利用する。また、Webを利用したIoTインフラストラクチャ構築のため、エッジコンピュータ、Webサーバー、スマートフォン上でWebアプリケーションの開発を行い、同時にWeb APIの設計手法についても学ぶ。	
		サイバーセキュリティ	本講義は、情報資産をサイバー攻撃や不正持ち出し等から守るために、暗号化、認証、認可等のネットワークセキュリティ技術、情報セキュリティマネジメントや情報セキュリティ法など管理・運用面で必要となる知識、及び、代表的なサイバー攻撃とその対策について学ぶことで、サイバーセキュリティの基本について習得する。また、近年のIoT機器の普及に伴い、IoT機器へのサイバー攻撃も増えており、その内容と対策、課題についても学習する。	
		サイバーセキュリティ実験	本講義は、脆弱性を設けたネットワークシステムを利用し、問題解決型学習で行う。具体的には、実験環境で脆弱性に対する攻撃を行い、ネットワークやシステムにどのような影響がでるかを確認し、脆弱性に対する課題解決方法の検討、及び、課題解決の実施を行う。本実験を通じて、サイバーセキュリティに関する知識と対策の基本について習得する。また、暗号化や認証、認可に関しても、実験環境で設定方法を習得し、技術利用による効果を確認する。	
		高度応用情報科学ゼミナール1	本講義では、各学生は研究室に所属し、教員の指導のもと、単独または少人数のグループで、関連研究の調査、文献等の読解、プレゼンテーション・質疑応答、書面化などを行う。これにより、高度応用情報技術に関する技術者として、問題発見や問題解決方法、グループ内での議論の進め方、論理的な議論の進め方やディスカッション技術、課題および研究内容の表現方法、その他研究・制作活動に必要な知識・技術を獲得することを目的とする。	
		高度応用情報科学ゼミナール2	本講義では、各学生は研究室に所属し、教員の指導のもと、単独または少人数のグループで、関連研究の調査、文献等の読解、プレゼンテーション・質疑応答、書面化などを行う。これにより、高度応用情報技術に関する技術者として、問題発見や問題解決方法、グループ内での議論の進め方、論理的な議論の進め方やディスカッション技術、課題および研究内容の表現方法、その他研究・制作活動に必要な知識・技術を獲得することを目的とする。	
		高度応用情報科学ゼミナール3	本講義では、各学生は研究室に所属し、教員の指導のもと、単独または少人数のグループで、関連研究の調査、文献等の読解、プレゼンテーション・質疑応答、書面化などを行う。これにより、高度応用情報技術に関する技術者として、問題発見や問題解決方法、グループ内での議論の進め方、論理的な議論の進め方やディスカッション技術、課題および研究内容の表現方法、その他研究・制作活動に必要な知識・技術を獲得することを目的とする。	
		卒業研究	本講義では、学部における総合的な学習科目として、各自が所属する研究室において教員の指導のもと、3年次までの学修内容をベースとして一人または少人数グループで研究課題を設定する。その上で作業フローを見積り、課題を細分化した上で、課題解決手法としてそれに対する研究プロセスを検討し、計画的に実施する。最終的にその成果を論文などとしてまとめ、さらに発表を行うことで論文作成手法、プレゼンテーション手法などを習得する。	

校地校舎等の図面

(1) 都道府県内における位置関係の図面

校地校舎等の図面

(1) 都道府県内における位置関係の図面



(2) 最寄り駅からの距離や交通機関がわかる図面



■津田沼校舎

- ・JR総武線 津田沼駅前（南口）
- ・新京成線 新津田沼駅から
徒歩3分
- ・京成線 京成津田沼駅から
徒歩10分

津田沼校舎～新習志野校舎間は
スクールバスも運行
(約15分 3.5km)

■新習志野校舎

- ・JR京葉線 新習志野駅南口から
徒歩6分
- ・JR総武線 津田沼駅南口バスターミナルから
京成バス新習志野駅行(約15分)で
「千葉工業大学入口」下車 徒歩3分



■茜浜運動施設

茜浜運動施設

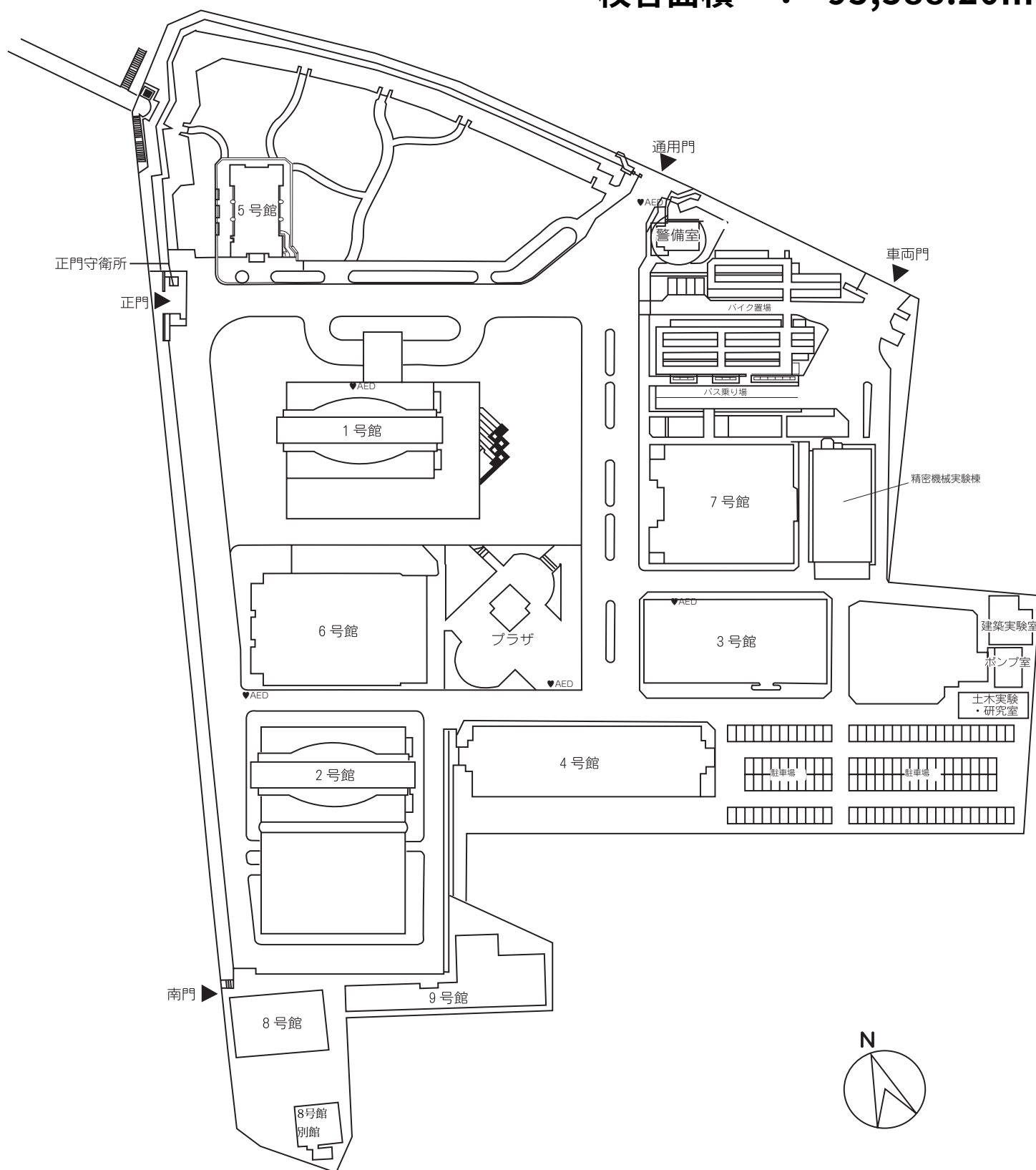
■新習志野校舎

新習志野校舎～茜浜運動施設
(約0.5km 徒歩約5分)

(3) 校舎，運動場等の配置図

<津田沼校舎>

・校地面積 : 53,961.00m²
 ・校舎面積 : 95,588.20m²



<新習志野校舎>

・敷地面積 : 123,574.00㎡

内校地面積 : 103,101.46㎡

・校舎面積 : 45,216.31㎡

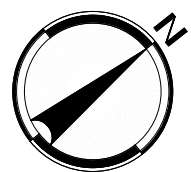
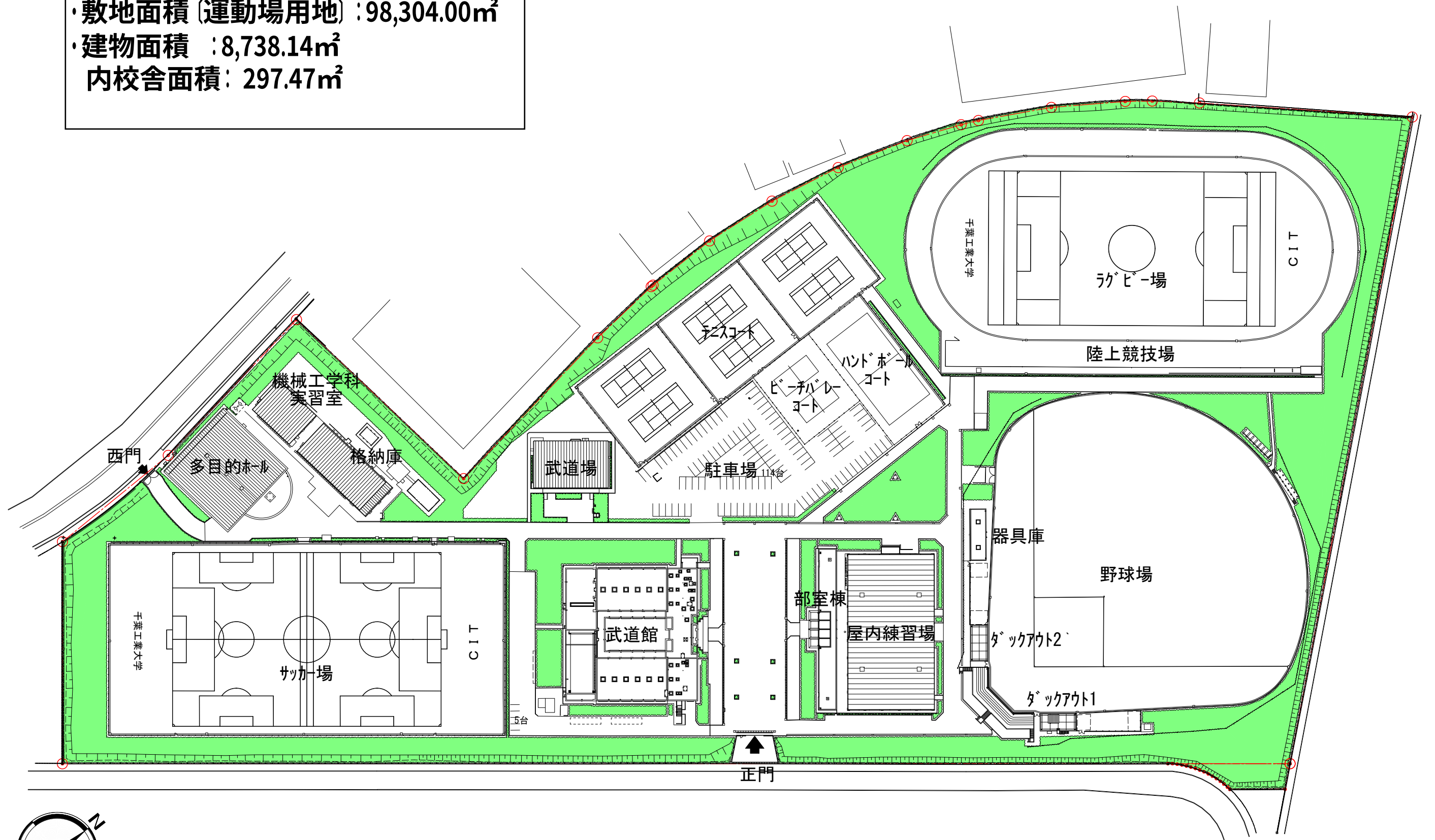


<茜浜運動施設>

・敷地面積〔運動場用地〕：98,304.00㎡

・建物面積：8,738.14㎡

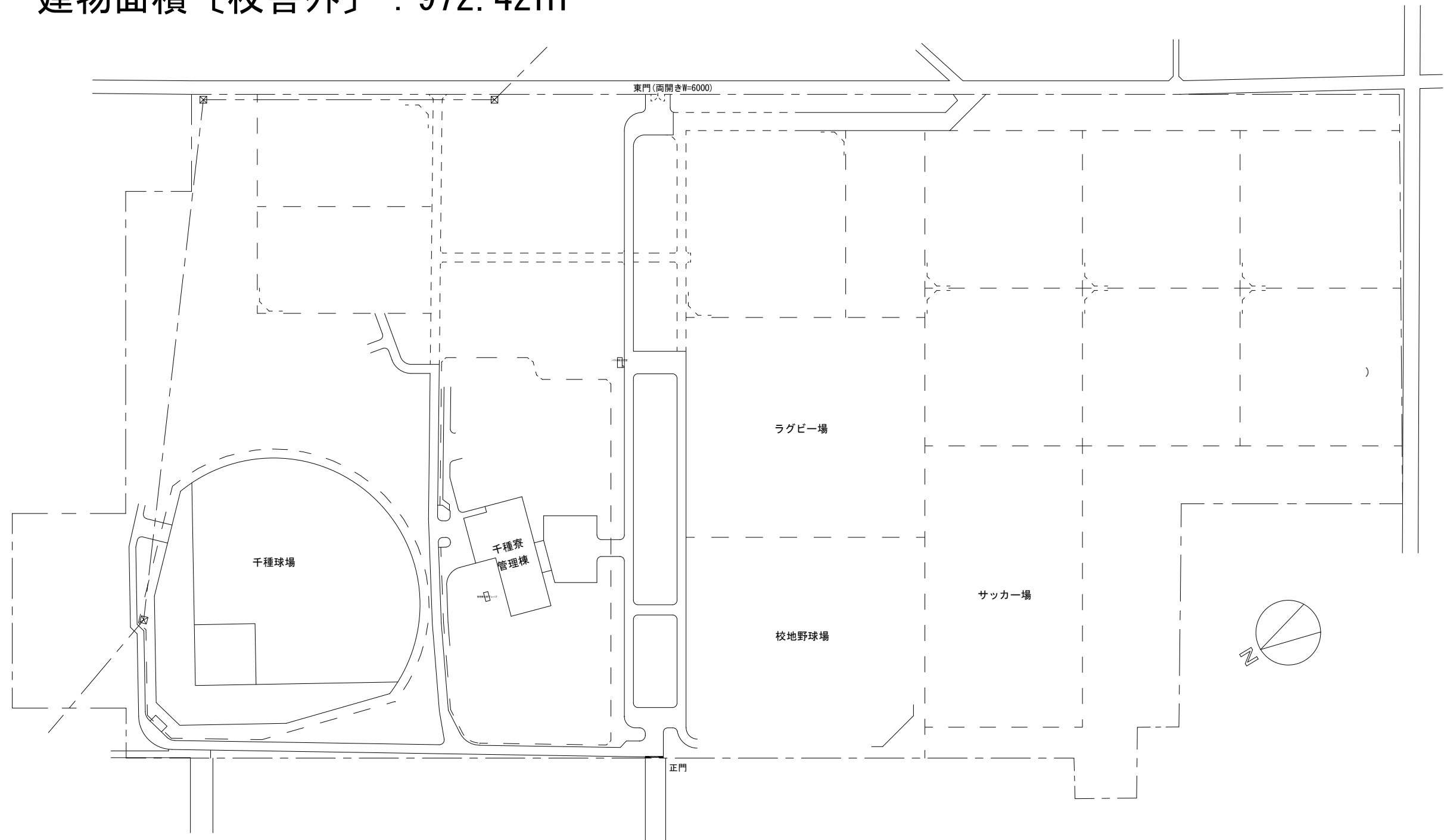
内校舎面積：297.47㎡



<茜>

<千種校地>

- 敷地面積 : 169,898.00m²
内運動場用地 : 155,006.00m²
- 建物面積〔校舎外〕 : 972.42m²



千葉工業大学学則

第1章 目的

(目的)

第1条 本学は、教育基本法に則り学校教育法の定める大学として、科学技術の理論と応用を教授研究するとともに、豊かな教養を備え人類福祉のため進んで協力する意欲と識見をもつ人材を養成することを目的とする。

(自己評価等)

第1条の2 本学は、その教育・研究の向上を図り、前条の目的を達成するため、教育・研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表するものとする。

2 前項の点検及び評価に関する事項は別に定める。

第2章 組織

(学部)

第2条 本学に工学部、創造工学部、先進工学部、情報変革科学部及び未来変革科学部を置く。

2 前項の学部には置く学科並びにその入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。

	学 科	入学定員	収容定員
工 学 部	機械工学科	140名	560名
	機械電子創成工学科	110名	440名
	先端材料工学科	110名	440名
	電気電子工学科	140名	560名
	情報通信システム工学科	110名	440名
	応用化学科	110名	440名
	小 計	720名	2,880名
創 造 工 学 部	建築学科	140名	560名
	都市環境工学科	110名	440名
	デザイン科学科	120名	480名
	小計	370名	1,480名
先 進 工 学 部	未来ロボティクス学科	120名	480名
	生命科学科	110名	440名
	知能メディア工学科	110名	440名
	小計	340名	1,360名

情報 変革 科学部	情報工学科	120名	480名
	認知情報科学科	120名	480名
	高度応用情報科学科	120名	480名
	小 計	360名	1,440名
未来 変革 科学部	デジタル変革科学科	100名	400名
	経営デザイン科学科	100名	400名
	小 計	200名	800名
合 計		1,990名	7,960名

(学部教育・研究上の目的)

第2条の2 工学部は、自ら学習を継続する能力・論理的思考力・課題解決力・コミュニケーション力・豊かな人間力・国際感覚と教養を備え、専門技術者として守るべき倫理や負うべき社会的責任を理解し、専門知識を応用する工学分野において世界文化に貢献し得る人材を養成することを目的とする。

2 創造工学部は、自ら学習を継続する能力・論理的思考力・課題解決力・コミュニケーション力・豊かな人間力・国際感覚と教養を備え、専門技術者として守るべき倫理や負うべき社会的責任を理解し、創造性を要する工学分野およびその学際的領域において世界文化に貢献し得る人材を養成することを目的とする。

3 先進工学部は、自ら学習を継続する能力・論理的思考力・課題解決力・コミュニケーション力・豊かな人間力・国際感覚と教養を備え、専門技術者として守るべき倫理や負うべき社会的責任を理解し、科学技術における先進的な分野において世界文化に貢献し得る人材を養成することを目的とする。

4 情報変革科学部は、自ら学習を継続する能力・論理的思考力・課題解決力・コミュニケーション力・豊かな人間力・国際感覚と教養を備え、専門技術者として守るべき倫理や負うべき社会的責任を理解し、情報社会の変革に対応して世界文化に貢献し得る人材を養成することを目的とする。

5 未来変革科学部は、自ら学習を継続する能力・論理的思考力・課題解決力・コミュニケーション力・豊かな人間力・国際感覚と教養を備え、専門技術者として守るべき倫理や負うべき社会的責任を理解し、経営活動の変革に対応して世界文化に貢献し得る人材を養成することを目的とする。

(大学院)

第3条 本学に大学院を置く。

2 大学院の学則は別に定める。

(附属図書館)

第4条 本学に附属図書館を置く。

2 附属図書館に関する事項は別に定める。

(研究所)

第4条の2 本学に次の研究機関を置く。

- (1) 附属研究所
- (2) 未来ロボット技術研究センター
- (3) 惑星探査研究センター
- (4) 人工知能・ソフトウェア技術研究センター
- (5) 次世代海洋資源研究センター
- (6) 地球学研究センター
- (7) 数理工学研究センター
- (8) 変革センター

2 研究機関に関する事項は別に定める。

(施設)

第4条の3 本学に次の施設を置く。

- (1) 学生寮
- (2) 軽井沢研修センター
- (3) 御宿研修センター

2 前項の各号に関する必要な事項は別に定める。

(事務局)

第5条 本学に事務局を置く。

2 事務局に関する必要な事項は別に定める。

第3章 職員組織

(学長)

第6条 本学に学長を置く。

- 2 学長は、校務をつかさどり、所属教育職員を統督する。
- 3 必要があるときは副学長を置くことができる。
- 4 副学長は、学長を助け、命を受けて校務をつかさどる。

(学部長)

第6条の2 学部 to 学部長を置く。

- 2 学部長は、学部に関する学務をつかさどる。
- 3 学部長に関する事項は別に定める。

(職員)

第7条 本学に教育職員及び一般職員を置く。

2 教育職員として、教授、准教授、助教及び助手を置く。

- (1) 教授は、専攻分野について、教育上、研究上又は実務上の特に優れた知識、能力及び実績を有する者であつて、学生を教授し、その研究を指導し、又は研究に従事する。
- (2) 准教授は、専攻分野について、教育上、研究上又は実務上の優れた知識、能力及び実績を有する者であつて、学生を教授し、その研究を指導し、又は研究に従事する。

- (3) 助教は、専攻分野について、教育上、研究上又は実務上の知識及び能力を有する者であって、学生を教授し、その研究を指導し、又は研究に従事する。
- (4) 助手は、その所属する組織における教育・研究の円滑な実施に必要な業務に従事する。
- 3 一般職員として、事務職員、技術職員、労務職員及びその他必要な職員を置く。
- 4 職員に関する規則は別に定める。

第4章 学部長会及び教授会

(学部長会)

第8条 本学に、大学の教育・運営に関する重要事項を協議及び審議するため学部長会を置く。

- 2 学部長会は、学長が招集し、学長が次に掲げる事項について決定を行うにあたり意見を述べるものとする。
 - (1) 教育・研究に関する基本方針等、その運営における全学的な事項
 - (2) 教授会の審議に関する基本的共通的な事項
 - (3) その他、本学の教育・研究の運営に必要と認められる事項
- 3 学部長会に関する規則は、別に定める。

(教授会)

第8条の2 学部に教授会を置く。

- 2 教授会は、学部の専任教授をもって組織する。
- 3 教授会は、学部長が招集し議長となる。
- 4 学部長は、必要あると認めた場合に、教授会の承認を得て教授会に准教授、助教及びその他の職員を参加させることができる。
- 5 教授会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うにあたり意見を述べるものとする。
 - (1) 学生の入学及び卒業に関する事項
 - (2) 学位の授与に関する事項
 - (3) 前二号に掲げるもののほか、教育・研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの
- 6 教授会は、前項に規定するもののほか、学長及び学部長がつかさどる教育・研究に関する事項について審議し、及び学長又は学部長の求めに応じ、意見を述べることができる。
- 7 教授会の運営に関する規則は別に定める。

第8条の3 学部に共通する事項について意見を聴くため、学長は、必要により合同教授会を招集することができる。

- 2 合同教授会は、次に掲げる事項について学長に意見を述べるものとする。
 - (1) 学則の改正に関する事項
 - (2) 前号に掲げるもののほか、教育・研究に関する重要な事項で、合同教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの
- 3 合同教授会に関する規則は、別に定める。

第5章 学年、学期及び休業日

(学年)

第9条 学年は、4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

(学期)

第10条 学年を次の2学期に分ける。

(1) 前期 4月1日から9月17日まで

(2) 後期 9月18日から翌年3月31日まで

2 必要がある場合は、学長は学部長会の意見を聴いて前項の期間を変更することができる。

(休業日)

第11条 休業日は、次のとおりとする。

(1) 日曜日

(2) 国民の祝日に関する法律に定める休日

(3) 開学記念日 5月15日

2 必要がある場合は、学長は学部長会の意見を聴いて前項の休業日を変更することができる。

3 第1項に定めるもののほか、学長は学部長会の意見を聴いて春期休業日、夏期休業日、冬期休業日及び臨時の休業日を定めることができる。

4 学長は、特別の必要がある場合は、学部長会の意見を聴いて休業日を授業を行う日に変更することができる。

第6章 修業年限及び在学年限

(修業年限)

第12条 修業年限は、4年とする。

2 前項の規定にかかわらず、大学入学資格を有した後、大学の学生以外の者として、本学の一定の単位を修得し、本学に入学する場合において、本学の教育課程の一部を履修したと認められるときは、当該単位数その他の事項を勘案し、2年を超えない範囲で修業年限に通算することができる。

(在学年限)

第13条 学生は、8年を超えて在学することができない。

2 第20条、第21条及び第22条の規定により入学した学生は、在学すべき年数の2倍に相当する年数を超えて在学することができない。

3 第1項及び第2項の規定にかかわらず、工学部、創造工学部、先進工学部及び情報科学部においては、同一学年に3年を超えて在学することができない。

第7章 入学

(入学時期)

第14条 入学の時期は、学期の始めとする。

(入学資格)

第15条 本学に入学することのできる者は、次の各号の一に該当する者とする。

- (1) 高等学校若しくは中等教育学校を卒業した者
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者（通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者を含む。）
- (3) 外国において学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者
- (4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- (5) 専修学校の高等課程（修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- (6) 文部科学大臣の指定した者
- (7) 高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（旧大学入学資格検定規程による大学入学資格検定に合格した者を含む。）
- (8) 学校教育法第90条第2項の規定により他大学に入学した者であつて、当該者をその後に入学させる本学において、大学における教育を受けるにふさわしい学力があると認めたもの
- (9) 本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、18歳に達したもの

(入学者選考)

第16条 本学に入学を志願する者は、入学願書と別に定める入学検定料及び所定の書類を添えて、期日までに提出するものとする。

2 前項の入学志願者については、別に定めるところにより選考を行う。

(入学手続及び入学許可)

第17条 前条の選考の結果に基づき合格した者は、所定の期日までに、別に定める学生納付金を納入し、保証人の連署する誓約書その他所定の書類を提出するものとする。

2 学長は、前項の入学手続きを完了した者に入学を許可する。

(保証人)

第18条 学生は、在学中、保証人を置くものとする。

2 保証人は、父母又は独立の生計を営む成年者で、学生の在学中の身上に関し責任を負いうる者とする。

(変更届)

第19条 学生は、氏名、現住所の変更及び保証人の変更若しくはその現住所に変更があったときは、速やかに届け出るものとする。

(転部、転科)

第19条の2 本学に在籍する学生で、転学部、転学科を願い出た者については、欠員のある場合に限り、学長はこれを許可することができる。

2 転学部、転学科に関する規則は別に定める。

(編入学、転入学)

第20条 次の各号の一に該当する者で、本学への編入学を志願する者があるときは、欠員のある場合に限り、学長は教授会の意見を聴いて相当年次に入学を許可することができる。

(1) 他の大学の2年次を修了した者

(2) 短期大学を卒業した者又は高等専門学校を卒業した者

(3) 学校教育法施行規則附則第7条に規定する者

2 他の大学の学生で、本学に転入学を志願する者があるときは、欠員のある場合に限り、学長は教授会の意見を聴いて相当年次に入学を許可することができる。

3 前2項の規定により編入学又は転入学した者の在学年数には、本条による入学以前の学校在学年数の全部又は一部を算入する。

4 編入学及び転入学に関する規則は別に定める。

(学士入学)

第21条 次の各号の一に該当する者で、本学への入学を志願する者があるときは、欠員のある場合に限り、学長は教授会の意見を聴いて相当年次に入学を許可することができる。

(1) 本学を卒業した者

(2) 他の大学を卒業した者

2 学士入学に関する規則は別に定める。

(再入学)

第22条 本学を退学した者又は除籍された者で、再入学を志願する者があるときは、学長は事情を考慮した上、相当年次に入学を許可することができる。ただし、懲戒による退学者及び第41条第1項第2号及び第4号並びに第5号の規定により除籍された者の再入学は許可しない。

2 再入学に関する規則は別に定める。

第8章 教育課程及び履修方法等

(教育課程編成方針)

第23条 教育課程は、学則第2条の2に規定する学部教育研究上の目的を達成するために必要な授業科目を開設し、体系的に編成するものとする。

(授業科目区分)

第23条の2 授業科目を分けて、教養科目及び専門科目及び教職課程に関する科目とする。

(教育課程編成方法)

第24条 教育課程は、各授業科目を必修科目及び選択科目に分け、これを各年次に配当して編成する。

2 本学は、授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする。

(授業科目及び履修方法)

第25条 授業科目及びその単位数は、別表第1、別表第2、別表第3、別表第4、別表第5、別表第6及び別表第7のとおりとする。

2 授業科目の履修方法は別に定める。

(成績評価基準等の明示等)

第25条の2 本学は、学生に対して、授業の方法及び内容並びに一年間の授業の計画をあらかじめ明示するものとする。

2 本学は、学修の成果に係る評価並びに卒業の認定に当たっては、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準にしたがって適切に行うものとする。

(単位計算方法)

第26条 授業科目の単位計算方法は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準による。

(1) 講義及び演習は、15時間から30時間までの範囲の授業をもって1単位とする。

(2) 実技、実験、実習及び製図は、30時間から45時間までの範囲の授業をもって1単位とする。

2 前項の規定にかかわらず、卒業研究等の授業科目については、これらの学修の成果を考慮して単位数を定めるものとする。

(授業期間)

第27条 一年間の授業を行う期間は、35週にわたることを原則とする。

2 各授業科目の授業は、13週にわたる期間を単位として行うものとする。ただし、教育上必要があり、かつ、十分な教育効果をあげることができると認められる場合は、この限りではない。

(単位授与)

第28条 授業科目を履修し、その試験等により合格と判定された者には、所定の単位を与える。

(成績の評価)

第29条 授業科目の成績は、A、B、C、Dの4段階により表示し、A、B、Cを合格としDは不合格とする。

(他大学等における授業科目履修等)

第30条 教育上有益と認めるときは、他大学等との協議に基づき、学生に当該他大学の授業科目を履修させることができる。

2 前項の規定により履修し修得した授業科目の単位を、60単位を限度として卒業の要件となる単位として認めることができる。

(入学前の既修得単位取扱)

第31条 教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に大学又は短期大学（外国の大学又は短期大学を含む。）において修得した単位を、本学において修得したものとして認定することができる。

2 前項の単位の認定は、編入学の場合を除き、前条により認める単位数と合せて60単位を超えない範囲で行うことができる。ただし、修業年限の短縮は行うことができない。

(進級)

第32条 上級年次に進級するための条件を定めることができる。

(卒業必要単位数)

第33条 卒業に必要な単位数は、別に定める所定の単位を含め、124単位以上とする。

(教育職員免許状)

第34条 本学において、取得できる教育職員免許状の種類は次のとおりとする。

工学部

機械工学科	工業	高等学校教諭一種免許状
機械電子創成工学科	工業	高等学校教諭一種免許状
先端材料工学科	工業	高等学校教諭一種免許状
電気電子工学科	工業	高等学校教諭一種免許状
応用化学科	理科	高等学校教諭一種免許状 中学校教諭一種免許状

創造工学部

都市環境工学科	工業	高等学校教諭一種免許状

情報変革科学部

情報工学科	数学	高等学校教諭一種免許状 中学校教諭一種免許状
	情報	高等学校教諭一種免許状
認知情報科学科	数学	高等学校教諭一種免許状 中学校教諭一種免許状
	情報	高等学校教諭一種免許状
高度応用情報科学科	数学	高等学校教諭一種免許状 中学校教諭一種免許状
	情報	高等学校教諭一種免許状

未来変革科学部

経営デザイン科学科	情報	高等学校教諭一種免許状

2 前項の教育職員免許状を取得するために履修する授業科目の種類及びその単位数は別に定める。

3 第1項に規定する教育職員免許状を取得するための受講手続料は別に定める。

第9章 休学、復学、外国留学、退学、転学及び除籍

(休学)

第35条 疾病その他やむを得ない理由により、年度内に6か月以上修学することができない者は、所定の休学願を学長に提出するものとする。

2 疾病のため修学することが適当でないと認められる者については、学長は休学を命ずることができる。

(休学期間)

第36条 休学期間は1年以内とする。ただし、特別の理由がある場合は、1年を限度として休学期間の延長を認めることができる。

2 休学期間は、通算して4年を超えることができない。

3 休学期間は在学期間には算入しない。

(復学)

第37条 休学した者は、休学期間が満了し、又は休学の理由が解消したときは、遅滞なく所定の復学願を学長に提出するものとする。

(外国留学)

第38条 本学の学生が外国の大学等の授業科目を履修するため、留学を志願し学長に願い出た場合、学長は、教育上有益と認めるときはこれを許可することができる。

2 留学した期間は、第13条に定める在学期間に含める。

3 留学して履修した授業科目について修得した単位については、第30条第2項に準じて卒業の要件となる単位として含めることができる。

4 留学に関する規則は別に定める。

(退学)

第39条 退学しようとする者は、所定の退学願を学長に提出するものとする。

(転学)

第39条の2 他の大学に転学しようとする者は、所定の転学願を学長に提出するものとする。

(休学、復学、退学及び転学許可)

第40条 休学、復学、退学及び転学については、学長がこれを許可することができる。

(除籍)

第41条 次の各号の一に該当する者は、学長が除籍する。

(1) 所定の学生納付金を滞納し、督促を受けても納入しない者

(2) 在学期間の限度を超過した者

(3) 休学期間の限度を超過した者

(4) 長期間行方不明の者

(5) 休学による場合を除き、同一学年に3年在学してなお進級できない者

第10章 卒業及び学位

(卒業)

第42条 本学に4年(第20条、第21条及び第22条により入学した者は、在学すべき年数)以上在学し、第33条に定める単位数を取得したものは、教授会の意見を聴いて学長が卒業を認定し、卒業証書・学位記を授与する。

2 前項の規定にかかわらず、本学の学生として3年以上在学し、学部の定める卒業要件を優秀な成績で修得したと認める場合、3年以上の在学で卒業を認めることができる。

(学位)

第43条 本学を卒業した者に授与する学位は次のとおりとする。

工学部 学士(工学)

創造工学部 学士(工学)

先進工学部	学士（工学）
情報変革科学部	学士（工学）
未来変革科学部	学士（工学）

第11章 賞罰

（表彰）

第44条 学業優秀な者及び課外活動等において顕著な功績のあった者は、選考の上、表彰することができる。

2 前項の選考に関する取り扱いは別に定める。

（懲戒）

第45条 本学則に違反し又は学生としての本分に反する行為のあった者は、教授会の意見を聴いて、学長が懲戒する。

2 懲戒は、訓告、譴責、停学及び退学とする。

3 前項の退学は、次の各号の一に該当する者に対して行う。

(1) 性行不良で改善の見込みがない者

(2) 本学の秩序を乱し、その他学生としての本分に著しく反した者

第12章 研究生、科目等履修生、特別聴講学生及び外国人留学生等

（研究生）

第46条 本学において特定の教員の指導のもとに研究することを志願する者があるときは、学部の教育・研究に支障のない場合に限り、学長は研究生として許可することができる。

2 研究生に関する規則は別に定める。

（科目等履修生）

第47条 本学の授業科目の履修又は受講のみを志願する者があるときは、学部の教育に支障のない場合に限り、学長は科目等履修生として許可することができる。

2 科目等履修生に関する規則は別に定める。

（特別聴講学生）

第48条 他の大学又は短期大学との協定に基づき、本学において授業科目を履修することを志願する者があるときは、学長は特別聴講学生として許可することができる。

2 特別聴講学生に関する規則は別に定める。

（外国人留学生等）

第49条 日本国以外の国籍を有する者で、第15条に定める入学資格がある者は、選考のうえ、外国人留学生として入学を許可することができる。

2 前項の外国人留学生に対しては、第25条に定めるもののほか、日本語科目及び日本事情に関する科目を置くことができる。

日本語科目及び日本事情に関する科目については、別表第7のとおりとする。

- 3 日本国籍を有し、外国において相当の中等教育を受けた者で、第15条に定める入学資格がある者については前項を準用する。
- 4 外国人留学生等に関する規則は別に定める。

第13章 入学検定料及び学生納付金等

(入学検定料、学生納付金)

第50条 入学検定料は、別表第8の1のとおりとする。

2 学生納付金は、別表第8の2のとおりとする。

(学生納付金の納入)

第51条 学生納付金は、所定の期日までに納入するものとする。

2 学生納付金の納入に関する規則は、別に定める。

(研究生及び科目等履修生申込手数料等)

第52条 研究生の審査料及び科目等履修生の申込手数料等は別に定める。

(納付金不還付)

第53条 既納の入学検定料、学生納付金、審査料等は返還しない。

第14章 公開講座

(公開講座)

第54条 社会人の教養を高め、文化の向上に資するため、本学に公開講座を開設することができる。

第15章 学則の変更

(学則変更)

第55条 本学則の変更は、理事会の議決を経るものとする。

附則

本学則は昭和43年4月1日から施行する。

附則

本学則は昭和61年4月1日から施行する。

附則

本学則は昭和62年4月1日から施行する。

附則

本学則は昭和63年4月1日から施行する。

附則

本学則は平成元年4月1日から施行する。

附則

本学則は平成2年4月1日から施行する。

附則

- 1 本学則は平成3年4月1日から施行する。
- 2 第2条第2項の規定にかかわらず、平成3年度から平成11年度までの間、入学定員は次のとおりとする。

附則

本学則は平成3年9月10日から施行する。

附則

本学則は平成4年4月1日から施行する。

附則

本学則は平成5年4月1日から施行する。

附則

本学則は平成5年7月22日から施行する。

学 部	学 科	入学定員
工学部第一部	機 械 工 学 科	120名
	工 業 経 営 学 科	120名
	電 気 工 学 科	120名
	電 子 工 学 科	120名
	工 業 化 学 科	100名
	土 木 工 学 科	110名
	建 築 学 科	120名
	精密機械工学科	110名
	情 報 工 学 科	120名
	工業デザイン学科	90名

附則

本学則は平成6年4月1日から施行する。

附則

本学則は平成7年4月1日から施行する。

附則

本学則は平成8年4月1日から施行する。

附則

- 1 本学則は平成9年4月1日から施行する。
- 2 第2条第2項及び附則（平成3年4月1日施行）の規定にかかわらず、平成9年度から平成11年度までの間、入学定員は次のとおりとする。

学 部	学 科	入学定員
工学部第一部	工 業 経 営 学 科	100名
	情 報 工 学 科	100名

附則

本学則は平成10年4月1日から施行する。

附則

- 1 本学則は平成11年4月1日から施行する。
- 2 第2条第2項の規定にかかわらず、平成11年度の入学定員は次のとおりとする。

学 部	学 科	入学定員
工学部	機械工学科 昼間主コース	120名
	工業経営学科 昼間主コース	100名
	電気工学科 昼間主コース	120名
	電子工学科 昼間主コース	120名
	工業化学科 昼間主コース	100名
	土木工学科 昼間主コース	110名
	建築学科 昼間主コース	120名
	精密機械工学科 昼間主コース	110名
	情報工学科 昼間主コース	100名
	工業デザイン学科 昼間主コース	90名

- 3 千葉工業大学工学部第二部は、平成11年4月から募集を停止し、平成11年3月31日現在当該学部在学する者が当該学部在学しなくなった時点で廃止する。

なお、第二部学生の取り扱いについては、従前のとおりとする。

附則

- 1 本学則は平成12年4月1日から施行する。
- 2 第2条第2項の規定にかかわらず、平成12年度から平成16年度までの間、入学定員は次のとおりとする。

学 科		入 学 定 員				
		12年度	13年度	14年度	15年度	16年度
機械工学科	昼間主コース	118名	116名	114名	112名	110名
工業経営学科	昼間主コース	98名	96名	94名	92名	90名
電気工学科	昼間主コース	118名	116名	114名	112名	110名
電子工学科	昼間主コース	118名	116名	114名	112名	110名
工業化学科	昼間主コース	98名	96名	94名	92名	90名
土木工学科	昼間主コース	109名	108名	107名	106名	105名
建築学科	昼間主コース	118名	116名	114名	112名	110名
精密機械工学科	昼間主コース	109名	108名	107名	106名	105名
情報工学科	昼間主コース	98名	96名	94名	92名	90名
工業デザイン学科	昼間主コース	89名	88名	87名	86名	85名

附則

- 1 本学則は平成13年4月1日から施行する。
- 2 第2条第2項の規定にかかわらず、平成13年度から平成16年度までの間、入学定員は次のとおりとする。

学 部・学 科	入 学 定 員			
	13年度	14年度	15年度	16年度

工学部					
機械工学科	昼間主コース	116 名	114 名	112 名	110 名
電気工学科	昼間主コース	116 名	114 名	112 名	110 名
電子工学科	昼間主コース	116 名	114 名	112 名	110 名
工業化学科	昼間主コース	94 名	90 名	86 名	80 名
土木工学科	昼間主コース	105 名	103 名	101 名	100 名
建築学科	昼間主コース	116 名	114 名	112 名	110 名
精密機械工学科	昼間主コース	105 名	103 名	101 名	100 名
工業デザイン学科	昼間主コース	88 名	87 名	86 名	85 名

- 3 千葉工業大学工学部工業経営学科、情報工学科、情報ネットワーク学科及びプロジェクトマネジメント学科は、平成13年4月から募集を停止し、平成13年3月31日現在当該学部学科に在学する者が当該学部学科に在学しなくなった時点で廃止する。

なお、募集を停止する当該4学科に在学する学生の取り扱いについては、従前のおりとする。

附則

本学則は平成14年4月1日から施行する。

附則

- 1 本学則は平成15年4月1日から施行する。
- 2 千葉工業大学工学部機械工学科、金属工学科、電気工学科、電子工学科、工業化学科、土木工学科、建築学科、精密機械工学科及び工業デザイン学科は、平成15年4月から募集を停止し、平成15年3月31日現在当該学部学科に在学する者が当該学部学科に在籍しなくなった時点で廃止する。

なお、募集を停止する当該9学科に在学する学生の取り扱いについては、従前のおりとする。

附則

本学則は平成16年4月1日から施行する。

附則

本学則は平成17年4月1日から施行する。

附則

- 1 本学則は平成18年4月1日から施行する。
- 2 千葉工業大学工学部第二部は当該学部中に在学する者がなくなったため、平成18年3月31日をもって廃止する。

附則

- 1 本学則は平成19年4月1日から施行する。
- 2 千葉工業大学工学部情報ネットワーク学科及びプロジェクトマネジメント学科は、当該学科に在籍する者がなくなったため、平成19年3月31日をもって廃止する。

附則

- 1 本学則は平成20年4月1日から施行する。
- 2 千葉工業大学工学部情報工学科及び工業経営学科は、当該学科に在学する者がなくなったた

め、平成20年3月31日をもって廃止する。

附則

- 1 本学則は平成21年4月1日から施行する。
- 2 千葉工業大学工学部金属工学科、工業化学科、土木工学科、建築学科及び工業デザイン学科は、当該学科に在学する者がなくなったため、平成21年3月31日をもって廃止する。

附則

- 1 本学則は平成22年4月1日から施行する。
- 2 千葉工業大学工学部電子工学科及び精密機械工学科は、当該学科に在学する者がなくなったため、平成22年3月31日をもって廃止する。

附則

- 1 本学則は平成23年4月1日から施行する。
- 2 千葉工業大学工学部機械工学科及び電気工学科は、当該学科に在学する者がなくなったため、平成23年3月31日をもって廃止する。

附則

- 1 本学則は平成24年4月1日から施行する。
- 2 学校法人千葉工業大学定年後再雇用教員に関する規程第4条第1項に規定する継続教員は、第8条の2第5項第5号を審議する教授会及び第8条の3第2項第1号を審議する合同教授会の構成員とはならない。

附則

本学則は平成25年4月1日から施行する。

附則

本学則は、平成26年4月1日から施行する。

附則

本学則は、平成27年4月1日から施行する。

附則

- 1 本学則は、平成28年4月1日から施行する。
- 2 千葉工業大学工学部機械サイエンス学科、電気電子情報工学科、生命環境科学科、建築都市環境学科、デザイン科学科及び未来ロボティクス学科は、平成28年4月から募集を停止し、平成28年3月31日現在当該学部学科に在学する者が当該学部学科に在籍しなくなった時点で廃止する。

なお、募集を停止する当該6学科に在学する学生の取り扱いについては、従前のとおりとする。

附則

本学則は、平成28年7月21日から施行する。

附則

本学則は、平成29年4月1日から施行する。

附則

本学則は、平成29年7月20日から施行する。

附則

本学則は、平成30年4月1日から施行する。

附則

本学則は、平成31年4月1日から施行する。

附則

本学則は、令和2年4月1日から施行する。

附則

本学則は、令和2年6月10日から施行する。

附則

- 1 本学則は、令和3年4月1日から施行する。
- 2 千葉工業大学工学部デザイン科学科は、当該学科に在学する者がなくなったため、令和3年3月31日をもって廃止する。

附則

本学則は、令和3年5月1日から施行する。

附則

- 1 本学則は、令和4年4月1日から施行する。
- 2 千葉工業大学工学部機械サイエンス学科、生命環境科学科、建築都市環境学科及び未来ロボティクス学科は、当該学科に在籍する者がなくなったため、令和4年3月31日をもって廃止する。

附則

- 1 本学則は、令和5年4月1日から施行する。

附則

- 1 本学則は、令和6年4月1日から施行する。
- 2 千葉工業大学情報科学部情報工学科、情報ネットワーク学科及び社会システム科学部経営情報科学科、プロジェクトマネジメント学科、金融・経営リスク科学科は、令和6年4月から募集を停止し、令和6年3月31日現在当該学部学科に在学する者が当該学部学科に在籍しなくなった時点で廃止する。

なお、募集を停止する当該2学部5学科に在学する学生の取り扱いについては、従前のとおりとする。

別表第1(第25条関係)

工学部 教養科目表

授業科目	単位数	
	必修	選択
英語理解基礎1		1
英語表現基礎1		1
英語理解基礎2		1
英語表現基礎2		1
英語理解基礎3		1
英語表現基礎3		1
英語理解基礎4		1
英語表現基礎4		1
英語理解1		1
英語表現1		1
英語理解2		1
英語表現2		1
英語理解3		1
英語表現3		1
英語理解4		1
英語表現4		1
英語理解発展1		1
英語表現発展1		1
英語理解発展2		1
英語表現発展2		1
英語理解発展3		1
英語表現発展3		1
英語理解発展4		1
英語表現発展4		1
資格試験英語A		1
資格試験英語B		1
日本語表現法	1	
数理・データサイエンス・AI入門	1	
AI・プログラミング基礎演習		1
スポーツ科学	2	
初年次教育	1	
キャリアデザイン1	1	
キャリアデザイン2	1	
キャリアデザイン3	1	
異文化理解	2	
言語と文化1	2	

授業科目	単位数	
	必修	選択
言語と文化2	2	
グローバル時代の法		2
国際社会論		2
哲学		2
倫理学		2
文学と芸術		2
歴史と人間		2
心理学		2
身体と健康の科学		2
憲法と社会		2
政治と社会		2
経済学		2
現代社会論		2
科学技術史		2
環境科学概論		2
生命科学		2
地球科学		2
物理の世界と先端技術		2
物質科学		2
課題探究セミナー		2
総合学際科目		2
イングリッシュアクティブラーニング 1		1
イングリッシュアクティブラーニング 2		1
イングリッシュアクティブラーニング 3		1
日本語アクティブラーニング		1
スポーツアクティブラーニング		2
ソーシャルアクティブラーニング		1
国際インターン		1
国内インターン		1
ボランティア		1
キャリアアップラーニング		1
総合科学特論		2

機械工学科 専門科目表

授業科目	単位数	
	必修	選択
数学基礎	2	
物理学基礎	2	
化学基礎	2	
線形代数	2	
微分積分学	2	
物理学応用		2
化学実験	2	
物理学実験	2	
確率統計		2
ものづくり基礎演習	2	
ものづくり演習	2	
機械工学概論	2	
工業力学	2	
機械材料		2
機構学		2
工業数学		2
基礎材料力学	2	
基礎機械設計	2	
基礎機械製図	2	
基礎機械力学	2	
生産加工学	2	
材料力学	2	
応用材料力学		2
構造力学		2
材料強度学		2
機械力学		2
振動工学		2
制御工学		2
自動制御		2
熱力学	2	
応用熱力学		2
エネルギー工学		2
伝熱工学		2
流れ学	2	

授業科目	単位数	
	必修	選択
応用流れ学		2
流体力学		2
機械設計	2	
機械製図	2	
CAD演習	2	
応用機械設計製図	2	
計測工学		2
技術英語		2
機械の技術史		2
工作機械		2
数値解析		2
環境工学		2
技術者倫理	2	
先端機械工学	2	
機械工学実験1	2	
機械工学実験2	2	
ゼミナール1	2	
ゼミナール2	2	
卒業研究	5	
工学概論(自由科目)※		2
職業指導1(自由科目)※		2
工業科教育法1(自由科目)※		2
工業科教育法2(自由科目)※		2

※別表第6にて再掲

機械電子創成工学科 専門科目表

授業科目	単位数	
	必修	選択
数学基礎	2	
微分積分	2	
微分方程式		2
応用数学		2
線形代数基礎	2	
線形代数応用		2
基礎統計学		2
物理学基礎	2	
物理学実験		2
化学基礎		2
デジタルものづくり		2
機構学		2
力学		2
材料力学		2
電気磁気学		2
電気回路		2
電子デバイス		2
機械電子創成概論	2	
機械電子創成基礎実験・実習	2	
機械設計製図学		2
機械力学		2
機械加工法		2
材料とその性質		2
シミュレーション工学		2
トライボロジー		2
熱・流体工学		2
精密加工		2
アナログ回路		2
デジタル回路		2
半導体電力変換工学		2
電気機器学		2
プログラミング言語		2
組込みシステム		2
ネットワークプログラミング		2
システム制御理論		2

授業科目	単位数	
	必修	選択
センサ工学		2
システム制御工学		2
計測工学		2
技術者倫理		2
機械電子創成基盤実験・実習	2	
機械電子創成応用設計・製図実習	2	
機械電子創成アドバンストレーニングⅠ	2	
機械電子創成アドバンストレーニングⅡ	2	
機械電子創成アドバンストレーニングⅢ		2
ゼミナール1	2	
ゼミナール2	2	
卒業研究	5	
工学概論(自由科目)※		2
職業指導1(自由科目)※		2
工業科教育法1(自由科目)※		2
工業科教育法2(自由科目)※		2

※別表第6にて再掲

先端材料工学科 専門科目表

授業科目	単位数	
	必修	選択
数学基礎	2	
線形代数	2	
確率統計		2
微分方程式		2
工業数学		2
物理学基礎	2	
物理学応用		2
化学基礎	2	
物理化学	2	
物理学実験	2	
化学実験	2	
先端材料工学概論	2	
エネルギー工学概論	2	
リサイクル概論	2	
基礎材料工学	2	
工業英語	2	
工学基礎	2	
基礎製図		2
材料物理学	2	
材料熱化学	2	
固体物理学	2	
材料組織学	2	
材料電気化学	2	
材料力学及び演習	2	
創造工学及び演習	2	
薄膜材料		2
構造材料1		2
構造材料2		2
半導体材料		2
磁性材料		2
電池材料		2
光機能材料		2
セラミックス・ポリマー材料		2
エネルギー材料		2
材料化学プロセス工学1		2
材料化学プロセス工学2		2

授業科目	単位数	
	必修	選択
化学反応工学		2
リサイクル工学		2
材料強度学1		2
材料強度学2		2
材料加工法及び演習		2
材料評価法及び演習		2
材料シミュレーション		2
塑性加工学		2
融体成形工学		2
接合工学		2
表面工学		2
粉体材料工学		2
技術者倫理	2	
先端材料工学実験1	2	
先端材料工学実験2	2	
先端材料ゼミナール	1	
ゼミナール1	2	
ゼミナール2	2	
卒業研究	5	
工学概論(自由科目)※		2
職業指導1(自由科目)※		2
工業科教育法1(自由科目)※		2
工業科教育法2(自由科目)※		2

※別表第6にて再掲

電気電子工学科 専門科目表

授業科目	単位数	
	必修	選択
数学基礎	2	
線形代数基礎	2	
物理学基礎	2	
複素数とベクトル	2	
線形代数応用	2	
微分積分	2	
化学基礎	2	
微分方程式	2	
物理学応用	2	
確率統計		2
量子力学基礎		2
物理学実験	2	
化学実験		2
電気電子工学入門	2	
電気電子基礎数学及び演習	2	
電気磁気学及び演習1	2	
電気磁気学及び演習2	2	
電気回路及び演習1	2	
計測工学	2	
電子物性	2	
プログラミング言語及び演習	2	
電気回路及び演習2	2	
電子回路及び演習1	2	
電子デバイス及び演習1	2	
電気回路解析学	2	
文献輪読	2	
電気電子工学実験1	2	
電気電子工学実験2	2	
電気電子工学実験3	2	
デジタル回路		2
信号処理論		2
電子回路2		2
電子デバイス2		2
電磁エネルギー変換工学		2
制御工学1		2

授業科目	単位数	
	必修	選択
変電工学		2
送配電工学		2
プラズマエレクトロニクス		2
コンピュータ工学		2
電気音響工学		2
計測システム工学		2
パワーエレクトロニクス		2
制御工学2		2
発電工学		2
高電圧工学		2
電気電子材料		2
光エレクトロニクス		2
数値計算工学		2
電子回路3		2
技術者倫理	2	
ゼミナール1	2	
電気機器設計・製図		2
電気法規		2
ゼミナール2	2	
卒業研究	5	
工学概論(自由科目)※		2
職業指導1(自由科目)※		2
工業科教育法1(自由科目)※		2
工業科教育法2(自由科目)※		2

※別表第6にて再掲

情報通信システム工学科 専門科目表

授業科目	単位数	
	必修	選択
数学基礎	2	
線形代数基礎	2	
物理学基礎	2	
物理学実験	2	
微分積分	2	
物理学応用	2	
情報通信基礎数学及び演習	3	
線形代数応用		2
確率統計		2
微分方程式	2	
フレッシュマンセミナー	2	
情報通信応用数学及び演習	3	
電気回路及び演習1	3	
情報基礎論	2	
電気磁気学及び演習1	3	
電気回路及び演習2	3	
プログラミング言語及び演習	3	
計測工学		2
電気磁気学及び演習2	3	
情報通信工学基礎実験	2	
電子回路及び演習1	3	
電子デバイス		2
電子回路及び演習2	3	
文献輪読	2	
プログラミング応用演習	1	
情報理論		2
アルゴリズムとデータ構造		2
ディジタル回路		2
情報通信工学実験1	2	
数値計算工学		2
通信理論		2
無線通信工学		2
電気回路解析学		2
ソフトウェア工学		2
コンピュータ工学		2

授業科目	単位数	
	必修	選択
情報通信工学実験2	2	
ゼミナール1	2	
通信システム工学		2
光通信工学		2
データサイエンス		2
電波工学		2
コンピュータネットワーク		2
データベース工学		2
技術者倫理	2	
ゼミナール2	2	
システム数理工学		2
電波法		2
卒業研究	5	

応用化学科 専門科目表

授業科目	単位数	
	必修	選択
化学基礎		2
物理学基礎		2
数学基礎		2
線形代数基礎		2
化学実験	2	
化学応用		2
微分積分		2
線形代数応用		2
物理学実験	2	
生物学基礎		2
物理学応用		2
統計力学基礎		2
確率統計		2
有機化学1		2
応用化学概論	2	
有機化学2		2
物理化学1		2
有機化学3		2
無機化学1		2
物理化学2		2
分析化学		2
応用化学研究法		2
無機化学2		2
物理化学3		2
量子化学1		2
機器分析学1		2
技術者倫理		2
環境マネジメント		2
生化学		2
化学反応工学		2
量子化学2		2
地球環境科学		2
機器分析学2		2
特許及び情報検索法		2
高分子化学		2

授業科目	単位数	
	必修	選択
高分子材料		2
無機合成化学		2
結晶科学		2
界面化学		2
電気化学		2
有機合成化学		2
バイオマテリアル		2
機能性無機材料		2
錯体化学		2
エネルギー・環境化学工学		2
分子設計		2
触媒化学		2
エコマテリアル		2
サステナブル資源科学		2
応用化学実験1	2	
応用化学実験2	2	
応用化学実験3	2	
ゼミナール	2	
卒業研究	5	
電磁気学(自由科目)※		2
宇宙科学(自由科目)※		2
生物学実験(自由科目)※		1
地学実験(自由科目)※		1
理科教育法1(自由科目)※		2
理科教育法2(自由科目)※		2
理科教育法3(自由科目)※		2
理科教育法4(自由科目)※		2

※別表第6にて再掲

別表第2(第25条関係)

創造工学部 教養科目表

授業科目	単位数	
	必修	選択
英語理解基礎1		1
英語表現基礎1		1
英語理解基礎2		1
英語表現基礎2		1
英語理解基礎3		1
英語表現基礎3		1
英語理解基礎4		1
英語表現基礎4		1
英語理解1		1
英語表現1		1
英語理解2		1
英語表現2		1
英語理解3		1
英語表現3		1
英語理解4		1
英語表現4		1
英語理解発展1		1
英語表現発展1		1
英語理解発展2		1
英語表現発展2		1
英語理解発展3		1
英語表現発展3		1
英語理解発展4		1
英語表現発展4		1
資格試験英語A		1
資格試験英語B		1
日本語表現法	1	
数理・データサイエンス・AI入門	1	
AI・プログラミング基礎演習		1
スポーツ科学	2	
初年次教育	1	
キャリアデザイン1	1	
キャリアデザイン2	1	
キャリアデザイン3	1	
異文化理解	2	
言語と文化1	2	

授業科目	単位数	
	必修	選択
言語と文化2	2	
グローバル時代の法		2
国際社会論		2
哲学		2
倫理学		2
文学と芸術		2
歴史と人間		2
心理学		2
身体と健康の科学		2
憲法と社会		2
政治と社会		2
経済学		2
現代社会論		2
科学技術史		2
環境科学概論		2
生命科学		2
地球科学		2
物理の世界と先端技術		2
物質科学		2
課題探究セミナー		2
総合学際科目		2
イングリッシュアクティブラーニング1		1
イングリッシュアクティブラーニング2		1
イングリッシュアクティブラーニング3		1
日本語アクティブラーニング		1
スポーツアクティブラーニング		2
ソーシャルアクティブラーニング		1
国際インターン		1
国内インターン		1
ボランティア		1
キャリアアップラーニング		1
総合科学特論		2

建築学科 専門科目表

授業科目	単位数	
	必修	選択
建築学概論	2	
創造工学基礎演習1	2	
創造工学基礎演習2	2	
建築のための英語		2
物理学基礎		2
化学基礎		2
数学基礎		2
微分積分		2
基礎統計学		2
線形代数		2
物理学実験		2
化学実験		2
日本建築史	2	
西洋建築史	2	
建築設計1	2	
建築工学基礎演習1	1	
温熱環境学	2	
空気環境学	2	
光環境学		2
建築音響学		2
静定梁・静定トラスの力学及び力学演習	2	
静定構造の力学及び力学演習	2	
サステナブル建築学	2	
建築の構造1	2	
建築の構造2	2	
建築構造材料	2	
建築計画1	2	
建築計画2	2	
現代建築論		2
建築設計2	2	
建築工学基礎演習2	1	
建築設計3	2	
建築設計4	3	
建築設計5		3

授業科目	単位数	
	必修	選択
建築設備1	2	
建築設備2		2
不静定構造の力学		2
地盤工学		2
鉄骨構造		2
鉄筋コンクリート構造		2
建築基礎構造		2
建築エンジニアリング演習		2
建築耐震構造		2
建築構造設計演習		3
建築仕上り材料		2
建築生産	2	
建築法規	2	
ゼミナール1	2	
ゼミナール2	2	
卒業研究	5	

都市環境工学科 専門科目表

授業科目	単位数	
	必修	選択
数学基礎	2	
線形代数	2	
微分積分	2	
基礎統計学	2	
物理学基礎	2	
物理学実験		2
化学基礎	2	
化学実験		2
創造工学基礎演習1	2	
創造工学基礎演習2	2	
構造力学1	2	
構造力学2	2	
建設材料工学	2	
土質力学	2	
応用力学	2	
水理学1	2	
水理学2	2	
環境アセスメント	2	
地球環境学	2	
国土・地域計画	2	
都市計画	2	
防災工学	2	
測量実習	2	
測量学	2	
技術者倫理	2	
橋梁工学		2
地盤工学		2
鉄筋コンクリート		2
コンクリート構造		2
衛生工学		2
水圏環境学		2
大気環境学		2
沿岸環境学		2
まちづくり論		2
交通計画		2

授業科目	単位数	
	必修	選択
交通工学		2
都市・地域経済学		2
景観工学		2
地理情報システム		2
建設施工		2
エリア設計・演習		2
建築・都市関連法規		2
空間情報工学		2
都市環境工学実験	2	
都市環境工学演習	2	
ゼミナール1	2	
ゼミナール2	2	
卒業研究	5	
工学概論(自由科目)※		2
職業指導1(自由科目)※		2
工業科教育法1(自由科目)※		2
工業科教育法2(自由科目)※		2

※別表第6にて再掲

デザイン科学科 専門科目表

授業科目	単位数	
	必修	選択
数学基礎		2
基礎統計学		2
物理学基礎		2
物理学実験		2
化学基礎		2
化学実験		2
情報活用及び演習	2	
創造工学基礎演習1	2	
創造工学基礎演習2	2	
デザイン概論	2	
デザイン基礎1	2	
デザイン史	2	
デザイン基礎2	2	
製品デザイン基礎		2
インテリアデザイン基礎		2
人とデザイン1		2
生活とデザイン		2
インテリア計画		2
デザインスキル演習1	1	
人とデザイン2		2
空間とデザイン		2
情報デザイン基礎		2
デザインスキル演習2	1	
デザインプレゼンテーション	1	
産業とデザイン		2
情報とデザイン		2
技術とデザイン		2
材料とデザイン		2
社会とデザイン		2
環境とデザイン		2
創造デザイン基礎	2	
工学デザイン基礎	2	
創造デザイン論及び演習	4	
工学デザイン論及び演習	4	
インテリア設計		2

授業科目	単位数	
	必修	選択
ソーシャルデザイン論及び演習		4
インテリアデザイン論及び演習		4
構造力学及び演習		4
デジタルデザイン論及び演習		4
プロダクトデザイン論及び演習		4
ディスプレイデザイン論及び演習		4
インテリア施工		2
専門特別講義1		2
デザイン学外実習		1
ゼミナール1	2	
ゼミナール2	2	
卒業研究	5	

別表第3(第25条関係)

先進工学部 教養科目表

授業科目	単位数	
	必修	選択
英語理解基礎1		1
英語表現基礎1		1
英語理解基礎2		1
英語表現基礎2		1
英語理解基礎3		1
英語表現基礎3		1
英語理解基礎4		1
英語表現基礎4		1
英語理解1		1
英語表現1		1
英語理解2		1
英語表現2		1
英語理解3		1
英語表現3		1
英語理解4		1
英語表現4		1
英語理解発展1		1
英語表現発展1		1
英語理解発展2		1
英語表現発展2		1
英語理解発展3		1
英語表現発展3		1
英語理解発展4		1
英語表現発展4		1
資格試験英語A		1
資格試験英語B		1
日本語表現法	1	
数理・データサイエンス・AI入門	1	
AI・プログラミング基礎演習		1
スポーツ科学	2	
初年次教育	1	
キャリアデザイン1	1	
キャリアデザイン2	1	
キャリアデザイン3	1	
異文化理解	2	
言語と文化1	2	

授業科目	単位数	
	必修	選択
言語と文化2	2	
グローバル時代の法		2
国際社会論		2
哲学		2
倫理学		2
文学と芸術		2
歴史と人間		2
心理学		2
身体と健康の科学		2
憲法と社会		2
政治と社会		2
経済学		2
現代社会論		2
科学技術史		2
環境科学概論		2
生命科学		2
地球科学		2
物理の世界と先端技術		2
物質科学		2
課題探究セミナー		2
総合学際科目		2
イングリッシュアクティブラーニング1		1
イングリッシュアクティブラーニング2		1
イングリッシュアクティブラーニング3		1
日本語アクティブラーニング		1
スポーツアクティブラーニング		2
ソーシャルアクティブラーニング		1
国際インターン		1
国内インターン		1
ボランティア		1
キャリアアップラーニング		1
総合科学特論		2

未来ロボティクス学科 専門科目表

授業科目	単位数	
	必修	選択
ロボット体験実習	2	
プログラミング基礎	2	
未来ロボティクス総合セミナー	2	
数学基礎		2
線形代数学		2
微分積分学		2
物理学基礎		2
ロボット設計製作論実習1	2	
ロボット設計製作論実習2	2	
ロボット設計製作論実習3	2	
ロボット設計製作論実習4	2	
ロボット設計製作論実習5	2	
機械製図		1
ロボット機構学		2
ロボット電子回路		4
ロボットプログラミング		2
メカニクス1		4
制御工学Ⅰ		2
制御工学Ⅱ		2
電気電子回路論		2
電気電子アクティブラーニング		2
信号処理論		2
ロボット制御学		2
ロボットシステム学		2
科学技術開発マネジメント		2
科学技術基礎英語		2
電磁気学		2
コミュニケーション論		2
基礎統計学		2
ロボティクスチャレンジ		1
ロボットマニピュレータ		2
センサ工学		2
数値解析学1		2
数値解析学2		2
メカニクス2		2

授業科目	単位数	
	必修	選択
組込み用コンピュータ実装論		2
認識工学		2
ロボットビジョン		2
認知科学		2
ロボットインターフェイス設計論		2
ロボット構造力学		2
アクチュエータ工学		2
CAD/CAM/CAE		2
流体力学		2
ゼミナール1		1
ゼミナール2		1
ゼミナール3		1
ゼミナール4		1
卒業研究	5	

生命科学科 専門科目表

授業科目	単位数	
	必修	選択
生物学1	2	
数学基礎		2
化学基礎		2
生物学2	2	
微分積分		2
線形代数		2
機器分析学		2
量子化学		2
基礎統計学		2
生命科学基礎演習	1	
分子生物学1		2
生物物理学1		2
生化学1		2
基礎生態学		2
分子生物学2		2
微生物学		2
生化学2		2
遺伝子工学1		2
細胞生物学		2
生物物理学2		2
遺伝子工学2		2
生命科学のための倫理・法律	2	
生命科学基礎実験1	2	
生命科学基礎実験2	2	
構造生物学		2
環境構造学		2
ゲノム科学		2
ウイルス学		2
動物生理学1		2
植物生理学1		2
分子進化学		2
ゲノム生態学		2
分子免疫学		2
生体分子工学1		2
動物生理学2		2

授業科目	単位数	
	必修	選択
保全生物学		2
公衆衛生学		2
微生物生態学		2
生命情報学		2
植物生理学2		2
生物多様性科学		2
生体分子工学2		2
細胞遺伝学		2
微生物工学		2
医薬品生産技術		2
生態系保全技術		2
生命科学応用実験	2	
卒業研究準備実験	2	
卒業研究	5	

知能メディア工学科 専門科目表

授業科目	単位数	
	必修	選択
数学基礎	2	
線形代数	2	
確率統計	2	
物理学基礎	2	
物理学実験	2	
知能メディア基礎数学	2	
離散数学		2
統計解析		2
プログラミング言語基礎	2	
視覚造形基礎	2	
コンピュータ工学		2
デジタルデザイン基礎演習		2
ネットワーク基礎		2
ヒューマンインタフェース論		2
プログラミング言語応用		2
デジタルファブリケーション		2
メディアデザイン論		2
メディア史		2
人間中心設計	2	
技術者倫理		2
メディア基礎	2	
情報理論	2	
コミュニケーションデザイン演習	2	
知能メディア体験演習	2	
知能メディアプロジェクト1	2	
知能メディアプロジェクト2	2	
メディア工学実験	2	
音響工学基礎		2
画像処理基礎		2
音声工学		2
音響工学応用		2
画像処理応用		2
バーチャルリアリティ		2
人工知能基礎	2	
知識工学		2

授業科目	単位数	
	必修	選択
機械学習		2
ネットワーク・データ工学実験	2	
マルチエージェントシステム		2
データマイニング		2
データベース工学		2
知識工学応用		2
情報デザイン基礎		2
情報デザイン論及び演習	3	
テクノロジーアート		2
デザインプロジェクト設計		2
情報デザイン応用論及び演習		3
フィジカルインタフェース		2
ユーザエクスペリエンスデザイン		2
知能メディアチャレンジ		1
ゼミナール1	2	
ゼミナール2	2	
ゼミナール3	2	
卒業研究	5	

別表第4(第25条関係)

情報変革科学部 教育課程表

授業科目	単位数	
	必修	選択
英語理解基礎1		1
英語表現基礎1		1
英語理解基礎2		1
英語表現基礎2		1
英語理解基礎3		1
英語表現基礎3		1
英語理解基礎4		1
英語表現基礎4		1
英語理解1		1
英語表現1		1
英語理解2		1
英語表現2		1
英語理解3		1
英語表現3		1
英語理解4		1
英語表現4		1
英語理解発展1		1
英語表現発展1		1
英語理解発展2		1
英語表現発展2		1
英語理解発展3		1
英語表現発展3		1
英語理解発展4		1
英語表現発展4		1
資格試験英語A		1
資格試験英語B		1
日本語表現法	1	
数理・データサイエンス・AI入門	1	
AI・プログラミング基礎演習		1
スポーツ科学	2	
初年次教育	1	
キャリアデザイン1	1	
キャリアデザイン2	1	
キャリアデザイン3	1	
異文化理解	2	

授業科目	単位数	
	必修	選択
言語と文化1	2	
言語と文化2	2	
グローバル時代の法		2
国際社会論		2
哲学		2
倫理学		2
文学と芸術		2
歴史と人間		2
心理学		2
身体と健康の科学		2
憲法と社会		2
政治と社会		2
経済学		2
現代社会論		2
科学技術史		2
環境科学概論		2
生命科学		2
地球科学		2
物理の世界と先端技術		2
物質科学		2
課題探究セミナー		2
総合学際科目		2
イングリッシュアクティブラーニング1		1
イングリッシュアクティブラーニング2		1
イングリッシュアクティブラーニング3		1
日本語アクティブラーニング		1
スポーツアクティブラーニング		2
ソーシャルアクティブラーニング		1
国際インターン		1
国内インターン		1
ボランティア		1
キャリアアップラーニング		1
総合科学特論		2

情報工学科 教育課程表

授業科目	単位数	
	必修	選択
数学基礎		2
微分積分		2
確率統計		2
線形代数基礎		2
線形代数応用		2
微分方程式		2
離散数学		2
線形代数特論		2
応用解析		2
統計解析		2
初等整数論		2
情報工学概論	2	
電気回路	2	
プログラミング言語	2	
論理回路	2	
フィジカルコンピューティング	2	
技術文章作成	2	
アイディアソン	2	
Webプログラミング	2	
データサイエンス	2	
データ通信	2	
メディア処理		2
グラフィックス		2
システム理論		2
ソフトウェア工学		2
ビジュアル情報処理		2
クラウドコンピューティング		2
デジタル信号処理		2
クリティカルエンジニアリング	2	
アジャイルワーク1	2	
アジャイルワーク2	2	
ハッカソン1	2	
ハッカソン2	2	
数理モデリング		2
感性情報処理		2

授業科目	単位数	
	必修	選択
数値解析		2
アルゴリズムとデータ構造		2
オペレーティングシステム		2
デジタル通信		2
情報理論		2
データベース		2
技術者倫理	2	
機械学習		2
人工知能		2
情報セキュリティ		2
高性能計算		2
ゼミナール1	2	
ゼミナール2	2	
ゼミナール3	2	
卒業研究	5	
幾何学1(自由科目)※		2
幾何学2(自由科目)※		2
解析学1(自由科目)※		2
解析学2(自由科目)※		2
数学科教育法1(自由科目)※		2
数学科教育法2(自由科目)※		2
数学科教育法3(自由科目)※		2
数学科教育法4(自由科目)※		2
情報科教育法1(自由科目)※		2
情報科教育法2(自由科目)※		2
情報と職業(自由科目)※		2

※別表第6にて再掲

認知情報科学科 教育課程表

授業科目	単位数	
	必修	選択
数学基礎	2	
線形代数基礎		2
微分積分		2
線形代数応用		2
確率統計		2
微分方程式		2
応用解析		2
離散数学		2
統計解析		2
線形代数特論		2
初等整数論		2
認知情報科学入門	2	
プログラミング演習	2	
認知科学概論	2	
情報科学概論	2	
認知情報科学演習	2	
認知科学基礎1	2	
認知科学基礎2		2
人工知能基礎1	2	
人工知能基礎2		2
マルチメディア基礎1	2	
マルチメディア基礎2		2
ソフトウェア基礎1	2	
ソフトウェア基礎2		2
ネットワーク基礎1	2	
ネットワーク基礎2		2
認知情報科学実験1	2	
認知情報科学実験2	2	
認知科学応用		2
学びの科学・工学		2
コミュニケーション		2
ヒューマンコンピュータインタラクション		2
マシンラーニング		2
コンピュータビジョン		2
ソフトウェア工学		2

授業科目	単位数	
	必修	選択
ネットワーク応用		2
アルゴリズムとデータ構造		2
インターネットの心理学		2
デザインと表現		2
フィールド調査		2
自然言語処理		2
グラフィックス		2
プロジェクトマネジメント		2
データマイニング		2
センシングとIoT		2
経営システム工学		2
技術者倫理	2	
ゼミナール1	2	
ゼミナール2	2	
ゼミナール3	2	
ゼミナール4	2	
卒業研究	5	
幾何学1(自由科目)※		2
幾何学2(自由科目)※		2
解析学1(自由科目)※		2
解析学2(自由科目)※		2
数学科教育法1(自由科目)※		2
数学科教育法2(自由科目)※		2
数学科教育法3(自由科目)※		2
数学科教育法4(自由科目)※		2
情報科教育法1(自由科目)※		2
情報科教育法2(自由科目)※		2
情報と職業(自由科目)※		2

※別表第6にて再掲

高度応用情報科学科 教育課程表

授業科目	単位数	
	必修	選択
数学基礎	2	
線形代数基礎	2	
微分積分		2
線形代数応用	2	
確率統計	2	
微分方程式		2
離散数学		2
情報数学1		2
情報数学2		2
応用解析		2
統計解析	2	
線形代数特論		2
初等整数論		2
数理モデリング		2
社会数理モデリング		2
情報リテラシ	2	
ICT基礎	2	
データ構造とアルゴリズム	2	
情報メディア基礎	2	
TCP/IP概論	2	
OSとシステムソフトウェア		2
情報ネットワーク	2	
データサイエンス入門		2
データサイエンス演習		2
高度応用情報科学概論1	2	
高度応用情報科学概論2	2	
情報リテラシ演習1	2	
情報リテラシ演習2	2	
NWプログラミング基礎演習		2
NWプログラミング応用演習		2
データベース		2
LAN		2
機械学習基礎		2
行動科学分析		2
金融工学		2

授業科目	単位数	
	必修	選択
クラウドコンピューティング		2
クラウド構築演習		2
ソフトコンピューティング		2
マルチメディア情報処理		2
情報倫理		2
ソフトウェア工学		2
機械学習応用		2
人間工学		2
IoTシステム		2
IoTシステム構築実験		2
サイバーセキュリティ		2
サイバーセキュリティ実験		2
Webプログラミング基礎実験		2
Webプログラミング応用実験		2
高度応用情報科学ゼミナール1	2	
高度応用情報科学ゼミナール2	2	
高度応用情報科学ゼミナール3	2	
卒業研究	5	
幾何学1(自由科目)※		2
幾何学2(自由科目)※		2
解析学1(自由科目)※		2
解析学2(自由科目)※		2
数学科教育法1(自由科目)※		2
数学科教育法2(自由科目)※		2
数学科教育法3(自由科目)※		2
数学科教育法4(自由科目)※		2
情報科教育法1(自由科目)※		2
情報科教育法2(自由科目)※		2
情報と職業(自由科目)※		2

※別表第6にて再掲

別表第5(第25条関係)

未来変革科学部 教育課程表

授業科目	単位数	
	必修	選択
英語理解基礎1		1
英語表現基礎1		1
英語理解基礎2		1
英語表現基礎2		1
英語理解基礎3		1
英語表現基礎3		1
英語理解基礎4		1
英語表現基礎4		1
英語理解1		1
英語表現1		1
英語理解2		1
英語表現2		1
英語理解3		1
英語表現3		1
英語理解4		1
英語表現4		1
英語理解発展1		1
英語表現発展1		1
英語理解発展2		1
英語表現発展2		1
英語理解発展3		1
英語表現発展3		1
英語理解発展4		1
英語表現発展4		1
資格試験英語A		1
資格試験英語B		1
日本語表現法	1	
数理・データサイエンス・AI入門	1	
AI・プログラミング基礎演習		1
スポーツ科学	2	
初年次教育	1	
キャリアデザイン1	1	
キャリアデザイン2	1	
キャリアデザイン3	1	
異文化理解	2	

授業科目	単位数	
	必修	選択
言語と文化1	2	
言語と文化2	2	
グローバル時代の法		2
国際社会論		2
哲学		2
倫理学		2
文学と芸術		2
歴史と人間		2
心理学		2
身体と健康の科学		2
憲法と社会		2
政治と社会		2
経済学		2
現代社会論		2
科学技術史		2
環境科学概論		2
生命科学		2
地球科学		2
物理の世界と先端技術		2
物質科学		2
課題探究セミナー		2
総合学際科目		2
イングリッシュアクティブラーニング1		1
イングリッシュアクティブラーニング2		1
イングリッシュアクティブラーニング3		1
日本語アクティブラーニング		1
スポーツアクティブラーニング		2
ソーシャルアクティブラーニング		1
国際インターン		1
国内インターン		1
ボランティア		1
キャリアアップラーニング		1
総合科学特論		2

デジタル変革科学科 教育課程表

授業科目	単位数	
	必修	選択
未来変革科学入門	2	
デジタル変革概論	2	
データサイエンスの線形代数		2
コンピュータサイエンス入門		2
科学技術者倫理	2	
情報数学		2
確率論		2
データサイエンスⅠ	2	
データサイエンスⅡ	2	
データサイエンスⅢ	2	
データサイエンスⅣ	2	
マネジメント工学概論	2	
企業経営概論		2
コミュニケーションマネジメント	2	
ビジネスエコシステム		2
知識社会のマネジメント		2
システム構築マネジメント		2
デジタル・リスク論		2
ビジネスインテリジェンス		2
デジタルデザイン論		2
コストアカウンティング		2
サステナブルデベロップメント概論		2
データサイエンスおよび演習		2
シナジー創出技法		2
システム運用マネジメント		2
デジタルトランスフォーメーション論		2
情報ネットワーク		2
デジタル人材論		2
カスタマーサクセスマネジメント		2
デジタルマーケティング		2
フィールドアクティビティ1	1	
フィールドアクティビティ2	1	
ユーザエクスペリエンスデザイン		2
デジタル技術とデータ活用		2
人工知能論		2

授業科目	単位数	
	必修	選択
モデリングとシミュレーション		2
グローバル・デジタル論		2
フィールド情報学		2
デジタル変革実験	2	
デジタル変革演習	2	
サービスマネジメント		2
社会デザイン概論		2
クラウドエコシステム		2
システム科学		2
デジタル・サービスサイエンス		2
データ品質マネジメント		2
コーポレートファイナンス		2
生産システムマネジメント		2
経営戦略		2
社会変革のためのシステム思考		2
情報技術社会論		2
ゼミナール1	2	
ゼミナール2	2	
課題研究	2	
卒業研究	5	

経営デザイン科学科 教育課程表

授業科目	単位数	
	必修	選択
未来変革科学入門	2	
経営デザイン科学概論	2	
データサイエンスの線形代数		2
コンピュータサイエンス入門		2
ベンチャービジネス論		2
グリーン社会と法律	2	
情報処理基礎		2
科学技術者倫理		2
社会システム工学		2
企業活動と法律		2
IoT技術活用論		2
意思決定の数理		2
情報ネットワーク		2
データサイエンスⅠ	2	
データサイエンスⅡ	2	
データサイエンスⅢ	2	
データサイエンスⅣ	2	
知識社会のマネジメント		2
事業経営概論		2
経営管理論		2
会計システム		2
サステナブルデベロップメント概論		2
コストアカウンティング	2	
システム方法論		2
イノベーションマネジメント	2	
データサイエンスとデータベース		2
経営デザイン基礎	1	
専門特別講義		2
情報とセキュリティ		2
経営デザイン応用	2	
人間工学概論		2
プロジェクトマネジメント		2
生産管理	2	
研究開発の戦略と統制	2	
生産システム工学		2

授業科目	単位数	
	必修	選択
品質管理		2
マーケティングマネジメント		2
情報数学		2
データサイエンスの統計解析		2
ロジスティクス		2
経営システム工学		2
資源・エネルギー管理論		2
技術開発マネジメント		2
経営情報システム		2
デジタルコンテンツクリエイション		2
環境マネジメントおよび演習		2
フィールド情報学		2
ソフトウェア開発の定量化技法		2
経営デザイン演習Ⅰ	1	
経営デザイン演習Ⅱ	2	
経営デザイン演習Ⅲ	2	
ゼミナール	2	
卒業研究	5	
情報科教育法1(自由科目)※		2
情報科教育法2(自由科目)※		2
情報と職業(自由科目)※		2

※別表第6にて再掲

別表第6(第25条関係)

教科及び教職に関する科目(学士の学位を授与するための授業科目を除く。)

1. 教育の基礎的理解に関する科目

授業科目	単位数		備考
	必修	選択	
教育原理		2	※
教職概論		2	※
教育行政学		2	※
教育と社会		2	
教育心理学		2	※
特別支援教育論		1	※
教育課程論		2	※

(注)※印の科目は、全教職課程履修者必修。

2. 道徳、総合的な学習の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目

授業科目	単位数		備考
	必修	選択	
道徳教育の理論と実践		2	中一種免のみ履修可(必修)
総合的な学習の時間の理論と実践		2	※
特別活動論		2	※
教育の方法・技術とICT		2	※
生徒指導・進路指導論		2	※
教育相談		2	※

(注)※印の科目は、全教職課程履修者必修。

3. 教育実践に関する科目

授業科目	単位数		備考
	必修	選択	
教育実習事前事後指導		1	高一種免(工業)以外は必修
教育実習A		4	高一種免(工業)以外は必修
教育実習B		2	高一種免(工業)以外は必修
教職実践演習(中・高)		2	※

(注)※印の科目は、全教職課程履修者必修。

4. 教科及び教科の指導法に関する科目

工学部 機械工学科, 機械電子創成工学科, 先端材料工学科, 電気電子工学科

創造工学部 都市環境工学科

社会システム科学部 経営情報科学科

(工業)

授業科目	単位数		備 考
	必修	選択	
工業科教育法1		2	高一種(工業)必修
工業科教育法2		2	高一種(工業)必修
工学概論		2	高一種(工業)必修 ※
職業指導1		2	高一種(工業)必修

(注)※ 他学科履修は不可

工学部 応用化学科

(理科)

授業科目	単位数		備 考
	必修	選択	
理科教育法1		2	中・高一種免(理科)必修
理科教育法2		2	中・高一種免(理科)必修
理科教育法3		2	中一種免(理科)必修
理科教育法4		2	中一種免(理科)必修
電磁気学		2	
宇宙科学		2	
生物学実験		2	中・高一種免(理科)必修
地学実験		2	中・高一種免(理科)必修

情報科学部 情報工学科, 情報ネットワーク学科

社会システム科学部 経営情報科学科, プロジェクトマネジメント学科

(数学)

授業科目	単位数		備 考
	必修	選択	
数学科教育法1		2	中・高一種免(数学)必修
数学科教育法2		2	中・高一種免(数学)必修
数学科教育法3		2	中一種免(数学)必修
数学科教育法4		2	中一種免(数学)必修
幾何学1		2	中・高一種免(数学)必修
幾何学2		2	中・高一種免(数学)必修
解析学1		2	中・高一種免(数学)必修
解析学2		2	中・高一種免(数学)必修

情報科学部 情報工学科, 情報ネットワーク学科
 社会システム科学部 プロジェクトマネジメント学科
 (情報)

授業科目	単位数		備 考
	必修	選択	
情報科教育法1		2	高一種(情報)必修
情報科教育法2		2	高一種(情報)必修
情報と職業		2	高一種(情報)必修

社会システム科学部 経営情報科学科
 (商業)

授業科目	単位数		備 考
	必修	選択	
商業科教育法1		2	高一種免(商業)必修
商業科教育法2		2	高一種免(商業)必修
職業指導2		2	高一種免(商業)必修

5. 大学が独自に設定する科目

工学部 応用化学科
 情報科学部 情報工学科, 情報ネットワーク学科
 社会システム科学部 経営情報科学科, プロジェクトマネジメント学科

授業科目	単位数		備 考
	必修	選択	
介護体験入門		1	中一種免必修

別表第7(第49条関係)

授業科目		単位数	
		必修	選択
日本語	日本語基礎1		1
	日本語基礎2		1
	日本語初級1		3
	日本語初級2		3
	日本語中級1		2
	日本語中級2		2
	日本語表現		1
	理工系日本語		1
日本事情	日本事情1		2
	日本事情2		2
	日本事情3		2
	日本事情4		2
	日本事情5		2
	日本事情6		2
	日本事情7		2
	日本事情8		2
	日本事情ゼミナール		2

別表第8(第50条関係)

1 令和6年度入学検定料 単位:円

試験種別	1試験種の検定料
学校推薦型選抜・総合型選抜・特別選抜	30,000

単位:円

試験種別	1つのタイプで出願した場合の検定料	2つのタイプで出願した場合の検定料
共通テスト利用入学試験(前期)	15,000	20,000
共通テスト利用入学試験(中期)	15,000	20,000
共通テスト利用入学試験(後期)	15,000	

※この試験には2種類のタイプがあります。

単位:円

試験種別	1日分の検定料	2日目以降の追加検定料(1日あたり)
A日程入学試験	30,000	5,000
SA日程入学試験	30,000	5,000
B日程入学試験	30,000	5,000
SB日程入学試験	30,000	5,000
C日程入学試験	30,000	

2 令和6年度入学生納付金(全学部共通)

単位:円

区 分	金 額
入 学 金	250,000
授 業 料	1,390,000
合 計	1,640,000

備考

(1) 入学金は、入学時のみ適用する。ただし、再入学者の入学金は免除する。

(2) 次年度以降の授業料は、毎年5万円増とする。

なお、社会情勢により金額は変動することがある。

(3) 休学期間中の学生納付金は、休学在籍料100,000円(半期)、200,000円(年額)とする。

千葉工業大学教授会運営規程

平成 2 年 4 月 1 日

制定

最終改正 令和 3 年 4 月 26 日

(目的)

第 1 条 この規程は、千葉工業大学学則（以下「学則」という。）第 8 条の 2 第 7 項に基づき、教授会を円滑に運営するために必要な事項を定めることを目的とする。

(構成)

第 2 条 教授会は、当該学部には所属する専任教授により組織する。

2 学部長は、必要あると認めた場合に、教授会の承認を得て、教授会に当該学部には所属する准教授、助教及びその他の職員を参加させることができる。

(審議事項)

第 3 条 教授会は、学則第 8 条の 2 第 5 項に定められた次の事項について学長に意見を述べるものとする。

(1) 学生の入学及び卒業に関する事項

(2) 学位の授与に関する事項

(3) 前 2 号に掲げるもののほか、教育・研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定める事項

(教授会の同時開催)

第 3 条の 2 学長が必要と判断した場合は、学部長会で協議の上、複数の学部の教授会を同時に開催することができる。

(招集)

第 4 条 教授会は、学部長が必要と認めたときに招集する。

2 学部長は、当該学部には所属する教授の 3 分の 1 以上の請求があるときは、10 日以内に教授会を招集しなければならない。

3 学部長は、学長の請求があるときは、10 日以内に教授会を招集しなければならない。

(成立)

第 5 条 当該学部には所属する教授は、教授会に出席するものとする。ただし、止むを得ない理由により欠席する場合は、委任状をもって出席に代えることができる。

2 教授会は、委任状を含め 2 分の 1 以上の出席をもって成立する。

(議長)

第 6 条 教授会の議長は、学部長とする。

2 学部長に事故あるときは、副学部長又は教授会で互選された者が議長となる。

3 第 3 条の 2 に定めのある、複数の学部が同時に開催する教授会の議長は、予め学部長会において決められた者が務めることとする。

(議決)

第7条 教授会の議決は、出席者の過半数の同意をもって可決する。ただし、可否同数の場合は、議長がこれを採決する。

(報告)

第8条 学部長は、教授会終了後、第3条に規定する事項について、当該教授会の意見をすみやかに学長に報告しなければならない。

(事務)

第9条 教授会の事務は、教学センターが所管する。

(規程の改廃)

第10条 この規程の改廃は、理事会の議決を経るものとする。

附則

この規程は、平成2年4月1日から施行する。

附則

この規程は、平成13年4月1日から施行する。

附則

この規程は、平成17年2月22日から施行する。

附則

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

附則

この規程は、平成22年4月1日から施行する。

附則

1 この規程は、平成24年4月1日から施行する。

2 学校法人千葉工業大学定年後再雇用教員に関する規程第4条第1項に規定する継続教員は、第2条第1項の規定にかかわらず、第3条第1項第5号を審議する教授会の構成員とはならない。

附則

1 この規程は、平成27年4月1日から施行する。

2 学校法人千葉工業大学定年後再雇用教員に関する規程第4条第1項に規定する継続教員は、第2条第1項の規定にかかわらず、教員の教育・研究業績に関し意見を述べる教授会の構成員とはならない。

附則

この規程は、平成28年3月30日から施行する

附則

この規程は、令和3年4月1日から施行する。

附則

この規程は、令和3年4月26日から施行する。

千葉工業大学合同教授会運営規程

平成13年4月1日

制定

最終改正 令和3年4月26日

(目的)

第1条 この規程は、千葉工業大学学則（以下「学則」という。）第8条の3第3項に基づき、合同教授会を円滑に運営するために必要な事項を定めることを目的とする。

(構成)

第2条 合同教授会は、学長及び専任教授により組織する。

2 学長は、必要があると認めた場合に、合同教授会の承認を得て、合同教授会に准教授、助教及びその他の職員を参加させることができる。

(審議事項)

第3条 合同教授会は、学則第8条の3第2項に定める次の事項について学長に意見を述べるものとする。

(1) 学則の改正に関する事項

(2) 前号に掲げるもののほか、教育・研究に関する重要な事項で、合同教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定める事項

(招集)

第4条 合同教授会は、学長が必要と認めたときに招集する。

2 学長は、専任教授の3分の1以上の請求があるときは、10日以内に合同教授会を招集しなければならない。

(成立)

第5条 教授は、合同教授会に出席するものとする。ただし、止むを得ない理由により欠席する場合は、委任状をもって出席に代えることができる。

2 合同教授会は、委任状を含め2分の1以上の出席をもって成立する。

(議長)

第6条 合同教授会の議長は、学長とする。

2 学長に事故あるときは、副学長又は合同教授会で互選された者が議長となる。

(議決)

第7条 合同教授会の議決は、出席者の過半数の同意をもって可決する。ただし、可否同数の場合は、議長がこれを採決する。

(事務)

第8条 合同教授会の事務は、教学センターが所管する。

(規程の改廃)

第9条 この規程の改廃は、理事会の議決を経るものとする。

附則

この規程は、平成13年4月1日より施行する。

附則

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

附則

- 1 この規程は、平成24年4月1日から施行する。
- 2 学校法人千葉工業大学定年後再雇用教員に関する規程第4条第1項に規定する継続教員は、第2条第1項の規定にかかわらず、第3条第1項第1号を審議する合同教授会の構成員とはならない。

附則

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

附則

この規程は、平成28年3月30日から施行する。

附則

この規程は、令和3年4月26日から施行する。

設置の趣旨等を記載した書類 目次

① 設置の趣旨及び必要性	P. 2
② 学部・学科等の特色	P. 10
③ 学部・学科等の名称及び学位の名称	P. 12
④ 教育課程の編成の考え方及び特色	P. 14
⑤ 教育方法、履修指導方法及び卒業要件	P. 20
⑥ 実習の具体的計画	P. 21
⑦ 取得可能な資格	P. 24
⑧ 入学者選抜の概要	P. 24
⑨ 教員組織の編成の考え方及び特色	P. 29
⑩ 研究の実施についての考え方、体制、取組	P. 30
⑪ 施設、設備等の整備計画	P. 31
⑫ 2以上の校地において教育研究を行う場合の具体的計画	P. 32
⑬ 管理運営及び事務組織	P. 34
⑭ 自己点検・評価	P. 35
⑮ 情報の公表	P. 36
⑯ 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等	P. 39
⑰ 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制	P. 40

設置の趣旨等を記載した書類

① 設置の趣旨及び必要性

1 学部を設置する理由・必要性

本学の情報科学部では、開設以来、情報学分野に関する教育研究活動を通じて、現代社会を支えるコンピュータやネットワークに関する基盤技術とともに、今後の進化した情報化社会を見据えて、新たなコンセプトや新原理を創出できる人材の育成にむけて、教育課程や教育内容をはじめとする教育研究環境の整備と充実に努めてきた。

しかしながら、近年、学齢人口の減少や高学歴志向の高まりなど、高等教育を取り巻く環境が大きく変化しており、その方向性も多様化していることから、時代の変化と社会の要請に柔軟に対応しつつ、学部教育の多様な発展に向けた特色ある教育研究に取り組むことにより、高等教育機関としての特色や独自性を発展的に実現する必要性が生じている。

また、学術研究の進展に伴う学際化や総合化により、学部教育が対象とする専門領域も広範囲に及んできているとともに、進学希望者の興味と関心や学習意欲に積極的かつ柔軟に応えていくためには、学生の選択の幅や流動性を高める工夫も重要となっており、学術研究の進展に伴う進学希望者の動向を踏まえた特色ある教育組織の整備と充実に取り組む必要性が生じてきている。

一方、社会及び産業界における情報化の波は急速に進展しており、情報や情報技術の高度化や多様化により、情報学分野の教育研究領域は大きな広がりを見せていることから、将来における学術研究の進展も視野に入れ、複合的な分野を含めて広く情報学分野の学問的な成果を取り込める教育環境を整備することで、今後の高度情報化社会に一層貢献できる教育組織としての充実が求められている。

このような高等教育を取り巻く環境の変化及び学術研究の進展に伴う進学希望者の動向などを踏まえるとともに、今後の情報化社会の進展を見据えたうえで、学部教育の一層の充実と発展に向けて、既設の情報科学部を発展的に改組し、令和6年4月より、情報工学科・認知情報科学科・高度応用情報科学科の3学科から構成される情報変革科学部を設置することとした。

2 研究対象とする学問分野及び養成する人材像

(1) 情報変革科学部

情報変革科学部では、組織として研究対象とする中心的な学問分野を「情報学分野」として、

自ら学習を継続する能力・論理的思考力・課題解決力・コミュニケーション力・豊かな人間力・国際感覚と教養を備え、専門技術者として守るべき倫理や負うべき社会的責任を理解し、情報に関する科学的な見方や考え方を基盤として、情報技術に関する専門知識や技術を習得し、情報社会の分野において世界文化に技術で貢献し得る人材を養成する。

具体的には、情報変革科学部では、情報社会における事象を、工学的・科学的な視点から捉える能力とともに、情報の科学的な理解に基づく数理知識や情報技術を適切かつ効果的に活用して、情報社会の環境変化に柔軟に対応した情報技術の変革を図る創造的な能力と実践的な態度を習得した人材を養成する。

(2) 情報工学科

情報工学科では、組織として研究対象とする中心的な学問分野を「情報学分野」として、情報と情報技術に関する基礎的な知識と技術を基盤として、それらを適切かつ効果的に活用できる実践的な能力を有して、情報技術を科学的・実証的に考究し、その成果を情報技術の変革に活かすことのできる人材を養成する。

具体的には、情報工学科では、情報理論や情報処理などの工業技術に関する基本原理や基本構造と基盤技術及び情報技術を実際に開発する能力とともに、情報技術に関する諸問題を主体的・合理的に解決し、情報技術の変革を図る実践的な態度を習得することとしている。

(3) 認知情報科学科

認知情報科学科では、組織として研究対象とする中心的な学問分野を「情報学分野」として、認知機能と情報技術に関する基礎的な知識と技術を基盤として、それらを実社会で実用化するための実践的な能力を有して、認知機能を科学的・実証的に考究し、その成果を情報科学の変革に活かすことのできる人材を養成する。

具体的には、認知情報科学科では、認知科学と情報科学に関する基本原理や基盤技術の習得と知的機能や認知過程を情報処理の観点から応用する能力とともに、認知機能に関する諸問題を主体的・合理的に解決し、情報科学の変革を図る実践的な態度を習得することとしている。

(4) 高度応用情報科学科

高度応用情報科学科では、組織として研究対象とする中心的な学問分野を「情報学分野」として、情報科学の基礎研究を通じて得られた理論や技術を高度情報化社会に向けて創造的に応用できる能力を有して、情報科学を科学的・実証的に考究し、その成果を情報社会の変革に活かすことのできる人材を養成する。

具体的には、高度応用情報科学科では、情報科学に関する基本原理や基盤技術の習得と情報技術を応用した新たな仕組みや価値を生み出す能力の習得とともに、情報科学の諸問題を主体的・合理的に解決し、情報社会の変革を図る実践的な態度を習得することとしている。

3 卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針及び入学者受入れの方針

(1) 情報工学科

情報工学科における卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受入れの方針については、以下に示す通りとしており、学位授与の方針及び教育課程編成の方針と教育課程との相関については、別紙資料1の通りとしている。(資料1)

1) 卒業認定・学位授与の方針

情報工学科においては、以下の教育目標を達成した者に対して学士(工学)を授与するものとする。

- ・ 職業生活や社会生活でも必要となる汎用的な技能及び職業人としての望ましい心構えや豊かな人間性と現代社会に関する幅広い知識を習得している。
- ・ 情報学分野を専門領域とし、ハードウェアとそれを駆動制御するソフトウェアを含んだシステムに関する基礎的な知識と技術を習得している。
- ・ 情報学分野を主とする専門領域で不定解な社会的課題を自ら発見する能力を有し、解決に必要となるフィジカルコンピューティング、メディア処理、プログラミング、ソフトウェア工学などに関する専門知識・論理的思考や技術を習得している。
- ・ フィジカルコンピューティング、メディア処理、プログラミング、ソフトウェア工学などに関する専門知識・技術を応用して、情報学的な観点のみならず、広い視野で問題解決する能力を習得している。
- ・ 自らの思考・判断のプロセスを説明し、具体的な事例や根拠を示しながら伝達するプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を習得している。
- ・ グループでの共同作業・研究活動を適確に実行し、チームビルディングの手法を用いて、協力関係をつくり上げていく能力を習得している。
- ・ 情報学分野の技術者として守るべき倫理や負うべき社会的責任を理解している。

2) 教育課程編成・実施の方針

ア. 教育課程編成の方針

情報工学科では、学位授与の方針と教育課程編成・実施の方針との一体性と整合性に配慮しつつ、卒業までに学生が身に付けるべき資質や能力を習得するための教育課程編成・実施

の方針（カリキュラム・ポリシー）を次のとおり定めることとする。

- ・ 職業人に必要な職業意識や生涯学習力と異文化理解や社会貢献への態度及び人間の文化や社会と自然に関する知識を深める科目群を配当する。
- ・ 情報学分野を主として、基礎となる知識や汎用的な能力を涵養するための科目群を配当する。
- ・ フィジカルコンピューティング、メディア処理、プログラミング、ソフトウェア工学などの基幹的な知識や技術、幅広い視野を涵養するための科目群を配当し、幅広い視野で物事を捉え、主体的に実践するための実験・実習・演習科目を配置する。
- ・ 基幹となる知識・技術、汎用的な能力を応用するための、発展的な専門知識・技術を涵養する科目群を配当し、幅広い視野で自ら課題を設定すると共に、行動計画の立案、実行、検証、改善を他者と協力しながら実践的に学び、解決を図るための実験・実習・演習科目及びゼミナール・卒業研究科目を配置する。
- ・ 生命を尊重し、法令を遵守すると共に、データ改ざん、盗用、剽窃行為の禁止など、技術者として守るべき倫理や社会的責任を理解するための科目を配置する。

イ．教育課程実施の方針

- ・ 学説や物事などの意味や内容の理解を目的とする教育内容は、講義形式による授業形態を採り、知識や技能を実践に応用する能力の習得を目的とする教育内容は、演習形式及び実習形式による授業形態を採る。
- ・ 教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等をはじめとする教授方法を取り入れることにより、学生の能動的学修への参加を促す。
- ・ 教育課程を構成する授業科目の目標、内容、方法、評価を記した授業計画を示すとともに、教育課程編成・実施の方針を具体化し、可視化して共有するための教育課程構造図や履修系統図を示す。（資料１）
- ・ 単位制度の実質化を図る観点から、特定の学期における偏りのある履修登録を避けるとともに、学生が学習目標に沿った適切な授業科目の履修が可能となるように、養成する具体的な人材像に対応した典型的な履修モデルを提示する。（資料１）
- ・ 卒業時における質を確保する観点から、予め学生に対して各授業科目における学習目標やその目標を達成するための授業の方法、計画等を明示したうえで、成績評価基準や卒業認定基準を示し、これに基づく厳格な評価を行う。

3) 入学者受入れの方針

- ・ ソフトウェアに関して「使う」ことよりも「作る」ことに興味のある人
- ・ ソフトウェアの基盤となるハードウェアやネットワークの技術にも学習意欲のある人
- ・ 自ら手を動かし、分析、考案、設計することに熱意を持った人

(2) 認知情報科学科

認知情報科学科における卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受入れの方針については、以下に示す通りとし、学位授与の方針及び教育課程編成の方針と教育課程との相関については、別紙資料1の通りとする。(資料1)

1) 卒業認定・学位授与の方針

認知情報科学科においては、以下の教育目標を達成した者に対して学士(工学)を授与するものとする。

- ・ 職業生活や社会生活でも必要となる汎用的な技能及び職業人としての望ましい心構えや豊かな人間性と現代社会に関する幅広い知識を習得している。
- ・ 情報学分野を専門領域とし、人工知能やヒューマンコンピュータインタラクションなど、人間の認知機能に関する基礎的な知識と技術を習得している。
- ・ 情報学分野を主とする専門領域で不定解な社会的課題を自ら発見する能力を有し、解決に必要な認知科学、マルチメディア、IoT、プログラミング、プロジェクトマネジメントなどに関する専門知識・論理的思考や技術を習得している。
- ・ 認知科学、マルチメディア、IoT、プログラミング、プロジェクトマネジメントなどに関する専門知識・技術を応用して、情報学的な観点のみならず、広い視野で問題解決する能力を習得している。
- ・ 自らの思考・判断のプロセスを説明し、具体的な事例や根拠を示しながら伝達するプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を習得している。
- ・ グループでの共同作業・研究活動を適確に実行し、チームビルディングの手法を用いて、協力関係をつくり上げてゆく能力を習得している。
- ・ 情報学分野の技術者などとして守るべき倫理や負うべき社会的責任を理解している。

2) 教育課程編成・実施の方針

ア. 教育課程編成の方針

認知情報科学科では、学位授与の方針と教育課程編成・実施の方針との一体性と整合性に

配慮しつつ、卒業までに学生が身に付けるべき資質や能力を習得するための教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を次のとおり定めることとする。

- ・ 職業人に必要な職業意識や生涯学習力と異文化理解や社会貢献への態度及び人間の文化や社会と自然に関する知識を深める科目群を配当する。
- ・ 情報学分野を主として、基礎となる知識や汎用的な能力を涵養するための科目群を配当する。
- ・ 認知科学、マルチメディア、IoT、プログラミング、プロジェクトマネジメントなどの基幹的な知識や技術、幅広い視野を涵養するための科目群を配当し、幅広い視野で物事を捉え、主体的に実践するための実験・実習・演習科目を配置する。
- ・ 基幹となる知識・技術、汎用的な能力を応用するための、発展的な専門知識・技術を涵養する科目群を配当し、幅広い視野で自ら課題を設定すると共に、行動計画の立案、実行、検証、改善を他者と協力しながら実践的に学び、解決を図るためのゼミナール・卒業研究科目を配置する。
- ・ 生命を尊重し、法令を遵守すると共に、データ改ざん、盗用、剽窃行為の禁止など、技術者として守るべき倫理や社会的責任を理解するための科目を配置する。

イ. 教育課程実施の方針

- ・ 学説や物事などの意味や内容の理解を目的とする教育内容は、講義形式による授業形態を採り、知識や技能を実践に応用する能力の習得を目的とする教育内容は、演習形式及び実習形式による授業形態を採る。
- ・ 教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等をはじめとする教授方法を取り入れることにより、学生の能動的学修への参加を促す。
- ・ 教育課程を構成する授業科目の目標、内容、方法、評価を記した授業計画を示すとともに、教育課程編成・実施の方針を具体化し、可視化して共有するための教育課程構造図や履修系統図を示す。（資料1）
- ・ 単位制度の実質化を図る観点から、特定の学期における偏りのある履修登録を避けるとともに、学生が学習目標に沿った適切な授業科目の履修が可能となるように、養成する具体的な人材像に対応した典型的な履修モデルを提示する。（資料1）
- ・ 卒業時における質を確保する観点から、予め学生に対して各授業科目における学習目標やその目標を達成するための授業の方法、計画等を明示したうえで、成績評価基準や卒業認定基準を示し、これに基づく厳格な評価を行う。

3) 入学者受入れの方針

- ・ ソフトウェアと人間の双方の仕組みと関わりに強い興味のある人
- ・ 周囲の人々と協力してプロジェクトを進めることに意欲のある人
- ・ 幅広い視野で考え、自ら手を動かし、積極的に問題に取り組める人

(3) 高度応用情報科学科

高度応用情報科学科における卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受入れの方針については、以下に示す通りとし、学位授与の方針及び教育課程編成の方針と教育課程との相関については、別紙資料1の通りとする。(資料1)

1) 卒業認定・学位授与の方針

高度応用情報科学科においては、以下の教育目標を達成した者に対して学士(工学)を授与するものとする。

- ・ 職業生活や社会生活でも必要となる汎用的な技能及び職業人としての望ましい心構えや豊かな人間性と現代社会に関する幅広い知識を習得している。
- ・ 情報学分野を専門領域とし、サイバー社会とフィジカル社会が融合した次世代 ICT 社会の基盤 ICT に関する基礎的な知識と技術を習得している。
- ・ 情報学分野を主とする専門領域で不定解な社会的課題を自ら発見する能力を有し、解決に必要なデータサイエンス、機械学習、IoT、クラウドコンピューティング、サイバーセキュリティなどに関する専門知識・論理的思考や技術を習得している。
- ・ データサイエンス、機械学習、IoT、クラウドコンピューティング、サイバーセキュリティなどに関する専門知識・技術を応用して、情報学的な観点のみならず、広い視野で問題解決する能力を習得している。
- ・ 自らの思考・判断のプロセスを説明し、具体的な事例や根拠を示しながら伝達するプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を習得している。
- ・ グループでの共同作業・研究活動を適確に実行し、チームビルディングの手法を用いて、協力関係をつくり上げてゆく能力を習得している。
- ・ 情報学分野の技術者として守るべき倫理や負うべき社会的責任を理解している。

2) 教育課程編成・実施の方針

ア. 教育課程編成の方針

高度応用情報科学科では、学位授与の方針と教育課程編成・実施の方針との一体性と整合

性に配慮しつつ、卒業までに学生が身に付けるべき資質や能力を習得するための教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を次のとおり定めることとする。

- ・ 職業人に必要な職業意識や生涯学習力と異文化理解や社会貢献への態度及び人間の文化や社会と自然に関する知識を深める科目群を配当する。
- ・ 情報学分野を主として、基礎となる知識や汎用的な能力を涵養するための科目群を配当する。
- ・ データサイエンス、機械学習、IoT、クラウドコンピューティング、サイバーセキュリティなど基幹的な知識や技術、幅広い視野を涵養するための科目群を配当し、幅広い視野で物事を捉え、主体的に実践するための演習科目を配置する。
- ・ 基幹となる知識・技術、汎用的な能力を応用するための、発展的な専門知識・技術を涵養する科目群を配当し、幅広い視野で自ら課題を設定すると共に、行動計画の立案、実行、検証、改善を他者と協力しながら実践的に学び、解決を図るための実験・実習・演習科目及びゼミナール・卒業研究科目を配置する。
- ・ 生命を尊重し、法令を遵守すると共に、データ改ざん、盗用、剽窃行為の禁止など、技術者として守るべき倫理や社会的責任を理解するための科目を配置する。

イ．教育課程実施の方針

- ・ 学説や物事などの意味や内容の理解を目的とする教育内容は、講義形式による授業形態を採り、知識や技能を実践に応用する能力の習得を目的とする教育内容は、演習形式及び実習形式による授業形態を採る。
- ・ 教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等をはじめとする教授方法を取り入れることにより、学生の能動的学修への参加を促す。
- ・ 教育課程を構成する授業科目の目標、内容、方法、評価を記した授業計画を示すとともに、教育課程編成・実施の方針を具体化し、可視化して共有するための教育課程構造図や履修系統図を示す。（資料１）
- ・ 単位制度の実質化を図る観点から、特定の学期における偏りのある履修登録を避けるとともに、学生が学習目標に沿った適切な授業科目の履修が可能となるように、養成する具体的な人材像に対応した典型的な履修モデルを提示する。（資料１）
- ・ 卒業時における質を確保する観点から、予め学生に対して各授業科目における学習目標やその目標を達成するための授業の方法、計画等を明示したうえで、成績評価基準や卒業認定基準を示し、これに基づく厳格な評価を行う。

3) 入学者受入れの方針

- ・ サイバー×フィジカル社会の実現に貢献したい人
- ・ 人々の豊かな生活の創造・実現に貢献したい人
- ・ 未来志向、自主的な思考・発想・実行のある人

② 学部、学科等の特色

1 情報変革科学部

情報変革科学部では、組織として研究対象とする中心的な学問分野を「情報学分野」として、自ら学習を継続する能力・論理的思考力・課題解決力・コミュニケーション力・豊かな人間力・国際感覚と教養を備え、専門技術者として守るべき倫理や負うべき社会的責任を理解し、情報に関する科学的な見方や考え方を基盤として、情報技術に関する専門知識や技術を習得し、情報社会の分野において世界文化に技術で貢献し得る人材を養成することとしている。

具体的には、情報変革科学部では、情報社会における事象を、工学的・科学的な視点から捉える能力とともに、情報の科学的な理解に基づく数理知識や情報技術を適切かつ効果的に活用して、情報社会の環境変化に柔軟に対応した情報技術の変革を図る創造的な能力と実践的な態度を習得することとしている。

このことから、情報変革科学部が担う機能と特色は、中央教育審議会答申による「我が国の高等教育の将来像」の提言する「高等教育の多様な機能と個性・特色の明確化」を踏まえて、情報学分野における教育・研究を通して、「幅広い職業人養成」の機能を重点的に担うことによる特色の明確化を図ることとしている。

2 情報工学科

情報工学科では、組織として研究対象とする中心的な学問分野を「情報学分野」として、情報と情報技術に関する基礎的な知識と技術を基盤として、それらを適切かつ効果的に活用できる実践的な能力を有して、情報技術を科学的・実証的に考究し、その成果を情報技術の変革に活かすことのできる人材を養成することとしている。

具体的には、情報工学科では、情報理論や情報処理などの工業技術に関する基本原理や基本構造と基盤技術及び情報技術を実際に開発する能力とともに、情報技術に関する諸問題を主体的・合理的に解決し、情報技術の変革を図る実践的な態度を習得することとしている。

情報工学科の卒業後の進路としては、情報関連産業や事業体の情報関連部門等に所属し、技

術職や研究職として情報技術の活用や開発を図る業務に携わるとともに、技術的問題の解決による情報技術の変革を図る業務に携わることが想定される。

このことから、情報工学科が担う機能と特色は、中央教育審議会答申による「我が国の高等教育の将来像」の提言する「高等教育の多様な機能と個性・特色の明確化」を踏まえて、情報学分野における教育・研究を通して、「幅広い職業人養成」の機能を重点的に担うことによる特色の明確化を図ることとしている。

3 認知情報科学科

認知情報科学科では、組織として研究対象とする中心的な学問分野を「情報学分野」として、認知機能と情報技術に関する基礎的な知識と技術を基盤として、それらを実社会で実用化するための実践的な能力を有して、認知機能を科学的・実証的に考究し、その成果を情報科学の変革に活かすことのできる人材を養成することとしている。

具体的には、認知情報科学科では、認知科学と情報科学に関する基本原理や基盤技術の習得と知的機能や認知過程を情報処理の観点から応用する能力とともに、認知機能に関する諸問題を主体的・合理的に解決し、情報科学の変革を図る実践的な態度を習得することとしている。

認知情報科学科の卒業後の進路としては、情報技術関連産業等に所属し、技術職や研究職として認知機能を活用した情報処理や情報技術の開発を図る業務に携わるとともに、認知機能の解明による情報科学の変革を図る業務に携わることが想定される。

このことから、認知情報科学科が担う機能と特色は、中央教育審議会答申による「我が国の高等教育の将来像」の提言する「高等教育の多様な機能と個性・特色の明確化」を踏まえて、情報学分野における教育・研究を通して、「幅広い職業人養成」の機能を重点的に担うことによる特色の明確化を図ることとしている。

4 高度応用情報科学科

高度応用情報科学科では、組織として研究対象とする中心的な学問分野を「情報学分野」として、情報科学の基礎研究を通じて得られた理論や技術を高度情報化社会に向けて創造的に応用できる能力を有して、情報科学を科学的・実証的に考究し、その成果を情報社会の変革に活かすことのできる人材を養成することとしている。

具体的には、高度応用情報科学科では、情報科学に関する基本原理や基盤技術の習得と情報技術を応用した新たな仕組みや価値を生み出す能力の習得とともに、情報科学の諸問題を主体的・合理的に解決し、情報社会の変革を図る実践的な態度を習得することとしている。

高度応用情報科学科の卒業後の進路としては、情報関連産業をはじめとする各種事業体に所属し、情報科学の基礎と応用の融合による付加価値の高い情報技術の開発をはじめとする、高度情報社会の変革を図る業務に携わることが想定される。

このことから、高度応用情報科学科が担う機能と特色は、中央教育審議会答申による「我が国の高等教育の将来像」の提言する「高等教育の多様な機能と個性・特色の明確化」を踏まえて、情報学分野における教育・研究を通して、「幅広い職業人養成」の機能を重点的に担うことによる特色の明確化を図ることとしている。

③ 学部、学科等の名称及び学位の名称

1 情報変革科学部

情報変革科学部では、組織として研究対象とする中心的な学問分野を「情報学分野」として、自ら学習を継続する能力・論理的思考力・課題解決力・コミュニケーション力・豊かな人間力・国際感覚と教養を備え、専門技術者として守るべき倫理や負うべき社会的責任を理解し、情報に関する科学的な見方や考え方を基盤として、情報技術に関する専門知識や技術を習得し、情報社会の分野において世界文化に技術で貢献し得る人材を養成することとしている。

また、情報変革科学部では、情報社会における事象を、工学的・科学的な視点から捉える能力とともに、情報の科学的な理解に基づく数理知識や情報技術を適切かつ効果的に活用して、情報社会の環境変化に柔軟に対応した情報技術の変革を図る創造的な能力と実践的な態度を習得することとしている。

このような、学部が組織として教育研究対象とする中心的な学問分野と学科における教育研究上の目的や養成する人材などについて、社会や受験生に最も分かり易い名称とすることから、学部名称を「情報変革科学部」とし、英訳名称については、国際的な通用性を踏まえたうえで、「Faculty of Innovative Information Science」とすることとした。

2 情報工学科

情報工学科では、組織として研究対象とする中心的な学問分野を「情報学分野」として、情報と情報技術に関する基礎的な知識と技術を基盤として、それらを適切かつ効果的に活用できる実践的な能力を有して、情報技術を科学的・実証的に考究し、その成果を情報技術の変革に活かすことのできる人材を養成することとしている。

また、情報工学科では、情報理論や情報処理などの工業技術に関する基本原理や基本構造と基盤技術及び情報技術を実際に開発する能力とともに、情報技術に関する諸問題を主体的・合

理的に解決し、情報技術の変革を図る実践的な態度を習得することとしている。

このような、学科が組織として教育研究対象とする中心的な学問分野と学科における教育研究上の目的や養成する人材などについて、社会や受験生に最も分かり易い名称とすることから、学科名称を「情報工学科」、学位を「学士（工学）」とすることとし、英訳名称については、国際的な通用性を踏まえたうえで、学科の英訳名称を「Department of Computer Science」、学位の英訳名称を「Bachelor of Engineering」とすることとした。

3 認知情報科学科

認知情報科学科では、組織として研究対象とする中心的な学問分野を「情報学分野」として、認知機能と情報技術に関する基礎的な知識と技術を基盤として、それらを実社会で実用化するための実践的な能力を有して、認知機能を科学的・実証的に考究し、その成果を情報科学の変革に活かすことのできる人材を養成することとしている。

また、認知情報科学科では、認知科学と情報科学に関する基本原理や基盤技術の習得と知的機能や認知過程を情報処理の観点から応用する能力とともに、認知機能に関する諸問題を主体的・合理的に解決し、情報科学の変革を図る実践的な態度を習得することとしている。

このような、学科が組織として教育研究対象とする中心的な学問分野と学科における教育研究上の目的や養成する人材などについて、社会や受験生に最も分かり易い名称とすることから、学科名称を「認知情報科学科」、学位を「学士（工学）」とすることとし、英訳名称については、国際的な通用性を踏まえたうえで、学科の英訳名称を「Department of Cognitive and Information Sciences」、学位の英訳名称を「Bachelor of Engineering」とすることとした。

4 高度応用情報科学科

高度応用情報科学科では、組織として研究対象とする中心的な学問分野を「情報学分野」として、情報科学の基礎研究を通じて得られた理論や技術を高度情報化社会に向けて創造的に応用できる能力を有して、情報科学を科学的・実証的に考究し、その成果を情報社会の変革に活かすことのできる人材を養成することとしている。

また、高度応用情報科学科では、情報科学に関する基本原理や基盤技術の習得と情報技術を応用した新たな仕組みや価値を生み出す能力の習得とともに、情報科学の諸問題を主体的・合理的に解決し、情報社会の変革を図る実践的な態度を習得することとしている。

このような、学科が組織として教育研究対象とする中心的な学問分野と学科における教育研究上の目的や養成する人材などについて、社会や受験生に最も分かり易い名称とすることから、学科名称を「高度応用情報科学科」、学位を「学士（工学）」とすることとし、英訳名称

については、国際的な通用性を踏まえたうえで、学科の英訳名称を「Department of Applied Informatics」、学位の英訳名称を「Bachelor of Engineering」とすることとした。

④ 教育課程の編成の考え方及び特色

1 教育課程の編成の方針

情報変革科学部では、教育研究上の目的や人材養成の目的を達成することから、教育課程を「教養科目」と「専門科目」の科目群から編成することとし、「教養科目」では、中央教育審議会答申などで指摘されている重要性や意義を踏まえた編成とするとともに、「専門科目」では、人材養成の目的や学位授与の方針を達成するために必要な授業科目について、授業科目間の関係や履修の順序に留意した編成としている。

2 教養科目の編成の考え方

「教養科目」は、中央教育審議会答申などで指摘されている重要性や意義を踏まえたうえで、「教養基礎科目」と「教養共通科目」及び「教養特別科目」の科目群から編成することとしている。

(1) 教養基礎科目

「教養基礎科目」は、「コミュニケーションスキル」、「情報リテラシー」、「人間力養成」の科目群から編成することとしており、「コミュニケーションスキル」では、英語による基礎的なコミュニケーション能力の習得を図るための科目として、24科目24単位を選択科目として配置し、また、日本語による文章を書くための基本的な技術やルールを習得するための科目として、「日本語表現法」1単位を必修科目として配置している。

「情報リテラシー」では、ICTを用いて情報を収集、分析、活用するための基礎的な能力を習得する科目として、「数理・データサイエンス・AI 入門」1単位を必修科目として配置し、「AI・プログラミング基礎演習」1単位を選択科目として配置している。

「人間力養成」では、健康増進のための運動効果や健康づくり運動に関する基本的な知識と方法の理解及び生涯にわたって運動に親しむ態度を養うための科目として、「スポーツ科学」2単位を必修科目として配置している。

また、学部教育における主体的な学習のあり方やアカデミック・スキルを習得するための科目として、「初年次教育」1単位を必修科目として配置するとともに、卒業後も自律・自立して学習するとともに、職業観を涵養し、職業に関する知識・技能を身に付けさせ、自己の個性を理解した上で主体的に進路を選択できる能力・態度を育成するための科目として、「キャリア

「デザイン1」1単位、「キャリアデザイン2」1単位、「キャリアデザイン3」1単位を必修科目として配置している。

(2) 教養共通科目

「教養共通科目」は、「国際理解」、「人間・社会・自然の理解」、「総合」の科目群から編成することとしており、「国際理解」では、世界の多様な国や地域の言語や文化と社会に関する知識を習得する科目として、「異文化理解」2単位、「言語と文化Ⅰ」2単位、「言語と文化Ⅱ」2単位を必修科目として配置し、「グローバル時代の法」2単位、「国際社会論」2単位を選択科目として配置している。

「人間・社会・自然の理解」では、人間や人間理解に関する知識を習得する科目として、「哲学」2単位、「倫理学」2単位、「心理学」2単位、「身体と健康の科学」2単位を選択科目として配置し、自らがしよって立つ国の歴史や文化、芸術に関する知識を習得する科目として、「文学と芸術」2単位、「歴史と人間」2単位を選択科目として配置している。

また、現代社会が直面する基本的な諸課題に関する知識を習得する科目として、「憲法と社会」2単位、「政治と社会」2単位、「経済学」2単位、「現代社会論」2単位を選択科目として配置し、自然と環境や科学技術に関する基礎的な知識を習得する科目として、「科学技術史」2単位、「環境科学概論」2単位、「生命科学」2単位、「地球科学」2単位、「物理の世界と先端技術」2単位、「物質科学」2単位を選択科目として配置している。

「総合」では、問題を発見し、解決に必要な情報を収集、分析、整理し、その問題を確実に解決できる能力を習得する科目として、「課題探求セミナー」2単位を選択科目として配置するとともに、これまでに獲得した知識、技能、態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力を習得する科目として、「総合学際科目」2単位を選択科目として配置している。

(3) 教養特別科目

「教養特別科目」は、英語の運用能力を高めるための科目として、「イングリッシュアクティブラーニング1」1単位、「イングリッシュアクティブラーニング2」1単位、「イングリッシュアクティブラーニング3」1単位を選択科目として配置し、日本語の運用能力を高めるための科目として、「日本語アクティブラーニング」1単位を選択科目として配置している。

また、スポーツ実践を通して、課題解決力、状況把握力、ストレスマネジメント力、リーダーシップ、チームワークを育成するための科目として、「スポーツアクティブラーニング」2単位を選択科目として配置し、地域活動や社会活動などの実体験を通して、自らの社会的役割

を認識するための科目として、「ソーシャルアクティブラーニング」1単位を選択科目として配置しているとともに、国内外における就業体験のための科目として、「国際インターン」1単位、「国内インターン」1単位を選択科目として配置している。

さらに、ボランティア活動を通じて、人間力を高めるための科目として「ボランティア」1単位を選択科目として配置するとともに、「教養共通科目」で扱った内容を発展させ、現代社会が抱える諸問題について新たな視点からとらえ直すことにより、総合的な判断力や理解力を高めるための科目として、「総合科学特論」2単位を選択科目として配置している。

3 専門科目の編成の考え方

「専門科目」は、養成する人材や学生に習得させる能力を踏まえたうえで、学部段階における専門教育は、基礎・基本を重視しつつ、関連諸科学との関係を学ぶことなどを通じて、学生が主体的に課題を探究し解決するための基礎となる能力を育成するとともに、学部卒業後、社会人として就業し、成長していく過程において、実務等を通じて、新たな知識や能力を体得していくための資質や能力を育成するための基礎教育を重視することとしている。

このことから、「専門科目」は、教育課程編成・実施の方針を踏まえたうえで、専門の骨格を正確に把握させるために、科目間の関係や履修の順序、単位数等に配慮しつつ、系統性と順次生のある教育課程の編成とすることから、「専門基礎科目」、「専門基幹科目」、「専門展開科目」の科目群から編成することとしている。

(1) 情報工学科

1) 専門基礎科目

「専門基礎科目」は、情報工学分野における知識や技術を習得するための基盤となる科目群であり、情報工学分野における学問体系の理解と情報工学分野を体系的に学習するうえでの総論となる科目として、「情報工学概論」2単位を必修科目として配置するとともに、電流の流れる通路に関する基本的な知識を理解する科目として、「電気回路」2単位を必修科目として配置している。

そのうえで、情報工学分野に必要となる基礎としての数学・物理などの自然科学に関する科目として、「数学基礎」2単位、「微分積分」2単位、「確率統計」2単位、「線形代数基礎」2単位、「線形代数応用」2単位、「微分方程式」2単位、「離散数学」2単位、「線形代数特論」2単位、「応用解析」2単位、「統計解析」2単位、「初等整数論」2単位を選択科目として配置している。

2) 専門基幹科目

「専門基幹科目」は、専門教育を体系的に学習するうえでの導入・総論となる科目群であり、情報工学分野に関する基礎的・基本的な知識や技術を習得するための科目として、「プログラミング言語」2単位、「論理回路」2単位、「フィジカルコンピューティング」2単位、「技術文章作成」2単位、「アイディアソン」2単位、「Web プログラミング」2単位、「データサイエンス」2単位、「データ通信」2単位、「アジャイルワーク1」2単位、「ハッカソン1」2単位、「クリティカルエンジニアリング」2単位、「アジャイルワーク2」2単位、「ハッカソン2」2単位を必修科目として配置している。

そのうえで、「メディア処理」2単位、「グラフィックス」2単位、「ソフトウェア工学」2単位、「ビジュアル情報処理」2単位、「クラウドコンピューティング」2単位、「デジタル信号処理」2単位を選択科目として配置している。

3) 専門展開科目

「専門展開科目」は、「専門基幹科目」を受けて学習する情報工学分野の基本をより具体的に理解するための科目群であり、専門分野の体系全般にわたる科目として、「数理モデリング」2単位、「感性情報処理」2単位、「数値解析」2単位、「アルゴリズムとデータ構造」2単位、「オペレーティングシステム」2単位、「デジタル通信」2単位、「情報理論」2単位、「データベース」2単位、「機械学習」2単位、「人工知能」2単位、「情報セキュリティ」2単位、「高性能計算」2単位を選択科目として配置している。

そのうえで、技術者として求められる倫理について学習するための科目として、「技術者倫理」2単位を必修科目として配置するとともに、入門段階としての基礎的な研究能力の養成と研究意識を涵養するとともに、学生の興味と関心に応じて、自己の研究成果に関する卒業研究へと結び付けるための科目として、「ゼミナール1」2単位、「ゼミナール2」2単位、「ゼミナール3」2単位を必修科目として配置し、卒業論文の作成指導のための科目として、「卒業研究」5単位を必修科目として配置している。

(2) 認知情報科学科

1) 専門基礎科目

「専門基礎科目」は、認知情報工学分野を学習するうえで必要となる基礎としての数学・物理などの自然科学に関する科目群であり、「数学基礎」2単位を必修科目として配置したうえで、「線形代数基礎」2単位、「微分積分」2単位、「線形代数応用」2単位、「確率統計」2単位、「微分方程式」2単位、「応用解析」2単位、「離散数学」2単位、「統計解析」2単位、「代数学1」2単位、「代数学2」2単位を選択科目として配置している。

2) 専門基幹科目

「専門基幹科目」は、専門教育を体系的に学習するうえでの導入・総論となる科目群であり、認知情報科学分野における学問体系の理解と認知情報科学分野を体系的に学習するうえでの総論となる科目として、「認知情報科学入門」2単位、「認知科学概論」2単位、「情報科学概論」2単位を必修科目として配置するとともに、認知情報科学分野に関する基礎的・基本的な知識や技術を習得するための科目として、「プログラミング演習」2単位、「認知情報科学演習」2単位、「認知科学基礎1」2単位、「人工知能基礎1」2単位、「マルチメディア1」2単位、「ソフトウェア基礎1」2単位、「ネットワーク基礎1」2単位、「認知情報科学実験1」2単位、「認知情報科学実験2」2単位を必修科目として配置している。

そのうえで、「認知科学基礎2」2単位、「人工知能基礎2」2単位、「マルチメディア基礎2」2単位、「ソフトウェア基礎2」2単位、「ネットワーク基礎2」2単位を選択科目として配置している。

3) 専門展開科目

「専門展開科目」は、「専門基幹科目」を受けて学習する認知情報科学分野の基本をより具体的に理解するための科目群であり、専門分野の体系全般にわたる科目として、「認知科学応用」2単位、「学びの科学・工学」2単位、「コミュニケーション」2単位、「ヒューマンコンピュータインタラクション」2単位、「マシンラーニング」2単位、「コンピュータビジョン」2単位、「ソフトウェア工学」2単位、「ネットワーク応用」2単位、「アルゴリズムとデータ構造」2単位、「インターネットの心理学」2単位、「デザインと表現」2単位、「フィールド調査」2単位、「自然言語処理」2単位、「グラフィックス」2単位、「プロジェクトマネジメント」2単位、「データマイニング」2単位、「センシングとIoT」2単位、「経営システム工学」2単位を選択科目として配置している。

そのうえで、技術者として求められる倫理について学習するための科目として、「技術者倫理」2単位を必修科目として配置するとともに、入門段階としての基礎的な研究能力の養成と研究意識を涵養するとともに、学生の興味と関心に応じて、自己の研究成果に関する卒業研究へと結び付けるための科目として、「ゼミナール1」2単位、「ゼミナール2」2単位、「ゼミナール3」2単位、「ゼミナール4」2単位を必修科目として配置し、卒業論文の作成指導のための科目として、「卒業研究」5単位を必修科目として配置している。

(3) 高度応用情報科学科

1) 専門基礎科目

「専門基礎科目」は、高度応用情報科学分野を学習するうえで必要となる基礎としての数学・物理などの自然科学に関する科目群であり、「数学基礎」2単位、「線形代数基礎」2単位、「線形代数応用」2単位、「確率統計」2単位を必修科目として配置したうえで、「微分積分」2単位、「微分方程式」2単位、「数理モデリング」2単位、「離散数学」2単位、「情報数学1」2単位、「応用解析」2単位、「統計解析」2単位、「社会数理モデリング」2単位、「情報数学2」2単位、「代数学1」2単位、「代数学2」2単位を選択科目として配置している。

2) 専門基幹科目

「専門基幹科目」は、専門教育を体系的に学習するうえでの導入・総論となる科目群であり、高度応用情報科学分野における学問体系の理解と高度応用情報科学分野を体系的に学習するうえでの総論となる科目として、「高度応用情報科学概論1」2単位と「高度応用情報科学概論2」2単位を必修科目として配置するとともに、高度応用情報科学分野に関する基礎的・基本的な知識や技術を習得するための科目として、「情報リテラシ」2単位、「情報リテラシ演習1」2単位、「ICT 基礎」2単位、「情報リテラシ演習2」2単位、「データ構造とアルゴリズム」2単位、「情報メディア基礎」2単位、「TCP/IP 概論」2単位、「情報ネットワーク」2単位を必修科目として配置している。

そのうえで、「NW プログラミング基礎演習」2単位、「OS とシステムソフトウェア」2単位、「NW プログラミング応用演習」2単位、「データサイエンス入門」2単位、「データサイエンス演習」2単位を選択科目として配置している。

3) 専門展開科目

「専門展開科目」は、「専門基幹科目」を受けて学習する高度応用情報科学分野の基本をより具体的に理解するための科目群であり、専門分野の体系全般にわたる科目として、「データベース」2単位、「LAN」2単位、「Web プログラミング基礎実験」2単位、「機械学習基礎」2単位、「行動科学分析」2単位、「金融工学」2単位、「クラウドコンピューティング」2単位、「クラウド構築演習」2単位、「ソフトコンピューティング」2単位、「マルチメディア情報処理」2単位、「情報倫理」2単位、「ソフトウェア工学」2単位、「Web プログラミング応用実験」2単位、「機械学習応用」2単位、「人間工学」2単位、「IoT システム」2単位、「IoT システム構築実験」2単位、「サイバーセキュリティ」2単位、「サイバーセキュリティ実験」2単位を選択科目として配置している。

そのうえで、入門段階としての基礎的な研究能力の養成と研究意識を涵養するとともに、

学生の興味と関心に応じて、自己の研究成果に関する卒業研究へと結び付けるための科目として、「高度応用情報科学ゼミナール1」2単位、「高度応用情報科学ゼミナール2」2単位、「高度応用情報科学ゼミナール3」2単位を必修科目として配置し、卒業論文の作成指導のための科目として、「卒業研究」5単位を必修科目として配置している。

⑤ 教育方法、履修指導方法及び卒業要件

1 教育方法

(1) 授業の方法

授業方法は、知識の理解を目的とする教育内容は、講義形式を中心とした授業形態を採るとともに、態度・志向性及び技能の習得を目的とする教育内容は、演習形式による授業形態を採ることとし、仮説の検証や理論的な知識や技能を実務に応用する能力を身に付けることを目的とする教育内容は、実験形式や実習形式による授業形態を採ることとしている。

(2) 配当年次

配当年次は、基礎から基幹へと体系的な学習が可能となるようにするとともに、特に、専門教育においては、専門分野の教育内容ごとに、知識、技能、応用といった授業の内容と科目間の関係や履修の順序に留意するとともに、単位制度の4年間における制度設計の観点を踏まえて、特定の学年や学期において偏りのある履修登録がなされないように配慮した配当としている。

(3) 履修科目の登録上限

単位制度の実質化の観点を踏まえたうえで、学生の主体的な学習を促し、教室における授業と教室外の学習を合わせた充実した授業を展開することにより学習効果を高めるために、1学年あたりの卒業要件科目の標準的な履修登録単位数の上限を40単位とする。

(4) 厳格なる成績評価

卒業時における学生の質を確保する観点から、予め学生に対して各授業における学習目標やその目標を達成するための授業の方法、計画等を明示したうえで、成績評価基準や卒業認定基準を提示し、これに基づき厳格な評価を行うとともに、客観的な評価基準を適用することから、厳格な成績評価の方法として、GPA制度を導入する。

2 履修指導方法

履修指導方法は、授業を受ける学生に対して、教員が相談に応じる専用の時間を設けることにより、きめ細やかな教育指導を行う体制を整えるとともに、学期ごとに学年別の履修ガイド

ンスを実施したうえで、学生の適性や能力に応じて学生の履修科目の選択に関する助言を行う専門的な職員を配置し、個別の履修相談に応じるなど、履修指導体制を整備する。

また、専門科目では、専門分野の学問体系と学習段階に即した授業科目を配置しており、学部教育段階では、基礎的な専門知識や技能を確実に習得させることに重点を置くことが重要であることを踏まえたうえで、単位制度の実質化を図る観点から、特定の学期における偏りのある履修登録を避け、学生が学習目標に沿った適切な授業科目の履修が可能となるように、養成する具体的な人材像に対応した典型的な履修モデルを提示する。（資料 1）

3 卒業要件

（1）情報工学科

情報工学科の卒業要件は、「教養科目」から必修科目14単位を含む35単位以上、「専門科目」の「専門基礎科目」から必修科目4単位を含む18単位以上、「専門基幹科目」から必修科目26単位を含む36単位以上、「専門展開科目」から必修科目13単位を含む35単位以上を習得し、124単位以上を習得することとしている。

（2）認知情報科学科

認知情報科学科の卒業要件は、「教養科目」から必修科目14単位を含む35単位以上、「専門科目」の「専門基礎科目」から必修科目2単位を含む12単位以上、「専門基幹科目」から必修科目24単位を含む32単位以上、「専門展開科目」から必修科目15単位を含む45単位以上を習得し、124単位以上を習得することとしている。

（3）高度応用情報科学科

高度応用情報科学科の卒業要件は、「教養科目」から必修科目14単位を含む35単位以上、「専門科目」の「専門基礎科目」から必修科目10単位を含む24単位以上、「専門基幹科目」から必修科目20単位を含む24単位以上、「専門展開科目」から必修科目11単位を含む41単位以上を習得し、124単位以上を習得することとしている。

⑥ 実習の具体的計画

1 教育実習先の確保の状況

情報変革科学部の情報工学科・認知情報科学科・高度応用情報科学科では、中学校教諭一種免許状（数学）と高等学校教諭一種免許状（数学・情報）を取得可能な資格としており、教育実習先については、学生の出身校に加えて、本学から交通が便利な地域に設置されている中学校や高等学校を中心として、中学校 34 校、高等学校 11 校を確保しており、情報変革科学部の

入学定員 360 名に対して、45 名の実習生受入れの承諾を得ている。(資料 2)

2 実習先との契約内容

教育実習先との間に、実習受入に関する契約を取り交わすこととし、特に、個人情報保護については、個人情報保護方針を作成したうえで、教育実習先との間で個人情報保護に関する覚書を取り交わすこととする。

また、事故防止については、教育実習先における事故防止策及び事故発生時の対処方法に関するマニュアルを作成し、教育実習先との共有化を図るとともに、事故発生時における連携体制の強化を図る目的で、大学と教育実習先との間で緊急連絡網を作成する。

3 実習水準の確保の方策

実習水準を確保するため、実習生の受入先に対して、実習開始前に指導方針や指導内容等を記した実施要項を作成、配付することで、実習教育に対する理解を得ることとしている。

実習生に対しては、事前学習において、実習目的、到達目標、成績評価の基準や方法などについて、十分に理解させたうえで実習に臨ませることで、実習水準の確保を図ることとする。

また、実習指導は、専任の教育実習指導教員があたることとし、教育実習先の実習指導者との役割分担のもとに連携を図りながら実習指導を行うことにより、実習水準の確保に努めることとする。

4 教育実習先との連携体制

実習開始前に、本学の教育実習担当教員と教育実習先の実習担当者で、教育実習の目的や到達の目標、教育実習の方法と内容、成績の評価などについて十分な打合せを行い、教育実習先での指導体制を整えるとともに、実習期間中においても、各教育実習先を教員が訪問し、実習状況の確認や打合せを行うこととする。

さらに、教育実習の開始前と終了後における定期的な情報交換や意見交換を行うとともに、各教育実習先との間で日常的な連絡・調整による緊密な連携体制をとることにより、円滑な意思の疎通を図ることができるよう努めることとする。

5 実習前の準備状況

感染予防対策としては、実習生に対して実習開始前に健康診断を実施することとし、診断結果に応じた必要な措置を施すとともに、実習中又は教育実習先への往復途上での万が一の事故に備え、学生教育研究災害傷害保険及び実習賠償責任保険に加入する。

6 事前・事後における指導計画

事前・事後における指導計画は、事前・事後指導に関する授業科目を配置しており、事前指

導では、実習目的や到達目標、実習中の留意事項などについて十分に理解させることとし、事後指導では、実習報告会の実施や実習報告書の作成などを通じて、実習内容の整理をさせることとする。

事前指導として、主に以下の指導を行う。

- ・ 教育実習の意義と目的を理解させる。
- ・ 教育実習先の概要を理解させる。
- ・ 各自の実習課題を明確にさせる。
- ・ 教育実習の概要について理解させる。
- ・ 実習日誌の記載について理解させる。
- ・ 学習指導案の作成について理解させる。
- ・ 服装や言葉づかい、礼儀などを理解させる。
- ・ 個人情報保護などの留意事項を理解させる。

事後指導として、主に以下の指導を行う。

- ・ 実習課題への取り組みの報告と討論を実施する。
- ・ 実習時に起きたトラブルや注意された事を報告する。
- ・ 今後の課題を考えさせる。
- ・ 実習での体験と学びを文章にまとめさせる。
- ・ 実習先への礼状を作成する。

7 教員及び助手の配置並びに巡回指導計画

教育実習指導における教員の配置については、当該教育実習科目を担当する専任教員4人を配置することで、教員1人当たり10人～12人程度の実習生を指導することとしており、きめ細やかな巡回指導が可能となるよう配慮している。

また、教育実習中の巡回指導については、実習生の実習状況や実習記録を確認したうえで、実習生に対する指導を行うとともに、教育実習先の実習指導者との面談による実習目標の到達状況や課題事項などの確認を行い、必要に応じて改善計画等の策定を行うこととしている。

8 成績評価体制及び単位認定方法

教育実習における成績評価については、教育実習評価基準に基づいて、教育実習科目担当教員が行うこととし、教育実習先における実習指導者の評価及び出欠等の状況、実習記録、レポート、自己評価表、面接などにより、教育実習目標の到達度合に照らしながら、総合的に判断したうえで、単位の認定を行うこととする。

⑦ 取得可能な資格

1 取得可能な資格

(1) 情報工学科

中学校教諭一種免許状（数学）

高等学校教諭一種免許状（数学・情報）

(2) 認知情報科学科

中学校教諭一種免許状（数学）

高等学校教諭一種免許状（数学・情報）

(3) 高度応用情報科学科

中学校教諭一種免許状（数学）

高等学校教諭一種免許状（数学・情報）

2 資格取得の条件

卒業要件の単位に含まれる科目のほか、教科及び教科の指導法に関する科目並びに教育の基礎的理解に関する科目を習得することにより、中学校教諭一種免許状（数学）、高等学校教諭一種免許状（数学・情報）を取得することができる。

⑧ 入学者選抜の概要

1 基本方針

情報変革科学部における入学者選抜の基本方針は、入学志願者の大学教育を受けるにふさわしい能力や適性等を多面的に判定し、公正かつ妥当な方法で実施するとともに、学部教育研究上の目的や養成する人材等に応じた入学者の受入方針を明確にするとともに、これに基づき、入学後の教育との関連を十分に踏まえたうえで、入試方法の多様化、評価尺度の多元化に努めることとする。

2 受入方針

(1) 情報工学科

情報工学科では、組織として研究対象とする中心的な学問分野を「情報学分野」として、情報と情報技術に関する基礎的な知識と技術を基盤として、それらを適切かつ効果的に活用できる実践的な能力を有して、情報技術を科学的・実証的に考究し、その成果を情報技術の変革に活かすことのできる人材を養成することとしている。

具体的には、情報工学科では、情報理論や情報処理などの工業技術に関する基本原理や基本構造と基盤技術及び情報技術を実際に開発する能力とともに、情報技術に関する諸問題を主体的・合理的に解決し、情報技術の変革を図る実践的な態度を習得するための教育課程の編成としている。

この情報工学科における養成する人材や教育課程との関連性を踏まえたうえで、情報工学科の入学者の受入方針については、以下の通りとしている。

- ・ ソフトウェアに関して「使う」ことよりも「作る」ことに興味のある人
- ・ ソフトウェアの基盤となるハードウェアやネットワークの技術にも学習意欲のある人
- ・ 自ら手を動かし、分析、考案、設計することに熱意を持った人

なお、情報工学科の入学者の受入方針に対する入学者選抜における判定方法については、「ソフトウェアに関して「使う」ことよりも「作る」ことに興味のある人」については、書類審査、面接試験、演習課題、小論文試験などにより判定することとしている。

また、「ソフトウェアの基盤となるハードウェアやネットワークの技術にも学習意欲のある人」については、書類審査又は学力検査のいずれかにより判定することとし、「自ら手を動かし、分析、考案、設計することに熱意を持った人」については、書類審査、面接試験、演習課題、学力検査などにより判定することとしている。

(2) 認知情報科学科

認知情報科学科では、組織として研究対象とする中心的な学問分野を「情報学分野」として、認知機能と情報技術に関する基礎的な知識と技術を基盤として、それらを実社会で実用化するための実践的な能力を有して、認知機能を科学的・実証的に考究し、その成果を情報科学の変革に活かすことのできる人材を養成することとしている。

具体的には、認知情報科学科では、認知科学と情報科学に関する基本原理や基盤技術の習得と知的機能や認知過程を情報処理の観点から応用する能力とともに、認知機能に関する諸問題を主体的・合理的に解決し、情報科学の変革を図る実践的な態度を習得するための教育課程の編成としている。

この認知情報科学科における養成する人材や教育課程との関連性を踏まえたうえで、認知情報科学科の入学者の受入方針については、以下の通りとしている。

- ・ ソフトウェアと人間の双方の仕組みと関わりに強い興味のある人
- ・ 周囲の人々と協力してプロジェクトを進めることに意欲のある人

- ・ 幅広い視野で考え、自ら手を動かし、積極的に問題に取り組める人

なお、認知情報科学科の入学者の受入方針に対する入学選抜における判定方法については、「ソフトウェアと人間の双方の仕組みと関わりに強い興味のある人」については、書類審査又は学力検査のいずれかにより判定することとし、「周囲の人々と協力してプロジェクトを進めることに意欲のある人」については、書類審査、面接試験、演習課題、小論文試験などにより判定することとしている。

また、「幅広い視野で考え、自ら手を動かし、積極的に問題に取り組める人」については、書類審査、面接試験、演習課題、学力検査などにより判定することとしている。

(3) 高度応用情報科学科

高度応用情報科学科では、組織として研究対象とする中心的な学問分野を「情報学分野」として、情報科学の基礎研究を通じて得られた理論や技術を高度情報化社会に向けて創造的に応用できる能力を有して、情報科学を科学的・実証的に考究し、その成果を情報社会の変革に活かすことのできる人材を養成することとしている。

具体的には、高度応用情報科学科では、情報科学に関する基本原理や基盤技術の習得と情報技術を応用した新たな仕組みや価値を生み出す能力の習得とともに、情報科学の諸問題を主体的・合理的に解決し、情報社会の変革を図る実践的な態度を習得するための教育課程の編成としている。

この高度応用情報科学科における養成する人材や教育課程との関連性を踏まえたうえで、高度応用情報科学科の入学者の受入方針については、以下の通りとしている。

- ・ サイバー×フィジカル社会の実現に貢献したい人
- ・ 人々の豊かな生活の創造・実現に貢献したい人
- ・ 未来志向、自主的な思考・発想・実行のある人

なお、高度応用情報科学科の入学者の受入方針に対する入学選抜における判定方法については、「サイバー×フィジカル社会の実現に貢献したい人」については、書類審査又は学力検査のいずれかにより判定することとし、「人々の豊かな生活の創造・実現に貢献したい人」については、書類審査、面接試験、演習課題、小論文試験などにより判定することとしている。

また、「未来志向、自主的な思考・発想・実行のある人」については、書類審査、面接試験、演習課題、学力検査などにより判定することとしている。

3 選抜方法

(1) 実施方法及び定員割合

入学者選抜の実施方法は、情報工学科と認知情報科学科と高度応用情報科学科における入学者選抜の受入方針を踏まえたうえで、一般選抜、総合型選抜、学校推薦型選抜により実施するとともに、一般選抜及び学校推薦型選抜においては、評価尺度の多元化を推進することから、一般選抜の独自入試では、一般入試、大学入学共通テスト利用入試、大学入学共通テスト併用入試により実施することとし、学校推薦型選抜では、指定校推薦入試及び公募制推薦入試により実施する。

一般選抜と総合型選抜及び学校推薦型選抜の募集定員については、一般選抜の募集定員 249 人、総合型選抜の募集定員 45 人、学校推薦型選抜の募集定員 63 人、特別選抜（社会人など）の募集定員 3 人とする。

（２）一般選抜・独自入試

一般入学試験・独自入試では、学力検査として A 日程試験では数学、英語、理科または国語の 3 教科での判定と英語外部試験（資格または検定試験）で一定基準のスコアを保持している者は数学、理科または国語の 2 教科での判定とする方式とする。B 日程試験では数学、理科の 2 教科での判定と英語外部試験（資格または検定試験）で一定基準のスコアを保持している者は数学 1 教科のみでの判定とする方式とする。SB 日程試験では主に数学と現代文（読解力）を組み合わせた総合問題での判定とする方式とする。C 日程試験では数学、理科またはアドバンス数学の 1 教科あるいは 2 教科での判定と英語外部試験（資格または検定試験）で一定基準のスコアを保持している者は数学 1 教科のみでの判定とする方式とする。

入学志願者の学習能力をできる限り合理的に判定することができるように出題方針を立て、入学者の受入方針に基づく、専門分野への興味と関心や学習意欲及び基礎学力や適性能力を適切に判断することとしている。

（３）一般選抜・大学入学共通テスト利用

大学入学共通テストの成績を利用しての選抜方法は、前期試験では外国語、数学、国語、理科、地理歴史・公民から高得点 3 教科 3 科目を選択することとし、その試験結果を基に判定を行う。中期試験では数学または理科の高得点科目と外国語または国語の高得点科目を合わせた 2 教科 2 科目での判定と数学、理科、外国語を必須とし、国語または地理歴史・公民の高得点 1 科目を合わせた 4 教科 4 科目で判定する。後期試験では数学を含む高得点 2 教科型、数学・理科の 2 教科から高得点 3 科目を採用する数理 3 科目型、数学、理科、外国語を必須とし国語または地理歴史・公民の高得点 1 科目を合わせた 4 教科 4 科目型の 3 パターンで判定する。

(4) 独自入試・大学入学共通テスト利用併用型

SA 日程試験では独自試験の数学と大学入学共通テストの数学の成績を合わせて判定する方式とする。

(5) 総合型選抜

総合型選抜は、詳細な書類審査と各学科独自の課題演習及び面接を組み合わせることにより、入学志願者の目的意識や学習意欲及び基礎学力や思考力、適性能力を総合的に判定することとしている。

(6) 指定校推薦入試及び公募制推薦入試

学校推薦型選抜における指定校推薦入試は、出身高等学校長の推薦に基づき、調査書を主な資料として判定することとし、学部における入学者の受入方針と入学志願者に求める受入方針に基づき、調査書による書面審査及び面接と小論文を課すことにより、入学志願者の目的意識や学習意欲及び基礎学力や適性能力を多面的かつ総合的に評価する。

公募制推薦入試は、出身高等学校長の推薦に基づき、調査書を主な資料として書面審査及び面接で判定することは指定校推薦入試同様だが、加えて高校の評定値に基準を設けかつ読解力テストを課すことにより、別の観点での判定ができる方式としている。

(7) 特別選抜

特別選抜は外国人留学生、帰国生徒、社会人を対象とした入学試験で書類審査、面接、小論文を課すことにより、入学志願者の目的意識や学習意欲及び基礎学力や適性能力を多面的かつ総合的に評価する。

4 選抜体制

入学者選抜の実施体制は、入学者選抜は、中立・公正に実施することを旨とし、入試問題の漏洩など入学者選抜の信頼性を損なう事態が生じることのないように、学長を中心とする責任体制の明確化、入試担当教職員の選任における適格性の確保、研修の実施など実施体制の充実を図るとともに、教員や職員等の関係者が一体となり、全学的な連携体制の確立に努めることとしている。

試験問題の作成においては、チェック体制を不断に点検するとともに、作題者以外の者を含めた重層な点検を行うことにより、ミスの防止と早期発見に努めることとし、合格者の決定業務においては、電算処理や解答のチェック体制を確立し、点検・確認するとともに、追加合格の決定業務についても、マニュアルを作成するなど、実施体制及び決定手続きを明確にすることとしている。

入学志願者の氏名や住所等、選抜を通じて取得した個人情報については、漏洩や選抜以外の目的の利用がないよう、その保護に十分留意しつつ、適切な取り扱いに努めるとともに、入学選抜の実施に係るミスの防止に努めるため、入学選抜業務のプロセス全体を把握したうえで、ミスを防止するためのガイドラインの作成により、業務全体のチェック体制を確立することとしている。

⑨ 教員組織の編成の考え方及び特色

情報変革科学部は、既設の情報科学部の情報工学科と情報ネットワーク学科を基礎として設置することから、既存の教員組織を最大限に活用しつつ、学部教育における教育成果をより一層発揮することが可能となる教員組織の編成とするとともに、教育研究上の目的及び養成する人材並びに教育課程編成の考え方を踏まえたうえで、これらの目的を達成することが可能となる教員組織の編成としている。

1 情報工学科

情報工学科では、組織として研究対象とする中心的な学問分野を「情報学分野」としていることから、教員組織の編成においては、「情報工学分野」を専門とする専任教員を中心とした教員組織としているとともに、専門科目の授業科目数や単位数に応じて、各専門分野における教育上、研究上又は実務上の優れた知識、能力及び実績を有する教授5人及び准教授4人、助教1人を配置する計画としている。

また、情報工学科の教員組織の年齢構成については、30歳代2人、40歳代3人、50歳代4人、60歳代1人から構成することとしており、特定の年齢層に偏ることのないよう計画しているとともに、教育研究水準の維持向上や教育研究の活性化に支障がない教員組織の編成となるように配慮している。

なお、情報工学科の教員組織の編成においては、本学における教育研究以外の業務に従事する専任教員の配置はしていないこととしており、また、完成年度までに定年に達する者1人を配置する計画としているが、定年に達した者の任用については、本学が定める「学校法人千葉工業大学定年後再雇用教員に関する規程」において別途規定されていることから、専任教員の配置計画における支障はないものと考えている。

2 認知情報科学科

認知情報科学科では、組織として研究対象とする中心的な学問分野を「情報学分野」としていることから、教員組織の編成においては、「認知情報科学分野」を専門とする専任教員を中

心とした教員組織としているとともに、専門科目の授業科目数や単位数に応じて、各専門分野における教育上、研究上又は実務上の優れた知識、能力及び実績を有する教授6人及び准教授3人、助教1人を配置する計画としている。

また、認知情報科学科の教員組織の年齢構成については、30歳代1人、40歳代5人、50歳代4人から構成することとしており、特定の年齢層に偏ることのないよう計画しているとともに、教育研究水準の維持向上や教育研究の活性化に支障がない教員組織の編成となるように配慮している。

なお、認知情報科学科の教員組織の編成においては、本学における教育研究以外の業務に従事する専任教員の配置はしていないこととしており、また、完成年度までに定年に達する者の配置も行わないこととしている。

3 高度応用情報科学科

高度応用情報科学科では、組織として研究対象とする中心的な学問分野を「情報学分野」としていることから、教員組織の編成においては、「高度応用情報科学分野」を専門とする専任教員を中心とした教員組織としているとともに、専門科目の授業科目数や単位数に応じて、各専門分野における教育上、研究上又は実務上の優れた知識、能力及び実績を有する教授6人及び准教授3人、助教1人を配置する計画としている。

また、高度応用情報科学科の教員組織の年齢構成については、30歳代1人、40歳代3人、50歳代5人、60歳代1人から構成することとしており、特定の年齢層に偏ることのないよう計画しているとともに、教育研究水準の維持向上や教育研究の活性化に支障がない教員組織の編成となるように配慮している。

なお、高度応用情報科学科の教員組織の編成においては、本学における教育研究以外の業務に従事する専任教員の配置はしていないこととしており、また、完成年度までに定年に達する者の配置も行わないこととしている。

⑩ 研究の実施についての考え方、体制、取組

本学では、アンチディシプリナリー（脱専門性）研究施設となる、「変革センター」を設立し、社会のあらゆる分野で起きている根本的な変化を通して、社会をよくするための新しい知である、技術的プラットフォームや文化的なアウトプットの想像・設計・構築を目指しているとともに、既設の研究センターや「学校法人千葉工業大学産官学連携協議会」との連携を通じた研究の活性化と産学連携の強化の推進や支援プログラムの実施など、外部資金の獲得にも

積極的に取り組んでいる。

また、本学では、研究活動を統括し、産官学における研究連携を推進することを目的とする附属研究所を設置しており、本学における様々な研究の総合化や融合化をはじめ、受託研究や共同研究の斡旋、助成研究の推進などを通して、学内の研究を支援しているとともに、国内外の研究者の招へいの窓口として受入などのサポートや大学院生の研究活動の支援など、将来の研究開発の中核を担う人材の育成にも積極的に取り組んでいる。

なお、本学では、令和5年度より、研究活動活性化のための環境整備及び大学等の研究開発マネジメント強化に向けて、研究開発内容について一定の理解を有しつつ、研究資金の調達・管理、知財の管理・活用等をマネジメントする人材の採用を予定している。

⑪ 施設、設備等の整備計画

1 校地、運動場の整備計画

本学のキャンパスは、千葉県習志野市津田沼に位置する津田沼キャンパスと千葉県習志野市芝園に位置する新習志野キャンパスで、校地面積約 178,000 m² (津田沼キャンパス約 54,000 m²、新習志野キャンパス約 124,000 m²) を有しており、学生の休息その他の利用のための適当な空地についても十分な確保がなされ、大学教育に相応しい環境を整えている。

運動場は、新習志野キャンパスに隣接する茜浜運動施設に約 98,000 m² の面積を確保しており、運動用施設としては、野球場や武道館、武道場をはじめとして、陸上トラック兼ラグビー場、テニスコート、サッカー場や屋内練習場などを有しているとともに、学生部室及び管理施設を備えている。

なお、本学では、津田沼キャンパスと新習志野キャンパスの2キャンパスを設けていることから、学生や教職員のキャンパス間の移動手段として、スクールバスを定期的に運行しており、移動に要する時間は、片道 15 分程度であることから、教育に支障を生じることはないと考えている。

2 校舎等施設の整備計画

本学では、現在、30 棟 (津田沼キャンパス 15 棟、新習志野キャンパス 15 棟) の校舎等を有しており、その面積は約 141,000 m²、主な施設内容としては、講義室 106 室、演習室 50 室、情報処理室 3 室、教員研究室 273 室を設けており、その他、講師控室、図書館、体育館、学長室、会議室、事務室、保健室、学生自習室、学生食堂などを整備している。

情報変革科学部の設置に伴う校舎等施設の整備計画については、既存の校舎等施設を有効

的に利用することとしており、情報変革科学部の専任教員の研究室については、教員組織として計画している専任教員数 30 名（教授 17 名、准教授 10 名、助教 3 名）に対して、1 室当たり約 100 m²の専任教員研究室 30 室を設けている。

また、設備の整備計画については、現在、教具、校具、備品を整備しており、これらを有効的に転共用することとしている。

3 図書等の資料及び図書館の整備計画

(1) 図書等の資料の整備計画

本学の図書館では、令和 5 年 3 月末現在、275,514 冊の図書を所蔵しており、その内訳としては、一般教育図書 205,677 冊（うち外国書 25,547 冊）、専門図書 69,837 冊（うち外国書 6,733 冊）を所蔵しているほか、学術雑誌 814 種（うち外国雑誌 113 誌）、視聴覚資料 3,423 点を有していることから、これらを有効的に転共用することとしている。

(2) 図書館の整備状況

本学の図書館は、収容定員 8,878 人の約 10.8%にあたる 962 席の閲覧座席数を確保するとともに、開架式書庫及び閉架式書庫、サービスカウンター、レファレンスカウンター、ワークショップスペース、ラーニング・コモンズ、リフレッシュコーナー、AV ホール、ブラウジングコーナーなどを整備している。

図書館機能としては、情報探索用パソコン 50 台（うち館内貸出用ノートパソコン 20 台）、蔵書検索用パソコン 8 台、コピー機 4 台を設置しており、蔵書管理については、図書館運用システムより、インターネットからデータベース化された書誌・所蔵情報の検索が可能であり、情報探索用パソコンについては、学内 LAN を経由して、インターネット利用を可能としている。また、日本図書館協会や私立大学図書館協会・千葉県大学図書館協議会への加盟をはじめ、国立情報学研究所の目録所在情報サービスに加盟しているとともに、各種研修会等での情報交換や文献複写、相互貸借等のサービスにおいて、他大学図書館との連携を図っている。

⑫ 2 以上の校地において教育研究を行う場合の具体的計画

情報変革科学部では、1 年次及び 2 年次の学部教育を新習志野キャンパスにて行うこととし、3 年次及び 4 年次の学部教育を津田沼キャンパスにて行うこととしており、津田沼キャンパスと新習志野キャンパスとの距離は約 4 km、移動に要する時間はスクールバスを利用した場合、約 15 分程度であることから、教員及び学生の両キャンパスの利用上における支障が生じることはないものと考えている。

(1) 専任教員の配置

情報変革科学部における新習志野キャンパスにおいて1年次及び2年次の授業科目を担当する専任教員（共通教育科目を担当する情報変革科学部においては「兼担」となる専任教員を含む）の配置人数は96人、津田沼キャンパスにおいて3年次及び4年次の授業科目を担当する専任教員（共通教育科目を担当する情報変革科学部においては「兼担」となる専任教員を含む）の配置人数は63人としていることから、教育体制上における支障はないものと考えている。

(2) 教員の移動への配慮

2つのキャンパスの移動における教員への配慮としては、現在、既に本学が所有している6台のスクールバス（大型バス5台、マイクロバス1台）による2キャンパス間の定期運行を行っており、新習志野キャンパスと津田沼キャンパス間のスクールバスの1日の定期運行本数は29往復となっていることから、2つのキャンパスの教員の移動における支障はないものと考えている。

3. 施設設備等

施設設備等については、1年次及び2年次の授業を行う新習志野キャンパスは、JR京葉線新習志野駅から徒歩約6分の習志野市芝園に位置し、校地面積約141,000㎡、校舎面積約45,000㎡を有しており、学生の休息その他の利用のための適当な空地についても十分な確保がなされ、大学教育に相応しい環境を整えている。施設は、講義室61室、演習室8室、情報処理室1室の他、教員研究室70室、講師控室、図書館、体育館、学長室、会議室、事務室、保健室、学生自習室、学生食堂などを備えており、各種施設に見合う設備を有していることから、教育体制上の支障はないものと考えている。

一方、3年次及び4年次の授業を行う津田沼キャンパスは、JR総武線津田沼駅から徒歩約1分の習志野市津田沼に位置し、校地面積約54,000㎡、校舎面積約96,000㎡を有しており、学生の休息その他の利用のための適当な空地についても十分な確保がなされ、大学教育に相応しい環境を整えている。施設は、講義室45室、演習室42室、情報処理室2室の他、教員研究室221室、講師控室、図書館、学長室、会議室、事務室、保健室、学生自習室、学生食堂などを備えており、新習志野キャンパスと同様、各種施設に見合う十分な設備を有していることから、教育体制上の支障はないものと考えている。

4. 時間割の編成

2つのキャンパスにおいて教育を行うに際しての時間割上の配慮としては、情報変革科学

部では、1年次及び2年次の授業を新習志野キャンパスにて行い、3年次及び4年次の授業を津田沼キャンパスにて行うこととしており、原則として、学生が同日に新習志野キャンパスと津田沼キャンパスの両キャンパスで授業を受けることのないよう時間割を編成していることから、学生の負担はないものと考えている。

⑬ 管理運営及び事務組織

1 教学面における管理運営体制

(1) 学部長会

学部長会は、学則第8条の定めのとおり、学長のもとに、大学の重要事項について意見を聴くために設置しており、協議事項は、①教育・研究に関する基本方針等、その運営における全学的な事項、②教授会の審議に関する基本的共通的な事項、③その他、本学の教育・研究の運営に必要と認められる事項としている。

構成員は、学長、学部長のほか、必要な手続きを経た上で、副学長、学長補佐、学科長及びその他の職員を出席させており、原則、毎月1回定例で開催している。

(2) 合同教授会

合同教授会は、学則第8条の3の定めのとおり、学長のもとに、学部に通ずる事項について、意見を聴くために設置しており、協議事項は①学則の改正に関する事項、②教育・研究に関する重要な事項で、合同教授会の意見を聴くことが必要なものとして、学長が定める事項としている。

構成員は学長、教授のほか、必要な手続きを経た上で、准教授、助教及びその他の職員を出席させている。

(3) 教授会

教授会は学則第8条の2の定めのとおり、学長が定める事項について意見を述べる機関として設置している。原則として、毎月1回定例で開催するほか、必要に応じて適宜開催する。

教授会が学長に意見を述べる事項は次のとおりである。

- ① 学生の入学及び卒業に関する事項
- ② 学位の授与に関する事項
- ③ 教育・研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの

構成員は、教授のほか、必要な手続きを経た上で、准教授、助教及びその他の職員を出席さ

せている。

(4) 教授会以外の委員会

教授会の審議事項に必要な事項の検討や起案などのために、教授会の下に教務委員会、学生委員会、入学試験委員会、就職委員会等、各種委員会を設置している。

各委員会の構成員は、専任教員及び事務職員により構成することとし、各委員会規程に基づき定期的に開催している。

(5) 事務組織

大学運営に係る事務業務の処理と遂行を行うための事務組織としては、大学事務局に教学センターと就職・進路支援部を置いており、教学センターでは、授業運営と学生支援に関する事務全般を扱うこととしており、就職・進路支援部では、進路指導やキャリア教育を扱うこととしており、教学組織との連携協力のもと、業務の専門性や効率性の向上に努めている。

また、学生の厚生補導にかかる業務については教学センターが担当することとしており、厚生補導のための職員を配置し、学生の大学生活やその他生活全般にかかわる事柄に関して、組織的な相談・指導・助言あるいは援助などの学生サービス活動を行っており、特に、厚生補導業務においては、教員と事務職員が連携協力して業務に取り組むことの重要性の認識のもと、大学全体としての機能強化にむけた教職協働による取組みを推進している。

⑭ 自己点検・評価

1 実施方法

本学では、大学教育における教育の理念や目標に照らして、教育活動及び研究活動の状況を点検、評価することにより、現状を正確に把握、認識するとともに、その達成状況を評価し、評価結果に基づく改善の推進を図ることを目的として、自己点検・評価を3年に一度実施している。

自己点検・評価の実施方法は、自己点検・評価を自らの教育研究活動の改善のサイクルの中に明確に位置付け、自己点検・評価を行う責任体制を明確にしたうえで、(公財)日本高等教育評価機構の定める評価項目ごとに、全学的な自己点検評価委員会による自己点検・評価を行うこととしている。

なお、外部機関による評価については、令和2年度に、(公財)日本高等教育評価機構による認証評価を実施し、適合を受けている。

2 実施体制

自己点検・評価は、全教職員により全学的に取り組むことを基本とし、学校法人千葉工業大学自己点検評価に関する規程に基づき、理事長が最高責任者の自己点検評価改善本部を置き、改善本部のもとに自己点検評価委員会を設置している。委員会は、理事長・学長が指名する教職員で構成している。自己点検評価委員会は、各委員会・事務局による自己点検評価を統括し、各委員会・事務局の報告を評価し、自己点検評価報告書を作成する。

作成した評価報告書は改善本部に報告し、改善本部は評価報告書に基づいて、必要に応じて各機関に対し、改善を指示している。

3 公表及び評価項目

自己点検・評価の結果については、積極的に社会に公表し、社会の評価を受けることを通して、教育内容や方法の継続的な見直しや改善を図ることにより、自らの教育研究水準の一層の向上に努めていくとともに、これらの効果を一層確かなものとするために、自己点検・評価の結果についてホームページを利用し公表している。また、大学機関別認証評価を6年に一度受審し、自己点検評価報告書とともにホームページで公表している。

なお、大学及び学部における自己点検・評価の項目については、自己点検・評価の基本方針を踏まえたうえで、以下の視点を重視した設定としている。

- (1) 使命・目的等
- (2) 学生
- (3) 教育課程
- (4) 教員・職員
- (5) 経営・管理と財務
- (6) 内部質保証
- (7) 独自基準

⑮ 情報の公表

1 公表の方針

中央教育審議会大学分科会での大学の質の保証に関する審議内容を真摯に受け止めると同時に、大学が公的な教育機関として、社会に対する説明責任を果たすとともに、その教育の質を向上させる観点から改正された学校教育法施行規則等の教育関連法を遵守し、また、それを上回る情報を提供するという方針から積極的に情報の公表に努めている。

2 公表の方法

ホームページや大学案内などの刊行物への掲載、その他広く一般に周知を図ることができる方法により積極的に提供しており、その中であって、高等教育、特に大学教育のステークホルダーは、学生やその保護者等の直接関係者のみではなく、大学に進学を希望する者、大学へ学生を送り出す側の初等中等教育関係者、また、大学が輩出する人材を受け入れる側の企業等も含めて、グローバル化する高等教育を取り巻く環境を踏まえて、ホームページによる公表を積極的に行っている。

なお、公表している情報は、一部年度更新はあるものの、原則として随時更新することとし、最新の情報を提供するよう努めている。

3 公表項目

本学では、情報の受け手に対して、知りたい情報に簡易にアクセスできるよう、閲覧者の利便性を考慮し、以下に示す（１）から（１０）の大学の基本情報についての専用ページを設けて公表している。

（１）大学の教育研究上の目的及び３つのポリシーに関すること

(<https://www.it-chiba.ac.jp/institute/disclosure/purpose/>)

[ホーム > 大学案内 > 大学概要 > 学部、学科等の名称及び教育研究上の目的]

(<https://it-chiba.com/nyushi/policy/>)

[ホーム > 入試情報 > 建学の精神・教育目標・アドミッションポリシー]

(<https://www.it-chiba.ac.jp/faculty/>)

[ホーム > 学部・大学院]

（２）教育研究上の基本組織に関すること

(<https://www.it-chiba.ac.jp/institute/disclosure/system/>)

[ホーム > 大学案内 > 大学概要 > 組織図]

（３）教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

(<https://www.it-chiba.ac.jp/institute/disclosure/staff/>)

[ホーム > 大学案内 > 大学概要 > 役員一覧・教職員数]

(<https://www.lib.it-chiba.ac.jp/cithp/KgApp>)

[ホーム > 情報公開 > 研究者情報]

（４）入学者に関する受入方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関する
こと

(<https://it-chiba.com/nyushi/policy/>)

[ホーム > 入試情報 > 建学の精神・教育目標・アドミッションポリシー]

(<https://www.it-chiba.ac.jp/institute/disclosure/date/entrant/>)

[ホーム > 大学案内 > 大学概要 > 学生基礎データ > 入学者数・入学定員]

(<https://www.it-chiba.ac.jp/institute/disclosure/date/student/>)

[ホーム > 大学案内 > 大学概要 > 学生基礎データ > 学部・大学院 在籍状況・収容定員]

(<https://www.it-chiba.ac.jp/institute/disclosure/date/graduate/>)

[ホーム > 大学案内 > 大学概要 > 学生基礎データ>卒業（修了）者数・進路状況]

（5）授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(<https://portal.it-chiba.ac.jp/uprx/up/pk/pky001/Pky00101.xhtml>)

[ホーム > 情報公開 > シラバス]

（6）学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(<https://www.it-chiba.ac.jp/institute/disclosure/valuation/>)

[ホーム > 大学案内 > 大学概要 > 評価及び卒業（修了）認定に当たっての基準]

（7）校地・校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

(<https://www.it-chiba.ac.jp/institute/disclosure/campus/>)

[ホーム > 大学案内 > 大学概要 > キャンパス概要等]

(<https://www.it-chiba.ac.jp/institute/campus/tsudanuma/>)

[ホーム > 大学案内 > キャンパス・施設案内 > 津田沼キャンパス]

(<https://www.it-chiba.ac.jp/institute/campus/shinnarashino/>)

[ホーム > 大学案内 > キャンパス・施設案内 > 新習志野キャンパス]

（8）授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること

(<https://www.it-chiba.ac.jp/expense/tuition/>)

[ホーム > 学費・奨学金・保険 > 学費]

（9）大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

(<https://www.it-chiba.ac.jp/support/support/counseling/>)

[ホーム > 学生生活・教育 > 学生生活サポート > 学生相談・保健室]

(<https://www.it-chiba.ac.jp/career/>)

[ホーム > キャリア・就職]

(<https://www.it-chiba.ac.jp/student/>)

[ホーム > 学生支援プログラム]

(<https://www.it-chiba.ac.jp/exchange/toforeigner/>)

[ホーム > 国際交流 > 外国人留学生の方へ]

(10) その他（教育上の目的に応じ学生が習得すべき知識及び能力に関する情報、学則等各種規程、設置認可申請書、設置届出書、設置計画履行状況等報告書、自己点検・評価報告書、認証評価の結果等）

(<https://www.it-chiba.ac.jp/institute/disclosure/regulations/>)

[ホーム > 大学案内 > 大学概要 > 規程関係]

(<https://www.it-chiba.ac.jp/institute/disclosure/setting/>)

[ホーム > 大学案内 > 大学概要 > 設置届出書・履行状況報告書]

(<https://www.it-chiba.ac.jp/institute/disclosure/evaluation/inspection/>)

[ホーム > 大学案内 > 大学概要 > 評価・格付 > 自己点検・評価報告書]

⑩ 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等

1 教育内容等の改善のための組織的な研修等（FD）

本学におけるファカルティ・ディベロップメント（FD）を推進するため、「ファカルティ・ディベロップメント委員会」を設置しており、教育手段と教育環境の改善及び教育成果の評価方法とその機能性に関する事項について審議し、学部における教育目標を達成するため、以下の基本項目について諸活動を実施している。（資料3）

- (1) 成績評価及び学修の質の保証のための基本フレームに関すること
- (2) 授業計画書（シラバス）の基本構成に関すること
- (3) 教育基本組織が定める学位授与方針（ディプロマポリシー）と教育課程編成・実施方針（カリキュラムポリシー）のプロトタイプに関すること
- (4) 全学的FDの計画立案と実施に関すること
- (5) 教育組織ごとに実施されたFD活動の結果集約とその発表に関すること
- (6) 授業改善のためのアンケートに関すること
- (7) FDのための組織体制に関すること
- (8) 教育成果の評価方法とその機能性に関すること
- (9) その他組織的教育活動に必要と認められる事項

2 管理運営に必要な教職員への研修等（SD 研修）

本学における管理運営に必要な教職員への研修等の取り組みについては、大学間競争を生き残るために、教職員個々の力を高め、主体的に仕事に取り組むことを目的とし、中でも「意識改革、労働生産性の向上、人財育成」を意識した SD 研修を企画・運営していくこととしている。さらに、研修を体系化し、組織全体で幅広い知見と深い専門性を有した自ら考え行動する教職員の育成を目指し、推進を図っている。

SD 研修実施については、総務部人事担当が中心となり実施しており、直近の研修実績は下記のとおりである。

【令和 4 年度】

1) 職員階層別研修

① 係長以下（一般職員・技術職員）

内容：チームビルディングに関する研修

チームワークによる仕事の重要性の認識を高め、組織内での自己の役割や目的を理解し業務の円滑化・良好な人間関係の構築に繋げる。

② 管理職（グループ長補佐以上）

内容：部下指導型リーダーシップ研修

部下を指導する立場にある管理職におけるリーダーシップのあり方及び状況に応じた使い分けを理解する。

2) 情報セキュリティ e ラーニング

① 全教職員

内容：「個人情報漏洩」「不正アクセス」「コンピュータウイルス」「著作権侵害」等の防止について

⑰ 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

1 教育課程内の取組みについて

本学では、「教養基礎科目」の「人間力養成分野」に必修科目として配置している「キャリアデザイン1」、「キャリアデザイン2」、「キャリアデザイン3」の3科目3単位を教育課程内における直接的な社会的・職業的自立に関する科目として位置付けており、職業人が果たす役割と責任や自覚と態度を身に付けるとともに、職業現場への興味と関心と自らのキャリア選択に対する意識の涵養を図ることとしている。

2 教育課程外の取組みについて

社会的・職業的自立を図るための教育課程外の取り組みとしては、就職を希望する学生に対して、年間行事計画に基づき、OBOG 懇談会や仕事研究セミナー、技術展示会の開催に加え、工場見学や CEATEC への参加など、卒業生、企業人との交流や、技術に触れる機会を創出することで、職業観の涵養を図るとともに、就職活動支援講座として、自己分析講座や、履歴書・エントリーシート対策講座、筆記試験対策講座、各種資格取得講座、公務員試験対策講座などによる、職業・就職に関する知識・技能の習得を進めている。

また、個別のキャリアカウンセリングや模擬面接などの就職相談及び就職指導に加えて、学内合同企業説明会や合宿型の就職セミナーを行うこととしている。

3 適切な体制の整備について

教育課程内及び教育課程外の取り組みにおける組織体制としては、社会的・職業的自立に関する指導内容を協議する就職委員会を設けており、就職委員会と教学センター及び、就職担当教員と就職・進路支援部職員が連携・協力し担当することとしている。

※その他、関連するDPを番号で表示

学科DP	学科CP	履修年次 科目		1年次						2年次						3年次						4年次						単位計	卒業要件						
				1S(前期)	単位	※	2S(後期)	単位	※	3S(前期)	単位	※	4S(後期)	単位	※	5S(前期)	単位	※	6S(後期)	単位	※	7S(前期)	単位	※	8S(後期)	単位	※								
①職業生活や社会生活でも必要となる汎用的な技能及び職業人としての望ましい心構えや豊かな人間性と現代社会に関する幅広い知識を習得している。	①職業人に必要な職業意識や生涯学習力と異文化理解や社会貢献への態度及び人間の文化や社会と自然に関する知識を深める科目群を配当する。	教 養 基 礎 科 目	教 養 基 礎 科 目	コミュニケーション スキル	英語理解1	1		英語理解2	1		英語理解3	1															36		36 単位 以上						
					英語表現1	1		英語表現2	1		英語表現3	1																							
					日本語表現法	1																													
				情報リテラシー	数理・データサイエンス・AI入門	1		AI・プログラミング基礎演習	1																										
					人間力養成	スポーツ科学	2		キャリアデザイン1	1	⑤	キャリアデザイン2	1	⑤			キャリアデザイン3	1	⑤																
						初年次教育	1	⑥																											
				国際理解	異文化理解	2		言語と文化2	2							グローバル時代の法	2																		
					言語と文化1	2																													
					人間・社会・自然の理解						歴史と人間	2		倫理学	2					地球科学	2		経済学	2											
					科学技術史	2																													
					総合						課題探究セミナー	2	⑤・⑥																						
				教養特別科目												イングリッシュアクティブラーニング1	1	⑥																	
②情報学分野を専門領域とし、ハードウェアとそれを駆動制御するソフトウェアを含んだシステムに関する基礎的な知識と技術を習得している。	②情報学分野を主として、基礎となる知識や汎用的な能力を涵養するための科目群を配当する。 ③フィジカルコンピューティング、メディア処理、プログラミング、ソフトウェア工学などの基幹的な知識や技術、幅広い視野を涵養するための科目群を配当し、幅広い視野で物事を捉え、主体的に実践するための実験・実習・演習科目を配置する。	専 門 科 目	専 門 基 幹 科 目	専門基礎科目	情報工学概論	2					確率統計	2		微分積分	2		微分方程式	2		応用解析	2						22	127		88 単位 以上					
					電気回路	2					線形代数基礎	2		線形代数応用	2		線形代数特論	2		初等整数論	2														
					数学基礎	2																													
				専門基幹科目	プログラミング言語	2		Webプログラミング	2		技術文書作成	2		メディア処理	2		ハッカソン2	2	④・⑤															36	
					論理回路	2		データサイエンス	2		システム理論	2		デジタル信号処理	2																				
					フィジカルコンピューティング	2		データ通信	2		ビジュアル情報処理	2		クリティカルエンジニアリング	2																				
					アイデアソン	2	⑤・⑥	アジャイルワーク1	2	⑤・⑥	クラウドコンピューティング	2		アジャイルワーク2	2	④・⑤																			
										ハッカソン1	2	⑤・⑥																							
				専門展開科目							数理モデリング	2	③	感性情報処理	2	③	情報理論	2	③	ゼミナール2	2		ゼミナール3	2										33	
														数値解析	2	③	データベース	2	③	卒業研究			5												
														アルゴリズムとデータ構造	2	③	技術者倫理	2																	
										オペレーティングシステム	2	③	情報セキュリティ	2	③																				
										デジタル通信	2	③	高性能計算	2	③																				
													ゼミナール1	2																					
単位数計				25			14			21			18			20			18			4			7										
				39						39						38						11													

必修科目
選択科目

情報変革科学部 情報工学科履修モデル(ソフトウェア系)

※その他、関連するDPを番号で表示

学科DP	学科CP	履修年次		科目	1年次						2年次						3年次						4年次						単位計		卒業要件	
					1S(前期)	単位	※	2S(後期)	単位	※	3S(前期)	単位	※	4S(後期)	単位	※	5S(前期)	単位	※	6S(後期)	単位	※	7S(前期)	単位	※	8S(後期)	単位	※				
①職業生活や社会生活でも必要となる汎用的な技能及び職業人としての望ましい心構えや豊かな人間性と現代社会に関する幅広い知識を習得している。	①職業人に必要な職業意識や生涯学習力と異文化理解や社会貢献への態度及び人間の文化や社会と自然に関する知識を深める科目群を配当する。	教養基礎科目	教養基礎科目	コミュニケーションスキル	英語理解1	1		英語理解2	1		英語理解3	1		英語理解4	1																	
					英語表現1	1				英語表現3	1																					
					日本語表現法	1																										
				情報リテラシー	数理・データサイエンス・AI入門	1		AI・プログラミング基礎演習	1																							
					人間力養成	スポーツ科学	2		キャリアデザイン1	1	⑤	キャリアデザイン2	1	⑤			キャリアデザイン3	1	⑤													
				教養共通科目	国際理解	異文化理解	2		言語と文化2	2							グローバル時代の法	2														
						言語と文化1	2																									
						人間・社会・自然の理解						歴史と人間	2		倫理学	2					地球科学	2		経済学	2							
												科学技術史	2																			
					総合								課題探究セミナー	2	⑤・⑥																	
教養特別科目													イングリッシュアカデミーブラーニング1	1	⑥																	
②情報学分野を専門領域とし、ハードウェアとそれを駆動制御するソフトウェアを含んだシステムに関する基礎的な知識と技術を習得している。	②情報学分野を主として、基礎となる知識や汎用的な能力を涵養するための科目群を配当する。	専門基礎科目	専門基礎科目		情報工学概論	2					確率統計	2		微分積分	2		微分方程式	2		応用解析	2											
					電気回路	2					線形代数基礎	2		線形代数応用	2		離散数学	2		統計解析	2											
										数学基礎	2																					
				専門基幹科目	専門基幹科目	プログラミング言語	2		Webプログラミング	2		システム理論	2		メディア処理	2		ハッカソン2	2	④・⑤												
						論理回路	2		データサイエンス	2		ソフトウェア工学	2		クリティカルエンジニアリング	2																
						フィジカルコンピューティング	2		データ通信	2		ビジュアル情報処理	2		アジャイルワーク2	2	④・⑤															
						技術文書作成	2		グラフィックス	2		クラウドコンピューティング	2																			
						アイデアソン	2	⑤・⑥	アジャイルワーク1	2	⑤・⑥	ハッカソン1	2	⑤・⑥																		
④フィジカルコンピューティング、メディア処理、プログラミング、ソフトウェア工学などに関する専門知識・技術を活用して、情報学的な観点のみならず、広い視野で問題解決する能力を習得している。	④基幹となる知識・技術、汎用的な能力を応用するための、発展的な専門知識・技術を涵養する科目群を配当し、幅の広い視野で自ら課題を設定すると共に、行動計画の立案、実行、検証、改善を他者と協力しながら実践的に学び、解決を図るための実験・実習・演習科目及びゼミナール・卒業研究科目を配当する。	専門展開科目	専門展開科目								数理モデリング	2	③	感性情報処理	2	③	情報理論	2	③	ゼミナール2	2		ゼミナール3	2								
															数値解析	2	③	データベース	2	③	卒業研究					5						
															アルゴリズムとデータ構造	2	③	技術者倫理	2													
																	機械学習	2	③													
																	人工知能	2	③													
																	高性能計算	2	③													
																	ゼミナール1	2														
単位数計					25			15			23			17			16			20			4			7						
					40						40						36						11									

必修科目	青字・・・下級学年の科目
選択科目	

情報変革科学部 認知情報科学科履修モデル(認知科学系)

※その他、関連するDPを番号で表示

学科DP	学科CP	履修年次		科目	1年次						2年次						3年次						4年次						単位計		卒業要件					
					1S(前期)	単位	※	2S(後期)	単位	※	3S(前期)	単位	※	4S(後期)	単位	※	5S(前期)	単位	※	6S(後期)	単位	※	7S(前期)	単位	※	8S(後期)	単位	※								
①職業生活や社会生活でも必要となる汎用的な技能及び職業人としての望ましい心構えや豊かな人間性と現代社会に関する幅広い知識を習得している。	①職業人に必要な職業意識や生涯学習力と異文化理解や社会貢献への態度及び人間の文化や社会と自然に関する知識を深める科目群を配当する。	教養基礎科目	教養共通科目	コミュニケーションスキル	英語理解1	1		英語理解2	1		英語理解3	1																36		36単位以上						
					英語表現1	1		英語表現2	1		英語表現3	1																								
					日本語表現法	1																														
					情報リテラシー	数理・データサイエンス・AI入門	1		AI・プログラミング基礎演習	1																										
					人間力養成	スポーツ科学	2		キャリアデザイン1	1	⑤	キャリアデザイン2	1	⑤			キャリアデザイン3	1	⑤																	
						初年次教育	1	⑥																												
					国際理解	異文化理解	2		言語と文化2	2							グローバル時代の法	2																		
						言語と文化1	2																													
					人間・社会・自然の理解				倫理学	2		歴史と人間	2									地球科学	2		経済学	2										
												科学技術史	2																							
					総合												課題探究セミナー	2	⑤・⑥																	
					教養特別科目															イングリッシュアクティブラーニング1	1	⑥														
②情報学分野を専門領域とし、人工知能やヒューマンコンピュータインタラクションなど、人間の認知機能に関する基礎的な知識と技術を習得している。	②情報学分野を主として、基礎となる知識や汎用的な能力を涵養するための科目群を配当する。	専門基礎科目	専門基礎科目	専門基礎科目	数学基礎	2		微分積分	2		確率統計	2		応用解析	2													16		125						
					線形代数基礎	2		線形代数応用	2		微分方程式	2		統計解析	2																					
③情報学分野を主とする専門領域で不定解な社会的課題を自ら発見する能力を有し、解決に必要な認知科学、マルチメディア、IoT、プログラミング、プロジェクトマネジメントなどに関する専門知識・論理的思考や技術を習得している。	③認知科学、マルチメディア、IoT、プログラミング、プロジェクトマネジメントなどの基幹的な知識や技術、幅広い視野を涵養するための科目群を配当し、幅広い視野で物事を捉え、主体的に実践するための実験・実習・演習科目を配置する。	専門基幹科目	専門基幹科目	専門基幹科目	認知情報科学入門	2		認知科学概論	2		認知科学基礎1	2		認知科学基礎2	2												32		89							
					プログラミング演習	2		情報科学概論	2		人工知能基礎1	2		人工知能基礎2	2																					
								認知情報科学演習	2		マルチメディア基礎1	2		マルチメディア基礎2	2																					
											ソフトウェア基礎1	2		ソフトウェア基礎2	2																					
											ネットワーク基礎1	2		認知情報科学実験2	2	④																				
											認知情報科学実験1	2	④																							
					④認知科学、マルチメディア、IoT、プログラミング、プロジェクトマネジメントなどに関する専門知識・技術を用いて、情報学的な観点のみならず、広い視野で問題解決する能力を習得している。 ⑤自らの思考・判断のプロセスを説明し、具体的な事例や根拠を示しながら伝達するプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を習得している。 ⑥グループでの共同作業・研究活動を適確に実行し、チームビルディングの手法を用いて、協力関係をつくり上げてゆく能力を習得している。 ⑦情報学分野の技術者などとして守るべき倫理や負うべき社会的責任を理解している。	④基幹となる知識・技術、汎用的な能力を応用するための、発展的な専門知識・技術を涵養する科目群を配当し、幅広い視野で自ら課題を設定すると共に、行動計画の立案、実行、検証、改善を他者と協力しながら実践的に学び、解決を図るためのゼミナール・卒業研究科目を配当する。 ⑤生命を尊重し、法令を遵守すると共に、データ改ざん、盗用、剽窃行為の禁止など、技術者などとして守るべき倫理や社会的責任を理解するための科目を配当する。	専門展開科目	専門展開科目	専門展開科目									認知科学応用	2	③	インターネットの心理学	2	③	ゼミナール3	2						ゼミナール4	2				39
																	学びの科学・工学	2	③	デザインと表現	2	③	卒業研究			5										
																	コミュニケーション	2	③	グラフィックス	2	③														
																	ヒューマンコンピュータインタラクション	2	③	プロジェクトマネジメント	2	③														
																	マシンラーニング	2	③	データマイニング	2	③														
																	コンピュータビジョン	2	③	センシングとIoT	2	③														
																	アルゴリズムとデータ構造	2	③	技術者倫理	2															
																	ゼミナール1	2		ゼミナール2	2															
単位数計										19			18			23			16			20			18			4			7					
					37						39						38						11													

必修科目
選択科目

情報変革科学部 認知情報科学科履修モデル（情報科学系）

※その他、関連するDPを番号で表示

学科DP	学科CP	履修年次		科目	1年次						2年次						3年次						4年次						単位計		卒業要件
					1S(前期)	単位	※	2S(後期)	単位	※	3S(前期)	単位	※	4S(後期)	単位	※	5S(前期)	単位	※	6S(後期)	単位	※	7S(前期)	単位	※	8S(後期)	単位	※			
①職業生活や社会生活でも必要となる汎用的な技能及び職業人としての望ましい心構えや豊かな人間性と現代社会に関する幅広い知識を習得している。	①職業人に必要な職業意識や生涯学習力と異文化理解や社会貢献への態度及び人間の文化や社会と自然に関する知識を深める科目群を配当する。	教養基礎科目	コミュニケーションスキル	英語理解1	1		英語理解2	1		英語理解3	1																	36	36単位以上	124単位以上	
				英語表現1	1		英語表現2	1		英語表現3	1																				
				日本語表現法	1																										
			情報リテラシー	数理・データサイエンス・AI入門	1		AI・プログラミング基礎演習	1																							
				スポーツ科学	2		キャリアデザイン1	1	⑤	キャリアデザイン2	1	⑤			キャリアデザイン3	1	⑤														
			人間力養成	初年次教育	1	⑥																									
				国際理解	異文化理解	2		言語と文化2	2						グローバル時代の法	2															
			人間・社会・自然の理解	言語と文化1	2																										
				倫理学	2		歴史と人間	2												地球科学	2		経済学	2							
			科学技術史	2																											
課題探究セミナー	2	⑤・⑥																													
教養特別科目												イングリッシュアクティブラーニング1	1	⑥																	
②情報学分野を専門領域とし、人工知能やヒューマンコンピュータインタラクションなど、人間の認知機能に関する基礎的な知識と技術を習得している。	②情報学分野を主として、基礎となる知識や汎用的な能力を涵養するための科目群を配当する。	専門基礎科目		数学基礎	2		微分積分	2		確率統計	2		応用解析	2		線形代数特論	2										18	88単位以上			
				線形代数基礎	2		線形代数応用	2		微分方程式	2		離散数学	2																	
③情報学分野を主とする専門領域で不定解な社会的課題を自ら発見する能力を有し、解決に必要な認知科学、マルチメディア、IoT、プログラミング、プロジェクトマネジメントなどに関する専門知識・論理的思考や技術を習得している。	③認知科学、マルチメディア、IoT、プログラミング、プロジェクトマネジメントなどの基幹的な知識や技術、幅広い視野を涵養するための科目群を配当し、幅広い視野で物事を捉え、主体的に実践するための実験・実習・演習科目を配置する。	専門基幹科目		認知情報科学入門	2		認知情報科学概論	2		認知科学基礎1	2		認知科学基礎2	2												32	88単位以上				
				プログラミング演習	2		情報科学概論	2		人工知能基礎1	2		マルチメディア基礎2	2																	
							認知情報科学演習	2		マルチメディア基礎1	2		ソフトウェア基礎2	2																	
										ソフトウェア基礎1	2		ネットワーク基礎2	2																	
										ネットワーク基礎1	2		認知情報科学実験2	2	④																
						認知情報科学実験1	2	④																							
④認知科学、マルチメディア、IoT、プログラミング、プロジェクトマネジメントなどに関する専門知識・技術を活用して、情報学的な観点のみならず、広い視野で問題解決する能力を習得している。 ⑤自らの思考・判断のプロセスを説明し、具体的な事例や根拠を示しながら伝達するプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を習得している。 ⑥グループでの共同作業・研究活動を適確に実行し、チームビルディングの手法を用いて、協力関係をつくり上げてゆく能力を習得している。 ⑦情報学分野の技術者などとして守るべき倫理や負うべき社会的責任を理解している。	④基幹となる知識・技術、汎用的な能力を応用するための、発展的な専門知識・技術を涵養する科目群を配当し、幅の広い視野で自ら課題を設定すると共に、行動計画の立案、実行、検証、改善を他者と協力しながら実践的に学び、解決を図るためのゼミナール・卒業研究科目を配当する。 ⑤生命を尊重し、法令を遵守すると共に、データ改ざん、盗用、剽窃行為の禁止など、技術者などとして守るべき倫理や社会的責任を理解するための科目を配当する。	専門展開科目													コンピュータビジョン	2	③	デザインと表現	2	③	ゼミナール3	2		ゼミナール4	2				39	88単位以上	
																	ソフトウェア工学	2	③	フィールド調査	2	③	卒業研究			5					
																	ネットワーク応用	2	③	自然言語処理	2	③									
																	アルゴリズムとデータ構造	2	③	グラフィックス	2	③									
																	ゼミナール1	2		プロジェクトマネジメント	2	③									
																			データマイニング	2	③										
																			センシングとIoT	2	③										
																			経営システム工学	2	③										
																			技術者倫理	2											
																			ゼミナール2	2											
単位数計				19		18		23		16		16		22		4		7													
				37				39				38		11																	

必修科目
選択科目

情報変革科学部 高度応用情報科学科履修モデル(情報ネットワーク系)

※その他、関連するDPを番号で表示

学科DP	学科CP	履修年次		科目	1年次						2年次						3年次						4年次						単位計	卒業要件									
					1S(前期)	単位	※	2S(後期)	単位	※	3S(前期)	単位	※	4S(後期)	単位	※	5S(前期)	単位	※	6S(後期)	単位	※	7S(前期)	単位	※	8S(後期)	単位	※											
①職業生活や社会生活でも必要となる汎用的な技能及び職業人としての望ましい心構えや豊かな人間性と現代社会に関する幅広い知識を習得している。	①職業人に必要な職業意識や生涯学習力と異文化理解や社会貢献への態度及び人間の文化や社会と自然に関する知識を深める科目群を配当する。	教養基礎科目	コミュニケーションスキル	英語理解1	1		英語理解2	1		英語理解3	1																36		36単位以上										
				英語表現1	1		英語表現2	1		英語表現3	1																												
				日本語表現法	1																																		
				情報リテラシー	数理・データサイエンス・AI入門	1		AI・プログラミング基礎演習	1																														
				人間力養成	スポーツ科学	2		キャリアデザイン1	1	⑤	キャリアデザイン2	1	⑤			キャリアデザイン3	1	⑤																					
					初年次教育	1	⑥																																
				国際理解	異文化理解	2		言語と文化2	2							グローバル時代の法	2																						
					言語と文化1	2																																	
				人間・社会・自然の理解							歴史と人間	2		倫理学	2					地球科学	2		経済学	2															
											科学技術史	2																											
														課題探究セミナー	2	⑤・⑥																							
				教養特別科目													イングリッシュアクティブラーニング1	1	⑥																				
②情報学分野を専門領域とし、サイバー社会とフィジカル社会が融合した次世代ICT社会の基盤ICTに関する基礎的な知識と技術を習得している。		専門基礎科目		数学基礎	2		微分積分	2		確率統計	2		応用解析	2		線形代数特論	2		初等整数論	2							24		125										
				線形代数基礎	2		線形代数応用	2		離散数学	2		統計解析	2																									
										情報数学1	2		情報数学2	2																									
③情報学分野を主とする専門領域で不特定な社会的課題を自ら発見する能力を有し、解決に必要なデータサイエンス、機械学習、IoT、クラウドコンピューティング、サイバーセキュリティなどに関する専門知識・論理的思考や技術を習得している。		専門基幹科目		高度応用情報科学概論1	2		ICT基礎	2		データ構造とアルゴリズム	2		高度応用情報科学概論2	2												26		89											
				情報リテラシ	2		情報リテラシ演習2	2		情報メディア基礎	2		OSとシステムソフトウェア	2																									
				情報リテラシ演習1	2					TCP/IP概論	2		情報ネットワーク	2																									
										NWプログラミング基礎演習	2	④	NWプログラミング応用演習	2	④																								
④データサイエンス、機械学習、IoT、クラウドコンピューティング、サイバーセキュリティなどに関する専門知識・技術を活用して、情報学的な観点のみならず、広い視野で問題解決する能力を習得している。 ⑤自らの思考・判断のプロセスを説明し、具体的な事例や根拠を示しながら伝達するプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を習得している。 ⑥グループでの共同作業・研究活動を適確に実行し、チームビルディングの手法を用いて、協力関係をつくり上げてゆく能力を習得している。 ⑦情報学分野の技術者などとして守るべき倫理や負うべき社会的責任を理解している。	④基幹となる知識・技術、汎用的な能力を応用するための、発展的な専門知識・技術を涵養する科目群を配当し、幅の広い視野で自ら課題を設定すると共に、行動計画の立案、実行、検証、改善を他者と協力しながら実践的に学び、解決を図るための実験・実習・演習科目及びゼミナール・卒業研究科目を配当する。 ⑤生命を尊重し、法令を遵守すると共に、データ改ざん、盗用、剽窃行為の禁止など、技術者などとして守るべき倫理や社会的責任を理解するための科目を配当する。	専門展開科目														データベース	2	③	ソフトウェア工学	2	③	高度応用情報科学ゼミナール2	2		高度応用情報科学ゼミナール3	2		39											
																LAN	2	③	Webプログラミング応用実験	2	③	卒業研究			5														
																Webプログラミング基礎実験	2	③	機械学習応用	2	③																		
																機械学習基礎	2	③	IoTシステム	2	③																		
																クラウドコンピューティング	2	③	IoTシステム構築実験	2																			
																クラウド構築演習	2	③	高度応用情報科学ゼミナール1	2																			
																ソフトコンピューティング	2	③																					
																マルチメディア情報処理	2	③																					
																情報倫理	2																						
単位数計						21				14				21				18				24				16				4				7					
						35								39								40								11									

必修科目
選択科目

情報変革科学部 高度応用情報科学科履修モデル(サイバーセキュリティ系)

※その他、関連するDPを番号で表示

学科DP	学科CP	履修年次		科目	1年次						2年次						3年次						4年次						単位計	卒業要件		
					1S(前期)	単位	※	2S(後期)	単位	※	3S(前期)	単位	※	4S(後期)	単位	※	5S(前期)	単位	※	6S(後期)	単位	※	7S(前期)	単位	※	8S(後期)	単位	※				
①職業生活や社会生活でも必要となる汎用的な技能及び職業人としての望ましい心構えや豊かな人間性と現代社会に関する幅広い知識を習得している。	①職業人に必要な職業意識や生涯学習力と異文化理解や社会貢献への態度及び人間の文化や社会と自然に関する知識を深める科目群を配当する。	教養基礎科目	コミュニケーションスキル	英語理解1	1		英語理解2	1		英語理解3	1																36		36単位以上			
				英語表現1	1		英語表現2	1		英語表現3	1																					
				日本語表現法	1																											
				情報リテラシー	数理・データサイエンス・AI入門	1		AI・プログラミング基礎演習	1																							
				人間力養成	スポーツ科学	2		キャリアデザイン1	1	⑤	キャリアデザイン2	1	⑤			キャリアデザイン3	1	⑤														
					初年次教育	1	⑥																									
				国際理解	異文化理解	2		言語と文化2	2							グローバル時代の法	2															
					言語と文化1	2																										
				人間・社会・自然の理解							歴史と人間	2		倫理学	2					地球科学	2		経済学	2								
											科学技術史	2																				
														課題探究セミナー	2	⑤・⑥																
				教養特別科目													イングリッシュアクティブラーニング1	1	⑥													
②情報学分野を専門領域とし、サイバー社会とフィジカル社会が融合した次世代ICT社会の基盤ICTに関する基礎的な知識と技術を習得している。		専門基礎科目		数学基礎	2		微分積分	2		確率統計	2		応用解析	2												20		125				
				線形代数基礎	2		線形代数応用	2		微分方程式	2		統計解析	2																		
									数理モデリング	2		社会数理モデリング	2																			
③情報学分野を主とする専門領域で不特定な社会的課題を自ら発見する能力を有し、解決に必要なデータサイエンス、機械学習、IoT、クラウドコンピューティング、サイバーセキュリティなどに関する専門知識・論理的思考や技術を習得している。		専門基幹科目		高度応用情報科学概論1	2		ICT基礎	2		データ構造とアルゴリズム	2		高度応用情報科学概論2	2											26		89					
				情報リテラシ	2		情報リテラシ演習2	2		情報メディア基礎	2		OSとシステムソフトウェア	2																		
				情報リテラシ演習1	2					TCP/IP概論	2		情報ネットワーク	2																		
												データサイエンス入門	2																			
												データサイエンス演習	2	④																		
④データサイエンス、機械学習、IoT、クラウドコンピューティング、サイバーセキュリティなどに関する専門知識・技術を活用して、情報学的な観点のみならず、広い視野で問題解決する能力を習得している。 ⑤自らの思考・判断のプロセスを説明し、具体的な事例や根拠を示しながら伝達するプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を習得している。 ⑥グループでの共同作業・研究活動を適確に実行し、チームビルディングの手法を用いて、協力関係をつくり上げてゆく能力を習得している。 ⑦情報学分野の技術者などとして守るべき倫理や負うべき社会的責任を理解している。	④基幹となる知識・技術、汎用的な能力を応用するための、発展的な専門知識・技術を涵養する科目群を配当し、幅の広い視野で自ら課題を設定すると共に、行動計画の立案、実行、検証、改善を他者と協力しながら実践的に学び、解決を図るための実験・実習・演習科目及びゼミナール・卒業研究科目を配当する。 ⑤生命を尊重し、法令を遵守すると共に、データ改ざん、盗用、剽窃行為の禁止など、技術者などとして守るべき倫理や社会的責任を理解するための科目を配当する。	専門展開科目													データベース	2	③	ソフトウェア工学	2	③	高度応用情報科学ゼミナール2	2		高度応用情報科学ゼミナール3	2		43		88単位以上			
															LAN	2	③	Webプログラミング応用実験	2	③	卒業研究			5								
															Webプログラミング基礎実験	2	③	機械学習応用	2	③												
															機械学習基礎	2	③	人間工学	2	③												
															行動科学分析	2	③	IoTシステム	2	③												
															金融工学	2	③	IoTシステム構築実験	2													
															マルチメディア情報処理	2	③	サイバーセキュリティ	2	③												
															情報倫理	2		サイバーセキュリティ実験	2													
																		高度応用情報科学ゼミナール1	2													
				単位数計			21		14		19		20		20		20		20		4		7									
							35					39					40					11										

必修科目
選択科目

【資料2】

教育実習校一覧

教育 実習	体験 活動	区 分	概 要		
○		学校名	千葉県立市川工業高等学校（千葉県市川市平田3－10－10） 学級数：18学級 生徒数：657人		
		教員数	53人（内訳）教諭51人、助教諭0人、講師1人、養護教諭1人、養護助教諭0人、栄養教諭0人		
○		学校名	千葉県立清水高等学校（千葉県野田市清水482） 学級数：9学級 生徒数：313人		
		教員数	31人（内訳）教諭26人、助教諭0人、講師4人、養護教諭1人、養護助教諭0人、栄養教諭0人		
○		学校名	千葉県立京葉工業高等学校（千葉県千葉市稲毛区穴川4－11－32） 学級数：学級 生徒数：607人		
		教員数	56人（内訳）教諭50人、助教諭0人、講師5人、養護教諭1人、養護助教諭0人、栄養教諭0人		
○		学校名	千葉県立千葉工業高等学校（千葉県千葉市中央区今井町1478） 学級数：19学級 生徒数：664人		
		教員数	63人（内訳）教諭55人、助教諭0人、講師7人、養護教諭1人、養護助教諭0人、栄養教諭0人		
○		学校名	千葉県立下総高等学校（千葉県成田市名古屋247） 学級数：10学級 生徒数：217人		
		教員数	38人（内訳）教諭36人、助教諭0人、講師1人、養護教諭1人、養護助教諭0人、栄養教諭0人		
○		学校名	千葉県立東総工業高等学校（千葉県旭市鎌数字川西5146） 学級数：12学級 生徒数：437人		
		教員数	38人（内訳）教諭37人、助教諭0人、講師1人、養護教諭0人、養護助教諭0人、栄養教諭0人		
○		学校名	千葉県立館山総合高等学校（千葉県館山市北条106番地） 学級数：13学級 生徒数：268人		
		教員数	59人（内訳）教諭44人、助教諭2人、講師11人、養護教諭2人、養護助教諭0人、栄養教諭0人		
○		学校名	千葉県立姉崎高等学校（千葉県市原市姉崎2632） 学級数：12学級 生徒数：450人		
		教員数	40人（内訳）教諭32人、助教諭0人、講師7人、養護教諭1人、養護助教諭0人、栄養教諭0人		
○		学校名	千葉県立天羽高等学校（千葉県富津市数馬229番地） 学級数：10学級 生徒数：203人		
		教員数	35人（内訳）教諭29人、助教諭0人、講師5人、養護教諭1人、養護助教諭0人、栄養教諭0人		
○		教育委員会名	船橋市教育委員会	中学校：27校	高等学校：1校
○		教育委員会名	習志野市教育委員会	中学校：7校	高等学校：1校

学校法人千葉工業大学定年後再雇用教員に関する規程

平成23年 4 月 1 日

制定

最終改正 令和 2 年 2 月 1 日

(目的)

第 1 条 この規程は、学校法人千葉工業大学職員定年規程第 5 条に定める再採用者のうち、平成 11 年 3 月 31 日以前に就職した教育職員に対する処遇について定めることを目的とし、この規程に定めのない事項については、再採用者以外の専任の教育職員と同様の処遇とする。

(対象者)

第 2 条 対象者は、平成 11 年 3 月 31 日以前に就職した教育職員のうち、定年退職後引き続き専任の教育職員として勤務することを希望する満 70 歳以下の者とする。

2 前項に関わらず、本学教育職員として、適性を著しく欠くと判断した以下の場合は、雇用を継続しない。

(1) 本学の名誉を傷つける、反社会的行為があったと法人が判断した場合

(2) 医師の判断に基づき、健康障害のため教育職員として業務の遂行が困難であると法人が判断した場合

(3) 休講の頻度が高いなど、教育職員としての責務を著しく怠っていると法人が判断した場合

(手続き)

第 3 条 定年退職後継続雇用を希望する者は、原則として定年退職年度の前年度末日までに、学科長・教育センター長に申し出るものとする。

(呼称及び身分)

第 4 条 定年後雇用継続となる者を「定年後雇用継続教員」と称し、略称を「継続教員」とし、専任の教育職員として処遇する。

2 継続教員の役職は、定年時の役職を継続するものとする。

3 継続教員には、別に定めのある場合を除き、学校法人千葉工業大学職員就業規則及びその他学内規程等を適用する。

(職務及び権限)

第 5 条 継続教員の職務等は次のとおりとする。

(1) 継続教員の持時間は、学部講義等（卒研含む）の持時間を年間（前期・後期）平均して 5 コマ（10 時間）程度とし、上限 6 コマ（12 時間）とする。

ただし、各継続教員の 5 コマ（10 時間）からの超過時間は、6 コマ（12 時間）の上限に関わらず、学科・教育センターの継続教員間で融通できるものとする。

なお、上記に示す持時間は、学部担当時間を指し、大学院担当時間は含めない。

(2) 継続教員が受け持つ卒業研究の指導学生数は、所属する学科における継続教員以外の教育職員が指導する平均学生数の 7 割程度とする。

(3) 継続教員は、教学組織の役職（専攻長、学部長、学科長等）及び学内委員会の構成員になることはできない。

(4) 継続教員は、教育職員人事に関わる全ての会議（学科・教育センター内の会議、資格審査の教授会等）に出席することはできない。

また、継続教員は、学長選挙等の人事に関わる選挙における有権者及び推薦人になることはできない。

(5) 継続教員は、入試業務（問題作成、監督等）に就くことはできない。

（学外兼職日数の制限）

第6条 継続教員が兼職を行なう場合は、学校法人千葉工業大学職員就業規則第17条に規定する「学外兼職の許可」の手続きにより兼職を可能とし、兼職日数に制限を設けない。

（給与等）

第7条 継続教員の基本給は、定年時における等級号俸に該当する金額及びライフプラン支援金の7割相当額（百円未満切り上げ）とする。

2 継続教員の時間外授業手当基準時間は、8.4時間とする。

3 継続教員は、学校法人千葉工業大学職員退職金規程の対象から除外する。

4 継続教員に対し、定年後の雇用継続勤続年限に応じて慰労金を支給する。

慰労金は、定年後の雇用継続勤続年限に応じて、次の俸給月額分を退職時に支給するものとする。ただし、6カ月未満は切り捨て、6カ月以上は1年として算入する。

定年後の雇用継続勤続年限	俸給月額
1年	1カ月
2年	2カ月
3年	3カ月
4年	4カ月
5年	5カ月

（勤続年数の計算）

第8条 定年後の雇用継続期間は、教育職員としての勤続年数に含めるものとする。

（規程の改廃）

第9条 この規程の改廃は、教育職員が構成する組織と協議したうえで、理事会の議決を経るものとする。

附則

この規程は、平成23年4月1日から施行する。

附則

この規程は、令和2年2月1日から施行する。

千葉工業大学FD委員会規程

平成 22 年 4 月 1 日

制定

最終改正 令和 3 年 4 月 26 日

(目的及び設置)

第 1 条 千葉工業大学に、ファカルティ・ディベロップメント（以下「FD」という。）を推進することを目的として、千葉工業大学FD委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(審議事項)

第 2 条 委員会は、次の各号に掲げる事項について審議する。

- (1) FD推進のための企画及び実施に関する事項
- (2) FDに関する報告書等の作成に関する事項
- (3) 学長から諮問された事項
- (4) その他FDの推進に関する事項

(委員構成及び任期)

第 3 条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって構成する。

- (1) 学長の指名する委員長
- (2) 委員長の指名する専任教員 若干名
- (3) 教学センター部長
- (4) 教学センターグループ長

2 委員長が必要と認めた場合は、委員の中から2名まで副委員長を置くことができる。

3 第1項に規定する委員は、学長が委嘱する。

4 委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、欠員を生じた場合の補充委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第 4 条 委員長は、委員会を招集し、その会議の議長を務める。

2 委員長が職務を執行できない場合は、委員長が指名する委員がその職務を代行する。

(会議)

第 5 条 委員会は、委員長を除く3分の2以上の委員の出席をもって成立する。

2 委員会の議決は、出席委員の過半数以上の同意をもって決定する。ただし、可否同数の場合は、議長の決するところによる。

3 委員長は、必要があると認めるときは、委員以外の者の出席を求め意見を聞くことができる。

(運営)

第 6 条 会議は原則として毎月1回以上開催するものとする。

2 委員会には、必要に応じて部会をおくことができる。

(事務)

第 7 条 委員会に関する事務は、教学センターが行う。

(規程の改廃)

第8条 この規程の改廃は、理事会の議決を経るものとする。

附則

- 1 この規程は、平成 22 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 この規程の施行をもって、従前の「千葉工業大学 F D 推進委員会規程」及び「千葉工業大学大学院 F D 委員会規程」は廃止する。

附則

この規程は、平成 28 年 3 月 30 日から施行する。

附則

この規程は、平成 29 年 7 月 20 日から施行する。

附則

この規程は、平成 29 年 12 月 13 日から施行する。

附則

この規程は、令和 3 年 4 月 26 日から施行する。

学生確保の見通し等を記載した書類 目次

(1) 学生確保の見通し及び申請者としての取組状況	P. 2
(2) 人材需要の動向等社会の要請	P. 8

(1) 学生確保の見通し及び申請者としての取組状況

ア 学部等を設置する大学等の現状把握・分析

千葉工業大学は、昭和 17 年（1942 年）に創立し、私立の工業単科大学として我が国で最も歴史が古い大学のひとつで 80 年の伝統を誇り、設立の趣旨を「志操堅固、学理及び技術に優秀なる工業人材の育成」として、新国土の養成、全人教育、労作教育、塾教育を掲げており、この教育の理念は、「世界文化に技術で貢献する」というかたちで現在も建学の精神として受け継がれている。

今後、本学が社会の多様な期待や要請に適切に応え、自律性に基づく多様化や個性化をより一層推進していくためには、自らの責任において、社会や学生のニーズに対応した教育組織の構築や教育内容の充実、教育方法の改善など、大学教育における組織改革や教育改革に格段の努力を注ぐことが重要であると考えている。

イ 地域・社会的動向等の現状把握・分析

本学の情報科学部では、開設以来、情報学分野に関する教育研究活動を通じて、現代社会を支えるコンピュータやネットワークに関する基盤技術とともに、今後の進化した情報化社会を見据えて、新たなコンセプトや新原理を創出できる人材の育成にむけて、教育課程や教育内容をはじめとする教育研究環境の整備と充実に努めてきた。

しかしながら、社会及び産業界における情報化の波は急速に進展しており、情報や情報技術の高度化や多様化により、情報学分野の教育研究領域は大きな広がりを見せていることから、将来における学術研究の進展も視野に入れ、複合的な分野を含めて広く情報学分野の学問的な成果を取り込める教育環境を整備することで、今後の高度情報化社会に一層貢献できる教育組織としての充実が求められている。

ウ 新設学部等の趣旨目的、教育内容、定員設定等

1 新設学部等の趣旨目的、教育内容

(1) 情報変革科学部

情報変革科学部では、組織として研究対象とする中心的な学問分野を「情報学分野」として、自ら学習を継続する能力・論理的思考力・課題解決力・コミュニケーション力・豊かな人間力・国際感覚と教養を備え、専門技術者として守るべき倫理や負うべき社会的責任を理解し、情報に関する科学的な見方や考え方を基盤として、情報技術に関する専門知識や技術を習得し、情報社会の分野において世界文化に技術で貢献し得る人材を養成する。

具体的には、情報変革科学部では、情報社会における事象を、工学的・科学的な視点から捉える能力とともに、情報の科学的な理解に基づく数理知識や情報技術を適切かつ効果的に活用して、情報社会の環境変化に柔軟に対応した情報技術の変革を図る創造的な能力と実践的な態度を習得した人材を養成する。

(2) 情報工学科

情報工学科では、組織として研究対象とする中心的な学問分野を「情報学分野」として、情報と情報技術に関する基礎的な知識と技術を基盤として、それらを適切かつ効果的に活用できる実践的な能力を有して、情報技術を科学的・実証的に考究し、その成果を情報技術の变革に活かすことのできる人材を養成する。

具体的には、情報工学科では、情報理論や情報処理などの工業技術に関する基本原理や基本構造と基盤技術及び情報技術を実際に開発する能力とともに、情報技術に関する諸問題を主体的・合理的に解決し、情報技術の变革を図る実践的な態度を習得することとしている。

(3) 認知情報科学科

認知情報科学科では、組織として研究対象とする中心的な学問分野を「情報学分野」として、認知機能と情報技術に関する基礎的な知識と技術を基盤として、それらを実社会で実用化するための実践的な能力を有して、認知機能を科学的・実証的に考究し、その成果を情報科学の变革に活かすことのできる人材を養成する。

具体的には、認知情報科学科では、認知科学と情報科学に関する基本原理や基盤技術の習得と知的機能や認知過程を情報処理の観点から応用する能力とともに、認知機能に関する諸問題を主体的・合理的に解決し、情報科学の变革を図る実践的な態度を習得することとしている。

(4) 高度応用情報科学科

高度応用情報科学科では、組織として研究対象とする中心的な学問分野を「情報学分野」として、情報科学の基礎研究を通じて得られた理論や技術を高度情報化社会に向けて創造的に応用できる能力を有して、情報科学を科学的・実証的に考究し、その成果を情報社会の变革に活かすことのできる人材を養成する。

具体的には、高度応用情報科学科では、情報科学に関する基本原理や基盤技術の習得と情報技術を応用した新たな仕組みや価値を生み出す能力の習得とともに、情報科学の諸問題を主体的・合理的に解決し、情報社会の变革を図る実践的な態度を習得することとしている。

2 アやイで分析した課題に対して新設学部等がどのように貢献できるのか

情報変革科学部の設置は、高等教育を取り巻く社会環境の変化及び進学希望者の動向や進学意向を踏まえたものであり、「ア」において課題として掲げている「社会や学生のニーズに対応した教育組織の構築や教育内容の充実」に貢献できるものであり、「大学教育における組織改革や教育改革」に貢献できるものである。

また、情報変革科学部の設置は、情報学分野における学問的な動向を踏まえたものであり、「イ」において課題として掲げている「情報学分野の学問的な成果を取り込める教育環境を整備する」ことに貢献できるとともに、「今後の高度情報化社会に対応した教育組織の

充実」に貢献できるものである。

3 定員設定の理由

定員設定の理由は、基礎となる学部・学科における学生確保の状況、学生確保の見通しの調査結果、新設学部等の分野の動向、中長期的な18歳人口の地域的動向等、競合校の状況などを総合的に勘案するとともに、情報変革科学部における教員組織、教育課程、施設設備及び学部運営に係る財務的な視点等を勘案したうえで、教育の質の保証の観点から、充実した教育研究体制の確保が可能となるよう配慮した定員設定としており、情報工学科の入学定員を120人、認知情報科学科の入学定員を120人、高度応用情報科学科の入学定員を120人として設定している。

4 今、学科等を新設しなければならない理由

情報変革科学部の設置計画は、社会及び産業界における情報化の急速な進展に伴う、情報や情報技術の高度化や多様化への対応が喫緊の課題であることから、本学の情報科学部が長年にわたり培ってきた情報学分野における教育研究実績をもとに、今後の高度情報化社会に一層貢献できる教育組織としての充実を図ることによる喫緊の課題への対応を目指すものである。

5 新設学科等の入学金、授業料等の学生納付金の額と設定根拠

情報変革科学部の学生納付金の設定根拠については、大学及び学部運営に係る財務的な視点と学生納付金の学生への還元など受益者に対する説明責任の観点を踏まえるとともに、競合が想定される教育組織を設置している私立大学（工学院大学、芝浦工業大学、東京電機大学、東京都市大学、日本大学）の学生納付金の設定状況を勘案したうえで、完成年度における教育研究経費比率や教育活動支出依存率を見極めつつ、学科の運営上における人件費及び教育研究や管理運営に係る経常経費等の財務予測による実質的な採算分岐点に基づく金額として設定としている。（資料2）

エ 学生確保の見通し

A. 学生確保の見通しの調査結果

情報変革科学部の設置計画を策定するにあたり、学生確保の見通しについて、客観的な根拠となるデータから検証することを目的として、本学への受験実績や進学実績のある高等学校を中心とする2年生に対する進学意向に関するアンケート調査を実施した。

その結果、高等学校卒業後の進路について「大学進学（4年制・6年制）」と回答した者で、進学する分野について「工学・理学・情報学関係」と回答した者のうち、本学の情報変革科学部又は未来変革科学部が設置された場合「受験を希望する」と回答し、情報変革科学部又は未来変革科学部に合格した場合「情報工学科への入学を希望する」と回答した2年生は、入学定員120人に対して841人となっている。

同様に、「認知情報科学科への入学を希望する」と回答した2年生は、入学定員120人に対

して141人、「高度応用情報科学科への入学を希望する」と回答した2年生は、入学定員120人に対して122人となっており、このように、本学への受験実績や進学実績がある一部の高等学校の2年生に限定した調査結果においても、情報変革科学部の情報工学科、認知情報科学科、高度応用情報科学科の入学定員を上回る進学意向が確認されることから、学生確保については十分な見通しがあると考えられる。(資料1)

B. 新設学部等の分野の動向

日本私立学校振興・共済事業団の「私立大学・短期大学等入学志願動向(令和元年度～令和4年度)」による「主な学部別の志願者・入学者動向」における「理・工学系」の「情報科学部」の全国的な動向をみると、令和元年度から令和4年度までの4年間の入学定員に対する志願者数と志願倍率の平均は、入学定員1,071人に対して志願者数は29,520人、志願倍率は27.6倍と高いものとなっており、入学定員充足率においても4年間の入学定員充足率の平均は108.91%と安定した状況で推移している。

このように、今般、設置を計画している情報変革科学部と同分野の「理・工学系」の「情報科学部」における最近の全国的な志願者・入学者動向からも、当該分野における安定的な志願者・入学者数の状況が見てとれることから、十分な学生確保を見込むことができると考えている。(資料3)

C. 中長期的な18歳人口の全国的、地域的動向等

(1) 設置圏域の高等学校及び中学校の在籍者数による中長期的な見通し

令和4年度の千葉県と東京都の学校基本調査によると、情報変革科学部の設置初年度に受験対象者となる千葉県及び東京都内の高等学校に在籍している1年生の生徒数は144,404人、2年目に受験対象者となる千葉県及び東京都内の中学校に在籍している3年生の生徒数は156,919人となっている。

また、3年目に受験対象者となる2年生の生徒数は157,158人で、4年目に受験対象者となる1年生の生徒数は156,512人で、千葉県及び東京都内の中学校を卒業した者の高等学校等への令和4年度の進学率(千葉県98.9%、東京都98.8%)を勘案した場合、今後、千葉県及び東京都の大学受験対象者が大きく減少することはないと、中長期的な学生確保の見通しがあるものと思われる。(資料4)

(2) 設置圏域の人口動向等 一年齢別人口による中長期的な見通し

全国的に18歳人口の減少が予測されている中で、情報変革科学部の設置圏域である千葉県と東京都における学齢人口の減少は比較的緩やかな傾向が示されており、千葉県及び東京都が公表している年齢(5歳階級)別推計人口をみると、14歳～10歳の人口は798,207人、9歳～5歳の人口は795,647人となっており、今後の大学受験対象者となる14歳～5歳までの年齢別人口は、微増減を繰り返しながら穏やかに推移していくことから、中長期的にみても大学受験対象者が急激に減少することはないものと見込まれる。(資料5)

(3) 設置圏域の高等学校を卒業した者の大学進学状況による見通し

1) 千葉県

令和4年度の千葉県の学校基本調査によると、千葉県内の高等学校を卒業した者の過去4年間の大学進学状況は、令和元年度は卒業生 48,998 人のうち大学進学者は 26,975 人で大学進学率は 55.1%、令和2年度は卒業生 48,289 人のうち大学進学者は 27,030 人で大学進学率は 56.0%、令和3年度は卒業生 48,202 人のうち大学進学者は 28,068 人で大学進学率は 58.2%、令和4年度は卒業生 46,852 人のうち大学進学者は 28,763 人で大学進学率は 61.4%となっている。

また、千葉県内の高等学校を卒業した者の過去4年間の大学進学率については、令和元年度の 55.1%から令和4年度では 61.4%と 6.3 ポイント上昇していることから、今後、千葉県内の大学進学者が大きく減少することはない、中長期的な学生確保の見通しがあるものと思われる。(資料6)

2) 東京都

令和4年度の東京都の学校基本調査によると、東京都内の高等学校を卒業した者の過去4年間の大学進学状況は、令和元年度は卒業生 101,723 人のうち大学進学者は 66,248 人で大学進学率は 65.1%、令和2年度は卒業生 100,178 人のうち大学進学者は 66,737 人で大学進学率は 66.6%、令和3年度は卒業生 98,943 人のうち大学進学者は 68,292 人で大学進学率は 69.0%、令和4年度は卒業生 98,713 人のうち大学進学者は 70,555 人で大学進学率は 71.5%となっている。

また、東京都内の高等学校を卒業した者の過去4年間の大学進学率については、令和元年度の 65.1%から令和4年度では 71.5%と 6.4 ポイント上昇していることから、今後、東京都内の大学進学者が大きく減少することはない、中長期的な学生確保の見通しがあるものと思われる。(資料6)

(4) 設置圏域の高等学校を卒業した者の入学状況

情報変革科学部の基礎となる情報科学部における最近4年間の入学者の状況をみると、千葉県及び東京都内の高等学校を卒業した者の割合は、入学者総数 1,323 人の約 57.7%にあたる 764 人と高いものとなっており、最近4年間の入学者数の状況をみても、千葉県及び東京都内の高等学校を卒業した者の入学者の傾向は続くものと見込まれ、先に記した千葉県及び東京都内の高等学校及び中学校の在籍者数、高等学校を卒業した者の大学進学状況等と併せてみた場合、中長期的にも安定した志願者と入学者の確保を見込むことができると考えられる。(資料7)

D. 競合校の状況

情報変革科学部の情報工学科との競合が想定される私立大学は、芝浦工業大学工学部情報工学科(入学定員114人)、東京電機大学システムデザイン工学部情報システム工学科(入

学定員130人)、工学院大学情報学部情報通信工学科(入学定員90人)で、各大学が公表している最近3年間の志願者等の状況を見ると、平均して入学定員総数111人に対して志願者総数は2,886人、入学者総数は110人、定員充足率は99.0%となっており、入学定員総数に対する志願者総数の割合は、26.0倍となっている。

情報変革科学部の認知情報科学科との競合が想定される私立大学は、工学院大学情報学部システム数理学科(入学定員60人)、東京都市大学情報工学部知能情報工学科(入学定員80人)、法政大学情報科学部デジタルメディア学科(入学定員80人)で、各大学が公表している最近3年間の志願者等の状況を見ると、平均して入学定員総数73人に対して志願者総数は1,475人、入学者総数は67人、定員充足率は92.1%となっており、入学定員総数に対する志願者総数の割合は、20.1倍となっている。

情報変革科学部の高度応用情報科学科との競合が想定される私立大学は、日本大学理工学部応用情報工学科(入学定員100人)、芝浦工業大学工学部情報通信工学科(入学定員104人)、東洋大学情報連携学部情報連携学科(入学定員300人)で、各大学が公表している最近3年間の志願者等の状況を見ると、平均して入学定員総数190人に対して志願者総数は3,065人、入学者総数は199人、定員充足率は104.7%となっており、入学定員総数に対する志願者総数の割合は、17.9倍となっている。

このように、情報変革科学部との競合が想定される私立大学の類似学科では、18歳人口の減少期においても安定した志願者数の確保と定員充足率を維持しており、競合が想定される私立大学の志願者動向等からも定員充足を見込むことができると考えられる。(資料8)

E. 既設学部等の学生確保の状況

今般、設置を計画している情報変革科学部の基礎となる情報科学部の情報工学科の最近4年間の志願者数の平均は約10,709人、入学定員に対する志願者数の平均割合は約76.4倍、定員充足率の平均は約116.2%、情報ネットワーク学科の最近4年間の志願者数の平均は9,294人、入学定員に対する志願者数の平均割合は約66.3倍、定員充足率の平均は約120%となっており、18歳人口の減少期においても安定した学生確保の状況を維持している。(資料9)

また、本学の既設の工学部及び創造工学部、先進工学部、社会システム科学部における最近4年間の志願者数及び入学定員に対する志願者の割合、定員充足率等は、別添資料10の通りとなっており、18歳人口の減少期においても安定した学生確保の状況を維持していることから、情報変革科学部を設置した場合でも、学生確保を見込むことができると考えている。(資料10)

(2) 人材需要の動向等社会の要請

① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

1 情報変革科学部

情報変革科学部では、組織として研究対象とする中心的な学問分野を「情報学分野」として、自ら学習を継続する能力・論理的思考力・課題解決力・コミュニケーション力・豊かな人間力・国際感覚と教養を備え、専門技術者として守るべき倫理や負うべき社会的責任を理解し、情報に関する科学的な見方や考え方を基盤として、情報技術に関する専門知識や技術を習得し、情報社会の分野において世界文化に技術で貢献し得る人材を養成する。

具体的には、情報変革科学部では、情報社会における事象を、工学的・科学的な視点から捉える能力とともに、情報の科学的な理解に基づく数理知識や情報技術を適切かつ効果的に活用して、情報社会の環境変化に柔軟に対応した情報技術の変革を図る創造的な能力と実践的な態度を習得した人材を養成する。

2 情報工学科

情報工学科では、組織として研究対象とする中心的な学問分野を「情報学分野」として、情報と情報技術に関する基礎的な知識と技術を基盤として、それらを適切かつ効果的に活用できる実践的な能力を有して、情報技術を科学的・実証的に考究し、その成果を情報技術の変革に活かすことのできる人材を養成する。

具体的には、情報工学科では、情報理論や情報処理などの工業技術に関する基本原理や基本構造と基盤技術及び情報技術を実際に関連する能力とともに、情報技術に関する諸問題を主体的・合理的に解決し、情報技術の変革を図る実践的な態度を習得することとしている。

3 認知情報科学科

認知情報科学科では、組織として研究対象とする中心的な学問分野を「情報学分野」として、認知機能と情報技術に関する基礎的な知識と技術を基盤として、それらを実社会で実用化するための実践的な能力を有して、認知機能を科学的・実証的に考究し、その成果を情報科学の変革に活かすことのできる人材を養成する。

具体的には、認知情報科学科では、認知科学と情報科学に関する基本原理や基盤技術の習得と知的機能や認知過程を情報処理の観点から応用する能力とともに、認知機能に関する諸問題を主体的・合理的に解決し、情報科学の変革を図る実践的な態度を習得することとしている。

4 高度応用情報科学科

高度応用情報科学科では、組織として研究対象とする中心的な学問分野を「情報学分野」として、情報科学の基礎研究を通じて得られた理論や技術を高度情報化社会に向け

て創造的に応用できる能力を有して、情報科学を科学的・実証的に考究し、その成果を情報社会の変革に活かすことのできる人材を養成する。

具体的には、高度応用情報科学科では、情報科学に関する基本原理や基盤技術の習得と情報技術を応用した新たな仕組みや価値を生み出す能力の習得とともに、情報科学の諸問題を主体的・合理的に解決し、情報社会の変革を図る実践的な態度を習得することとしている。

② 上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

1 基礎となる学科における求人状況及び就職状況

情報変革科学部の基礎となる情報科学部の情報工学科に対する最近4年間の求人件数の平均は12,198件で、求人倍率の平均は約111.9倍、情報ネットワーク学科に対する最近4年間の求人件数の平均は12,081件で、求人倍率の平均は約98.6倍となっており、昨今の就職難の状況下においても大きな影響を受けることなく、多数の求人件数を得ている。

また、情報科学部の最近4年間の就職実績については、情報工学科では、平均就職希望者数109人に対して平均就職者数は105.5人で平均就職率は約96.8%、情報ネットワーク学科では、平均就職希望者数123人に対して平均就職者数は117.25人で平均就職率は約95.7%となっており、高い就職率で推移している。

このことは、情報科学部の情報工学科と情報ネットワーク学科における人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的が、人材需要の動向等社会の要請を踏まえたものであることの裏付けとなるものであり、今般、設置を計画している情報変革科学部は、今後の高度情報化社会に一層貢献できる教育組織として教育内容を充実して設置することから、就職先の確保及び卒業後の進路については十分に見込めるものとする。(資料11)

2 人材需要の根拠となる調査結果の概要

情報変革科学部の設置計画を策定するにあたり、人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的が、人材需要等社会の要請を踏まえたものであることについて、客観的なデータから検証することを目的として、本学への求人実績や卒業生の採用実績がある企業等に対して、本学の情報変革科学部の必要性や養成する人材、情報変革科学部を卒業した者への採用意向に関するアンケート調査を実施した。

(1) 情報工学科

今後における人材の採用見込みについては、回答件数355件の約82.5%にあたる293件が「増加すると思う」と回答しており、情報変革科学部で養成する人材については、回答件数355件の約94.1%にあたる334件が「必要性を感じる」と回答しており、情報変革科学部の情報工学科で学んだ卒業生の採用については、回答件数355件の約91.3%にあたる324件が「採用したいと思う」と回答している。

また、「採用したいと思う」と回答した全ての企業等が単年度あたりの採用予定人数を示しており、採用人数を「3人以上」と回答した 37 件の企業等の採用人数を「3人」、「人数は未定」と回答した 178 件の企業等の採用人数を「1人」としてカウントした場合、全体で 437 人の採用が見込まれる調査結果となっている。

このような本学への求人実績や卒業生の採用実績がある企業等に限定した調査結果においても、情報変革科学部の情報工学科を卒業した者への高い採用意向が確認できることから、卒業後の進路においては十分な見通しがあると考えられる。(資料 12)

(2) 認知情報科学科

今後における人材の採用見込みについては、回答件数 340 件の約 82.4%にあたる 280 件が「増加すると思う」と回答しており、情報変革科学部で養成する人材については、回答件数 340 件の約 93.5%にあたる 318 件が「必要性を感じる」と回答しており、情報変革科学部の認知情報科学科で学んだ卒業生の採用については、回答件数 340 件の約 88.2%にあたる 300 件が「採用したいと思う」と回答している。

また、「採用したいと思う」と回答した全ての企業等が単年度あたりの採用予定人数を示しており、採用人数を「3人以上」と回答した 23 件の企業等の採用人数を「3人」、「人数は未定」と回答した 177 件の企業等の採用人数を「1人」としてカウントした場合、全体で 374 人の採用が見込まれる調査結果となっている。

このような本学への求人実績や卒業生の採用実績がある企業等に限定した調査結果においても、情報変革科学部の認知情報科学科を卒業した者への高い採用意向が確認できることから、卒業後の進路においては十分な見通しがあると考えられる。(資料 13)

(3) 高度応用情報科学科

今後における人材の採用見込みについては、回答件数 333 件の約 83.5%にあたる 278 件が「増加すると思う」と回答しており、情報変革科学部で養成する人材については、回答件数 333 件の約 92.2%にあたる 307 件が「必要性を感じる」と回答しており、情報変革科学部の高度応用情報科学科で学んだ卒業生の採用については、回答件数 333 件の約 88.9%にあたる 296 件が「採用したいと思う」と回答している。

また、「採用したいと思う」と回答した全ての企業等が単年度あたりの採用予定人数を示しており、採用人数を「3人以上」と回答した 22 件の企業等の採用人数を「3人」、「人数は未定」と回答した 170 件の企業等の採用人数を「1人」としてカウントした場合、全体で 371 人の採用が見込まれる調査結果となっている。

このような本学への求人実績や卒業生の採用実績がある企業等に限定した調査結果においても、情報変革科学部の高度応用情報科学科を卒業した者への高い採用意向が確認できることから、卒業後の進路においては十分な見通しがあると考えられる。(資料 14)

情報変革科学部（仮称）進学需要等に関するアンケート調査結果報告書―抜粋―

5. 情報変革科学部への入学希望 ―クロス集計―

【情報変革科学部 情報工学科】

「調査対象者に関する質問事項」の「学年」で「2年生」と回答した回答者数 19,405 人のうち、問 1 で卒業後の進路を「大学進学（4 年制・6 年制）」と回答し、問 2 で進学する分野を「工学・理学・情報学関係」と回答した者で、問 3 で「情報変革科学部に興味・関心がある」と回答した者のうち、問 4 で「情報工学科の受験を希望する」と回答し、問 5 で「情報工学科への入学を希望する」と回答した者は 841 人となっている。

【情報変革科学部 認知情報科学科】

「調査対象者に関する質問事項」の「学年」で「2年生」と回答した回答者数 19,405 人のうち、問 1 で卒業後の進路を「大学進学（4 年制・6 年制）」と回答し、問 2 で進学する分野を「工学・理学・情報学関係」と回答した者で、問 3 で「情報変革科学部に興味・関心がある」と回答した者のうち、問 4 で「認知情報科学科の受験を希望する」と回答し、問 5 で「認知情報科学科への入学を希望する」と回答した者は 141 人となっている。

【情報変革科学部 高度応用情報科学科】

「調査対象者に関する質問事項」の「学年」で「2年生」と回答した回答者数 19,405 人のうち、問 1 で卒業後の進路を「大学進学（4 年制・6 年制）」と回答し、問 2 で進学する分野を「工学・理学・情報学関係」と回答した者で、問 3 で情報変革科学部に「興味・関心がある」と回答した者のうち、問 4 で「高度応用情報科学科の受験を希望する」と回答し、かつ問 5 で「高度応用情報科学科への入学を希望する」と回答した者は 122 人となっている。

情報変革科学部への入学希望 ―クロス集計―

学科	問 1 × 問 2 × 問 3 × 問 4 × 問 5	件数／人
情報工学科	1 × 1 × 1 × 1 × 1	841
認知情報科学科	1 × 1 × 1 × 2 × 2	141
高度応用情報科学科	1 × 1 × 1 × 3 × 3	122

問 1 「1」:「大学進学（4 年制・6 年制）」

問 2 「1」:「工学・理学・情報学関係」

問 3 「1」:「情報変革科学部に興味・関心がある」

問 4 「1」:「情報工学科の受験を希望する」

「2」:「認知情報科学科の受験を希望する」

「3」:「高度応用情報科学科の受験を希望する」

問 5 「1」:「情報工学科への入学を希望する」

「2」:「認知情報科学科への入学を希望する」

「3」:「高度応用情報科学科への入学を希望する」

【資料2】

競合が想定される私立大学の学生納付金

大学／学部・学科	入学金	授業料等	合計
千葉工業大学 情報変革科学部 情報工学科 情報変革科学部 認知情報科学科 情報変革科学部 高度応用情報科学科	250,000 円	1,424,500 円	1,674,500 円
工学院大学 情報学部 情報科学科 情報学部 情報通信工学科	250,000 円	1,431,160 円	1,681,160 円
芝浦工業大学 工学部 情報工学科 工学部 情報通信工学科	280,000 円	1,514,880 円	1,794,880 円
東京電機大学 未来科学部 情報メディア学科 工学部 情報通信工学科	250,000 円	1,421,160 円	1,671,160 円
東京都市大学 情報工学部 知能情報工学科	200,000 円	1,536,000 円	1,736,000 円
日本大学 理工学部 応用情報工学科	260,000 円	1,510,000 円	1,770,000 円

【資料3】

主な学部別の志願者・入学者動向（大学）

【情報科学部】

年度	入学定員	志願者数	入学者数	定員充足率
令和元年度	1,046	26,130	1,126	107.65
令和2年度	1,046	27,781	1,136	108.60
令和3年度	1,090	29,130	1,237	113.49
令和4年度	1,100	35,040	1,165	105.91
4年間平均	1,071	29,520	1,166	108.91

日本私立学校振興・共済事業団「私立大学・短期大学等入学志願動向」より抜粋

【資料４】

千葉県及び東京都内の高等学校及び中学校の在籍者数

【高等学校 学年別生徒数】令和４年度

区 分	本科		
	１学年		
	計	男	女
千葉県	47,416	24,238	23,178
東京都	96,988	47,920	49,068
計	144,404	72,158	72,246

千葉県及び東京都学校基本調査結果より抜粋

【中学校 学年別生徒数】令和４年度

区 分	１学年			２学年			３学年		
	計	男	女	計	男	女	計	男	女
千葉県	51,674	26,743	24,931	52,732	26,993	25,739	52,830	27,045	25,776
東京都	104,838	53,292	51,546	104,426	53,207	51,219	104,089	53,183	50,906
計	156,512	80,035	76,477	157,158	80,200	76,958	156,919	80,228	76,682

千葉県及び東京都学校基本調査結果より抜粋

【中学校 高等学校進学者】令和４年度

区 分	計			高等学校進学者			高等学校進学率 (%)
	計	男	女	計	男	女	
千葉県	52,736	27,015	25,721	52,116	26,694	25,472	98.9
東京都	102,429	52,176	50,253	101,173	51,535	49,638	98.8

千葉県及び東京都学校基本調査結果より抜粋

【資料5】

千葉県及び東京都の人口動向等

【千葉県 年齢（5歳階級、各歳）別、男女別人口】

年齢	総数	男	女
5～9	250,875	128,806	122,969
10～14	267,487	137,506	129,981

千葉県年齢別・町丁字別人口令和4年度より抜粋

【東京都 年齢（5歳階級、各歳）別、男女別人口】

年齢	総数	男	女
5～9	544,772	278,316	266,456
10～14	530,720	272,593	258,127

東京都年齢別・町丁字別人口令和4年度より抜粋

【千葉県及び東京都 年齢（5歳階級、各歳）別、男女別人口】

年齢	総数	男	女
5～9	795,647	407,122	389,425
10～14	798,207	410,099	388,108

千葉県及び東京都年齢別・町丁字別人口令和4年度より抜粋

【資料6】

千葉県及び東京都内の高等学校を卒業した者の大学進学状況

【千葉県 高等学校 大学等進学者】

区 分	計			大学等進学者			大学等進学率 (%)
	計	男	女	計	男	女	
令和元年度	48,998	25,000	23,998	26,975	13,507	13,468	55.1
令和2年度	48,289	24,567	23,722	27,030	13,433	13,597	56.0
令和3年度	48,202	24,461	23,741	28,068	14,142	13,926	58.2
令和4年度	46,852	23,804	23,048	28,763	14,628	14,135	61.4

千葉県学校基本調査結果より抜粋

【東京都 高等学校 大学等進学者】

区 分	計			大学等進学者			大学等進学率 (%)
	計	男	女	計	男	女	
令和元年度	101,723	49,839	51,884	66,248	30,183	36,065	65.1
令和2年度	100,178	49,059	51,119	66,737	30,809	35,928	66.6
令和3年度	98,943	48,869	50,074	68,292	32,080	36,212	69.0
令和4年度	98,713	48,768	49,945	70,555	33,705	36,850	71.5

東京都学校基本調査結果より抜粋

【資料 7】

千葉県・東京都の高等学校を卒業した者の入学状況

【情報科学部】

学科	年 度	入学者数 (全体) ※1	入学者数 (千葉) ※1	入 学 者 数 (東京) ※1	入学者におけ る千葉・東京 の比率※2
情報工学科 入学定員 (140人)	令和2年度	159	63	18	50.94%
	令和3年度	168	88	27	68.45%
	令和4年度	162	69	29	60.49%
	令和5年度	162	77	21	60.49%
情報ネットワーク学科 入学定員 (140人)	令和2年度	164	54	28	50.00%
	令和3年度	161	61	31	57.14%
	令和4年度	170	74	28	60.00%
	令和5年度	177	69	27	54.24%
情報科学部 入学定員 (280人)	令和2年度	323	117	46	50.46%
	令和3年度	329	149	58	62.92%
	令和4年度	332	143	57	60.24%
	令和5年度	339	146	48	57.23%

※1 入学者数は5月1日現在（令和5年度のみ4月1日現在）

※2 入学者における千葉・東京の比率は少数点第三位を四捨五入

【資料 8】

競合が想定される私立大学の志願者等の動向

【情報工学科】

大学／学部・学科	年度	入学定員	志願者数※1	入学者数※2	定員充足率※3
芝浦工業大学 工学部 情報工学科	令和 2 年度	114	3,859	116	101.75%
	令和 3 年度	114	4,018	125	109.65%
	令和 4 年度	114	3,818	107	93.86%
東京電機大学 システムデザイン工学部 情報システム工学科	令和 2 年度	130	2,913	148	113.85%
	令和 3 年度	130	3,416	157	120.77%
	令和 4 年度	130	2,977	142	109.23%
工学院大学 情報学部 情報通信工学科	令和 2 年度	90	1,727	34	37.78%※4
	令和 3 年度	90	1,602	77	85.56%※4
	令和 4 年度	90	1,647	90	100.00%※4

※株式会社 KEI アドバンス提供データ

※1 志願者数は一般選抜・共通テスト利用入試の集計値

※2 入学者数は 5 月 1 日現在

※3 定員充足率は少数点第三位を四捨五入

※4 入学時は情報学部総合として入学し、学年進行した後に各学科へ配属となる者がいる。

【認知情報科学科】

大学／学部・学科	年度	入学定員	志願者数※1	入学者数※2	定員充足率※3
工学院大学 情報学部 システム数理学科	令和 2 年度	60	850	28	46.67%※5
	令和 3 年度	60	722	54	90.00%※5
	令和 4 年度	60	950	60	100.00%※5
東京都市大学 情報工学部 知能情報工学科	令和 2 年度	80	2,275	83	103.75%
	令和 3 年度	80	1,771	80	100.00%
	令和 4 年度	80	1,756	80	100.00%
法政大学 情報科学部 デジタルメディア学科	令和 2 年度	78	1,337	67	85.90%
	令和 3 年度	80	1,644	75	93.75%
	令和 4 年度	80	1,976	79	98.75%

※株式会社 KEI アドバンス提供データ

※1 志願者数は一般選抜・共通テスト利用入試の集計値

※2 入学者数は 5 月 1 日現在

※3 定員充足率は少数点第三位を四捨五入

※4 令和 5 年 4 月より情報科学科に名称変更

※5 入学時は情報学部総合として入学し、学年進行した後に各学科へ配属となる者がいる。

【高度応用情報科学科】

大学／学部・学科	年度	入学定員	志願者数※1	入学者数※2	定員充足率※3
日本大学 理工学部 応用情報工学科	令和2年度	100	1,848	107	107.00%
	令和3年度	100	1,928	119	119.00%
	令和4年度	100	1,525	119	119.00%
芝浦工業大学 工学部 情報通信工学科	令和2年度	104	2,849	109	104.81%
	令和3年度	104	2,601	117	112.50%
	令和4年度	104	2,232	128	123.08%
東洋大学 情報連携学部 情報連携学科	令和2年度	400	4,854	387	96.75%
	令和3年度	400	4,631	401	100.25%
	令和4年度	300	5,125	308	102.67%

※株式会社 KEI アドバンス提供データ

※1 志願者数は一般選抜・共通テスト利用入試の集計値

※2 入学者数は5月1日現在

※3 定員充足率は少数点第三位を四捨五入

【資料 9】

基礎となる学部・学科の志願者等の動向

【情報科学部】

学科	年 度	志願者数	入学者数※ ¹	志願倍率※ ²	定員充足率※ ³
情報工学科 入学定員 (140人)	令和2年度	8,741	159	62.4	113.57%
	令和3年度	9,432	168	67.4	120.00%
	令和4年度	12,113	162	86.5	115.71%
	令和5年度	12,549	162	89.6	115.71%
	平 均	10,709	162.75	76.5	116.25%
情報ネットワーク学科 入学定員 (140人)	令和2年度	7,651	164	54.7	117.14%
	令和3年度	7,990	161	57.1	115.00%
	令和4年度	10,476	170	74.8	121.43%
	令和5年度	11,060	177	79.0	126.43%
	平 均	9,294	168.00	66.4	120.00%

※1 入学者数は5月1日現在（令和5年度のみ4月1日現在）

※2 志願倍率は少数点第二位を四捨五入

※3 定員充足率は少数点第三位を四捨五入

【資料 10】

既設学部・学科の志願者等の動向

【工学部】

学科	年度	志願者数	合格者数	入学者数※1	定員充足率※2
機械工学科 入学定員 (140人)	令和2年度	7,673	1,685	167	119.29%
	令和3年度	8,029	2,243	167	119.29%
	令和4年度	10,110	2,831	166	118.57%
	令和5年度	10,169	3,125	181	129.29%
機械電子創成工学科 入学定員 (110人)	令和2年度	6,151	1,294	132	120.00%
	令和3年度	6,530	1,853	130	118.18%
	令和4年度	8,199	2,355	138	125.45%
	令和5年度	8,499	2,887	144	130.91%
先端材料工学科 入学定員 (110人)	令和2年度	5,965	1,618	128	116.36%
	令和3年度	5,837	2,023	144	130.91%
	令和4年度	7,382	3,106	121	110.00%
	令和5年度	7,835	3,110	145	131.82%
電気電子工学科 入学定員 (140人)	令和2年度	7,080	1,617	164	117.14%
	令和3年度	7,503	2,276	155	110.71%
	令和4年度	9,534	2,907	178	127.14%
	令和5年度	9,755	3,480	175	125.00%
情報通信システム工学科 入学定員 (110人)	令和2年度	7,326	1,061	124	112.73%
	令和3年度	8,013	1,625	127	115.45%
	令和4年度	10,411	1,548	127	115.45%
	令和5年度	10,413	2,807	143	130.00%
応用化学科 入学定員 (110人)	令和2年度	4,933	1,234	128	116.36%
	令和3年度	5,242	1,847	127	115.45%
	令和4年度	6,963	2,406	113	102.73%
	令和5年度	7,172	2,925	143	130.00%

※1 入学者数は5月1日現在（令和5年度のみ4月1日現在）

※2 定員充足率は少数点第三位を四捨五入

【創造工学部】

学科	年度	志願者数	合格者数	入学者数※1	定員充足率※2
建築学科 入学定員 (140人)	令和2年度	6,558	618	162	115.71%
	令和3年度	6,763	939	164	117.14%
	令和4年度	8,409	1,528	179	127.86%
	令和5年度	8,753	1,515	165	117.86%
都市環境工学科 入学定員 (110人)	令和2年度	5,876	975	123	111.82%
	令和3年度	5,874	1,565	117	106.36%
	令和4年度	7,565	2,305	139	126.36%
	令和5年度	7,966	2,561	128	116.36%
デザイン科学科 入学定員 (120人)	令和2年度	5,753	1,097	135	112.50%
	令和3年度	6,281	1,402	134	111.67%
	令和4年度	7,913	2,001	140	116.67%
	令和5年度	8,330	1,798	146	121.67%

※1 入学者数は5月1日現在（令和5年度のみ4月1日現在）

※2 定員充足率は少数点第三位を四捨五入

【先進工学部】

学科	年度	志願者数	合格者数	入学者数※1	定員充足率※2
未来ロボティクス学科 入学定員 (120人)	令和2年度	6,651	1,127	137	114.17%
	令和3年度	6,875	1,454	138	115.00%
	令和4年度	8,575	2,077	138	115.00%
	令和5年度	9,064	2,377	147	122.50%
生命科学科 入学定員 (110人)	令和2年度	4,676	1,519	122	110.91%
	令和3年度	4,940	1,700	129	117.27%
	令和4年度	6,328	2,853	140	127.27%
	令和5年度	6,818	3,387	136	123.64%
知能メディア工学科 入学定員 (110人)	令和2年度	6,677	970	128	116.36%
	令和3年度	6,814	1,313	129	117.27%
	令和4年度	8,701	1,595	126	114.55%
	令和5年度	9,240	2,049	128	116.36%

※1 入学者数は5月1日現在（令和5年度のみ4月1日現在）

※2 定員充足率は少数点第三位を四捨五入

【情報科学部】

学科	年度	志願者数	合格者数	入学者数※1	定員充足率※2
情報工学科 入学定員 (140人)	令和2年度	8,741	893	159	113.57%
	令和3年度	9,432	863	168	120.00%
	令和4年度	12,113	1,308	162	115.71%
	令和5年度	12,549	1,507	162	115.71%
情報ネットワーク学科 入学定員 (140人)	令和2年度	7,651	976	164	117.14%
	令和3年度	7,990	1,177	161	115.00%
	令和4年度	10,476	1,910	170	121.43%
	令和5年度	11,060	2,193	177	126.43%

※1 入学者数は5月1日現在（令和5年度のみ4月1日現在）

※2 定員充足率は少数点第三位を四捨五入

【社会システム科学部】

学科	年度	志願者数	合格者数	入学者数※1	定員充足率※2
経営情報科学科 入学定員 (110人)	令和2年度	4,800	841	122	110.91%
	令和3年度	5,171	868	123	111.82%
	令和4年度	6,373	2,054	134	121.82%
	令和5年度	6,877	2,362	148	134.55%
プロジェクト マネジメント学科 入学定員 (110人)	令和2年度	4,350	897	127	115.45%
	令和3年度	4,614	1,392	126	114.55%
	令和4年度	5,889	2,161	128	116.36%
	令和5年度	6,260	2,728	136	123.64%
金融・経営リスク科学科 入学定員 (60人)	令和2年度	4,162	992	72	120.00%
	令和3年度	4,318	1,565	63	105.00%
	令和4年度	5,587	2,482	66	110.00%
	令和5年度	5,923	2,756	71	118.33%

※1 入学者数は5月1日現在（令和5年度のみ4月1日現在）

※2 定員充足率は少数点第三位を四捨五入

【資料 11】

既設学部・求人就職状況等の動向

【情報科学部】

学科	年度	求人件数	希望者数	求人倍率	就職者数	就職率
情報工学科	令和元年度	12,884	113	114.0	113	100.0%
	令和2年度	11,655	110	106.0	105	95.5%
	令和3年度	11,163	98	113.9	93	94.9%
	令和4年度	13,089	115	113.8	111	96.5%
	平均	12,198	109	111.9	105.5	96.8%
情報ネットワーク学	令和元年度	12,752	112	113.9	111	99.1%
	令和2年度	11,522	127	90.7	119	93.7%
	令和3年度	11,053	120	92.1	116	96.7%
	令和4年度	12,997	131	99.2	123	93.9%
	平均	12,081	123	98.6	117.25	95.7%

※求人件数は2023年3月20日データ抽出

※令和元年度～3年度の希望者数、就職者数は学校基本調査のデータ（9月卒含む）

※令和4年度の希望者数、就職者数は、2023年3月24日現在のデータ（9月卒含まない）

情報変革科学部（仮称）進学需要等に関するアンケート調査結果報告書―抜粋―

2. 人材の採用見込み

千葉工業大学への求人実績や卒業生の採用実績がある民間企業等に対して、人材の採用見込みについて質問したところ、回答件数 355 件の約 82.5%にあたる 293 件が「増加すると思う」と回答していることから、採用見込みの高さをうかがうことができる。

問2 人材の採用見込み

No.	カテゴリ	件数／件	全体／％
1	増加すると思う	293	82.5
2	増加すると思わない	62	17.5
	未回答・不明	0	0.0
	合計	355	100.0

3. 情報変革科学部で養成する人材の必要性

千葉工業大学への求人実績や卒業生の採用実績がある民間企業等に対して、情報変革科学部で養成する人材の必要性について質問したところ、回答件数 355 件の約 94.1%にあたる 334 件が「必要性を感じる」と回答していることから、千葉工業大学の情報変革科学部で養成する人材の必要性の高さをうかがうことができる。

問3 情報変革科学部で養成する人材の必要性

No.	カテゴリ	件数／件	全体／％
1	必要性を感じる	334	94.1
2	必要性を感じない	21	5.9
	未回答・不明	0	0.0
	合計	355	100.0

4. 情報変革科学部の情報工学科で学んだ卒業生の採用

千葉工業大学への求人実績や卒業生の採用実績がある民間企業等に対して、情報変革科学部の情報工学科で学んだ卒業生の採用について質問したところ、回答件数 355 件の約 91.3%にあたる 324 件が「採用したいと思う」と回答しており、千葉工業大学の情報変革科学部の情報工学科で学んだ卒業生への採用に積極的な意向を示している。

問4 情報変革科学部の情報工学科で学んだ卒業生の採用

No.	カテゴリ	件数／件	全体／％
1	採用したいと思う	324	91.3
2	採用したいと思わない	10	2.8
	未回答・不明	21	5.9
	合計	355	100.0

5. 情報変革科学部の情報工学科で学んだ卒業生の採用人数

問4で、情報変革科学部の情報工学科で学んだ卒業生を「採用したいと思う」と回答した民間企業等のうち、単年度当りの卒業生の採用人数を「1人」と回答したのは70件、「2人」と回答したのは39件、「3人以上」と回答したのは37件、「人数は未定」と回答したのは178件となっている。

なお、「採用人数3人以上」と回答した採用人数を「3人」とし、「人数は未定」と回答した採用人数を「1人」として採用人数を合計すると437人となり、これらの採用人数からも千葉工業大学の情報変革科学部の情報工学科で学んだ卒業生に対する採用意向の高さをうかがうことができる。

問5 情報変革科学部の情報工学科で学んだ卒業生の採用人数

No.	カテゴリ	件数／件	全体／％
1	1人	70	21.6
2	2人	39	12.0
3	3人以上	37	11.4
4	人数は未定	178	54.9
	未回答・不明	0	0.0
	合計	324	100.0

問4×問5 卒業生の採用×卒業生の採用人数

No.	カテゴリ	件数／件	全体／人
1	採用したいと思う×採用人数1人	70	70
2	採用したいと思う×採用人数2人	39	78
3	採用したいと思う×採用人数3人以上	37	111
4	採用したいと思う×採用人数数は未定	178	178
	合計	324	437

情報変革科学部（仮称）進学需要等に関するアンケート調査結果報告書―抜粋―

2. 人材の採用見込み

千葉工業大学への求人実績や卒業生の採用実績がある民間企業等に対して、人材の採用見込みについて質問したところ、回答件数 340 件の約 82.4%にあたる 280 件が「増加すると思う」と回答していることから、採用見込みの高さをうかがうことができる。

問2 人材の採用見込み

No.	カテゴリ	件数／件	全体／％
1	増加すると思う	280	82.4
2	増加すると思わない	60	17.6
	未回答・不明	0	0.0
	合計	340	100.0

3. 情報変革科学部で養成する人材の必要性

千葉工業大学への求人実績や卒業生の採用実績がある民間企業等に対して、情報変革科学部で養成する人材の必要性について質問したところ、回答件数 340 件の約 93.5%にあたる 318 件が「必要性を感じる」と回答していることから、千葉工業大学の情報変革科学部で養成する人材の必要性の高さをうかがうことができる。

問3 情報変革科学部で養成する人材の必要性

No.	カテゴリ	件数／件	全体／％
1	必要性を感じる	318	93.5
2	必要性を感じない	22	6.5
	未回答・不明	0	0.0
	合計	340	100.0

4. 情報変革科学部の認知情報科学科で学んだ卒業生の採用

千葉工業大学への求人実績や卒業生の採用実績がある民間企業等に対して、情報変革科学部の認知情報科学科で学んだ卒業生の採用について質問したところ、回答件数 340 件の約 88.2%にあたる 300 件が「採用したいと思う」と回答しており、千葉工業大学の情報変革科学部の認知情報科学科で学んだ卒業生への採用に積極的な意向を示している。

問4 情報変革科学部の認知情報科学科で学んだ卒業生の採用

No.	カテゴリ	件数／件	全体／％
1	採用したいと思う	300	88.2
2	採用したいと思わない	18	5.3
	未回答・不明	22	6.5
	合計	340	100.0

5. 情報変革科学部の認知情報科学科で学んだ卒業生の採用人数

問4で、情報変革科学部の認知情報科学科で学んだ卒業生を「採用したいと思う」と回答した民間企業等のうち、単年度当りの卒業生の採用人数を「1人」と回答したのは72件、「2人」と回答したのは28件、「3人以上」と回答したのは23件、「人数は未定」と回答したのは177件となっている。

なお、「採用人数3人以上」と回答した採用人数を「3人」とし、「人数は未定」と回答した採用人数を「1人」として採用人数を合計すると374人となり、これらの採用人数からも千葉工業大学の情報変革科学部の認知情報科学科で学んだ卒業生に対する採用意向の高さをうかがうことができる。

問5 情報変革科学部の認知情報科学科で学んだ卒業生の採用人数

No.	カテゴリ	件数／件	全体／%
1	1人	72	24.0
2	2人	28	9.3
3	3人以上	23	7.7
4	人数は未定	177	59.0
	未回答・不明	0	0.0
	合計	300	100.0

問4×問5 卒業生の採用×卒業生の採用人数

No.	カテゴリ	件数／件	全体／人
1	採用したいと思う×採用人数1人	72	72
2	採用したいと思う×採用人数2人	28	56
3	採用したいと思う×採用人数3人以上	23	69
4	採用したいと思う×採用人数数は未定	177	177
	合計	300	374

情報変革科学部（仮称）進学需要等に関するアンケート調査結果報告書―抜粋―

2. 人材の採用見込み

千葉工業大学への求人実績や卒業生の採用実績がある民間企業等に対して、人材の採用見込みについて質問したところ、回答件数 333 件の約 83.5%にあたる 278 件が「増加すると思う」と回答していることから、採用見込みの高さをうかがうことができる。

問2 人材の採用見込み

No.	カテゴリ	件数／件	全体／％
1	増加すると思う	278	83.5
2	増加すると思わない	55	16.5
	未回答・不明	0	0.0
	合計	333	100.0

3. 情報変革科学部で養成する人材の必要性

千葉工業大学への求人実績や卒業生の採用実績がある民間企業等に対して、情報変革科学部で養成する人材の必要性について質問したところ、回答件数 333 件の約 92.2%にあたる 307 件が「必要性を感じる」と回答していることから、千葉工業大学の情報変革科学部で養成する人材の必要性の高さをうかがうことができる。

問3 情報変革科学部で養成する人材の必要性

No.	カテゴリ	件数／件	全体／％
1	必要性を感じる	307	92.2
2	必要性を感じない	26	7.8
	未回答・不明	0	0.0
	合計	333	100.0

4. 情報変革科学部の高度応用情報科学科で学んだ卒業生の採用

千葉工業大学への求人実績や卒業生の採用実績がある民間企業等に対して、情報変革科学部の高度応用情報科学科で学んだ卒業生の採用について質問したところ、回答件数 333 件の約 88.9%にあたる 296 件が「採用したいと思う」と回答しており、千葉工業大学の情報変革科学部の高度応用情報科学科で学んだ卒業生への採用に積極的な意向を示している。

問4 情報変革科学部の高度応用情報科学科で学んだ卒業生の採用

No.	カテゴリ	件数／件	全体／％
1	採用したいと思う	296	88.9
2	採用したいと思わない	11	3.3
	未回答・不明	26	7.8
	合計	333	100.0

5. 情報変革科学部の高度応用情報科学科で学んだ卒業生の採用人数

問4で、情報変革科学部の高度応用情報科学科で学んだ卒業生を「採用したいと思う」と回答した民間企業等のうち、単年度当りの卒業生の採用人数を「1人」と回答したのは73件、「2人」と回答したのは31件、「3人以上」と回答したのは22件、「人数は未定」と回答したのは170件となっている。

なお、「採用人数3人以上」と回答した採用人数を「3人」とし、「人数は未定」と回答した採用人数を「1人」として採用人数を合計すると371人となり、これらの採用人数からも千葉工業大学の情報変革科学部の高度応用情報科学科で学んだ卒業生に対する採用意向の高さをうかがうことができる。

問5 情報変革科学部の高度応用情報科学科で学んだ卒業生の採用人数

No.	カテゴリ	件数／件	全体／％
1	1人	73	24.7
2	2人	31	10.5
3	3人以上	22	7.4
4	人数は未定	170	57.4
	未回答・不明	0	0.0
	合計	296	100.0

問4×問5 卒業生の採用×卒業生の採用人数

No.	カテゴリ	件数／件	全体／人
1	採用したいと思う×採用人数1人	73	73
2	採用したいと思う×採用人数2人	31	62
3	採用したいと思う×採用人数3人以上	22	66
4	採用したいと思う×採用人数数は未定	170	170
	合計	296	371

千葉工業大学
情報変革科学部（仮称）
進学需要等に関するアンケート調査
結果報告書

令和5年3月

株式会社 島津理化

目 次

I. 進学需要調査（集計結果）

【2年生】

調査対象等	1
調査結果概要	2～8
調査対象に関する質問事項	
学年	2
大学進学全般に関する質問事項	
高等学校卒業後の進路	3
進学を希望する分野	4
千葉工業大学に関する質問事項	
情報変革科学部への興味・関心	5
情報変革科学部の受験希望	6
情報変革科学部への入学希望	7

II. 人材需要調査（集計結果）

【情報工学科】

調査対象等	9
調査結果概要	10～14
調査対象に関する質問事項	
所在地	10
人材需要全般に関する質問事項	
人材の採用見込み	11
千葉工業大学に関する質問事項	
情報変革科学部で養成する人材の必要性	12
情報変革科学部の情報工学科で学んだ卒業生の採用	13
情報変革科学部の情報工学科で学んだ卒業生の採用人数	14

【認知情報科学科】

調査対象等	15
調査結果概要	16～20
調査対象に関する質問事項	
所在地	16
人材需要全般に関する質問事項	
人材の採用見込み	17
千葉工業大学に関する質問事項	
情報変革科学部で養成する人材の必要性	18
情報変革科学部の認知情報科学科で学んだ卒業生の採用	19
情報変革科学部の認知情報科学科で学んだ卒業生の採用人数	20

【高度応用情報科学科】

調査対象等	21
調査結果概要	22～26
調査対象に関する質問事項	
所在地	22
人材需要全般に関する質問事項	
人材の採用見込み	23

千葉工業大学に関する質問事項

情報変革科学部で養成する人材の必要性・・・・・・・・・・	24
情報変革科学部の高度応用情報科学科で学んだ卒業生の採用・・・・・・・・	25
情報変革科学部の高度応用情報科学科で学んだ卒業生の採用人数・・・・・・・・	26

Ⅲ. 参考資料

進学需要調査関係

アンケート調査票（高校生）

アンケート協力依頼高等学校一覧

情報変革科学部の概要

人材需要調査関係

アンケート調査票（企業等）

アンケート協力依頼企業等一覧

I . 進学需要調査（集計結果）

I. 進学需要調査（集計結果）

【調査対象等】

千葉工業大学では、令和6年4月より、情報変革科学部の設置を計画しており、この情報変革科学部の設置計画を策定するにあたり、学生確保の見通しを計量的な数値から検証することを目的として、千葉工業大学への受験実績や進学実績がある高等学校の在校生を対象とした進学需要等に関するアンケート調査を実施した。

①調査対象

依頼件数：166校

②調査方法

高等学校単位での一括配布、一括回収

③調査実施

令和4年10月～令和5年2月

④調査件数

回収件数：166校

回収者数：31,048人

（内2年生：19,405人）

※表内の比率は四捨五入のため、各項目の合計値は一致しない。

【調査結果概要】

＜調査対象者に関する質問事項＞

【学年】

千葉工業大学への受験実績や進学実績がある高等学校の在校生に、学年について質問したところ、回答者数 31,048 人の約 62.5%にあたる 19,405 人が「2年生」と回答しており、回答者数 31,048 人の約 37.5%にあたる 11,628 人が「1年生」と回答している。

【学年】

No.	カテゴリ	件数／人	全体／%
1	1年生	11,628	37.5
2	2年生	19,405	62.5
	未回答・不明	15	0.0
	合計	31,048	100.0

【調査結果概要】

＜大学進学全般に関する質問事項＞

1. 高等学校卒業後の進路

千葉工業大学への受験実績や進学実績がある高等学校の在校生に、高等学校卒業後の進路について質問したところ、「調査対象者に関する質問事項」の「学年」において「2年生」と回答した回答者数 19,405 人の約 91.5%にあたる 17,760 人が「大学進学（4年制・6年制）」、「短期大学進学」、「専門学校進学」と回答しており、そのうち「大学進学（4年制・6年制）」と回答している者は、回答者数 19,405 人の約 78.1%にあたる 15,162 人と最も高い数値を示していることから、大学（4年制・6年制）への進学意向の高さをうかがうことができる。

問1 高等学校卒業後の進路

No.	カテゴリ	件数／人	全体／%
1	大学進学（4年制・6年制）	15,162	78.1
2	短期大学進学	361	1.9
3	専門学校進学	2,237	11.5
4	就職	1,444	7.4
5	その他	179	0.9
	未回答・不明	22	0.1
	合計	19,405	100.0

【調査結果概要】

＜大学進学全般に関する質問事項＞

2. 進学を希望する分野

千葉工業大学への受験実績や進学実績がある高等学校の在校生に、高等学校卒業後に進学をする場合、どの分野を希望するかについて質問したところ、「調査対象者に関する質問事項」の「学年」で「2年生」と回答した者のうち、第1希望において「工学・理学・情報学関係」と回答した2年生が、回答者数 19,405 人の約 30.0%にあたる 5,827 人で最も多く、次いで「経済学・経営学関係」と回答した2年生が約 11.4%にあたる 2,221 人、「教育学・保育学関係」と回答した2年生が約 6.6%にあたる 1,283 人となっている。

問2 進学を希望する分野

No.	カテゴリ	第1希望		第2希望	
		件数／人	全体／%	件数／人	全体／%
1	工学・理学・情報学関係	5,827	30.0	1,478	7.6
2	文学・史学・哲学関係	1,256	6.5	1,783	9.2
3	教育学・保育学関係	1,283	6.6	1,750	9.0
4	法学・政治学関係	733	3.8	1,100	5.7
5	社会学・福祉学関係	603	3.1	1,190	6.1
6	経済学・経営学関係	2,221	11.4	2,532	13.0
7	医学・歯学・薬学関係	1,060	5.5	1,409	7.3
8	国際学関係	737	3.8	1,044	5.4
9	家政学・生活科学関係	461	2.4	547	2.8
10	美術学・音楽学関係	646	3.3	1,130	5.8
11	体育学・スポーツ学関係	725	3.7	1,274	6.6
12	医療技術学関係	791	4.1	1,212	6.2
13	看護学関係	1,147	5.9	739	3.8
14	その他	1,477	7.6	784	4.0
	未回答・不明	438	2.3	1,433	7.4
	合計	19,405	100.0	19,405	100.0

【調査結果概要】

＜千葉工業大学に関する質問事項＞

3. 情報変革科学部への興味・関心

千葉工業大学への受験実績や進学実績がある高等学校の在校生に、千葉工業大学の情報変革科学部への興味・関心について質問したところ、「調査対象者に関する質問事項」の「学年」で「2年生」と回答した回答者数 19,405 人の約 16.1%にあたる 3,132 人が「情報変革科学部に興味・関心がある」と回答していることから、千葉工業大学の情報変革科学部への興味・関心の高さをうかがうことができる。

問3 情報変革科学部への興味・関心

No.	カテゴリ	件数／人	全体／％
1	情報変革科学部に興味・関心がある	3,132	16.1
2	未来変革科学部に興味・関心がある	2,099	10.8
3	興味・関心がない	14,023	72.3
	未回答・不明	151	0.8
	合計	19,405	100.0

【調査結果概要】

＜千葉工業大学に関する質問事項＞

4. 情報変革科学部の受験希望

千葉工業大学への受験実績や進学実績がある高等学校の在校生に、情報変革科学部が設置された場合の受験希望について質問したところ、「調査対象者に関する質問事項」の「学年」で「2年生」と回答した回答者数 19,405 人の約 8.3%にあたる 1,607 人が「情報工学科の受験を希望する」と回答している。

また、回答者数 19,405 人の約 1.7%にあたる 330 人が「認知情報科学科の受験を希望する」と回答しているとともに、回答者数 19,405 人の約 2.0%にあたる 396 人が「高度応用情報科学科の受験を希望する」と回答しており、千葉工業大学の情報変革科学部への受験に積極的な意向を示している。

問 4 情報変革科学部の受験希望

No.	カテゴリ	件数／人	全体／％
1	情報工学科の受験を希望する	1,607	8.3
2	認知情報科学科の受験を希望する	330	1.7
3	高度応用情報科学科の受験を希望する	396	2.0
4	デジタル変革科学科の受験を希望する	390	2.0
5	経営デザイン科学科の受験を希望する	782	4.0
6	受験を希望しない	15,744	81.1
	未回答・不明	156	0.8
	合計	19,405	100.0

【調査結果概要】

＜千葉工業大学に関する質問事項＞

5. 情報変革科学部への入学希望

千葉工業大学への受験実績や進学実績がある高等学校の在學生に、情報変革科学部に合格した場合の入学希望について質問したところ、「調査対象者に関する質問事項」の「学年」で「2年生」と回答した回答者数 19,405 人の約 9.7%にあたる 1,891 人が「情報工学科への入学を希望する」と回答している。

また、回答者数 19,405 人の約 2.0%にあたる 387 人が「認知情報科学科への入学を希望する」と回答しているとともに、回答者数 19,405 人の約 1.8%にあたる 349 人が「高度応用情報科学科への入学を希望する」と回答しており、千葉工業大学の情報変革科学部への入学に積極的な意向を示している。

問5 情報変革科学部への入学希望

No.	カテゴリ	件数／人	全体／%
1	情報工学科への入学を希望する	1,891	9.7
2	認知情報科学科への入学を希望する	387	2.0
3	高度応用情報科学科への入学を希望する	349	1.8
4	デジタル変革科学科への入学を希望する	443	2.3
5	経営デザイン科学科への入学を希望する	981	5.1
6	入学を希望しない	15,192	78.3
	未回答・不明	162	0.8
	合計	19,405	100.0

【調査結果概要】

＜千葉工業大学に関する質問事項＞

5. 情報変革科学部への入学希望 ークロス集計ー

【情報変革科学部 情報工学科】

「調査対象者に関する質問事項」の「学年」で「2年生」と回答した回答者数 19,405 人のうち、問1で卒業後の進路を「大学進学（4年制・6年制）」と回答し、問2で進学する分野を「工学・理学・情報学関係」と回答した者で、問3で「情報変革科学部に興味・関心がある」と回答した者のうち、問4で「情報工学科の受験を希望する」と回答し、問5で「情報工学科への入学を希望する」と回答した者は 841 人となっている。

【情報変革科学部 認知情報科学科】

「調査対象者に関する質問事項」の「学年」で「2年生」と回答した回答者数 19,405 人のうち、問1で卒業後の進路を「大学進学（4年制・6年制）」と回答し、問2で進学する分野を「工学・理学・情報学関係」と回答した者で、問3で「情報変革科学部に興味・関心がある」と回答した者のうち、問4で「認知情報科学科の受験を希望する」と回答し、問5で「認知情報科学科への入学を希望する」と回答した者は 141 人となっている。

【情報変革科学部 高度応用情報科学科】

「調査対象者に関する質問事項」の「学年」で「2年生」と回答した回答者数 19,405 人のうち、問1で卒業後の進路を「大学進学（4年制・6年制）」と回答し、問2で進学する分野を「工学・理学・情報学関係」と回答した者で、問3で情報変革科学部に「興味・関心がある」と回答した者のうち、問4で「高度応用情報科学科の受験を希望する」と回答し、かつ問5で「高度応用情報科学科への入学を希望する」と回答した者は 122 人となっている。

このような千葉工業大学への受験実績や進学実績がある一部の高等学校の在校生に限定した調査結果においても、千葉工業大学の情報変革科学部への入学希望の高さがうかがえることから、十分な学生確保の見通しがあると考えられる。

情報変革科学部への入学希望 ークロス集計ー

学科	問1×問2×問3×問4×問5	件数／人
情報工学科	1 × 1 × 1 × 1 × 1	841
認知情報科学科	1 × 1 × 1 × 2 × 2	141
高度応用情報科学科	1 × 1 × 1 × 3 × 3	122

問1「1」:「大学進学（4年制・6年制）」

問2「1」:「工学・理学・情報学関係」

問3「1」:「情報変革科学部に興味・関心がある」

問4「1」:「情報工学科の受験を希望する」

「2」:「認知情報科学科の受験を希望する」

「3」:「高度応用情報科学科の受験を希望する」

問5「1」:「情報工学科への入学を希望する」

「2」:「認知情報科学科への入学を希望する」

「3」:「高度応用情報科学科への入学を希望する」

Ⅱ. 人材需要調査（集計結果）

【情報工学科】

Ⅱ. 人材需要調査（集計結果）

【情報工学科】

【調査対象等】

千葉工業大学では、令和6年4月より、情報変革科学部の設置を計画しており、この情報変革科学部の設置計画を策定するにあたり、人材需要の見通しを計量的な数値から検証することを目的として、千葉工業大学への求人実績や卒業生の採用実績がある民間企業等を対象とした人材需要等に関するアンケート調査を実施した。

①調査対象

千葉工業大学への求人実績や卒業生の採用実績がある民間企業等

②調査方法

民間企業等への直接依頼、回収

③調査実施

令和4年10月～令和4年12月

④調査件数

回答件数：355件

※表内の比率は四捨五入のため、各項目の合計値は一致しない。

【調査結果概要】

＜調査対象に関する質問事項＞

1. 所在地

千葉工業大学への求人実績や卒業生の採用実績がある民間企業等に対して、所在地について質問したところ、回答件数 355 件の約 45.4%にあたる 161 件が「東京都」と回答しており、次いで、約 41.7%にあたる 148 件が「その他」と回答している。

問 1 所在地

No.	カテゴリ	件数／件	全体／%
1	千葉県	15	4.2
2	東京都	161	45.4
3	神奈川県	31	8.7
4	その他	148	41.7
	未回答・不明	0	0.0
	合計	355	100.0

【調査結果概要】

＜人材需要全般に関する質問事項＞

2. 人材の採用見込み

千葉工業大学への求人実績や卒業生の採用実績がある民間企業等に対して、人材の採用見込みについて質問したところ、回答件数 355 件の約 82.5%にあたる 293 件が「増加すると思う」と回答していることから、採用見込みの高さをうかがうことができる。

問2 人材の採用見込み

No.	カテゴリ	件数／件	全体／%
1	増加すると思う	293	82.5
2	増加すると思わない	62	17.5
	未回答・不明	0	0.0
	合計	355	100.0

【調査結果概要】

＜千葉工業大学に関する質問事項＞

3. 情報変革科学部で養成する人材の必要性

千葉工業大学への求人実績や卒業生の採用実績がある民間企業等に対して、情報変革科学部で養成する人材の必要性について質問したところ、回答件数 355 件の約 94.1%にあたる 334 件が「必要性を感じる」と回答していることから、千葉工業大学の情報変革科学部で養成する人材の必要性の高さをうかがうことができる。

問3 情報変革科学部で養成する人材の必要性

No.	カテゴリ	件数／件	全体／%
1	必要性を感じる	334	94.1
2	必要性を感じない	21	5.9
	未回答・不明	0	0.0
	合計	355	100.0

【調査結果概要】

＜千葉工業大学に関する質問事項＞

4. 情報変革科学部の情報工学科で学んだ卒業生の採用

千葉工業大学への求人実績や卒業生の採用実績がある民間企業等に対して、情報変革科学部の情報工学科で学んだ卒業生の採用について質問したところ、回答件数 355 件の約 91.3% にあたる 324 件が「採用したいと思う」と回答しており、千葉工業大学の情報変革科学部の情報工学科で学んだ卒業生への採用に積極的な意向を示している。

問 4 情報変革科学部の情報工学科で学んだ卒業生の採用

No.	カテゴリ	件数／件	全体／%
1	採用したいと思う	324	91.3
2	採用したいと思わない	10	2.8
	未回答・不明	21	5.9
	合計	355	100.0

【調査結果概要】

＜千葉工業大学に関する質問事項＞

5. 情報変革科学部の情報工学科で学んだ卒業生の採用人数

問4で、情報変革科学部の情報工学科で学んだ卒業生を「採用したいと思う」と回答した民間企業等のうち、単年度当りの卒業生の採用人数を「1人」と回答したのは70件、「2人」と回答したのは39件、「3人以上」と回答したのは37件、「人数は未定」と回答したのは178件となっている。

なお、「採用人数3人以上」と回答した採用人数を「3人」とし、「人数は未定」と回答した採用人数を「1人」として採用人数を合計すると437人となり、これらの採用人数からも千葉工業大学の情報変革科学部の情報工学科で学んだ卒業生に対する採用意向の高さをうかがうことができる。

このような千葉工業大学への求人実績や卒業生の採用実績がある一部の民間企業等に限定した調査結果においても、千葉工業大学の情報変革科学部の情報工学科で学んだ卒業生への採用意向の高さがうかがえることから、卒業後の進路については十分な見通しがあると考えられる。

問5 情報変革科学部の情報工学科で学んだ卒業生の採用人数

No.	カテゴリ	件数／件	全体／％
1	1人	70	21.6
2	2人	39	12.0
3	3人以上	37	11.4
4	人数は未定	178	54.9
	未回答・不明	0	0.0
	合計	324	100.0

問4×問5 卒業生の採用×卒業生の採用人数

No.	カテゴリ	件数／件	全体／人
1	採用したいと思う×採用人数1人	70	70
2	採用したいと思う×採用人数2人	39	78
3	採用したいと思う×採用人数3人以上	37	111
4	採用したいと思う×採用人数数は未定	178	178
	合計	324	437

Ⅱ. 人材需要調査（集計結果）

【認知情報科学科】

Ⅱ. 人材需要調査（集計結果）

【認知情報科学科】

【調査対象等】

千葉工業大学では、令和6年4月より、情報変革科学部の設置を計画しており、この情報変革科学部の設置計画を策定するにあたり、人材需要の見通しを計量的な数値から検証することを目的として、千葉工業大学への求人実績や卒業生の採用実績がある民間企業等を対象とした人材需要等に関するアンケート調査を実施した。

①調査対象

千葉工業大学への求人実績や卒業生の採用実績がある民間企業等

②調査方法

民間企業等への直接依頼、回収

③調査実施

令和4年10月～令和4年12月

④調査件数

回答件数：340件

※表内の比率は四捨五入のため、各項目の合計値は一致しない。

【調査結果概要】

＜調査対象に関する質問事項＞

1. 所在地

千葉工業大学への求人実績や卒業生の採用実績がある民間企業等に対して、所在地について質問したところ、回答件数 340 件の約 47.6%にあたる 162 件が「その他」と回答しており、次いで、約 41.2%にあたる 140 件が「東京都」と回答している。

問 1 所在地

No.	カテゴリ	件数／件	全体／%
1	千葉県	15	4.4
2	東京都	140	41.2
3	神奈川県	23	6.8
4	その他	162	47.6
	未回答・不明	0	0.0
	合計	340	100.0

【調査結果概要】

＜人材需要全般に関する質問事項＞

2. 人材の採用見込み

千葉工業大学への求人実績や卒業生の採用実績がある民間企業等に対して、人材の採用見込みについて質問したところ、回答件数 340 件の約 82.4%にあたる 280 件が「増加すると思う」と回答していることから、採用見込みの高さをうかがうことができる。

問2 人材の採用見込み

No.	カテゴリ	件数／件	全体／%
1	増加すると思う	280	82.4
2	増加すると思わない	60	17.6
	未回答・不明	0	0.0
	合計	340	100.0

【調査結果概要】

＜千葉工業大学に関する質問事項＞

3. 情報変革科学部で養成する人材の必要性

千葉工業大学への求人実績や卒業生の採用実績がある民間企業等に対して、情報変革科学部で養成する人材の必要性について質問したところ、回答件数 340 件の約 93.5%にあたる 318 件が「必要性を感じる」と回答していることから、千葉工業大学の情報変革科学部で養成する人材の必要性の高さをうかがうことができる。

問3 情報変革科学部で養成する人材の必要性

No.	カテゴリ	件数／件	全体／%
1	必要性を感じる	318	93.5
2	必要性を感じない	22	6.5
	未回答・不明	0	0.0
	合計	340	100.0

【調査結果概要】

＜千葉工業大学に関する質問事項＞

4. 情報変革科学部の認知情報科学科で学んだ卒業生の採用

千葉工業大学への求人実績や卒業生の採用実績がある民間企業等に対して、情報変革科学部の認知情報科学科で学んだ卒業生の採用について質問したところ、回答件数 340 件の約 88.2%にあたる 300 件が「採用したいと思う」と回答しており、千葉工業大学の情報変革科学部の認知情報科学科で学んだ卒業生への採用に積極的な意向を示している。

問 4 情報変革科学部の認知情報科学科で学んだ卒業生の採用

No.	カテゴリ	件数／件	全体／％
1	採用したいと思う	300	88.2
2	採用したいと思わない	18	5.3
	未回答・不明	22	6.5
	合計	340	100.0

【調査結果概要】

＜千葉工業大学に関する質問事項＞

5. 情報変革科学部の認知情報科学科で学んだ卒業生の採用人数

問4で、情報変革科学部の認知情報科学科で学んだ卒業生を「採用したいと思う」と回答した民間企業等のうち、単年度当りの卒業生の採用人数を「1人」と回答したのは72件、「2人」と回答したのは28件、「3人以上」と回答したのは23件、「人数は未定」と回答したのは177件となっている。

なお、「採用人数3人以上」と回答した採用人数を「3人」とし、「人数は未定」と回答した採用人数を「1人」として採用人数を合計すると374人となり、これらの採用人数からも千葉工業大学の情報変革科学部の認知情報科学科で学んだ卒業生に対する採用意向の高さを知ることができる。

このような千葉工業大学への求人実績や卒業生の採用実績がある一部の民間企業等に限定した調査結果においても、千葉工業大学の情報変革科学部の認知情報科学科で学んだ卒業生への採用意向の高さがうかがえることから、卒業後の進路については十分な見通しがあると考えられる。

問5 情報変革科学部の認知情報科学科で学んだ卒業生の採用人数

No.	カテゴリ	件数／件	全体／％
1	1人	72	24.0
2	2人	28	9.3
3	3人以上	23	7.7
4	人数は未定	177	59.0
	未回答・不明	0	0.0
	合計	300	100.0

問4×問5 卒業生の採用×卒業生の採用人数

No.	カテゴリ	件数／件	全体／人
1	採用したいと思う×採用人数1人	72	72
2	採用したいと思う×採用人数2人	28	56
3	採用したいと思う×採用人数3人以上	23	69
4	採用したいと思う×採用人数数は未定	177	177
	合計	300	374

Ⅱ. 人材需要調査（集計結果）

【高度応用情報科学科】

Ⅱ. 人材需要調査（集計結果）

【高度応用情報科学科】

【調査対象等】

千葉工業大学では、令和6年4月より、情報変革科学部の設置を計画しており、この情報変革科学部の設置計画を策定するにあたり、人材需要の見通しを計量的な数値から検証することを目的として、千葉工業大学への求人実績や卒業生の採用実績がある民間企業等を対象とした人材需要等に関するアンケート調査を実施した。

①調査対象

千葉工業大学への求人実績や卒業生の採用実績がある民間企業等

②調査方法

民間企業等への直接依頼、回収

③調査実施

令和4年10月～令和4年12月

④調査件数

回答件数：333件

※表内の比率は四捨五入のため、各項目の合計値は一致しない。

【調査結果概要】

＜調査対象に関する質問事項＞

1. 所在地

千葉工業大学への求人実績や卒業生の採用実績がある民間企業等に対して、所在地について質問したところ、回答件数 333 件の約 48.9%にあたる 163 件が「東京都」と回答しており、次いで、約 38.7%にあたる 129 件が「その他」と回答している。

問 1 所在地

No.	カテゴリ	件数／件	全体／%
1	千葉県	11	3.3
2	東京都	163	48.9
3	神奈川県	30	9.0
4	その他	129	38.7
	未回答・不明	0	0.0
	合計	333	100.0

【調査結果概要】

＜人材需要全般に関する質問事項＞

2. 人材の採用見込み

千葉工業大学への求人実績や卒業生の採用実績がある民間企業等に対して、人材の採用見込みについて質問したところ、回答件数 333 件の約 83.5%にあたる 278 件が「増加すると思う」と回答していることから、採用見込みの高さをうかがうことができる。

問2 人材の採用見込み

No.	カテゴリ	件数／件	全体／%
1	増加すると思う	278	83.5
2	増加すると思わない	55	16.5
	未回答・不明	0	0.0
	合計	333	100.0

【調査結果概要】

＜千葉工業大学に関する質問事項＞

3. 情報変革科学部で養成する人材の必要性

千葉工業大学への求人実績や卒業生の採用実績がある民間企業等に対して、情報変革科学部で養成する人材の必要性について質問したところ、回答件数 333 件の約 92.2%にあたる 307 件が「必要性を感じる」と回答していることから、千葉工業大学の情報変革科学部で養成する人材の必要性の高さをうかがうことができる。

問3 情報変革科学部で養成する人材の必要性

No.	カテゴリ	件数／件	全体／%
1	必要性を感じる	307	92.2
2	必要性を感じない	26	7.8
	未回答・不明	0	0.0
	合計	333	100.0

【調査結果概要】

＜千葉工業大学に関する質問事項＞

4. 情報変革科学部の高度応用情報科学科で学んだ卒業生の採用

千葉工業大学への求人実績や卒業生の採用実績がある民間企業等に対して、情報変革科学部の高度応用情報科学科で学んだ卒業生の採用について質問したところ、回答件数 333 件の約 88.9%にあたる 296 件が「採用したいと思う」と回答しており、千葉工業大学の情報変革科学部の高度応用情報科学科で学んだ卒業生への採用に積極的な意向を示している。

問 4 情報変革科学部の高度応用情報科学科で学んだ卒業生の採用

No.	カテゴリ	件数／件	全体／％
1	採用したいと思う	296	88.9
2	採用したいと思わない	11	3.3
	未回答・不明	26	7.8
	合計	333	100.0

【調査結果概要】

＜千葉工業大学に関する質問事項＞

5. 情報変革科学部の高度応用情報科学科で学んだ卒業生の採用人数

問4で、情報変革科学部の高度応用情報科学科で学んだ卒業生を「採用したいと思う」と回答した民間企業等のうち、単年度当りの卒業生の採用人数を「1人」と回答したのは73件、「2人」と回答したのは31件、「3人以上」と回答したのは22件、「人数は未定」と回答したのは170件となっている。

なお、「採用人数3人以上」と回答した採用人数を「3人」とし、「人数は未定」と回答した採用人数を「1人」として採用人数を合計すると371人となり、これらの採用人数からも千葉工業大学の情報変革科学部の高度応用情報科学科で学んだ卒業生に対する採用意向の高さをうかがうことができる。

このような千葉工業大学への求人実績や卒業生の採用実績がある一部の民間企業等に限定した調査結果においても、千葉工業大学の情報変革科学部の高度応用情報科学科で学んだ卒業生への採用意向の高さがうかがえることから、卒業後の進路については十分な見通しがあると考えられる。

問5 情報変革科学部の高度応用情報科学科で学んだ卒業生の採用人数

No.	カテゴリ	件数／件	全体／％
1	1人	73	24.7
2	2人	31	10.5
3	3人以上	22	7.4
4	人数は未定	170	57.4
	未回答・不明	0	0.0
	合計	296	100.0

問4×問5 卒業生の採用×卒業生の採用人数

No.	カテゴリ	件数／件	全体／人
1	採用したいと思う×採用人数1人	73	73
2	採用したいと思う×採用人数2人	31	62
3	採用したいと思う×採用人数3人以上	22	66
4	採用したいと思う×採用人数数は未定	170	170
	合計	296	371

Ⅲ. 参 考 資 料

進学需要調査関係

千葉工業大学 情報変革科学部（仮称）及び未来変革科学部（仮称）
進学需要等に関するアンケート調査（高校生／１・２年生）

千葉工業大学では、既設の情報科学部と社会システム科学部を発展的に改組し、情報工学科（仮称）・認知情報科学科（仮称）・高度応用情報科学科（仮称）の３学科から編成される情報変革科学部（仮称）とデジタル変革科学科（仮称）と経営デザイン科学科（仮称）の２学科から編成される未来変革科学部（仮称）の設置を検討しております。

このアンケート調査は、高校生の皆さんに、高等学校卒業後の進路等についてお聞きし、「情報変革科学部（仮称）及び未来変革科学部（仮称）」の設置に向けての基礎資料とするものですので、ご協力くださいますようお願いいたします。なお、このアンケートの結果は、統計資料としてのみ用い、個別の回答内容について公開したりすることはありません。

回答は、別紙の『学部学科紹介パンフレット』をご覧くださいの上で、設問の順に、該当する番号を直接回答欄にご記入ください。

【回答欄】

ご回答にあたり、あなたの学年を次の中から、一つだけ選んで、回答欄に番号を記入してください。

- 1 １年生
- 2 ２年生

問１ あなたは、高校卒業後、どのような進路をお考えですか。

次の中から、一つだけ選んで、回答欄に番号を記入してください。

1 大学進学（４年制・６年制）	4 就職
2 短期大学進学	5 その他（具体的に
3 専門学校進学	)

問２ あなたが、高校卒業後に進学をする場合、どの分野を希望されますか。

次の中から、第２希望まで選んで、回答欄に番号を記入してください。

第１希望

1 工学・理学・情報学関係	8 国際学関係
2 文学・史学・哲学関係	9 家政学・生活科学関係
3 教育学・保育学関係	10 美術学・音楽学関係
4 法学・政治学関係	11 体育学・スポーツ学関係
5 社会学・福祉学関係	12 医療技術学関係
6 経済学・経営学関係	13 看護学関係
7 医学・歯学・薬学関係	14 その他（具体的に

第２希望

問３ あなたは、千葉工業大学が設置する情報変革科学部又は未来変革科学部に興味・関心がありますか。次の中から、一つだけ選んで、回答欄に番号を記入してください。

- 1 情報変革科学部に興味・関心がある
- 2 未来変革科学部に興味・関心がある
- 3 興味・関心がない

問４ あなたは、千葉工業大学が情報変革科学部又は未来変革科学部を設置した場合、受験（学校推薦型選抜・総合型選抜・一般選抜・共通テスト等を含む）を希望しますか。

次の中から、一つだけ選んで、回答欄に番号を記入してください。

1 情報工学科の受験を希望する	4 デジタル変革科学科の受験を希望する
2 認知情報科学科の受験を希望する	5 経営デザイン科学科の受験を希望する
3 高度応用情報科学科の受験を希望する	6 受験を希望しない

問５ あなたは、千葉工業大学の情報変革科学部又は未来変革科学部に合格した場合、入学を希望しますか。次の中から、一つだけ選んで、回答欄に番号を記入してください。

1 情報工学科への入学を希望する	4 デジタル変革科学科への入学を希望する
2 認知情報科学科への入学を希望する	5 経営デザイン科学科の入学を希望する
3 高度応用情報科学科への入学を希望する	6 入学を希望しない

これで、アンケートは終わりです。

ご協力をいただきまして、ありがとうございました。

進学需要調査 対象校：166校

NO	高校名
1	北海高等学校
2	帯広北高等学校
3	青森工業高等学校
4	弘前工業高等学校
5	宮城野高等学校
6	仙台育英学園高等学校
7	尚絅学院高等学校
8	山形工業高等学校
9	酒田光陵高等学校
10	磐城高等学校
11	平工業高等学校
12	郡山高等学校
13	いわき光洋高等学校
14	麻生高等学校
15	土浦第三高等学校
16	取手第一高等学校
17	藤代高等学校
18	下館第一高等学校
19	下妻第一高等学校
20	水戸桜ノ牧高等学校
21	取手松陽高等学校
22	伊奈高等学校
23	明秀学園日立高等学校
24	茨城高等学校
25	霞ヶ浦高等学校
26	東洋大学附属牛久高等学校
27	常総学院高等学校
28	水戸葵陵高等学校
29	宇都宮南高等学校
30	真岡高等学校
31	茂木高等学校
32	宇都宮北高等学校
33	國學院大學栃木高等学校
34	前橋工業高等学校
35	館林高等学校
36	伊勢崎高等学校
37	四ツ葉学園中等教育学校
38	東京農業大学第二高等学校
39	川口高等学校
40	草加高等学校
41	大宮工業高等学校
42	春日部工業高等学校
43	越谷南高等学校
44	春日部東高等学校
45	草加東高等学校
46	三郷北高等学校
47	越谷総合技術高等学校
48	叡明高等学校
49	浦和学院高等学校
50	昌平高等学校

NO	高校名
51	獨協埼玉高等学校
52	春日部共栄高等学校
53	花咲徳栄高等学校
54	栄北高等学校
55	千葉女子高等学校
56	千葉商業高等学校
57	千葉工業高等学校
58	千葉南高等学校
59	検見川高等学校
60	千葉北高等学校
61	若松高等学校
62	八千代高等学校
63	薬園台高等学校
64	船橋啓明高等学校
65	鎌ヶ谷高等学校
66	市川工業高等学校
67	国府台高等学校
68	小金高等学校
69	松戸南高等学校
70	柏（県立）高等学校
71	柏南高等学校
72	印旛明誠高等学校
73	佐倉高等学校
74	銚子（県立）高等学校
75	東総工業高等学校
76	匝瑳高等学校
77	成東高等学校
78	東金高等学校
79	長生高等学校
80	茂原高等学校
81	茂原樟陽高等学校
82	大多喜高等学校
83	安房高等学校
84	君津高等学校
85	袖ヶ浦高等学校
86	習志野高等学校
87	銚子（市立）高等学校
88	磯辺高等学校
89	柏（市立）高等学校
90	佐倉西高等学校
91	千城台高等学校
92	津田沼高等学校
93	野田中央高等学校
94	柏陵高等学校
95	船橋芝山高等学校
96	松戸六実高等学校
97	八千代東高等学校
98	鎌ヶ谷西高等学校
99	成田北高等学校
100	柏井高等学校

NO	高校名
101	市川南高等学校
102	土気高等学校
103	実籾高等学校
104	市原八幡高等学校
105	千葉西高等学校
106	犢橋高等学校
107	富里高等学校
108	敬愛大学八日市場高等学校
109	昭和学院高等学校
110	千葉敬愛高等学校
111	千葉経済大学附属高等学校
112	茂原北陵高等学校
113	千葉英和高等学校
114	千葉商科大学付属高等学校
115	敬愛学園高等学校
116	日本体育大学柏高等学校
117	中央学院高等学校
118	拓殖大学紅陵高等学校
119	八千代松陰高等学校
120	東京学館高等学校
121	東京学館浦安高等学校
122	志学館高等部高等学校
123	市原中央高等学校
124	光英 V E R I T A S 高等学校
125	西武台千葉高等学校
126	東京学館船橋高等学校
127	翔凜高等学校
128	木更津総合高等学校
129	東京工業大学附属科学技術高等学校
130	足立西高等学校
131	江戸川高等学校
132	葛飾野高等学校
133	蔵前工業高等学校
134	工芸高等学校
135	一橋高等学校
136	深川高等学校
137	篠崎高等学校
138	科学技術高等学校
139	神田女学園高等学校
140	東洋高等学校
141	二松學舎大学附属高等学校
142	高輪高等学校
143	國學院高等学校
144	京華高等学校
145	駒込高等学校
146	昭和第一高等学校
147	上野学園高等学校
148	順天高等学校
149	聖学院高等学校
150	成立学園高等学校

NO	高校名
151	安田学園高等学校
152	足立学園高等学校
153	共栄学園高等学校
154	関東第一高等学校
155	東京実業高等学校
156	文化学園大学杉並高等学校
157	長岡高等学校
158	三条高等学校
159	甲府工業高等学校
160	長野工業高等学校
161	松本工業高等学校
162	東京都市大学塩尻高等学校
163	科学技術高等学校
164	加藤学園高等学校
165	星陵高等学校
166	静岡北高等学校

2024年4月、未来の世界を情報でリードする

学部が
2誕生

情報変革科学部

☑ 情報工学科 ☑ 認知情報科学科 ☑ 高度応用情報科学科

未来変革科学部

☑ デジタル変革科学科 ☑ 経営デザイン科学科

※設置構想中のため、内容が変更になる場合があります

千葉工業大学
CHIBA INSTITUTE OF TECHNOLOGY

〒275-0016 千葉県習志野市津田沼 2-17-1 TEL:047-478-0222 (入試広報部)
<https://www.it-chiba.ac.jp>



千葉工業大学
公式Webサイト

工学部	創造工学部	先進工学部	情報変革科学部*
機械工学科 機械電子創成工学科 先端材料工学科 電気電子工学科 情報通信システム工学科 応用化学科	建築学科 都市環境工学科 都市デザイン学科 デザイン科学科 都市メディア工学科	未来ロボティクス学科 生命科学科 知能メディア工学科	デジタル変革科学科 経営デザイン科学科

*設置構想中のため、内容が変更になる場合があります



千葉工業大学
CHIBA INSTITUTE OF TECHNOLOGY

Q

そもそも、ICTって何？

A

ICTは「Information and Communication Technology」の略称で、「情報通信技術」と訳されています。情報と通信の二つの単語が並べられているのは、情報技術と通信技術が相互に密接に関連して発展してきたことを表しています。現代の多くのデジタル機器は情報技術（いわゆるIT技術）の発展によって高度な機能を実現してきました。そこにインターネットのようなコミュニケーション技術（いわゆるC技術）の発展によって、SNSやネット通販、情報家電などの新しいサービスが次々に生まれています。このように情報技術と通信技術が加わることで、SNSやネット通販、情報家電などの新しいサービスが次々に生まれています。このように情報技術と通信技術が加わることで、SNSやネット通販、情報家電などの新しいサービスが次々に生まれています。新しい社会を創造することが可能となると考えられます。

インフォメーション・アンド・コミュニケーション・テクノロジー

ICT



スマホを操作して友達に連絡をしたり何か調べたり、ICT機器の利用はすでに日常生活に浸透しています。でも、ICTが本来の力を発揮するのはこれから。社会はその可能性を拓く、若い力を待っています。

“ICT”の将来と未知の可能性を開く

Q

ICTが重要な理由は？

A

新型コロナウイルスの感染拡大予防のため、学校では遠隔授業が、職場ではリモートワークが広まりました。緊急策だったそれらは、オンラインならではの機能が使われ始め、学校も職場も対面と併用するようになりまし。授業も会議もコミュニケーション。そのあり方に焦点を当てた研究や技術開発は、つながることの利便性や快適性、安全性や信頼性の追求に力が注がれ、伝統的な授業や仕事の仕方を短時間で変えたように、社会の仕組みや世の中の動き方に影響を与えています。ICTによるバーチャル空間は、リアルな世界と接し境界を消し去ろうとしています。ICTはまだ若い研究分野。限界はまだ誰も知らず、新たな担い手の登場を心待ちにしています。

ICTの活用方法は？

身近な活用事例から探ろう

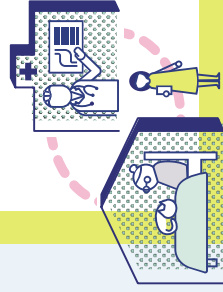
CASE 01

学校教育で、タブレットやパソコンを使った授業が広まっています。児童・生徒が授業中にインターネットにアクセスし、物語の舞台となった場所や史跡、地理で学んだ地形を調べたり、英語のネイティブ発音を学んだり。出席できなかった授業を後から受けられる体制作りも可能。ICT化は教育格差を減らすことも期待されています。



CASE 02

医療や介護の施設がない地域で、適切な診療や見守りを受けられる体制作りにもICTが不可欠。救急車から送信された患者の脈拍や血圧のデータ、映像などの情報で容体を判断した医師が救命措置を指示し受け入れ体制を整えたり、ベテラン医師が遠隔でロボットを操作して難易度の高い手術をしたり、といったことも期待されています。



2024年4月誕生

情報変革科学部

※設置構想中のため、内容が変更になる場合があります

最先端のサイバー×フィジカル社会を支える、情報工学の基盤技術や応用技術について、ハードウェアとソフトウェアの両面からアプローチし、変化の激しい世界でのICT（情報通信技術）を設計・開発できる人材を育成します。

情報工学

↓ KEYWORDS

- フィジカルコンピューティング
- メディア処理 ● ソフトウェア工学
- クラウドコンピューティング
- データ通信 ● 機械学習
- データサイエンス
- 人工知能

ハードとソフトの両面に精通した情報科学の総合力を養成

最先端のサイバー×フィジカル社会の基盤を支える様々な情報通信技術に関心をもち、ハードウェアとそれを駆動制御するソフトウェアを含んだシステムをバランスよく学び、人間とコンピュータを結びつけるシステムや手法（フィジカルコンピューティング）、メディア処理、ソフトウェア工学について総合的に学習します。

卒業後の進路

- ITエンジニア ■ システムエンジニア ■ 情報通信業 ■ クラウドサービス企業
- ITコンサルタント ■ 電気・情報通信系メーカー など

認知情報科学

↓ KEYWORDS

- AI・機械学習 ● 認知科学・心理学
- UI/UX ● 教育工学
- メディア情報処理 ● Webエンジニアリング
- ソフトウェア開発 ● プログラミング など

人が使いやすいICTを実現させるものづくりやサービス開発の能力を高める

デジタル技術を通じてヒト・モノ・サービスが有機的に結び付いたサイバー×フィジカル社会の実現に向けて、情報科学と認知科学の両面からコンピュータと人間のしくみや関わりについて体系的に学習します。

卒業後の進路

- システムエンジニア ■ プロジェクトマネージャ ■ データサイエンティスト
- Webエンジニア ■ AIエンジニア ■ UI/UXデザイナー など

高度応用情報科学

↓ KEYWORDS

- IoT ● AI ● データサイエンス
- クラウドコンピューティング
- 情報ネットワーク
- サイバーセキュリティ

情報科学の可能性を開き次世代のICTを創造・実現する

現実世界と仮想世界を縦横無尽に行き来し、我々の生活を抜本的に変えてしまうような、サイバー×フィジカル社会の創造を目指して、最先端のICT（情報通信技術）を幅広く学習します。

卒業後の進路

- システムエンジニア ■ 情報通信業 ■ 移動通信業
- サイバーセキュリティ関連企業 など

Q そもそも、DXって何？

A DXとは「Digital Transformation」の略称で、デジタルにより社会を根本的に変えることを意味します。身近な例では、本や紙資料をデジタル化しただけでは、DXと呼べません。これは「デジタルイノベーション」というDXまでの第1段階。また会議をオンライン化するなど業務のデジタル化はDXの第2段階である「デジタルイノベーション」とされます。なぜなら、ここまでは昔からある紙や会議をデジタル化しただけ。DXはその先を想定します。その先とは、デジタルにより今はないビジネスモデルや生活スタイルを創出し、ビジネスであればそのことで競争上の優位に立つこと。それこそが本来の意味で「DX=デジタルトランスフォーメーション」といえるのです。

デジタルトランスフォーメーション



近年よく目にするようになった単語にDXがあります。ビジネス界を中心に一気に注目度を上げました。企業の経営や産業の構造を変えさせるDX。社会の変革をデジタルで導く人材が求められています。

DX” 実現を加速するエンジンに

Q DXが注目される理由は？

A DXはビジネスモデルを根本的に変革します。そのため産業界で注目され、特に経営層からの期待を集めています。また経済産業省を中心に、国もDX推進のため様々な調査を実施し施策を打ち出しています。つまり日本は、国を挙げてDXに取り組みんでいるといえます。しかし政府が掲げる企業が期待を寄せても、DXの実現は容易ではありません。最大の理由は人材不足。「変革」には、全く新しい知と力が求められるのです。社会変革の先行きを見る洞察力、見いだした将来に向けて組織と仕事を動かす経営力、そして戦略的思考によりビジネスを分析し、デジタル技術が最大効果を上げるよう活用する実践力などを兼ね備えた若い人材が必要としています。

Q DXでどう変わる？ ビジネスから暮らしやすい社会まで

CASE 01
会議用の資料は各自のタブレットやスマホで閲覧。スタッフのスケジュールはデジタルデータ化して一括管理する。リモート会議やチャットで、どこにいなくても会議ができる設備・環境を整えておけば、想定外の災害時も、従業員の安全・安心を守りながら、在宅やリモートの活用で事業の継続が可能でず。広いオフィスの必要はなくなり、社員の働き方もアップするなど、DXによるビジネスの加速は飛躍的に向上そうです。

CASE 02
デジタル化により、製造ラインや人手不足が深刻な農業など様々な業務を無人化・自動化できます。また、AIによる機械学習で膨大なデータを解析することで、顧客ニーズの把握や将来の予測ができるようになります。DXの推進は単にデジタルの導入をするだけではありません。ビジネスモデルそのものを変革し、新しいプロダクトを開発することが目的です。

2024年4月誕生

未来変革科学部

※設置構想中のため、内容が変更になる場合があります

複雑な数理的思考やデータサイエンスのスキルが求められる、経営工学や社会デザインの分野において、いまや不可欠となった情報処理のテクノロジーを有機的に活用し、DX化の推進など実践力と即戦力を持った人材を育成します。

デジタル変革科学科

↓ KEYWORDS
● デジタル技術 ● DX ● AI
● 数理的思考 ● データサイエンス
● グローバル社会
● コミュニケーション
など

**デジタルデータを最大活用し
革新的なビジネスを創造する力を養成**
見たこともない未来の物語を現実化し、従来の枠にとられない柔軟な思考力・応用力を発揮し、新たな時代の社会変革をリードするために、最先端のデジタル技術やマネジメント技法を学びます。

卒業後の進路
■ 製造業 ■ 流通業 ■ 医療・健康関連企業
■ 交通業 ■ インフラ関連業 ■ 行政 など

経営デザイン科学科

↓ KEYWORDS
● 経営工学・社会課題解決
● デジタル/グリーン
● データサイエンスの活用
● イノベーション ● システム思考
● 経営管理 ● 生産管理
など

**サイバーと現実世界が繋がる時代に
経済価値と社会価値を両立させる経営を考える**
ICT（情報通信技術）とビジネスの視点を身に付け、現実世界と仮想世界の様々なデータを相互連携し（CPS）、魅力的なビジネス・価値を創造するための高度なデザイン&マネジメント手法を学びます。

卒業後の進路
■ 製造業 ■ 流通業 ■ 医療・健康関連企業
■ 交通業 ■ インフラ関連業 ■ 行政 など



新学部の概要

新学部・学科名称

情報変革科学部

- ・情報工学科
- ・認知情報科学科
- ・高度応用情報科学科

未来変革科学部

- ・デジタル変革科学科
- ・経営デザイン科学科

学位名称

情報変革科学部
□学士(工学)

未来変革科学部
□学士(工学)

入学定員

情報変革科学部 入学定員 360人

情報工学科 120人／認知情報科学科 120人／高度応用情報科学科 120人

未来変革科学部 入学定員 200人

デジタル変革科学科 100人／経営デザイン科学科 100人

設置の理念・養成する人物像

情報科学、社会システム科学にまつわる技術の進歩や環境の変化が激しさを増すなか、建学の精神である「世界文化に技術で貢献する」を実践するため、2021年11月に設置した変革センターと連携した教育を展開します。ここでは情報通信分野を中心とした新しい領域において社会的責任感と倫理観を備え、解の定まらない課題に他者と協働して取り組み解決法を導く設計・開発・技術者を養成します。

学生納付金

納入年度	1年目		2年目		3年目		4年目	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
入学金	250,000							
授業料	695,000	695,000	720,000	720,000	745,000	745,000	770,000	770,000
PPA会費	15,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000
同窓会費等分納金	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000
学生共済会費	3,250	1,250	1,250	1,250	1,250	1,250	1,250	1,250
合計	968,250	706,250	731,250	731,250	756,250	756,250	781,250	781,250
年額	1,674,500		1,462,500		1,512,500		1,562,500	

(単位：円)

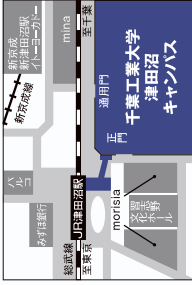
※設置構想中のため、内容が変更になる場合があります

設置場所・アクセス

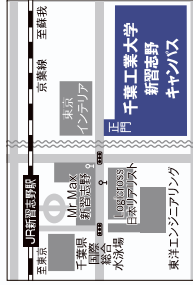
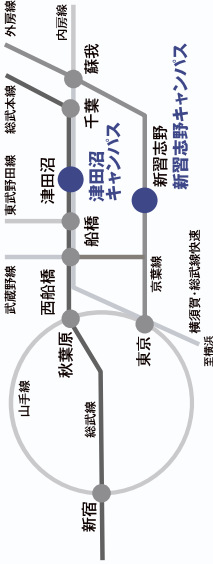
1・2年生 新習志野キャンパス
千葉県習志野市芝園2-1-1



3・4年生 津田沼キャンパス
千葉県習志野市津田沼2-17-1



- JR総武線津田沼駅(南口) [東京駅から28分]
- 新京成線新津田沼駅から徒歩3分
- 京成線京成津田沼駅から徒歩10分



- JR京葉線新習志野駅南口から徒歩6分 [東京駅から31分]
- JR総武線津田沼駅南口バスターミナルから京成バス 新習志野駅行 (約15分) で「千葉工業大学入口」下車徒歩3分

※各大学Webサイト2022・2023年度入学生実績より抜粋

同じような学問分野を有する大学・学部学科等

情報変革科学部	初年度納入金	
	工学部	理学部
工学院大学	1,681,160円 (入学金250,000円、授業料その他諸費用1,431,160円)	
情報学部 情報科学科・情報通信工学科		
芝浦工業大学	1,794,880円 (入学金280,000円、授業料その他諸費用1,514,880円)	
工学部 情報工学科・情報通信工学科		
東京電機大学	1,671,160円 (入学金250,000円、授業料その他諸費用1,421,160円)	
未来科学部 情報メディア学科/工学部 情報通信工学科		
東京都市大学	1,736,000円 (入学金200,000円、授業料その他諸費用1,536,000円)	
情報工学科 知能情報工学科		
日本大学	1,770,000円 (入学金260,000円、授業料その他諸費用1,510,000円)	
理工学部 応用情報工学科		
未来変革科学部	初年度納入金	
中央大学	1,838,000円 (入学金240,000円、授業料その他諸費用1,598,000円)	
理工学部 ビジネスデータサイエンス学科		
東京電機大学	1,671,160円 (入学金250,000円、授業料その他諸費用1,421,160円)	
未来科学部 情報メディア学科		
東京理科大学	1,660,000円 (入学金300,000円、授業料その他諸費用1,360,000円)	
創域理工学部 経営システム工学科		
日本大学	1,700,000円 (入学金260,000円、授業料その他諸費用1,440,000円)	
生産工学部 マネジメント工学科		
法政大学	1,824,000円 (入学金240,000円、授業料その他諸費用1,584,000円)	
理工学部 経営システム工学科		

人材需要調査関係

千葉工業大学情報変革科学部 情報工学科（仮称）人材需要等に関するアンケート調査

 takashi.nakai@p.chibakoudai.jp （共有なし）
[アカウントを切り替える](#)



*必須

問1 貴社の所在地について、お尋ねいたします。次の中から、一つだけ選んで、回答欄にチェックしてください。 *

- ☐ 千葉県
- ☐ 東京都
- ☐ 神奈川県
- ☐ その他: _____

問2 今後の貴社における人材の採用見込について、お尋ねいたします。次の中から、一つだけ選んで、回答欄にチェックしてください。 *

- ☐ 増加と思う
- ☐ 増加と思わない

問3 千葉工業大学の情報変革科学部で養成する人材について、どのようにお考えになりますか。次の中から、一つだけ選んで、回答欄にチェックしてください。 *

- ☐ 必要性を感じる
- ☐ 必要性を感じない

問4 千葉工業大学情報変革科学部 情報工学科についてお伺いします。

千葉工業大学の情報変革科学部 情報工学科で学んだ卒業生の採用について、ど^{*}のようにお考えになりますか。次の中から、一つだけ選んで、回答欄にチェックしてください。

- ☐ 採用したいと思う
- ☐ 採用したいと思わない

問5 千葉工業大学の情報変革科学部 情報工学科で学んだ卒業生を採用する場合の単年度当りの採用人数の見込みについて、どのようにお考えになりますか。次の中から、一つだけ選んで、回答欄にチェックしてください。

^{*}

- ☐ 1人
- ☐ 2人
- ☐ 3人以上
- ☐ 人数は未定

戻る

送信

フォームをクリア

千葉工業大学情報変革科学部 認知情報科学科（仮称）人材需要等に関するアンケート調査



takashi.nakai@p.chibakoudai.jp（共有なし）

[アカウントを切り替える](#)



*必須

問1 貴社の所在地について、お尋ねいたします。次の中から、一つだけ選んで、回答欄にチェックしてください。 *

- ☐ 千葉県
- ☐ 東京都
- ☐ 神奈川県
- ☐ その他: _____

問2 今後の貴社における人材の採用見込について、お尋ねいたします。次の中から、一つだけ選んで、回答欄にチェックしてください。 *

- ☐ 増加すると思う
- ☐ 増加すると思わない

問3 千葉工業大学の情報変革科学部で養成する人材について、どのようにお考えになりますか。次の中から、一つだけ選んで、回答欄にチェックしてください。 *

- ☐ 必要性を感じる
- ☐ 必要性を感じない

問4 千葉工業大学情報変革科学部 認知情報科学科についてお伺いします。

千葉工業大学の情報変革科学部 認知情報科学科で学んだ卒業生の採用について、どのようにお考えになりますか。次の中から、一つだけ選んで、回答欄にチェックしてください。 *

- ☐ 採用したいと思う
- ☐ 採用したいと思わない

問5 千葉工業大学の情報変革科学部 認知情報科学科で学んだ卒業生を採用する場合の単年度当りの採用人数の見込みについて、どのようにお考えになりますか。次の中から、一つだけ選んで、回答欄にチェックしてください。

*

- ☐ 1人
- ☐ 2人
- ☐ 3人以上
- ☐ 人数は未定

戻る

送信

フォームをクリア

千葉工業大学情報変革科学部 高度応用 情報科学科（仮称）人材需要等に関する アンケート調査

 takashi.nakai@p.chibakoudai.jp （共有なし）
[アカウントを切り替える](#)



*必須

問1 貴社の所在地について、お尋ねいたします。次の中から、一つだけ選んで、回答欄にチェックしてください。 *

- ☐ 千葉県
- ☐ 東京都
- ☐ 神奈川県
- ☐ その他: _____

問2 今後の貴社における人材の採用見込について、お尋ねいたします。次の中から、一つだけ選んで、回答欄にチェックしてください。 *

- ☐ 増加すると思う
- ☐ 増加すると思わない

問3 千葉工業大学の情報変革科学部で養成する人材について、どのようにお考えになりますか。次の中から、一つだけ選んで、回答欄にチェックしてください。 *

- ☐ 必要性を感じる
- ☐ 必要性を感じない

問4 千葉工業大学情報変革科学部 高度応用情報科学科についてお伺いします。

千葉工業大学の情報変革科学部 高度応用情報科学科で学んだ卒業生の採用に ★ ついて、どのようにお考えになりますか。次の中から、一つだけ選んで、回答欄にチェックしてください。

- ☐ 採用したいと思う
- ☐ 採用したいと思わない

問5 千葉工業大学の情報変革科学部 高度応用情報科学科で学んだ卒業生を採用する場合の単年度当りの採用人数の見込みについて、どのようにお考えになりますか。次の中から、一つだけ選んで、回答欄にチェックしてください。

★

- ☐ 1人
- ☐ 2人
- ☐ 3人以上
- ☐ 人数は未定

戻る

送信

フォームをクリア

情報工学科 送付企業数912社

NO	企業名
1	株式会社アイシス
2	株式会社ジーピーオンライン
3	日本クリエイティブシステム株式会社
4	株式会社フューレックス
5	株式会社スタイルズ
6	株式会社ソフネット
7	株式会社コンピュータマインド社
8	ユーザックシステム株式会社 東京本社
9	株式会社アライズ
10	株式会社トレードワークス
11	株式会社トップゲート
12	株式会社日本テクニクス
13	輸出入・港湾関連情報処理センター株式会社
14	株式会社日本キャスト
15	株式会社フォー・ジェイ
16	月電ソフトウェア株式会社
17	レイシスソフトウエアーサービス株式会社
18	ジェット・テクノロジーズ株式会社
19	北港情報サービス株式会社 東京支店
20	I Tカンファー株式会社
21	株式会社B S C
22	株式会社オートメイション・テクノロジー
23	株式会社アルコン
24	株式会社クリーブ
25	株式会社U K n e t
26	株式会社アクセル・モード
27	株式会社システックス
28	株式会社ヒューマンシステム
29	株式会社I T A G E
30	アネックス・インフォメーション株式会社
31	株式会社シエルシステム
32	株式会社エヌ・エイ・シー
33	株式会社日本テクニクス 東京事業所
34	株式会社テクノアスカ
35	株式会社A T G S
36	株式会社パイオニア・ソフト
37	東和ハイシステム株式会社
38	株式会社サン・プランニング・システムズ
39	日本コムシンク株式会社
40	フルタニ産業株式会社
41	株式会社ベルチャイルド 東京オフィス
42	ディーコム株式会社
43	株式会社セントラルシステムズ
44	株式会社ラフトレイド・エンジニアリング
45	株式会社関西東通
46	エヌアイシー・ソフト株式会社
47	東洋システム株式会社
48	N X 情報システム株式会社
49	株式会社トマト
50	株式会社インターフェイス

NO	企業名
51	N E C フィールディングシステムテクノロジー株式会社
52	株式会社オーネスト
53	株式会社ネオシステム
54	株式会社ビット・エイ
55	蓼科情報株式会社
56	ケーアイディー株式会社
57	エム・デー・ビー株式会社 静岡センター
58	株式会社リサーチアンドソリューション
59	株式会社豆蔵
60	カスタマシステム株式会社
61	株式会社大和コンピューター
62	株式会社アクティブ・ワーク
63	株式会社第一学習社
64	グロースエクスパートナーズ株式会社
65	株式会社F I X E R
66	日本システム・エイト株式会社
67	株式会社アビット
68	株式会社ジェイ・エス・エス
69	株式会社ジャノメクレディア
70	日本電営株式会社
71	株式会社クロステック
72	株式会社Y C C 情報システム
73	株式会社ハイ・アベイラビリティ・システムズ
74	株式会社クレスコ・デジタルテクノロジーズ
75	株式会社数理計画
76	株式会社高知新聞社
77	トリオシステムブランド株式会社（トリオグループ）
78	株式会社S B S 情報システム
79	テックファーム株式会社
80	N H N P l a y A r t 株式会社
81	株式会社ソフトウェアサービス
82	サイバートラスト株式会社
83	株式会社アクト
84	株式会社ビジュアルリサーチ
85	株式会社スカイテック
86	応用技術株式会社
87	株式会社ジャパンコンピューターサービス
88	日本情報クリエイト株式会社
89	共同コンピュータ株式会社
90	エヌエスイー株式会社
91	株式会社岩手日報社
92	コムコ株式会社
93	日野コンピューターシステム株式会社
94	関西ビジネスインフォメーション株式会社
95	株式会社ユニスティ
96	株式会社ファーストスクエア
97	株式会社日本ビジネスエンジニアリング
98	株式会社アプリコット
99	株式会社アイ・ティー・ワン
100	応研株式会社

NO	企業名
101	サン・エム・システム株式会社
102	福島コンピューターシステム株式会社
103	株式会社東京サウンド・プロダクション
104	株式会社ミエデンシステムソリューション
105	富士通クラウドテクノロジーズ株式会社
106	株式会社サーベイリサーチセンター
107	ブリヂストンソフトウェア株式会社
108	公益財団法人日本道路交通情報センター
109	株式会社テイクス
110	株式会社C I C
111	株式会社ビーイング
112	株式会社N E S I
113	リンク情報システム株式会社
114	株式会社建設システム
115	株式会社メディア二十世紀
116	株式会社ミウラ
117	株式会社 I D A J
118	システムズ・デザイン株式会社
119	株式会社エヌデーデー
120	株式会社アスプコミュニケーションズ
121	アイ・イー・シー株式会社
122	日本データスキル株式会社
123	日本システム開発株式会社
124	株式会社山陽新聞社
125	ケー・イー・エルテクニカルサービス株式会社
126	株式会社A i m i n g
127	静銀ビジネスクリエイト株式会社
128	株式会社トスコ
129	株式会社リンクレア
130	株式会社K Y O S O
131	株式会社コーワメックス
132	株式会社インフォテクノ朝日
133	株式会社エスワイシステム
134	株式会社インフォマート
135	株式会社プロトコーポレーション
136	株式会社デジタルハーツ
137	日本プロセス株式会社
138	データ・マネージメント株式会社
139	中央コンピューター株式会社
140	株式会社ツリーベル 那須事業所
141	株式会社ポンパドウル
142	A J S 株式会社
143	株式会社ソリトンシステムズ
144	日立物流ソフトウェア株式会社
145	T & D 情報システム株式会社
146	株式会社アイル
147	株式会社ニッセイコム
148	アビームシステムズ株式会社
149	日本情報通信株式会社
150	C L I N K S 株式会社

NO	企業名
151	富士フイルムヘルスケアシステムズ株式会社
152	M S & A D システムズ株式会社
153	株式会社エネルギー・コミュニケーションズ
154	コムテック株式会社
155	株式会社アクロホールディングス（アクログループ）
156	三菱電機ソフトウェア株式会社 三菱電機エレクトロニクスソフトウェア
157	S G システム株式会社
158	株式会社ソフトウェア・サービス
159	N T T テクノクロス株式会社
160	株式会社N T T データアイ
161	トッパン・フォームズ・オペレーション株式会社
162	株式会社オブテージ
163	株式会社セラク
164	伊藤忠テクノソリューションズ株式会社
165	S C S K 株式会社
166	株式会社西海建設
167	名三工業株式会社
168	株式会社久保工務店
169	東日本総合計画株式会社
170	オムニ技研株式会社
171	竹島鉄工建設株式会社
172	株式会社国建
173	日曹エンジニアリング株式会社
174	ニチアスエンジニアリングサービス株式会社
175	株式会社昭建
176	株式会社城口研究所
177	新菱工業株式会社
178	アスミオ 株式会社
179	関場建設株式会社
180	株式会社ウチダテクノ
181	株式会社三水コンサルタント
182	東西建築サービス株式会社
183	住電通信エンジニアリング株式会社
184	富士車輛株式会社
185	株式会社東洋設計
186	日鉄物産システム建築株式会社
187	株式会社東光クリエート
188	株式会社パーパスエコテック
189	河本工業株式会社
190	アンダーデザイン株式会社
191	株式会社佐藤秀
192	株式会社新日本コンサルタント
193	株式会社ミライト・モバイル・イースト
194	株式会社ケイ・イー・エス
195	黒沢建設株式会社
196	鈴中工業株式会社
197	清田軌道工業株式会社
198	東京舗装工業株式会社
199	株式会社東京設計事務所
200	ケイミューホームテック株式会社

NO	企業名
201	岬工業株式会社
202	株式会社建設環境研究所
203	埼玉建興株式会社
204	ロザイ工業株式会社
205	北川ヒューテック株式会社
206	株式会社中島工務店
207	株式会社綜企画設計
208	奈良建設株式会社
209	三菱電機冷熱プラント株式会社
210	株式会社大仙
211	川崎地質株式会社
212	株式会社チュウブ
213	株式会社シンデン
214	株式会社テイコク
215	三菱化工機アドバンス株式会社
216	J I P テクノサイエンス株式会社
217	株式会社中部
218	株式会社桑原組
219	積和トータルサポート株式会社
220	コーナン建設株式会社 東京支社
221	岳南建設株式会社
222	日本地工株式会社
223	河崎運輸機工株式会社
224	栃木セキスイハイム株式会社
225	リノべる株式会社
226	株式会社森組
227	株式会社タワーライン・ソリューション
228	株木建設株式会社
229	株式会社ヤマウラ
230	サンコーコンサルタント株式会社
231	日本ファシリオ株式会社
232	群馬セキスイハイム株式会社
233	内宮運輸機工株式会社
234	大有建設株式会社
235	三栄電気工業株式会社
236	昭和アステック株式会社
237	株式会社水機テクノス
238	株式会社宮本組 東京本社
239	株式会社加藤建設
240	株式会社二友組
241	ジェイアール東海建設株式会社
242	徳倉建設株式会社
243	日本基礎技術株式会社 首都圏支店
244	ケーアンドイー株式会社
245	東武建設株式会社
246	株式会社交通建設
247	株式会社土木管理総合試験所
248	株式会社安部日鋼工業
249	日本フィールド・エンジニアリング株式会社
250	J F E テクノス株式会社

NO	企業名
251	株式会社トッパンテクノ
252	新日本建設株式会社
253	株式会社村上ホールディングス
254	株式会社日本インシーク 東京本社
255	セキスイハイム東海株式会社
256	株式会社メガテック
257	株式会社佐藤渡辺
258	北野建設株式会社
259	株式会社三技協
260	株式会社池下設計 札幌支店
261	キャンディルグループ
262	株式会社ジャクエツ
263	株式会社弘電社
264	朝日エティック株式会社
265	ジャパンパイル株式会社
266	村本建設株式会社
267	松尾建設株式会社
268	株式会社カンドー
269	日本住宅株式会社
270	田辺工業株式会社
271	株式会社ソルコム
272	スターツC A M株式会社
273	奥村組土木興業株式会社
274	第一建設工業株式会社
275	日特建設株式会社
276	大日本土木株式会社
277	株式会社オリエンタルコンサルタンツ
278	菱電エレベータ施設株式会社
279	株式会社飯田産業
280	N D S 株式会社
281	住宅情報館株式会社
282	新生テクノス株式会社
283	栗原工業株式会社
284	株式会社スガテック
285	東日本電気エンジニアリング株式会社
286	太平電業株式会社
287	東亜道路工業株式会社
288	生和コーポレーション株式会社 西日本本社
289	株式会社NHKテクノロジーズ
290	株式会社安藤・間
291	東京ガスネットワーク株式会社
292	株式会社関電工
293	株式会社V i n o b l e V i n e y a r d
294	ゴッドはんだ株式会社
295	サンクトガーレン有限会社
296	三徳精機有限会社
297	デンカエレクトロン株式会社
298	T o r r e c i d . S . A .
299	株式会社サイキョー
300	株式会社静科

NO	企業名
301	株式会社佐藤工業所
302	株式会社新澤醸造店
303	ナノテック株式会社
304	株式会社蒲倉電機
305	株式会社イワタツール
306	西島メディカル株式会社
307	株式会社エム・ディ・コム
308	花井メディテック株式会社
309	トーフデンコウ株式会社
310	株式会社中央精研
311	株式会社クリエイティブ・システム
312	株式会社英技研
313	株式会社コスモグラフ
314	羽立工業株式会社
315	株式会社岐阜文芸社
316	株式会社名友産商
317	キソー工業株式会社
318	株式会社竹中銅器
319	アタム技研株式会社
320	新思考電機株式会社
321	ヘルツ株式会社
322	株式会社新栄
323	株式会社ヤマシタ
324	株式会社ちむら
325	株式会社ファースト
326	株式会社東京菱光コンクリート
327	株式会社エーケーダイカスト工業所
328	辻村電工株式会社
329	株式会社宮村鐵工所
330	伊達機械株式会社
331	協和製函株式会社
332	中部電機株式会社
333	株式会社アート 1
334	株式会社神奈川機関紙印刷所
335	株式会社名古屋化学工業所
336	株式会社アーティストリー
337	株式会社 J E I
338	株式会社由紀精密
339	株式会社オーセロ
340	株式会社昭和製作所
341	株式会社井口一世
342	シーク株式会社
343	浜松電子プレス株式会社
344	エヌビーシー株式会社
345	三陽化成株式会社
346	赤堀産業株式会社
347	株式会社昭和測器
348	株式会社ブローチ研削工業所
349	株式会社ケイエステック
350	株式会社東亜理化学研究所

NO	企業名
351	株式会社アールティ
352	東京阪村機械株式会社
353	株式会社東亜酒造
354	株式会社エステック
355	東洋鋼鐵株式会社
356	マテックス株式会社
357	梅田電機株式会社
358	有限会社佐藤木型製作所
359	株式会社テルナイト
360	三益工業株式会社 那須工場
361	カワボウ繊維株式会社
362	中村鉄工株式会社
363	株式会社イイダアックス
364	興和精工株式会社
365	引地精工株式会社
366	株式会社吉田印刷所 東京オフィス
367	日本精機工業株式会社
368	茨城電機工業株式会社
369	東京エスオーシー株式会社
370	株式会社プラポート
371	株式会社高洋商会
372	株式会社中央電機計器製作所
373	株式会社横浜工作所
374	株式会社エフケイ
375	株式会社三協リール
376	株式会社新高製作所
377	大塚オーミ陶業株式会社 信楽工場
378	大東印刷工業株式会社
379	株式会社東洋精工
380	三坂ライト工業株式会社
381	技研工機株式会社
382	株式会社東陽九州
383	アルファクス株式会社
384	ショウケンガリレイ株式会社
385	美和電気株式会社
386	株式会社東横エルメス
387	スミヤ精機株式会社
388	株式会社豊栄工業
389	株式会社アイホウテクノ
390	株式会社ヤマセ
391	株式会社親和製作所
392	小林機工株式会社
393	株式会社原田製作所
394	株式会社岩黒製作所
395	株式会社昭和バルブ製作所
396	マテック株式会社
397	第一線材鋼業株式会社
398	日本サーモニクス株式会社
399	オカダ工業株式会社
400	長崎ジャッキ株式会社

NO	企業名
401	株式会社K A Z U M
402	株式会社浅沼技研
403	後藤コンクリート工業株式会社
404	株式会社ティアーズ
405	株式会社ハヤカワフォーミング
406	株式会社山下工作所
407	有限会社石倉製麺所
408	株式会社しばた工芸
409	大星電機株式会社
410	テクダイヤ株式会社
411	ミリオン化学株式会社
412	株式会社湘南合成樹脂製作所
413	株式会社深川製作所
414	下西技研工業株式会社
415	富士工業株式会社
416	イハラ鋼業株式会社
417	株式会社サンミュロン 岩手工場
418	富士プリント工業株式会社
419	アイエム電子株式会社
420	S H O D A 株式会社
421	株式会社日本製衡所
422	佐々木製茶株式会社
423	株式会社プラコー
424	株式会社大橋製作所
425	株式会社中島
426	山二発條株式会社 岡谷工場
427	富士ホイスト工業株式会社
428	株式会社コマック
429	株式会社フジフレックス
430	株式会社打田製作所
431	大同プラント工業株式会社
432	M H I ハセック株式会社
433	後藤合金株式会社
434	千蔵工業株式会社
435	株式会社マイスター
436	カルトンアイ株式会社
437	株式会社ホクテツ
438	イズテック株式会社
439	秩父エレクトロン株式会社
440	株式会社ジョッキ
441	由利ロール機械株式会社
442	株式会社三幸社
443	株式会社山食
444	株式会社サカエ
445	B E M A C K i d e n 株式会社
446	ユニプラ株式会社
447	コンゴーテクノロジー株式会社
448	大同工機株式会社
449	富士共和製紙株式会社
450	株式会社アルメックステクノロジーズ

NO	企業名
451	メルスモン製薬株式会社
452	株式会社ジェッター
453	東光器材株式会社
454	株式会社稲築サイエンス
455	東海工業株式会社
456	株式会社福電 西脇工場
457	株式会社市金工業社
458	滲透工業株式会社
459	都城木材株式会社
460	七宝金型工業株式会社
461	京成自動車工業株式会社
462	株式会社松井色素化学工業所
463	株式会社アースダンボール
464	スターテクノ株式会社
465	株式会社トミーテック
466	株式会社村上製作所
467	株式会社オリエントマイクロウェーブ
468	東栄電化工業株式会社
469	山口精機株式会社
470	株式会社オプトラン
471	株式会社小西砕石工業所
472	株式会社ヒキフネ
473	ダイサン・株式会社
474	ムツミ工業株式会社
475	八千代特殊金属株式会社
476	H K T 株式会社
477	日本サン石油株式会社
478	株式会社アイ・エス・ジェイ
479	フジセイコー株式会社
480	キクロン株式会社
481	ちば醤油株式会社
482	エステートケミカル株式会社
483	大豊製紙株式会社
484	芳野Y Mマシナリー株式会社
485	日本エアフィルター株式会社
486	O M C 株式会社
487	ニホンハンダ株式会社
488	セントラル電子制御株式会社
489	神谷理研株式会社
490	柳河テクノフォージ株式会社
491	エブレン株式会社
492	日本精密測器株式会社
493	株式会社旭洋工業製作所
494	東都発条株式会社
495	株式会社大和三光製作所 福島工場
496	株式会社サンレック
497	株式会社富岡食品
498	株式会社都城酒造H D
499	三和ハイドロテック株式会社
500	大阪中央ダイカスト株式会社

N0	企業名
501	株式会社サカイエルコム
502	ランドワーク株式会社
503	パール工業株式会社
504	セントラルコンベヤー株式会社
505	日興電気通信株式会社
506	株式会社オチアイネクス
507	株式会社シバソク
508	東洋ドライループ株式会社
509	株式会社生駒化学工業 東海工場
510	株式会社工進
511	ヤマト発動機株式会社
512	長堀工業株式会社
513	永和化成工業株式会社
514	株式会社宮内
515	日東精密工業株式会社
516	株式会社金沢シール
517	株式会社多田スミス
518	大和スレート株式会社
519	ダイシン化工株式会社
520	光軽金属工業株式会社
521	株式会社桜井グラフィックシステムズ 岐阜工場
522	株式会社フェニックスエンジニアリング
523	株式会社カイノス
524	日本特殊合金株式会社
525	ヨコタ工業株式会社
526	株式会社太陽機械製作所
527	株式会社ウエノテクニカ
528	株式会社ホームズ技研
529	株式会社岡島パイプ製作所
530	株式会社田野井製作所
531	中田エンジニアリング株式会社
532	村瀬石灰工業株式会社
533	株式会社中島田鉄工所
534	株式会社レイマック
535	内田鍛工株式会社
536	株式会社ニクニ
537	ユアサ工機株式会社
538	神田印刷工業株式会社
539	株式会社竹中
540	森産業株式会社
541	株式会社ノチダ
542	テイサ産業株式会社
543	内堀醸造株式会社
544	日本ジー・ティー株式会社
545	株式会社日本メディックス
546	株式会社アサヒ
547	大王加工紙工業株式会社
548	株式会社丸信製作所
549	湖南精工株式会社
550	千代田興業株式会社

N0	企業名
551	日本製罐株式会社
552	第一電通株式会社
553	オリオン機械工業株式会社
554	株式会社アドヴァンス
555	株式会社三協デリカ
556	株式会社ダイチューテクノロジーズ
557	株式会社システムスクエア
558	池上金型工業株式会社
559	テック・ワーク株式会社
560	ワタナベフーマック株式会社
561	協和合金株式会社
562	垂木津工業株式会社
563	株式会社美濃吉食品
564	理研電線株式会社
565	ニコニコのり株式会社
566	株式会社渡部製鋼所
567	小松工業株式会社
568	株式会社デリカ
569	株式会社長尾製缶所
570	株式会社広岡鉄工
571	山下電気株式会社
572	株式会社日東コーン・アルム
573	日興電機工業株式会社
574	丸金印刷株式会社
575	株式会社東京カネカフード
576	アルナ輸送機用品株式会社
577	株式会社トヤマ
578	港北メディアサービス株式会社
579	株式会社日東電機製作所
580	和田山精機株式会社
581	株式会社石井鐵工所
582	株式会社ニイテック
583	国際計測器株式会社
584	株式会社大阪螺子製作所
585	昭和産業株式会社
586	大同塗料株式会社
587	株式会社ミキモト装身具
588	株式会社いうら
589	和光工業株式会社
590	ＯＡＴアグリオ株式会社
591	株式会社共立機械製作所
592	株式会社富士根産業
593	大和千葉製罐株式会社
594	山田機械工業株式会社
595	信和産業株式会社
596	広島伊丹電機株式会社
597	株式会社鳥取スター電機
598	ノーリツプレシジョン株式会社
599	ケイエス冷凍食品株式会社
600	三重重工業株式会社

NO	企業名
601	信英蓄電器箔株式会社
602	株式会社ＴＯＫＯ
603	株式会社エヌ・ピー・シー
604	株式会社森田鉄工所
605	株式会社ベルテックス
606	長野興農株式会社
607	大島農機株式会社
608	マルスン株式会社
609	株式会社ニチレイ・ロジスティクスエンジニアリング
610	株式会社サティス製薬
611	株式会社アドテック富士
612	井上商事株式会社
613	株式会社ハーモ
614	小野谷機工株式会社
615	ＤＮＰ田村プラスチック株式会社
616	株式会社タカギセイコー
617	ワイエイシイホールディングス株式会社
618	富士フィルター工業株式会社
619	株式会社デイ・シイ
620	田邊工業株式会社
621	岡谷電機産業株式会社
622	古川電気工業株式会社
623	株式会社明輝
624	ウシオライティング株式会社
625	金子農機株式会社
626	エムテック株式会社
627	中沢乳業株式会社
628	フジプレミアム株式会社
629	株式会社榮太樓總本舗
630	株式会社フジコー
631	摂津金属工業株式会社
632	株式会社岐阜セラツク製造所
633	超音波工業株式会社
634	栄四郎瓦株式会社
635	株式会社モデュレックス
636	東亜エレクトロニクス株式会社
637	新高知重工株式会社
638	株式会社ノーケン
639	ライトケミカル工業株式会社
640	株式会社山形共和電業
641	中川装身具工業株式会社
642	セイコーＮＰＣ株式会社
643	株式会社ヤマコ
644	株式会社ＴＩＳＭ
645	ＮＥＣエンベデッドプロダクツ株式会社
646	真田ＫＯＡ株式会社
647	新潟造船株式会社 三崎工場
648	丸大機工株式会社
649	株式会社ソーゴ
650	あづま食品株式会社

NO	企業名
651	株式会社浜名ワークス
652	株式会社日本香堂
653	株式会社野村鍍金
654	株式会社金陽社
655	クミ化成株式会社
656	サンワ株式会社
657	株式会社内山アドバンス
658	ＮＳＫ富山株式会社
659	太陽社電気株式会社
660	三琇グループ
661	株式会社キッツメタルワークス
662	菱電化成株式会社
663	株式会社モリタ東京製作所
664	ミクロン精密株式会社
665	野原電研株式会社
666	セザックス株式会社
667	株式会社日本電気化学工業所
668	株式会社メイキコウ
669	株式会社タイセー
670	株式会社メニコネクト
671	大生工業株式会社
672	三友工業株式会社
673	浜松光電株式会社
674	ローツェ株式会社
675	アトミクス株式会社
676	近藤工業株式会社
677	ローム浜松株式会社
678	関東化成工業株式会社
679	東山フィルム株式会社
680	株式会社ヴィ・ディー・エフ・サンロイヤル
681	榎本ビーエー株式会社
682	内藤電誠工業株式会社
683	株式会社サンセイアールアンドディ
684	株式会社アンレット
685	東光東芝メーターシステムズ株式会社
686	株式会社東北フジクラ
687	旭千代田工業株式会社
688	株式会社協栄製作所
689	ジオスター株式会社
690	株式会社カワタ
691	イデシギョー株式会社
692	東光鉄工株式会社
693	株式会社タツミ
694	シチズン・システムズ株式会社
695	日本ピーマック株式会社
696	神鋼造機株式会社
697	株式会社コイケ
698	株式会社金羊社
699	ネポン株式会社
700	アグロカネショウ株式会社

NO	企業名
701	エプソンアトミックス株式会社
702	株式会社小林製作所
703	日鉄精圧品株式会社
704	東北アンリツ株式会社
705	株式会社杉山製作所
706	株式会社朋栄
707	久野金属工業株式会社
708	共栄社化学株式会社
709	イビデンエンジニアリング株式会社
710	イワブチ株式会社
711	神戸天然物化学株式会社
712	株式会社コベルコマテリアル銅管
713	クノールブレムゼ商用車システムジャパン株式会社
714	株式会社コスメナチュラルズ
715	株式会社グルメデリカ
716	東海紙器株式会社
717	加藤化学株式会社
718	株式会社桃屋
719	株式会社大川原製作所
720	株式会社不二製作所
721	株式会社チェリオコーポレーション
722	東洋濾紙株式会社（ADVANTECグループ）
723	富双合成株式会社
724	明和グラビア株式会社
725	クボタ空調株式会社
726	ナガタコーギョウ株式会社
727	コダマ樹脂工業株式会社
728	株式会社平岩鉄工所
729	株式会社ツインバード
730	株式会社ニッカトー 東京管理本部
731	金剛株式会社
732	株式会社サンコー
733	三洋工業株式会社
734	株式会社小森マシナリー
735	株式会社東洋クオリティワン
736	野村ユニソン株式会社
737	株式会社J-MAX
738	インターナショナル・トイレットリース株式会社
739	松山株式会社
740	株式会社日昌製作所
741	電元社トーア株式会社
742	株式会社石井表記
743	ダイネン株式会社（ダイネングループ）
744	東邦車輛株式会社
745	株式会社ヒカリ
746	山陽色素株式会社
747	株式会社エンプラス
748	ヒガシマル醤油株式会社
749	株式会社シンダイ
750	株式会社田中食品興業所

NO	企業名
751	株式会社クボタケミックス
752	株式会社エヌビーシー
753	J O H N A N株式会社
754	昭和産業株式会社 鹿島工場
755	ホクショー株式会社
756	株式会社ヌカベ
757	株式会社多久製作所
758	シーレックス株式会社
759	沖電線株式会社
760	株式会社シキノハイテック 東京デザインセンター
761	三島食品株式会社
762	株式会社ふじや食品
763	富士岐工産株式会社
764	大陽ステンレススプリング株式会社
765	株式会社山本製作所
766	イーデーエム株式会社
767	ナスラック株式会社
768	神星工業株式会社
769	丸善製薬株式会社
770	盛田株式会社 大阪本部
771	天昇電気工業株式会社
772	岩崎通信機株式会社
773	マルウ接着株式会社
774	株式会社初田製作所
775	株式会社ホテイフーズコーポレーション
776	株式会社帆風
777	株式会社浜乙女
778	株式会社ホリゾン
779	株式会社深井製作所
780	静甲株式会社
781	ジオマテック株式会社
782	株式会社武部鉄工所
783	株式会社オハラ
784	株式会社A I H O
785	株式会社山本製作所
786	京浜精密工業株式会社
787	丸玉木材株式会社 舞鶴工場
788	川村義肢株式会社
789	株式会社栃木ニコンプレシジョン
790	株式会社シンテックホズミ
791	日本カーバイド工業株式会社
792	株式会社カナエ
793	株式会社メイコー
794	株式会社技研製作所
795	ファーストウッド株式会社
796	富士機械株式会社
797	朝日電装株式会社
798	コスモ工機株式会社
799	パナソニックライフソリューションズ電材三重株式会社
800	旭サナック株式会社

NO	企業名
801	萩原工業株式会社
802	アール・ビー・コントロールズ株式会社
803	株式会社精工
804	株式会社デンソーワイズテック
805	日栄インテック株式会社
806	株式会社クラレ 新潟事業所
807	泉工医科工業株式会社
808	株式会社マーレフィルターシステムズ
809	三生医薬株式会社
810	株式会社コバヤシ
811	ミヨシ油脂株式会社
812	富士フイルムサービスリンク株式会社
813	中本パックス株式会社
814	シミズ工業株式会社
815	株式会社パイオラックス
816	桃栄金属工業株式会社
817	美濃工業株式会社
818	東朋テクノロジー株式会社
819	日立交通テクノロジー株式会社
820	株式会社トピア
821	クミアイ化学工業株式会社
822	株式会社有沢製作所
823	ユタカ工業株式会社
824	株式会社イセトー
825	多摩川精機株式会社
826	オリオン機械株式会社
827	インフラテック株式会社
828	株式会社かわでん
829	アイコム株式会社
830	株式会社天辻鋼球製作所
831	ニチバン株式会社
832	プライフーズ株式会社 ゴーデックスカンパニー
833	株式会社東研サーモテック
834	第一屋製パン株式会社
835	長野計器株式会社
836	プライムデリカ株式会社
837	第一三共プロファーマ株式会社
838	エンシュウ株式会社
839	株式会社シード
840	シチズンマシナリー株式会社
841	シチズンファインデバイス株式会社
842	株式会社メイワパックス
843	不二サッシ株式会社
844	株式会社エフテック
845	八千代工業株式会社
846	株式会社ウェルファムフーズ
847	株式会社ミマキエンジニアリング
848	大同工業株式会社
849	シナノケンシ株式会社
850	ヤマザキビスケット株式会社

NO	企業名
851	富士ダイス株式会社
852	東レエンジニアリング株式会社
853	株式会社ＣＫサンエツ
854	小糸九州株式会社
855	株式会社東京精密
856	極東開発工業株式会社
857	東京貿易グループ
858	株式会社興和工業所
859	株式会社鶴見製作所
860	株式会社スギノマシン
861	日本トムソン株式会社
862	株式会社サタケ
863	株式会社ホンダロック
864	株式会社フジキン 総本社
865	東洋電装株式会社
866	日本プラスト株式会社
867	株式会社メイドー
868	コマツＮＴＣ株式会社
869	株式会社ジーテクト
870	昭和産業株式会社
871	グローバルウェーハズ・ジャパン株式会社
872	ヨネックス株式会社
873	株式会社湯山製作所
874	宝酒造株式会社 松戸工場
875	株式会社ヒロテック
876	大同メタル工業株式会社
877	株式会社トンボ
878	キッセイ薬品工業株式会社
879	河村電器産業株式会社
880	株式会社今仙電機製作所
881	株式会社イシダ
882	日本航空電子工業株式会社
883	大和製罐株式会社
884	プレス工業株式会社
885	浜名湖電装株式会社
886	株式会社イノアックコーポレーション
887	太平洋セメント株式会社 埼玉工場
888	日本精機株式会社
889	リスパック株式会社
890	東芝ライテック株式会社
891	ホーチキ株式会社
892	太平洋工業株式会社
893	株式会社パロマ
894	株式会社青山製作所
895	アイシン高丘株式会社
896	日本電産テクノモータ株式会社
897	株式会社吉野工業所
898	フジテック株式会社 東京本社
899	株式会社明電舎
900	株式会社ツムラ

N0	企業名
901	マイクロンメモリジャパン株式会社
902	ニチコン株式会社
903	日本製紙株式会社
904	日立金属株式会社
905	豊田合成株式会社
906	ヤマザキマザック株式会社
907	旭化成株式会社
908	株式会社明治 守谷工場
909	日立ジョンソンコントロールズ空調株式会社
910	シャープ株式会社
911	東京リスマチック株式会社
912	株式会社ハイレックスコーポレーション

認知情報科学科 送付企業数903社

N0	企業名
1	株式会社アイネット
2	株式会社システム・ユー
3	日本テクニカルシステム株式会社
4	株式会社リブゲート
5	株式会社エイリム
6	日本電算企画株式会社
7	株式会社ウェブフロンティア
8	株式会社エイシル
9	株式会社ハイテックス
10	株式会社ヒミカ
11	株式会社ノムラシステムコーポレーション
12	エスツーアイ株式会社
13	麻布プラザ株式会社
14	株式会社エムケイシステム
15	株式会社日本コンピュータ開発
16	株式会社ティビィシィ・スキヤット
17	株式会社システムズナカシマ
18	株式会社オリエンタルインフォメーションサービス
19	株式会社オートメーションサービス
20	日本アイティディ株式会社
21	株式会社ゲームフリーク
22	株式会社C r a n e & I
23	S A L E S R O B O T I C S 株式会社
24	株式会社U K n e t 仙台営業所
25	株式会社フレイムハーツ
26	株式会社ゼロメディカル
27	株式会社エイブルジャパン
28	株式会社シーイーシーカスタマサービス
29	ネットフォース株式会社
30	株式会社アクターリアリティー
31	株式会社ジェットスタジオ
32	東横システム株式会社
33	株式会社トゥインクル
34	株式会社ケイテック
35	株式会社スタイラジー
36	株式会社アイセル
37	株式会社スーパーソフトウェア 東京オフィス
38	バンネットワーク株式会社
39	株式会社ベルチャイルド
40	株式会社E ストアー
41	株式会社旭プロダクション
42	S o l a 株式会社
43	株式会社システムイオ
44	株式会社ユニオンシンク
45	株式会社キャリアシステムズ
46	株式会社トーセーシステムズ
47	株式会社アイガ
48	株式会社ナイス
49	株式会社オレンジアーチ
50	シェアリングテクノロジー株式会社

N0	企業名
51	株式会社ナブアシスト
52	株式会社システムサーバー
53	株式会社アール・エム
54	株式会社ネットワーク
55	株式会社ソフトウェア・サイエンス
56	株式会社ケーケーシー情報システム
57	株式会社電翔
58	株式会社トライエース
59	株式会社ウイズ・ワン
60	サクシード株式会社
61	株式会社パワーハウス 東京本社
62	ケーブルテレビ株式会社
63	株式会社ベストサポートシステムズ
64	株式会社ラデックス
65	株式会社共達
66	株式会社東京アドデザイナース
67	株式会社N S P
68	株式会社エム・オー・シー
69	サンネット株式会社
70	株式会社テンダ
71	株式会社フォーク
72	株式会社トリプルアイズ
73	日本ディクス株式会社
74	ナカシャクリエイテブ株式会社
75	株式会社キーマネジメントソリューションズ
76	株式会社東北電子計算センター
77	株式会社システムディ
78	日信ソフトエンジニアリング株式会社
79	株式会社大同ＩＴソリューションズ
80	株式会社システムコーディネイト
81	株式会社ジェイマックソフト
82	株式会社ファイナンシャルブレインシステムズ
83	株式会社高崎共同計算センター
84	株式会社全労済システムズ
85	T I S 千代田システムズ株式会社
86	共同コンピュータ株式会社 関西営業所
87	株式会社ハイエレコン
88	株式会社サクセス
89	株式会社ハイエレコン 東京本社
90	株式会社山一情報システム
91	株式会社ソフタス
92	アーバン・コーポレーション株式会社
93	株式会社マークス
94	アクモス株式会社
95	株式会社情報システム工学
96	株式会社三重電子計算センター
97	ヴァイタル・インフォメーション株式会社
98	株式会社科学情報システムズ
99	株式会社松阪電子計算センター
100	株式会社ケイ・シー・シー

N0	企業名
101	株式会社アクティス
102	株式会社三越伊勢丹システム・ソリューションズ
103	株式会社佐賀電算センター
104	株式会社イルカ
105	ヤマハモーターソリューション株式会社
106	株式会社システムコンサルタント
107	ジスクソフト株式会社
108	S E T ソフトウェア株式会社 東京システム本部
109	株式会社アクロビジョン
110	テクノ・マインド株式会社
111	三井住友トラスト T A ソリューション株式会社
112	ジオテクノロジーズ株式会社
113	株式会社ミライト・ワン・システムズ
114	日本コンピューターサイエンス株式会社
115	東京システムズ株式会社
116	株式会社ラキール
117	株式会社エーピーコミュニケーションズ
118	シンポー情報システム株式会社
119	株式会社日立ケーイーシステムズ
120	株式会社インフォセンス
121	株式会社 S I G
122	株式会社サイプレス・ソリューションズ 東京本社
123	中央システム株式会社
124	株式会社全農ビジネスサポート
125	パシフィックシステム株式会社
126	株式会社 S M S データテック
127	株式会社ソルクシーズ
128	キャノンイメージングシステムズ株式会社
129	日本コンピュータシステム株式会社
130	株式会社ワイズマン
131	E a r t h T e c h n o l o g y 株式会社
132	東海ソフト株式会社
133	株式会社 R K K C S
134	ユニバーサルコンピューター株式会社 東京本社
135	アクサス株式会社
136	株式会社ディ・アイ・システム
137	北陸コンピュータ・サービス株式会社
138	株式会社 N T T データ C C S
139	株式会社ツリーベル
140	株式会社 Q ' s f i x
141	キーウェアソリューションズ株式会社
142	アイシン・ソフトウェア株式会社
143	G M O インターネットグループ株式会社
144	株式会社アイ・エス・ビー
145	ソーバル株式会社
146	日本システム技術株式会社
147	株式会社東京商工リサーチ
148	サービス&セキュリティ株式会社
149	デジタル・インフォメーション・テクノロジー株式会社
150	A G S 株式会社

N0	企業名
151	株式会社エクサ
152	アイエックス・ナレッジ株式会社
153	明治安田システム・テクノロジー株式会社
154	株式会社ジャステック
155	株式会社コア 北海道カンパニー
156	N S W 株式会社
157	T I S ソリューションリンク株式会社
158	日本ビジネスシステムズ株式会社
159	株式会社中日新聞社
160	株式会社 N S D
161	パーソルプロセス&テクノロジー株式会社
162	N e u s o f t C o r p o r a t i o n
163	株式会社サンエツ
164	株式会社明和工務店
165	株式会社サンワコン
166	株式会社総合設備コンサルタント
167	株式会社シズデングループ
168	株式会社オノコム
169	株式会社 N B 建設
170	升川建設株式会社
171	株式会社荒木組
172	ドービー建設工業株式会社
173	中央理化工業株式会社
174	中村建設株式会社
175	株式会社北弘電社
176	株式会社鉄信
177	株式会社メモリアルアートの大野屋
178	首都高電気メンテナンス株式会社
179	電気技術開発株式会社
180	株式会社アイジーコンサルティング
181	株式会社千代田コンサルタント
182	株式会社ライフ設計事務所
183	株式会社仲本工業
184	株式会社富士工
185	デコラテックジャパン株式会社
186	藤木鉄工株式会社
187	ナイガイ株式会社
188	株式会社イートラスト
189	株式会社太平洋コンサルタント
190	須山建設株式会社
191	大木建設株式会社
192	株式会社松本コンサルタント 千葉支店
193	株式会社日本シューター
194	株式会社一宮工務店
195	株式会社東和エンジニアリング
196	長谷川体育施設株式会社
197	株式会社ニチボウ
198	株式会社アートリフォーム
199	五栄土木株式会社
200	三軌建設株式会社

N0	企業名
201	A L L A G I 株式会社
202	株式会社ブリッジ・エンジニアリング
203	株式会社N I T T O H
204	東京技工株式会社
205	岸本建設株式会社
206	櫻井工業株式会社
207	株式会社ハンシン建設
208	品川ファーンレス株式会社
209	株式会社日さく
210	株式会社ミサワホーム静岡
211	株式会社サンテックインターナショナル
212	内外エンジニアリング株式会社
213	東京ガスエネワーク株式会社
214	トヨタホーム名古屋株式会社
215	オーク設備工業株式会社
216	株式会社テノックス
217	大日コンサルタント株式会社 東京本社
218	川本工業株式会社
219	株式会社前澤エンジニアリングサービス
220	野里電気工業株式会社
221	株式会社新井組
222	株式会社電盛社
223	株式会社カガヤ
224	水道機工株式会社
225	株式会社宮本組
226	オリジナル設計株式会社
227	ワールド開発工業株式会社
228	小野田ケミコ株式会社
229	井原築炉工業株式会社
230	三井金属エンジニアリング株式会社
231	積和建設東京株式会社
232	株式会社フジヤマ
233	住協建設株式会社
234	あおみ建設株式会社
235	株式会社藤木工務店
236	東レ建設株式会社
237	株式会社合田工務店 東京本店
238	東北電化工業株式会社
239	日本コンクリート工業株式会社
240	北新建設株式会社
241	浅海電気株式会社
242	第一カッター興業株式会社
243	ヤマネ鉄工建設株式会社
244	日本建設株式会社
245	国土防災技術株式会社
246	日本電通株式会社
247	南海辰村建設株式会社
248	株式会社トラバース
249	名鉄E I エンジン株式会社
250	株式会社梓設計

N0	企業名
251	共立建設株式会社
252	株式会社池下設計 東京設備支店
253	住友林業緑化株式会社
254	藤田エンジニアリンググループ
255	株式会社久米設計
256	四国通建株式会社
257	株式会社三興（三興グループ）
258	旭化成住宅建設株式会社
259	株式会社協和日成
260	株式会社ナカノフドー建設
261	松井建設株式会社
262	株式会社T O S Y S
263	株式会社スウェーデンハウス
264	株式会社エクシオテック
265	株式会社スペース
266	株式会社つうけん
267	株式会社サンテック
268	J R 東日本メカトロニクス株式会社
269	株式会社オンテックス 九州支社
270	株式会社エイト日本技術開発
271	名工建設株式会社
272	エムイーシーテクノ株式会社
273	株式会社ピーエス三菱 東京土木支店
274	矢作建設グループ
275	ダイキンエアテクノ株式会社
276	株式会社浅沼組
277	東鉄工業株式会社
278	エヌ・ティ・ティ・インフラネット株式会社
279	株式会社N I P P O
280	メタウォーター株式会社
281	株式会社L I X I L トータルサービス
282	前田道路株式会社
283	西松建設株式会社
284	株式会社ユアテック
285	株式会社きんでん 本店
286	住友林業株式会社
287	ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング株式会社
288	大鉄精工株式会社
289	日研ザイル株式会社
290	タカムラ総業株式会社
291	株式会社西川精機製作所
292	株式会社日本サングリアベバレッジカンパニー
293	株式会社山香煎餅本舗
294	株式会社鈴裕化学
295	ハタヤオーケーエス株式会社
296	有限会社三立精工
297	株式会社ニュー・サンワ
298	株式会社キーズファクトリー
299	株式会社オーセンテック
300	マルイチエクソム株式会社

N0	企業名
301	有限会社ギルドデザイン
302	株式会社日の出製作所
303	マツダ株式会社
304	株式会社ユタカ
305	株式会社東商
306	吉和織物株式会社
307	株式会社佐々木産業
308	株式会社モス
309	コトコ株式会社
310	旭産業株式会社
311	株式会社京都加工
312	有限会社東栄工業所
313	株式会社ウッドユウライクカンパニー
314	株式会社成茂科学器械研究所
315	入江金属工業株式会社 かすみがうら工場
316	株式会社トライツナプロダクト
317	洋三プラスチック工業有限会社 カーブス事業部
318	株式会社東京チタニウム
319	特殊鋼管株式会社
320	株式会社プラントリイ
321	日崎工業株式会社
322	株式会社N F デバイステクノロジー
323	株式会社テクノマシーン
324	株式会社アルファ・オイコス
325	株式会社中日金型
326	株式会社高昭産業
327	株式会社P’S ネットワーク
328	アセック株式会社
329	兼松アグリテック株式会社
330	株式会社廣瀬スプリング製作所
331	株式会社アサカ
332	タイム株式会社
333	株式会社ユタカ電子
334	大新テクノス株式会社
335	株式会社キャンドックスシステムズ
336	株式会社スリーエス
337	株式会社エフアイコーポレイション
338	ミドリ電機製造株式会社
339	株式会社大浩
340	株式会社セルタン
341	石橋鉄工株式会社
342	株式会社ストローク
343	株式会社ユニフード
344	有限会社サンコー電子エンジニアリング 小牧事業所
345	株式会社日産電機製作所
346	株式会社アルモア
347	株式会社ワールドメタル 東海営業所
348	株式会社東京ドラム罐製作所
349	株式会社協進社
350	日東精機株式会社

N0	企業名
351	丸安株式会社
352	エーブルコンストラクション株式会社
353	日昭電器株式会社
354	株式会社アイテック
355	株式会社木村精機
356	日新技研株式会社
357	岡本食品株式会社
358	株式会社新晃プラント
359	フクデ化学工業株式会社
360	彌榮精機株式会社
361	二和電気株式会社
362	株式会社牛久製作所
363	株式会社浅井製作所
364	三光金型株式会社
365	株式会社東海ヒット
366	米沢放電工業株式会社
367	株式会社計測技術研究所
368	株式会社白川製作所
369	株式会社ミカワエンジニアリング
370	株式会社オーフェン機器
371	津田電気計器株式会社
372	中村科学工業株式会社
373	山田工業株式会社
374	株式会社湘南サプライ
375	株式会社ヒガシモトキカイ
376	勝田化工株式会社
377	ナガタベルリッツア株式会社
378	株式会社アイソニーフーズ
379	大昌精機株式会社
380	株式会社森川ゲージ製作所
381	株式会社高井精器
382	株式会社豊国エンジニアリング
383	赤司製線株式会社
384	レボックス株式会社
385	清鋼材株式会社
386	株式会社ニッケー工業
387	阪和化工機株式会社
388	エバタ株式会社
389	東京鋼鐵工業株式会社
390	株式会社内山精工
391	株式会社大栄製作所
392	光精工株式会社
393	サンメーケミカル株式会社
394	株式会社フジメカニック
395	株式会社ゴードーキコー
396	株式会社ウエノ
397	株式会社ジャムコエアロマニュファクチャリング
398	株式会社トガシ技研
399	富士エンジニアリング株式会社
400	株式会社Y A M A B I S H I

N0	企業名
401	株式会社鈴工
402	株式会社エヌエフホールディングス 山口事業所
403	株式会社シロトリ
404	株式会社タニコー
405	株式会社デンケン
406	曙工業株式会社
407	株式会社中金
408	美濃酪農農業協同組合連合会
409	株式会社K A N Z A C C
410	株式会社正栄商会
411	株式会社康井精機
412	株式会社ウイン・ディー
413	三和機工株式会社
414	ヘンミ計算尺株式会社
415	永楽電気株式会社
416	東海オートメーション株式会社
417	アサノコンクリート株式会社
418	株式会社サムウエイ
419	ミツテック株式会社
420	滲透工業姫路株式会社
421	日本ペイント防食コーティングス株式会社
422	リバーエレテック株式会社
423	株式会社武揚堂
424	皆川農器製造株式会社
425	大阪テック株式会社
426	株式会社テイセンテクノ
427	興津螺旋株式会社
428	シークスエレクトロニクス株式会社
429	株式会社艶金
430	松本興産株式会社
431	コンチネンタル株式会社
432	山惣工業株式会社
433	株式会社営洋
434	服部工業株式会社
435	株式会社シンエイ・ハイテック
436	オグマ工業株式会社
437	株式会社ジョーニシ
438	株式会社岡田シェル製作所
439	新興機械株式会社
440	日笠工業株式会社
441	アイジーエヴァース株式会社
442	山陽精工株式会社
443	株式会社ダイネツ
444	株式会社プレテック
445	株式会社伊藤精密製作所
446	共同技研化学株式会社
447	株式会社静岡鐵工所
448	日電工業株式会社
449	株式会社岡村
450	株式会社長峰製作所

N0	企業名
451	株式会社フレックスキャンパス
452	株式会社北川製菓
453	株式会社武生製麺
454	エイコー測器株式会社
455	三晃特殊金属工業株式会社
456	丸嘉工業株式会社
457	上田プラスチック株式会社
458	セキ技研株式会社
459	株式会社刃物屋トギノン
460	株式会社茨大
461	ギフハイテック株式会社
462	株式会社東邦製作所
463	横山産業株式会社
464	株式会社河原
465	三和製作株式会社
466	水野ハンディー・ハーマン株式会社
467	田村工業株式会社
468	株式会社オージーケーカブト
469	株式会社ニクニアサヒ
470	株式会社山岸製作所
471	株式会社カウベルエンジニアリング
472	株式会社プレスメディア
473	小松川化工機株式会社
474	富士パン粉工業株式会社
475	グンダイ株式会社
476	日章工業株式会社
477	共和産業株式会社
478	大和工業株式会社
479	近江鉱業株式会社
480	富国工業株式会社 石巻工場
481	シスメックスR A 株式会社
482	八潮化学株式会社
483	株式会社タバタ
484	株式会社ダイチュウ
485	荒川興業株式会社
486	株式会社清国
487	日本電磁測器株式会社
488	株式会社興電舎
489	株式会社ナガラ
490	ヨコキ株式会社
491	城東電機産業株式会社
492	日工電子工業株式会社
493	望月印刷株式会社
494	昭和瀝青工業株式会社
495	落合刃物工業株式会社
496	信越電線株式会社
497	株式会社エリオニクス
498	株式会社平出精密
499	株式会社高木化学研究所
500	株式会社ハーブスグローイング

N0	企業名
501	岐阜愛知電機株式会社
502	株式会社タイルメント
503	日光金属株式会社
504	宇野重工株式会社
505	神鋼ノース株式会社
506	上板塑性株式会社
507	株式会社ブンリ
508	清峰金属工業株式会社
509	山形食品株式会社
510	株式会社フジコーポレーション
511	坂口電熱株式会社
512	藤次郎株式会社
513	岩城造船株式会社
514	株式会社ダンレイ
515	株式会社ファーストフーズ名古屋
516	白ハト食品工業株式会社
517	富士精工株式会社
518	光工業株式会社
519	株式会社渡辺製作所
520	ニッカ電測株式会社
521	株式会社対松堂
522	三乗工業株式会社
523	株式会社加美乃素本舗
524	中央製乳株式会社
525	日鉄大径鋼管株式会社
526	株式会社オクダソカベ
527	株式会社ナルックス
528	株式会社アイ、エス、テイ
529	日本濾過器株式会社 伊那工場
530	エヌティー精密株式会社
531	日邦プレシジョン株式会社
532	リューベ株式会社
533	コムコ株式会社
534	株式会社アイ・ディ・ケイ
535	株式会社松阪鉄工所
536	株式会社ディスペンパックジャパン
537	大下産業株式会社
538	安福ゴム工業株式会社
539	株式会社半谷製作所
540	上田石灰製造株式会社
541	株式会社土井志ば漬本舗
542	朝日容器工業株式会社
543	コフロック株式会社
544	テクノロール株式会社
545	株式会社ボルテック
546	ニッターパック株式会社
547	大平洋ランダム株式会社
548	関東宇部コンクリート工業株式会社
549	株式会社アルミネ
550	三洋製紙株式会社

N0	企業名
551	テクノス株式会社
552	株式会社アルテ
553	高安株式会社
554	オキツモ株式会社
555	西島株式会社
556	彩資生株式会社
557	株式会社富田製作所
558	株式会社ウチダ
559	明和工業株式会社
560	エクセン株式会社
561	イセデリカ株式会社
562	J M A C S 株式会社
563	日本ぱちんこ部品株式会社
564	富士精版印刷株式会社
565	株式会社プレッショ
566	山本電気株式会社
567	株式会社井上製作所
568	日本蓄電器工業株式会社
569	山梨積水株式会社
570	株式会社ホーライ
571	サンワイズ株式会社
572	株式会社ニッター冷熱製作所
573	株式会社小林製作所
574	日本紙管工業株式会社
575	ガルバテックス株式会社
576	株式会社オリエンタルフーズ
577	ハヤカワ電線工業株式会社
578	東北森永乳業株式会社
579	昭和産業株式会社 船橋工場
580	株式会社平プロモート
581	三星工業株式会社
582	佐竹マルチミクス株式会社
583	徳真電機工業株式会社
584	カイシン工業株式会社
585	ゼネラルパッカー株式会社
586	イワツキ株式会社
587	プレミアムキッチン株式会社
588	筑波工業株式会社
589	株式会社山安
590	日本ペットフード株式会社
591	大成製紙株式会社
592	平和メディク株式会社
593	碌々産業株式会社
594	富士航空電子株式会社
595	三洋グラビア株式会社
596	リョーエイ株式会社
597	範多機械株式会社
598	川口化学工業株式会社
599	アラインテック株式会社
600	株式会社互省製作所

N0	企業名
601	長野精工株式会社
602	東邦電子株式会社
603	ミツヤ送風機株式会社
604	日弘ビックス株式会社
605	真丸特殊紙業株式会社 新潟事業部
606	株式会社 A F R E X
607	N K K ス イ ッ チ ズ 株式会社
608	株式会社岩間織機製作所
609	近畿工業株式会社
610	株式会社ニックス
611	株式会社福原精機製作所
612	カネテック株式会社
613	ミヤマ工業株式会社
614	名古屋技研工業株式会社
615	東陽建設工機株式会社
616	オリエンタル技研工業株式会社
617	キューピー株式会社 五霞工場
618	矢島工業株式会社
619	甲南電機株式会社
620	住田フーズ株式会社
621	遠藤工業株式会社
622	株式会社不二プレジジョン
623	キタムラ機械株式会社
624	株式会社マキンコー
625	鉱研工業株式会社
626	平和技研株式会社
627	株式会社熊谷
628	株式会社ツルタ製作所
629	サンマルコ食品株式会社
630	エム・エムブリッジ株式会社
631	日鉄レールウェイテクノス株式会社
632	株式会社トーマーコーポレーション
633	千葉製粉株式会社
634	オグラ金属株式会社
635	金山化成株式会社
636	やまと興業株式会社
637	株式会社メッツ
638	株式会社サカイヤ
639	ユニクラフトナグラ株式会社
640	株式会社明治ゴム化成
641	カジマメカトロエンジニアリング株式会社
642	三和パッキング工業株式会社
643	大塚電子株式会社
644	太平化学産業株式会社
645	鬼頭工業株式会社
646	不二越機械工業株式会社
647	日本プラスチック・テクノロジーズ株式会社
648	株式会社武井工業所
649	株式会社栗林製作所
650	株式会社コロンバン

N0	企業名
651	妙中鉱業株式会社
652	戎屋化学工業株式会社
653	株式会社オーツカ 大阪支店
654	株式会社広上製作所
655	テクノエクセル株式会社
656	株式会社松井製作所
657	株式会社酒悦
658	株式会社ジェイ・ティ
659	ユージーエム株式会社
660	株式会社堀内機械
661	T B カワシマ株式会社
662	ビニフレーム工業株式会社
663	ヨシモトポール株式会社
664	日精エー・エス・ビー機械株式会社
665	株式会社カシフジ
666	板橋精機株式会社
667	株式会社スチールセンター
668	株式会社ミート・コンパニオン
669	株式会社鶴屋吉信 東京支店
670	クシダ工業株式会社
671	サイレックス・テクノロジー株式会社
672	揖斐川工業株式会社
673	アテナ工業株式会社
674	ケイコン株式会社
675	株式会社コーアツ
676	櫻金属工業株式会社
677	スガ試験機株式会社
678	ヒゲタ醤油株式会社
679	株式会社カイジョー
680	株式会社浜名製作所
681	株式会社第一印刷所
682	真生印刷株式会社
683	千葉窯業株式会社
684	佐橋工業株式会社
685	東京製紙株式会社
686	大原薬品工業株式会社
687	株式会社くろがね工作所
688	株式会社東洋空機製作所
689	玉川電器株式会社
690	プラマック株式会社
691	日新興業株式会社
692	三井ミーハナイト・メタル株式会社
693	十全化学株式会社
694	フタバ食品株式会社
695	小坂製錬株式会社
696	株式会社ダイドー電子
697	東陽精機株式会社
698	株式会社ベン
699	鳥越製粉株式会社
700	宮崎精鋼株式会社

N0	企業名
701	リンナイテクノ株式会社
702	株式会社日本ファインケム
703	大化工業株式会社
704	ＯＫＩネクステック株式会社
705	株式会社河村産業所
706	シンワ株式会社
707	株式会社東京機械製作所
708	東京特殊電線株式会社
709	株式会社広芸インテック
710	肥田電器株式会社
711	極東産機株式会社
712	ユケン工業株式会社
713	興亜硝子株式会社
714	株式会社松井製作所
715	東洋精機工業株式会社
716	二宮産業株式会社
717	宝栄工業株式会社
718	住商アグリビジネス株式会社
719	倉敷繊維加工株式会社
720	浜名部品工業株式会社
721	株式会社潤工社
722	株式会社赤福
723	日本電産リード株式会社
724	日本ガスケット株式会社
725	株式会社日立プラントメカニクス
726	システムギア株式会社
727	株式会社日本デキシー
728	タキロンシーアイシビル株式会社
729	株式会社朝日ラバー
730	株式会社大阪合成有機化学研究所
731	株式会社スター精機
732	エムテックスマツムラ株式会社
733	日綜産業株式会社
734	パナソニックエレクトリックワークス池田電機株式会社
735	扶桑工機株式会社
736	タカノフーズ株式会社
737	株式会社帝国電機製作所
738	日清鋼業株式会社
739	株式会社キッツエスシーティー
740	株式会社中川製作所
741	株式会社住田光学ガラス 田島田部原工場
742	株式会社アドバンテック
743	ＤＸアンテナ株式会社
744	ファインネクス株式会社
745	株式会社杉田製線
746	株式会社御座候
747	太平洋精工株式会社
748	住友金属鉱山株式会社 青梅事業所
749	株式会社アイメックス
750	デンカポリマー株式会社

N0	企業名
751	株式会社マキタ
752	株式会社トヨトミ
753	ヒメジ理化株式会社
754	シロウマサイエンス株式会社
755	株式会社オーク製作所
756	アイジー工業株式会社
757	ミドリオートレザー株式会社
758	協立電機株式会社
759	笹徳印刷株式会社
760	東プレ九州株式会社
761	株式会社日本ピーエス
762	木村工機株式会社
763	株式会社キングジム
764	株式会社ＮＢＣメッシュテック
765	株式会社ユニオンプレート
766	サクラ精機株式会社
767	綜研化学株式会社
768	株式会社岡本工作機械製作所
769	株式会社アイキテック
770	岩谷瓦斯株式会社
771	ビヨonz株式会社
772	黒田精工株式会社
773	株式会社ＮＳＣ
774	富士発條株式会社
775	山形カシオ株式会社
776	トーハツ株式会社
777	株式会社ＳＨＯＥＩ
778	三洋機工株式会社
779	株式会社トウチュウ
780	株式会社ジャノメ
781	三菱電機ホーム機器株式会社
782	共和コンクリート工業株式会社
783	名古屋電機工業株式会社
784	株式会社ニッセーデリカ
785	マスプロ電工株式会社
786	株式会社ＳＩＭＭＴＥＣＨ　ＧＲＡＰＨＩＣＳ
787	日新工業株式会社
788	株式会社パプコ
789	株式会社内山製作所
790	北越工業株式会社
791	上田日本無線株式会社
792	ロックペイント株式会社
793	株式会社バッファロー
794	東明工業株式会社
795	合同酒精株式会社
796	東京ラヂエーター製造株式会社
797	株式会社日立建機ティエラ
798	片山工業株式会社
799	大同信号株式会社
800	トクラス株式会社

N0	企業名
801	船井電機株式会社
802	デンヨー株式会社
803	第一工業製薬株式会社
804	株式会社浅野歯車工作所
805	旭電器工業株式会社
806	古河電工パワーシステムズ株式会社
807	ゴールドパック株式会社
808	全薬工業株式会社
809	宝印刷株式会社
810	株式会社新来島サノヤス造船
811	トオカツフーズ株式会社
812	ヤマサ醤油株式会社
813	キヤノンエコロジーインダストリー株式会社
814	日本フードパッカー株式会社
815	内海造船株式会社
816	株式会社オリジン
817	株式会社日阪製作所
818	北興化学工業株式会社
819	株式会社トップ
820	ニッコー株式会社
821	株式会社 T & K T O K A
822	東振グループ
823	パナソニックプロダクションエンジニアリング株式会社
824	株式会社ニチベイ
825	ぺんてる株式会社
826	東洋紙業株式会社
827	三菱プレシジョン株式会社
828	興国インテック株式会社
829	キヤノントッキ株式会社
830	株式会社東洋シート
831	株式会社 H O W A
832	森六グループ（ホールディングス・テクノロジー・ケミカルズ）
833	森松工業株式会社
834	T P R 株式会社
835	トリニティ工業株式会社
836	日之出水道機器株式会社
837	テラル株式会社
838	株式会社駿河生産プラットフォーム（ミスミグループ）
839	株式会社稲葉製作所
840	日本製紙クレシア株式会社
841	ユニオンツール株式会社
842	ゼリア新薬工業株式会社
843	米久株式会社
844	株式会社タクマ
845	株式会社ファインシンター
846	東海交通機械株式会社（J R 東海グループ）
847	永大産業株式会社
848	サンエイ株式会社
849	コイト電工株式会社
850	株式会社ユタカ技研

N0	企業名
851	株式会社栃木ニコン
852	三益半導体工業株式会社
853	ちふれホールディングス株式会社
854	ユナイテッド・セミコンダクター・ジャパン株式会社
855	富士フイルムマニュファクチャリング株式会社
856	小林クリエイト株式会社
857	キヤノンアネルバ株式会社
858	和田精密歯研株式会社
859	株式会社日本デジタル研究所
860	カネ美食品株式会社
861	住友大阪セメント株式会社
862	グリコマニュファクチャリングジャパン株式会社
863	株式会社淀川製鋼所
864	株式会社アイエイアイ
865	ネグロス電工株式会社
866	タニコー株式会社
867	S W S 東日本株式会社
868	K O A 株式会社
869	フクシマガリレイ株式会社
870	株式会社山田製作所
871	エスケー化研株式会社
872	株式会社キッツ
873	株式会社 M A R U W A
874	株式会社ナック
875	アライドテレシスホールディングス株式会社
876	株式会社東光高岳
877	アイシン軽金属株式会社
878	共同印刷株式会社
879	日産車体株式会社
880	シンフォニアテクノロジー株式会社
881	日機装株式会社
882	アイシン機工株式会社
883	ユニプレス株式会社
884	カシオ計算機株式会社
885	東亜合成株式会社 広野工場
886	株式会社小森コーポレーション
887	品川リフラクトリーズ株式会社
888	プライムアース E V エナジー株式会社
889	三甲株式会社
890	東洋紡株式会社
891	ソニーグローバルマニュファクチャリング &オペレーションズ 株式会社
892	倉敷紡績株式会社
893	株式会社ティラド
894	住友ゴム工業株式会社
895	工機ホールディングス株式会社
896	村田機械株式会社
897	株式会社富士通ゼネラル
898	日立グローバルライフソリューションズ株式会社
899	スズキ株式会社
900	マレリ株式会社

N0	企業名
901	株式会社オーリス
902	東洋電熱株式会社
903	ヒーハイト株式会社

高度応用情報科学科 送付企業数909社

N0	企業名
1	インガルス株式会社
2	株式会社TECHTONE
3	株式会社ビクソン
4	株式会社アナザーウェア
5	株式会社エヌティ・ソリューションズ
6	株式会社パトリオット
7	株式会社シーエスコミュニケーション
8	共同コンピュータ株式会社
9	株式会社CMC Solutions
10	株式会社日情システムソリューションズ
11	フォレックス株式会社
12	株式会社ビジュアルソフト
13	株式会社九州ソフタス
14	H L 株式会社
15	ディーアイシージャパン株式会社
16	株式会社テクノトップ
17	株式会社メトロ
18	株式会社ハイソフテック
19	株式会社グローバー 大阪事業所
20	日本通信株式会社
21	株式会社ステップ
22	株式会社うえじま企画
23	株式会社データプロセスサービス
24	ソフトウエアクリエイション株式会社
25	株式会社SCREEN ICTソフトウェア
26	司システム株式会社 福岡営業所
27	テモナ株式会社
28	日本ソフト開発株式会社
29	株式会社フジクリエイティブコーポレーション
30	アバンテック株式会社
31	株式会社ソフィックス
32	株式会社グッド・フィール
33	日本ユニカ・システムズ株式会社
34	システム・アナライズ株式会社
35	株式会社ステップ
36	株式会社アイルミッション
37	日本ハムシステムソリューションズ株式会社
38	株式会社ブロードバンドタワー
39	株式会社エム・アンド・アイ
40	株式会社経営情報センター
41	ソリマチ株式会社
42	株式会社千代田ビデオ
43	クオリティソフト株式会社
44	T I S 長野株式会社
45	日本アルゴリズム株式会社
46	株式会社ケネス
47	株式会社ファインディックス
48	株式会社SK2
49	株式会社ソルコム
50	株式会社Newデイス

N0	企業名
51	シリコンスタジオ株式会社
52	アスノシステム株式会社
53	株式会社広島情報シンフォニー
54	株式会社ココト
55	株式会社ジャコム
56	株式会社プロビズモ 東京支社
57	株式会社ライテック
58	株式会社経営管理センター 東京事業部
59	株式会社スターシステム
60	ユーフォーテーブル有限公司
61	株式会社山陰中央新報社
62	ユニバース情報システム株式会社
63	株式会社ケーシーエス
64	コニカミノルタ情報システム株式会社
65	ヒューマンズ・ネット株式会社
66	株式会社サイバーコネクトツー
67	株式会社CRAZY TV
68	日東コンピューターサービス株式会社
69	株式会社プログデンス
70	北都システム株式会社
71	株式会社エキスプレス
72	株式会社アクトシステムズ
73	株式会社メビウス
74	株式会社エー・アール・シー 名古屋営業所
75	ネクストウェア株式会社
76	ビップシステムズ株式会社
77	テクニカルジャパン株式会社
78	株式会社ティエム2
79	データサイエンス株式会社
80	株式会社プリバテック
81	キステム株式会社
82	株式会社データサービス
83	株式会社テクノア
84	株式会社山口シネマ
85	株式会社システムズ
86	株式会社オネスト
87	シーデーシー情報システム株式会社
88	株式会社FBS
89	システムスクエア株式会社
90	りそなデジタル・アイ株式会社
91	株式会社アールピーシー
92	株式会社光文社
93	株式会社ユードム
94	日本システムワープ株式会社
95	株式会社ソフトテックス
96	ミネベアソフトウェアソリューションズ株式会社
97	株式会社アクシス
98	株式会社コサウェル
99	株式会社MCOR
100	日本ラッド株式会社

N0	企業名
101	株式会社エス・イー・シー・ハイテック
102	株式会社白川プロ
103	キッセイコムテック株式会社
104	株式会社ライセンスアカデミー
105	フェンリル株式会社
106	日本シノプシス合同会社
107	セントラルソフト株式会社
108	N R I システムテクノ株式会社
109	新日本コンピュータマネジメント株式会社
110	アイスター株式会社
111	株式会社ホープス
112	システム・エボリューション株式会社
113	イー・アンド・エム株式会社
114	株式会社ジール
115	ドコモ・データコム株式会社
116	エプソンアヴァシス株式会社
117	コンピューターサイエンス株式会社
118	ジェイアール東海情報システム株式会社
119	株式会社ベネッセインフォシェル
120	株式会社アドグローブ
121	株式会社クレオ
122	株式会社オービーシステム
123	株式会社クロスキャット
124	株式会社アートテクノロジー
125	株式会社テクノクリエイティブ
126	パナソニックアドバンステクノロジー株式会社
127	株式会社N S ・コンピュータサービス
128	日本S E 株式会社
129	株式会社C I J ネクスト
130	株式会社ぎょうせい
131	株式会社ジャパンテクニカルソフトウェア
132	株式会社アドバンストラフィックシステムズ
133	株式会社ポールド
134	株式会社第一情報システムズ
135	株式会社放送技術社
136	株式会社ツリーベル 四日市事業所
137	ポールトゥウィン株式会社
138	株式会社日立ハイシステム2 1
139	株式会社システム情報
140	株式会社N T T データN J K
141	A N A システムズ株式会社
142	株式会社N T T データM H I システムズ
143	日本事務器株式会社
144	日本システム技術株式会社 東京本社
145	T I S システムサービス株式会社 東京本社
146	株式会社エヌアイデイ
147	株式会社T B S アクト
148	I T X コミュニケーションズ株式会社
149	三菱電機インフォメーションシステムズ株式会社
150	株式会社コア

N0	企業名
151	旭情報サービス株式会社 東京支社
152	株式会社ミロク情報サービス
153	株式会社日本ビジネスデータープロセッシングセンター 関東地区
154	株式会社セガ
155	デンソーテクノ株式会社
156	S k y 株式会社 東京本社
157	N T T 東日本グループ会社
158	株式会社スタック
159	オダケホーム株式会社
160	四国建設コンサルタント株式会社
161	株式会社西原ネオ
162	株式会社新大倉
163	株式会社日設
164	小川工業株式会社
165	株式会社リガーレ
166	株式会社小田急エンジニアリング
167	株式会社ユーディケー
168	報国エンジニアリング株式会社
169	株式会社ハンモトホーム
170	不二総合コンサルタント株式会社
171	株式会社イーグル建創
172	株式会社浜屋組
173	株式会社八州
174	株式会社サカヒラ
175	向陽プラントサービス株式会社
176	株式会社アイ・エス・エス
177	日本水理株式会社
178	明電プラントシステムズ株式会社
179	株式会社石勝エクステリア
180	フジタ道路株式会社
181	株式会社J M
182	株式会社片平新日本技研
183	鈴縫工業株式会社
184	宇部工業株式会社
185	株式会社富島建設
186	株式会社I A O 竹田設計
187	日本鉄道電気設計株式会社
188	株式会社オノヤ
189	宮城建設株式会社
190	オリエント産業株式会社
191	株式会社愛亀
192	株式会社マナテック
193	西濃建設株式会社
194	成幸利根株式会社
195	神田通信機株式会社
196	株式会社朝日機器エンジニアリング
197	阿比野建設株式会社
198	株式会社北洋建設
199	株式会社ジェイファスト
200	三和電気土木工事株式会社

N0	企業名
201	B X ゆとりフォーム株式会社
202	株式会社増岡組
203	中設エンジ株式会社
204	みらい建設工業株式会社
205	株式会社オクタ
206	宮坂建設工業株式会社
207	不二建設株式会社
208	東電同窓電気株式会社
209	株式会社三冷社
210	鈴与建設株式会社
211	八千代電設工業株式会社 東京支店
212	N T C コンサルタンツ株式会社
213	太啓建設株式会社
214	株式会社協振技建
215	アイ・ビー・テクノス株式会社
216	ワールド開発工業株式会社 群馬営業所
217	大賀建設株式会社
218	第一設備工業株式会社
219	千代田システムテクノロジーズ株式会社
220	パナソニック建設エンジニアリング株式会社
221	三宝電機株式会社 東京支店
222	三精テクノロジーズ株式会社
223	アエラホーム株式会社
224	株式会社日本インシーク
225	株式会社コムリード 東京営業所
226	明星工業株式会社 東京本部
227	株式会社精研 東京本社
228	中日本建設コンサルタント株式会社
229	米沢電気工事株式会社 東京支店
230	大洋興業株式会社
231	株式会社類設計室
232	株式会社クボタ建設
233	類グループ
234	日本設備工業株式会社
235	株式会社バウハウス丸栄
236	株式会社ヤマサキ
237	大成設備株式会社
238	第一工業株式会社
239	協和テクノロジーズ株式会社
240	基礎地盤コンサルタンツ株式会社
241	リック株式会社
242	大旺新洋株式会社
243	株式会社シアーズホーム
244	日管株式会社
245	斎久工業株式会社
246	ミサワリフォーム株式会社
247	株式会社不動産S H O P ナカジツ
248	株式会社N J S
249	株式会社池下設計 東京本店
250	日成ビルド工業株式会社

N0	企業名
251	アイディホーム株式会社
252	トキコシステムソリューションズ株式会社
253	仙建工業株式会社
254	岩田地崎建設株式会社
255	りんかい日産建設株式会社
256	株式会社ライクス
257	セキスイハイム中四国株式会社
258	若築建設株式会社
259	日本電技株式会社
260	パナソニックE Wエンジニアリング株式会社
261	株式会社ガイアート
262	西日本高速道路エンジニアリング中国株式会社
263	ニッタン株式会社
264	タクトホーム株式会社
265	住友林業ホームエンジニアリング株式会社
266	株式会社朝日工業社
267	中電プラント株式会社
268	西日本電気システム株式会社
269	八千代エンジヤリング株式会社
270	株式会社アイ工務店
271	株式会社ピーエス三菱
272	飛鳥建設株式会社
273	日本道路株式会社
274	株式会社浅沼組 東京本店
275	富士古河E & C株式会社
276	東洋建設株式会社
277	株式会社中部プラントサービス
278	鉄建建設株式会社
279	三井ホーム株式会社
280	日本電設工業株式会社
281	東芝プラントシステム株式会社
282	エクシオグループ株式会社
283	大東建託株式会社
284	軽井沢蒸留酒製造株式会社
285	有限会社本郷工業
286	三井技術興業株式会社
287	株式会社イチロク
288	マルボシフーズ株式会社
289	伏見銘酒協同組合
290	有限会社福田織物
291	株式会社エムダイヤ
292	大起理化工業株式会社
293	株式会社フジタ
294	株式会社スズキエンジニアリング
295	株式会社フィット
296	共立機械株式会社
297	S A N P L A P 3 株式会社
298	モメンティブ・パフォーマンス・マテリアルズ・ジャパン合同会社
299	株式会社工研・エルディスト
300	佐藤ライトモールド株式会社

NO	企業名
301	有限会社レイズ
302	株式会社宇井精密製作所
303	株式会社ナリングライフメッド
304	エコデザイン株式会社
305	龍田紡績株式会社
306	株式会社アイ・メデックス
307	株式会社佐藤工業
308	フジメタル工業株式会社
309	熱金銅業株式会社
310	株式会社サカエマーク
311	日本特殊光学樹脂株式会社
312	郡家コンクリート工業株式会社
313	フナテック株式会社
314	エルピーエステック株式会社
315	株式会社仲川工業所
316	アートウインズ・シートメタル株式会社
317	株式会社東研機械製作所
318	株式会社アクシス
319	株式会社富窪精機
320	青木精密工業株式会社
321	株式会社フロンティアエンジニアリング
322	株式会社御福餅本家
323	分光計器株式会社
324	株式会社奥誠環境商事
325	日本ベルパーツ株式会社
326	株式会社三秀
327	平井工業株式会社
328	エーアンドディープリントエンジニアリング株式会社
329	株式会社キュー・アイ
330	株式会社ホニック
331	イチジク製薬株式会社
332	中野M O N Oテクノロジー株式会社
333	株式会社I・M・S
334	有限会社中部製作所
335	グローバル・リンクス・テクノロジー株式会社
336	日藤ポリゴン株式会社
337	ケージーエス株式会社
338	東京施設工業株式会社
339	株式会社石川精工
340	株式会社オーミヤ
341	ドルマカバジャパン株式会社
342	柏崎ユーエステック株式会社
343	株式会社田中金型製作所
344	株式会社MCシステムズ東日本
345	株式会社繁原製作所
346	ビーズ情報サービス株式会社
347	株式会社シナノ
348	アジヤアルミ株式会社 佐野工場
349	株式会社徳重
350	株式会社三和ケミカル

NO	企業名
351	株式会社ネモト・センサエンジニアリング 牛久事業所
352	都インキ株式会社
353	大塚実業株式会社
354	株式会社ジャパンエコロジーシンキング
355	株式会社日生化学工業所
356	株式会社ウェルディングアロイズ・ジャパン
357	讃岐化学工業株式会社
358	松井工業株式会社
359	株式会社おきさん
360	株式会社シンシ
361	株式会社藤井養蜂場
362	株式会社上島熱処理工業所
363	檜工業株式会社
364	株式会社M I
365	トライエンジニアリング株式会社
366	磯じまん株式会社
367	株式会社サンテック
368	株式会社特電
369	株式会社ライトボーイ
370	コペル電子株式会社
371	株式会社水貝製作所
372	ライニングコンテナー株式会社
373	株式会社河坂製作所
374	常木鍍金工業株式会社
375	橋本エンジニアリング株式会社
376	株式会社上野製作所
377	株式会社スサト
378	株式会社共和工業所
379	株式会社フコク
380	株式会社石川工具研磨製作所
381	株式会社泰成工業所 竜ヶ崎工場
382	茨城宝栄工業株式会社
383	千葉精密プレス株式会社
384	ミズタニバルブ工業株式会社
385	高速印刷株式会社
386	興亜産業株式会社
387	フェイス株式会社
388	日東化工機株式会社
389	大和印刷株式会社
390	株式会社サワイ
391	日本ミクロン株式会社
392	エムデン無線工業株式会社
393	大同機工株式会社
394	宝和化学株式会社
395	株式会社ダイワ
396	株式会社プレテック・エヌ
397	株式会社スリーピークス技研
398	株式会社大亀製作所
399	シンニチ工業株式会社
400	ニチアスウレタン株式会社

N0	企業名
401	古河精密金属工業株式会社
402	リングアンドリンク株式会社
403	株式会社望月プレス工業所
404	協和電線工業株式会社
405	杉山重工株式会社
406	株式会社田原電機製作所
407	ドリームスデザイン株式会社
408	株式会社アベキン
409	株式会社トライターム
410	株式会社ヨシダ
411	コータキ精機株式会社
412	シルバーロッド株式会社
413	株式会社山崎歯車製作所
414	株式会社内野製作所
415	株式会社田村屋
416	株式会社丸ウ製陶所
417	大森クローム工業株式会社
418	株式会社鳥越樹脂工業
419	株式会社エコム
420	株式会社N I S S Y O
421	森村金属株式会社
422	東武冶金株式会社
423	株式会社野毛電気工業
424	桑名精工株式会社
425	株式会社ムツミ
426	株式会社M C システムズ
427	太洋電機産業株式会社
428	株式会社ユニシス
429	大見工業株式会社
430	東邦工業株式会社
431	株式会社神路社
432	株式会社タイガーサッシュ製作所
433	株式会社テクノワーク
434	名興電機株式会社
435	スワロー工業株式会社
436	ヨシテク工業株式会社
437	クレードル食品株式会社
438	由利ロール株式会社
439	鈴木合金株式会社
440	株式会社カツロン
441	関口電気株式会社
442	株式会社キド
443	新日本ホイール工業株式会社
444	ペパーレット株式会社
445	赤武エンジニアリング株式会社
446	株式会社山和エンジニアリング
447	東興薬品工業株式会社
448	株式会社松田モデル
449	岡部工業株式会社
450	共和ハーモテック株式会社

N0	企業名
451	株式会社清水鐵工所
452	松岡特殊鋼株式会社
453	株式会社紀和マシナリー
454	日本プレーテック株式会社
455	町田食品株式会社
456	京浜光膜工業株式会社
457	秩父コンクリート工業株式会社
458	榎本工業株式会社
459	ヒロボー株式会社
460	サンミート株式会社
461	ユメックス株式会社
462	株式会社オオツカハイテック
463	ダイシン工業株式会社
464	株式会社不二テクノス
465	株式会社S T N
466	株式会社江北ゴム製作所
467	新倉工業株式会社
468	株式会社愛光
469	関東総業株式会社
470	株式会社昌立製作所
471	カシハラ鐵構株式会社
472	株式会社ティエスイー
473	福岡クロス工業株式会社
474	ライオン菓子株式会社
475	株式会社芝岡製作所
476	三和機工株式会社
477	マイクロクラフト株式会社
478	光葉スチール株式会社
479	萩浦工業株式会社
480	草津電機株式会社
481	株式会社高木ミンク
482	株式会社北原産業
483	富士工業株式会社
484	株式会社食研
485	ヤマト産業株式会社
486	山下マテリアル株式会社
487	天生水産株式会社
488	茨木精機株式会社
489	後藤精工株式会社
490	マ・マーマカロニ株式会社
491	日本橋梁株式会社
492	オーエスマシナリー株式会社
493	杉山メディアサポート株式会社
494	日東亜鉛株式会社
495	株式会社大和三光製作所
496	B X 西山鉄網株式会社
497	株式会社カヤマ
498	大栄産業株式会社
499	きた産業株式会社
500	ヤマト・インダストリー株式会社

NO	企業名
501	T A T E B A Y A S H I M O U L D I N G株式会社
502	株式会社マグエックス
503	株式会社畔柳工業
504	タカ食品工業株式会社 関東支社
505	日野システック株式会社
506	エヌジーケイ・フィルテック株式会社
507	デーバー加工サービス株式会社
508	株式会社木屋製作所
509	牧野フライス精機株式会社
510	コサカ精機株式会社
511	株式会社ユーシン
512	ポラテック富士株式会社
513	株式会社佐合木材
514	トヨタ工機株式会社
515	オーハシ技研工業株式会社
516	東海ファインカーボン株式会社
517	三井金属ダイカスト株式会社
518	大協薬品工業株式会社
519	株式会社森創
520	株式会社タイガーカワシマ
521	フシマン株式会社 福島工場
522	株式会社あいや
523	ヨツハシ株式会社
524	徳島製粉株式会社
525	ヨシダ宣伝株式会社
526	コージンバイオ株式会社
527	根上工業株式会社
528	兼工業株式会社
529	株式会社日本設計工業
530	神津精機株式会社
531	株式会社白山
532	株式会社テクノステート
533	株式会社日野エンジニアリングアネックス
534	株式会社岩田製作所
535	株式会社サンコー電子
536	株式会社マルハチ
537	株式会社兼古製作所
538	アオイ化学工業株式会社
539	マイクロテクノ株式会社
540	大森電機工業株式会社
541	株式会社青山製作所茨城工場
542	株式会社八幡
543	カスヤ精工株式会社
544	株式会社西村製作所
545	株式会社アラキ製作所
546	株式会社スターエム
547	テクノロール株式会社 九州営業所
548	株式会社ガステック
549	備後漬物株式会社
550	深田工業株式会社

NO	企業名
551	株式会社長野三洋化成
552	A G C オートモーティブウィンドウシステムズ株式会社
553	シチズン T I C 株式会社
554	日本鏡板工業株式会社
555	株式会社イトーヨーギョー
556	T O N E 株式会社
557	山陽化工株式会社
558	宮坂ゴム株式会社
559	株式会社多摩川電子
560	平和食品工業株式会社
561	オリエンタルエンヂニアリング株式会社
562	メトロ製菓株式会社
563	大津鉄工株式会社
564	株式会社平山ファインテクノ
565	ウツエバルブ株式会社
566	株式会社千修
567	北陸アルミニウム株式会社
568	株式会社メディカロイド
569	ミヤコ自動車工業株式会社
570	光陽精機株式会社
571	協和機工株式会社
572	株式会社三葉製作所
573	ワコースチール株式会社
574	横浜エレベータ株式会社
575	株式会社ジェイピーシー
576	山田工業株式会社
577	スガノ農機株式会社
578	株式会社ファイン
579	株式会社クリスタル光学
580	サンライズ工業株式会社
581	明和工業株式会社
582	株式会社ピラミッド
583	株式会社熊防メタル
584	神港精機株式会社
585	デルタ工業株式会社
586	株式会社三保造船所
587	長野愛知電機株式会社
588	株式会社東日製作所
589	大平洋機工株式会社
590	シーホネンス株式会社
591	株式会社マイクロ・テクニカ
592	東京精工株式会社
593	株式会社内山熔接工業
594	株式会社ヨコタコーポレーション
595	タカオ株式会社
596	株式会社みらい造船
597	株式会社ダイヤ精機製作所
598	横浜森永乳業株式会社
599	東洋平成ポリマー株式会社
600	株式会社アドテックプラズマテクノロジー

N0	企業名
601	株式会社福島製作所
602	日本スーパー工業株式会社
603	セーラー万年筆株式会社 ロボット機器事業部
604	神岡部品工業株式会社
605	三美印刷株式会社
606	日本植生株式会社
607	株式会社中野工業所
608	N J コンポーネント株式会社
609	長谷虎紡績株式会社
610	株式会社精工技研
611	株式会社ナチ東北精工
612	オート化学工業株式会社
613	株式会社ホリキリ
614	ジャニス工業株式会社
615	株式会社ヤマナカゴーキン
616	I M V 株式会社
617	小平産業株式会社
618	株式会社向山工場
619	株式会社イケックス工業
620	特殊電装株式会社
621	株式会社ケーニヒスクローネ
622	五條製紙株式会社
623	山金工業株式会社
624	大明化学工業株式会社
625	京都電機器株式会社
626	ニシハラ理工株式会社
627	三木特種製紙株式会社
628	向島ドック株式会社
629	株式会社コロンプス
630	株式会社リード
631	株式会社にんべん
632	株式会社豊通テック
633	株式会社昭和真空
634	株式会社てつでん
635	日本フェンオール株式会社
636	株式会社テセック
637	株式会社カネコ
638	大平洋製鋼株式会社
639	いすゞ車体株式会社
640	ガリレイパネルクリエイト株式会社
641	ウラセ株式会社
642	ユキワ精工株式会社
643	河合石灰工業株式会社
644	株式会社ショウエイ
645	H A R I O 株式会社
646	九鬼産業株式会社
647	トクデン株式会社
648	シンクス株式会社
649	丸茂電機株式会社
650	アサヒ電子株式会社

N0	企業名
651	株式会社中央製作所
652	株式会社七星科学研究所
653	住野工業株式会社
654	玉野化成株式会社
655	株式会社片桐製作所
656	三恵株式会社
657	旭コンクリート工業株式会社 西部支社
658	極東製薬工業株式会社
659	マルタスギヨ株式会社
660	株式会社S H I N D O
661	株式会社内藤電誠町田製作所
662	株式会社イノアック住環境
663	ヤマックス株式会社 東京事業本部
664	株式会社オンキリ
665	株式会社ふくれん
666	株式会社R S T e c h n o l o g i e s 三本木工場
667	日本製線株式会社
668	小松電子株式会社
669	株式会社ヤガイ
670	大光炉材株式会社
671	三恵工業株式会社
672	株式会社ニッケ機械製作所
673	多摩化学工業株式会社
674	株式会社多加良製作所
675	F C M 株式会社
676	株式会社オーツカ
677	帝国通信工業株式会社
678	三映電子工業株式会社
679	三和タジマ株式会社
680	長田電機工業株式会社
681	富士精工株式会社
682	株式会社カスタム
683	本多通信工業株式会社
684	株式会社テクノメディカ
685	トーカイ株式会社
686	大日電子株式会社
687	株式会社成田デンタル
688	株式会社シギヤ精機製作所
689	エイベックス株式会社
690	株式会社ジェイ・オー・シー羽生
691	シマト工業株式会社
692	吉澤石灰工業株式会社
693	株式会社朋栄 佐倉R & Dセンター
694	アリメント工業株式会社
695	株式会社日本パーカーライジング広島工場
696	本州製罐株式会社
697	大化工業株式会社 関東工場
698	宝和工業株式会社 豊橋工場
699	株式会社ピカコーポレーション
700	株式会社タスク

N0	企業名
701	株式会社秋川牧園
702	丸井織物株式会社
703	株式会社タカキタ
704	旭精工株式会社
705	日本セラミック株式会社
706	フジコピアン株式会社
707	丸和電子化学株式会社
708	タマダ株式会社
709	s a n t e c 株式会社
710	D O W A サーモエンジニアリング株式会社
711	廣瀬精工株式会社
712	フジデノロ株式会社
713	大同マシナリー株式会社
714	甲神電機株式会社
715	福寿工業株式会社
716	中川ヒューム管工業株式会社
717	株式会社かね貞
718	株式会社指月電機製作所
719	丸彦製菓株式会社
720	株式会社神菱
721	株式会社 Y A M A N A K A
722	株式会社ムラコシ精工
723	クリオン株式会社
724	エヌエスディ株式会社
725	株式会社 T O P
726	A G C セイミケミカル株式会社
727	株式会社吉田製作所
728	マニー株式会社
729	豊田バンモップス株式会社
730	高槻電器工業株式会社
731	伊藤光学工業株式会社
732	リンナイ精機株式会社
733	川岸工業株式会社
734	藤村クレスト株式会社
735	株式会社タクミナ
736	株式会社ナイキ
737	株式会社 T O S E I
738	株式会社ニイガタマシントクノ
739	北陸電機製造株式会社
740	日軽パネルシステム株式会社
741	興亜エレクトロニクス株式会社
742	ハシダ技研工業株式会社 春日井工場
743	南部化成株式会社
744	株式会社日南
745	株式会社 T F - M E T A L
746	株式会社京都スペーサー
747	株式会社ワイエムシィ
748	株式会社東根新電元
749	平河ヒューテック株式会社
750	株式会社ニプロン

N0	企業名
751	日本クッカリー株式会社
752	株式会社 n i t t o h
753	豊興工業株式会社
754	ヤマウチ株式会社
755	前澤給装工業株式会社
756	ハイビック株式会社
757	伊藤精工株式会社
758	株式会社 T B K
759	株式会社アドテックエンジニアリング
760	わかもと製薬株式会社
761	株式会社重松製作所
762	荻野工業株式会社
763	株式会社加貫ローラ製作所
764	ロンシール工業株式会社
765	大和化成工業株式会社
766	株式会社デンソー山形
767	岩井機械工業株式会社
768	テクノエイト株式会社
769	マルウ接着株式会社 東京支店
770	株式会社 M i z k a n
771	クマリフト株式会社
772	ジェイーワイテックス株式会社
773	藤田螺子工業株式会社
774	山形航空電子株式会社
775	ストラパック株式会社
776	ヤンマーキャステクノ株式会社
777	株式会社新潟ジャムコ
778	平岡ボデー株式会社
779	株式会社鈴木シャッター
780	エア・ウォーター防災株式会社
781	阿波製紙株式会社
782	アダマンド並木精密宝石株式会社
783	小池酸素工業株式会社
784	株式会社日研工作所
785	日産モータースポーツ&カスタマイズ株式会社
786	山形サンケン株式会社
787	株式会社横森製作所
788	三輪精機株式会社
789	株式会社日立ニコトランスミッション
790	フォスター電機株式会社
791	タカヤ株式会社
792	太陽化学株式会社
793	シノブフーズ株式会社
794	住江織物株式会社
795	中部抵抗器株式会社
796	株式会社コタニ
797	キャノンモールド株式会社
798	株式会社栗山米菓
799	東洋シャッター株式会社
800	株式会社高見澤

N0	企業名
801	株式会社共和電業
802	アディエント合同会社
803	日工株式会社
804	株式会社啓愛社
805	武蔵エンジニアリング株式会社
806	大崎電気工業株式会社
807	前澤工業株式会社
808	拓南グループ
809	アスザックグループ
810	株式会社中西製作所
811	日本電産シンボ株式会社
812	住電装プラテック株式会社
813	大森機械工業株式会社
814	株式会社小野測器
815	四国化成工業株式会社
816	ラピスセミコンダクタ株式会社 宮城工場
817	株式会社ミヤザワ
818	アサヒフォージ株式会社
819	株式会社不二工機
820	株式会社正興電機製作所
821	丸玉木材株式会社 茨城工場
822	大成化工株式会社
823	株式会社キトー
824	株式会社ジェイテクトギヤシステム
825	株式会社ムロコーポレーション
826	株式会社フジマック
827	利昌工業株式会社
828	全星薬品工業株式会社
829	大日本塗料株式会社
830	B E M A C 株式会社
831	株式会社竹内製作所
832	住友ナコフォークリフト株式会社
833	共和レザー株式会社
834	ダイナパック株式会社
835	小倉クラッチ株式会社
836	株式会社あじかん
837	株式会社アーク
838	オイレス工業株式会社
839	あすか製薬株式会社
840	A G C グラスプロダクツ株式会社
841	株式会社児湯食鳥
842	株式会社鈴木
843	アイダエンジニアリング株式会社
844	株式会社大昌電子
845	株式会社新来島どっく
846	J F E 条鋼株式会社
847	株式会社三和化学研究所
848	日本トレクス株式会社
849	千住金属工業株式会社
850	株式会社アーレスティ

N0	企業名
851	理研計器株式会社
852	パナソニックライティングシステムズ株式会社
853	中央化学株式会社
854	J o y s o n S a f e t y S y s t e m s J a p a n 合同会社
855	信越ポリマー株式会社
856	株式会社シグマ
857	株式会社タツノ
858	株式会社廣澤精機製作所
859	株式会社日立ハイテクマニファクチャ&サービス
860	株式会社アイチコーポレーション
861	オカモト株式会社
862	新潟太陽誘電株式会社
863	ラッシュジャパン合同会社
864	田島ルーフィング株式会社
865	株式会社リブドゥコーポレーション 大阪本社
866	株式会社ジャムコ
867	株式会社デンソーウェーブ
868	株式会社クラウン・パッケージ
869	キオクシア岩手株式会社
870	日精樹脂工業株式会社
871	日清紡マイクロデバイス株式会社
872	西川ゴム工業株式会社
873	日東ベスト株式会社
874	豊生ブレーキ工業株式会社
875	旭有機材株式会社
876	株式会社コロナ
877	吉川工業株式会社
878	日本電気硝子株式会社
879	セントラル硝子株式会社
880	株式会社F U J I
881	U T パベック株式会社
882	株式会社日本製鋼所
883	株式会社三井ハイテック
884	三島光産株式会社
885	デクセリアルズ株式会社
886	日新電機株式会社
887	株式会社デンソーエレクトロニクス
888	オリエンタルモーター株式会社
889	株式会社 I J T T
890	オリエンタルモーター株式会社 鶴岡中央事業所
891	リンテック株式会社
892	太陽誘電株式会社
893	株式会社ミツバ
894	日本毛織株式会社
895	株式会社カネカ
896	株式会社オカムラ
897	レンゴー株式会社 東京本社
898	水 i n g 株式会社
899	株式会社前川製作所
900	株式会社伊藤園

N0	企業名
901	T D K 株式会社 本社地区採用
902	住友電装株式会社
903	日本精工株式会社 埼玉工場
904	日亜化学工業株式会社
905	富士電機株式会社
906	アイリスオーヤマ株式会社
907	オカダアイヨン株式会社
908	トピー工業株式会社
909	福助工業株式会社

教 員 名 簿

学 長 の 氏 名 等						
調書 番号	役職名	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額基本給 (千円)	現 職 (就任年月)
1	学長	サハ タヒロ 佐波 孝彦 ＜令和6年4月＞		博士 (工学)		千葉工業大学 情報科学部 教授 (平成21年4月)

（注） 高等専門学校にあっては校長について記入すること。

教 員 の 氏 名 等												
(情報変革科学部 情報工学科)												
調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
1	専	教授	カマクラ コウジ 鎌倉 浩嗣 ＜令和6年4月＞		博士(工学)		論理回路 アジャイルワーク1 デジタル信号処理 ゼミナール1 ゼミナール2 ゼミナール3 卒業研究	1前 1後 2後 3後 4前 4後 4通	2 2 2 2 2 2 5	1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 情報科学部 教授 (平成28年4月)	5日
2	専	教授	サハ タカヒコ 佐波 孝彦 ＜令和6年4月＞		博士(工学)		キャリアアップラーニング ソーシャルアクティブラーニング 初年次教育 ハッカソン1 クリティカルエンジニアリング デジタル通信 ゼミナール1 ゼミナール2 ゼミナール3 卒業研究	1・2・3・4 1・2・3・4 1前 2前 2後 3前 3後 4前 4後 4通	1 1 1 2 2 2 2 2 5	1 1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 情報科学部 教授 (平成21年4月)	5日
3	専	教授	ナカムラ ナオト 中村 直人 ＜令和6年4月＞		博士(工学)		グラフィックス クラウドコンピューティング ハッカソン2 ゼミナール1 ゼミナール2 ゼミナール3 卒業研究	1後 2前 3前 3後 4前 4後 4通	2 2 2 2 2 2 5	1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 情報科学部 教授 (平成13年4月)	5日
4	専	教授	ノブキリ ヲウ 信川 創 ＜令和6年4月＞		博士(応用情報科学)		アイディアソン 技術文章作成 フィジカルコンピューティング 機械学習 ゼミナール1 ゼミナール2 ゼミナール3 卒業研究	1前 1前 1前 3後 3後 4前 4後 4通	2 2 2 2 2 2 2 5	1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 情報科学部 教授 (令和4年4月)	5日
5	専	教授	マエカワ ヨシタカ 前川 仁孝 ＜令和6年4月＞		博士(工学)		アジャイルワーク2 オペレーティングシステム 人工知能 ゼミナール1 ゼミナール2 ゼミナール3 卒業研究	2後 3前 3後 3後 4前 4後 4通	2 2 2 2 2 2 5	1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 情報科学部 教授 (平成23年4月)	5日
6	専	准教授	アリモト キシロ 有本 泰子 ＜令和6年4月＞		博士(工学)		メディア処理 ハッカソン1 感性情報処理 ゼミナール1 ゼミナール2 ゼミナール3 卒業研究	1後 2前 3前 3後 4前 4後 4通	2 2 2 2 2 2 5	1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 情報科学部 准教授 (平成31年4月)	5日
7	専	准教授	スダ ヒロシ 須田 宇宙 ＜令和6年4月＞		博士(工学)		プログラミング言語 アイディアソン Webプログラミング 情報セキュリティ ゼミナール1 ゼミナール2 ゼミナール3 卒業研究	1前 1前 1後 3後 3後 4前 4後 4通	2 2 2 2 2 2 2 5	1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 情報科学部 准教授 (平成17年4月)	5日
8	専	准教授	セキネ コウタ 関根 晃太 ＜令和6年4月＞		博士(工学)		システム理論 数理モデリング ハッカソン2 ゼミナール1 ゼミナール2 ゼミナール3 卒業研究	2前 2後 3前 3後 4前 4後 4通	2 2 2 2 2 2 5	1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 情報科学部 准教授 (令和3年9月)	5日
9	専	准教授	タケダ ヨシユキ 武田 善行 ＜令和6年4月＞		博士(工学)		情報工学概論 データ通信 ソフトウェア工学 アジャイルワーク2 データベース ゼミナール1 ゼミナール2 ゼミナール3 卒業研究	1前 1後 2前 2後 3後 3後 4前 4後 4通	2 2 2 2 2 2 2 2 5	1 1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 社会システム科学部 准教授 (平成24年4月)	5日
10	専	助教	ミキ タイスカ 三木 大輔 ＜令和6年4月＞		博士(工学)		アジャイルワーク1 データサイエンス ビジュアル情報処理 ゼミナール1 ゼミナール2 ゼミナール3 卒業研究	1後 1後 2前 3後 4前 4後 4通	2 2 2 2 2 2 5	1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 情報科学部 助教 (令和3年9月)	5日
11	兼任	教授	アイワラ フミヒロ 相川 文弘 ＜令和6年4月＞		理学博士		物理の世界と先端技術	3前・後、4前	4	2	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成17年4月)	
12	兼任	教授	アイハラ ナオミ 相原 直美 ＜令和6年4月＞		修士(文学)		英語表現1 英語表現基礎1 英語理解1 英語理解基礎1 英語表現2 英語表現基礎2 英語理解2 英語理解基礎2 英語表現3 英語表現基礎3 英語理解3 英語理解基礎3 英語表現4 英語表現基礎4 英語理解4 英語理解基礎4 課題探究セミナー	1前 1前 1前 1前 1後 1後 1後 1後 2～3 2～3 2～3 2～3 2～3 2～3 2～3 2～3 2後	1 1 1 1 1 1 1 1 2 1 1 1 1 1 1 1 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成29年4月)	
13	兼任	教授	アンドウ マサカズ 安藤 雅和 ＜令和6年4月＞		博士(経営学)		ボランティア	1・2・3・4	1	1	千葉工業大学 社会システム科学部 教授 (平成28年4月)	
14	兼任	教授	イケダ マリ 池田 茉莉 ＜令和6年4月＞		博士(理学)		物質科学	3前・後、4前	4	2	千葉工業大学 教育センター 教授 (令和4年4月)	

15	兼任	教授	イシカワ コウイチロウ 石川 浩一郎 〈令和6年4月〉		博士 (知識科学)	数理・データサイエンス・AI入門 AI・プログラミング基礎演習	1 1～2	1 1	1 1	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成28年4月)	
16	兼任	教授	イズミ ヒデアキ 泉 英明 〈令和6年4月〉		博士 (理学)	数学基礎 微分積分 線形代数基礎 線形代数応用 線形代数特論 微分方程式 応用解析 初等整数論	1前 1後 2前 2後 3前 3中 3後 3後	2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成29年4月)	
17	兼任	教授	イノウ ケンシ 伊藤 剛司 〈令和6年4月〉		博士 (理学)	数学基礎 微分積分 線形代数基礎 線形代数応用 線形代数特論 初等整数論	1前 1後 2前 2後 3前 3後	2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成30年4月)	
18	兼任	教授	エチ トレキ 越智 敏之 〈令和6年4月〉		文学修士	英語表現 1 英語理解 1 英語理解発展 1 英語表現 2 英語理解 2 英語理解発展 2 英語表現 3 英語理解 3 英語理解発展 3 英語表現 4 英語理解 4 英語理解発展 4 課題探究セミナー	1前 1前 1前 1後 1後 1後 2～3 2～3 2～3 2～3 2～3 2～3 2後	1 1 1 1 1 1 2 1 1 1 1 1 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成27年4月)	
19	兼任	教授	カサマ ヨシオ 笠嶋 義夫 〈令和6年4月〉		博士 (工学)	環境科学概論 課題探究セミナー 物質科学	1前・後, 2前 2後 3前・後, 4前	2 2 4	1 1 2	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成23年4月)	
20	兼任	教授	カサハ カズヒロ 加藤 和彦 〈令和6年4月〉		博士 (工学)	国内インターン キャリアデザイン 1 キャリアデザイン 2 キャリアデザイン 3	1・2・3・4 1後 2前 3前	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 社会システム科学部 教授 (平成27年4月)	
21	兼任	教授	カネダ コウイチ 金田 晃一 〈令和6年4月〉		博士 (体育科学)	スポーツ科学 身体と健康の科学 課題探究セミナー スポーツアクティブラーニング	1前・後 1前・後, 2前 2後 3前・後, 4前・後	16 4 2 2	8 2 1 1	千葉工業大学 教育センター 教授 (令和3年4月)	
22	兼任	教授	カワタ アキヒサ 河田 明久 〈令和6年4月〉		修士 (文学)	日本語表現法 歴史と人間 総合学際科目 日本語アクティブラーニング 総合科学特論	1前 1前・後, 2前 2後 3前・後, 4前・後 3前・後, 4前・後	1 4 2 1 2	1 1 2 1 1	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成26年4月)	
23	兼任	教授	カワニ ノブキ 川西 範明 〈令和6年4月〉		博士 (スポーツ科学)	スポーツ科学 身体と健康の科学 課題探究セミナー スポーツアクティブラーニング	1前・後 1前・後, 2前 2後 3前・後, 4前・後	16 4 2 2	8 2 1 1	千葉工業大学 教育センター 教授 (令和4年4月)	
24	兼任	教授	キシマ アイ 木島 愛 〈令和6年4月〉		博士 (言語学)	言語と文化 1 言語と文化 2 総合学際科目	1前・後, 2前 1前・後, 2前 2後	4 4 2	2 2 1	千葉工業大学 教育センター 教授 (令和4年4月)	
25	兼任	教授	クサノ シゲユキ 草野 滋之 〈令和6年4月〉		文学修士	課題探究セミナー	2後	2	1	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成26年4月)	
26	兼任	教授	クニゾウ ケイイチ 軍司 圭一 〈令和6年4月〉		博士 (数理科学)	数学基礎 微分積分 線形代数基礎 線形代数応用 線形代数特論 応用解析 初等整数論	1前 1後 2前 2後 3前 3中 3後 3後	2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 教授 (令和5年4月)	
27	兼任	教授	コカ ケン 古賀 毅 〈令和6年4月〉		博士 (教育学)	現代社会論 課題探究セミナー 総合学際科目	1前・後, 2前 2後 2後	4 2 2	2 1 1	千葉工業大学 教育センター 教授 (令和5年4月)	
28	兼任	教授	コミヤ カズヒト 小宮 一仁 〈令和6年4月〉		博士 (工学)	総合科学特論	3前・後, 4前・後	2	1	千葉工業大学 工学部 教授 (平成13年4月)	
29	兼任	教授	サトウ ケンイチ 佐藤 憲一 〈令和6年4月〉		修士 (法学)	憲法と社会 課題探究セミナー 政治と社会	1前・後, 2前 2後 3前・後, 4前	4 2 4	2 1 2	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成27年4月)	
30	兼任	教授	サトウ ヤマト 佐藤 和 〈令和6年4月〉		博士 (学術)	スポーツ科学 身体と健康の科学 課題探究セミナー 総合科学特論 スポーツアクティブラーニング	1前・後 1前・後, 2前 2後 3前・後, 4前・後 3前・後, 4前・後	16 4 2 2 2	8 2 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 教授 (令和3年4月)	
31	兼任	教授	サカヤ トモキ 菅谷 知明 〈令和6年4月〉		博士 (理学)	物質科学	3前・後, 4前	2	1	千葉工業大学 教育センター 教授 (令和5年4月)	
32	兼任	教授	サキヤマ カズナリ 杉山 和成 〈令和6年4月〉		博士 (理学)	数学基礎 微分積分 線形代数基礎 線形代数応用 離散数学 微分方程式 応用解析 初等整数論	1前 1後 2前 2後 3前 3中 3後 3後	2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 教授 (令和5年4月)	
33	兼任	教授	スドウ イチオ 須藤 勲 〈令和6年4月〉		博士 (文学)	異文化理解 言語と文化 2 課題探究セミナー 国際社会論	1前・後, 2前 1前・後, 2前 2後 3前・後, 4前	4 4 2 4	2 2 1 2	千葉工業大学 教育センター 教授 (令和2年4月)	
34	兼任	教授	ツツシ イサヲ 筑紫 格 〈令和6年4月〉		博士 (理学)	物理の世界と先端技術	3前・後, 4前	4	2	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成24年4月)	
35	兼任	教授	フジモト マサノブ 榎本 昌信 〈令和6年4月〉		博士 (理学)	物質科学	3前・後, 4前	4	2	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成23年4月)	
36	兼任	教授	トウジウヨウ コウジ 東條 晃司 〈令和6年4月〉		博士 (理学)	数学基礎 微分積分 線形代数基礎 線形代数応用 線形代数特論	1前 1後 2前 2後 3前	2 2 2 2 2	1 1 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成23年4月)	
37	兼任	教授	トモキ ノリカズ 轟木 義一 〈令和6年4月〉		博士 (工学)	物理の世界と先端技術	3前・後, 4前	4	2	千葉工業大学 教育センター 教授 (令和2年4月)	
38	兼任	教授	トナミ コウイチ 利波 雄一 〈令和6年4月〉		文学修士	言語と文化 1	1前・後, 2前	4	2	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成20年4月)	

39	兼担	教授	ナガオ トモ 長尾 徹 〈令和6年4月〉	64	博士 (工学)	655	国際インターン	1・2・3・4	1	1	千葉工業大学 創造工学部 教授 (平成20年4月)	
40	兼担	教授	ハシグチ ヒデコ 橋口 秀子 〈令和6年4月〉		博士 (数理科 学)		数学基礎 微分積分 線形代数基礎 線形代数応用 線形代数特論 微分方程式 応用解析	1前 1後 2前 2後 3前 3前 3後	2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成26年4月)	
41	兼担	教授	ハシモト シュウイチ 橋本 修一 〈令和6年4月〉		文学修士		英語表現 1 英語表現 2 英語表現 3 英語表現 4 課題探究セミナー	1前 1後 2～3 2～3 2後	1 1 1 1 2	1 1 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成21年4月)	
42	兼担	教授	ハマノ シノブ 濱野 志保 〈令和6年4月〉		博士 (文学)		英語表現 1 英語理解発展 1 英語表現 2 英語理解発展 2 英語表現 3 英語理解発展 3 英語表現 4 英語理解発展 4 課題探究セミナー	1前 1前 1後 1後 2～3 2～3 2～3 2～3 2後	1 1 1 1 1 1 1 1 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 教授 (令和2年4月)	
43	兼担	教授	ハシザワリ ヨウコ 半沢 洋子 〈令和6年4月〉		博士 (理学)		物質科学	3前・後、4前	4	2	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成26年4月)	
44	兼担	教授	ヒガシヤマ コウジ 東山 幸司 〈令和6年4月〉		博士 (理学)		電気回路	1前	2	1	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成29年4月)	
45	兼担	教授	ヒキハラ ユウキ 引原 有輝 〈令和6年4月〉		博士 (体育科学)		スポーツ科学 身体と健康の科学 課題探究セミナー スポーツアクティブラーニング	1前・後 1前・後、2前 2後 3前・後、4前・後	12 4 2 2	3 2 1 1	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成30年4月)	
46	兼担	教授	ミムラ カチヒロ 三村 尚央 〈令和6年4月〉		博士 (文学)		英語理解 1 英語理解 2 英語理解 3 英語理解 4 課題探究セミナー イングリッシュアクティブラーニング 3 総合科学特論	1前 1後 2～3 2～3 2後 3前・後、4前・後 3前・後、4前・後	1 1 1 1 2 1 2	1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成31年4月)	
47	兼担	教授	ムロウ タカミ 武藤 巧 〈令和6年4月〉		理学博士		電気回路 物理の世界と先端技術	1前 3前・後、4前	2 4	1 2	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成19年4月)	
48	兼担	教授	ヤスダケ ノブトシ 安武 伸俊 〈令和6年4月〉		博士 (理学)		電気回路	1前	2	1	千葉工業大学 教育センター 教授 (令和4年4月)	
49	兼担	教授	ヤマウチ マサキ 山内 政樹 〈令和6年4月〉		博士 (文学)		英語表現 1 英語表現基礎 1 英語理解 1 英語理解基礎 1 英語理解発展 1 英語表現 2 英語表現基礎 2 英語理解 2 英語理解基礎 2 英語理解発展 2 英語表現 3 英語表現基礎 3 英語理解 3 英語理解基礎 3 英語理解発展 3 英語表現 4 英語表現基礎 4 英語理解 4 英語理解基礎 4 英語理解発展 4 英語表現 5 英語表現基礎 5 英語理解 5 英語理解基礎 5 英語理解発展 5 課題探究セミナー	1前 1前 1前 1前 1前 1後 1後 1後 1後 1後 2～3 2～3 2～3 2～3 2～3 2～3 2～3 2～3 2～3 2～3 2～3 2～3 2後	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 教授 (令和4年4月)	
50	兼担	教授	ヤマダ ヒロフミ 山田 宏文 〈令和6年4月〉		博士 (工学)		確率統計 統計解析	2前 3後	2 2	1 1	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成21年4月)	
51	兼担	教授	ヨシダ アキラ 吉田 聡 〈令和6年4月〉		博士 (文学)		日本語表現法 哲学 総合学際科目 日本語アクティブラーニング 技術者倫理	1前 1前・後、2前 2後 3前・後、4前・後 3後	1 4 2 1 2	1 2 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成25年4月)	
52	兼担	教授	リョウ イショウ 廖 伊庄 〈令和6年4月〉		文学士		言語と文化 1 言語と文化 2	1前・後、2前 1前・後、2前	4 4	2 2	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成31年4月)	
53	兼担	教授	ワタナベ ツトム 渡邊 努 〈令和6年4月〉		博士 (工学)		電気回路	1前	2	1	千葉工業大学 教育センター 教授 (令和3年4月)	
54	兼担	准教授	イトリ シュウヘイ 伊藤 晋平 〈令和6年4月〉		博士 (理学)		環境科学概論 課題探究セミナー 物質科学	1前・後、2前 2後 3前・後、4前	4 2 4	2 1 2	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成30年4月)	
55	兼担	准教授	エビス アキヒロ 蛭子 彰仁 〈令和6年4月〉		博士 (数理学)		数学基礎 微分積分 線形代数基礎 線形代数応用 離散数学 微分方程式 線形代数特論	1前 1後 2前 2後 3前 3前 3前	2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (令和3年4月)	
56	兼担	准教授	オオサキ トシヒコ 大貫 俊彦 〈令和6年4月〉		博士 (文学)		日本語表現法 文学と芸術 課題探究セミナー 総合学際科目 日本語アクティブラーニング	1前 1前・後、2前 2後 2後 3前・後、4前・後	1 4 2 2 1	1 2 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成31年4月)	
57	兼担	准教授	オノデラ カスヒロ 小野寺 一浩 〈令和6年4月〉		博士 (理学)		数学基礎 微分積分 線形代数基礎 線形代数応用 線形代数特論 離散数学 微分方程式 応用解析 初等整数論	1前 1後 2前 2後 3前 3前 3前 3後 3後	2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成29年4月)	
58	兼担	准教授	オミ ヒロリ 尾身 洋典 〈令和6年4月〉		博士 (理学)		物質科学	3前・後、4前	4	2	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成23年4月)	

59	兼任	准教授	キムラ ヒロコ 木村 博子 〈令和6年4月〉	博士 (国際文化)	英語理解 1 英語理解 2 英語理解 3 英語理解 4 課題探究セミナー	1前 1後 2～3 2～3 2後	1 1 1 1 2	1 1 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (令和4年4月)	
60	兼任	准教授	コバヤシ マナブ 小林 学 〈令和6年4月〉	博士 (学術)	科学技術史 課題探究セミナー	1前・後, 2前 2後	4 4	2 2	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成27年4月)	
61	兼任	准教授	サイ コカリ 砂井 紫里 〈令和6年4月〉	博士 (文学)	言語と文化 1 言語と文化 2 課題探究セミナー 国際社会論	1前・後, 2前 1前・後, 2前 2後 3前・後, 4前	4 4 2 4	2 2 1 2	千葉工業大学 教育センター 准教授 (令和2年4月)	
62	兼任	准教授	タニアイ テツユキ 谷合 哲行 〈令和6年4月〉	博士 (工学)	物質科学	3前・後, 4前	4	2	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成21年4月)	
63	兼任	准教授	トミヤマ ユカ 富山 豊 〈令和6年4月〉	博士 (文学)	日本語表現法 倫理学 日本語アクティブラーニング	1前 1前・後, 2前 3前・後, 4前・後	1 4 1	1 2 1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (令和5年4月)	
64	兼任	准教授	フクシマ ショウコ 福岡 尚子 〈令和6年4月〉	修士 (教育学)	日本語表現法 現代社会論 課題探究セミナー 総合学際科目	1前 1前・後, 2前 2後 2後	1 4 2 2	1 2 1 1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (令和3年4月)	
65	兼任	准教授	ホシノ ケイスケ 星野 慶介 〈令和6年4月〉	博士 (理学)	数学基礎 微分積分 確率統計 線形代数基礎 線形代数応用 微分方程式 線形代数特論 統計解析 応用解析	1前 1後 2前 2前 2後 3前 3前 3後 3後	2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成21年4月)	
66	兼任	准教授	ミナミサキ マユミ 南澤 磨優寛 〈令和6年4月〉	博士 (工学)	物質科学	3前・後, 4前	4	2	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成27年4月)	
67	兼任	准教授	ヤマシタ アツシ 山下 温 〈令和6年4月〉	博士 (数理科学)	数学基礎 微分積分 線形代数基礎 線形代数応用	1前 1後 2前 2後	2 2 2 2	1 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成29年4月)	
68	兼任	助教	イヅカヨウ 市川 洋子 〈令和6年4月〉	修士 (心理学)	心理学 課題探究セミナー	1前・後, 2前 2後	4 2	2 1	千葉工業大学 教育センター 助教 (平成19年4月)	
69	兼任	助教	エンドウ シンタロウ 遠藤 伸太郎 〈令和6年4月〉	博士 (コミュニティ福祉)	スポーツ科学 身体と健康の科学 課題探究セミナー スポーツアクティブラーニング	1前・後 1前・後, 2前 2後 3前・後, 4前・後	20 4 2 2	10 2 1 1	千葉工業大学 教育センター 助教 (令和3年9月)	
70	兼任	助教	カーリチャード・ジ・ジョンソン Kirk Richard Jonson 〈令和6年4月〉	修士 (文学)	英語表現発展 1 英語表現発展 2 英語表現発展 3 英語表現発展 4 イングリッシュアクティブラーニング 1 イングリッシュアクティブラーニング 2	1前 1後 2～3 2～3 3前 3後	1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 助教 (平成23年4月)	
71	兼任	助教	カハバリ ケンイチ 角張 健一 〈令和6年4月〉	理学修士	数理・データサイエンス・AI入門 AI・プログラミング基礎演習	1 1～2	1 1	1 1	千葉工業大学 教育センター 助教 (平成19年4月)	
72	兼任	助教	コエ アサヒ 近衛 飛鳥 〈令和6年4月〉	博士 (国際学)	言語と文化 1 言語と文化 2 国際社会論	1前・後, 2前 1前・後, 2前 3前・後, 4前	4 4 4	2 2 2	千葉工業大学 教育センター 助教 (令和4年4月)	
73	兼任	助教	シゲ アユミ 重 歩美 〈令和6年4月〉	博士 (教育学)	現代社会論 総合学際科目	1前・後, 2前 2後	4 2	2 1	千葉工業大学 教育センター 助教 (令和5年4月)	
74	兼任	助教	タカツ ユウスケ 高松 佑介 〈令和6年4月〉	博士 (学術)	言語と文化 1 言語と文化 2 異文化理解 課題探究セミナー 国際社会論	1前・後, 2前 1前・後, 2前 1前・後, 2前 2後 3前・後, 4前	4 4 4 2 4	2 2 2 1 2	千葉工業大学 教育センター 助教 (令和4年4月)	
75	兼任	助教	ナカチ チホ 仲町 千帆 〈令和6年4月〉	博士 (文学)	異文化理解 課題探究セミナー 総合学際科目 国際社会論	1前・後, 2前 2後 2後 3前・後, 4前	4 2 2 4	2 1 1 2	千葉工業大学 教育センター 助教 (平成28年4月)	
76	兼任	助教	ナカムラ トオル 中村 達 〈令和6年4月〉	修士 (文学)	英語表現 1 英語表現基礎 1 英語理解 1 英語理解基礎 1 英語表現 2 英語表現基礎 2 英語理解 2 英語理解基礎 2 英語表現 3 英語表現基礎 3 英語理解 3 英語表現 4 英語表現基礎 4 英語理解 4 英語表現基礎 4 英語理解 4 英語理解基礎 4 課題探究セミナー	1前 1前 1前 1前 1後 1後 1後 1後 1後 2～3 2～3 2～3 2～3 2～3 2～3 2～3 2～3 2～3 2後	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 助教 (令和4年4月)	
77	兼任	助教	ノムラ ユミ 野村 由美 〈令和6年4月〉	博士 (スポーツ科学)	スポーツ科学 身体と健康の科学 課題探究セミナー スポーツアクティブラーニング	1前・後 1前・後, 2前 2後 3前・後, 4前・後	12 4 2 2	6 2 1 1	千葉工業大学 教育センター 助教 (令和4年4月)	
78	兼任	講師	イヅカ ユウスケ 井口 祐介 〈令和6年4月〉	修士 (文学)	言語と文化 1	1前・後, 2前	4	2	千葉工業大学 兼任講師 (平成31年4月)	
79	兼任	講師	イケガキ サツキ 池田 さつき 〈令和6年4月〉	博士 (文学)	英語理解 1 英語理解 2 英語理解 3 英語理解 4	1前 1後 2～3 2～3	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成31年4月)	
80	兼任	講師	イズミ ミヨ 泉 光世 〈令和6年4月〉	Ph. D (教育学博士)	英語理解 1 英語理解 2 英語理解 3 英語理解 4	1前 1後 2～3 2～3	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成27年4月)	
81	兼任	講師	イトウ カツヒロ 伊藤 克彦 〈令和6年4月〉	博士 (法学)	グローバル時代の法	3前・後, 4前	4	2	千葉工業大学 兼任講師 (平成31年4月)	

82	兼任	講師	トリ ショウイチ 伊藤 樺一 〈令和6年4月〉		博士 (政策・メディア)		総合科学特論	3前・後, 4前・後	4	2	千葉工業大学 兼任講師 (令和3年11月)	
83	兼任	講師	トリ ショウイチ 伊藤 令枝 〈令和6年4月〉		修士 (心理学)		日本語表現法 心理学	1前 1前・後, 2前	1 4	1 2	千葉工業大学 兼任講師 (令和4年4月)	
84	兼任	講師	イマイ タカ 今井 拓 〈令和6年4月〉		保健福祉学 博士		現代社会論 総合科学特論	1前・後, 2前 3前・後, 4前・後	4 4	2 2	千葉工業大学 兼任講師 (平成24年4月)	
85	兼任	講師	カミムラ シノブ 上村 芳郎 〈令和6年4月〉		文学修士		哲学 倫理学	1前・後, 2前 1前・後, 2前	4 4	2 2	千葉工業大学 兼任講師 (平成11年4月)	
86	兼任	講師	カサハラ ユウ 鶴澤 由香 〈令和6年4月〉		博士 (理学)		地球科学	3前・後, 4前	4	2	千葉工業大学 兼任講師 (平成26年4月)	
87	兼任	講師	エダナ ナホ 江口 直日 〈令和6年4月〉		博士 (学術)		数学基礎 微分積分 離散数学	1前 1後 3前	2 2 2	1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成27年9月)	
88	兼任	講師	マサキ ケミコ 大柿 久美子 〈令和6年4月〉		理学博士		環境科学概論	1前・後, 2前	4	2	千葉工業大学 兼任講師 (平成27年4月)	
89	兼任	講師	マサキ アキ 大沢 晃子 〈令和6年4月〉		MA, TESOL		英語表現 1 英語表現 2 英語表現 3 英語表現 4	1前 1後 2～3 2～3	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成28年4月)	
90	兼任	講師	オホシ ユキカ 大西 幸周 〈令和6年4月〉		博士 (理学)		数理・データサイエンス・AI入門	1	1	1	千葉工業大学 兼任講師 (令和2年6月)	
91	兼任	講師	オサキ ヒロシ 大宮 弘 〈令和6年4月〉		文学修士		英語表現 1 英語表現 2 英語表現 3 英語表現 4	1前 1後 2～3 2～3	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成13年4月)	
92	兼任	講師	オダノ カツヒロ 小田井 勝彦 〈令和6年4月〉		修士 (文学)		英語理解 1 英語理解 2 英語理解 3 英語理解 4	1前 1後 2～3 2～3	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成19年4月)	
93	兼任	講師	オノ シュンロウ 小野 俊太郎 〈令和6年4月〉		文学修士		英語理解 1 英語理解 2 英語理解 3 英語理解 4	1前 1後 2～3 2～3	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成27年4月)	
94	兼任	講師	オハタ ヒロコ 小幡 裕子 〈令和6年4月〉		修士 (文学)		英語表現 1 英語表現発展 1 英語表現 2 英語表現発展 2 英語表現 3 英語表現発展 3 英語表現 4 英語表現発展 4	1前 1前 1後 1後 2～3 2～3 2～3 2～3	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成24年4月)	
95	兼任	講師	カサベ カナ 勝部 孝則 〈令和6年4月〉		博士 (理学)		生命科学	3前・後, 4前	4	2	千葉工業大学 兼任講師 (令和3年4月)	
96	兼任	講師	カサハラ フミキ 加藤 伸幸 〈令和6年4月〉		博士 (理学)		数学基礎 微分積分 微分方程式	1前 1後 3前	2 2 2	1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成20年9月)	
97	兼任	講師	カサハラ マコト 加藤 誠 〈令和6年4月〉		文学修士		英語表現 1 英語理解 1 英語表現 2 英語理解 2 英語表現 3 英語理解 3 英語表現 4 英語理解 4	1前 1前 1後 1後 2～3 2～3 2～3 2～3	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成9年4月)	
98	兼任	講師	キムラ ケイジ 木村 啓二 〈令和6年4月〉		博士 (工学)		高性能計算	3後	2	1	千葉工業大学 兼任講師 (令和3年4月)	
99	兼任	講師	クノウ リキ 工藤 瑞輝 〈令和6年4月〉		博士 (学術)		科学技術史	1前・後, 2前	4	2	千葉工業大学 兼任講師 (令和5年4月)	
100	兼任	講師	コシカワ エリ 越川 瑛理 〈令和6年4月〉		修士 (文学)		言語と文化 1 言語と文化 2	1前・後, 2前 1前・後, 2前	4 4	2 2	千葉工業大学 兼任講師 (令和5年4月)	
101	兼任	講師	コジマ カズエ 小島 和枝 〈令和6年4月〉		博士 (人文科学)		英語理解 1 英語理解 2 英語理解 3 英語理解 4	1前 1後 2～3 2～3	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成31年4月)	
102	兼任	講師	コバヤシ タカヨシ 小林 忠好 〈令和6年4月〉		文学修士		英語表現 1 英語理解 1 英語表現 2 英語理解 2 英語表現 3 英語理解 3 英語表現 4 英語理解 4	1前 1前 1後 1後 2～3 2～3 2～3 2～3	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成26年4月)	
103	兼任	講師	コバヤシ マサト 小林 雅人 〈令和6年4月〉		Doctor of philosophy		線形代数基礎 線形代数応用 離散数学	2前 2後 3前	2 2 2	1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (令和4年4月)	
104	兼任	講師	コヤマ ユタム 小山 努 〈令和6年4月〉		修士 (英米文化)		英語表現 1 英語理解 1 英語表現 2 英語理解 2 英語表現 3 英語理解 3 英語表現 4 英語理解 4	1前 1前 1後 1後 2～3 2～3 2～3 2～3	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (令和3年4月)	
105	兼任	講師	サイリョウカウ 坂井 竜太郎 〈令和6年4月〉		修士 (文学)		英語表現 1 英語理解 1 英語表現 2 英語理解 2 英語表現 3 英語理解 3 英語表現 4 英語理解 4	1前 1前 1後 1後 2～3 2～3 2～3 2～3	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成20年4月)	
106	兼任	講師	ササノ コウスケ 笹野 祐輔 〈令和6年4月〉		博士 (理学)		確率統計 微分方程式 統計解析	2前 3前 3後	2 2 2	1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成25年4月)	
107	兼任	講師	サトウ コウヤ 佐藤 皓也 〈令和6年4月〉		博士 (スポーツ科学)		スポーツ科学	1前・後	8	4	千葉工業大学 兼任講師 (令和5年4月)	
108	兼任	講師	サカキ ヨシノブ 佐藤 陽介 〈令和6年4月〉		博士 (文学)		言語と文化 2	1前・後, 2前	4	2	千葉工業大学 兼任講師 (平成31年4月)	
109	兼任	講師	シバタ アキ 柴田 葵 〈令和6年4月〉		博士 (文学)		日本語表現法	1前	1	1	千葉工業大学 兼任講師 (平成28年4月)	

110	兼任	講師	シメダ アツコ 霜田 敦子 〈令和6年4月〉	博士 (文学)		英語表現 1 英語表現 2 英語表現 3 英語表現 4	1前 1後 2～3 2～3	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成26年4月)	
111	兼任	講師	シメダ アツコ 首藤 亨 〈令和6年4月〉	文学修士		言語と文化 1 言語と文化 2	1前・後, 2前 1前・後, 2前	4 4	2 2	千葉工業大学 兼任講師 (平成11年4月)	
112	兼任	講師	スズキ ヒサキ 須田 久美 〈令和6年4月〉	修士 (文学)		文学と芸術	1前・後, 2前	4	2	千葉工業大学 兼任講師 (令和4年4月)	
113	兼任	講師	カノ マサキ 田代 雅幸 〈令和6年4月〉	博士 (言語学)		言語と文化 1	1前・後, 2前	4	2	千葉工業大学 兼任講師 (令和5年4月)	
114	兼任	講師	カサ ショウ 多田 佳子 〈令和6年4月〉	文学士		言語と文化 1 言語と文化 2	1前・後, 2前 1前・後, 2前	4 4	2 2	千葉工業大学 兼任講師 (平成8年4月)	
115	兼任	講師	カサ ヒデアキ 田中 秀和 〈令和6年4月〉		理学博士	数学基礎	1前	2	1	千葉工業大学 兼任講師 (平成25年9月)	
116	兼任	講師	カサ ミツシ 田村 充司 〈令和6年4月〉	博士 (理学)		数学基礎 微分積分 微分方程式	1前 1後 3前	2 2 2	1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成31年4月)	
117	兼任	講師	ナカガワ タイスケ 中川 太介 〈令和6年4月〉	博士 (文学)		日本語表現法 歴史と人間	1前 1前・後, 2前	1 4	1 2	千葉工業大学 兼任講師 (令和2年4月)	
118	兼任	講師	ナカムラ アスカ 中村 あすか 〈令和6年4月〉	博士 (工学)		数値解析 アルゴリズムとデータ構造 情報理論	3前 3前 3後	2 2 2	1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (令和元年9月)	
119	兼任	講師	ニシガキ ミコ 西口 美津子 〈令和6年4月〉	博士 (工学)		英語表現 1 英語表現 2 英語表現 3 英語表現 4	1前 1後 2～3 2～3	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (令和3年4月)	
120	兼任	講師	ヌカワ ユミコ 布川 由美子 〈令和6年4月〉	博士 (Ph. D.)		英語表現 1 英語表現 2 英語表現 3 英語表現 4	1前 1後 2～3 2～3	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成31年4月)	
121	兼任	講師	ノブサキ ヨシタキ 信澤 由之 〈令和6年4月〉	博士 (経済学)		経済学	3前・後, 4前	4	2	千葉工業大学 兼任講師 (平成29年9月)	
122	兼任	講師	ノムラ ミチキ 野村 美由紀 〈令和6年4月〉	修士 (イギリス文学)		英語理解 1 英語理解 2 英語理解 3 英語理解 4	1前 1後 2～3 2～3	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (令和3年4月)	
123	兼任	講師	ハセガワ ミチキ 長谷川 みゆき 〈令和6年4月〉	修士 (法学)		総合科学特論 グローバル時代の法	1前 3前・後, 4前	2 4	1 2	千葉工業大学 兼任講師 (令和3年4月)	
124	兼任	講師	ハシグタ ユウジ 畠山 雄二 〈令和6年4月〉	博士 (情報科学)		英語表現発展 1 英語表現発展 2 英語表現発展 3 英語表現発展 4	1前 1後 2～3 2～3	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成26年4月)	
125	兼任	講師	ハマダ ナオキ 浜田 直道 〈令和6年4月〉	工学士		数理・データサイエンス・A I 入門	1	1	1	千葉工業大学 兼任講師 (平成7年4月)	
126	兼任	講師	ヒロシ ノブタカ 日吉 信貴 〈令和6年4月〉	修士 (学術)		英語理解 1 英語理解 2 英語理解 3 英語理解 4	1前 1後 2～3 2～3	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (令和4年4月)	
127	兼任	講師	ヒシヤコ コウスケ 鴻 浩介 〈令和6年4月〉	博士 (文学)		哲学	1前・後, 2前	4	2	千葉工業大学 兼任講師 (令和4年4月)	
128	兼任	講師	ヒロセ アキラ 廣瀬 伸良 〈令和6年4月〉		医学博士	スポーツ科学	1前・後	8	4	千葉工業大学 兼任講師 (昭和63年4月)	
129	兼任	講師	フジイ ユミコ 藤井 佑実子 〈令和6年4月〉	博士 (学術)		心理学	1前・後, 2前	4	2	千葉工業大学 兼任講師 (令和3年4月)	
130	兼任	講師	フジタ キョウ 藤田 響 〈令和6年4月〉	博士 (理学)		確率統計 離散数学 統計解析	2前 3前 3後	2 2 2	1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成26年4月)	
131	兼任	講師	フジタ タカオ 藤田 崇夫 〈令和6年4月〉	文学修士		英語表現 1 英語表現 2 英語表現 3 英語表現 4	1前 1後 2～3 2～3	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成29年4月)	
132	兼任	講師	フセ カタル 布施 薫 〈令和6年4月〉	修士 (文学)		日本語表現法	1前	1	1	千葉工業大学 兼任講師 (平成28年4月)	
133	兼任	講師	フカカリ サトシ 古川 寛 〈令和6年4月〉	博士 (医学)		スポーツ科学 身体と健康の科学	1前・後 1前・後, 2前	8 4	4 2	千葉工業大学 兼任講師 (平成30年4月)	
134	兼任	講師	ヘミ オサム 邊見 統 〈令和6年4月〉	博士 (史学)		言語と文化 2	1前・後, 2前	4	2	千葉工業大学 兼任講師 (令和5年4月)	
135	兼任	講師	マチダ シンゴ 町田 純子 〈令和6年4月〉	Master of Arts		英語理解 1 英語理解 2 英語理解 3 英語理解 4	1前 1後 2～3 2～3	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成11年4月)	
136	兼任	講師	マサムネ ヒナコ 松村 比奈子 〈令和6年4月〉	博士 (法学)		憲法と社会 政治と社会	1前・後, 2前 3前・後, 4前	4 4	2 2	千葉工業大学 兼任講師 (平成17年4月)	
137	兼任	講師	マルヤマ フミカ 丸山 文隆 〈令和6年4月〉	博士 (文学)		倫理学	1前・後, 2前	4	2	千葉工業大学 兼任講師 (令和4年4月)	
138	兼任	講師	ミウラ リュウスケ 三浦 龍介 〈令和6年4月〉	修士 (文学)		異文化理解	1前・後, 2前	4	2	千葉工業大学 兼任講師 (令和4年4月)	
139	兼任	講師	ミナモト ヤスヒロ 峯村 康広 〈令和6年4月〉	博士 (日本文学)		日本語表現法 文学と芸術	1前 1前・後, 2前	2 4	1 2	千葉工業大学 兼任講師 (令和3年4月)	
140	兼任	講師	ミヘ コウジ 三部 祐治 〈令和6年4月〉	修士 (文学)		英語表現 1 英語表現 2 英語表現 3 英語表現 4	1前 1後 2～3 2～3	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成14年4月)	
141	兼任	講師	モトシ シウイ 本吉 洋一 〈令和6年4月〉		理学博士	地球科学	3前・後, 4前	4	2	千葉工業大学 兼任講師 (令和2年4月)	
142	兼任	講師	モリ ソウマ 森 創摩 〈令和6年4月〉		言語学博士	英語表現 1 英語表現 2 英語表現 3 英語表現 4	1前 1後 2～3 2～3	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (令和2年4月)	
143	兼任	講師	モリシタ マサアキ 森下 正昭 〈令和6年4月〉		Doctor of Philosophy	英語表現 1 英語表現 2 英語表現 3 英語表現 4	1前 1後 2～3 2～3	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (令和4年4月)	
144	兼任	講師	モリハヤシ シュンスケ 森林 駿介 〈令和6年4月〉	博士 (文学)		言語と文化 1	1前・後, 2前	4	2	千葉工業大学 兼任講師 (令和5年4月)	

145	兼任	講師	ヤキ モチコ 八木 茂那子 〈令和6年4月〉		文学修士	英語表現 1 英語理解 1 英語表現 2 英語理解 2 英語表現 3 英語理解 3 英語表現 4 英語理解 4	1前 1前 1後 1後 2～3 2～3 2～3 2～3	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成22年4月)	
146	兼任	講師	ヤシマ ヒロヒコ 矢島 浩彦 〈令和6年4月〉		博士 (医学)	生命科学	3前・後、4前	4	2	千葉工業大学 兼任講師 (令和4年4月)	
147	兼任	講師	ヤシマ リ 矢嶋 瑠莉 〈令和6年4月〉		修士 (文学)	英語表現 1 英語表現 2 英語表現 3 英語表現 4	1前 1後 2～3 2～3	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (令和4年4月)	
148	兼任	講師	ヤマモト クミ 山本 久美 〈令和6年4月〉		文学修士	英語表現 1 英語理解 1 英語表現 2 英語理解 2 英語表現 3 英語理解 3 英語表現 4 英語理解 4	1前 1前 1後 1後 2～3 2～3 2～3 2～3	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (昭和63年4月)	

(注)

- 1 教員の数に応じ、適宜枠を増やして記入すること。
- 2 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の出容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合又は大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 「申請に係る学部等に従事する適当な平均日数」の欄は、専任教員のみ記載すること。

教 員 の 氏 名 等												
(情報変革科学部 認知情報科学科)												
調 書 番 号	専 任 等 区 分	職 位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年 齢	保 有 学 位 等	月 額 基 本 給 (千円)	担当授業科目の名称	配 当 年 次	担 当 単 位 数	年 間 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学等の 職務に従事する 週当たり平均日数
1	専	教授	イマイ シンイチ 今井 順一 ＜令和6年4月＞		博士 (工学)		認知情報科学入門※ 認知科学概論※ 認知情報科学実験 1 マルチメディア基礎 2 ヒューマンコンピュータインタラクション ゼミナール 1 ゼミナール 2 ゼミナール 3 ゼミナール 4 卒業研究	1前 1後 2前 2後 3前 3後 4前 4後 4通	0.2 0.8 2 2 2 2 2 2 2 5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 情報科学部 教授 (平成28年4月)	5日
2	専	教授	カサハラ ヒロト 小笠原 秀人 ＜令和6年4月＞		博士 (工学)		認知情報科学入門※ 認知情報科学演習 ソフトウェア基礎 2 ソフトウェア工学 ゼミナール 1 プロジェクトマネジメント ゼミナール 2 ゼミナール 3 ゼミナール 4 卒業研究	1前 2前 2後 3前 3後 3後 4前 4後 4通	0.2 2 2 2 2 2 2 2 2 5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 社会システム科学部 教授 (平成30年4月)	5日
3	専	教授	クニミヤ ヒサヨシ 國宗 永佳 ＜令和6年4月＞		博士 (工学)		認知情報科学入門※ 認知情報科学演習 ネットワーク基礎 2 学びの科学・工学※ ネットワーク応用 ゼミナール 1 ゼミナール 2 ゼミナール 3 ゼミナール 4 卒業研究	1前 1後 2後 2後 3前 3前 3前 3後 4前 4後 4通	0.2 1 2 0.6 2 2 2 2 2 2 5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 情報科学部 教授 (平成29年4月)	5日
4	専	教授	タカキ アヤ 高木 彩 ＜令和6年4月＞		博士 (社会学)		認知情報科学入門※ 認知科学概論※ 認知科学基礎 1 認知情報科学実験 2 コミュニケーション ゼミナール 1 インターネットの心理学 ゼミナール 2 ゼミナール 3 ゼミナール 4 卒業研究	1前 1後 2前 2後 3前 3前 3後 3後 4前 4後 4通	0.2 0.8 2 2 2 2 2 2 2 2 5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 社会システム科学部 教授 (令和4年4月)	5日
5	専	教授	タカハシ アキコ 高橋 暁子 ＜令和6年4月＞		博士 (学術)		認知情報科学入門※ 情報科学概論※ ソフトウェア基礎 1 認知情報科学実験 2 学びの科学・工学※ ゼミナール 1 フィールド調査※ ゼミナール 2 ゼミナール 3 ゼミナール 4 卒業研究	1前 1後 2前 2後 3前 3前 3後 3後 4前 4後 4通	1.2 0.6 2 2 0.6 2 0.9 2 2 2 5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 情報科学部 教授 (令和3年4月)	5日
6	専	教授	フジタ シゲル 藤田 茂 ＜令和6年4月＞		博士 (工学)		認知情報科学入門※ プログラミング演習 情報科学概論※ ネットワーク基礎 1 ゼミナール 1 センシングとIoT ゼミナール 2 ゼミナール 3 ゼミナール 4 卒業研究	1前 1前 1後 1後 2前 3前 3後 3後 4前 4後 4通	0.2 2 0.6 2 2 2 2 2 2 2 5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 情報科学部 教授 (平成24年4月)	5日
7	専	准教授	ハシガタ タモハル 長谷川 為春 ＜令和6年4月＞		博士 (工学)		認知情報科学入門※ 認知情報科学演習 マルチメディア基礎 1 コンピュータビジョン ゼミナール 1 グラフィックス ゼミナール 2 ゼミナール 3 ゼミナール 4 卒業研究	1前 1後 2前 3前 3前 3後 3後 4前 4後 4通	0.2 2 2 2 2 2 2 2 2 5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 情報科学部 准教授 (平成21年4月)	5日
8	専	准教授	マナベ コウスケ 眞部 雄介 ＜令和6年4月＞		博士 (情報科学)		認知情報科学入門※ 人工知能基礎 1 認知情報科学実験 2 マシンラーニング ゼミナール 1 データマイニング ゼミナール 2 ゼミナール 3 ゼミナール 4 卒業研究	1前 2前 2後 3前 3前 3後 3後 4前 4後 4通	0.2 2 2 2 2 2 2 2 2 5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 情報科学部 准教授 (平成25年4月)	5日
9	専	准教授	ヤマザキ オサム 山崎 治 ＜令和6年4月＞		博士 (学術)		認知情報科学入門※ プログラミング演習 認知科学概論※ 認知科学基礎 2 認知科学応用 学びの科学・工学※ ゼミナール 1 デザインと表現 ゼミナール 2 ゼミナール 3 ゼミナール 4 卒業研究	1前 1前 1後 2後 3前 3前 3前 3後 3後 4前 4後 4通	0.2 2 0.8 2 2 0.8 2 2 2 2 2 5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 情報科学部 准教授 (平成22年4月)	5日
10	専	助教	カネキ ヒロ 多胡 輝一 ＜令和6年4月＞		博士 (人間科学)		認知情報科学入門※ 情報科学概論※ 認知情報科学実験 1 人工知能基礎 2 ゼミナール 1 自然言語処理 ゼミナール 2 ゼミナール 3 ゼミナール 4 卒業研究	1前 2前 2後 2後 3前 3後 3後 4前 4後 4通	1.2 0.8 2 2 2 2 2 2 2 5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 情報科学部 助教 (令和3年4月)	5日
11	兼担	教授	アベラ フミロ 相川 文弘 ＜令和6年4月＞		理学博士		物理の世界と先端技術	3前・後、4前	4	2	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成17年4月)	

12	兼担	教授	アハラ ナミ 相原 直美 〈令和6年4月〉	修士 (文学)	英語表現 1 英語表現基礎 1 英語理解 1 英語理解基礎 1 英語表現 2 英語表現基礎 2 英語理解 2 英語理解基礎 2 英語表現 3 英語表現基礎 3 英語理解 3 英語理解基礎 3 英語表現 4 英語表現基礎 4 英語理解 4 英語理解基礎 4 課題探究セミナー	1前 1前 1前 1前 1後 1後 1後 1後 2～3 2～3 2～3 2～3 2～3 2～3 2～3 2～3 2後	1 1 1 1 1 1 1 1 2 1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成29年4月)	
13	兼担	教授	アンドウ マサズ 安藤 雅和 (令和6年4月)	博士 (経営学)	ボランティア	1・2・3・4	1	1	千葉工業大学 社会システム科学部 教授 (平成28年4月)	
14	兼担	教授	イケガ マリ 池田 茉莉 〈令和6年4月〉	博士 (理学)	物質科学	3前・後, 4前	4	2	千葉工業大学 教育センター 教授 (令和4年4月)	
15	兼担	教授	イシカワ コウイチロウ 石川 浩一郎 〈令和6年4月〉	博士 (知識科学)	数理・データサイエンス・A I 入門 A I・プログラミング基礎演習	1 1～2	1 1	1 1	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成28年4月)	
16	兼担	教授	イズミ ヒデアキ 泉 英明 〈令和6年4月〉	博士 (理学)	数学基礎 線形代数基礎 微分積分 線形代数応用 微分方程式 応用解析 線形代数特論 初等整数論	1前 1前 1後 1後 2前 2後 3前 3後	2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成29年4月)	
17	兼担	教授	イトウ フヨシ 伊藤 剛司 〈令和6年4月〉	博士 (理学)	数学基礎 線形代数基礎 線形代数応用 微分積分 線形代数特論 初等整数論	1前 1前 1後 1後 3前 3後	2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成30年4月)	
18	兼担	教授	イシノベ 越智 敏之 〈令和6年4月〉	文学修士	英語表現 1 英語理解 1 英語理解発展 1 英語表現 2 英語理解 2 英語理解発展 2 英語表現 3 英語理解 3 英語理解発展 3 英語表現 4 英語理解 4 英語理解発展 4 課題探究セミナー	1前 1前 1前 1後 1後 1後 2～3 2～3 2～3 2～3 2～3 2～3 2後	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成27年4月)	
19	兼担	教授	カサノマ ヨシオ 笠嶋 義夫 〈令和6年4月〉	博士 (工学)	環境科学概論 課題探究セミナー 物質科学	1前・後, 2前 2後 3前・後, 4前	2 2 4	1 1 2	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成23年4月)	
20	兼担	教授	カトウ カズヒロ 加藤 和彦 〈令和6年4月〉	博士 (工学)	国内インターン キャリアデザイン 1 キャリアデザイン 2 キャリアデザイン 3	1・2・3・4 1後 2前 3前	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 社会システム科学部 教授 (平成27年4月)	
21	兼担	教授	カネタニ コウイチ 金田 晃一 〈令和6年4月〉	博士 (体育科学)	スポーツ科学 身体と健康の科学 課題探究セミナー スポーツアクティブラーニング	1前・後 1前・後, 2前 2後 3前・後, 4前・後	16 4 2 2	8 2 1 1	千葉工業大学 教育センター 教授 (令和3年4月)	
22	兼担	教授	カワタ アキヒ 河田 明久 〈令和6年4月〉	修士 (文学)	日本語表現法 歴史と人間 総合学際科目 日本語アクティブラーニング 総合科学特論	1前 1前・後, 2前 2後 3前・後, 4前・後 3前・後, 4前・後	1 4 2 1 2	1 1 2 1 1	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成26年4月)	
23	兼担	教授	カニシ リアキ 川西 範明 〈令和6年4月〉	博士 (スポーツ科学)	スポーツ科学 身体と健康の科学 課題探究セミナー スポーツアクティブラーニング	1前・後 1前・後, 2前 2後 3前・後, 4前・後	16 4 2 2	8 2 1 1	千葉工業大学 教育センター 教授 (令和4年4月)	
24	兼担	教授	キシマ アイ 木島 愛 〈令和6年4月〉	博士 (言語学)	言語と文化 1 言語と文化 2 総合学際科目	1前・後, 2前 1前・後, 2前 2後	4 4 2	2 2 1	千葉工業大学 教育センター 教授 (令和4年4月)	
25	兼担	教授	クサノ シンジ 草野 滋之 〈令和6年4月〉	文学修士	課題探究セミナー	2後	2	1	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成26年4月)	
26	兼担	教授	クサツ ケイイチ 軍司 圭一 〈令和6年4月〉	博士 (数理解科学)	数学基礎 線形代数基礎 微分積分 線形代数応用 応用解析 線形代数特論 初等整数論	1前 1前 1後 1後 2前 2後 3前 3後	2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 教授 (令和5年4月)	
27	兼担	教授	コガキ フヨシ 古賀 毅 〈令和6年4月〉	博士 (教育学)	現代社会論 課題探究セミナー 総合学際科目	1前・後, 2前 2後 2後	4 2 2	2 1 1	千葉工業大学 教育センター 教授 (令和5年4月)	
28	兼担	教授	コシキ カズヒト 小宮 一仁 〈令和6年4月〉	博士 (工学)	総合科学特論	3前・後, 4前・後	2	1	千葉工業大学 工学部 教授 (平成13年4月)	
29	兼担	教授	サトウ ケンイチ 佐藤 憲一 〈令和6年4月〉	修士 (法学)	憲法と社会 課題探究セミナー 政治と社会	1前・後, 2前 2後 3前・後, 4前	4 2 4	2 2 2	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成27年4月)	
30	兼担	教授	サトウ ヤマト 佐藤 和 〈令和6年4月〉	博士 (学術)	スポーツ科学 身体と健康の科学 課題探究セミナー 総合科学特論 スポーツアクティブラーニング	1前・後 1前・後, 2前 2後 3前・後, 4前・後 3前・後, 4前・後	16 4 2 2 2	8 2 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 教授 (令和3年4月)	
31	兼担	教授	サバシ タカヒロ 佐波 孝彦 〈令和6年4月〉	博士 (工学)	初年次教育 キャリアアップラーニング ソーシャルアクティブラーニング	1前 1・2・3・4 1・2・3・4	1 1 1	1 1 1	千葉工業大学 情報科学部 教授 (平成21年4月)	
32	兼担	教授	サカベ トモアキ 菅谷 知明 〈令和6年4月〉	博士 (理学)	物質科学	3前・後, 4前	2	1	千葉工業大学 教育センター 教授 (令和5年4月)	
33	兼担	教授	サキヤマ カズナリ 杉山 和成 〈令和6年4月〉	博士 (理学)	数学基礎 線形代数基礎 微分積分 線形代数応用 微分方程式 離散数学 応用解析 初等整数論	1前 1前 1後 1後 2前 2後 2後 3後	2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 教授 (令和5年4月)	
34	兼担	教授	スドウ イチ 須藤 勲 〈令和6年4月〉	博士 (文学)	異文化理解 言語と文化 2 課題探究セミナー 国際社会論	1前・後, 2前 1前・後, 2前 2後 3前・後, 4前	4 4 2 4	2 2 1 2	千葉工業大学 教育センター 教授 (令和2年4月)	
35	兼担	教授	ツカシ イサヲ 筑紫 格 〈令和6年4月〉	博士 (理学)	物理の世界と先端技術	3前・後, 4前	4	2	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成24年4月)	
36	兼担	教授	ツチモト マサノブ 槌本 昌信 〈令和6年4月〉	博士 (理学)	物質科学	3前・後, 4前	4	2	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成23年4月)	

37	兼担	教授	トウジ ヨウ コウジ 東條 晃司 〈令和6年4月〉	博士 (理学)		数学基礎 線形代数基礎 微分積分 線形代数応用 線形代数特論	1前 1前 1後 1後 3前	2 2 2 2 2	1 1 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成23年4月)	
38	兼担	教授	トモト カキト 東本 崇仁 〈令和6年4月〉	博士 (工学)		フィールド調査	3後	2	1	千葉工業大学 情報科学部 教授 (令和6年4月)	
39	兼担	教授	トノネ リカス 森本 義一 〈令和6年4月〉	博士 (工学)		物理の世界と先端技術	3前・後, 4前	4	2	千葉工業大学 教育センター 教授 (令和2年4月)	
40	兼担	教授	トネ コウイチ 利波 雄一 〈令和6年4月〉	文学修士		言語と文化 1	1前・後, 2前	4	2	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成20年4月)	
41	兼担	教授	ナガオ トオル 長尾 徹 〈令和6年4月〉	博士 (工学)		国際インターン	1・2・3・4	1	1	千葉工業大学 創造工学部 教授 (平成20年4月)	
42	兼担	教授	ハシグチ ヒデユ 橋口 秀子 〈令和6年4月〉	博士 (数理学)		数学基礎 線形代数基礎 微分積分 線形代数応用 微分方程式 応用解析 線形代数特論	1前 1前 1後 1後 2前 2後 3前	2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成26年4月)	
43	兼担	教授	ハシモト シュウイチ 橋本 修一 〈令和6年4月〉	文学修士		英語表現 1 英語表現 2 英語表現 3 英語表現 4 課題探究セミナー	1前 1後 2～3 2～3 2後	1 1 1 1 2	1 1 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成21年4月)	
44	兼担	教授	ハヤシ シノブ 濱野 志保 〈令和6年4月〉	博士 (文学)		英語表現 1 英語理解発展 1 英語表現 2 英語理解発展 2 英語表現 3 英語理解発展 3 英語表現 4 英語理解発展 4 課題探究セミナー	1前 1前 1後 1後 2～3 2～3 2～3 2～3 2後	1 1 1 1 1 1 1 1 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 教授 (令和2年4月)	
45	兼担	教授	ハシヅリ ヨウコ 半沢 洋子 〈令和6年4月〉	博士 (理学)		物質科学	3前・後, 4前	4	2	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成25年4月)	
46	兼担	教授	ヒシハラ ユウキ 引原 有輝 〈令和6年4月〉	博士 (体育科学)		スポーツ科学 身体と健康の科学 課題探究セミナー スポーツアクティブラーニング	1前・後 1前・後, 2前 2後 3前・後, 4前・後	12 4 2 2	3 2 1 1	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成30年4月)	
47	兼担	教授	ミナモト カキヒロ 三村 尚央 〈令和6年4月〉	博士 (文学)		英語理解 1 英語理解 2 英語理解 3 英語理解 4 課題探究セミナー イングリッシュ・アクティブラーニング 3 総合科学特論	1前 1後 2～3 2～3 2後 3前・後, 4前・後 3前・後, 4前・後	1 1 1 1 2 1 2	1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成31年4月)	
48	兼担	教授	ムロツキ タカミ 武藤 巧 〈令和6年4月〉	理学博士		物理の世界と先端技術	3前・後, 4前	4	2	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成19年4月)	
49	兼担	教授	ヤマナカ マサキ 山内 政樹 〈令和6年4月〉	博士 (文学)		英語表現 1 英語表現基礎 1 英語理解 1 英語理解基礎 1 英語理解発展 1 英語表現 2 英語表現基礎 2 英語理解 2 英語理解基礎 2 英語理解発展 2 英語表現 3 英語表現基礎 3 英語理解 3 英語理解基礎 3 英語理解発展 3 英語表現 4 英語表現基礎 4 英語理解 4 英語理解基礎 4 英語理解発展 4 英語表現 5 英語表現基礎 5 英語理解 5 英語理解基礎 5 英語理解発展 5 課題探究セミナー	1前 1前 1前 1前 1前 1後 1後 1後 1後 1後 2～3 2～3 2～3 2～3 2～3 2～3 2～3 2～3 2～3 2～3 2～3 2後	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 教授 (令和4年4月)	
50	兼担	教授	ヤマカハタ ヒロミ 山田 宏文 〈令和6年4月〉	博士 (工学)		確率統計 統計解析	2前 2後	2 2	1 1	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成21年4月)	
51	兼担	教授	ヨシタ アキラ 吉田 聡 〈令和6年4月〉	博士 (文学)		日本語表現法 哲学 総合学際科目 日本語アクティブラーニング 技術者倫理	1前 1前・後, 2前 2後 3前・後, 4前・後 3後	1 4 2 1 2	1 2 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 教授 (令和4年4月)	
52	兼担	教授	リョウ イショウ 廖 伊庄 〈令和6年4月〉	文学士		言語と文化 1 言語と文化 2	1前・後, 2前 1前・後, 2前	4 4	2 2	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成31年4月)	
53	兼担	准教授	イトウ ショウヘイ 伊藤 晋平 〈令和6年4月〉	博士 (理学)		環境科学概論 課題探究セミナー 物質科学	1前・後, 2前 2後 3前・後, 4前	4 2 4	2 1 2	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成30年4月)	
54	兼担	准教授	エビス アキヒト 蛭子 彰仁 〈令和6年4月〉	博士 (数理学)		数学基礎 線形代数基礎 微分積分 線形代数応用 微分方程式 離散数学 線形代数特論	1前 1前 1後 1後 2前 2後 3前	2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (令和3年4月)	
55	兼担	准教授	オオサキ トシヒコ 大貫 俊彦 〈令和6年4月〉	博士 (文学)		日本語表現法 文学と芸術 課題探究セミナー 総合学際科目 日本語アクティブラーニング	1前 1前・後, 2前 2後 2後 3前・後, 4前・後	1 4 2 2 1	1 2 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成31年4月)	
56	兼担	准教授	オノデラ ヒロ 小野寺 一浩 〈令和6年4月〉	博士 (理学)		数学基礎 線形代数基礎 微分積分 線形代数応用 微分方程式 離散数学 応用解析 線形代数特論 初等整数論	1前 1前 1後 1後 2前 2後 2後 2後 3前 3後	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成29年4月)	
57	兼担	准教授	オノ ヒロノリ 尾身 洋典 〈令和6年4月〉	博士 (理学)		物質科学	3前・後, 4前	4	2	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成23年4月)	

58	兼担	准教授	キムラ ヒロコ 木村 博子 〈令和6年4月〉	博士 (国際文化)	英語理解 1 英語理解 2 英語理解 3 英語理解 4 課題探究セミナー	1前 1後 2～3 2～3 2後	1 1 1 1 2	1 1 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (令和4年4月)	
59	兼担	准教授	コバヤシ マサブ 小林 学 〈令和6年4月〉	博士 (学術)	科学技術史 課題探究セミナー	1前・後, 2前 2後	4 4	2 2	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成27年4月)	
60	兼担	准教授	イシ ユカリ 砂井 崇里 〈令和6年4月〉	博士 (文学)	言語と文化 1 言語と文化 2 課題探究セミナー 国際社会論	1前・後, 2前 1前・後, 2前 2後 3前・後, 4前	4 4 2 4	2 2 1 2	千葉工業大学 教育センター 准教授 (令和2年4月)	
61	兼担	准教授	タニアイ アツシ 谷合 哲行 〈令和6年4月〉	博士 (工学)	物質科学	3前・後, 4前	4	2	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成21年4月)	
62	兼担	准教授	トミマ ユカ 富山 豊 〈令和6年4月〉	博士 (文学)	日本語表現法 論理学 日本語アクティブラーニング	1前 1前・後, 2前 3前・後, 4前・後	1 4 1	1 2 1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (令和5年4月)	
63	兼担	准教授	フクシマ ショウコ 福嶋 尚子 〈令和6年4月〉	博士 (教育学)	日本語表現法 現代社会論 課題探究セミナー 総合学際科目	1前 1前・後, 2前 2後 2後	1 4 2 2	1 2 1 1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (令和3年4月)	
64	兼担	准教授	ホシノ ケイタ 星野 慶介 〈令和6年4月〉	博士 (理学)	数学基礎 線形代数基礎 微分積分 線形代数応用 確率統計 微分方程式 統計解析 応用解析 線形代数特論	1前 1前 1後 1後 2前 2前 2後 2後 3前	2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成21年4月)	
65	兼担	准教授	シメヅリ マユミ 南澤 磨優寛 〈令和6年4月〉	博士 (工学)	物質科学	3前・後, 4前	4	2	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成27年4月)	
66	兼担	准教授	ヤマシタ アツシ 山下 温 〈令和6年4月〉	博士 (数理科学)	数学基礎 線形代数基礎 微分積分 線形代数応用	1前 1前 1後 1後	2 2 2 2	1 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成29年4月)	
67	兼担	助教	イヅカリ ヨウコ 市川 洋子 〈令和6年4月〉	修士 (文学)	心理学 課題探究セミナー	1前・後, 2前 2後	4 2	2 1	千葉工業大学 教育センター 助教 (平成19年4月)	
68	兼担	助教	エンドウ シンタロウ 遠藤 伸太郎 〈令和6年4月〉	博士 (スポーツ科学)	スポーツ科学 身体と健康の科学 課題探究セミナー スポーツアクティブラーニング	1前・後 1前・後, 2前 2後 3前・後, 4前・後	20 4 2 2	10 2 1 1	千葉工業大学 教育センター 助教 (令和3年9月)	
69	兼担	助教	キークリフ・リチャード・ジョンソン Kirk Richard Jonson 〈令和6年4月〉	博士 (学術)	英語表現発展 1 英語表現発展 2 英語表現発展 3 英語表現発展 4 イングリッシュアクティブラーニング 1 イングリッシュアクティブラーニング 2	1前 1後 2～3 2～3 3前 3後	1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 助教 (平成23年4月)	
70	兼担	助教	カハバリ ケンイチ 角張 健一 〈令和6年4月〉	博士 (言語学)	数理・データサイエンス・AI入門 AI・プログラミング基礎演習	1 1～2	1 1	1 1	千葉工業大学 教育センター 助教 (平成19年4月)	
71	兼担	助教	コノエ アツシ 近衛 飛鳥 〈令和6年4月〉	博士 (史学)	言語と文化 1 言語と文化 2 国際社会論	1前・後, 2前 1前・後, 2前 3前・後, 4前	4 4 4	2 2 2	千葉工業大学 教育センター 助教 (令和4年4月)	
72	兼担	助教	シノベ ユミ 重 歩美 〈令和6年4月〉	博士 (教育学)	現代社会論 総合学際科目	1前・後, 2前 2後	4 2	2 1	千葉工業大学 教育センター 助教 (令和5年4月)	
73	兼担	助教	カハワ ユウタ 高松 佑介 〈令和6年4月〉	博士 (学術)	言語と文化 1 言語と文化 2 異文化理解 課題探究セミナー 国際社会論	1前・後, 2前 1前・後, 2前 1前・後, 2前 2後 3前・後, 4前	4 4 4 2 4	2 2 2 2 2	千葉工業大学 教育センター 助教 (令和4年4月)	
74	兼担	助教	ナカマチ テオ 仲町 千帆 〈令和6年4月〉	博士 (文学)	異文化理解 課題探究セミナー 総合学際科目 国際社会論	1前・後, 2前 2後 2後 3前・後, 4前	4 2 2 4	2 1 1 2	千葉工業大学 教育センター 助教 (平成28年4月)	
75	兼担	助教	ナカムラ トモ 中村 達 〈令和6年4月〉	修士 (文学)	英語表現 1 英語表現基礎 1 英語理解 1 英語理解基礎 1 英語表現 2 英語表現基礎 2 英語理解 2 英語理解基礎 2 英語表現 3 英語表現基礎 3 英語理解 3 英語理解基礎 3 英語表現 4 英語表現基礎 4 英語理解 4 英語理解基礎 4 課題探究セミナー	1前 1前 1前 1前 1後 1後 1後 1後 2～3 2～3 2～3 2～3 2～3 2～3 2～3 2～3 2後	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 助教 (令和4年4月)	
76	兼担	助教	ノムラ ユミ 野村 由実 〈令和6年4月〉	博士 (スポーツ科学)	スポーツ科学 身体と健康の科学 課題探究セミナー スポーツアクティブラーニング	1前・後 1前・後, 2前 2後 3前・後, 4前・後	12 4 2 2	6 2 1 1	千葉工業大学 教育センター 助教 (令和4年4月)	
77	兼任	講師	イグチ ユウタ 井口 祐介 〈令和6年4月〉	修士 (文学)	言語と文化 1	1前・後, 2前	4	2	千葉工業大学 兼任講師 (平成31年4月)	
78	兼任	講師	イケガキ ケンキ 池田 さつき 〈令和6年4月〉	博士 (文学)	英語理解 1 英語理解 2 英語理解 3 英語理解 4	1前 1後 2～3 2～3	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成31年4月)	
79	兼任	講師	イズミ ミヨ 泉 光世 〈令和6年4月〉	Ph. D (教育学博士)	英語理解 1 英語理解 2 英語理解 3 英語理解 4	1前 1後 2～3 2～3	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成27年4月)	
80	兼任	講師	イトウ カツコ 伊藤 克彦 〈令和6年4月〉	博士 (法学)	グローバル時代の法	3前・後, 4前	4	2	千葉工業大学 兼任講師 (平成31年4月)	
81	兼任	講師	イトウ ショウイチ 伊藤 權一 〈令和6年4月〉	博士 (政策・メディア)	総合科学特論	3前・後, 4前・後	4	2	千葉工業大学 兼任講師 (令和3年11月)	
82	兼任	講師	イトウ ケン 伊藤 令枝 〈令和6年4月〉	修士 (心理学)	日本語表現法 心理学	1前 1前・後, 2前	1 4	1 2	千葉工業大学 兼任講師 (令和4年4月)	
83	兼任	講師	イノウエ ケン 今井 拓 〈令和6年4月〉	保健福祉学博士	現代社会論 総合科学特論	1前・後, 2前 3前・後, 4前・後	4 4	2 2	千葉工業大学 兼任講師 (平成24年4月)	
84	兼任	講師	カスミ ユウロウ 上村 芳郎 〈令和6年4月〉	文学修士	哲学 論理学	1前・後, 2前 1前・後, 2前	4 4	2 2	千葉工業大学 兼任講師 (平成11年4月)	
85	兼任	講師	カサリ ユキ 鶴澤 由香 〈令和6年4月〉	博士 (理学)	地球科学	3前・後, 4前	4	2	千葉工業大学 兼任講師 (平成26年4月)	

86	兼任	講師	エグチ ナヒ 江口 直日 〈令和6年4月〉		博士 (学術)		数学基礎 微分積分 離散数学	1前 1後 2後	2 2 1	1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成27年9月)	
87	兼任	講師	オオキ ナツコ 大柿 久美子 〈令和6年4月〉		理学博士		環境科学概論	1前・後, 2前	4	2	千葉工業大学 兼任講師 (平成27年4月)	
88	兼任	講師	オオツリ アツコ 大沢 晃子 〈令和6年4月〉		MA, TESOL		英語表現 1 英語表現 2 英語表現 3 英語表現 4	1前 1後 2～3 2～3	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成28年4月)	
89	兼任	講師	オオシ ユキカ 大西 幸周 〈令和6年4月〉		博士 (理学)		数理・データサイエンス・A 1 入門	1	1	1	千葉工業大学 兼任講師 (令和2年6月)	
90	兼任	講師	オオミヤ ヒロシ 大宮 弘 〈令和6年4月〉		文学修士		英語表現 1 英語表現 2 英語表現 3 英語表現 4	1前 1後 2～3 2～3	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成13年4月)	
91	兼任	講師	オダノ ナツコ 小田井 勝彦 〈令和6年4月〉		修士 (文学)		英語理解 1 英語理解 2 英語理解 3 英語理解 4	1前 1後 2～3 2～3	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成19年4月)	
92	兼任	講師	オノ シンタロウ 小野 俊太郎 〈令和6年4月〉		文学修士		英語理解 1 英語理解 2 英語理解 3 英語理解 4	1前 1後 2～3 2～3	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成27年4月)	
93	兼任	講師	オホタ ヒロコ 小幡 裕子 〈令和6年4月〉		修士 (文学)		英語表現 1 英語表現発展 1 英語表現 2 英語表現発展 2 英語表現 3 英語表現発展 3 英語表現 4 英語表現発展 4	1前 1前 1後 1後 2～3 2～3 2～3 2～3	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成24年4月)	
94	兼任	講師	オホセ ナツノ 勝部 孝則 〈令和6年4月〉		博士 (理学)		生命科学	3前・後, 4前	4	2	千葉工業大学 兼任講師 (令和3年4月)	
95	兼任	講師	オホノ ノブユキ 加藤 伸幸 〈令和6年4月〉		博士 (理学)		数学基礎 微分積分 微分方程式	1前 1後 2前	2 2 2	1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成20年9月)	
96	兼任	講師	オホノ マコト 加藤 誠 〈令和6年4月〉		文学修士		英語表現 1 英語理解 1 英語表現 2 英語理解 2 英語表現 3 英語理解 3 英語表現 4 英語理解 4	1前 1前 1後 1後 2～3 2～3 2～3 2～3	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成9年4月)	
97	兼任	講師	オホノ マサヒ 清田 守 〈令和6年4月〉		博士 (工学)		経営システム工学	3後	2	1	千葉工業大学 兼任講師 (平成31年4月)	
98	兼任	講師	オホノ ケイ 工藤 瑞輝 〈令和6年4月〉		博士 (学術)		科学技術史	1前・後, 2前	4	2	千葉工業大学 兼任講師 (令和5年4月)	
99	兼任	講師	オシカワ エリ 越川 瑛理 〈令和6年4月〉		修士 (文学)		言語と文化 1 言語と文化 2	1前・後, 2前 1前・後, 2前	4 4	2 2	千葉工業大学 兼任講師 (令和5年4月)	
100	兼任	講師	コジマ ナツエ 小島 和枝 〈令和6年4月〉		博士 (人文科学)		英語理解 1 英語理解 2 英語理解 3 英語理解 4	1前 1後 2～3 2～3	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成31年4月)	
101	兼任	講師	コバヤシ ナツヨシ 小林 忠好 〈令和6年4月〉		文学修士		英語表現 1 英語理解 1 英語表現 2 英語理解 2 英語表現 3 英語理解 3 英語表現 4 英語理解 4	1前 1前 1後 1後 2～3 2～3 2～3 2～3	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成26年4月)	
102	兼任	講師	コバヤシ マサト 小林 雅人 〈令和6年4月〉		Doctor of philosophy		線形代数基礎 線形代数応用 離散数学	1前 1後 2後	2 2 2	1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (令和4年4月)	
103	兼任	講師	コヤマ フトム 小山 努 〈令和6年4月〉		修士 (英米文化)		英語表現 1 英語理解 1 英語表現 2 英語理解 2 英語表現 3 英語理解 3 英語表現 4 英語理解 4	1前 1前 1後 1後 2～3 2～3 2～3 2～3	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (令和3年4月)	
104	兼任	講師	サカイ リュウタロウ 坂井 竜太郎 〈令和6年4月〉		修士 (文学)		英語表現 1 英語理解 1 英語表現 2 英語理解 2 英語表現 3 英語理解 3 英語表現 4 英語理解 4	1前 1前 1後 1後 2～3 2～3 2～3 2～3	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成20年4月)	
105	兼任	講師	ササノ コウスケ 笹野 祐輔 〈令和6年4月〉		博士 (理学)		確率統計 微分方程式 統計解析	2前 2前 2後	2 2 2	1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成25年4月)	
106	兼任	講師	サトウ コウヤ 佐藤 皓也 〈令和6年4月〉		博士 (スポーツ科学)		スポーツ科学	1前・後	8	4	千葉工業大学 兼任講師 (令和5年4月)	
107	兼任	講師	サトリヨシタカ 佐藤 陽介 〈令和6年4月〉		博士 (文学)		言語と文化 2	1前・後, 2前	4	2	千葉工業大学 兼任講師 (平成31年4月)	
108	兼任	講師	シバタ アオイ 柴田 葵 〈令和6年4月〉		博士 (文学)		日本語表現法	1前	1	1	千葉工業大学 兼任講師 (平成28年4月)	
109	兼任	講師	シモガキ アツコ 霜田 敦子 〈令和6年4月〉		博士 (文学)		英語表現 1 英語表現 2 英語表現 3 英語表現 4	1前 1後 2～3 2～3	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成26年4月)	
110	兼任	講師	シメノ トモル 首藤 亨 〈令和6年4月〉		文学修士		言語と文化 1 言語と文化 2	1前・後, 2前 1前・後, 2前	4 4	2 2	千葉工業大学 兼任講師 (平成11年4月)	
111	兼任	講師	スズキ ナツメ 須田 久美 〈令和6年4月〉		修士 (文学)		文学と芸術	1前・後, 2前	4	2	千葉工業大学 兼任講師 (令和4年4月)	
112	兼任	講師	タノベ マサユキ 田代 雅幸 〈令和6年4月〉		博士 (言語学)		言語と文化 1	1前・後, 2前	4	2	千葉工業大学 兼任講師 (令和5年4月)	
113	兼任	講師	タナベ ショウ 多田 佳子 〈令和6年4月〉		文学士		言語と文化 1 言語と文化 2	1前・後, 2前 1前・後, 2前	4 4	2 2	千葉工業大学 兼任講師 (平成8年4月)	
114	兼任	講師	タナベ ヒロユキ 田中 秀和 〈令和6年4月〉		理学博士		数学基礎	1前	2	1	千葉工業大学 兼任講師 (平成25年9月)	
115	兼任	講師	タナベ ユウジ 田村 亮司 〈令和6年4月〉		博士 (理学)		数学基礎 微分積分 微分方程式	1前 1後 2前	2 2 2	1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成31年4月)	
116	兼任	講師	ナカガキ リンタ 中川 太介 〈令和6年4月〉		博士 (文学)		日本語表現法 歴史と人間	1前 1前・後, 2前	1 4	1 2	千葉工業大学 兼任講師 (令和2年4月)	
117	兼任	講師	ニシガキ ミチコ 西口 美津子 〈令和6年4月〉		博士 (工学)		英語表現 1 英語表現 2 英語表現 3 英語表現 4	1前 1後 2～3 2～3	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (令和3年4月)	

118	兼任	講師	スノリ ミコ 布川 由美子 〈令和6年4月〉	博士 (Ph. D.)		英語表現 1 英語表現 2 英語表現 3 英語表現 4	1前 1後 2～3 2～3	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成31年4月)	
119	兼任	講師	ノブ キリ 信澤 由之 〈令和6年4月〉	博士 (経済学)		経済学	3前・後, 4前	4	2	千葉工業大学 兼任講師 (平成29年9月)	
120	兼任	講師	ノム ミキ 野村 美由紀 〈令和6年4月〉	修士 (イギリス文学)		英語理解 1 英語理解 2 英語理解 3 英語理解 4	1前 1後 2～3 2～3	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (令和3年4月)	
121	兼任	講師	ハチノリ ミキ 長谷川 みゆき 〈令和6年4月〉	修士 (法学)		総合科学特論 グローバル時代の法	1前 3前・後, 4前	2 4	1 2	千葉工業大学 兼任講師 (令和3年4月)	
122	兼任	講師	ハナタマ ユウジ 畠山 雄二 〈令和6年4月〉	博士 (情報科学)		英語表現発展 1 英語表現発展 2 英語表現発展 3 英語表現発展 4	1前 1後 2～3 2～3	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成26年4月)	
123	兼任	講師	ハナタ コウキ 濱田 浩気 〈令和6年4月〉	博士 (情報学)		アルゴリズムとデータ構造	3前	2	1	千葉工業大学 兼任講師 (令和4年4月)	
124	兼任	講師	ハナタ ナオキ 浜田 直道 〈令和6年4月〉	工学士		数理・データサイエンス・A1 入門	1	1	1	千葉工業大学 兼任講師 (平成7年4月)	
125	兼任	講師	ヒヨ ノブヲ 日吉 信貴 〈令和6年4月〉	修士 (学術)		英語理解 1 英語理解 2 英語理解 3 英語理解 4	1前 1後 2～3 2～3	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (令和4年4月)	
126	兼任	講師	ヒシヤコ コウサ 鴻 浩介 〈令和6年4月〉	博士 (文学)		哲学	1前・後, 2前	4	2	千葉工業大学 兼任講師 (令和4年4月)	
127	兼任	講師	ヒロ ノブヨシ 廣瀬 伸良 〈令和6年4月〉	医学博士		スポーツ科学	1前・後	8	4	千葉工業大学 兼任講師 (昭和63年4月)	
128	兼任	講師	フイ ミミコ 藤井 佑美子 〈令和6年4月〉	博士 (学術)		心理学	1前・後, 2前	4	2	千葉工業大学 兼任講師 (令和3年4月)	
129	兼任	講師	フシタ キョウ 藤田 馨 〈令和6年4月〉	博士 (理学)		離散統計 離散数学 統計解析	2前 2後 2後	2 2 2	1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成26年4月)	
130	兼任	講師	フシタ ナオ 藤田 崇夫 〈令和6年4月〉	文学修士		英語表現 1 英語表現 2 英語表現 3 英語表現 4	1前 1後 2～3 2～3	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成29年4月)	
131	兼任	講師	フセ ナオ 布施 薫 〈令和6年4月〉	修士 (文学)		日本語表現法	1前	1	1	千葉工業大学 兼任講師 (平成28年4月)	
132	兼任	講師	フルヲ トロ 古川 健 〈令和6年4月〉	博士 (医学)		スポーツ科学 身体と健康の科学	1前・後 1前・後, 2前	8 4	4 2	千葉工業大学 兼任講師 (平成20年4月)	
133	兼任	講師	ヘミ サム 邊見 統 〈令和6年4月〉	博士 (史学)		言語と文化 2	1前・後, 2前	4	2	千葉工業大学 兼任講師 (令和5年4月)	
134	兼任	講師	マダラ シンコ 町田 純子 〈令和6年4月〉	Master of Arts		英語理解 1 英語理解 2 英語理解 3 英語理解 4	1前 1後 2～3 2～3	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成11年4月)	
135	兼任	講師	マムア ヒコ 松村 比奈子 〈令和6年4月〉	博士 (法学)		憲法と社会 政治と社会	1前・後, 2前 3前・後, 4前	4 4	2 2	千葉工業大学 兼任講師 (平成17年4月)	
136	兼任	講師	マルマ フミヲ 丸山 文隆 〈令和6年4月〉	博士 (文学)		倫理学	1前・後, 2前	4	2	千葉工業大学 兼任講師 (令和4年4月)	
137	兼任	講師	ウツ リョウタ 三浦 龍介 〈令和6年4月〉	修士 (文学)		異文化理解	1前・後, 2前	4	2	千葉工業大学 兼任講師 (令和4年4月)	
138	兼任	講師	ミナモト ヤスヒロ 峯村 康広 〈令和6年4月〉	博士 (日本文学)		日本語表現法 文学と芸術	1前 1前・後, 2前	2 4	1 2	千葉工業大学 兼任講師 (令和3年4月)	
139	兼任	講師	ミナモト ユウジ 三浦 祐治 〈令和6年4月〉	修士 (文学)		英語表現 1 英語表現 2 英語表現 3 英語表現 4	1前 1後 2～3 2～3	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成14年4月)	
140	兼任	講師	モトヨシ ヨウイチ 本吉 洋一 〈令和6年4月〉	理学博士		地球科学	3前・後, 4前	4	2	千葉工業大学 兼任講師 (令和2年4月)	
141	兼任	講師	モリ リカマ 森 創摩 〈令和6年4月〉	言語学博士		英語表現 1 英語表現 2 英語表現 3 英語表現 4	1前 1後 2～3 2～3	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (令和2年4月)	
142	兼任	講師	モリタ マサキ 森下 正昭 〈令和6年4月〉	Doctor of Philosophy		英語表現 1 英語表現 2 英語表現 3 英語表現 4	1前 1後 2～3 2～3	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (令和4年4月)	
143	兼任	講師	モリハヤシ シンタカ 森林 駿介 〈令和6年4月〉	博士 (文学)		言語と文化 1	1前・後, 2前	4	2	千葉工業大学 兼任講師 (令和5年4月)	
144	兼任	講師	ヤク モナコ 八木 茂那子 〈令和6年4月〉	文学修士		英語表現 1 英語理解 1 英語表現 2 英語理解 2 英語表現 3 英語理解 3 英語表現 4 英語理解 4	1前 1前 1後 1後 2～3 2～3 2～3 2～3	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成22年4月)	
145	兼任	講師	ヤシマ ヒロコ 矢島 浩彦 〈令和6年4月〉	博士 (医学)		生命科学	3前・後, 4前	4	2	千葉工業大学 兼任講師 (令和4年4月)	
146	兼任	講師	ヤシマ ルリ 矢嶋 瑠莉 〈令和6年4月〉	修士 (文学)		英語表現 1 英語表現 2 英語表現 3 英語表現 4	1前 1後 2～3 2～3	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (令和4年4月)	
147	兼任	講師	ヤマモト カミ 山本 久美 〈令和6年4月〉	文学修士		英語表現 1 英語理解 1 英語表現 2 英語理解 2 英語表現 3 英語理解 3 英語表現 4 英語理解 4	1前 1前 1後 1後 2～3 2～3 2～3 2～3	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (昭和63年4月)	

(注)

- 1 教員の数に応じ、適宜枠を増やして記入すること。
- 2 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校 の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合又は大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 「申請に係る学部等に従事する週当たりの平均日数」の欄は、専任教員のみ記載すること。

教 員 の 氏 名 等													
(情報変革科学部 高度応用情報科学科)													
調査 番号	専任 等 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単 位 数	年 間 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学 等の職務に従事 する 週当たり平均日 数	
1	専	教授	クマモト タダヒコ 熊本 忠彦 ＜令和6年4月＞		博士 (工学)		高度応用情報科学概論1※ 情報リテラシ演習1 ICT基礎 情報リテラシ演習2 TCP/IP概論 高度応用情報科学概論2※ Webプログラミング基礎実験 Webプログラミング応用実験 高度応用情報科学ゼミナール1 高度応用情報科学ゼミナール2 高度応用情報科学ゼミナール3 卒業研究	1前 1前 1後 1後 2前 2後 2後 3前 3後 3後 4前 4後 4通	0.3 2 2 2 2 2 0.3 2 2 2 2 2 5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 情報科学部 教授 (平成22年4月)	5日	
2	専	教授	ジヨ ハルキ 徐 春暉 ＜令和6年4月＞		博士 (工学)		高度応用情報科学概論1※ 数理モデリング 高度応用情報科学概論2※ データサイエンス入門 データサイエンス演習 金融工学 高度応用情報科学ゼミナール1 高度応用情報科学ゼミナール2 高度応用情報科学ゼミナール3 卒業研究	1前 2前 2後 2後 2後 3前 3後 4前 4後 4通	0.2 2 0.2 2 2 2 2 2 2 5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 社会システム科学部 教授 (平成20年4月)	5日	
3	専	教授	タシロ セイロ 滝 聖子 ＜令和6年4月＞		博士 (工学)		高度応用情報科学概論1※ 高度応用情報科学概論2※ 行動科学分析 マルチメディア情報処理 人間工学 高度応用情報科学ゼミナール1 高度応用情報科学ゼミナール2 高度応用情報科学ゼミナール3 卒業研究	1前 2後 3前 3前 3後 3後 4前 4後 4通	0.2 0.2 2 2 2 2 2 2 5	1 1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 社会システム科学部 教授 (平成31年4月)	5日	
4	専	教授	ニシマツ ケン 西松 研 ＜令和6年4月＞		博士 (工学)		高度応用情報科学概論1※ 高度応用情報科学概論2※ 情報ネットワーク サイバーセキュリティ サイバーセキュリティ実験 高度応用情報科学ゼミナール1 高度応用情報科学ゼミナール2 高度応用情報科学ゼミナール3 卒業研究	1前 2後 2後 3後 3後 3後 4前 4後 4通	0.2 0.2 2 2 2 2 2 2 5	1 1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 社会システム科学部 教授 (令和4年4月)	5日	
5	専	教授	ヤシロ トモユキ 屋代 智之 ＜令和6年4月＞		博士 (工学)		高度応用情報科学概論1※ 情報メディア基礎 NWプログラミング基礎演習 NWプログラミング応用演習 高度応用情報科学概論2※ LAN IoTシステム 高度応用情報科学ゼミナール1 高度応用情報科学ゼミナール2 高度応用情報科学ゼミナール3 卒業研究	1前 2前 2前 2後 2後 3前 3後 3後 4前 4後 4通	0.3 2 2 2 0.3 2 2 2 2 2 5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 情報科学部 教授 (平成21年4月)	5日	
6	専	教授	ヤマカチ サトシ 山口 智 ＜令和6年4月＞		博士 (工学)		高度応用情報科学概論1※ 離散数学 高度応用情報科学概論2※ 機械学習基礎 ソフトウェアコンピューティング 機械学習応用 高度応用情報科学ゼミナール1 高度応用情報科学ゼミナール2 高度応用情報科学ゼミナール3 卒業研究	1前 2前 2後 3前 3前 3後 3後 4前 4後 4通	0.3 2 0.3 2 2 2 2 2 2 5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 情報科学部 教授 (平成31年4月)	5日	
7	専	准教授	キタムラ マサヒト 喜多村 正仁 ＜令和6年4月＞		博士 (理学)		高度応用情報科学概論1※ 情報数学1 高度応用情報科学概論2※ 社会数理モデリング 情報数学2 高度応用情報科学ゼミナール1 高度応用情報科学ゼミナール2 高度応用情報科学ゼミナール3 卒業研究	1前 2前 2後 2後 2後 3後 4前 4後 4通	0.2 2 0.2 2 2 2 2 2 5	1 1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 社会システム科学部 准教授 (平成30年4月)	5日	
8	専	准教授	ハラ ヒデキ 原 英樹 ＜令和6年4月＞		博士 (工学)		高度応用情報科学概論1※ NWプログラミング基礎演習 高度応用情報科学概論2※ OSとシステムソフトウェア NWプログラミング応用演習 データベース Webプログラミング基礎実験 高度応用情報科学ゼミナール1 高度応用情報科学ゼミナール2 高度応用情報科学ゼミナール3 卒業研究	1前 2前 2後 2後 2後 3前 3前 3後 4前 4後 4通	0.2 2 0.2 2 2 2 2 2 2 5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 情報科学部 准教授 (平成18年4月)	5日	
9	専	准教授	ヤブキ タロウ 矢吹 太朗 ＜令和6年4月＞		博士 (科学)		高度応用情報科学概論1※ 情報リテラシ 情報リテラシ演習1 情報リテラシ演習2 データ構造とアルゴリズム 高度応用情報科学概論2※ データサイエンス演習 高度応用情報科学ゼミナール1 高度応用情報科学ゼミナール2 高度応用情報科学ゼミナール3 卒業研究	1前 1前 1前 1後 2前 2後 2後 3後 4前 4後 4通	0.2 2 2 2 2 0.2 2 2 2 2 5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 社会システム科学部 准教授 (平成24年4月)	5日	
10	専	助教	ナカガワ ヤスヒロ 中川 泰宏 ＜令和6年4月＞		修士 (工学)		高度応用情報科学概論1※ 高度応用情報科学概論2※ クラウドコンピューティング クラウド構築演習 ソフトウェア工学 Webプログラミング応用実験 IoTシステム構築実験 高度応用情報科学ゼミナール1 高度応用情報科学ゼミナール2 高度応用情報科学ゼミナール3 卒業研究	1前 2後 3前 3前 3後 3後 3後 4前 4後 4通	0.2 0.2 2 2 2 2 2 2 2 5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 情報科学部 助教 (平成19年4月)	5日	
11	兼任	教授	アベワ フミヒロ 相川 文弘 ＜令和6年4月＞		理学博士		物理の世界と先端技術	3前・後、4前	4	2	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成17年4月)		

12	兼担	教授	アイハラ ナオミ 相原 直美 〈令和6年4月〉	修士 (文学)	英語表現 1 英語表現基礎 1 英語理解 1 英語理解基礎 1 英語表現 2 英語表現基礎 2 英語理解 2 英語理解基礎 2 英語表現 3 英語表現基礎 3 英語理解 3 英語理解基礎 3 英語表現 4 英語表現基礎 4 英語理解 4 英語理解基礎 4 課題探究セミナー	1前 1前 1前 1前 1後 1後 1後 1後 2～3 2～3 2～3 2～3 2～3 2～3 2～3 2～3 2後 2後	1 1 1 1 1 1 1 1 2 1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成29年4月)	
13	兼担	教授	アンドウ マサカズ 安藤 雅和 〈令和6年4月〉	博士 (経営学)	ボランティア	1・2・3・4	1	1	千葉工業大学 社会システム科学部 教授 (平成28年4月)	
14	兼担	教授	イケタ マリ 池田 茉莉 〈令和6年4月〉	博士 (理学)	物質科学	3前・後,4前	4	2	千葉工業大学 教育センター 教授 (令和4年4月)	
15	兼担	教授	イシカワ コウイチロウ 石川 浩一郎 〈令和6年4月〉	博士 (知能科学)	数理・データサイエンス・AI入門 AI・プログラミング基礎演習	1 1～2	1 1	1 1	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成28年4月)	
16	兼担	教授	イズミ ヒデアキ 泉 英明 〈令和6年4月〉	博士 (理学)	数学基礎 線形代数基礎 微分積分 線形代数応用 微分方程式 応用解析 線形代数特論 初等整数論	1前 1前 1後 1後 2前 2後 3前 3後	2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成29年4月)	
17	兼担	教授	イトウ ユウジ 伊藤 剛司 〈令和6年4月〉	博士 (理学)	数学基礎 線形代数基礎 微分積分 線形代数応用 線形代数特論 初等整数論	1前 1前 1後 1後 3前 3後	2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成30年4月)	
18	兼担	教授	イシノ トシユキ 越智 敏之 〈令和6年4月〉	文学修士	英語表現 1 英語理解 1 英語理解発展 1 英語表現 2 英語理解 2 英語理解発展 2 英語表現 3 英語理解 3 英語理解発展 3 英語表現 4 英語理解 4 英語理解発展 4 課題探究セミナー	1前 1前 1前 1後 1後 1後 2～3 2～3 2～3 2～3 2～3 2～3 2後	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成27年4月)	
19	兼担	教授	カシマ ヨシオ 笠嶋 義夫 〈令和6年4月〉	博士 (工学)	環境科学概論 課題探究セミナー 物質科学	1前・後,2前 2後 3前・後,4前	2 2 4	1 2 2	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成23年4月)	
20	兼担	教授	カノウ カズヒロ 加藤 和彦 〈令和6年4月〉	博士 (工学)	国内インターン キャリアデザイン 1 キャリアデザイン 2 キャリアデザイン 3	1・2・3・4 1後 2前 3前	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 社会システム科学部 教授 (平成27年4月)	
21	兼担	教授	カネタラ コウイチ 金田 晃一 〈令和6年4月〉	博士 (体育科学)	スポーツ科学 身体と健康の科学 課題探究セミナー スポーツアクティブラーニング	1前・後 1前・後,2前 2後 3前・後,4前・後	16 4 2 2	8 2 1 1	千葉工業大学 教育センター 教授 (令和3年4月)	
22	兼担	教授	カワタ ケイジ 河田 明久 〈令和6年4月〉	修士 (文学)	日本語表現法 歴史と人間 総合学際科目 日本語アクティブラーニング 総合科学特論	1前 1前・後,2前 2後 3前・後,4前・後 3前・後,4前・後	1 4 2 1 2	1 1 2 1 1	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成26年4月)	
23	兼担	教授	カニシ リアキ 川西 範明 〈令和6年4月〉	博士 (スポーツ科学)	スポーツ科学 身体と健康の科学 課題探究セミナー スポーツアクティブラーニング	1前・後 1前・後,2前 2後 3前・後,4前・後	16 4 2 2	8 2 1 1	千葉工業大学 教育センター 教授 (令和4年4月)	
24	兼担	教授	キジマ アイ 木島 愛 〈令和6年4月〉	博士 (言語学)	言語と文化 1 言語と文化 2 総合学際科目	1前・後,2前 1前・後,2前 2後	4 4 2	2 2 1	千葉工業大学 教育センター 教授 (令和4年4月)	
25	兼担	教授	クサノ シゲユキ 草野 滋之 〈令和6年4月〉	文学修士	課題探究セミナー	2後	2	1	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成26年4月)	
26	兼担	教授	カノシゲ ケイイチ 軍司 圭一 〈令和6年4月〉	博士 (数理学)	数学基礎 線形代数基礎 微分積分 線形代数応用 応用解析 線形代数特論 初等整数論	1前 1前 1後 1後 2後 2前 3後	2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 教授 (令和5年4月)	
27	兼担	教授	コガタ ユウジ 古賀 毅 〈令和6年4月〉	博士 (教育学)	現代社会論 課題探究セミナー 総合学際科目	1前・後,2前 2後 2後	4 2 2	2 1 1	千葉工業大学 教育センター 教授 (令和5年4月)	
28	兼担	教授	コミヤ カズヒト 小宮 一仁 〈令和6年4月〉	博士 (工学)	総合科学特論	3前・後,4前・後	2	1	千葉工業大学 工学部 教授 (平成13年4月)	
29	兼担	教授	サトウ ケンイチ 佐藤 憲一 〈令和6年4月〉	修士 (法学)	憲法と社会 課題探究セミナー 政治と社会	1前・後,2前 2後 3前・後,4前・後	4 2 4	2 1 2	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成27年4月)	
30	兼担	教授	サトウ ヤマト 佐藤 和 〈令和6年4月〉	博士 (学術)	スポーツ科学 身体と健康の科学 課題探究セミナー 総合科学特論 スポーツアクティブラーニング	1前・後 1前・後,2前 2後 3前・後,4前・後 3前・後,4前・後	16 4 2 2 2	8 2 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 教授 (令和3年4月)	
31	兼担	教授	サバ カズヒロ 佐波 孝彦 〈令和6年4月〉	博士 (工学)	初年次教育 キャリアアップラーニング ソーシャルアクティブラーニング	1前 1・2・3・4 1・2・3・4	1 1 1	1 1 1	千葉工業大学 情報科学部 教授 (平成21年4月)	
32	兼担	教授	スカベヤ トモヲキ 菅谷 知明 〈令和6年4月〉	博士 (理学)	物質科学	3前・後,4前	2	1	千葉工業大学 教育センター 教授 (令和5年4月)	

33	兼担	教授	スキヤマ カスナリ 杉山 和成 〈令和6年4月〉		博士 (理学)	数学基礎 線形代数基礎 微分積分 線形代数応用 微分方程式 応用解析 初等整数論	1前 1前 1後 1後 2前 2後 3後	2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 教授 (令和5年4月)	
34	兼担	教授	ストウ イサオ 須藤 勲 〈令和6年4月〉		博士 (文学)	真文化理解 言語と文化2 課題探究セミナー 国際社会論	1前・後,2前 1前・後,2前 2後 3前・後,4前	4 4 2 4	2 2 1 2	千葉工業大学 教育センター 教授 (令和2年4月)	
35	兼担	教授	ツクシ イカル 筑紫 格 〈令和6年4月〉		博士 (理学)	物理の世界と先端技術	3前・後,4前	4	2	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成24年4月)	
36	兼担	教授	ツチモト マサノブ 榎本 昌信 〈令和6年4月〉		博士 (理学)	物質科学	3前・後,4前	4	2	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成23年4月)	
37	兼担	教授	トウジヨウ コウジ 東條 晃司 〈令和6年4月〉		博士 (理学)	数学基礎 線形代数基礎 微分積分 線形代数応用 線形代数特論	1前 1前 1後 1後 2前 2後 3前	2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成23年4月)	
38	兼担	教授	トノキ ナカス 轟木 義一 〈令和6年4月〉		博士 (工学)	物理の世界と先端技術	3前・後,4前	4	2	千葉工業大学 教育センター 教授 (令和2年4月)	
39	兼担	教授	トネミ ユウイチ 利波 雄一 〈令和6年4月〉		文学修士	言語と文化1	1前・後,2前	4	2	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成20年4月)	
40	兼担	教授	ナガオ トオル 長尾 徹 〈令和6年4月〉		博士 (工学)	国際インターン	1前	1	1	千葉工業大学 創造工学部 教授 (平成20年4月)	
41	兼担	教授	ハシガチ ヒデコ 橋口 秀子 〈令和6年4月〉		博士 (数理学)	数学基礎 線形代数基礎 微分積分 線形代数応用 微分方程式 応用解析 線形代数特論	1前 1前 1後 1後 2前 2後 3前	2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成26年4月)	
42	兼担	教授	ハシモト シュウイチ 橋本 修一 〈令和6年4月〉		文学修士	英語表現1 英語表現2 英語表現3 英語表現4 課題探究セミナー	1前 1後 2～3 2～3 2後	1 1 1 1 2	1 1 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成21年4月)	
43	兼担	教授	ハヤシ シホ 濱野 志保 〈令和6年4月〉		博士 (文学)	英語表現1 英語理解発展1 英語表現2 英語理解発展2 英語表現3 英語理解発展3 英語表現4 英語理解発展4 課題探究セミナー	1前 1前 1後 1後 1後 2～3 2～3 2～3 2～3 2後	1 1 1 1 1 1 1 1 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 教授 (令和2年4月)	
44	兼担	教授	ハシヅウ ヨロコ 半沢 洋子 〈令和6年4月〉		博士 (理学)	物質科学	3前・後,4前	4	2	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成25年4月)	
45	兼担	教授	ヒキハラ ユウキ 引原 有輝 〈令和6年4月〉		博士 (体育科学)	スポーツ科学 身体と健康の科学 課題探究セミナー スポーツアクティブラーニング	1前・後 1前・後,2前 2後 3前・後,4前・後	12 4 2 2	3 2 1 1	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成30年4月)	
46	兼担	教授	ミムラ カキヒロ 三村 尚央 〈令和6年4月〉		博士 (文学)	英語理解1 英語理解2 英語理解3 英語理解4 課題探究セミナー イングリッシュアクティブラーニング3 総合科学特論	1前 1後 2～3 2～3 2後 3前・後,4前・後 3前・後,4前・後	1 1 1 1 2 1 2	1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成31年4月)	
47	兼担	教授	ムロウ タカミ 武藤 巧 〈令和6年4月〉		理学博士	物理の世界と先端技術	3前・後,4前	4	2	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成19年4月)	
48	兼担	教授	ヤマウチ マサキ 山内 政樹 〈令和6年4月〉		博士 (文学)	英語表現1 英語表現基礎1 英語理解1 英語理解基礎1 英語理解発展1 英語表現2 英語表現基礎2 英語理解2 英語理解基礎2 英語理解発展2 英語表現3 英語表現基礎3 英語理解3 英語理解基礎3 英語理解発展3 英語表現4 英語表現基礎4 英語理解4 英語理解基礎4 英語理解発展4 課題探究セミナー	1前 1前 1前 1前 1前 1後 1後 1後 1後 1後 2～3 2～3 2～3 2～3 2～3 2～3 2～3 2～3 2～3 2～3 2後	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 教授 (令和4年4月)	
49	兼担	教授	ヤマダ ヒロフミ 山田 宏文 〈令和6年4月〉		博士 (工学)	確率統計 統計解析	2前 2後	2 2	1 1	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成21年4月)	
50	兼担	教授	ヨシダ アキラ 吉田 聡 〈令和6年4月〉		博士 (文学)	日本語表現法 哲学 総合学際科目 日本語アクティブラーニング 技術者倫理	1前 1前・後,2前 2後 3前・後,4前・後 3後	1 4 2 1 2	1 2 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 教授 (令和4年4月)	
51	兼担	教授	リョウ イショウ 廖 伊庄 〈令和6年4月〉		文学士	言語と文化1 言語と文化2	1前・後,2前 1前・後,2前	4 4	2 2	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成31年4月)	
52	兼担	准教授	イトリ シュウヘイ 伊藤 晋平 〈令和6年4月〉		博士 (理学)	環境科学概論 課題探究セミナー 物質科学	1前・後,2前 2後 3前・後,4前	4 2 4	2 1 2	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成30年4月)	

53	兼任	准教授	エビ`ス アキヒト 蛭子 彰仁 〈令和6年4月〉		博士 (数理学)	数学基礎 線形代数基礎 微分積分 線形代数応用 微分方程式 線形代数特論	1前 1前 1後 1後 2前 3前	2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (令和3年4月)	
54	兼任	准教授	オオサキ トシヒロ 大貫 俊彦 〈令和6年4月〉		博士 (文学)	日本語表現法 文学と芸術 課題探究セミナー 総合学際科目 日本語アクティブラーニング	1前 1前・後,2前 2後 2後 3前・後,4前・後	1 4 2 2 1	1 2 2 1 1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成31年4月)	
55	兼任	准教授	オノデ`ラ カズ`ヒロ 小野寺 一浩 〈令和6年4月〉		博士 (理学)	数学基礎 線形代数基礎 線形代数応用 微分積分 微分方程式 応用解析 線形代数特論 初等整数論	1前 1前 1後 1後 2前 2後 3前 3後	2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成29年4月)	
56	兼任	准教授	オミ ヒロノリ 尾身 洋典 〈令和6年4月〉		博士 (理学)	物質科学	3前・後,4前	4	2	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成23年4月)	
57	兼任	准教授	キムラ ヒロコ 木村 博子 〈令和6年4月〉		博士 (国際文化)	英語理解 1 英語理解 2 英語理解 3 英語理解 4 課題探究セミナー	1前 1後 2～3 2～3 2後	1 1 1 1 2	1 1 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (令和4年4月)	
58	兼任	准教授	コハ`ヤシ マナブ 小林 学 〈令和6年4月〉		博士 (学術)	科学技術史 課題探究セミナー	1前・後,2前 2後	4 4	2 2	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成27年4月)	
59	兼任	准教授	サイ コカリ 砂井 紫里 〈令和6年4月〉		博士 (文学)	言語と文化 1 言語と文化 2 課題探究セミナー 国際社会論	1前・後,2前 1前・後,2前 2後 3前・後,4前	4 4 2 4	2 2 1 2	千葉工業大学 教育センター 准教授 (令和2年4月)	
60	兼任	准教授	タコ`イ テウキ 谷合 哲行 〈令和6年4月〉		博士 (工学)	物質科学	3前・後,4前	4	2	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成21年4月)	
61	兼任	准教授	トミマ コカ 富山 豊 〈令和6年4月〉		博士 (文学)	日本語表現法 倫理学 日本語アクティブラーニング	1前 1前・後,2前 3前・後,4前・後	1 4 1	1 2 1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (令和5年4月)	
62	兼任	准教授	フクシマ ショウコ 福島 尚子 〈令和6年4月〉		博士 (教育学)	日本語表現法 現代社会論 課題探究セミナー 総合学際科目	1前 1前・後,2前 2後 2後	1 4 2 2	1 2 1 1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (令和3年4月)	
63	兼任	准教授	ホシノ ケイタ 星野 慶介 〈令和6年4月〉		博士 (理学)	数学基礎 線形代数基礎 微分積分 線形代数応用 確率統計 微分方程式 統計解析 応用解析 線形代数特論	1前 1前 1後 1後 2前 2前 2後 2後 2後 3前	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成21年4月)	
64	兼任	准教授	ミナミワリ マユミ 南澤 磨優寛 〈令和6年4月〉		博士 (工学)	物質科学	3前・後,4前	4	2	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成27年4月)	
65	兼任	准教授	ヤマシタ アツシ 山下 温 〈令和6年4月〉		博士 (数理科学)	数学基礎 線形代数基礎 微分積分 線形代数応用	1前 1前 1後 1後	2 2 2 2	1 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成29年4月)	
66	兼任	助教	イチカリ ショウコ 市川 洋子 〈令和6年4月〉		修士 (文学)	心理学 課題探究セミナー	1前・後,2前 2後	4 2	2 1	千葉工業大学 教育センター 助教 (平成19年4月)	
67	兼任	助教	エント`ウ シンタロウ 遠藤 伸太郎 〈令和6年4月〉		博士 (スポーツ科学)	スポーツ科学 身体と健康の科学 課題探究セミナー スポーツアクティブラーニング	1前・後 1前・後,2前 2後 3前・後,4前・後	20 4 2 2	10 2 1 1	千葉工業大学 教育センター 助教 (令和3年9月)	
68	兼任	助教	カーリチャ`ド`ジョンソン Kirk Richard Jonson 〈令和6年4月〉		博士 (学術)	英語表現発展 1 英語表現発展 2 英語表現発展 3 英語表現発展 4 イングリッシュアクティブラーニング 1 イングリッシュアクティブラーニング 2	1前 1後 2～3 2～3 3前 3後	1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 助教 (平成23年4月)	
69	兼任	助教	カバハリ ケンイチ 角張 健一 〈令和6年4月〉		博士 (言語学)	数理・データサイエンス・A I 入門 A I・プログラミング基礎演習	1 1～2	1 1	1 1	千葉工業大学 教育センター 助教 (平成19年4月)	
70	兼任	助教	コノエ アスカ 近衛 飛鳥 〈令和6年4月〉		博士 (史学)	言語と文化 1 言語と文化 2 国際社会論	1前・後,2前 1前・後,2前 3前・後,4前	4 4 4	2 2 2	千葉工業大学 教育センター 助教 (令和4年4月)	
71	兼任	助教	シゲ` アユミ 重 歩美 〈令和6年4月〉		博士 (教育学)	現代社会論 総合学際科目	1前・後,2前 2後	4 2	2 1	千葉工業大学 教育センター 助教 (令和5年4月)	
72	兼任	助教	タカマツ コウスケ 高松 佑介 〈令和6年4月〉		博士 (学術)	言語と文化 1 言語と文化 2 異文化理解 課題探究セミナー 国際社会論	1前・後,2前 1前・後,2前 1前・後,2前 2後 3前・後,4前	4 4 4 2 4	2 2 2 1 2	千葉工業大学 教育センター 助教 (令和4年4月)	
73	兼任	助教	ナカマチ チホ 仲町 千帆 〈令和6年4月〉		博士 (文学)	異文化理解 課題探究セミナー 総合学際科目 国際社会論	1前・後,2前 2後 2後 3前・後,4前	4 2 2 4	2 1 1 2	千葉工業大学 教育センター 助教 (平成28年4月)	

74	兼担	助教	ナカムラ トオル 中村 達 ＜令和6年4月＞	修士 (文学)	英語表現 1 英語表現基礎 1 英語理解 1 英語理解基礎 1 英語表現 2 英語表現基礎 2 英語理解 2 英語理解基礎 2 英語表現 3 英語表現基礎 3 英語理解 3 英語理解基礎 3 英語表現 4 英語表現基礎 4 英語理解 4 英語理解基礎 4 英語表現 2 英語理解 2 英語理解基礎 2 英語表現 3 英語表現基礎 3 英語理解 3 英語理解基礎 3 英語表現 4 英語表現基礎 4 英語理解 4 英語理解基礎 4 課題探究セミナー	1前 1前 1前 1前 1後 1後 1後 1後 2～3 2～3 2～3 2～3 2～3 2～3 2～3 2～3 2～3 2～3 2後	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 助教 (令和4年4月)	
75	兼担	助教	ノムラ ユミ 野村 由実 ＜令和6年4月＞	博士 (スポーツ科学)	スポーツ科学 身体と健康の科学 課題探究セミナー スポーツアクティブラーニング	1前・後 1前・後、2前 2後 3前・後、4前・後	12 4 2 2	6 2 1 1	千葉工業大学 教育センター 助教 (令和4年4月)	
76	兼任	講師	イグチ コウスケ 井口 祐介 ＜令和6年4月＞	修士 (文学)	言語と文化 1	1前・後、2前	4	2	千葉工業大学 兼任講師 (平成31年4月)	
77	兼任	講師	イグチ サツキ 池田 さつき ＜令和6年4月＞	博士 (文学)	英語理解 1 英語理解 2 英語理解 3 英語理解 4	1前 1後 2～3 2～3	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成31年4月)	
78	兼任	講師	イズミ ミヨ 泉 光世 ＜令和6年4月＞	Ph. D (教育学博士)	英語理解 1 英語理解 2 英語理解 3 英語理解 4	1前 1後 2～3 2～3	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成27年4月)	
79	兼任	講師	イトウ カツヒロ 伊藤 克彦 ＜令和6年4月＞	博士 (法学)	グローバル時代の法	3前・後、4前	4	2	千葉工業大学 兼任講師 (平成31年4月)	
80	兼任	講師	イトウ ショウイチ 伊藤 穰一 ＜令和6年4月＞	博士 (政策・メディア)	総合科学特論	3前・後、4前・後	4	2	千葉工業大学 兼任講師 (令和3年11月)	
81	兼任	講師	イトウ ショウ 伊藤 令枝 ＜令和6年4月＞	修士 (心理学)	日本語表現法 心理学	1前 1前・後、2前	1 4	1 2	千葉工業大学 兼任講師 (令和4年4月)	
82	兼任	講師	イイ タカ 今井 拓 ＜令和6年4月＞	保健福祉学博士	現代社会論 総合科学特論	1前・後、2前 3前・後、4前・後	4 4	2 2	千葉工業大学 兼任講師 (平成24年4月)	
83	兼任	講師	カミムラ ヨシノブ 上村 芳郎 ＜令和6年4月＞	文学修士	哲学 倫理学	1前・後、2前 1前・後、2前	4 4	2 2	千葉工業大学 兼任講師 (平成11年4月)	
84	兼任	講師	カサリ ユウ 鶴澤 由香 ＜令和6年4月＞	博士 (理学)	地球科学	3前・後、4前	4	2	千葉工業大学 兼任講師 (平成26年4月)	
85	兼任	講師	エグチ ナオヒ 江口 直日 ＜令和6年4月＞	博士 (学術)	数学基礎 微分積分	1前 1後	2 2	1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成27年9月)	
86	兼任	講師	マカキ ユウコ 大柿 久美子 ＜令和6年4月＞	理学博士	環境科学概論	1前・後、2前	4	2	千葉工業大学 兼任講師 (平成27年4月)	
87	兼任	講師	マサリ アキコ 大沢 晃子 ＜令和6年4月＞	MA, TESOL	英語表現 1 英語表現 2 英語表現 3 英語表現 4	1前 1後 2～3 2～3	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成28年4月)	
88	兼任	講師	マニシ ユキカ 大西 幸周 ＜令和6年4月＞	博士 (理学)	数理・データサイエンス・A I 入門	1	1	1	千葉工業大学 兼任講師 (令和2年6月)	
89	兼任	講師	マシヤ ヒロシ 大宮 弘 ＜令和6年4月＞	文学修士	英語表現 1 英語表現 2 英語表現 3 英語表現 4	1前 1後 2～3 2～3	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成13年4月)	
90	兼任	講師	オダ'イ カツヒロ 小田井 勝彦 ＜令和6年4月＞	修士 (文学)	英語理解 1 英語理解 2 英語理解 3 英語理解 4	1前 1後 2～3 2～3	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成19年4月)	
91	兼任	講師	オノ シュンタロウ 小野 俊太郎 ＜令和6年4月＞	文学修士	英語理解 1 英語理解 2 英語理解 3 英語理解 4	1前 1後 2～3 2～3	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成27年4月)	
92	兼任	講師	オハタ ヒロコ 小幡 裕子 ＜令和6年4月＞	修士 (文学)	英語表現 1 英語表現発展 1 英語表現 2 英語表現発展 2 英語表現 3 英語表現発展 3 英語表現 4 英語表現発展 4	1前 1前 1後 1後 1後 2～3 2～3 2～3 2～3	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成24年4月)	
93	兼任	講師	カツベ' カツリ 勝部 孝則 ＜令和6年4月＞	博士 (理学)	生命科学	3前・後、4前	4	2	千葉工業大学 兼任講師 (令和3年4月)	
94	兼任	講師	カトウ ノブユキ 加藤 伸幸 ＜令和6年4月＞	博士 (理学)	数学基礎 微分積分 微分方程式	1前 1後 2前	2 2 2	1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成20年9月)	
95	兼任	講師	カトリ マコト 加藤 誠 ＜令和6年4月＞	文学修士	英語表現 1 英語理解 1 英語表現 2 英語理解 2 英語表現 3 英語理解 3 英語表現 4 英語理解 4	1前 1前 1後 1後 1後 2～3 2～3 2～3 2～3	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成9年4月)	
96	兼任	講師	カトウ リキ 工藤 璃輝 ＜令和6年4月＞	博士 (学術)	科学技術史	1前・後、2前	4	2	千葉工業大学 兼任講師 (令和5年4月)	
97	兼任	講師	コシカワ エリ 越川 瑛理 ＜令和6年4月＞	修士 (文学)	言語と文化 1 言語と文化 2	1前・後、2前 1前・後、2前	4 4	2 2	千葉工業大学 兼任講師 (令和5年4月)	
98	兼任	講師	コシマ カツエ 小島 和枝 ＜令和6年4月＞	博士 (人文科学)	英語理解 1 英語理解 2 英語理解 3 英語理解 4	1前 1後 2～3 2～3	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成31年4月)	
99	兼任	講師	コバ'ヤシ タツヨシ 小林 忠好 ＜令和6年4月＞	文学修士	英語表現 1 英語理解 1 英語表現 2 英語理解 2 英語表現 3 英語理解 3 英語表現 4 英語理解 4	1前 1前 1後 1後 1後 2～3 2～3 2～3 2～3	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成26年4月)	
100	兼任	講師	コバ'ヤシ マサト 小林 雅人 ＜令和6年4月＞	Doctor of philosophy	線形代数基礎 線形代数応用	1前 1後	2 2	1 1	千葉工業大学 兼任講師 (令和4年4月)	

101	兼任	講師	コヤマ ヴィム 小山 努 〈令和6年4月〉	修士 (英米文化)	英語表現 1 英語理解 1 英語表現 2 英語理解 2 英語表現 3 英語理解 3 英語表現 4 英語理解 4	1前 1前 1後 1後 2～3 2～3 2～3 2～3	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (令和3年4月)	
102	兼任	講師	サイ リュウタロウ 坂井 竜太郎 〈令和6年4月〉	修士 (文学)	英語表現 1 英語理解 1 英語表現 2 英語理解 2 英語表現 3 英語理解 3 英語表現 4 英語理解 4	1前 1前 1後 1後 2～3 2～3 2～3 2～3	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成20年4月)	
103	兼任	講師	ササノ コウスケ 笹野 祐輔 〈令和6年4月〉	博士 (理学)	確率統計 微分方程式 統計解析	2前 2前 2後	2 2 2	1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成25年4月)	
104	兼任	講師	サトリ コウヤ 佐藤 皓也 〈令和6年4月〉	博士 (スポーツ科学)	スポーツ科学	1前・後	8	4	千葉工業大学 兼任講師 (令和5年4月)	
105	兼任	講師	サトリロウスケ 佐藤 陽介 〈令和6年4月〉	博士 (文学)	言語と文化 2	1前・後, 2前	4	2	千葉工業大学 兼任講師 (平成31年4月)	
106	兼任	講師	シバタ アオイ 柴田 葵 〈令和6年4月〉	博士 (文学)	日本語表現法	1前	1	1	千葉工業大学 兼任講師 (平成28年4月)	
107	兼任	講師	シモガキ アツコ 霜田 敦子 〈令和6年4月〉	博士 (文学)	英語表現 1 英語表現 2 英語表現 3 英語表現 4	1前 1後 2～3 2～3	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成26年4月)	
108	兼任	講師	シロドリ トオル 首藤 亨 〈令和6年4月〉	文学修士	言語と文化 1 言語と文化 2	1前・後, 2前 1前・後, 2前	4 4	2 2	千葉工業大学 兼任講師 (平成11年4月)	
109	兼任	講師	スガ ヒサミ 須田 久美 〈令和6年4月〉	修士 (文学)	文学と芸術	1前・後, 2前	4	2	千葉工業大学 兼任講師 (令和4年4月)	
110	兼任	講師	タナベ マサキ 田代 雅幸 〈令和6年4月〉	博士 (言語学)	言語と文化 1	1前・後, 2前	4	2	千葉工業大学 兼任講師 (令和5年4月)	
111	兼任	講師	タガ ヨシコ 多田 佳子 〈令和6年4月〉	文学士	言語と文化 1 言語と文化 2	1前・後, 2前 1前・後, 2前	4 4	2 2	千葉工業大学 兼任講師 (平成8年4月)	
112	兼任	講師	タカ ヒデカズ 田中 秀和 〈令和6年4月〉	理学博士	数学基礎	1前	2	1	千葉工業大学 兼任講師 (平成25年9月)	
113	兼任	講師	タムラ ミツシ 田村 充司 〈令和6年4月〉	博士 (理学)	数学基礎 微分積分 微分方程式	1前 1後 2前	2 2 2	1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成31年4月)	
114	兼任	講師	ナカガキ タケイサ 中川 太介 〈令和6年4月〉	博士 (文学)	日本語表現法 歴史と人間	1前 1前・後, 2前	1 4	1 2	千葉工業大学 兼任講師 (令和2年4月)	
115	兼任	講師	ニシガキ ミホ 西口 美津子 〈令和6年4月〉	博士 (工学)	英語表現 1 英語表現 2 英語表現 3 英語表現 4	1前 1後 2～3 2～3	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (令和3年4月)	
116	兼任	講師	ヌカリ ユキ 布川 由美子 〈令和6年4月〉	博士 (Ph. D.)	英語表現 1 英語表現 2 英語表現 3 英語表現 4	1前 1後 2～3 2～3	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成31年4月)	
117	兼任	講師	ノブサキ ヨシキ 信澤 由之 〈令和6年4月〉	博士 (経済学)	経済学	3前・後, 4前	4	2	千葉工業大学 兼任講師 (平成29年9月)	
118	兼任	講師	ノムラ ミキ 野村 美由紀 〈令和6年4月〉	修士 (イギリス文学)	英語理解 1 英語理解 2 英語理解 3 英語理解 4	1前 1後 2～3 2～3	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (令和3年4月)	
119	兼任	講師	ハセガワ ミキ 長谷川 みゆき 〈令和6年4月〉	修士 (法学)	総合科学特論 グローバル時代の法	1前 3前・後, 4前	2 4	1 2	千葉工業大学 兼任講師 (令和3年4月)	
120	兼任	講師	ハシケヤマ コウジ 畠山 雄二 〈令和6年4月〉	博士 (情報科学)	英語表現発展 1 英語表現発展 2 英語表現発展 3 英語表現発展 4	1前 1後 2～3 2～3	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成26年4月)	
121	兼任	講師	ハマダ ナオシ 浜田 直道 〈令和6年4月〉	工学士	数理・データサイエンス・AI入門	1	1	1	千葉工業大学 兼任講師 (平成7年4月)	
122	兼任	講師	ヒロシ ノブタカ 日吉 信貴 〈令和6年4月〉	修士 (学術)	英語理解 1 英語理解 2 英語理解 3 英語理解 4	1前 1後 2～3 2～3	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (令和4年4月)	
123	兼任	講師	ヒシヤク コウスケ 鴻 浩介 〈令和6年4月〉	博士 (文学)	哲学	1前・後, 2前	4	2	千葉工業大学 兼任講師 (令和4年4月)	
124	兼任	講師	ヒロセ ノブヨシ 廣瀬 伸良 〈令和6年4月〉	医学博士	スポーツ科学	1前・後	8	4	千葉工業大学 兼任講師 (昭和63年4月)	
125	兼任	講師	フジイ ユキコ 藤井 佑実子 〈令和6年4月〉	博士 (学術)	心理学	1前・後, 2前	4	2	千葉工業大学 兼任講師 (令和3年4月)	
126	兼任	講師	フジタ キョウ 藤田 響 〈令和6年4月〉	博士 (理学)	確率統計 統計解析	2前 2後	2 2	1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成26年4月)	
127	兼任	講師	フジタ タカオ 藤田 崇夫 〈令和6年4月〉	文学修士	英語表現 1 英語表現 2 英語表現 3 英語表現 4	1前 1後 2～3 2～3	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成29年4月)	
128	兼任	講師	フセ カオル 布施 薫 〈令和6年4月〉	修士 (文学)	日本語表現法	1前	1	1	千葉工業大学 兼任講師 (平成28年4月)	
129	兼任	講師	フルカリ サトシ 古川 寛 〈令和6年4月〉	博士 (医学)	スポーツ科学 身体と健康の科学	1前・後 1前・後, 2前	8 4	4 2	千葉工業大学 兼任講師 (平成30年4月)	
130	兼任	講師	ヘニミ オサム 邊見 統 〈令和6年4月〉	博士 (史学)	言語と文化 2	1前・後, 2前	4	2	千葉工業大学 兼任講師 (令和5年4月)	
131	兼任	講師	マチダ シュンコ 町田 純子 〈令和6年4月〉	Master of Arts	英語理解 1 英語理解 2 英語理解 3 英語理解 4	1前 1後 2～3 2～3	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成11年4月)	
132	兼任	講師	マツムラ ヒナコ 松村 比奈子 〈令和6年4月〉	博士 (法学)	憲法と社会 政治と社会	1前・後, 2前 3前・後, 4前	4 4	2 2	千葉工業大学 兼任講師 (平成17年4月)	
133	兼任	講師	マルヤマ フミカ 丸山 文隆 〈令和6年4月〉	博士 (文学)	倫理学	1前・後, 2前	4	2	千葉工業大学 兼任講師 (令和4年4月)	
134	兼任	講師	ミウラ リュウスケ 三浦 龍介 〈令和6年4月〉	修士 (文学)	異文化理解	1前・後, 2前	4	2	千葉工業大学 兼任講師 (令和4年4月)	

135	兼任	講師	ミネムラ ヤスヒロ 峯村 康広 〈令和6年4月〉		博士 (日本文学)		日本語表現法 文学と芸術	1前 1前・後,2前	2 4	1 2	千葉工業大学 兼任講師 (令和3年4月)	
136	兼任	講師	ミヘ ユウジ 三部 祐治 〈令和6年4月〉		修士 (文学)		英語表現 1 英語表現 2 英語表現 3 英語表現 4	1前 1後 2～3 2～3	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成14年4月)	
137	兼任	講師	モトヨシ ヨウイチ 本吉 洋一 〈令和6年4月〉		理学博士		地球科学	3前・後,4前	4	2	千葉工業大学 兼任講師 (令和2年4月)	
138	兼任	講師	モリ ソウマ 森 創摩 〈令和6年4月〉		言語学博士		英語表現 1 英語表現 2 英語表現 3 英語表現 4	1前 1後 2～3 2～3	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (令和2年4月)	
139	兼任	講師	モリタ マサアキ 森下 正昭 〈令和6年4月〉		Doctor of Philosophy		英語表現 1 英語表現 2 英語表現 3 英語表現 4	1前 1後 2～3 2～3	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (令和4年4月)	
140	兼任	講師	モリハヤシ シュンスケ 森林 駿介 〈令和6年4月〉		博士 (文学)		言語と文化 1	1前・後,2前	4	2	千葉工業大学 兼任講師 (令和5年4月)	
141	兼任	講師	ヤチノ モチコ 八木 茂那子 〈令和6年4月〉		文学修士		英語表現 1 英語理解 1 英語表現 2 英語理解 2 英語表現 3 英語理解 3 英語表現 4 英語理解 4	1前 1前 1前 1後 1後 2～3 2～3 2～3 2～3	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成22年4月)	
142	兼任	講師	ヤシマ ヒロヒコ 矢島 浩彦 〈令和6年4月〉		博士 (医学)		生命科学	3前・後,4前	4	2	千葉工業大学 兼任講師 (令和4年4月)	
143	兼任	講師	ヤシマ リ 矢嶋 瑠莉 〈令和6年4月〉		修士 (文学)		英語表現 1 英語表現 2 英語表現 3 英語表現 4	1前 1後 2～3 2～3	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (令和4年4月)	
144	兼任	講師	ヤマモト クミ 山本 久美 〈令和6年4月〉		文学修士		英語表現 1 英語理解 1 英語表現 2 英語理解 2 英語表現 3 英語理解 3 英語表現 4 英語理解 4	1前 1前 1後 1後 1後 2～3 2～3 2～3 2～3	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (昭和63年4月)	

(注)

- 1 教員の数に応じ、適宜枠を増やして記入すること。
- 2 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校 の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出
を行おうとする場合又は大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 「申請に係る学部等に従事する週当たりの平均日数」の欄は、専任教員のみ記載すること。

別記様式第3号（その3の1）

専任教員の年齢構成・学位保有状況										
(情報変革科学部 情報工学科)										
職 位	学 位	29 歳 以 下	30 ～ 39 歳	40 ～ 49 歳	50 ～ 59 歳	60 ～ 64 歳	65 ～ 69 歳	70 歳 以 上	合 計	備 考
教 授	博 士	人	人	1人	2人	1人	1人	人	5人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 学 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
准 教 授	博 士	人	人	1人	3人	人	人	人	4人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 学 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
講 師	博 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 学 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
助 教	博 士	人	1人	人	人	人	人	人	1人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 学 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
合 計	博 士	人	1人	2人	5人	1人	1人	人	10人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 学 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	

(注)

- 1 この書類は、申請又は届出に係る学部等ごとに作成すること。
- 2 この書類は、専任教員についてのみ、作成すること。
- 3 この書類は、申請又は届出に係る学部等の開設後、当該学部等の修業年限に相当する期間が満了する年度における状況を記載すること。
- 4 専門職大学院若しくは専門職大学の前期課程を修了した者又は専門職大学又は専門職短期大学を卒業した者に対し授与された学位については、「その他」の欄にその数を記載し、「備考」の欄に、具体的な学位名称を付記すること。

別記様式第3号（その3の1）

専任教員の年齢構成・学位保有状況										
(情報変革科学部 認知情報科学科)										
職 位	学 位	29 歳 以 下	30 ～ 39 歳	40 ～ 49 歳	50 ～ 59 歳	60 ～ 64 歳	65 ～ 69 歳	70 歳 以 上	合 計	備 考
教 授	博 士	人	人	人	5人	1人	人	人	6人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 学 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
准 教 授	博 士	人	人	1人	1人	1人	人	人	3人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 学 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
講 師	博 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 学 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
助 教	博 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修 士	人	1人	人	人	人	人	人	1人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 学 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
合 計	博 士	人	人	1人	6人	2人	人	人	9人	
	修 士	人	1人	人	人	人	人	人	1人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 学 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	

(注)

- 1 この書類は、申請又は届出に係る学部等ごとに作成すること。
- 2 この書類は、専任教員についてのみ、作成すること。
- 3 この書類は、申請又は届出に係る学部等の開設後、当該学部等の修業年限に相当する期間が満了する年度における状況を記載すること。
- 4 専門職大学院若しくは専門職大学の前期課程を修了した者又は専門職大学又は専門職短期大学を卒業した者に対し授与された学位については、「その他」の欄にその数を記載し、「備考」の欄に、具体的な学位名称を付記すること。

別記様式第3号（その3の1）

専任教員の年齢構成・学位保有状況										
(情報変革科学部 高度応用情報科学科)										
職 位	学 位	29 歳 以 下	30 ～ 39 歳	40 ～ 49 歳	50 ～ 59 歳	60 ～ 64 歳	65 ～ 69 歳	70 歳 以 上	合 計	備 考
教 授	博 士	人	人	1人	1人	4人	人	人	6人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 学 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
准 教 授	博 士	人	人	1人	2人	人	人	人	3人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 学 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
講 師	博 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 学 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
助 教	博 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修 士	人	人	人	1人	人	人	人	1人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 学 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
合 計	博 士	人	人	2人	3人	4人	人	人	9人	
	修 士	人	人	人	1人	人	人	人	1人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 学 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	

(注)

- 1 この書類は、申請又は届出に係る学部等ごとに作成すること。
- 2 この書類は、専任教員についてのみ、作成すること。
- 3 この書類は、申請又は届出に係る学部等の開設後、当該学部等の修業年限に相当する期間が満了する年度における状況を記載すること。
- 4 専門職大学院若しくは専門職大学の前期課程を修了した者又は専門職大学又は専門職短期大学を卒業した者に対し授与された学位については、「その他」の欄にその数を記載し、「備考」の欄に、具体的な学位名称を付記すること。

学校法人千葉工業大学職員定年規程

昭和51年3月31日

制定

最終改正 平成23年4月1日

(目的)

第1条 この規程は、学校法人千葉工業大学職員就業規則第32条に基づき職員の定年に関する事項を定めることを目的とする。

(定年年齢)

第2条 定年年齢は次の通りとする。

(1) 教育職員 満65歳

(2) 一般職員 満65歳

(定年退職日)

第3条 定年退職日は、前条に定める定年年齢に達した日の属する年度の末日とする。

(定年の特例)

第4条 定年前5カ年の期間に退職を願い出た者に対しては、これを定年退職として取り扱う。

(再採用)

第5条 第2条に規定する定年年齢に達した者のうち、大学が特に必要と認めた場合は、再採用することができる。

2 再採用に関する規定は、別に定める。

(規程の改廃)

第6条 この規程の改廃は、理事会の議決を経るものとする。

附則

この規程は、昭和51年3月31日から施行する。

附則

この規程は、平成4年4月28日から施行する。

附則

1 この規程は、平成11年4月1日から施行する。

- 2 第2条の規定にかかわらず、平成11年3月31日現在在職している教育職員の定年年齢は満70歳とする。

附則

- 1 この規程は、平成17年4月1日から施行する。
- 2 この規程施行と同時に、「定年退職者の嘱託制度に関する内規」は廃止する。

附則

この規程は、平成19年5月29日から施行する。

附則

- 1 この規程は、平成23年4月1日から施行する。
- 2 平成11年4月1日施行附則第2項の規定により、平成24年3月31日現在満65歳以上で在職している教育職員は、平成23年度末日をもって定年退職とする。なお、この措置をもって、平成11年4月1日施行附則第2項は廃止する。

学校法人千葉工業大学定年後再雇用教員に関する規程

平成23年 4 月 1 日

制定

最終改正 令和 2 年 2 月 1 日

(目的)

第 1 条 この規程は、学校法人千葉工業大学職員定年規程第 5 条に定める再採用者のうち、平成 11 年 3 月 31 日以前に就職した教育職員に対する処遇について定めることを目的とし、この規程に定めのない事項については、再採用者以外の専任の教育職員と同様の処遇とする。

(対象者)

第 2 条 対象者は、平成 11 年 3 月 31 日以前に就職した教育職員のうち、定年退職後引き続き専任の教育職員として勤務することを希望する満 70 歳以下の者とする。

2 前項に関わらず、本学教育職員として、適性を著しく欠くと判断した以下の場合は、雇用を継続しない。

(1) 本学の名誉を傷つける、反社会的行為があったと法人が判断した場合

(2) 医師の判断に基づき、健康障害のため教育職員として業務の遂行が困難であると法人が判断した場合

(3) 休講の頻度が高いなど、教育職員としての責務を著しく怠っていると法人が判断した場合

(手続き)

第 3 条 定年退職後継続雇用を希望する者は、原則として定年退職年度の前年度末日までに、学科長・教育センター長に申し出るものとする。

(呼称及び身分)

第 4 条 定年後雇用継続となる者を「定年後雇用継続教員」と称し、略称を「継続教員」とし、専任の教育職員として処遇する。

2 継続教員の役職は、定年時の役職を継続するものとする。

3 継続教員には、別に定めのある場合を除き、学校法人千葉工業大学職員就業規則及びその他学内規程等を適用する。

(職務及び権限)

第 5 条 継続教員の職務等は次のとおりとする。

(1) 継続教員の持時間は、学部講義等（卒研含む）の持時間を年間（前期・後期）平均して 5 コマ（10 時間）程度とし、上限 6 コマ（12 時間）とする。

ただし、各継続教員の 5 コマ（10 時間）からの超過時間は、6 コマ（12 時間）の上限に関わらず、学科・教育センターの継続教員間で融通できるものとする。

なお、上記に示す持時間は、学部担当時間を指し、大学院担当時間は含めない。

(2) 継続教員が受け持つ卒業研究の指導学生数は、所属する学科における継続教員以外の教育職員が指導する平均学生数の 7 割程度とする。

(3) 継続教員は、教学組織の役職（専攻長、学部長、学科長等）及び学内委員会の構成員になることはできない。

(4) 継続教員は、教育職員人事に関わる全ての会議（学科・教育センター内の会議、資格審査の教授会等）に出席することはできない。

また、継続教員は、学長選挙等の人事に関わる選挙における有権者及び推薦人になることはできない。

(5) 継続教員は、入試業務（問題作成、監督等）に就くことはできない。

（学外兼職日数の制限）

第6条 継続教員が兼職を行なう場合は、学校法人千葉工業大学職員就業規則第17条に規定する「学外兼職の許可」の手続きにより兼職を可能とし、兼職日数に制限を設けない。

（給与等）

第7条 継続教員の基本給は、定年時における等級号俸に該当する金額及びライフプラン支援金の7割相当額（百円未満切り上げ）とする。

2 継続教員の時間外授業手当基準時間は、8.4時間とする。

3 継続教員は、学校法人千葉工業大学職員退職金規程の対象から除外する。

4 継続教員に対し、定年後の雇用継続勤続年限に応じて慰労金を支給する。

慰労金は、定年後の雇用継続勤続年限に応じて、次の俸給月額分を退職時に支給するものとする。ただし、6カ月未満は切り捨て、6カ月以上は1年として算入する。

定年後の雇用継続勤続年限	俸給月額
1年	1カ月
2年	2カ月
3年	3カ月
4年	4カ月
5年	5カ月

（勤続年数の計算）

第8条 定年後の雇用継続期間は、教育職員としての勤続年数に含めるものとする。

（規程の改廃）

第9条 この規程の改廃は、教育職員が構成する組織と協議したうえで、理事会の議決を経るものとする。

附則

この規程は、平成23年4月1日から施行する。

附則

この規程は、令和2年2月1日から施行する。